熊本県文化財調査報告　第197集

灰塚遺跡（Ⅱ）

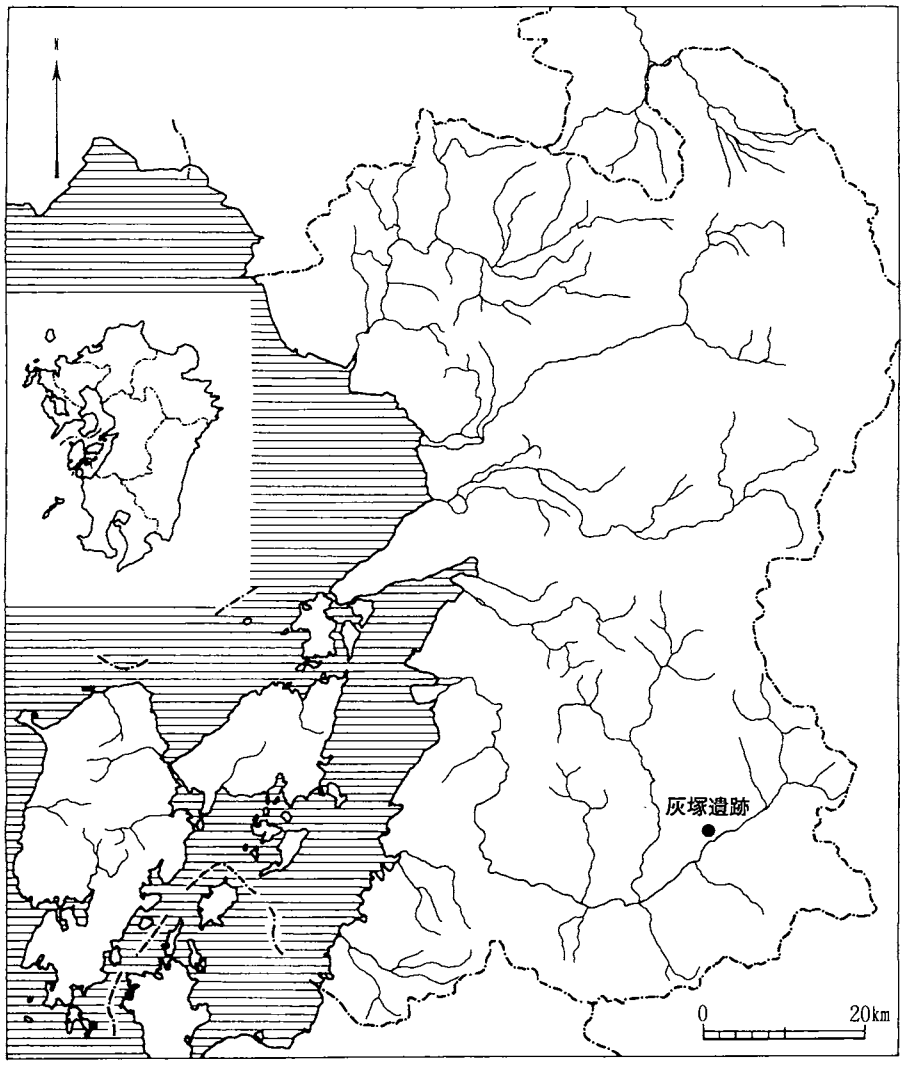
―― 熊本県球磨郡深田村字灰塚所在の遺跡 ――

2001

熊本県教育委員会

灰塚遺跡(Ⅱ)

―― 須恵・深田地区県営畑地帯総合整備事業に伴う文化財調査 ――



2001

熊本県教育委員会

序　　文

熊本県教育委員会では、平成５年度から９年度にかけて県営緊急畑地帯総合整備事業（須恵・深田地区）に伴って発掘調査を実施しました。本書は球磨郡深田村に所在する「灰塚遺跡」の調査報告書です。

調査の結果、旧石器～近世の遺構・遺物が出土しましたが、旧石器～縄文時代につきましては「灰塚遺跡（Ⅰ）」として報告書を作成し、今回報告するのは主に古代～中世の成果です。調査の結果多数の遺物・遺構の検出により球磨地方における遺跡の性格を知るうえで、貴重な資料を得ることができました。今回の成果が学術のみならず、県民の皆様をはじめ多くの方々に広く活用され、埋蔵文化財に対する関心と御理解を深めていただく一助になれば幸いに存じます。

最後に埋蔵文化財の発掘調査にあたりましては、専門調査委員の先生方の御指導・御助言を賜り、また、御協力いただいた県農政部・球磨地域振興局耕地課・深田村役場・深田村教育委員会、および、地元の方々に対し心から厚くお礼申し上げます。

平成13年３月31日

熊本県教育長

田　中　力　男

例　　言

1　本書は県営緊急畑地帯総合整備事業に伴う埋蔵文化財の調査報告書であり、平成５～９年度に実施した灰塚遺跡調査報告書の第２冊であり、基本土層Ⅲ層の検出の遺構・出土の遺物を掲載した。

2　調査は熊本県農政部から委託を受け熊本県教育委員会が実施し、遺物の整理・保管は熊本県文化財収蔵庫で行った。

3　現場での遺構実測・写真撮影は各調査員が、遺物取り上げと地形測量は各調査員が行い一部、㈲埋蔵文化財サポートシステムの委託事業とした。

4　遺物実測は井上美保・横山明代・乗富祐子・山下義満が行い、一部、出合宏光（相良村教育委員会）の協力を得た。またトレースは井上・横山・緒方千代子・境美恵子・陶山千鶴子・平岡真紀子が行い、上山光美の協力を得た。観察表等のデータ作成は乗富祐子・米倉五月・福田信子が行った。遺物写真は主任学芸員亀田学の指導を受け、平岡が主として行い、一部山下が補足した。

5　本書の小字図に使用した地形図は県農政部から提供を受けたものをもとにして作成した。また遺跡空中写真は深田村教育委員会より提供を受けた。

6　本書の執筆・編集は熊本県文化財収蔵庫で行い、山下が担当した。

凡　　例

1　現地での実測図は以下の縮尺で作成した。

掘立柱建物・列状柱痕　1/20　　堀　1/20　竪穴住居1/20　土坑・土壙墓類　1/10

2　本書作成の際には以下の縮尺とした。

掘立柱建物・列状柱痕　1/120　　堀　1/60 - 120 - 240 - 480　　竪穴住居1/60　土坑・土壙墓　1/30　不明遺構1/10 - 30 - 40

3　遺構は以下のように記号とした。

掘立柱建物（ＳＢ）・列状柱痕（ＳＡ）・溝・堀（ＳＤ）・竪穴住居（ＳＨ）土坑・土壙墓（ＳＫ）1/10・不明遺構（ＳＸ）

4　本遺跡は遺構の切り合いが多く、その新旧関係は「＞」で提示した。Ａ遺構がＢ遺構がより新しい場合はＡ＞Ｂと表記する。

5　遺構の方位は真北である。

6　地形図はⅢ層の検出面を設定とした。

7　特長のある遺構・遺物にはトーンを使用した。

8　掲載写真のスケールは編集の都合により任意とした。

本 文 目 次

序文　例言　凡例

第Ⅰ章　調査の概要
　第１節　遺跡の位置 …… 1
　第２節　調査の方法と層位 …… 1

第Ⅱ章　調査の成果
　第１節　遺構 …… 5
　　1　はじめに
　　2　掘立柱建物（ＳＢ）
　　3　柵状柱列（ＳＡ）
　　4　堀・溝（ＳＤ）
　　5　竪穴住居（ＳＨ）
　　6　土壙墓（ＳＫ）
　　7　土坑（ＳＴ）
　　8　不明遺構（ＳＸ）
　第２節　遺物 …… 209
　　1　はじめに
　　2　日常器
　　3　金属器
　　4　生産具
　　5　特殊遺物

第Ⅲ章　科学分析
　・　熊本県深田村灰塚遺跡出土中世人骨 …… 239
　・　ＳＫ－205　自然科学分析 …… 246
　・　ＳＸ－５　炭化材の同定 …… 250

第Ⅳ章　考察
　第１節　遺構と遺物 …… 253
　　1　遺構
　　2　遺物
　第２節　遺跡と環境 …… 257
　　1　遺構のグルーピング
　　2　「屋敷」について
　　3　環境
　　4　遺跡の諸課題として

遺物観察表
参考文献
写真図版

挿　図　目　次

第１図　模式土層図…… 1
第２図　調査グリット図…… 2
第３図　地形図…… 2
第４図　遺跡周辺地形図及び調査区…… 3
第５図　SB・SA・SD遺構配置図 …… 9
第６図　A・B区SB・SA・SD遺構配置図 …… 11
第７図　D区SB・SA・SD遺構配置図 …… 12
第８図　C区SB・SA・SD遺構配置図…… 13
第９図　E・F区SB・SA・SD遺構配置図 …… 14

（ＳＢ）

第10図　SB－１・２・３実測図及びSB－１・２
出土遺物 …… 15
第11図　SB－４実測図及び出土遺物 …… 16
第12図　SB－５・６実測図及び
SB－６出土遺物 …… 17
第13図　SB－７・８実測図及び
SB－７出土遺物 …… 18
第14図　SB－９・10・11・13実測図
及びSB－８・９・10出土遺物 …… 19
第15図　SB－12・14・15実測図 …… 20
第16図　SB－16・17・18・19実測図
及びSB－16出土遺物 …… 21
第17図　SB－20・21実測図及び
SB－20出土遺物 …… 22
第18図　SB－22・24・25・26実測図及び
SB－22・24・25出土遺物 …… 23
第19図　SB－23実測図及び出土遺物 …… 24
第20図　SB－27実測図及び出土遺物 …… 25
第21図　SB－28・29・30・32実測図及び
SB－29・30出土遺物 …… 26
第22図　SB－31・33・35実測図 …… 27
第23図　SB－34・36・37実測図及び
SB－36出土遺物 …… 28
第24図　SB－38・39実測図及びSB－39・40
出土遺物 …… 29
第25図　SB－40実測図及び出土遺物 …… 30
第26図　SB－41実測図及び出土遺物 …… 31
第27図　SB－42実測図及び出土遺物 …… 32
第28図　SB－43実測図及び出土遺物 …… 33
第29図　SB－44実測図 …… 34
第30図　SB－44実測図及び出土遺物 …… 35
第31図　SB－45・46実測図及び
SB－45出土遺物 …… 36
第32図　SB－47・49実測図及び出土遺物 …… 37
第33図　SB－48実測図及び出土遺物 …… 38
第34図　SB－50実測図及び出土遺物 …… 39
第35図　SB－51実測図及び出土遺物 …… 40
第36図　SB－52実測図及び出土遺物 …… 41
第37図　SB－53・55実測図及び出土遺物 …… 42
第38図　SB－54・56実測図及び
SB－56出土遺物 …… 43
第39図　SB－57実測図及び
SB－56・57出土遺物 …… 44
第40図　SB－58・59実測図及び出土遺物 …… 45
第41図　SB－60実測図及び
SB－59・60出土遺物 …… 46
第42図　SB－61実測図及び出土遺物 …… 47
第43図　SB－62・63・64実測図及び
SB－62出土遺物 …… 48
第44図　SB－65・66実測図 …… 49
第45図　SB－67・68実測図及びSB－68
出土遺物 …… 50
第46図　SB－69・70・71実測図及び
SB－70出土遺物 …… 51
第47図　SB－72・73実測図及び
SB－72出土遺物 …… 52
第48図　SB－74実測図及び出土遺物 …… 53
第49図　SB－75・76実測図 …… 54
第50図　SB－77実測図及び出土遺物 …… 55
第51図　SB－78実測図及び出土遺物 …… 56

（ＳＡ）

第52図　SA－１・２・３実測図及び
出土遺物 …… 65
第53図　SA－４・５・６・７実測図及びSA－４
出土遺物 …… 66
第54図　SA－８実測図及び出土遺物 …… 67
第55図　SA－９実測図及び出土遺物 …… 68

第56図　SA－10・11・12実測図及びSA－11
出土遺物 …… 69

（ＳＤ）
第57図　SD－１・２・３・５・６・７実測図… 71
第58図　SD－４・８・９・10実測図…… 72
第59図　SD－11実測図及び
SD－２・７出土遺物…… 73

（ＳＨ）
第60図　SH遺構配置図…… 74
第61図　SH－１・２実測図及び出土遺物…… 75
第62図　SH－３・４実測図及び出土遺物…… 76
第63図　SH－５・６・８実測図及びSH－８
出土遺物 …… 77
第64図　SH－７・９実測図及び
SH－９出土遺物…… 78
第65図　SH－10・11・12・13実測図…… 79
第66図　SH－14・15実測図及び出土遺物…… 80
第67図　SH－16・17実測図及びSH－16
出土遺物 …… 81
第68図　SH－18・19実測図及びSH－17・18
出土遺物 …… 82
第69図　SH－20・21実測図及びSH－20
出土遺物 …… 83
第70図　SH－22・23実測図及び出土遺物…… 84

（ＳＫ）
第71図　A・B区SK遺構配置図 …… 85
第72図　D区SK遺構配置図 …… 86
第73図　C区SK遺構配置図 …… 87
第74図　E・F区SK遺構配置図 …… 88
第75図　SK－１・２・３・４実測図及び
SK－１・３・４出土遺物…… 89
第76図　SK－５・６・７実測図及び
SK－５出土遺物…… 90
第77図　SK－８・９・10・11・12実測図及び
SK－８・９・10出土遺物…… 91
第78図　SK－13・14・15・16・17実測図及び
SK－17出土遺物…… 92
第79図　SK－18・19・20・21・22・23実測図… 93
第80図　SK－24・25・26・27・28・29実測図及び
SK－27出土遺物…… 94
第81図　SK－30・31・32・33実測図…… 95
第82図　SK－34・35・36実測図及びSK－36
出土遺物 …… 96
第83図　SK－37・38・39・40・41・42実測図及び
SK－37出土遺物…… 97
第84図　SK－43・44・45・46実測図及び
SK－45出土遺物…… 98
第85図　SK－47・48・49・50実測図…… 99
第86図　SK－51・52・53・54・55・56実測図… 100
第87図　SK－57・58・59・60・61実測図 …… 101
第88図　SK－62・63実測図及び
SK－63出土遺物 …… 102
第89図　SK－64・65実測図 …… 103
第90図　SK－66・67・68実測図 …… 104
第91図　SK－69・70実測図 …… 105
第92図　SK－71・72・73・74・75実測図及び
SK－75出土遺物 …… 106
第93図　SK－76・77・78・79・80実測図 …… 107
第94図　SK－81・82・83・84・85・86実測図… 108
第95図　SK－87・88・89・90・91実測図 …… 109
第96図　SK－92・93・94・95・96・97実測図… 110
第97図　SK－98・99・100・101・102・103
実測図…… 111
第98図　SK－104・105・106・107・108
実測図及びSK－108出土遺物…… 112
第99図　SK－109・110・111・112・113・114
実測図…… 113
第100図　SK－115・116・117・118・119実測図
…… 114
第101図　SK－120・121・122・123実測図…… 115
第102図　SK－124・125・126・127・128・
129実測図及びSK－128出土遺物…… 116
第103図　SK－130・131・132実測図及び
SK－131出土遺物 …… 117
第104図　SK－133・134実測図…… 118
第105図　SK－135・136・137実測図 …… 119
第106図　SK－138・139実測図…… 120

第107図　SK－140・141実測図 …… 121
第108図　SK－142・143実測図 …… 122
第109図　SK－144・145実測図 …… 123
第110図　SK－146・147実測図 …… 124
第111図　SK－148・149実測図 …… 125
第112図　SK－150・151実測図 …… 126
第113図　SK－152・153実測図 …… 127
第114図　SK－154・155実測図 …… 128
第115図　SK－156・157実測図 …… 129
第116図　SK－158・159・160・161実測図及び
SK－159出土遺物 …… 130
第117図　SK－162・163・164・165実測図 …… 131
第118図　SK－166・167・168・169実測図及び
SK－169出土遺物 …… 132
第119図　SK－170・171・172・173・174・175
実測図 …… 133
第120図　SK－176・177・178・179実測図 …… 134
第121図　SK－180・181・182・183実測図 …… 135
第122図　SK－184・185・186実測図 …… 136
第123図　SK－187・188・189・190・191実測図
…… 137
第124図　SK－192・193・194・195・196実測図
…… 138
第125図　SK－197・198・199・200実測図及び
SK－198出土遺物 …… 139
第126図　SK－201・202・203・204実測図 …… 140
第127図　SK－205実測図及び出土遺物 …… 141
第128図　SK－206実測図及び出土遺物 …… 142
第129図　SK－207実測図及び出土遺物 …… 143
第130図　SK－208・209・210・211・212実測図
…… 144

（ＳＴ）

第131図　A・B区ST遺構配置図 …… 149
第132図　D区ST遺構配置図 …… 150
第133図　C区ST遺構配置図 …… 151
第134図　E・F区ST遺構配置図 …… 152
第135図　ST－１・２・３・４・５・６実測図
…… 153
第136図　ST－７・８・９・10・11・12・13実測図
…… 154
第137図　ST－14・15・16・17・18・19実測図
…… 155
第138図　ST－20・21・22・23・24実測図 …… 156
第139図　ST－25・26実測図 …… 157
第140図　ST－27・28・29・30・31実測図及び
ST－29出土遺物 …… 158
第141図　ST－32・33・34・35・36・37実測図
…… 159
第142図　ST－38・39・40・41・42・43　実測図
…… 160
第143図　ST－44・45・46・47・48・49・50・51
実測図 …… 161
第144図　ST－52・53・54・55・56・57実測図
…… 162
第145図　ST－58・59実測図及びST－59出土遺物
…… 163
第146図　ST－60・61・62・63実測図 …… 164
第147図　ST－64・65・66・67・68・69実測図
…… 165
第148図　ST－70・71・72・73・74・75実測図
…… 166
第149図　ST－76・77・78・79・80・81・82・83
実測図 …… 167
第150図　ST－84・85・86・87・88・89・90
実測図及びST－86出土遺物 …… 168
第151図　ST－91・92・93・94・95・96・97・98
実測図 …… 169
第152図　ST－99・100・101・102・103・104・
105・106実測図 …… 170
第153図　ST－107・108・109・110・111実測図
…… 171
第154図　ST－112・113・114・115・116・117
実測図 …… 172
第155図　ST－118・119・120・121・122・123・124
実測図 …… 173
第156図　ST－125・126・127・128・129・130
実測図 …… 174

第157図　ST－131・132・133・134・135・136・137
実測図 …… 175
第158図　ST－138・139・140・141・142・143・144
実測図及びST－138・141出土遺物 … 176
第159図　ST－145・146・147・148実測図及び
ST－147出土遺物 …… 177
第160図　ST－149・150・151・152・153・154・
155・156・157実測図…… 178
第161図　ST－158・159・160・161・162・163・164
実測図 …… 179
第162図　ST－165・166・167・168・169・170・
171・172実測図 …… 180
第163図　ST－173・174・175・176・177
SK－213・214実測図 …… 181
第164図　ST－178・179・180・181・182・183
実測図 …… 182
第165図　ST－184・185・186・187・188・189
実測図 …… 183
第166図　ST－190・191・192・193・194・195・196
実測図 …… 184
第167図　ST－197・198実測図及び
ST－197出土遺物 …… 185
第168図　ST－199・200・201・202・203実測図
…… 186
第169図　ST－204・205実測図 …… 187
第170図　ST－206実測図及び出土遺物 …… 188
第171図　ST－207・208実測図 …… 189
第172図　ST－209・210・211・212・213・214
実測図 …… 190
第173図　ST－215・216・217・218・219実測図
…… 191

（ＳＸ）

第174図　SX遺構配置図 …… 194
第175図　SX－１実測図及び出土遺物 …… 195
第176図　SX－２実測図及び出土遺物 …… 196
第177図　SX－３実測図及び出土遺物 …… 197
第178図　SX－４実測図及び出土遺物 …… 198
第179図　SX－５・６実測図及びSX－５出土遺物
…… 199
第180図　SX－７・８実測図及びSX－７出土遺物
…… 200
第181図　SX－９・10実測図及びSX－９出土遺物
…… 201
第182図　SX－10出土遺物 …… 202

（遺　物）

第183図　日常器　1（土師器） …… 213
第184図　日常器　2（土師器） …… 214
第185図　日常器　3（土師器） …… 215
第186図　日常器　4（須恵器） …… 216
第187図　日常器　5（須恵器・中世須恵器）… 217
第188図　日常器　6（中世須恵器・黒色土器）
…… 218
第189図　黒色土器出土分布図 …… 219
第190図　日常器　7（墨書土器・ヘラ記号）　219
第191図　日常器　8（輸入陶磁器） …… 220
第192図　日常器　9（輸入陶磁器） …… 221
第193図　輸入陶磁器出土分布図 …… 221
第194図　日常器　10（SK出土輸入磁器） …… 222
第195図　日常器　11（国内陶磁器・捏鉢） … 223
第196図　日常器　12（捏鉢・擂鉢） …… 224
第197図　日常器　13（擂鉢・石鍋） …… 225
第198図　日常器　14（滑石製品） …… 226
第199図　金属器　1（鉄） …… 227
第200図　金属器　2（鉄・銅） …… 228
第201図　生産具　1（土錘） …… 229
第202図　生産具　2（砥石・紡錘車・羽口）… 230
第203図　鉄鉱鉾出土分布 …… 231
第204図　特殊遺物　1（瓦・硯） …… 231
第205図　特殊遺物　2（瓦玉・スタンプ付土師
器・Pストーン） … 232

（考　察）

第206図　ピット形態図 …… 253
第207図　土壙墓（SK）分布図 …… 254
第208図　地割り図 …… 255
第209図　庇付建物配置図 …… 256
第210図　F区変遷図 …… 258
第211図　A－D区グルーピング　1 …… 259

第212図　A－D区グルーピング　2 …… 260
第213図　堀・土塁想定図 …… 262
第214図　調査区外地形図　1 …… 263
第215図　調査区外地形図　2 …… 264
第216図　灰塚遺跡と「尼が土手」 …… 265
第217図　遺跡周辺空中撮影 …… 266
第218図　遺跡周辺地名 …… 266

表　目　次

第１表　SBデータ　1 …… 58
第２表　SBデータ　2 …… 60
第３表　SBデータ　3 …… 62
第４表　SAデータ …… 70
第５表　SDデータ …… 70
第６表　SHデータ …… 73
第７表　SKデータ　1 …… 145
第８表　SKデータ　2 …… 146
第９表　SKデータ　3 …… 147
第10表　STデータ　1 …… 192
第11表　STデータ　2 …… 193
第12表　SXデータ …… 202
第13表　遺構出土遺物　観察表１（SB） …… 203
観察表２・３・４
（SB・SA・SD・SH） …… 204
観察表５（SH・SK） …… 205
観察表６・７・古銭データ
（ST・SX・古銭） …… 206
第14表　出土遺物　観察表１（日常器）…… 233
観察表２・３（日常器）…… 234
観察表４
（日常器・SK内輸入磁器） …… 235
観察表５・６・７・８・９・10
（日常器・金属器・生産具）…… 236
観察表11・12・13・14
（生産具・特殊遺物）…… 237

写　真　図　版

図版１（カラー）
遺跡遠景　１・２　No.１・２
図版２（カラー）
遺跡遠景　３　No.３
SK－206出土状況・遺物　No.４・５
図版３（カラー）
SK－203　No.６・７
SK－204出土状況・遺物　No.８・７
図版４（カラー）
SB・SK出土遺物・陶磁器・金属器　No.10－15
図版５
遺構１（SB・SD・SH・SK）No.16－19
図版６
遺構２（SX）・古銭出土状況　No.20－22
図版７
遺構３（SA・SK）No.23－25
図版８
遺物出土状況（SH・SX）・礎石及び敷石　No.26－30
図版９
遺物１　No.31－35
図版10
遺物２　No.36－41
図版11
遺物３　No.42－47

第Ⅰ章　調査の概要

第1節　遺跡の位置

第2節　調査の方法と層位

第Ⅰ章　調 査 の 概 要

調査に至る過程・位置・調査の概要については「灰塚遺跡（Ⅰ）」に報告してあるので、ここではその概要を記することにする。

第１節　遺跡の位置

本遺跡は熊本県球磨郡深田村字灰塚に所在する。

深田村は須恵村・相良村・免田村と隣接し、この範囲を中心として球磨盆地の中央、通称「中球磨」に位置する。球磨盆地を二分するように西流する球磨川に近接し遺跡はこの右岸に位置する。

第２節　調査の方法と層位

調査は工事施工関係により順次調査を行い、Ａ～Ｆ調査区を設定し、１辺が10mのグリット設定を行った。グリットは地形に則した任意で、東西軸をアルファベット・南北軸をアラビア数字で示した。

基本層位は以下のように示した（第１図）。また撹乱が激しい第２層までを表土剥ぎとし、第３層からの検出とした。

第１層　灰褐色砂質土

表土層であり現耕作地である。かなりの撹乱を受けている。

第２層　黒褐色砂質土

縄文時代後期～中世以降の遺物の出土が認められるが、撹乱が激しい。

第３層　黄褐色土

アカホヤ火山灰で基本的には無遺物層である。土質により２層に分層ができ３ａ・３ｂとした。３ａはアカホヤ火山灰の二次堆積土で縄文時代後期～中世の遺物を含む。３ｂはアカホヤ火山灰の１次堆積土である。第４層との入り乱れが一部に見られ早期遺物出土が認められる。

第４層　暗褐色土

縄文早期の包含層で暗褐色土である。苦土と呼ばれる凝固した黒色のブロックが認められる。

第５層　赤褐色粘質土

粘性を持つ無遺物層できめ細かい。

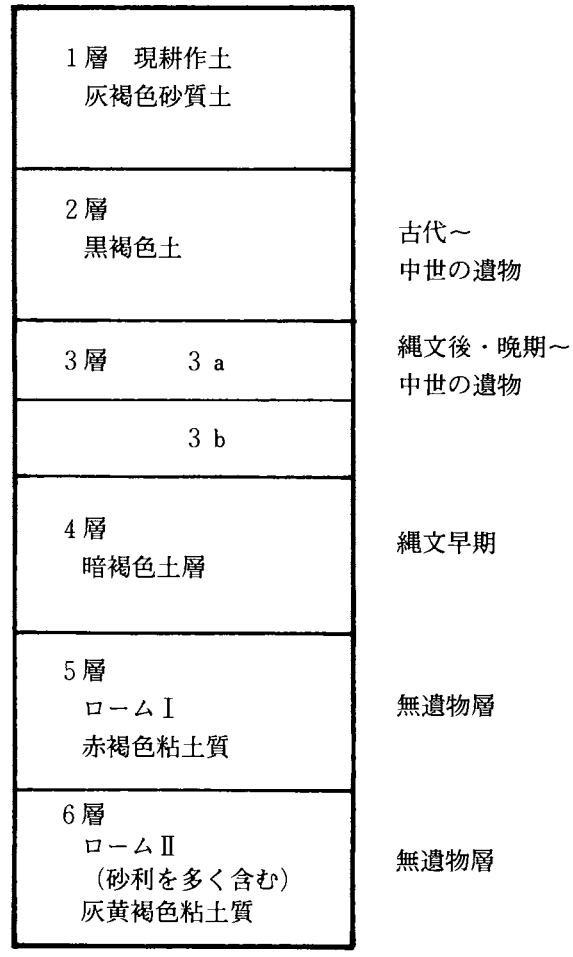
第６層　灰黄褐色粘質土

無遺物層で粘性を持つが、砂利を多く含む。

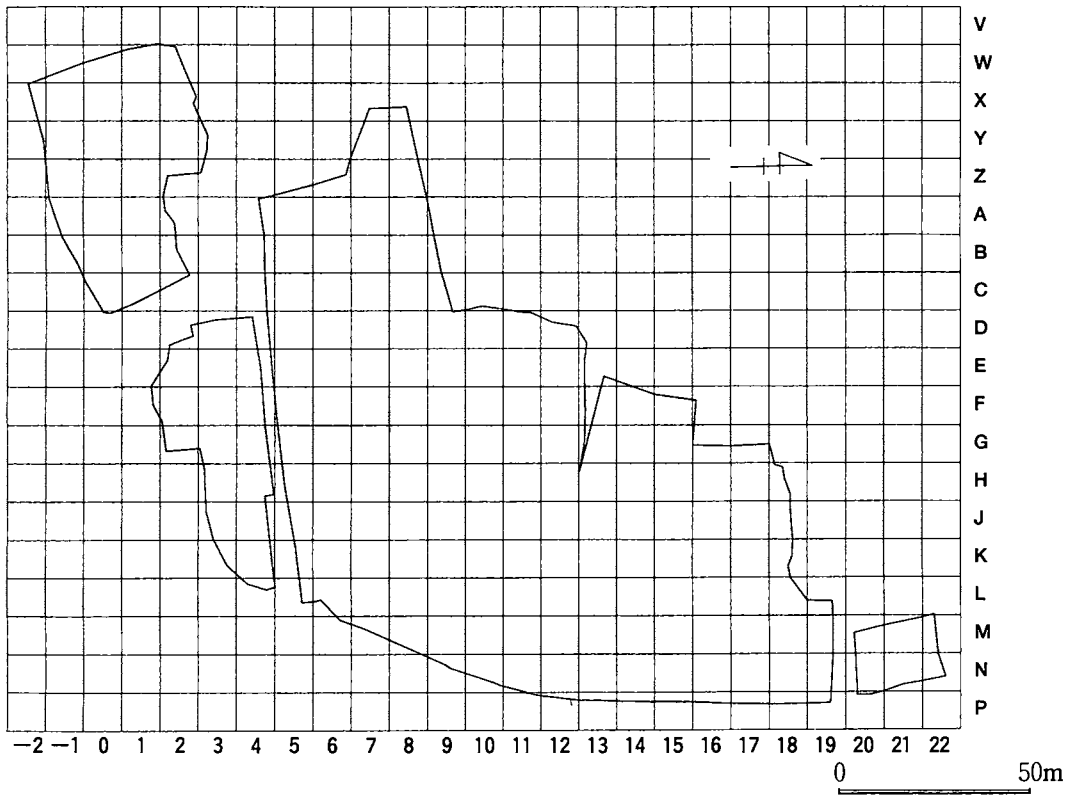
「灰塚（Ⅰ）」では基本層位の４層、本書は第３層での検出・出土の遺構・遺物が対象である。

本書の作成にあたり新たに整理指導・協力を頂いた（順不同・敬称略）。

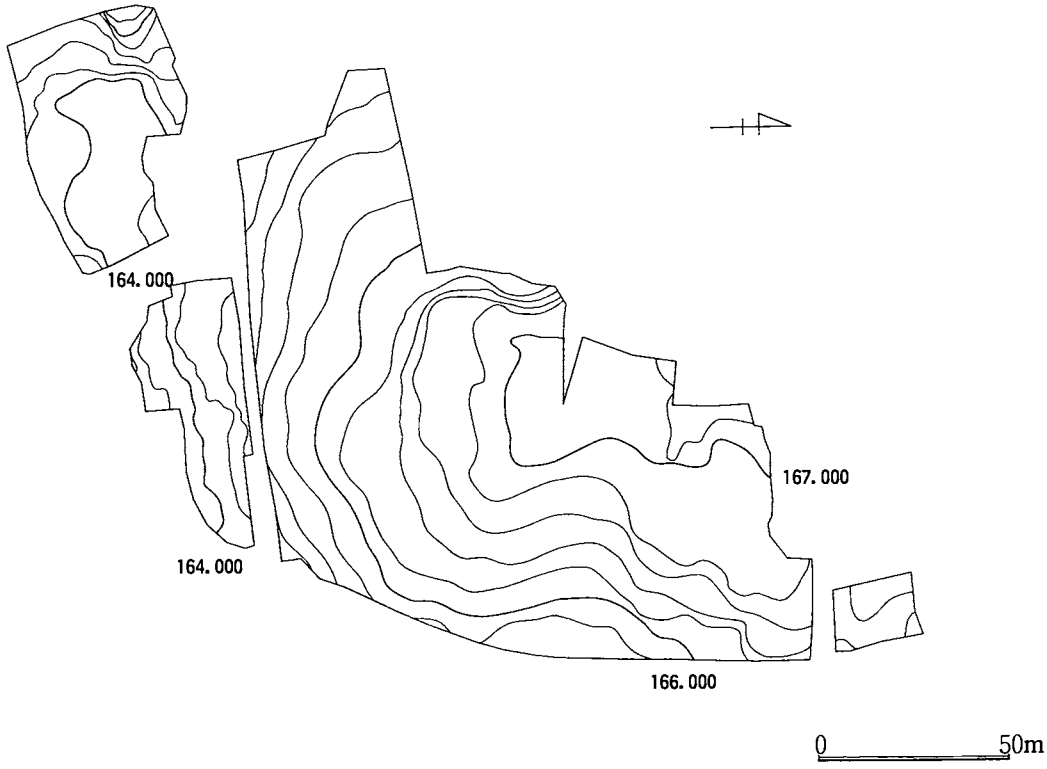
村上　恭通（愛媛大学）
勢田　広行（荒尾市教育委員会）
美濃口雅朗（熊本市教育委員会）
江浦　久志（天草創磁　久窯）
小畑　弘己（熊本大学）
塚本　敏夫（元興寺文化財研究所）
福原　博信（五木村教育委員会）
山本　哲也（刀匠　祐忠）



第１図　模式土層図



第２図　調査グリッド図



第３図　地形図

第4図　遺跡周辺地形図及び調査区

第Ⅱ章　調査の成果

第1節　遺　　構

第2節　遺　　物

第Ⅱ章　調査の成果

第1節　遺構

1　はじめに

本遺跡は遺構として掘立柱建物（ＳＢ）78棟・列状柱痕（ＳＡ）12基・溝・堀（ＳＤ）11条・土壙墓（ＳＫ）214基・土坑（ＳＴ）219基・不明遺構（ＳＸ）10基の総計544の遺構が確認され、その全てについて説明を加えることが必要であるが、遺構については遺構一覧表（表１～12）を作成し、その特長のあるものについての記述に留めた。出土遺物については土師器を中心とし、伝世の要素の強い輸入陶磁器は太宰府編年に従った。（表13）

遺構の特長ある面については以下のトーンを使用した。

燃焼面		カーボン	
灰		シラス	
硬化面		粘土質	
柱痕跡		骨ブロック	
赤色面		撹乱	

2　掘立柱建物　（ＳＢ）（第10－51図）

本遺跡から多数の柱穴が検出されたが、掘立柱建物として確実な遺構として78棟を確認した。土中に柱穴を形成しこれに柱を持って建物を形成する遺構を掘立柱建物としＳＢで表記した。この中での柱間隔は真々制で測定し、柱痕跡が存在した場合は痕跡の中心から、また柱穴だけの場合はその中心からとした。柵状柱列（ＳＡ）の柱間隔も同様とした。

掘立柱建物は平面形態の短軸と長軸をそれぞれ「梁行×桁行」とし、これを提示し類別とした。位置はグリットを（　）で提示した。以下この分類に従って提示する。また掘立柱建物は側柱建物と総柱建物に分類され、庇付が存在する。また特異な掘立柱建物と遺物ついては後述する。データは表１～３に提示した。

１間×２間

このタイプはＳＢ－19（Ｋ－15）・ＳＢ－63（Ｇ－８）の２棟である。ＳＢ－19は梁行が桁行に対しやや幅広で、全体は長方形を呈し、身舎面積は14.2㎡である。ＳＢ－63はＡ－Ａ′の中間にピット２があるが、対応するＢ－Ｂ′にはピットが存在しないが整理上ここに仮置きした。身舎面積は15.5㎡とＳＢ－19と規模はほぼ同じである。

１間×３間

ＳＢ－１（Ｍ－20・21）・ＳＢ－２（Ｍ・Ｎ－18）・ＳＢ－38（Ｎ－14）がこれに相当する。

ＳＢ－１・２は遺跡北端に位置し、梁行は１間だけであるが幅広い。この間に柱があると２間×３間の形態になる。身舎面積も類似する。ＳＢ－２のＣ－Ｃ′にやや小型のピットが見れる。柱穴としては弱く、補助的な機能を持つものか。これがＳＢ－１・２の梁行の幅広の解釈のキーワードとなるか。ＳＢ－38はＳＢ－１・２に比べやや小型の建物である。これは梁行・桁行に差異があるためである。

２間×２間

ＳＢ－３（Ｎ－18）・ＳＢ－11（Ｊ－13・14）・ＳＢ－24（Ｋ・Ｌ－15）・ＳＢ－25（Ｋ・Ｌ－14）・ＳＢ－28（Ｌ－14・15）・ＳＢ－29（Ｌ－13・14）・ＳＢ－67（Ｇ・Ｈ－４）がこれに相当する。２間×２間なので方形を呈すのであるがＳＢ－３・29の実際は長方形を呈する。梁行に当たる柱間が桁行間に対して狭いために長方形を呈しているが、11・24・28は方形近い。身舎面積は19.0㎡～12.5㎡と差がある。ＳＢ－67は総柱で遺跡南端より検出された。

２間×３間

掘立柱建物の形態中最大数で、ＳＢ－５（Ｊ－16・Ｋ－16）・ＳＢ－９（Ｈ・Ｊ－13）・ＳＢ－10（Ｊ－13）・ＳＢ－12（Ｈ・Ｊ－14）・ＳＢ－13（Ｊ－14・15）・ＳＢ－14（Ｊ－14・15）・ＳＢ－15（Ｊ・Ｋ－14）・ＳＢ－16（Ｋ－14）・ＳＢ－17（Ｋ－14）・ＳＢ－18（Ｊ・Ｋ－15）・ＳＢ－21（Ｋ－13・14）・ＳＢ－22（Ｋ－12・13）・ＳＢ－33（Ｍ－13）・ＳＢ－34（Ｎ－11・12）・ＳＢ－36（Ｎ・Ｐ－12・13）・ＳＢ－56（Ｈ－９）・ＳＢ－58（Ｈ・Ｊ－９）・ＳＢ－64（Ｅ－７・Ｆ－７）・ＳＢ－66（Ｂ・Ｃ－５・６）・ＳＢ－68（Ｆ－３）・ＳＢ－72（Ｂ

・C－0）・SB－75（A・B－0・1）・SB－78（Y－1）がこれに該当する。

この2間×3間は側柱建物・総柱・庇付きが存在するが、以下説明を加えたい。側柱建物はSB－5・9・10・12・13・14・15・16・17・18・21・22・33・58・64が該当するがその身舎面積には差異がある。SB－15の13.6㎡が最小で、SB－21の34.9㎡が最大である。この差異は柱間隔の差異により生じたものである。SB－5は（J・K－16)、C－C′とB－B′の交点に当たる隅柱が検出されてないが、ここに存在すると思われこの類に仮置きした。

次に総柱はSB－56・66・68である。SB－66はこの建物群の中で最大で38.4㎡を測る。また柱痕跡が確認されたが、これは他の遺構より大きい。またSB－72・75・78は総柱ではなく、SB－75で示すとピット7－8間に柱が存在しないため、方形の空間を形成する建物である。これが調査F区に見られる。

庇付きはSB－34・36がある。SB－34は四方庇・SB－36は西側の一方庇である。SB－34はSB－72・75・78に見られた空間に柱を欠く形態である。

2間×4間

この類はSB－26（L－14）・SB－30（L－12・13）・SB－32（M－12・13）・SB－37（N－14）・SB－39（L・M－11）・SB－45（L・M－7・8）・SB－50（H・J－9・10）・SB－62（H－7）がこれに該当する。SB－26・30・32・37・39・45は側柱の掘立建物であるが、面積では20㎡前半（SB－32・37）・30㎡前後（SB－26・45）・40㎡（SB－39）の3種に分類できる。SB－26のB－B′間には柱が見られないが、ピット8付近の検出が浅いためB－B′間の柱痕が浅いため検出面よりも上位であることが考えられる。SB－32のピット3－2間も同様である。SB－50・62は総柱である。SB－50はピットが不定形を呈する。ピット7は北東～南西方向に延びピットが混在する。またピット11からは人骨が出土している。これをうまく解決できなかったため、不明遺構（SX－6）の稿で述べた。

2間×5間

この類はSB－4（K・L－17・18）・SB－6（H－14・15）・SB－7（G－13・H－13・14）・SB－8（G・H－13・H－14）・SB－20（K・L－13）・SB－27（L－14・15）・SB－31（L・M－12・13）・SB－51（H・J－9・10）・SB－65（E・F－8・9）がこれに該当する。身舎内に柱が存在するSB－4は方形の2棟の建物である可能性もあるが、この間が柱間隔であったために1棟とした。またSB－4のピット10からは輸入磁器の破片で6個体出土した。ピット10は隅柱に当たるため儀礼の一種か。SB－51はピット4－14間にピット15が存在する。

SB－6・7・8は東側の一方庇である。調査B区の西端にて検出されている。SB－6が若干面積が広い。SB－7・8は規格も面積も類似しており、新旧関係は不明であるが立て替えであろう。

二方庇はSB－20・31・65でSB－20はSB－4の形態に南北に庇が付く。二方庇で総柱はSB－27で東西に庇が付く。

2間×6間

この類はSB－40（L・M－11・12）の1棟だけである。D区北東端にて検出された。南・北・西の三方庇を持つ東西軸の総柱の建物である。柵状柱列のSA－8が東西軸に延びL字状にSB－40近接している。

3間×3間

この類はSB－55（H－9）とSB－69（F－3）の2棟である。SB－55はD区中央のSB集中区において検出された。SB－55は身舎面積33.8㎡・SB－69は27.5㎡、柱間隔も1.8m前後と同一の規格である。SB－69は調査E区のやや中央にて検出された。2間×3間のSB－68と切り合い関係にある。

3間×4間

この類はSB－47（K・L－5・6）・SB－53（H・J－9・10）・SB－54（H・J－9）・SB－59（J－9）・SB－76（A・B－1・2）がこれに該当する。SB－76が総柱で他は側柱建物である。SB－47・55は方形のプランで柱間隔の差異でこれが生じる。SB－53はC－C′ラインには1本のピットだけであるが、対応するD－D′ライン

には2本のピットで3間になることから、この3間×4間に類別した。

3間×5間

この類はＳＢ－35（Ｎ－12・13）・ＳＢ－41（Ｍ・Ｎ－９・10）・ＳＢ－42（Ｋ・Ｌ－８・９・10）・ＳＢ－43（Ｋ・Ｌ－８・９・10）・ＳＢ－61（Ｈ－７・８）・ＳＢ－73（Ｂ－（－１）・Ｂ・Ｃ－０）がこれに該当する。ＳＢ－35・73を除き他は総柱・庇付きである。ＳＢ－41は総柱、ＳＢ－42は北側の一方庇、北西南側に三方庇はＳＢ－43である。ＳＢ－61は東西側に二方庇を持つ総柱である。

3間×6間

この類はＳＢ－23（Ｋ・Ｌ－13・14）の1棟だけである。東西側の二方庇の総柱である。調査Ｂ区の中央で検出され、大型で庇付きであることから掘立柱建物としては重要な遺構であろう。

3間×7間

この類はＳＢ－49（Ｈ・Ｊ－９・10）の1棟だけである。東西に細長く、調査Ｄ区の中央の掘立建物密集区において検出された。

4間×4間

この類はＳＢ－46（Ｋ・Ｌ－６）・ＳＢ－60（Ｊ－９）・ＳＢ－74（Ａ・Ｂ－０・Ｂ－（－１））がこれに相当する。ＳＢ－74は総柱であり、身舎面積は90.4㎡で他の2倍程を成す。またＳＢ－46ピット8は土坑状にピットが存在し、切り合いは不明であるが、土師器坏・刀子・古銭が出土している。詳しくは不明遺構（ＳＸ）のＳＸ－２で述べたい。

以下は類例として一棟だけである。

調査Ｄ区密集区から

4間×5間　ＳＢ－52（Ｈ・Ｊ－９・10）

4間×7間　ＳＢ－57（Ｈ・Ｊ－８・９・10）

4間×8間　ＳＢ－48（Ｈ・Ｊ－９・10）

が検出されている。

5間×5間はＢ－71（Ｂ・Ｃ－０・１）は調査Ｆ区にて検出。

5間×6間

ＳＢ－44（Ｋ・Ｌ・Ｍ－７・８・９）北西南側の三方庇で総柱である。本遺跡掘立建物内で最大の遺構で庇も入れた総面積は166.7㎡である。遺構の西側をトレンチがあり、北側にＳＨ－８が切り合っている。ＳＨ－８の検出面からピット37－39間に対応するピットが検出されていることからＳＢ－44＞ＳＨ－８となる。

ＳＢ－70（Ｂ・Ｃ－２）と77（Ａ・Ｂ－1・２）は遺構が調査区外に延びるため全体は不明である。ＳＢ－70は側柱建物、77は総柱で一辺は6間を呈する。

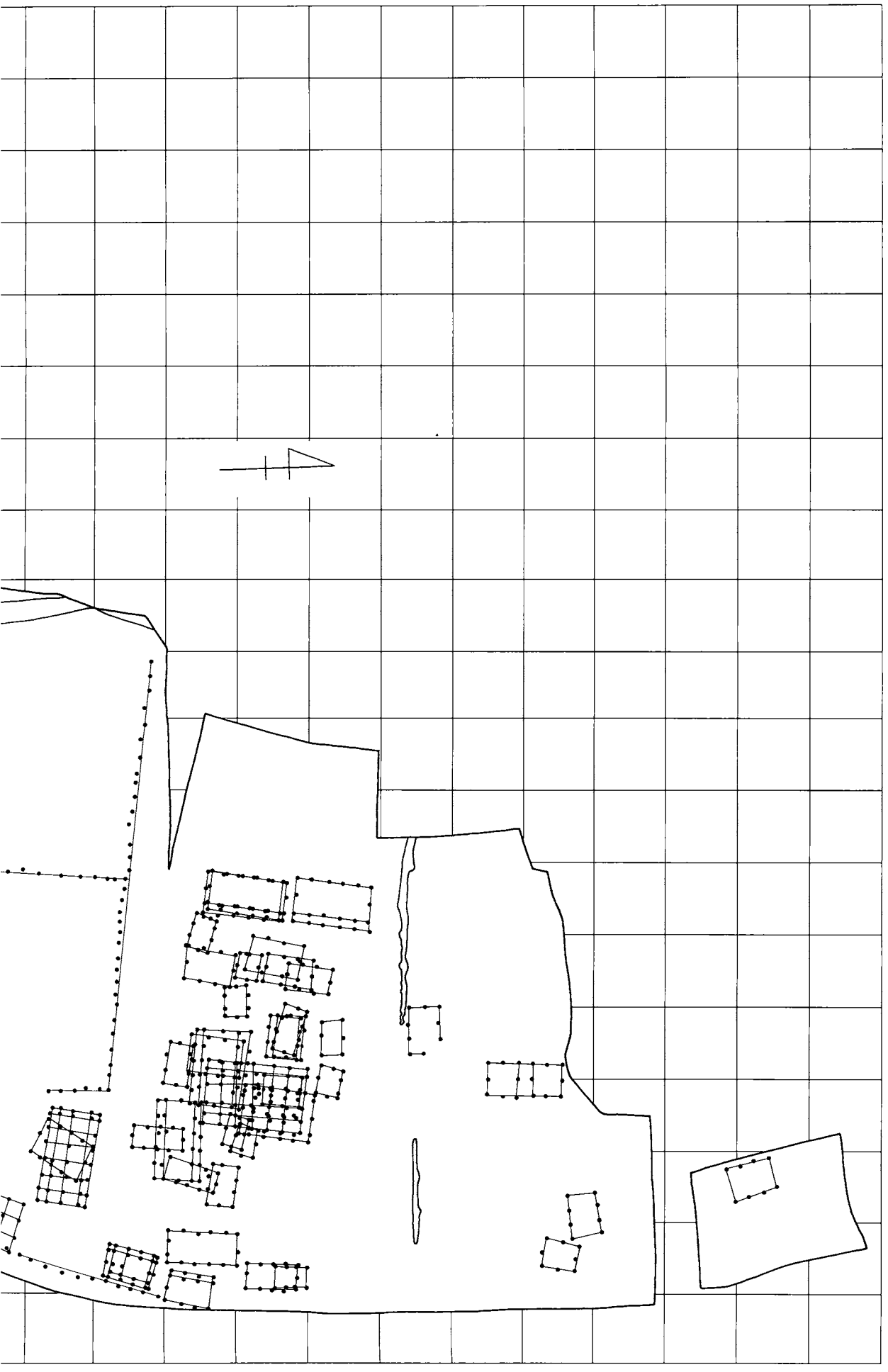
調査Ｄ区の中央部はＳＢ－48～60が存在する掘立柱建物群であり、切り合い関係も複雑である。この掘立柱建物群の柱穴の底部には礎石として平坦な川原石を配置している（写真図版８　No.28・30）。

掘立柱建物群の出土遺物は土師器・輸入磁器・鉄製品・古銭などであり、ＳＢ－４の遺物**5**～**11**は輸入磁器でピット10から出土している。またＳＢ－39・40・50・52・56・59においては、掘立柱建物の柱穴の完掘時に古銭の出土が認められた。その出土状況も埋土内の混在というものではなく柱穴の壁に貼付くものと床直での検出で意図的事項を想定される。不明遺構（ＳＸ）で事例紹介するＳＸ－２に認められる地鎮的な意味合いを持つ儀礼の範疇と想定しここに提示した。

鉄製品の殆どは建築の際の機材使用の釘であろうが、ＳＢ－45の遺物**2**は断面は三角を呈する。鞍金具の一種か。ＳＢ－40の遺物**9**は平坦な形態に先端を湾曲してある毛抜き状を呈する。ＳＢ－56の遺物**6**はストロー状に加工し形態の断面は端部でＯ字状・中央でＵ字状を呈する不明鉄器である。ＳＢ－23の遺物**1**は遺物を釘状に見立てたならば、先端は尖り、頭部は環状を呈している。開き戸の開閉の際使用する留具の一種で「壺金」と呼ばれているものであろう。出土地がどのピットからか不明であるが、これにより建物構造想定のヒントになる。

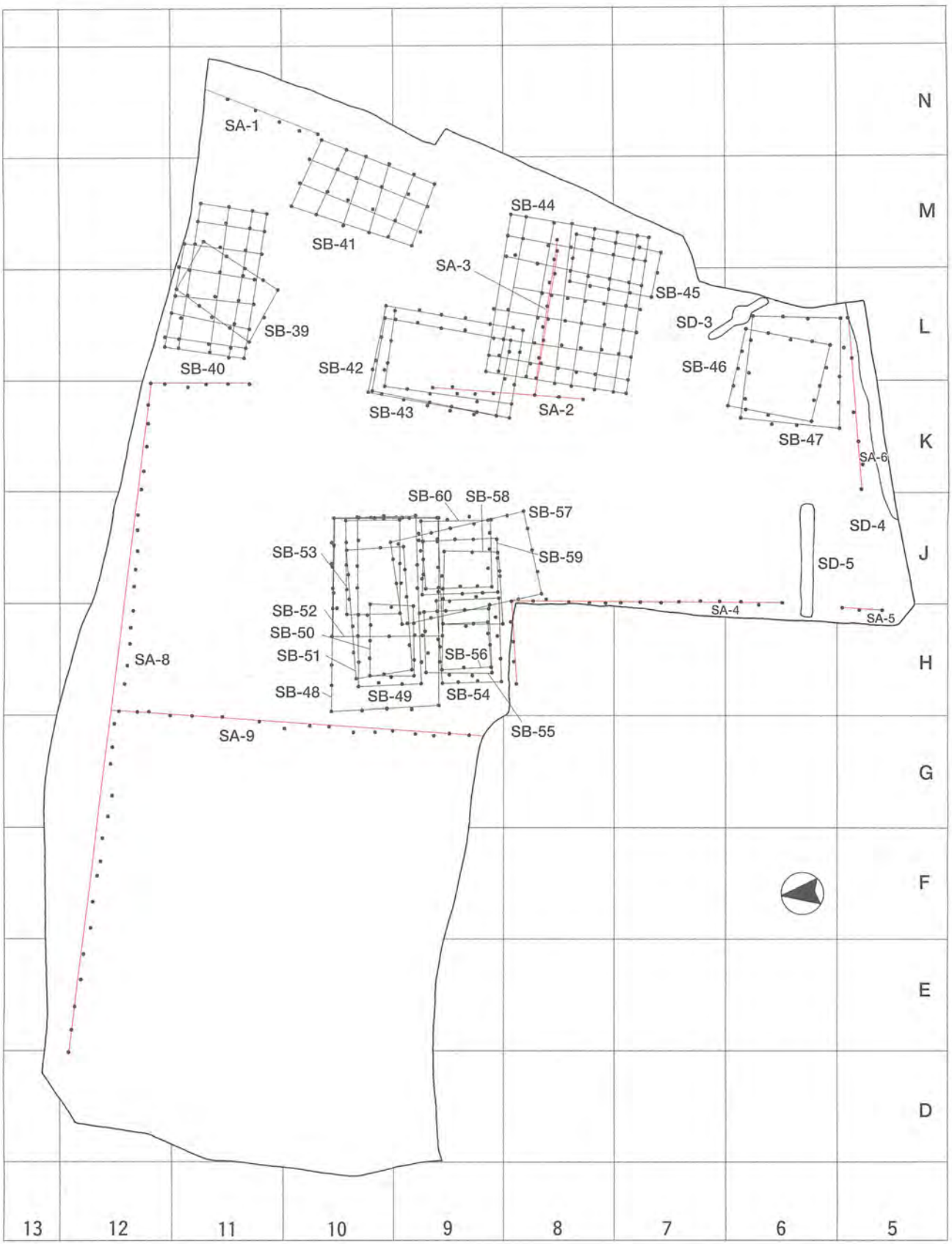
他の遺構と切り合い関係にあるのは、ＳＢ－57ピット16＜ＳＴ－130・ＳＢ－58　ピット５＜ＳＫ－36・ＳＢ－59　ピット６＜ＳＴ－130・ＳＢ－60　ピット３＜ＳＴ－127と調査Ｄ区に集中する。掘立柱建物後に他の遺構が形成された傾向がある。

第5図　S

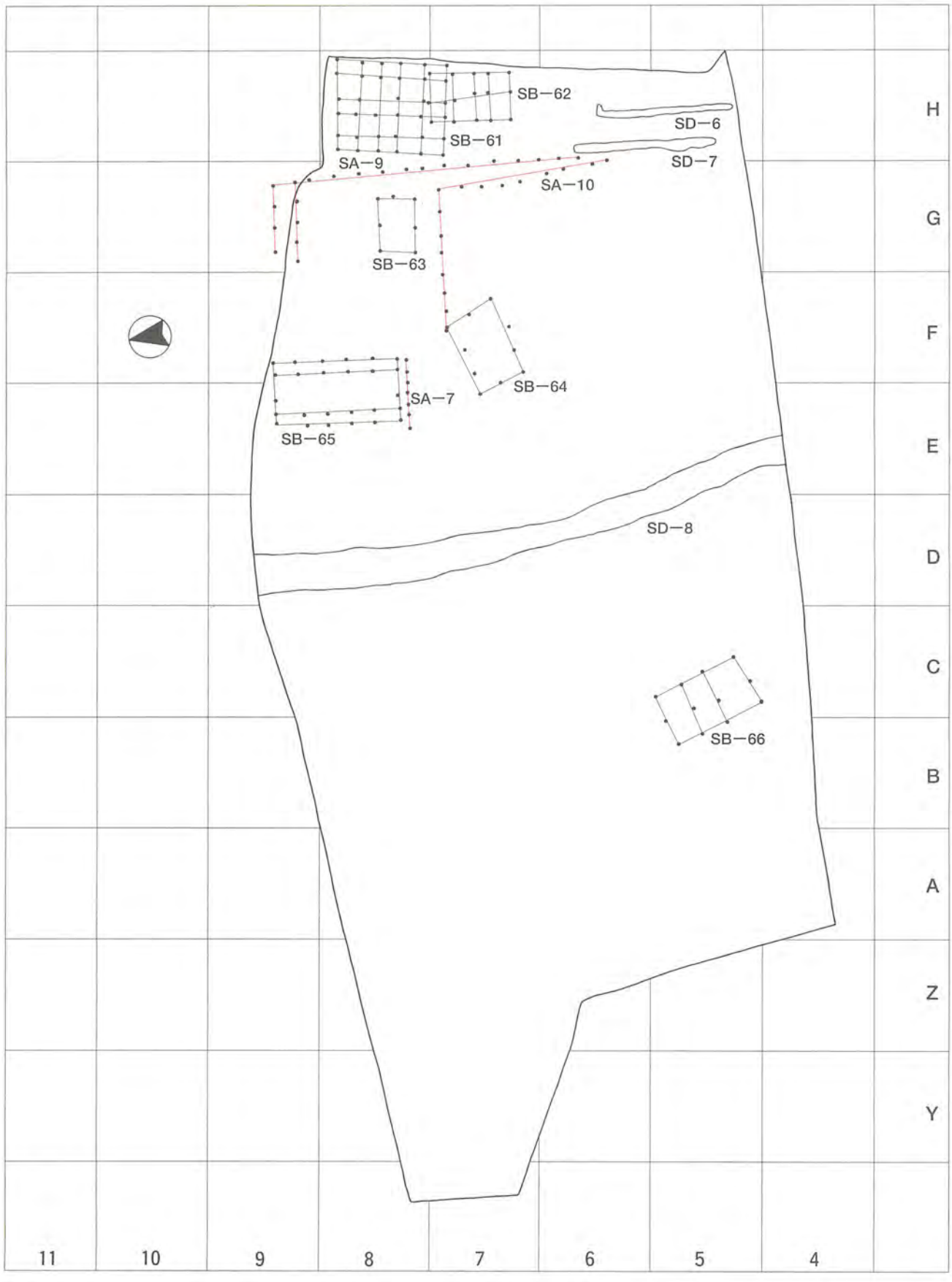


3・SA・SD 遺構配置図

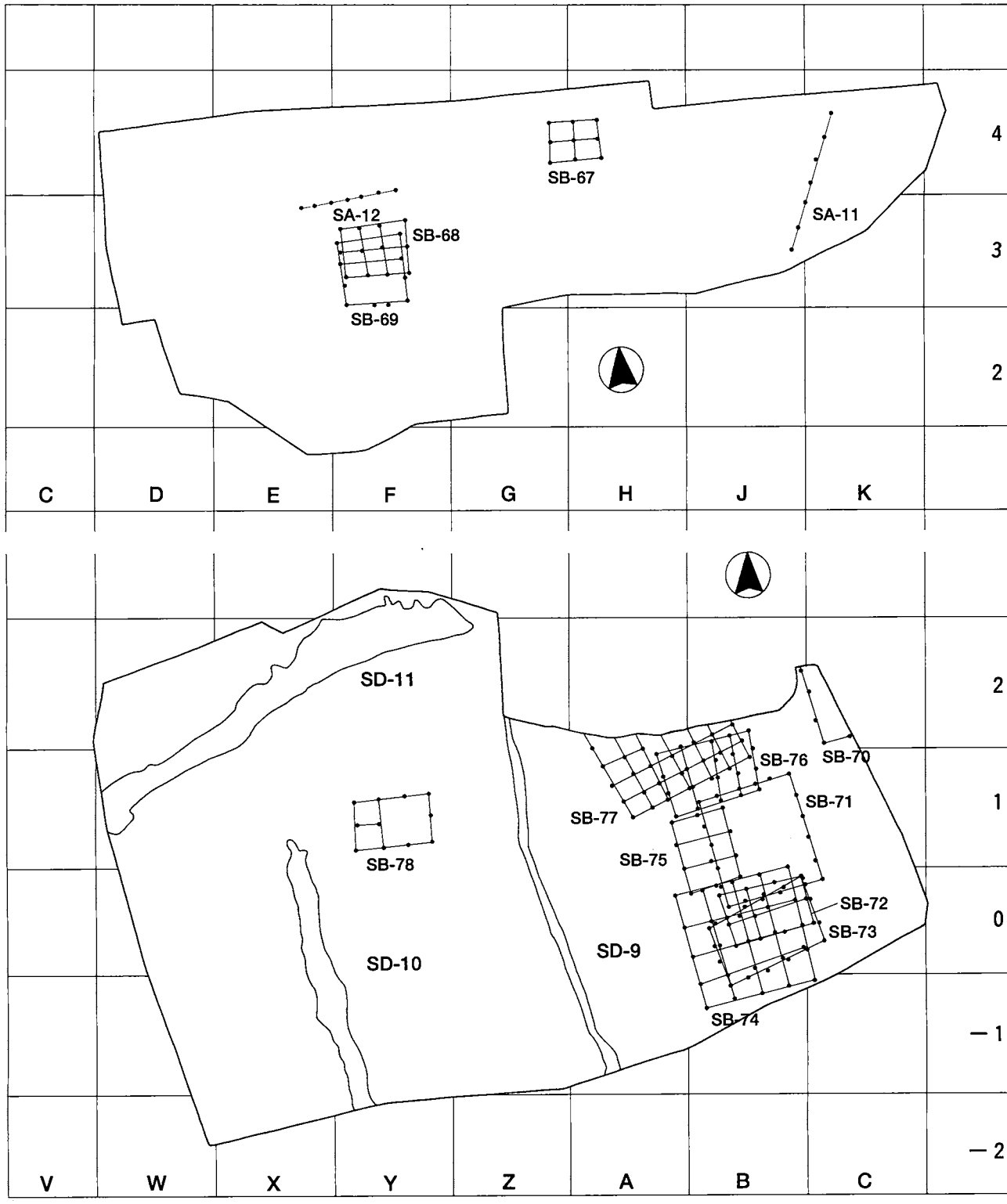
第6図　A・B区SB・SA・SD遺構配置図



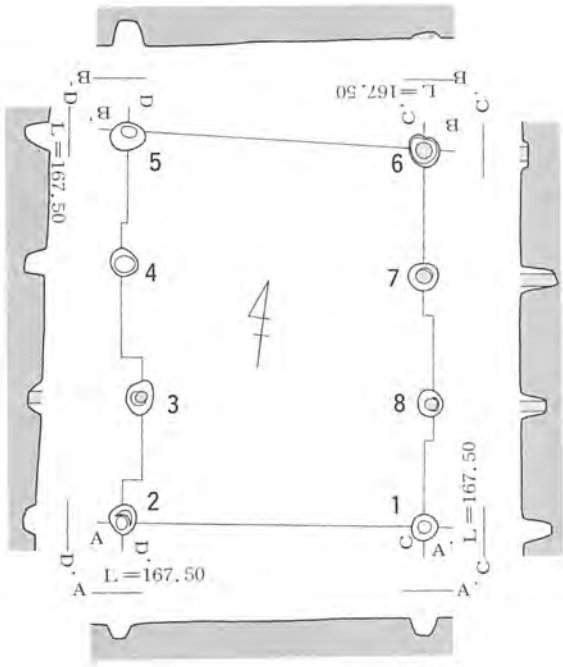
第７図　Ｄ区 SB・SA・SD 遺構配置図



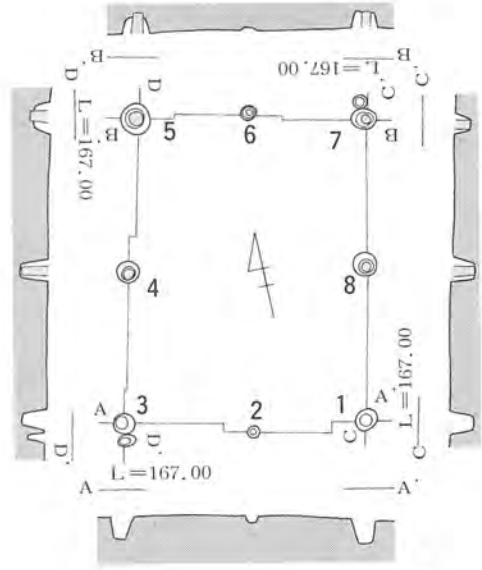
第8図　C区 SB・SA・SD 遺構配置図



第9図　E・F区SB・SA・SD遺構配置図

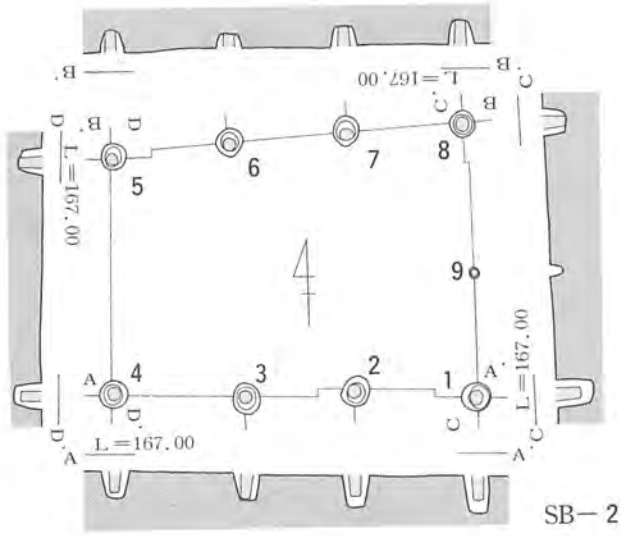


SB－1

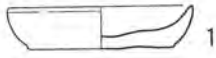


SB－3

SB－1出土遺物(1/3)

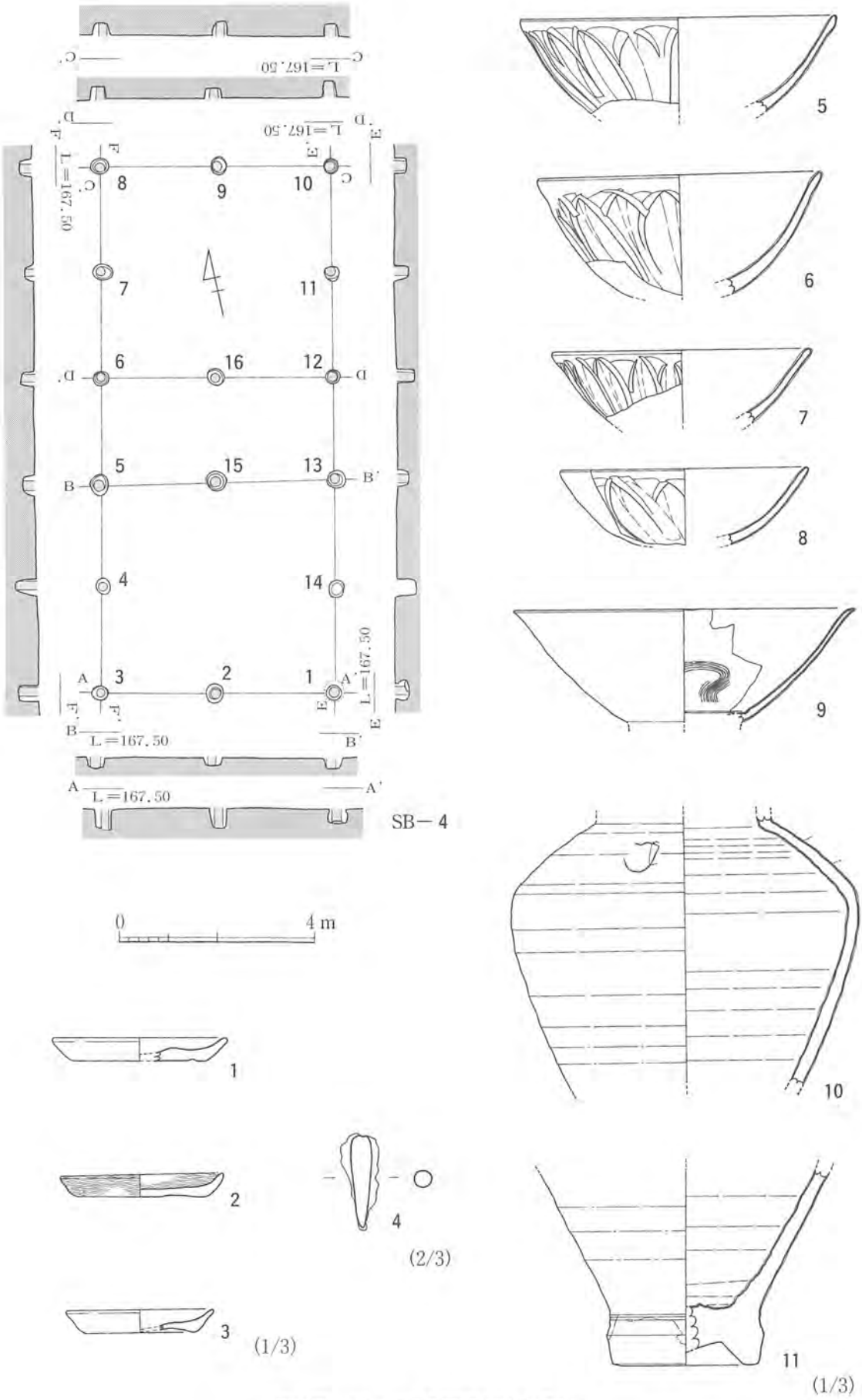


SB－2

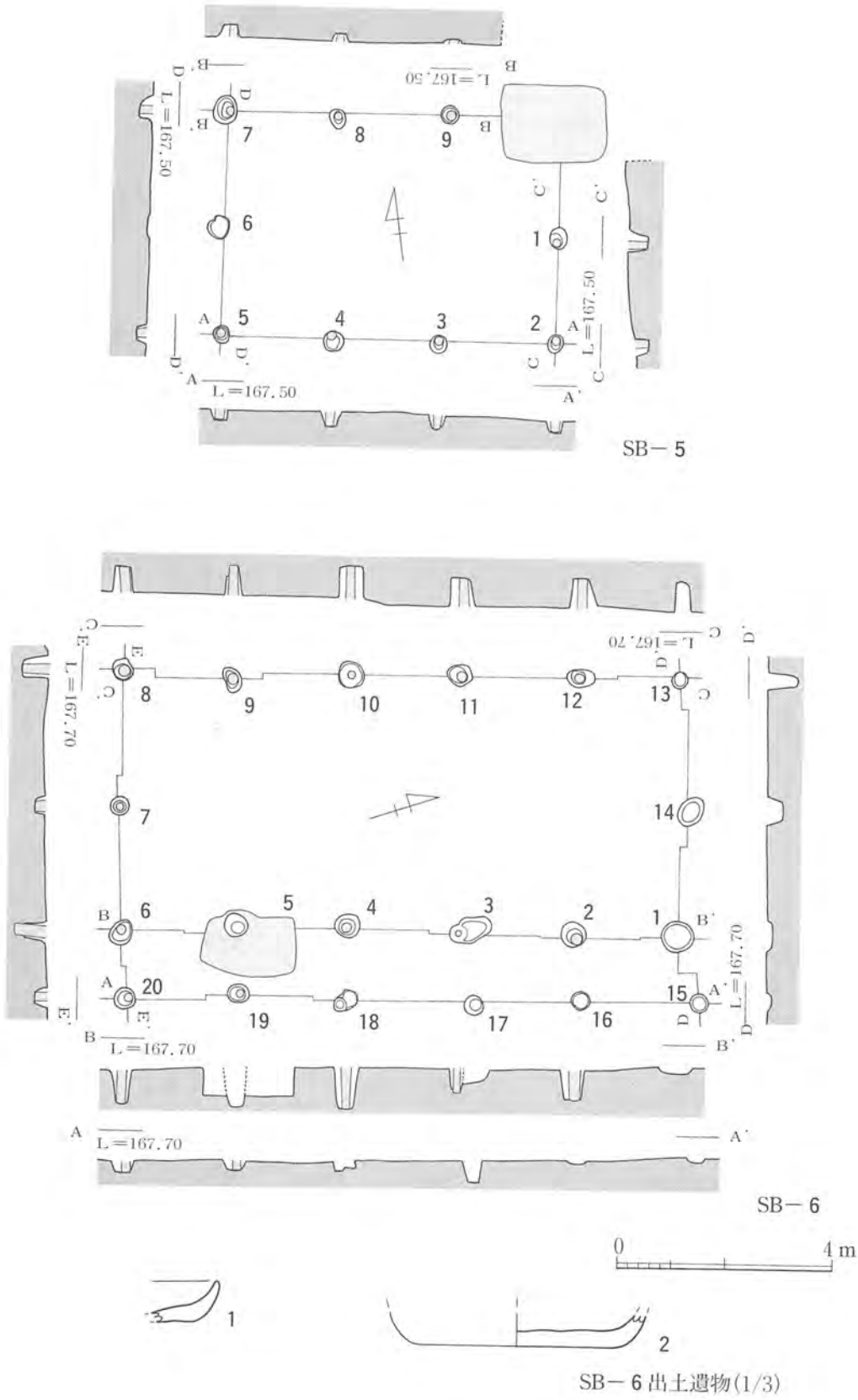


SB－2出土遺物(1/3)

第10図　SB－1・2・3実測図及びSB－1・2出土遺物

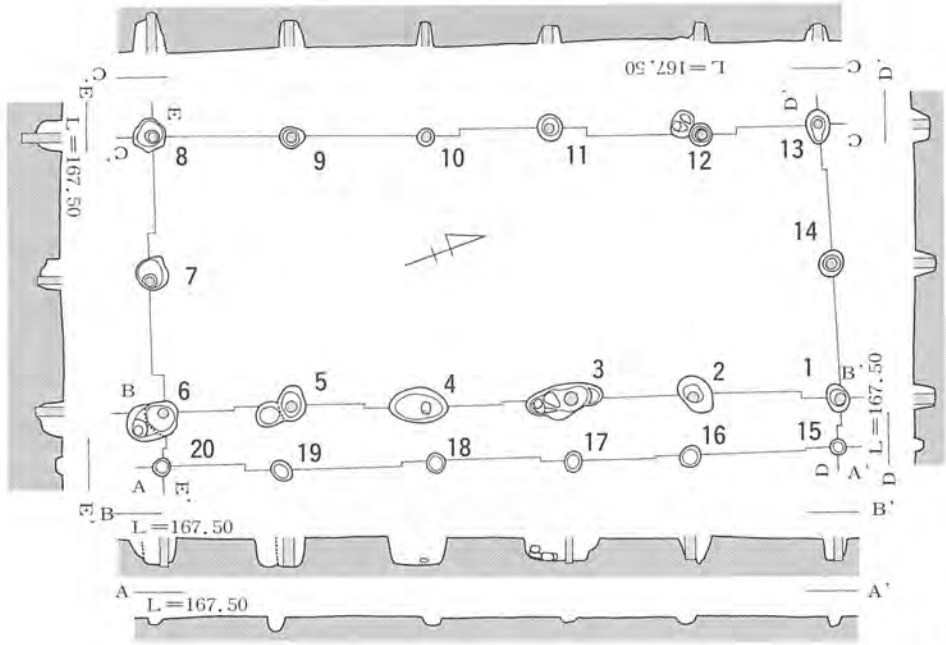


第11図　SB－4実測図及び出土遺物



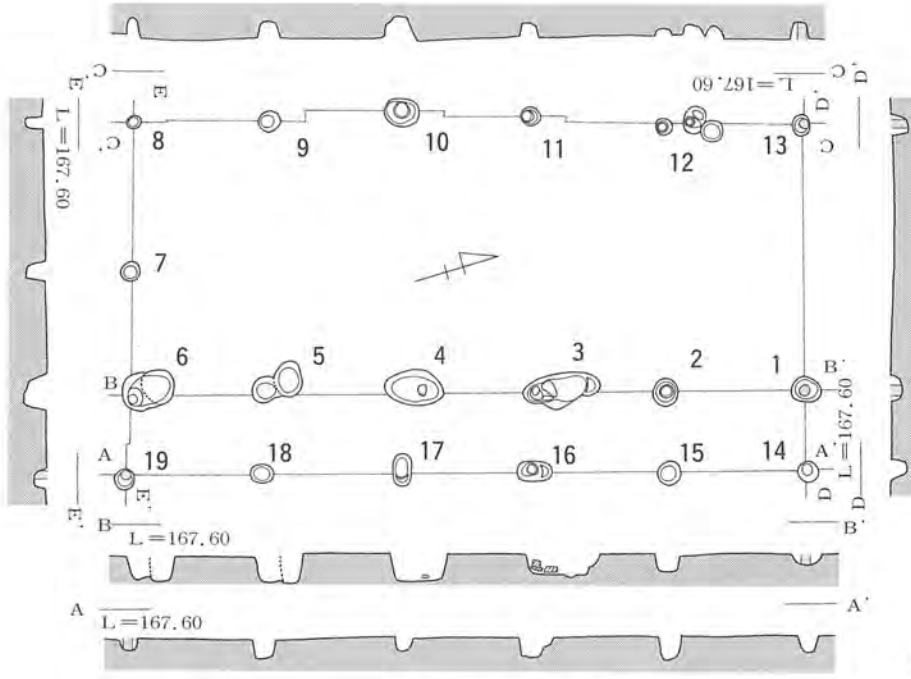
SB－6出土遺物(1/3)

第12図　SB－5・6実測図及びSB－6出土遺物



SB－7

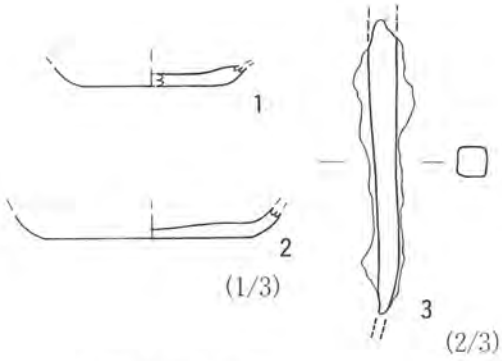
SB－7出土遺物(1/3)



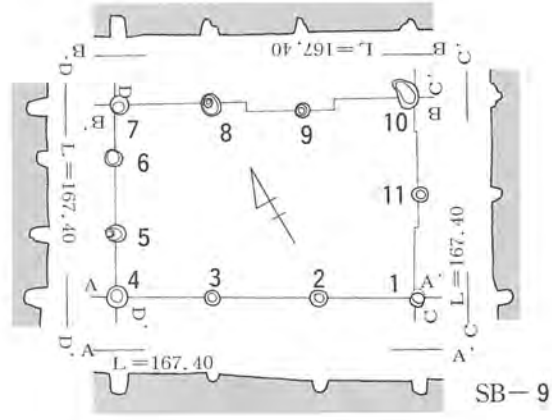
SB－8

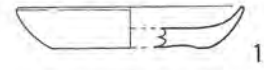
0　　4 m

第13図　SB－7・8実測図及びSB－7出土遺物

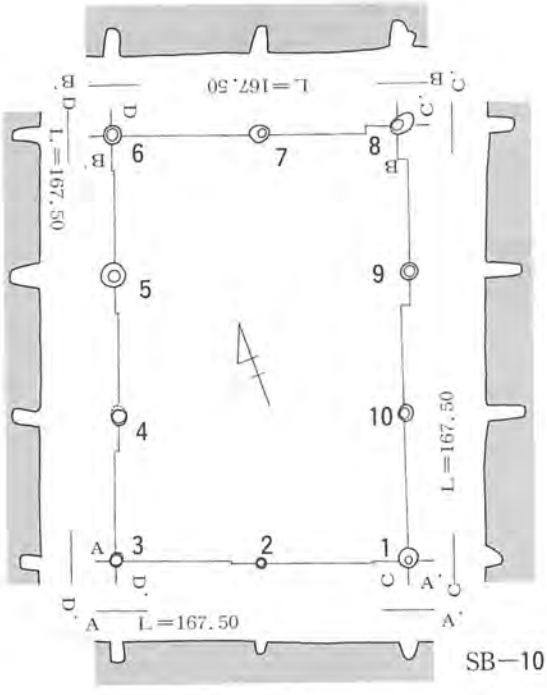


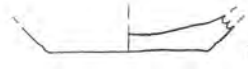
SB－8出土遺物



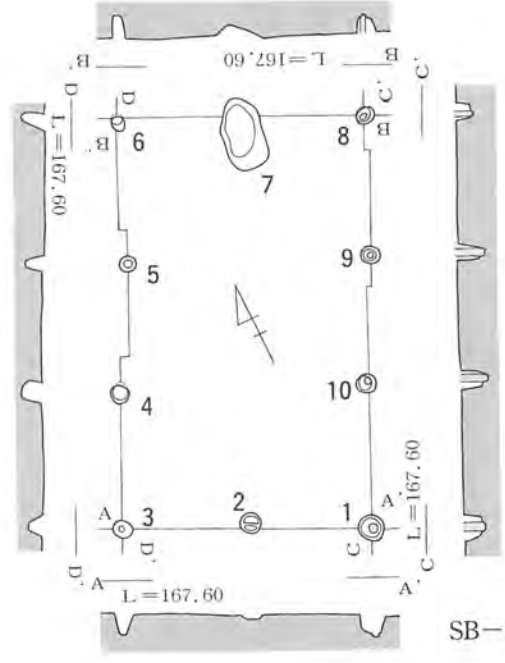


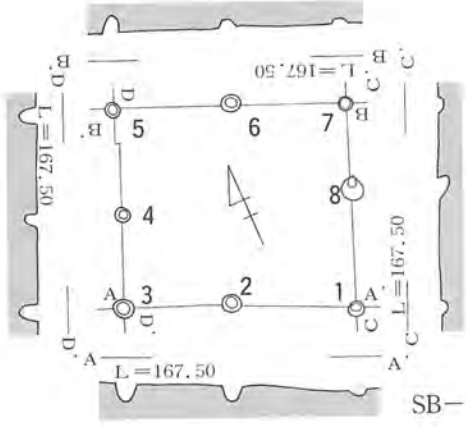
SB－9出土遺物(1/3)



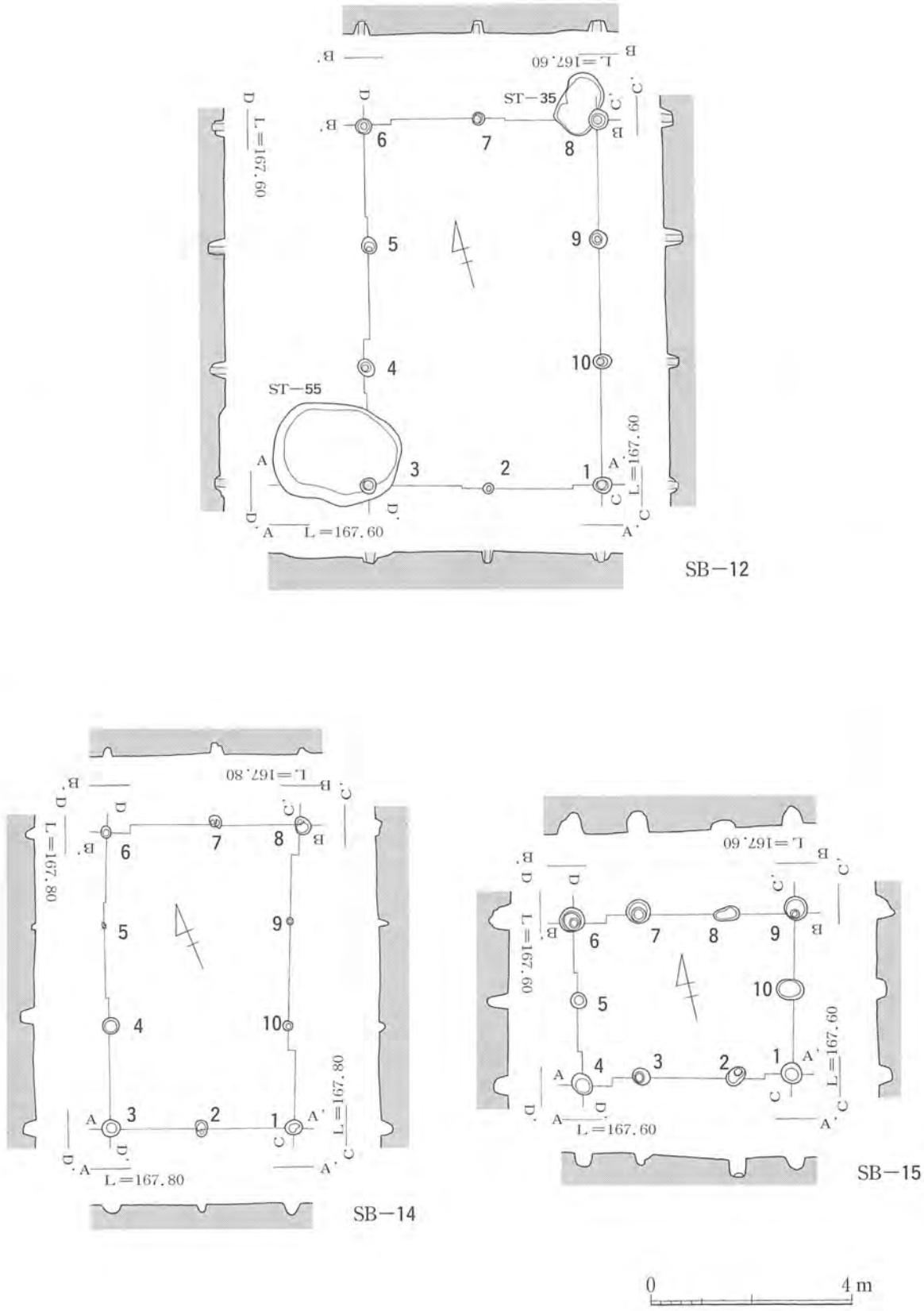


SB－10出土遺物(1/3)

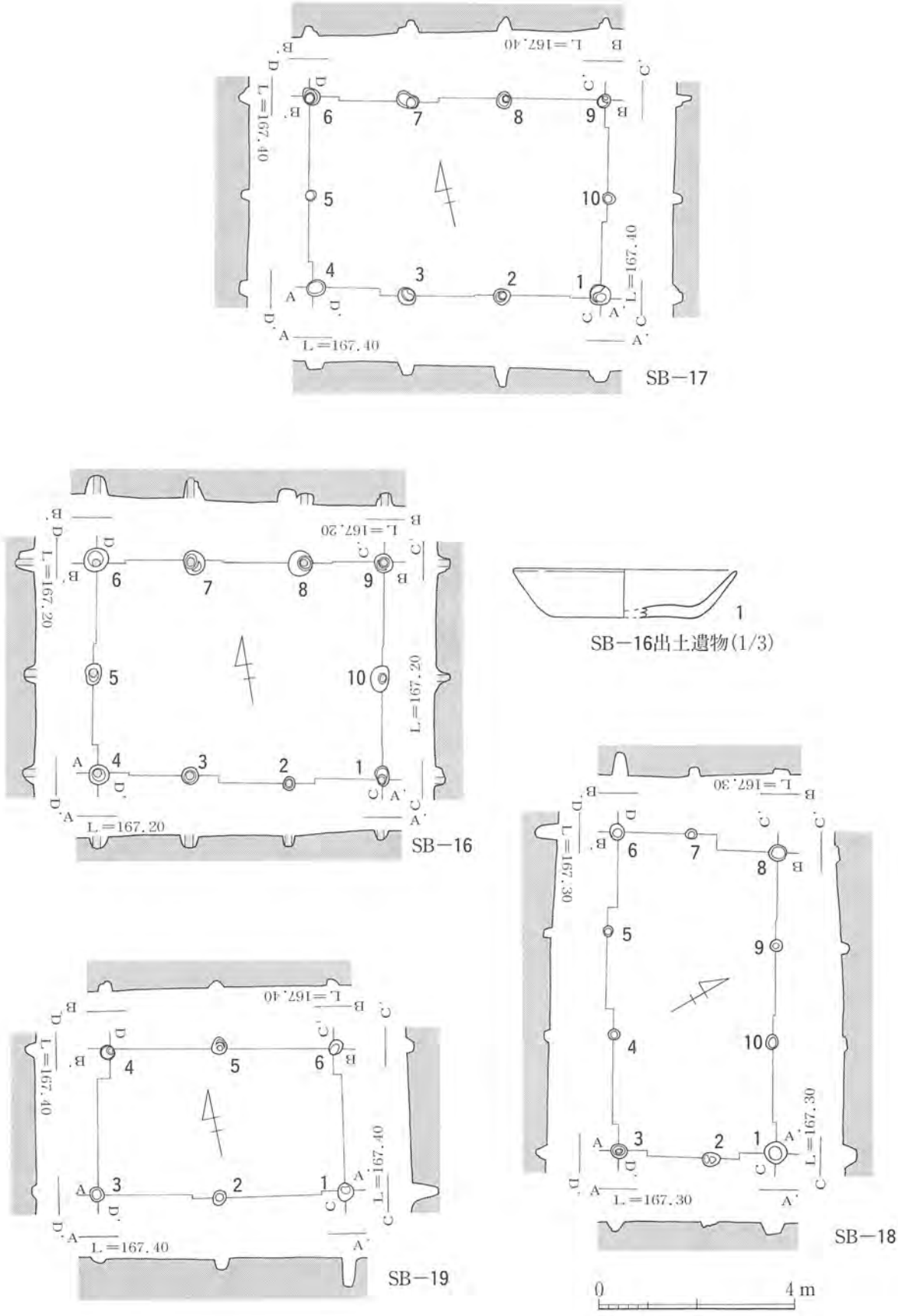




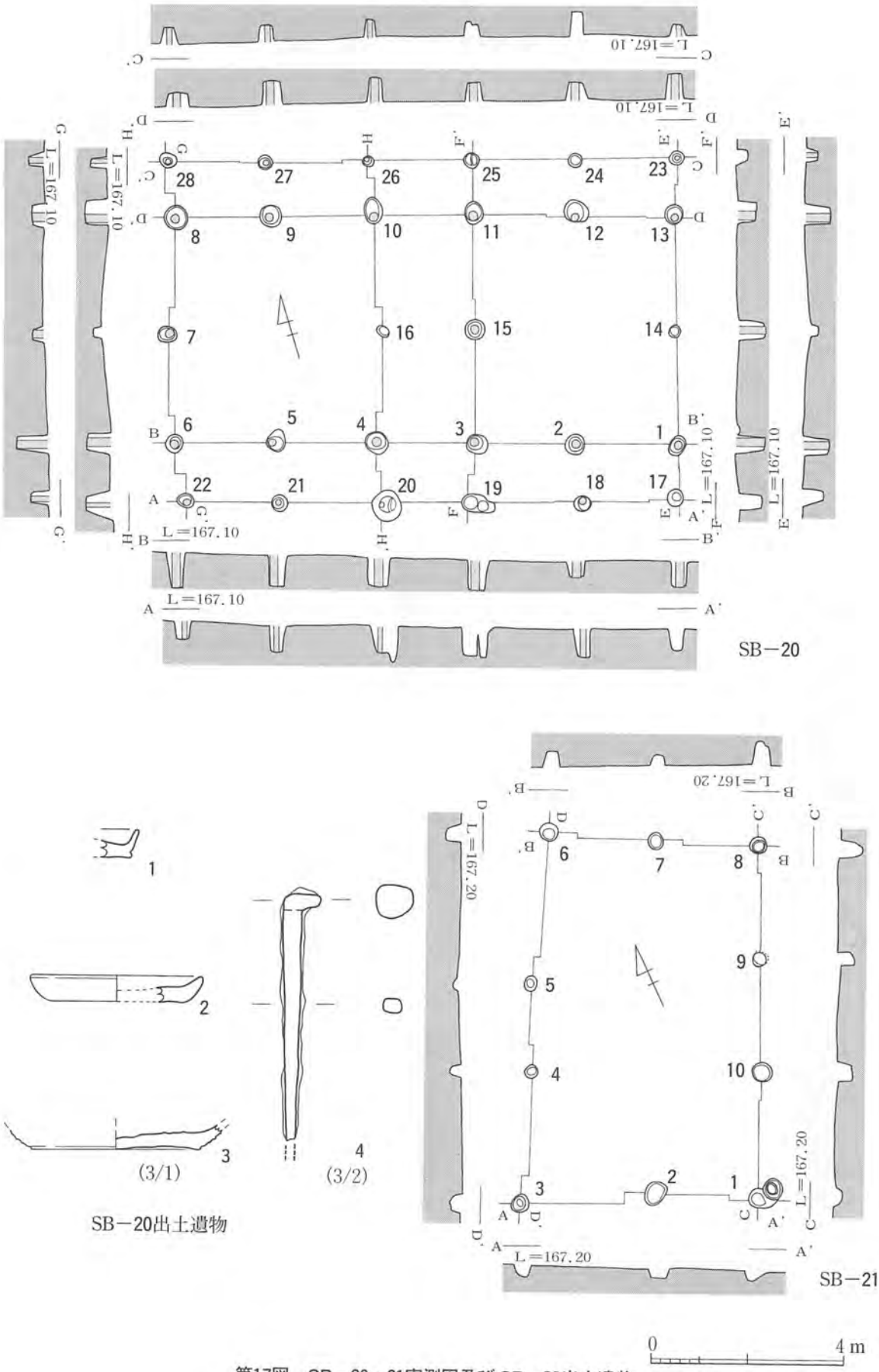
第14図　SB－9・10・11・13実測図及びSB－8・9・10出土遺物



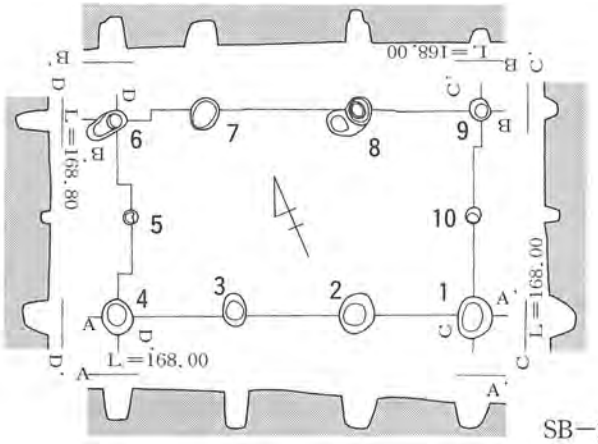
第15図　SB－12・14・15実測図

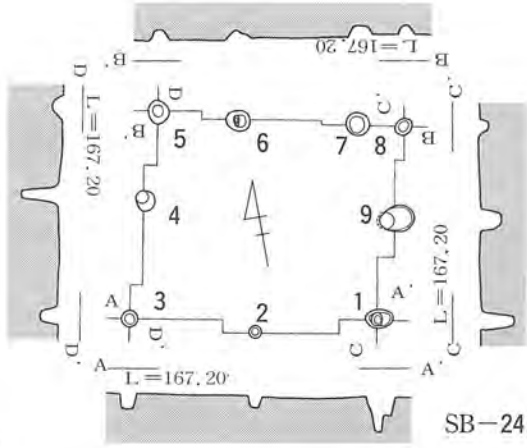


第16図　SB－16・17・18・19実測図及びSB－16出土遺物

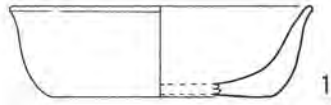


第17図　SB－20・21実測図及びSB－20出土遺物

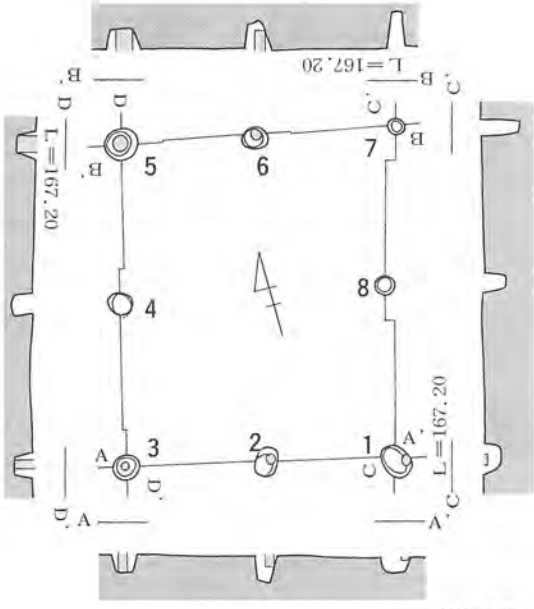


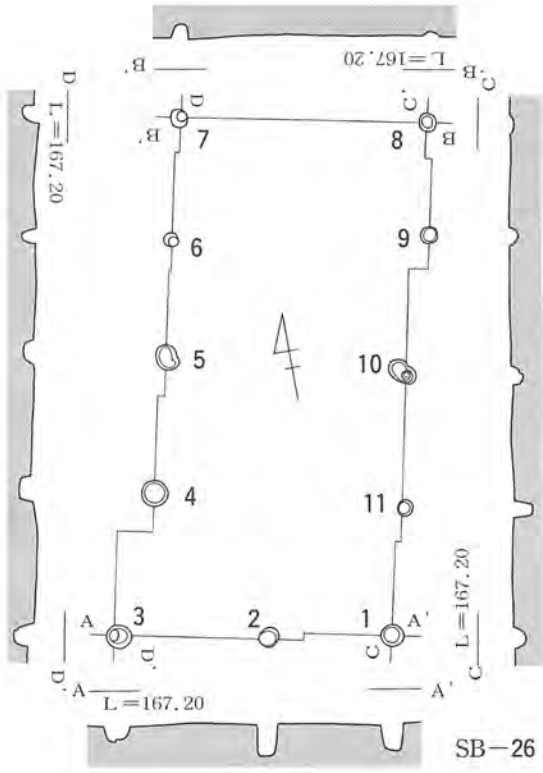


SB－22出土遺物(1/3)

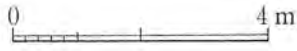


SB－24出土遺物(1/3)

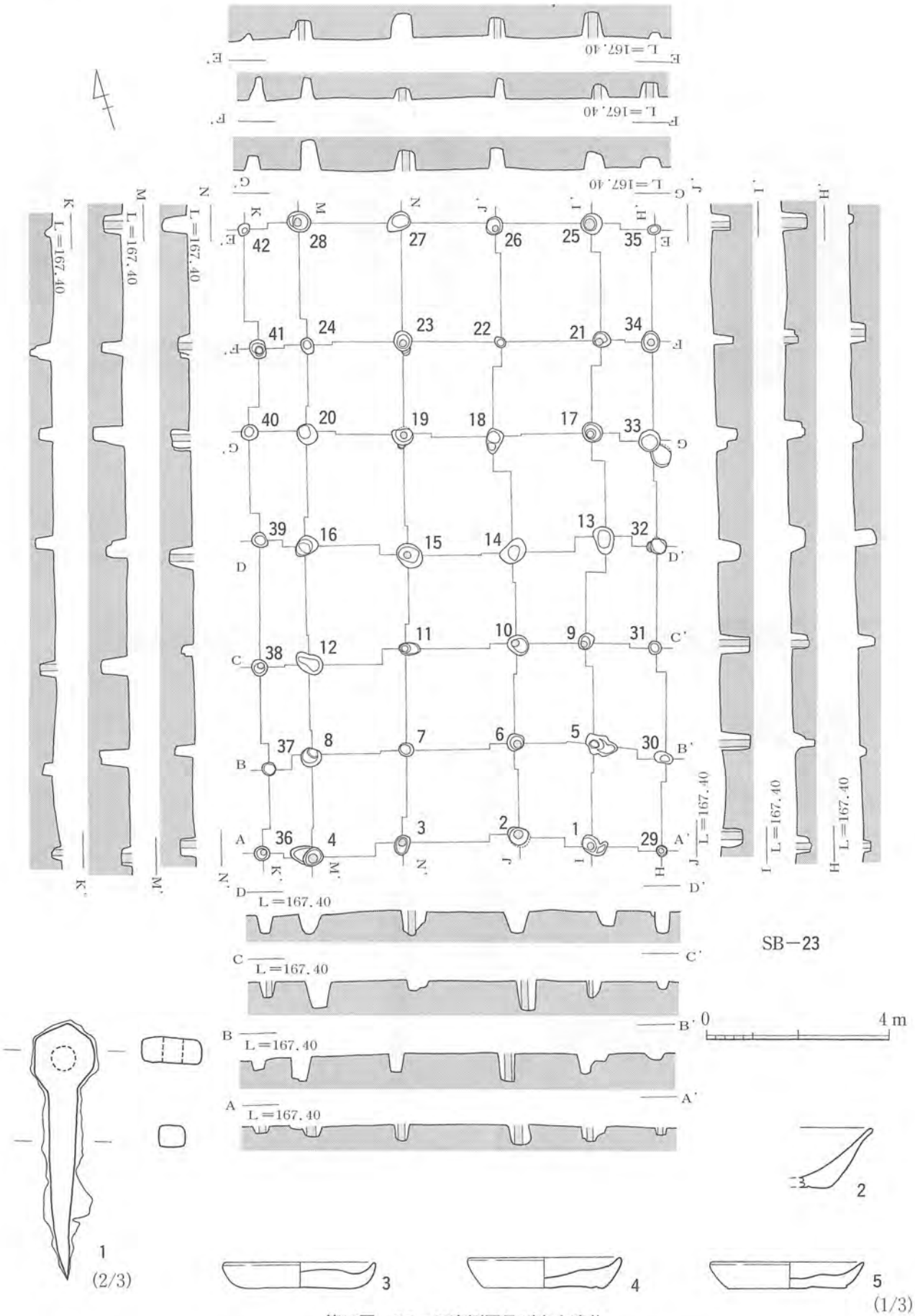




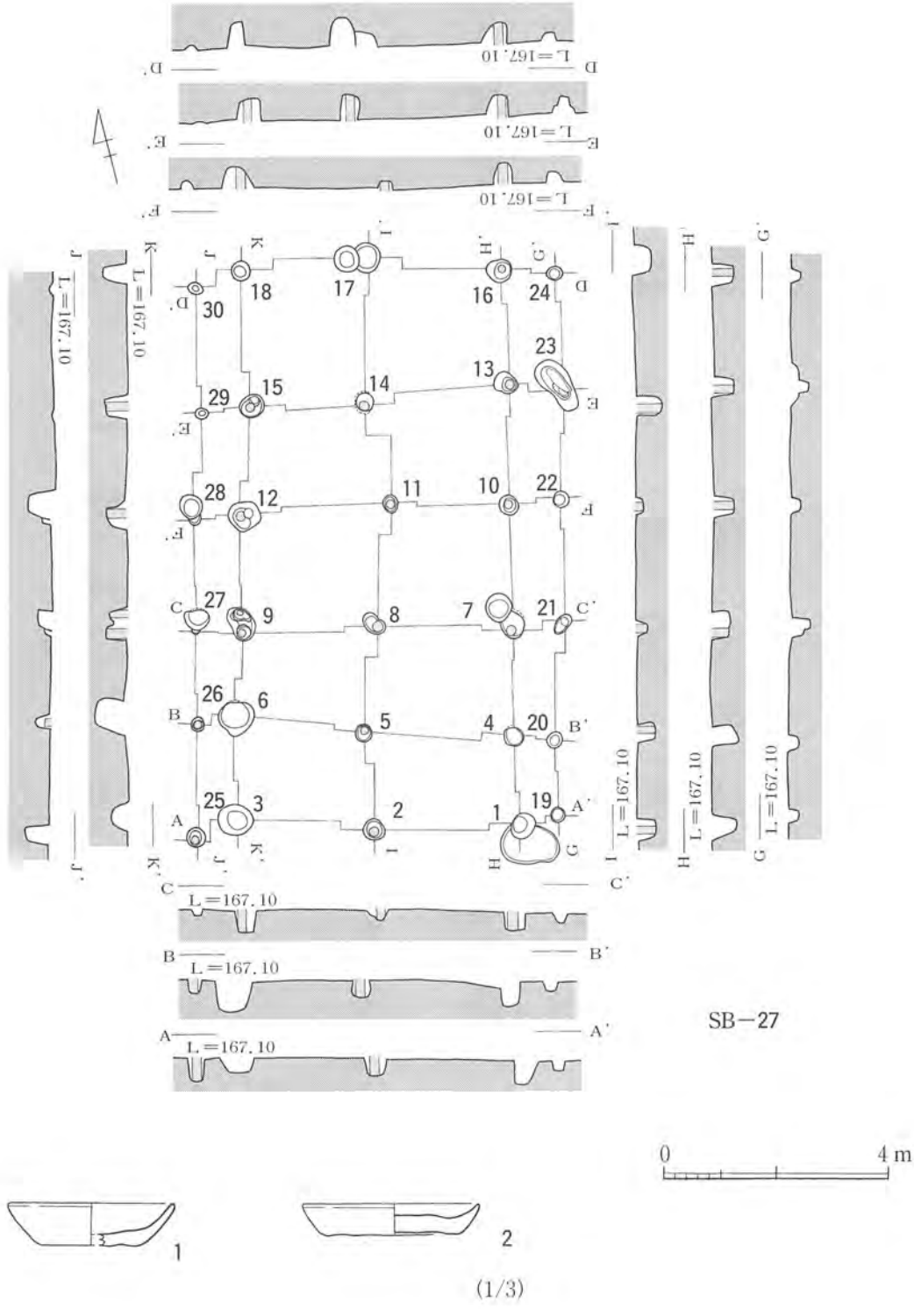
SB－25出土遺物(1/3)



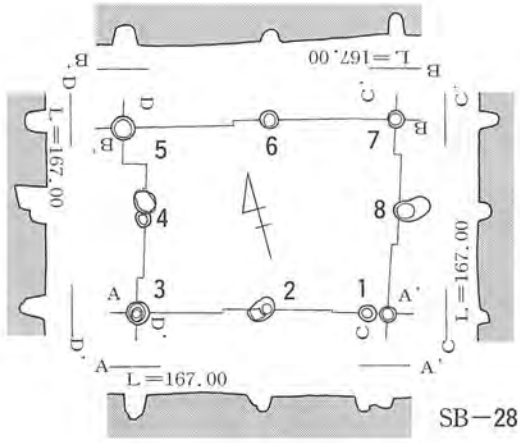
第18図　SB－22・24・25・26実測図及びSB－22・24・25出土遺物



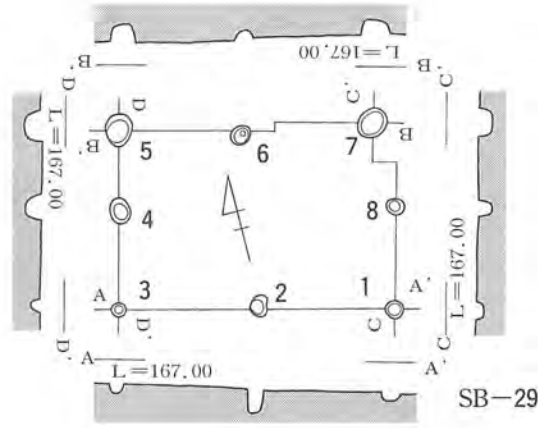
第19図　SB－23実測図及び出土遺物



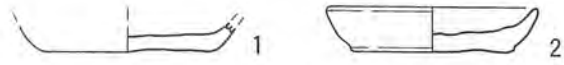
第20図　SB－27実測図及び出土遺物



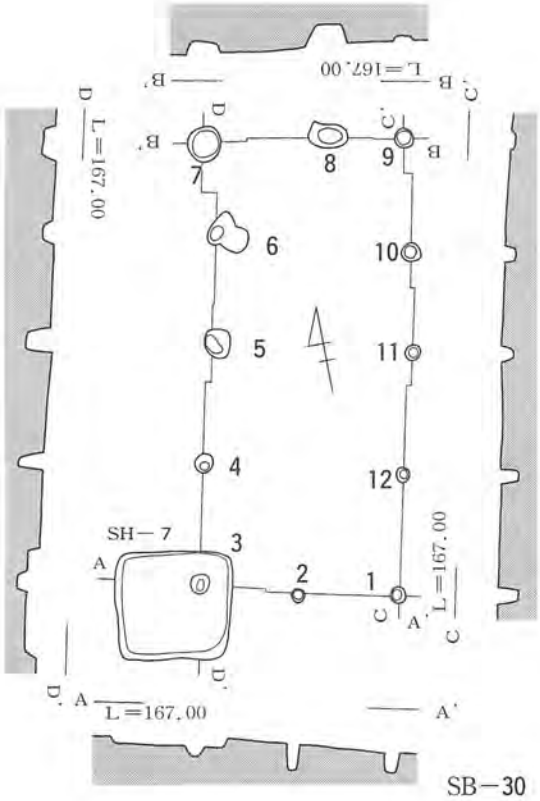
SB－28



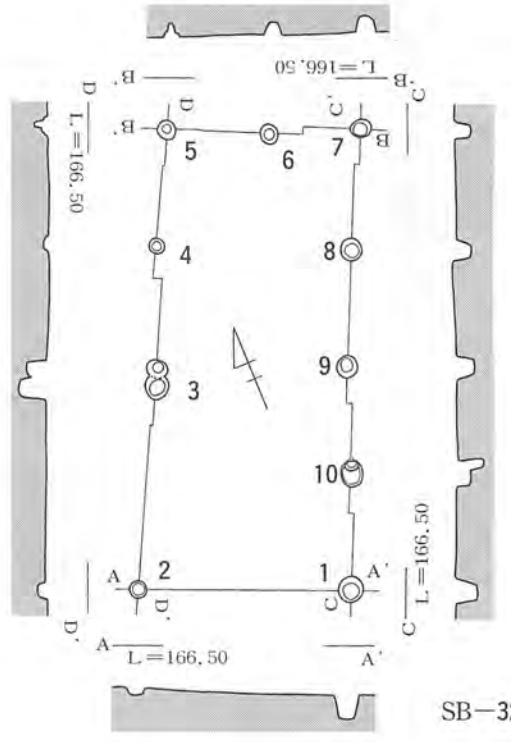
SB－29



SB－29出土遺物(1/3)

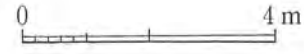


SB－30

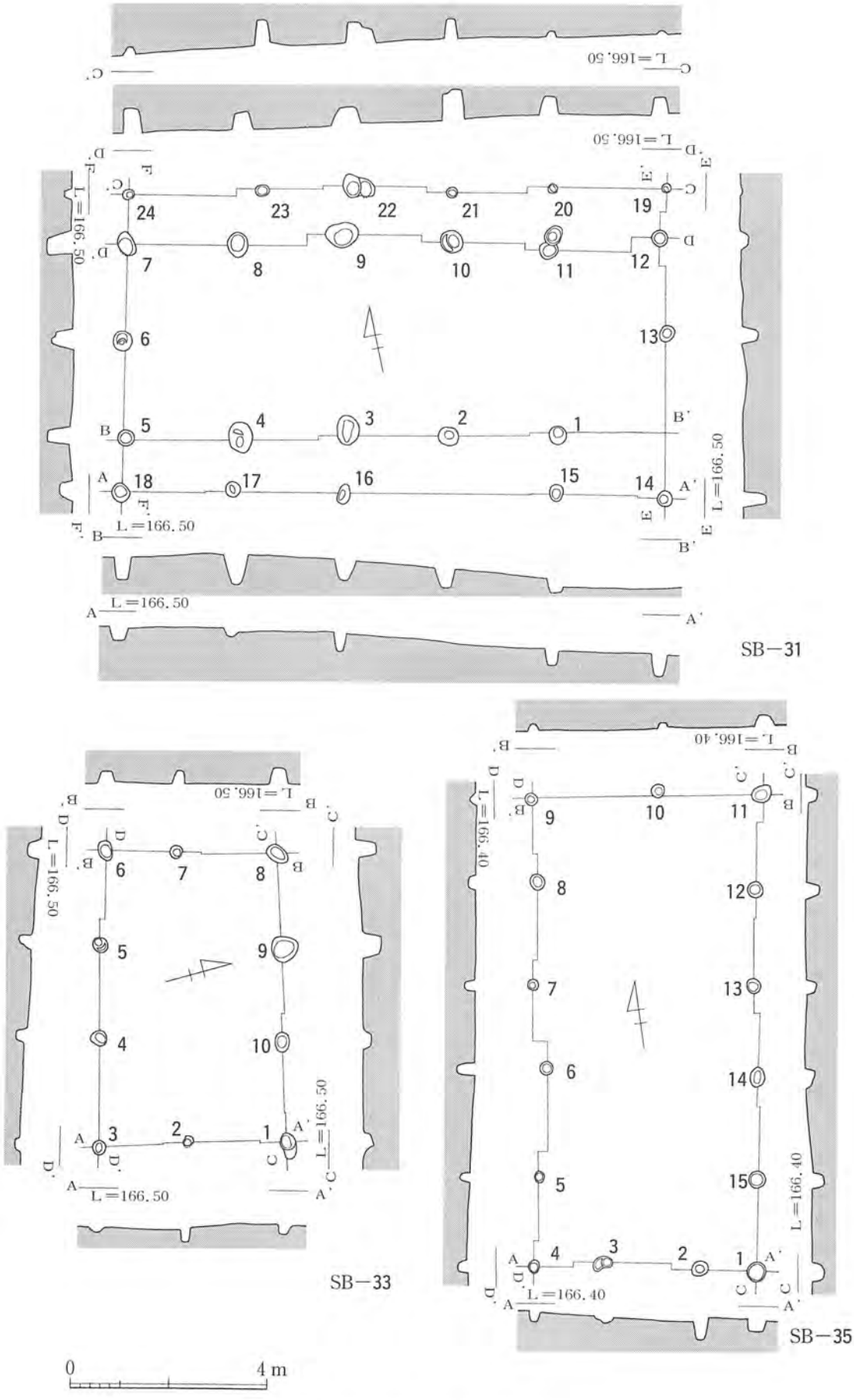


SB－32

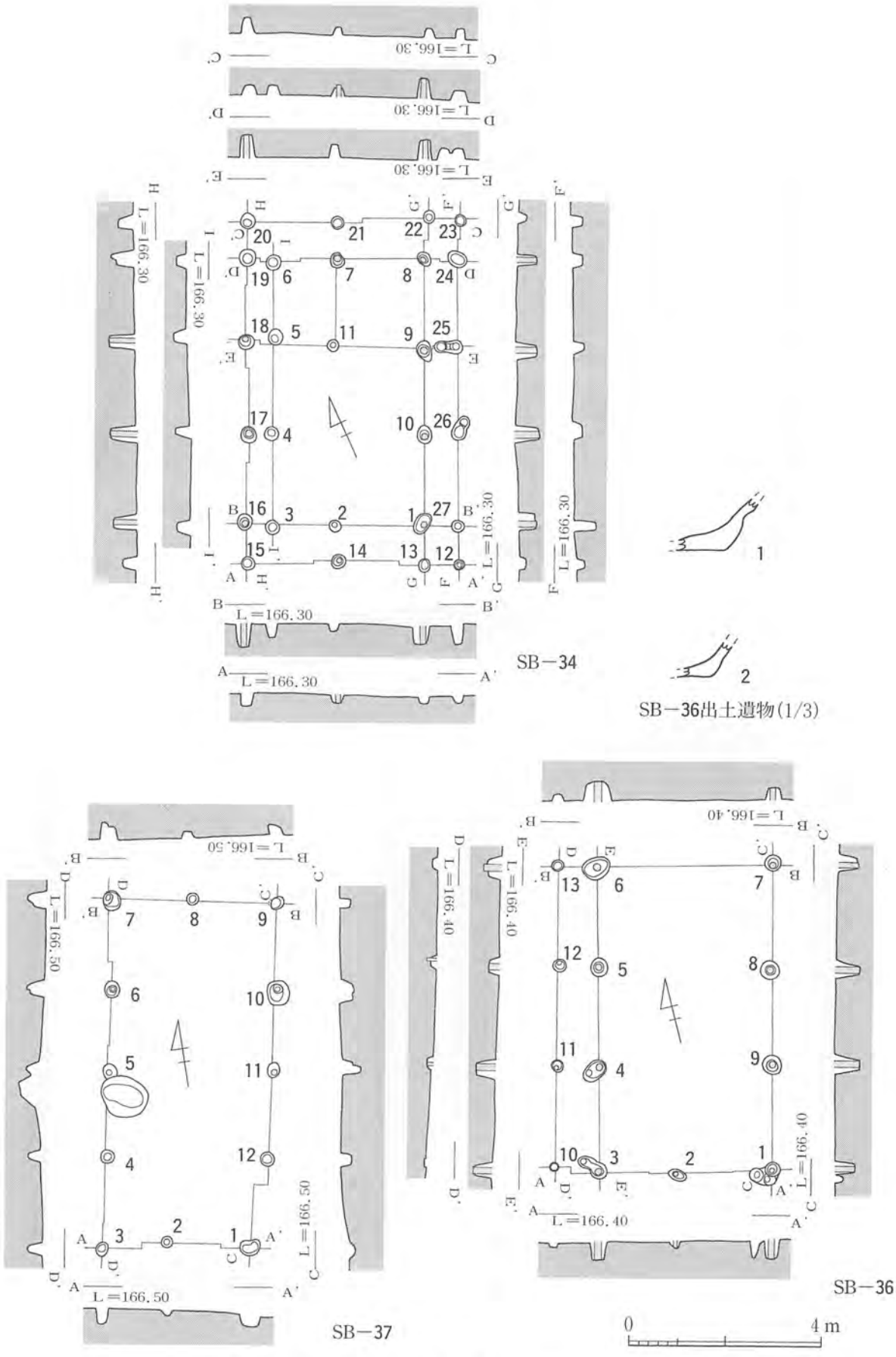
SB－30出土遺物(1/3)



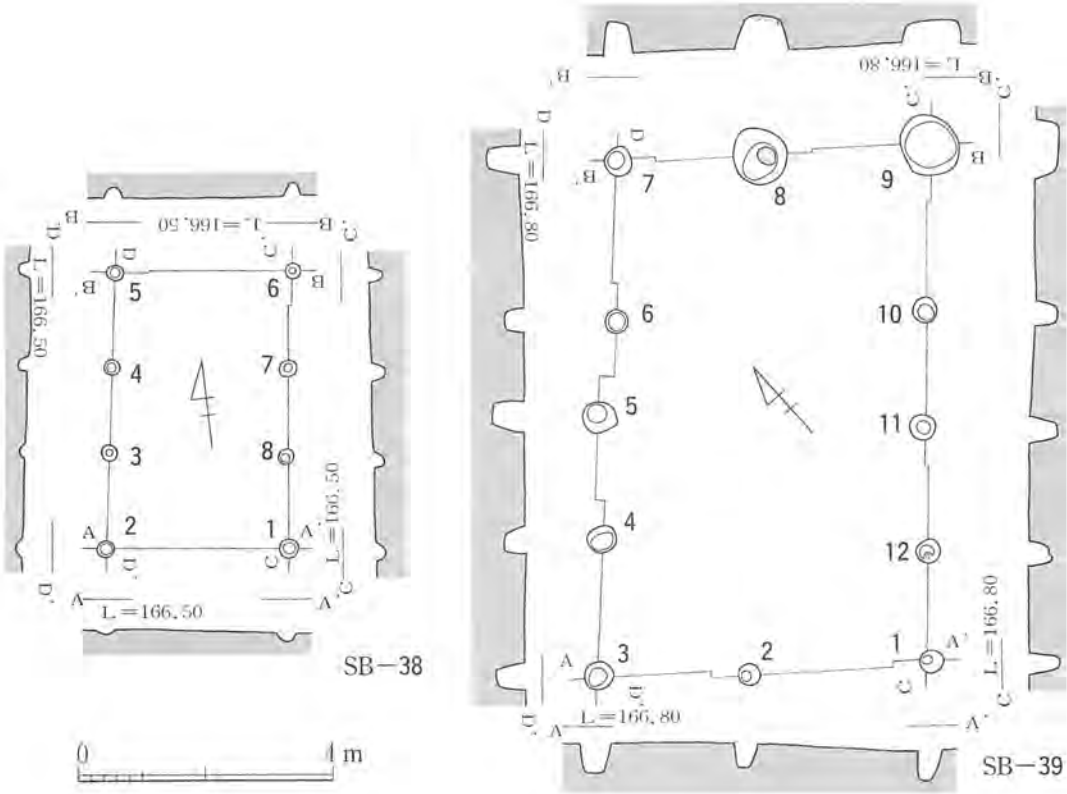
第21図　SB－28・29・30・32実測図及びSB－29・30出土遺物

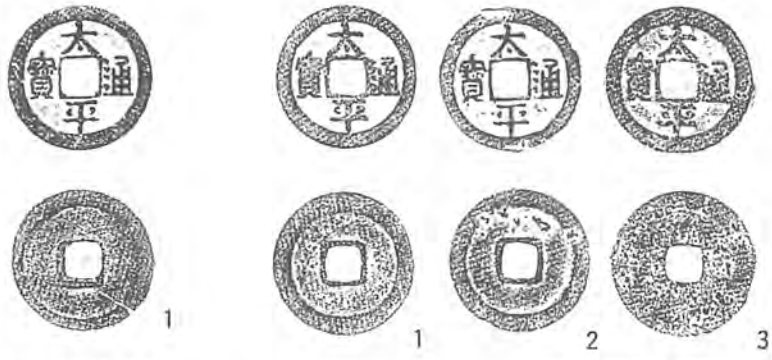


第22図　SB－31・33・35実測図



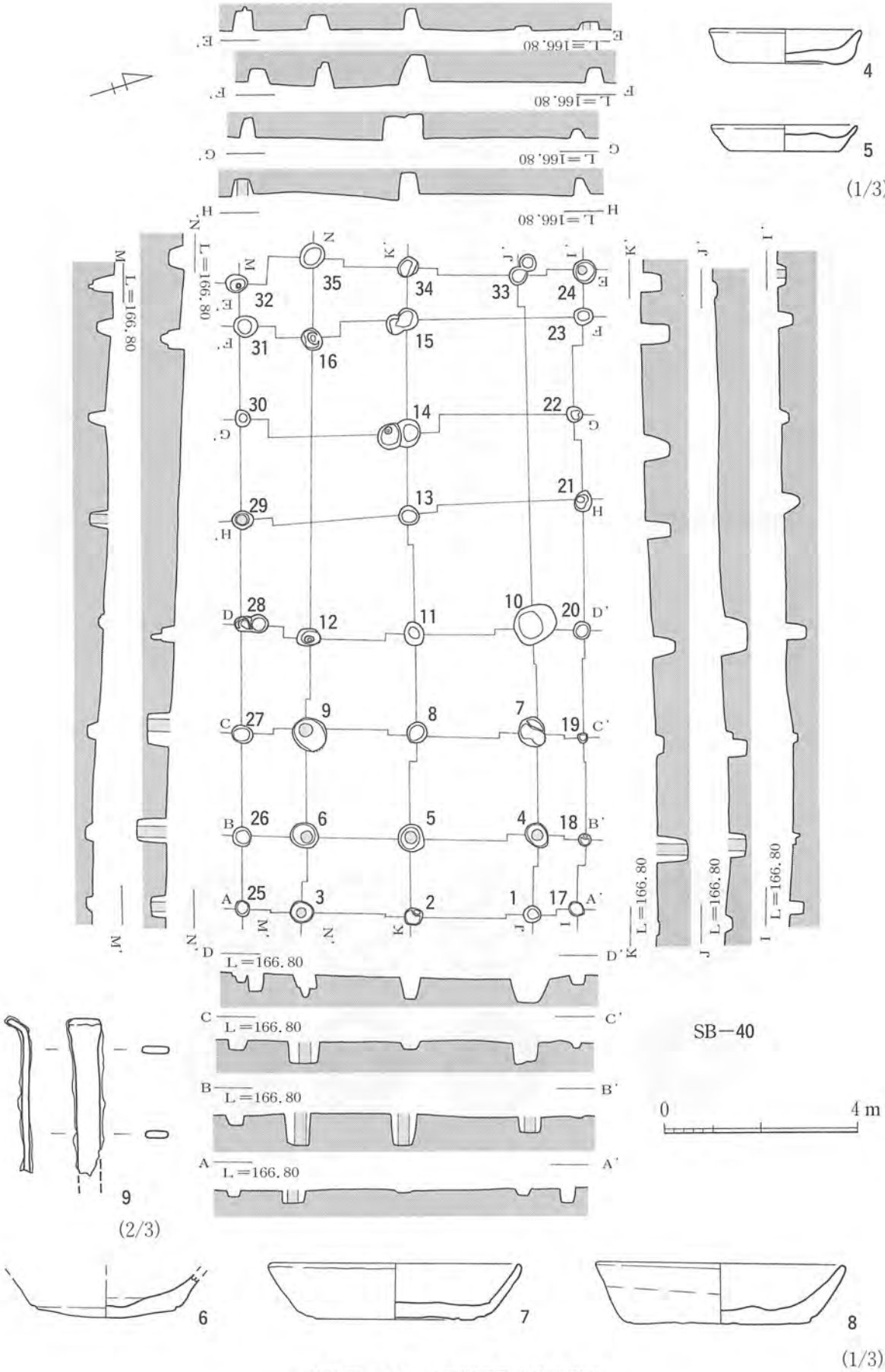
第23図　SB－34・36・37実測図及びSB－36出土遺物



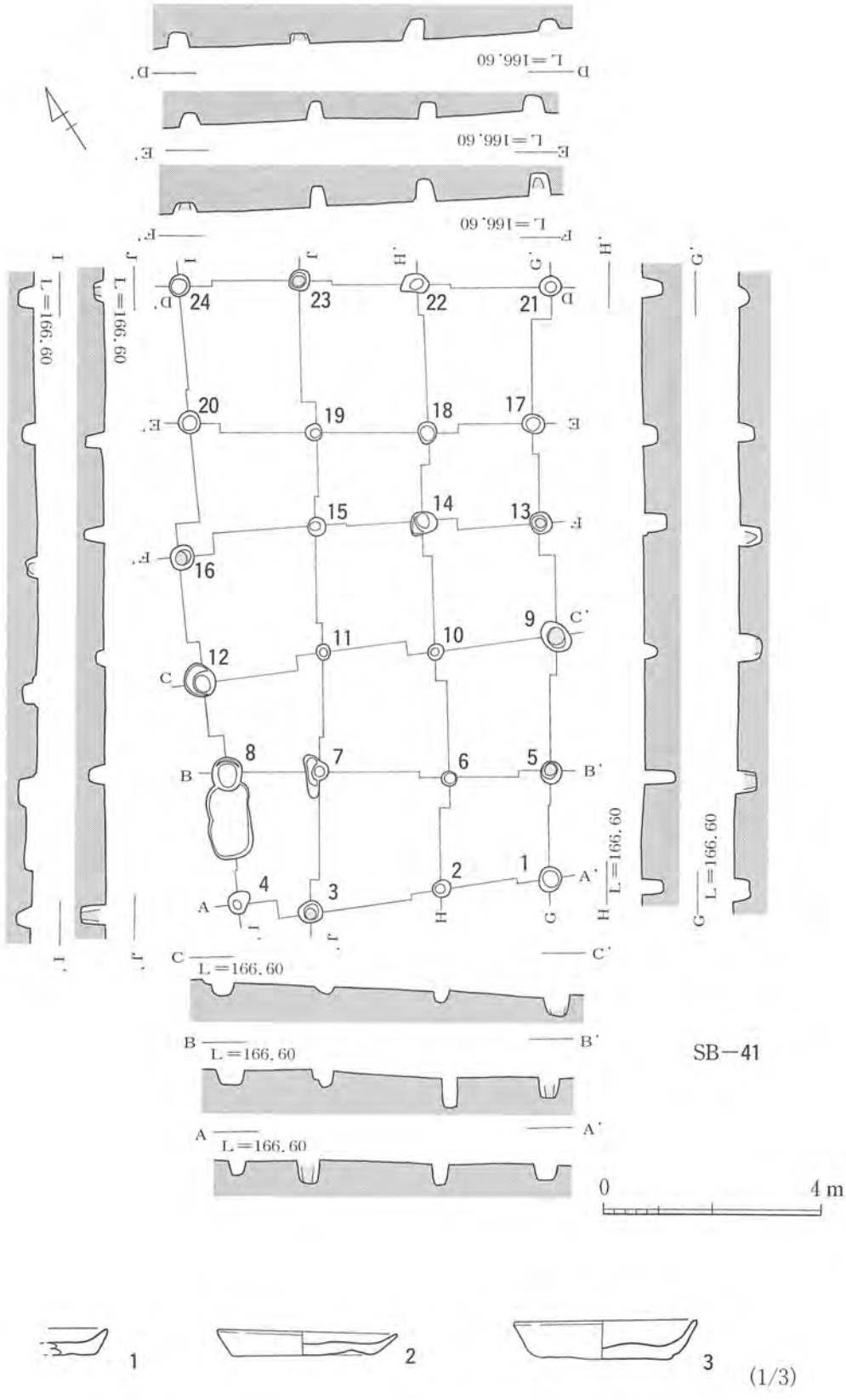


SB－39出土遺物　　SB－40出土遺物　(2/3)

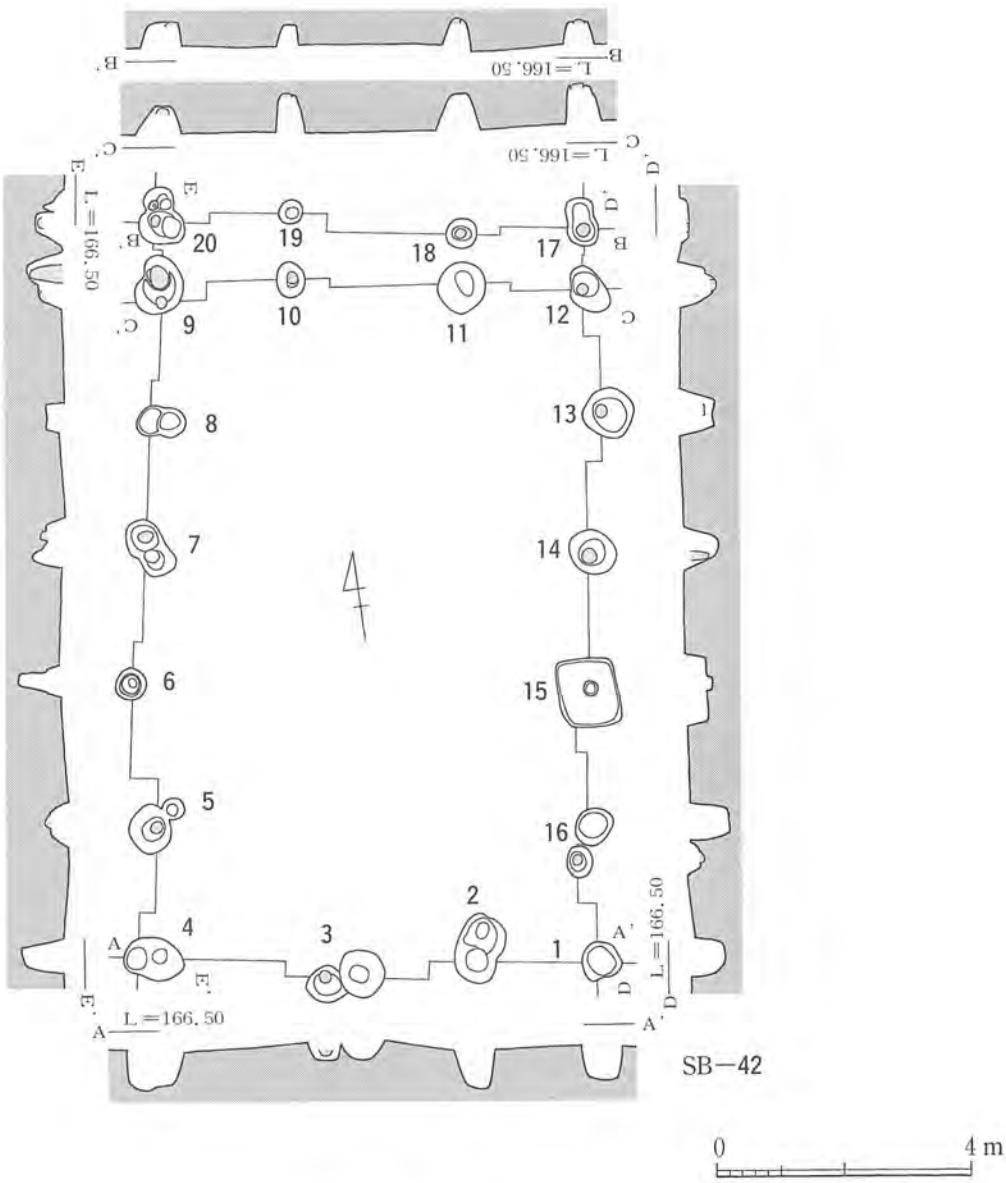
第24図　SB－38・39実測図及びSB－39・40出土遺物

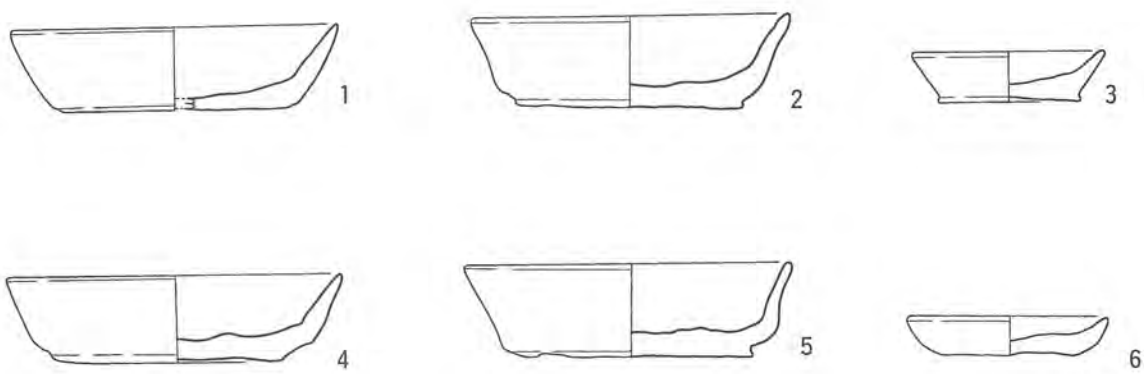


第25図　SB－40実測図及び出土遺物

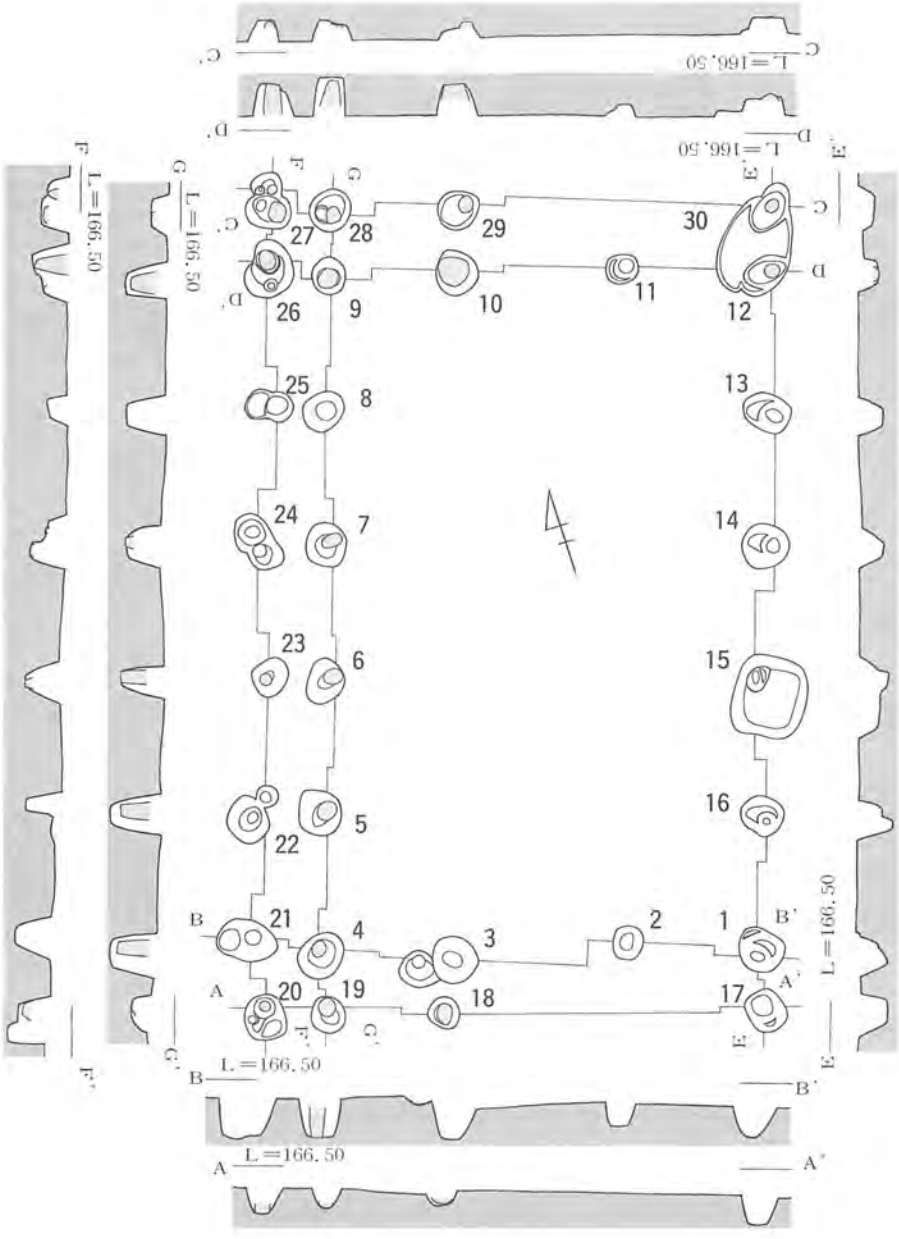


第26図　SB－41実測図及び出土遺物

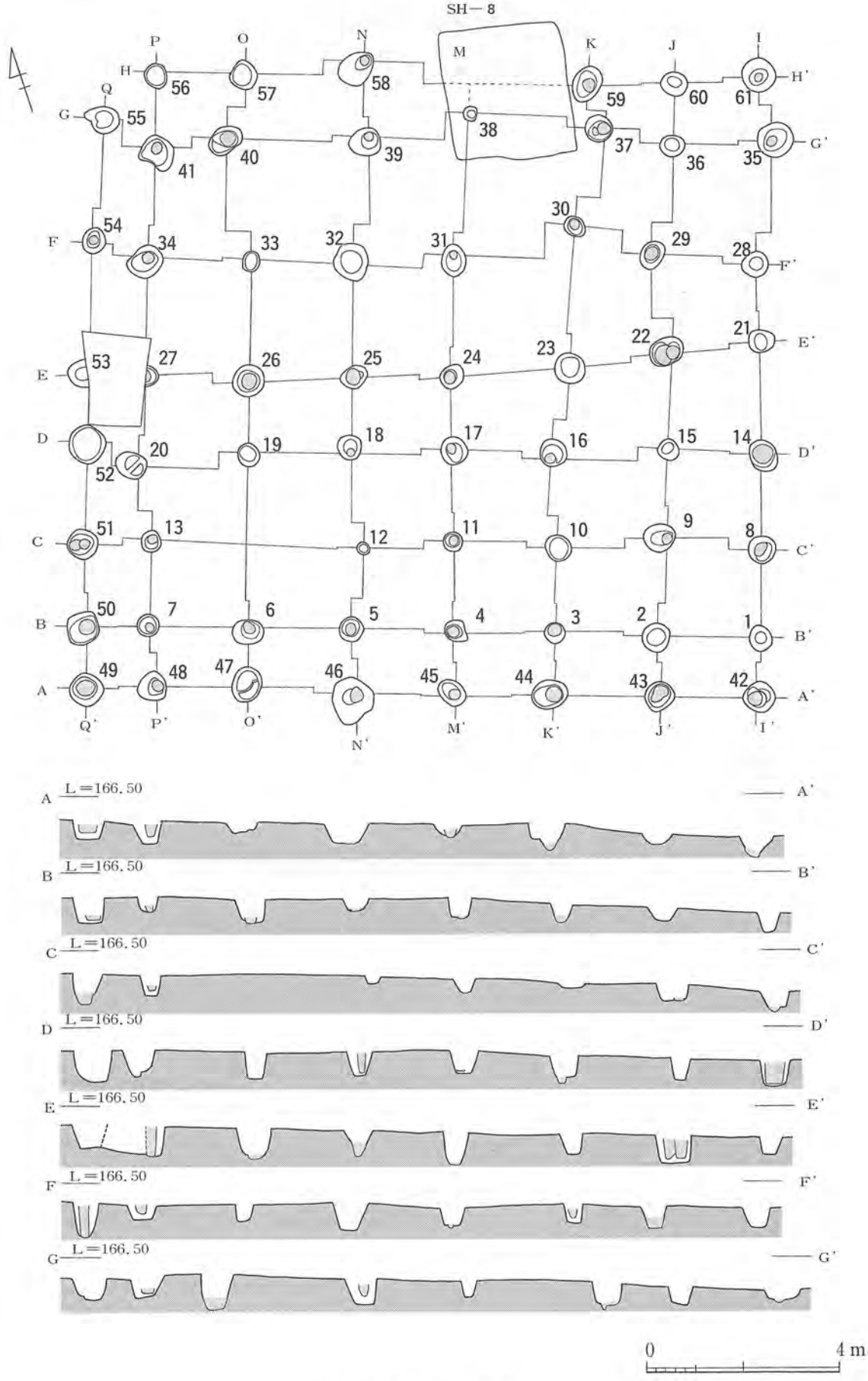




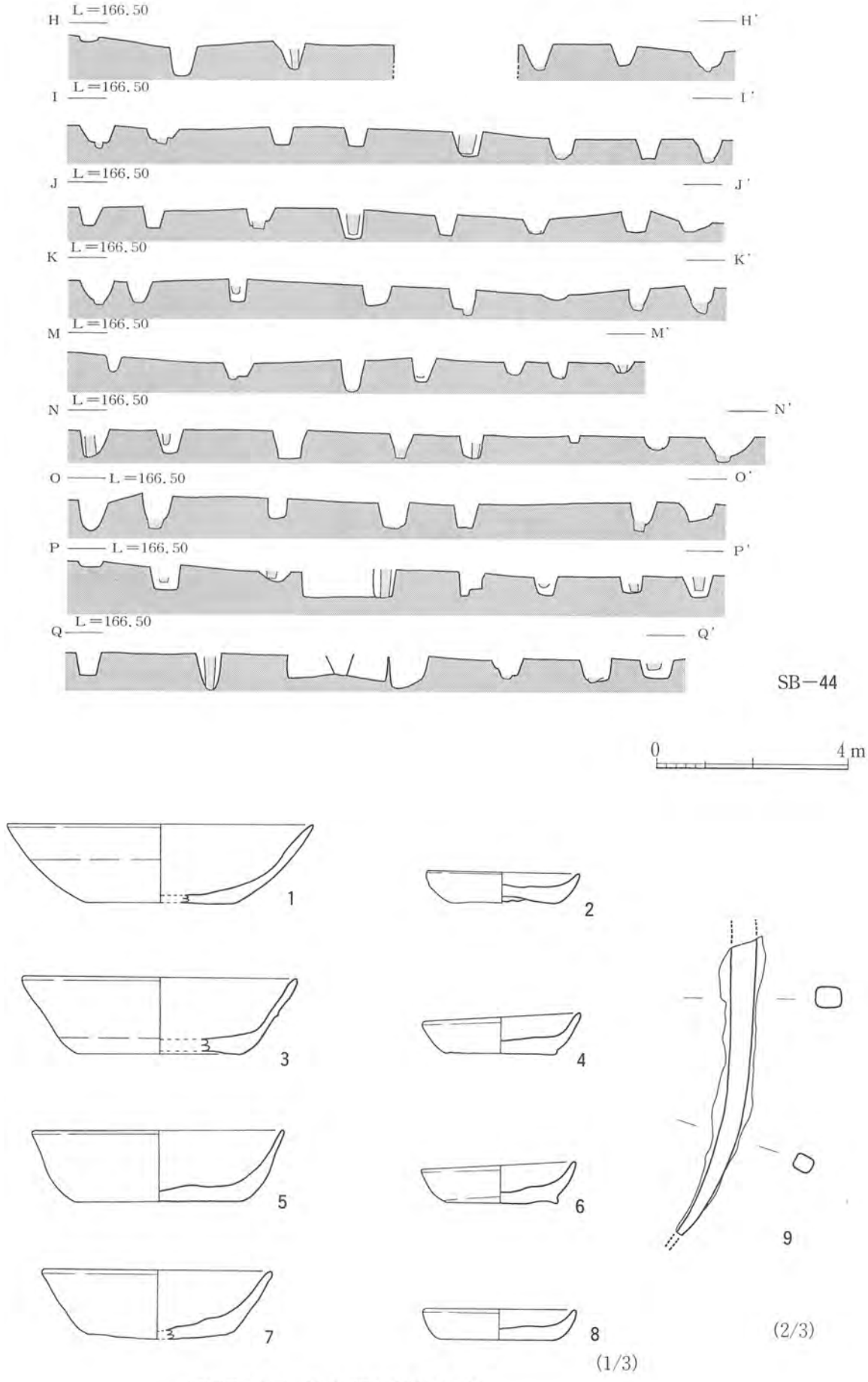
第27図　SB－42実測図及び出土遺物



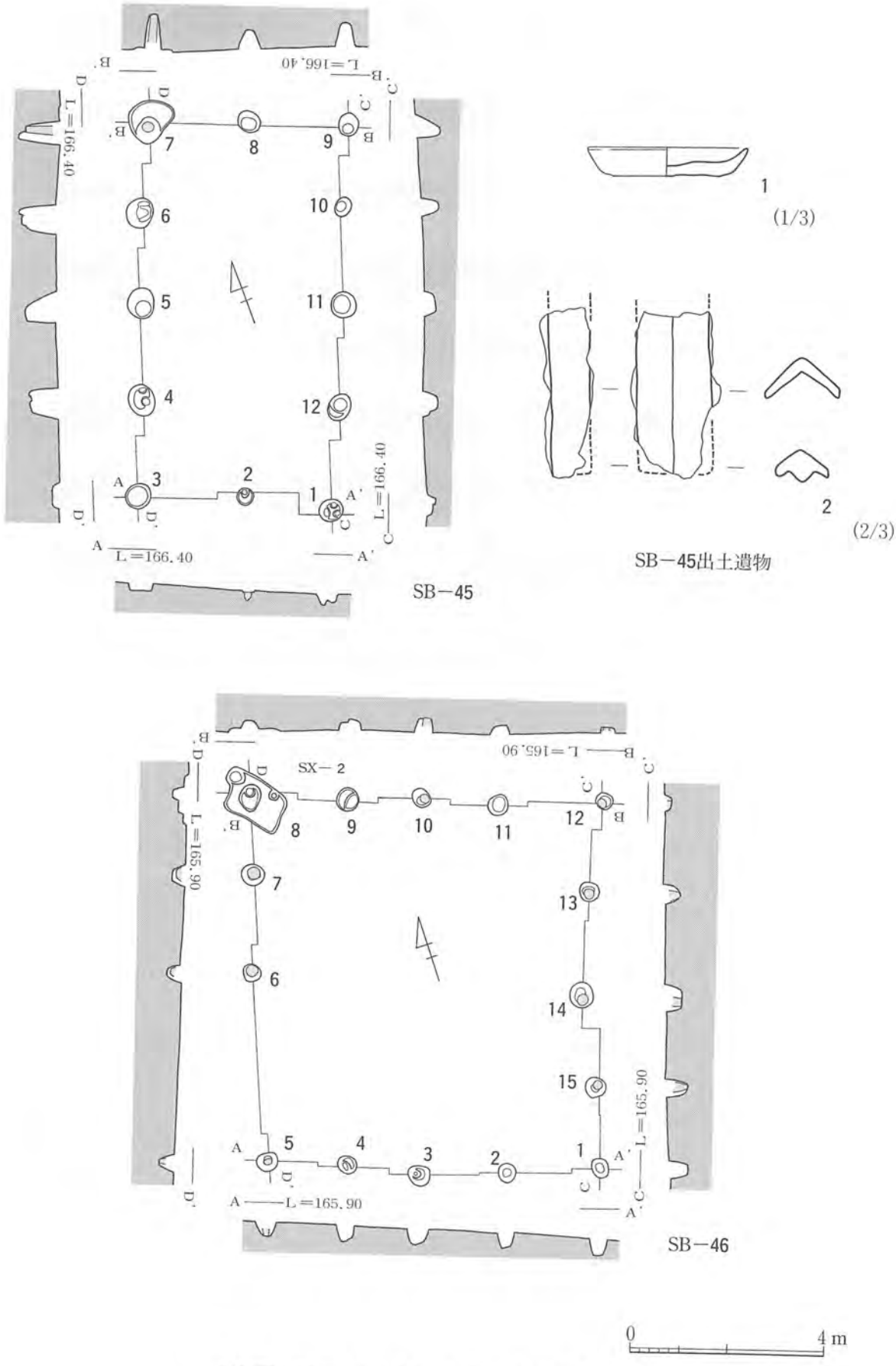
第28図　SB－43実測図及び出土遺物



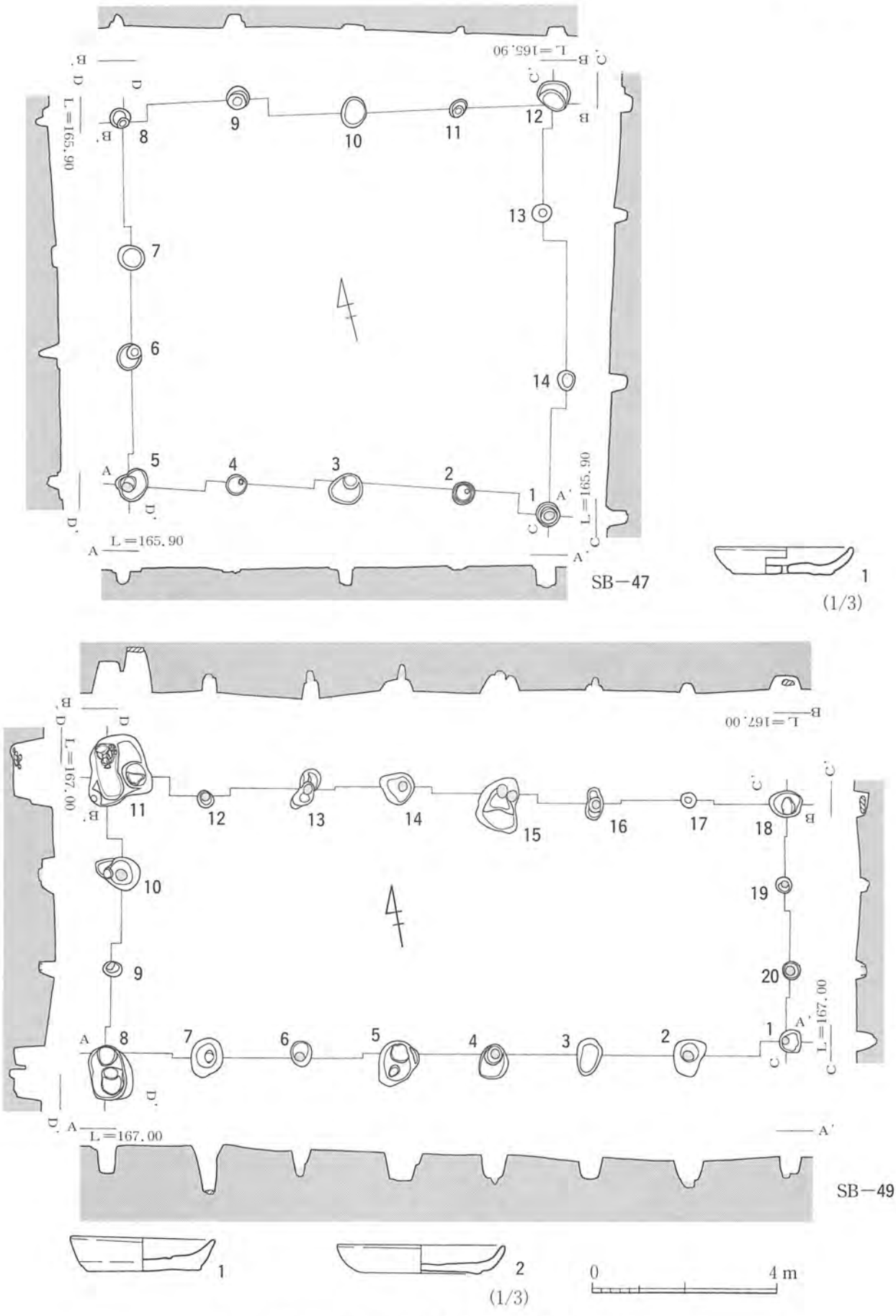
第29図　SB－44実測図



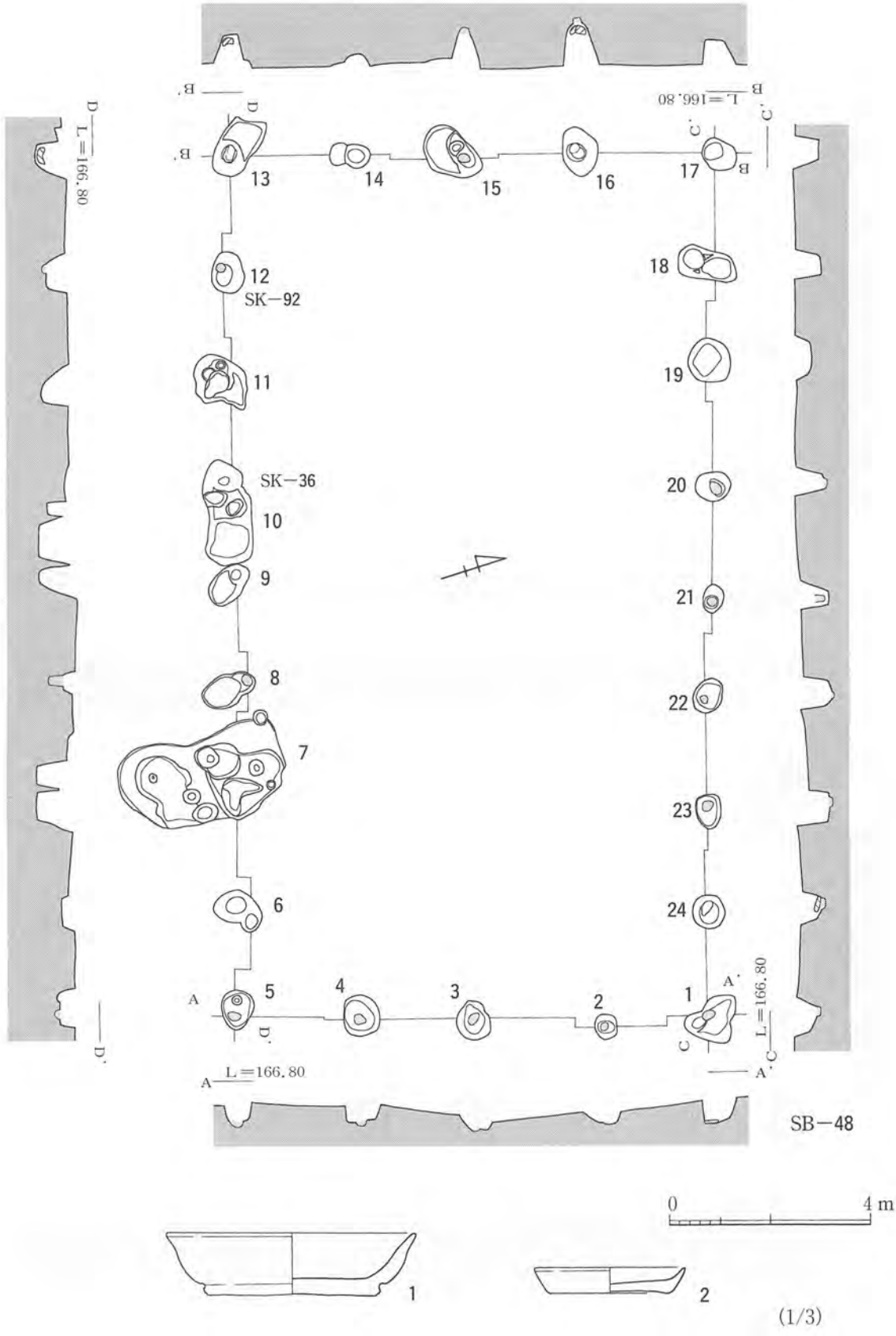
第30図　SB－44実測図及び出土遺物



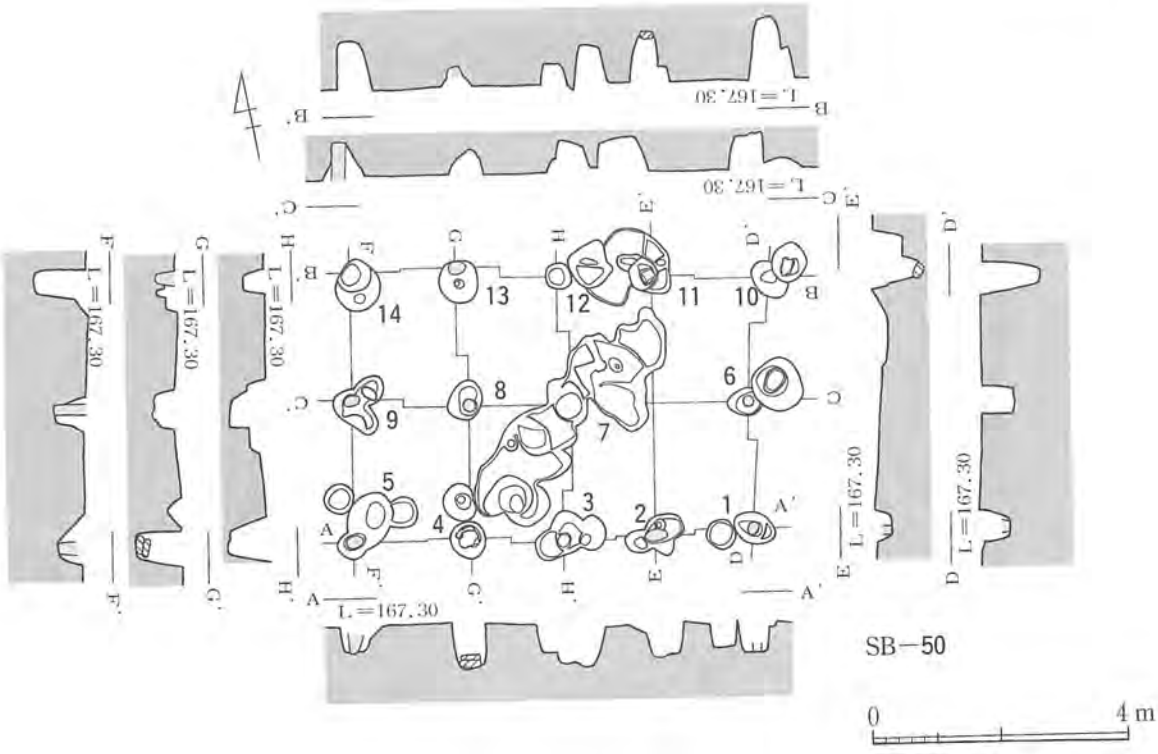
第31図　SB－45・46実測図及びSB－45出土遺物

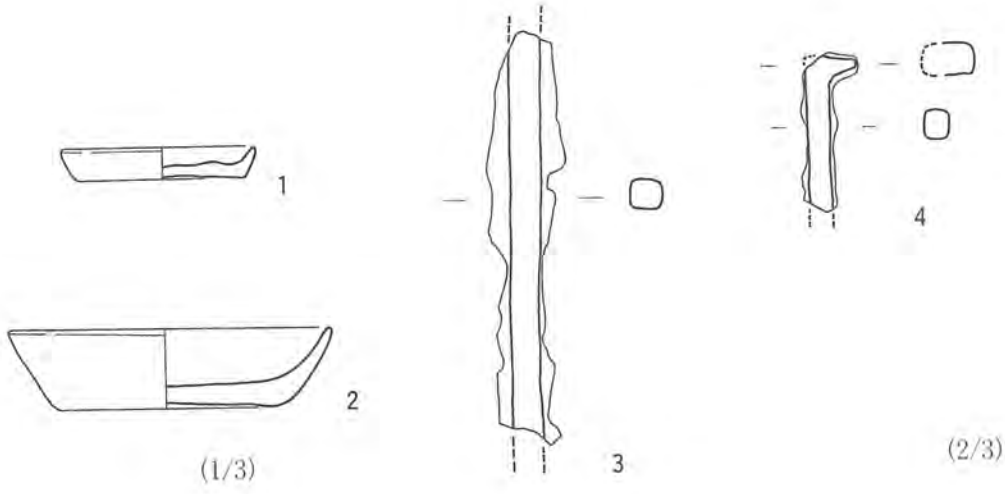


第32図　SB－47・49実測図及び出土遺物



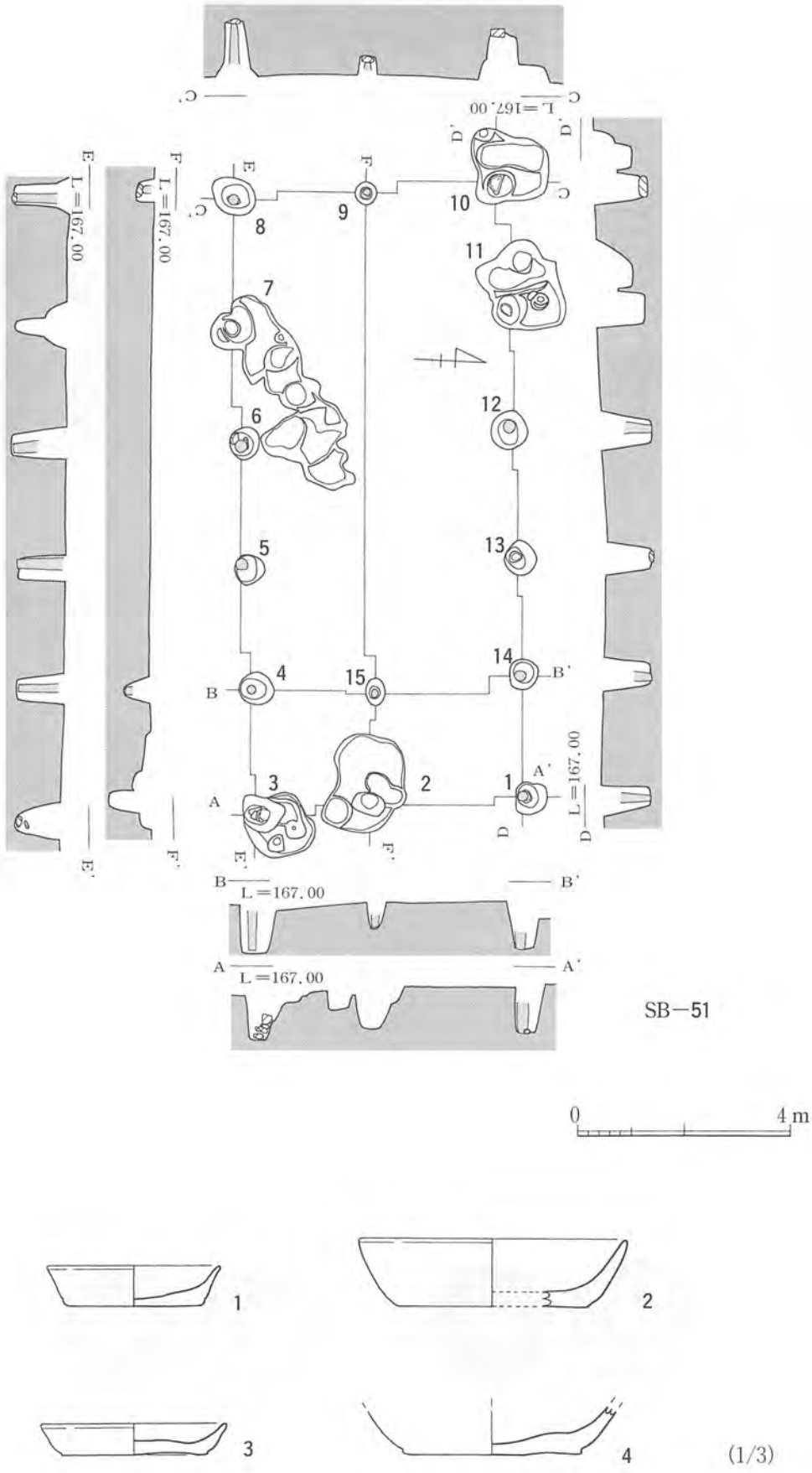
第33図　SB－48実測図及び出土遺物



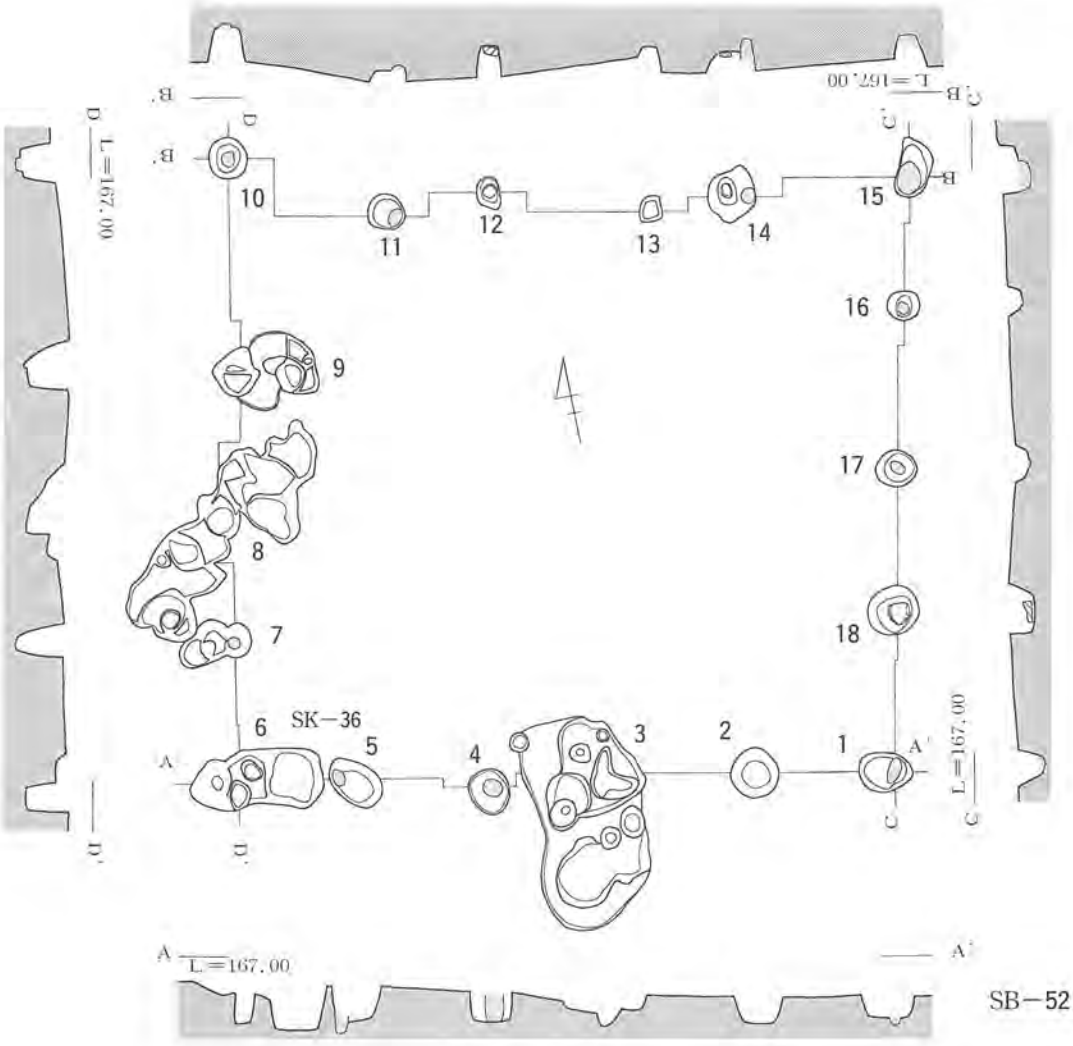


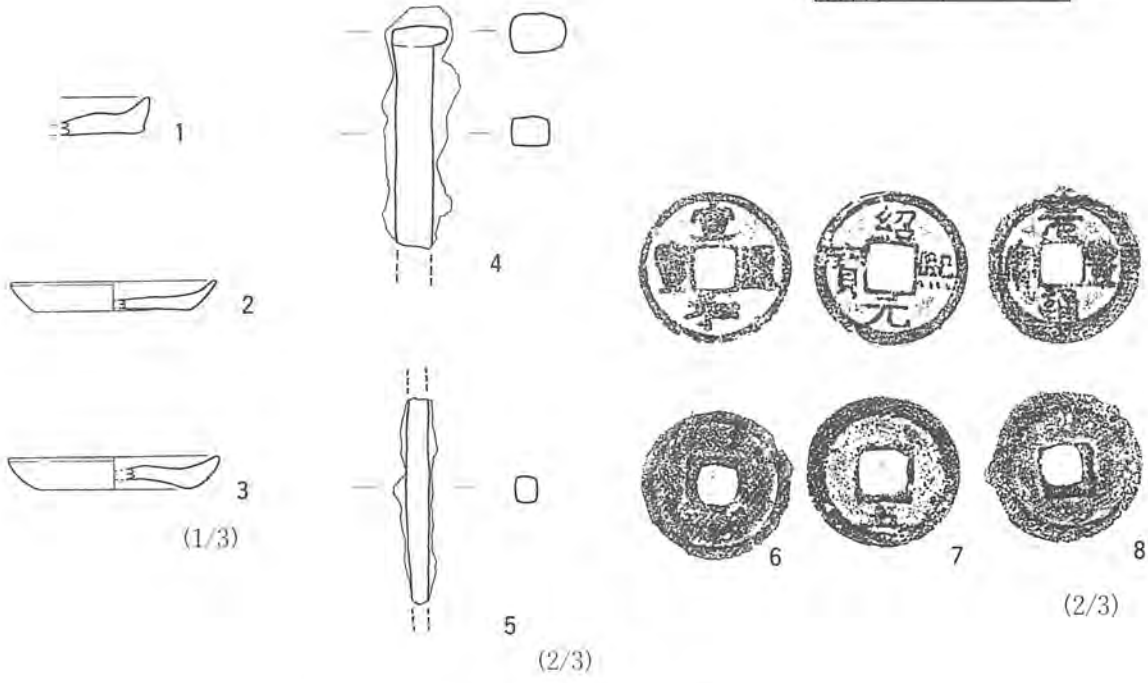
出土古銭　(2/3)

第34図　SB－50実測図及び出土遺物

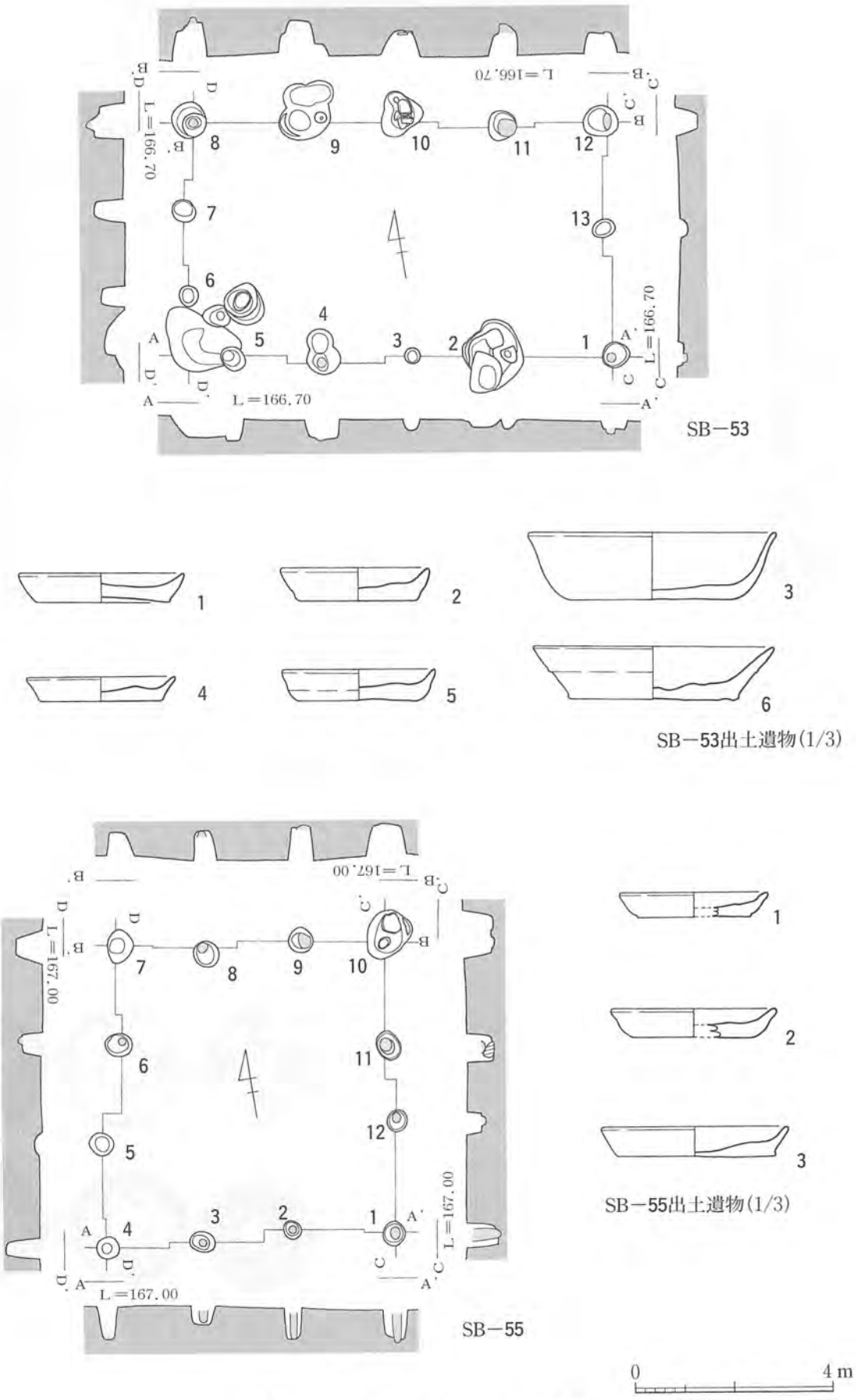


第35図　SB－51実測図及び出土遺物

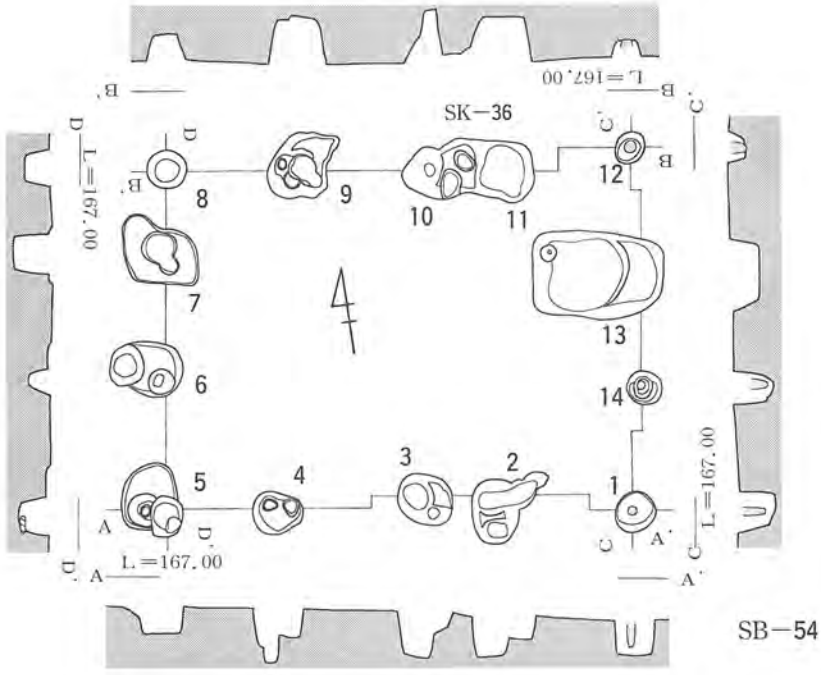


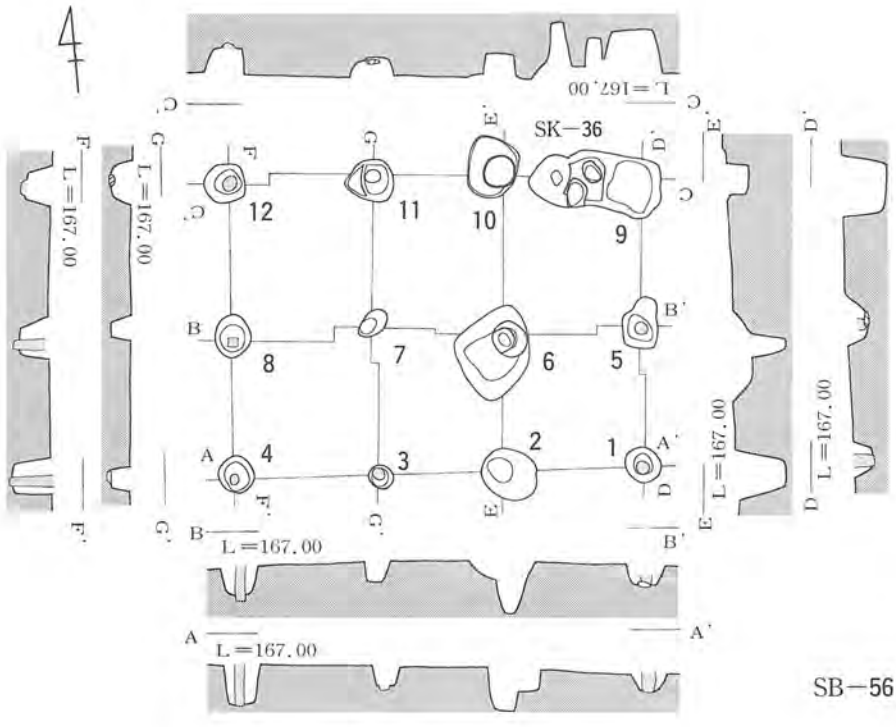


第36図　SB－52実測図及び出土遺物



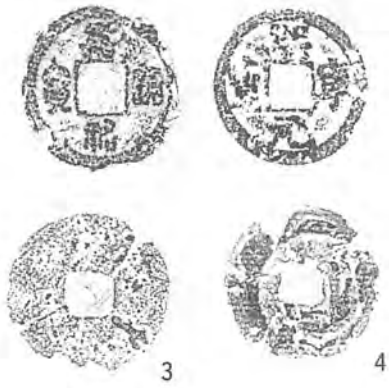
第37図　SB－53・55実測図及び出土遺物



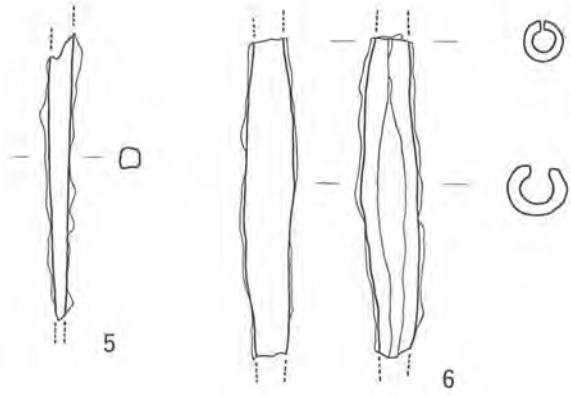


SB－56出土遺物(1/3)

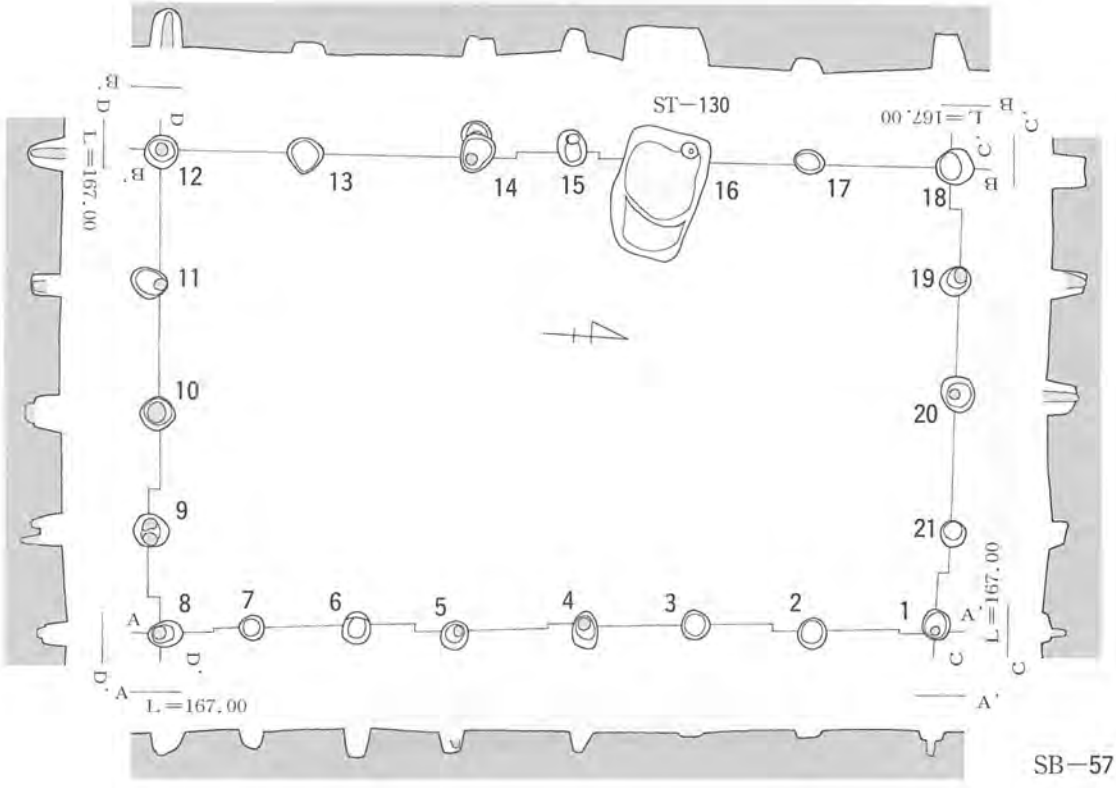
第38図　SB－54・56実測図及びSB－56出土遺物



SB－56出土古銭(2/3)

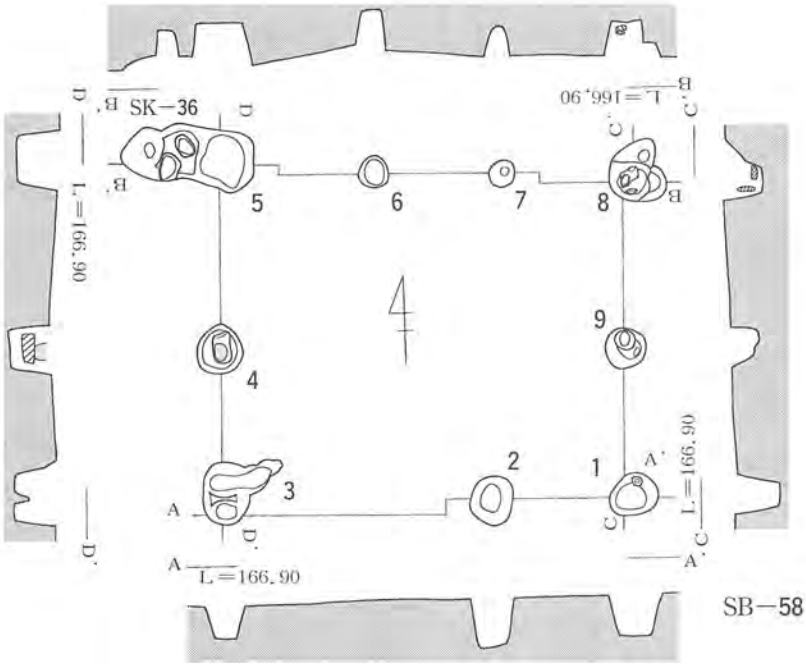


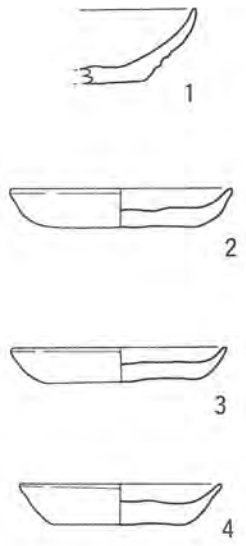
SB－56出土遺物(2/3)



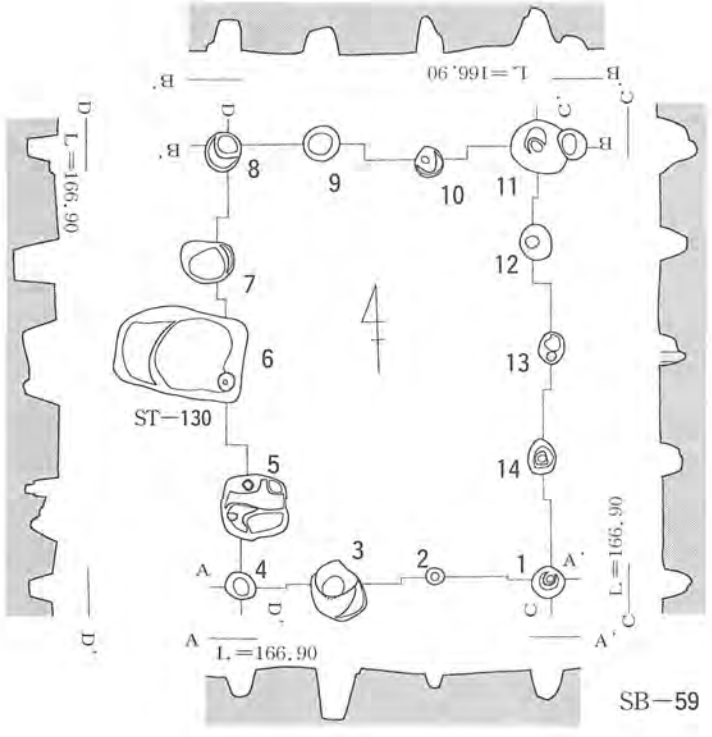
SB－57出土遺物(1/3)

第39図　SB－57実測図及びSB－56・57出土遺物





SB−58出土遺物(1/3)

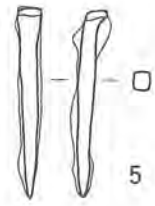


SB−59出土遺物(1/3)

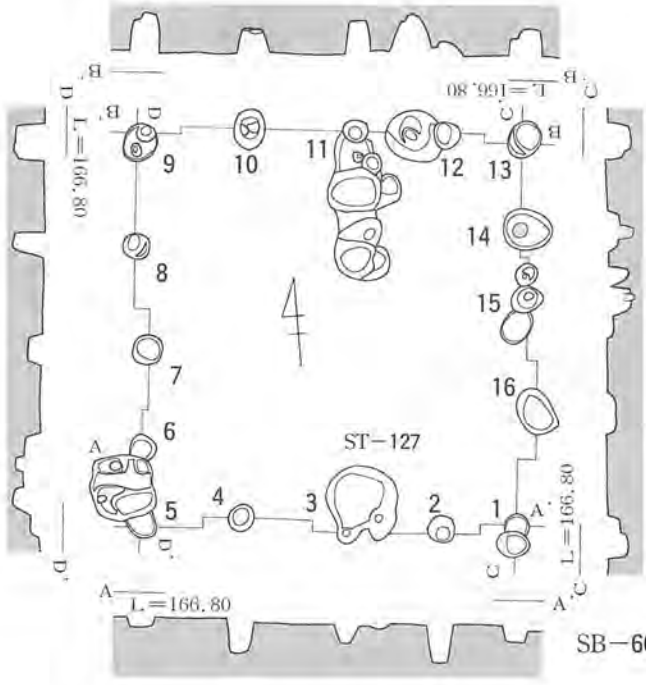
0　4 m

第40図　SB−58・59実測図及び出土遺物

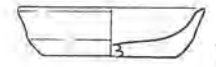
SB－59出土古銭(2/3)



SB－59出土遺物(2/3)



SB－60



(1/3)

SB－60出土遺物

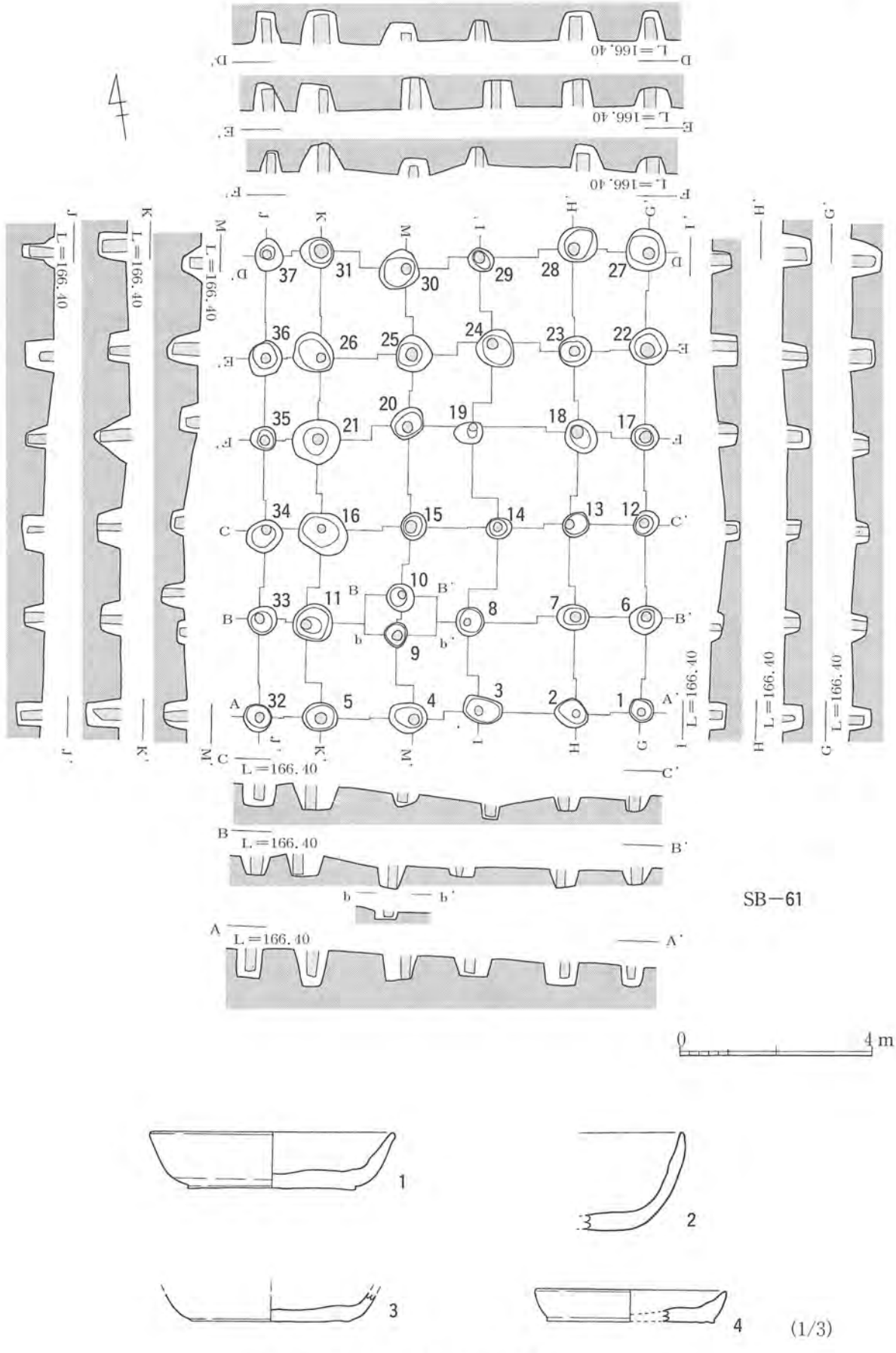
第41図　SB－60実測図及びSB－59・60出土遺物

3　柵状柱列（ＳＡ）（第52－56図）

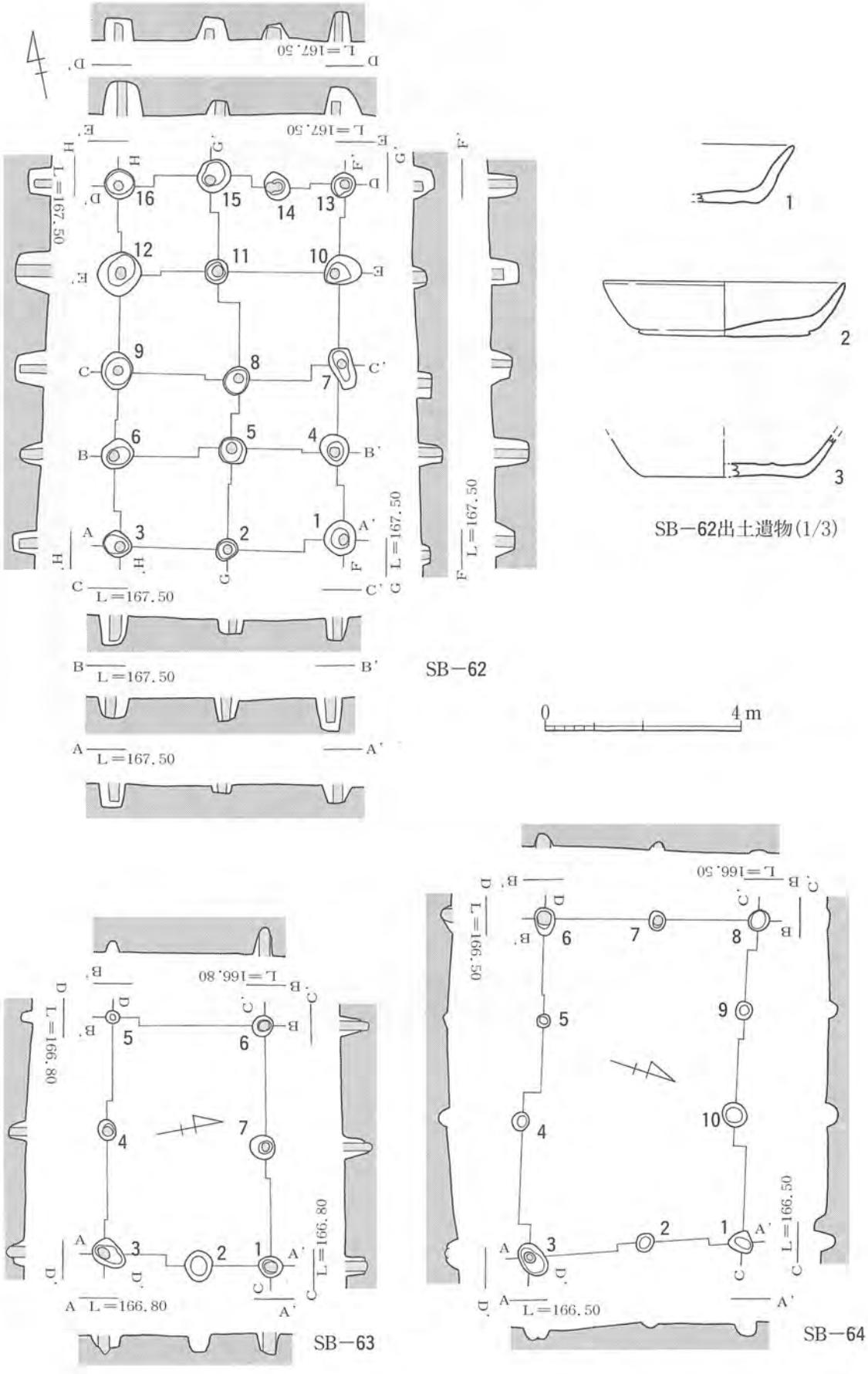
直線またはＬ・Ｔ字状に配列された柱穴を柵状柱列とした。本遺跡から12基検出された。

柵状柱列（ＳＡ）は規模に差異がある。大型の柵状柱列（ＳＡ）のＳＡ－８・９は本遺跡では掘立柱建物の密集区が認められるが、その群を大きく区画する機能を持つものか。ＳＡ－８は東西軸に延び、ＳＡ－９は南北軸の存在する。ＳＡ－８のピット16がＳＡ－９のピット１に対応することから、同時期に機能していた可能性を示唆する。以上のＳＡ－８・９は単体の柵状柱列ではなく、ＳＡ－８はＬ字状に、ＳＡ－９は遺構中央に東西軸に２本の柵状柱列が見られ、逆Ｔ字状を呈する。このＳＡ－９は調査区Ｃ・Ｄに跨りそれぞれの調査区で検出されたが、整理時に１本の線で確認された。

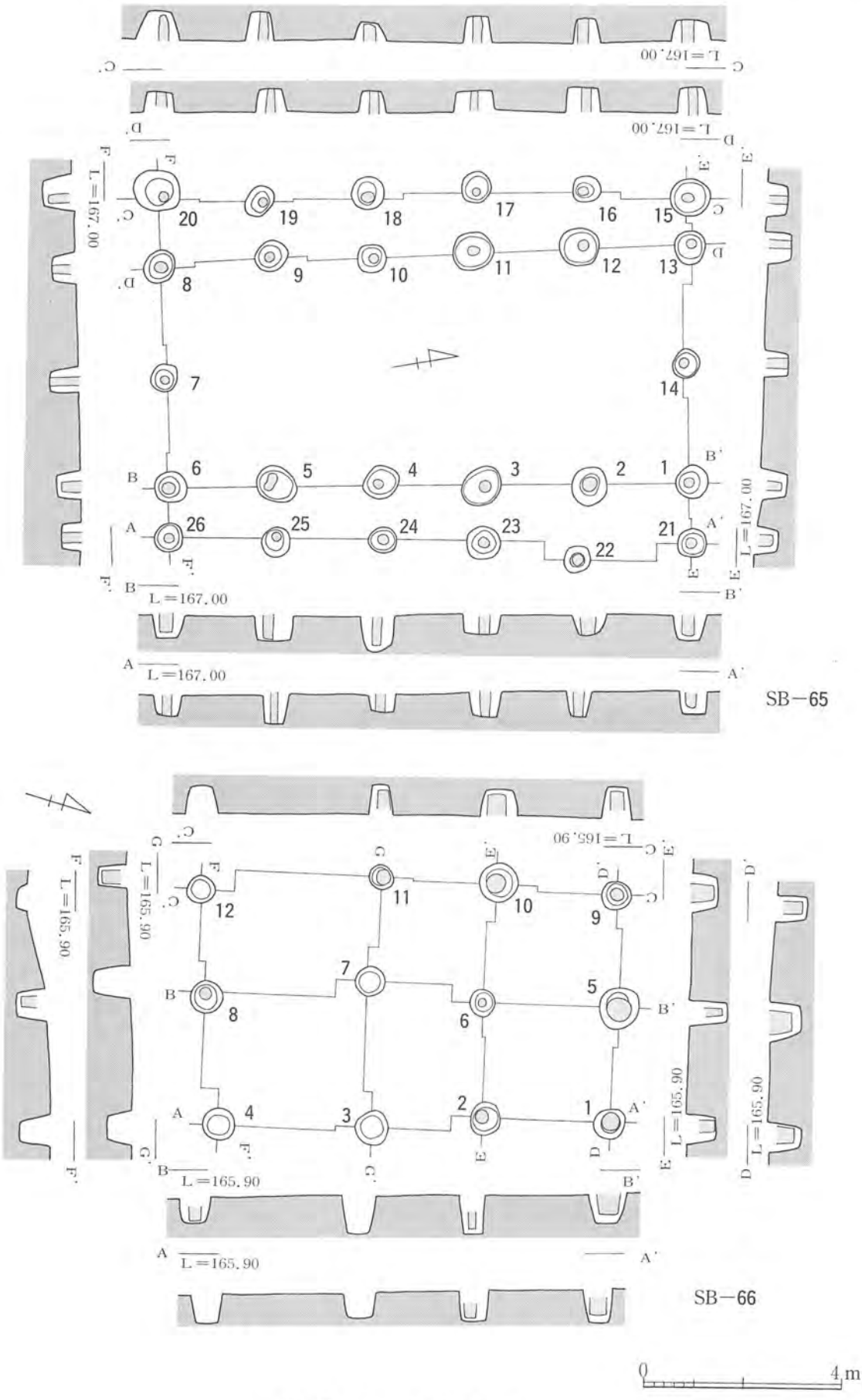
Ｔ字形はＳＡ－2、Ｌ字形はＳＡ－４・10である。他は直線であるが、ＳＡ－４の南端はＳＤ－５があるが、この遺構を挟んでＳＡ－５が存在する。ＳＡ－５はピットが３本と少ないが、ＳＡ－４と連続した性格のものであるか。柵状柱列が他の遺構と関連の可能性を示唆するのがＳＢ－36・41を結ぶＳＡ－1。ＳＤ－４に沿うＳＡ－6、ＳＫ－205に近接するＳＡ－11があり、ＳＡ－１はＳＢ－34と41間に存在しこのＳＢに関連していると思われる。ＳＡはその内容から機能の違いが想定される。出土遺物は土師器・鉄製品・古銭とＳＢと出土物内容はあまり差異がない。



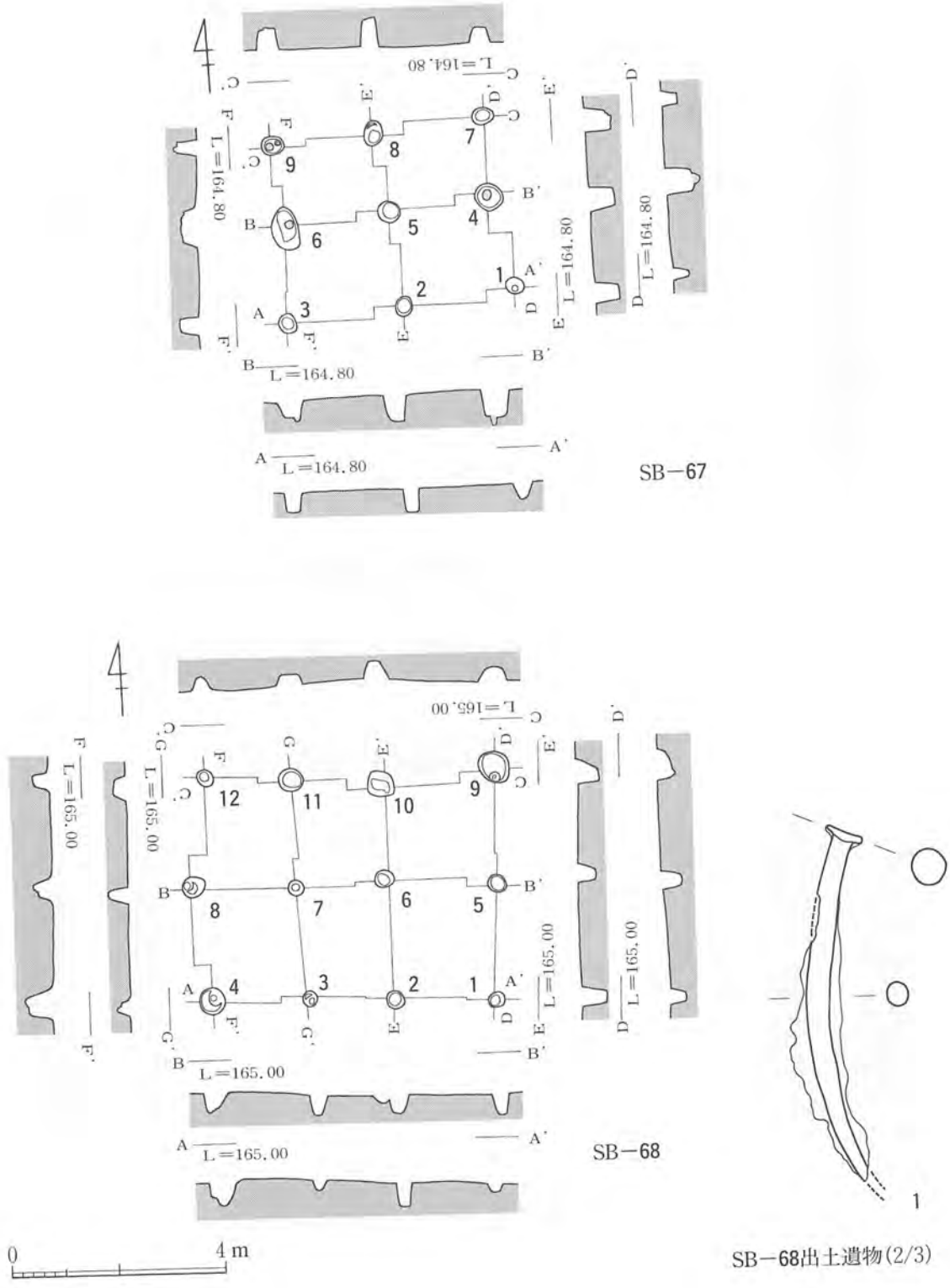
第42図　SB－61実測図及び出土遺物



第43図　SB－62・63・64実測図及びSB－62出土遺物

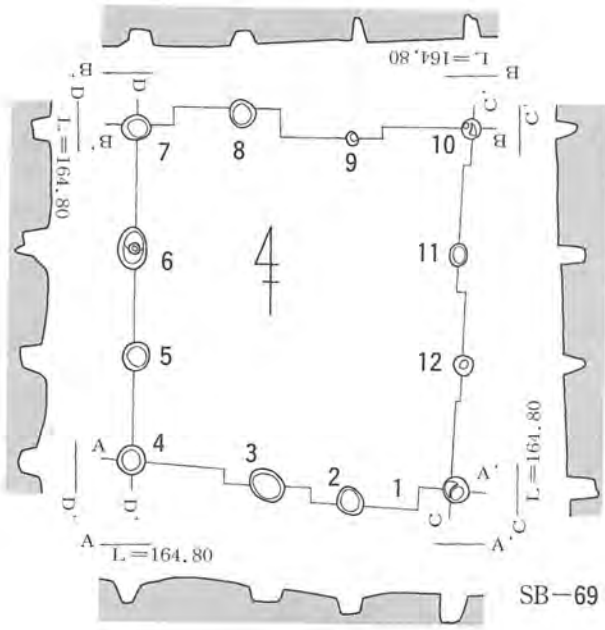


第44図　SB−65・66実測図

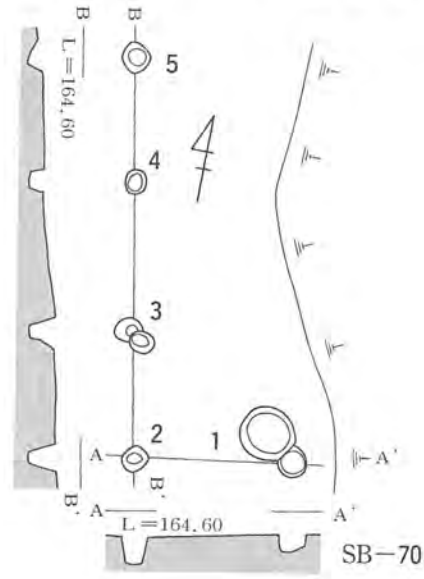


SB－68出土遺物(2/3)

第45図　SB－67・68実測図及びSB－68出土遺物

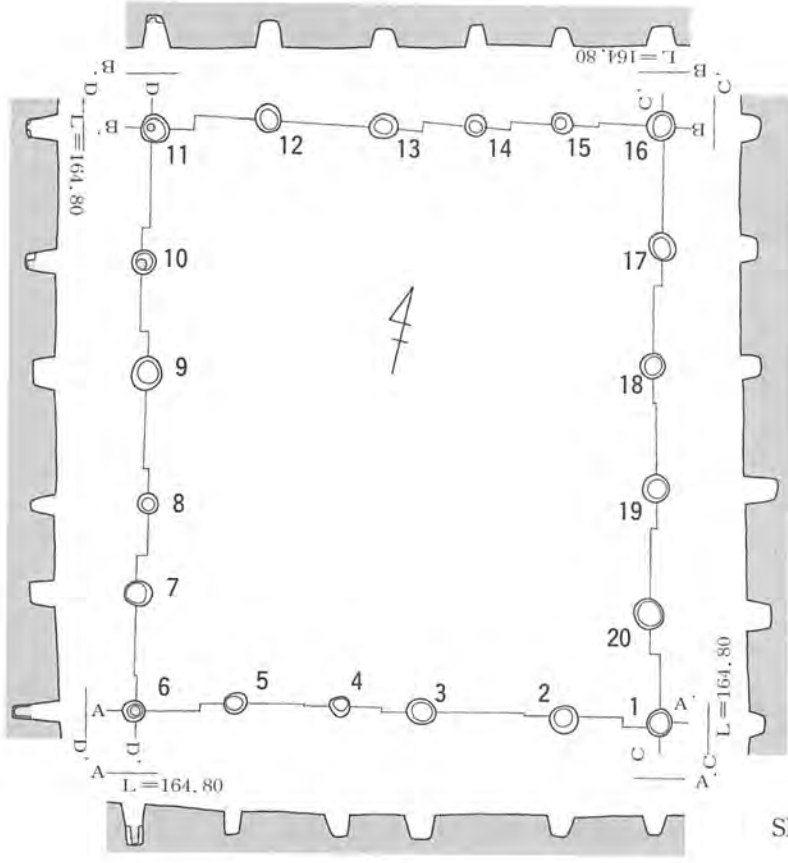


SB－69



SB－70

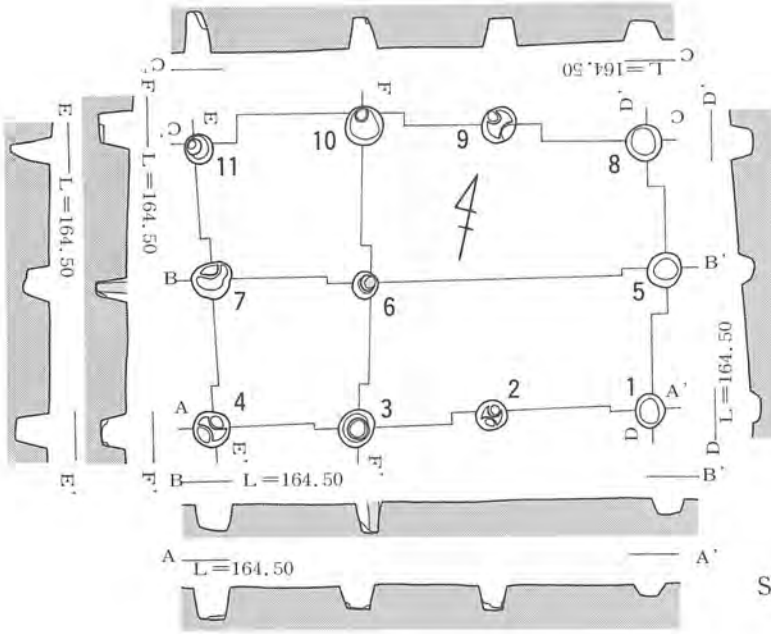
SB－70出土遺物(1/3)



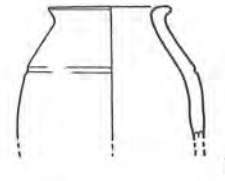
SB－71

0　4 m

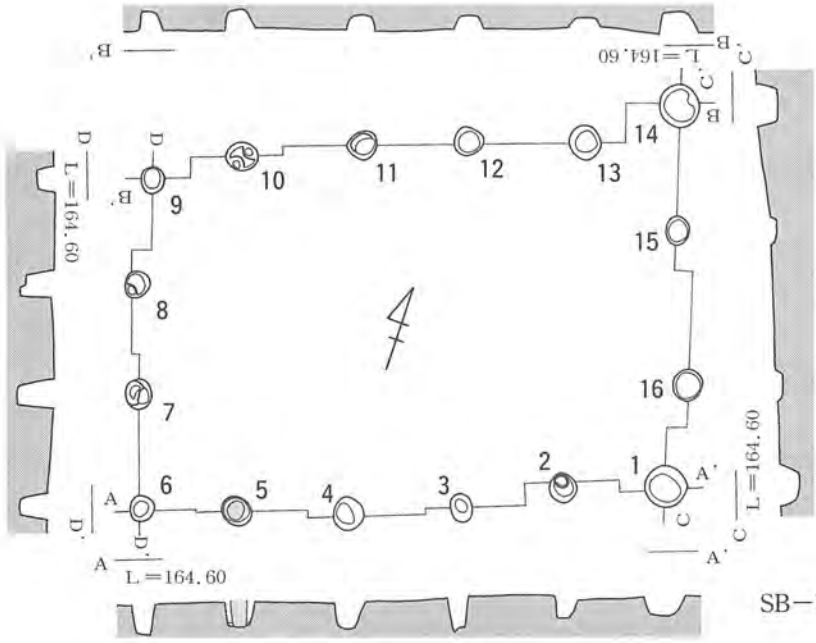
第46図　SB－69・70・71実測図及びSB－70出土遺物



SB－72



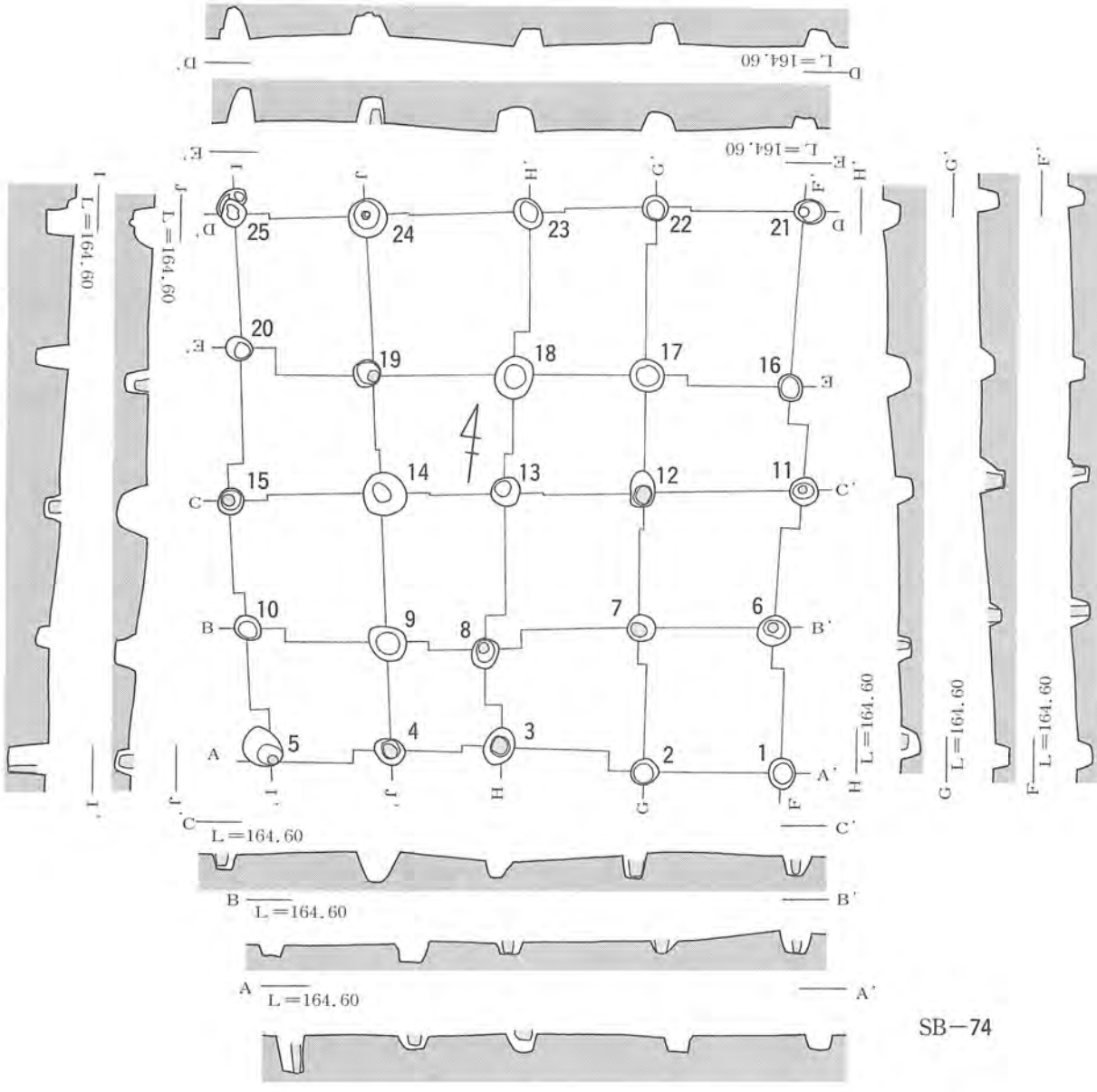
SB－72出土遺物(1/3)



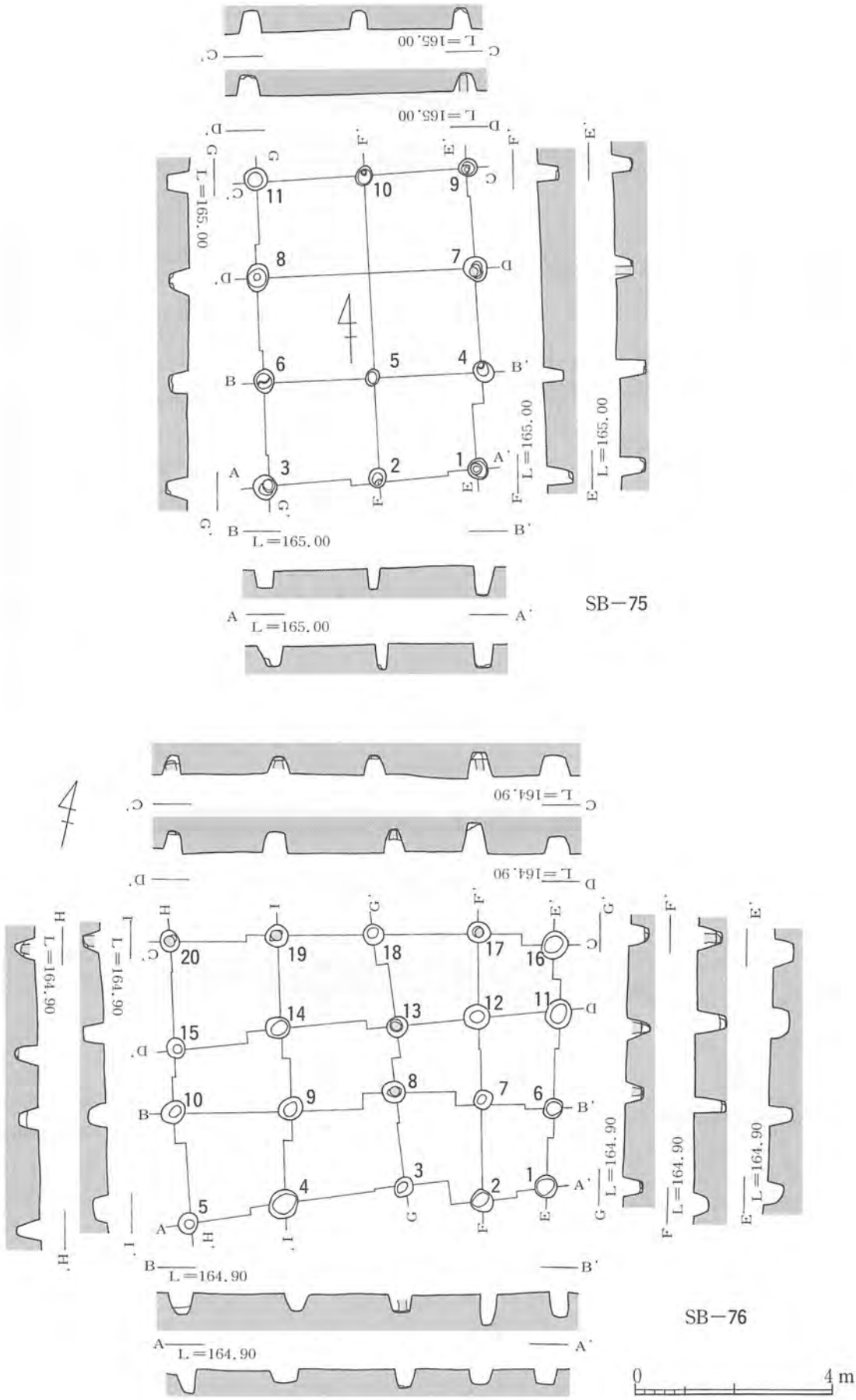
SB－73

0　4 m

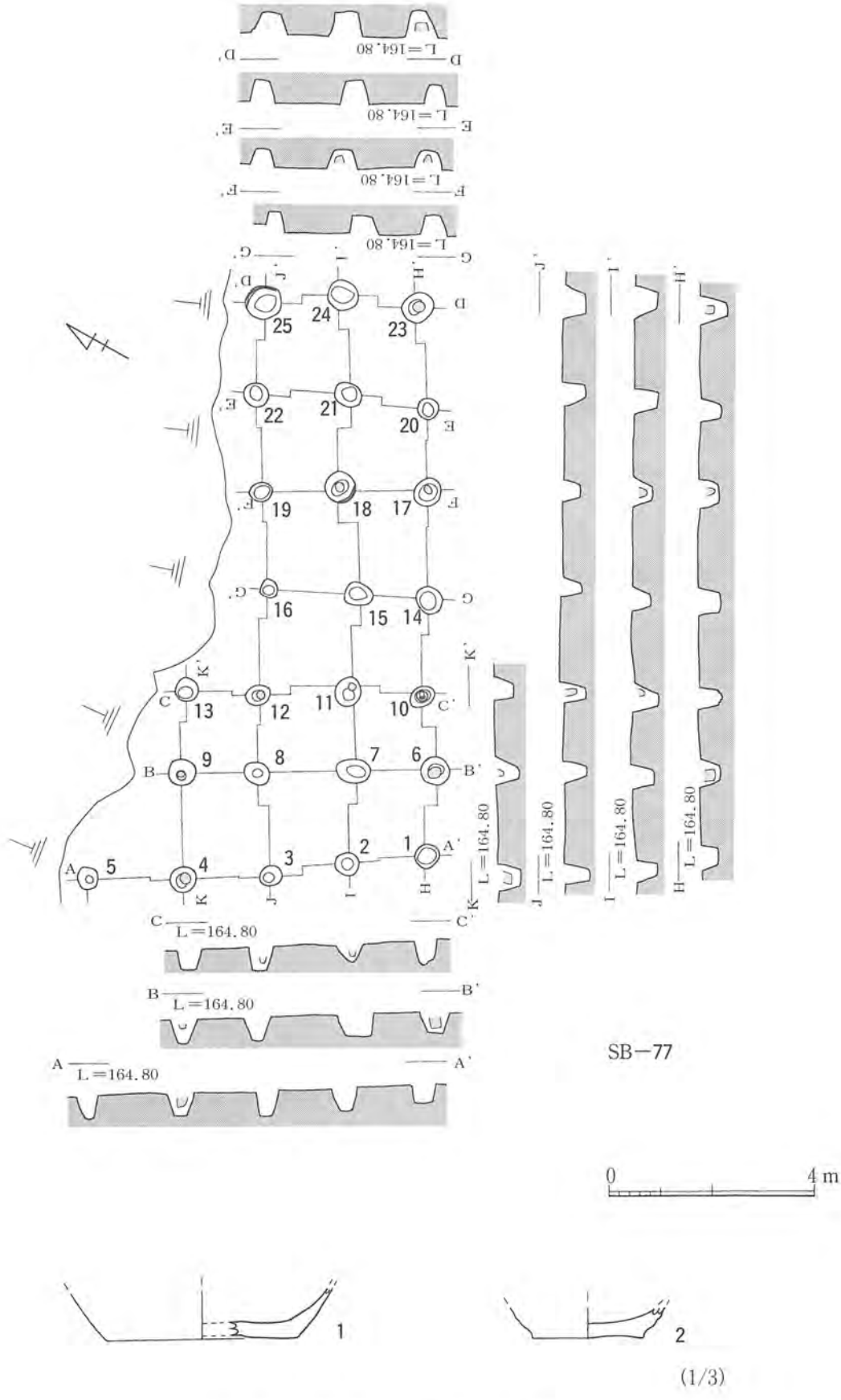
第47図　SB－72・73実測図及びSB－72出土遺物



第48図　SB－74実測図及び出土遺物

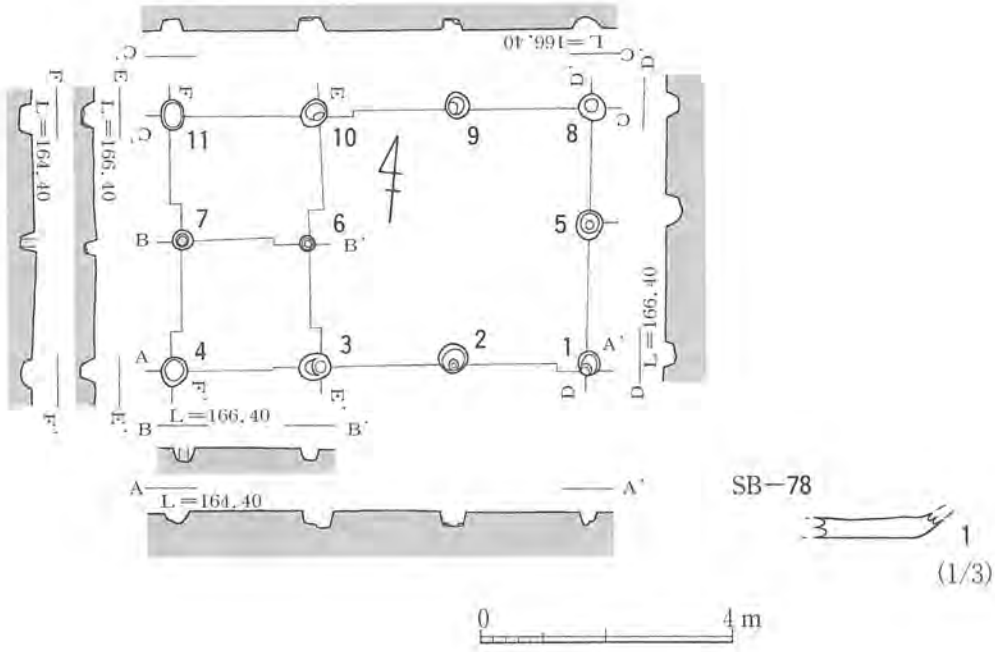


第49図　SB−75・76実測図



(1/3)

第50図　SB－77実測図及び出土遺物



第51図　SB−78実測図及び出土遺物

4　堀・溝（ＳＤ）（第57−59図）

この遺構は堀・溝を遺構としたもので、大型を堀・小型を溝と区分できるが、ここでは整理上、「ＳＤ」で記号化をした。

ＳＤ−４・８・９・10・11は大型のＳＤで堀に属する。ＳＤ−４はＤ区調査区の南端にて検出された。殆どが調査区外に延びると思われ、検出としては僅かであった。従ってその内容は不明であるが、この遺構に沿い調査区外には農道が存在し、この農道は遺跡を巡る堀の一部であると想定されることから、ＳＤ−４は周囲を巡る堀の一部であろうか。検出の深さも浅く、遺物はローリングを受けた土師器小片が僅かに出土したのみであった。またこの遺構に沿うように柵状柱列（ＳＡ−６）が存在する。

ＳＤ−８はＣ区中央部からＤ区西端にて検出され、両端は調査区外にあたるが、床までの検出が可能であった。近在者の証言によりこの遺構は近年まで道として利用していたという。しかるに埋土は全般的に新しいもので、断面３でのトーンまでが道として機能していたと考えられる。また断面１のトーンは20cm程の盛り上がりであるが、よく締まり踏み固めた状態の土である。溝に近接しておりこの溝に対応する土塁の痕跡の可能性もある。遺物は溝床からローリングを受けた土師器小片が出土しており、底部切り離しは糸切りである。

ＳＤ−９は調査Ｆ区を分断するように南北に位置する。検出は遺構最下位部と思われ幅1.5m・深さ20cm程であった。全体に硬化面が見られ、道として使用されていたことが伺える。

ＳＤ−10はＳＤ−９と同じく調査Ｆ区にて検出された。南北に位置しＳＤ−９と位置的には平行する。この遺構も最下層の検出である。埋土は新しい。

ＳＤ−11は調査Ｆ区の北端にて検出された。遺構は北東軸に位置し、検出面はジグザグ面が多く、乱雑の感を受ける。遺構は北東が浅く南西に向かって深い、調査外であるため遺構の全貌は不明であるが、断面は緩やかなＵ字状を呈するが、南西端部はＶ字状である。最下層に近世〜近代の陶磁器が多量に出土しているがその出土状態は南側から廃棄されている傾向にある。遺物は生活雑器が多く、近在に民家の存在を予想させる。ＳＤ−１・２・３・５・６・７は小型のＳＤで溝に区分できる。ＳＤ−１・２はＡ区南端にて検出された。幅60cm程の遺構である。ＳＤ−１は直線状の遺構形成でがあるが、ＳＤ−２

はやや不定形を呈する。一部、遺構が切り合っている。床直上から縁を一部欠損しているが土師器皿(遺物**1**)が出土している。ＳＤ－１・２は直線状に位置していることから、連続した遺構である可能性がある。

ＳＤ－３は調査Ｄ区南西にて検出された。他のＳＤが傾向として南北・東西軸の方向性があるが、このＳＤ－３は北西～南東軸である。断面はＵ字状でローリングを受けた土師片が出土している。

ＳＤ－５・６・７は遺跡北側で調査Ｅ区に近接し、調査Ｃ・Ｄ区の境界地に位置する。ＳＤ－５は東西軸、6・７は南北軸である。ＳＤ－５は２つの柵状柱列（ＳＡ－４・５）を分断するように位置する。ＳＤ－７からは完形の皿（遺物**1**・**2**）が２点出土している。

5　竪穴住居　（ＳＨ）（第61－70図）

ＳＨ－１の遺構西側は硬化面が広がり、遺構中央にカーボンが検出された。その下位には焼土が確認されている。中央の柱穴と思われるピットが１基検出。遺物は床直上に復元口径9.1cmの土師器１（底部糸切り小皿）が出土している。

ＳＨ－２は遺構のやや北東に焼土面を持ち、焼土面に近い外壁は張り出している。この焼土面の周囲に粘土が確認されていることから竈と思われる。土師器の碗**1**・坏**2**（底部ヘラ切り）・須恵器蓋**3**・鉄器が２点**4**・**5**出土しているが鉄器は形態から刀子と思われる。**4**は埋土中層・**5**は床上出土。

ＳＨ－３は掘りすぎのために中央部に僅かに硬化面が確認されている。ピットが壁に沿い検出されているが、本来の柱穴かは不明である。遺物は土師器坏片**1**が床直より出土。

ＳＨ－４・５・６は切り合い関係にあり、その新旧関係は４＞５＞６となる。5・６は床面の検出で４は僅かであるが壁の検出がなされた。5・６は遺構北側に焼土面が見られるが４には遺構一面に硬化面が広がり遺構南北に掘り込みが見られる。中央にピットが１基。遺構南端の掘り込みから土師器甕**1**が出土している。

ＳＨ－７は1.7m×1.8mの小規模の遺構で硬化面も焼土も確認されていないので住居としての認定は困難であるが、形態がこれに類似するためここに仮置きする。遺物は土師器片が出土している。またＳＢ－30と切り合い関係にあり、ＳＨ－７の床面からピットが検出され、これがＳＢ－30ピット３に対応することから両遺構の新旧関係はＳＨ－７＞ＳＢ－30となる。

ＳＨ－８は遺構中央部に床面から埋土中層にかけてカーボンが広がるが焼土は検出されなかった。埋土は分層できず一括して埋められ遺構端部がわずかにしまる。ＳＢ－44と切り合い関係にあり遺構検時にピット痕跡が検出されこれがＳＢ－44に対応することからＳＢ－44＞ＳＨ－８となる。遺物は土師器片が埋土内から出土しているが、筒状で片口はラッパ状であるが貫通していない鉄器**1**が出土している。使用目的は不明である。

ＳＨ－９は遺構西北に焼土を持つ掘り込みがあり、４本のピットからは柱痕跡が確認されている。床直上より土師器が２点、反転復元により口径13.8cmの盌**1**・上位資料であるが球形の胴部にラッパ状の口縁部を持つ壺形土器**2**が出土。

ＳＨ－10～15は1.5m×1.5m程の面積である。ピットは１本が主である。ＳＨ－12は床面にカーボン・やや浮いた層で粘土が検出されている。ＳＨ－14は床直上から碗**1**・刀子と思われる鉄器**2**が出土。

ＳＨ－16・17は床面での検出であるがそれぞれは切り合い関係にあり各遺構端部に燃焼面を持つ。ＳＨ－16からは土師器の底部（底部切り離しは丁寧なナデ調整が施されているため不明であるがヘラ切りと思われる。）ＳＨ－17からは皿**1**・**4**、皿の外器面と思われる**5**・**6**、碗の底部**2**が出土。

ＳＨ－18は調査区端部での検出と削平により遺構の情報は少ないが明確なコーナーと硬化面・燃焼面を持つことから住居と想定した。底部ヘラ切りの土師器坏**1**が燃焼面横より出土した。

ＳＨ－19は床面には硬化面・カーボンを持つ。遺構に床面より深さ30cmピット（Ｅ－Ｅ′）、南北面のピットが対応しているように見える。遺構の北～東～南面の壁に沿い床面より深さ10cmの溝状の掘り込みが検出された。遺物出土は確認されなかった。

ＳＨ－20～23は調査区Ｅ区にて検出された遺構で、

第1表　SBデータ1

挿図	番号	規格 梁×桁	方位	検出レベル m	グリット	身舎面積 ㎡	庇面積 ㎡	総面積 ㎡	梁 m［平均値］P＝ピット番号
10	1	1×3	N 2° W	167.50	M-20M-21			28.8	P 2-1 4.8 P 6-5 4.66
	2	1×3（2×3）	E 3° N	167.00	M-18N-18			23.5	P 1-8 1.94+2.34 [2.14] P 5-4 3.7
	3	2×2	N18° E	167.00	N-18			19.0	P 3-5 2.04+1.78 [1.91] P 7-5 1.88+1.8 [1.84]
11	4	2×5（中間にPit）	N12° E	167.50	K-17K-18L-17L-18			50.6	P 3-1 2.3+2.4 [2.35] P 5-13 2.3+2.4 [2.35] P10-8 2.35+2.35 [2.35] P12-6 2.4+2.3 [2.35]
12	5	2×3	E 7° S	167.50	J-16K-16			(26.4)	P 2-5 1.86 P 7-5 2.14+2.0 [2.07]
	6	2×5 1方庇 東	N18° E	167.70	H-14H-15	50.1	12.6	62.7	P 6-8 2.3+2.5 [2.4] P 1-13 2.4+2.5 [2.4]
13	7	2×5 1方庇 東	N18° E	167.50	G-13H-13H-14	47.4	8.9	56.3	P 6-8 2.06+2.3 [2.18] P 1-15 2.14+2.2 [2.17]
	8	2×5 1方庇 東	N17° E	167.60	G-13H-13H-14	45.6	12.8	58.4	P 6-8 2.0+2.3 [2.15] P 1-13 4.2
14	9	2×3？	E25° S	167.40	H-13J-13			14.3	P 1-10 1.6+1.5 [1.55] P 7-4 0.8+1.2+1.0 [1.0]
	10	2×3	N19° E	167.50	J-13			29.8	P 3-1 2.3+2.3 [2.3] P 8-6 2.1+2.39 [2.25]
	11	2×2		167.50	J-13J-14			12.0	P 1-8 2.0+1.24 [1.62] P 6-3 1.7+1.5 [1.6]
	13	2×3	N25° E	167.60	J-14J-15			25.2	P 3-1 2.0+1.86 [1.93] P 8-6 1.94+2.0 [1.97]
15	12	2×3	N14° E	167.60	H-14J-14			33.9	P 3-1 2.4+2.2 [2.3] P 8-6 2.4+2.26 [2.33]
	14	2×3	N24° E	167.80	J-14J-15			21.8	P 4-1 1.7+1.8 [1.75] P 9-6 1.72+2.06 [1.89]
	15	2×3	E10° S	167.60	J-14K-14			13.6	P 1-9 1.7+1.44 [1.57] P 6-4 1.5+1.7 [1.6]
16	17	2×3	E14° S	167.40	K-14			23.7	P 1-9 2.0+2.0 [2.0] P 6-4 2.0+1.86 [1.93]
	16	2×3	E12° S	167.20	K-14			26.1	P 1-9 2.0+2.3 [2.15] P 6-4 2.2+2.0 [2.1]
	19	1×2	E12° S	167.40	K-15			14.2	P 1-6 2.9 P 4-2 3.0
	18	2×3	E30° S	167.30	J-15K-15			20.6	P 3-1 1.74+1.4 [1.57] P 8-6 1.8+1.5 [1.65]
17	20	2×5 2方庇 北南（中間にPit）	E15° S	167.10	K-13L-13	48.2	25.0	73.2	P 6-1 2.3+2.4 [2.35] P 1-13 2.3+2.28 [2.29] P 4-10 2.3+2.3 [2.3] P 3-11 2.3+2.3 [2.3]
	21	2×3	N29° E	167.20	K-13K-14			34.9	P 3-1 2.8+2.1 [2.45] P 8-6 2.1+2.2 [2.15]
18	22	2×3	E23° S	168.00	K-12K-13			17.9	P 1-9 1.5+1.6 [1.55] P 6-4 1.5+1.6 [1.55]
	24	2×2（2×3）	E10° S	167.20	K-15L-15			12.2	P 1-8 1.5+1.55 [1.53] P 5-3 1.3+1.9 [1.6]
	25	2×2	N16° E	167.20	K-14L-14			21.9	P 3-1 2.3+2.1 [2.2] P 7-5 2.2+2.1 [2.15]
	26	2×4	N13° E	167.20	L-14			33.2	P 3-1 2.4+1.9 [2.15] P 8-7 3.8
19	23	3×6 総 2方庇 東西	N15° E	167.40	K-13K-14L-13L-14	86.1	34.5	120.6	P 1-4 1.6+2.5+2.0 [2.03] P 5-8 1.7+2.4+2.0 [2.03] P 9-12 1.5+2.4+2.1 [2.0] P13-16 2.0+2.3+2.2 [2.17] P17-20 2.1+2.0+2.2 [2.1] P21-24 2.2+2.1+2.1 [2.13] P25-28 2.1+2.1+2.26 [2.15]
20	27	2×5 総 2方庇 東西	N13° E	167.10	L-14L-15	49.0	16.4	65.4	P 1-3 2.6+2.5 [2.55] P 4-6 2.66+2.4 [2.53] P 7-9 2.36+2.5 [2.43] P10-12 2.1+2.7 [2.4] P13-15 2.6+2.05 [2.33] P16-18 2.4+2.3 [2.35]
21	28	2×2	E14° S	167.00	L-14L-15			12.2	P 1-7 1.64+1.4 [1.52] P 5-3 1.4+1.5 [1.45]
	29	2×2	E15° S	167.00	L-13L-14			12.5	P 1-7 1.6+1.3 [1.45] P 5-3 1.3+1.54 [1.42]
	30	2×4	N12° E	167.00	L-12L-13			22.5	P 3-1 1.5+1.6 [1.55] P 9-7 1.2+2.0 [1.6]
	32	2×4	N28° E	166.50	M-12M-13			23.7	P 2-1 3.3 P 7-5 1.46+1.6 [1.53]
22	31	2×5 2方庇 北南	E14° S	166.50	L-12L-13M-12M-13	(43.4)	(23.4)	66.8	P 5-1 1.9+1.94 [1.92]
	33	2×3	E12° S	166.50	M-13			21.7	P 3-1 1.8+2.0 [1.9] P 8-6 2.0+1.4 [1.7]
	35	3×5（2×5）	N10° E	166.40	N-12N-13			44.0	P 4-1 1.5+1.9+1.1 [1.5] P11-9 2.1+2.6 [2.35]
23	34	2×3 4方庇 東西南北	N19° E	166.30	N-11N-12	17.1	13.9	31.0	P 1-3 1.9+1.3 [1.6] P 9-5 1.9+1.2 [1.55] P 8-6 1.8+1.3 [1.55]
	37	2×4	N12° E	166.50	N-14			23.7	P 3-1 1.3+1.8 [1.55] P 9-7 1.7+1.7 [1.7]
	36	2×3 1方庇 西	N16° E	166.40	N-12N-13P-12P-13	22.8	5.2	28.0	P 1-3 2.0+1.54 [1.77] P 7-6 3.6
24	38	1×3	N11° E	166.50	N-14			12.1	P 3-1 2.8 P 6-5 2.8
	39	2×4	N45° E	166.80	L-11M-11			40.7	P 3-1 2.3+2.8 [2.55] P 9-7 2.5+2.3 [2.4]
25									P 1-3 2.6+2.2 [2.4] P 4-6 2.6+2.1 [2.35]

番号	桁 m　[平均値]	庇 m　[平均値]
1	P 1－6　1.9+2.0+2.0 [1.96]	
	P 5－2　2.0+2.1+2.0 [2.03]	
2	P 4－1　2.1+1.7+1.9 [1.9]	
	P 8－5　1.8+1.9+1.9 [1.86]	
3	P 1－7　2.4+2.3 [2.35]	
	P 5－3　2.4+2.3 [2.35]	
4	P 1－10　2.08+2.18+2.0+2.1+2.1 [2.09]	
	P 8－3　2.1+2.12+2.14+2.0+2.14 [2.1]	
5	P 5－2　2.1+1.94+2.14 [2.06]	
	P 9－7　2.1+2.0 [2.05]	
6	P 6－1　2.1+2.0+2.1+2.2+1.82 [2.04]	P 20－15　2.1+2.06+2.4+2.0+2.2 [2.15]
	P 13－8　1.9+2.18+2.08+2.2+2.0 [2.07]	
7	P 6－1　2.0+2.0+2.46+1.86+2.26 [2.11]	P 20－15　1.8+2.4+2.2+1.82+2.3 [2.1]
	P 13－8　1.86+2.4+2.0+2.1+2.1 [2.09]	
8	P 6－1　2.1+2.4+2.1+1.84+2.1 [2.1]	P 19－14　2.1+2.2+2.04+2.1+2.12 [2.11]
	P 13－8　2.2+2.1+2.1+2.1+2.06 [2.11]	
9	P 1－10　1.5+1.7+1.5 [1.56]	
	P 10－7　1.8+1.5+1.4 [1.56]	
10	P 1－8　2.2+2.2+2.2 [2.2]	
	P 6－3　2.1+2.1+2.2 [2.13]	
11	P 3－1　1.7+1.94 [1.82]	
	P 7－5　1.8+1.86 [1.83]	
13	P 1－8　2.3+1.9+2.1 [2.1]	
	P 6－3　2.2+2.0+2.1 [2.1]	
12	P 1－8　2.4+2.4+2.3 [2.36]	
	P 6－3　2.4+2.26+2.26 [2.3]	
14	P 1－8　2.0+2.0+1.9 [1.96]	
	P 6－3　1.8+2.0+1.96 [1.92]	
15	P 4－1　2.1+1.9+1.1 [1.7]	
	P 9－6　1.34+1.72+1.6 [1.55]	
17	P 4－1　1.9+1.94+2.0 [1.94]	
	P 9－6　2.0+1.96+2.1 [2.02]	
16	P 4－1　1.9+2.0+1.9 [1.93]	
	P 9－6　1.7+2.3+1.94 [1.98]	
19	P 3－1　2.4+2.5 [2.45]	
	P 6－4　2.3+2.1 [2.2]	
18	P 1－8　2.2+2.0+1.9 [2.03]	
	P 6－3　2.0+2.1+2.4 [2.16]	
20	P 6－1　2.06+2.06+2.0+2.1+2.1 [2.06]	P 22－17　1.86+2.1+1.78+2.36+1.9 [2.0]
	P 13－8　2.0+2.1+2.0+2.1+1.9 [2.02]	P 23－28　2.3+2.3+2.3+2.3+2.0 [2.24]
21	P 1－8　2.7+2.4+2.3 [2.46]	
	P 6－3　3.1+1.84+2.7 [2.54]	
22	P 4－1　1.8+1.8+1.84 [1.81]	
	P 9－6　1.9+2.4+1.3 [1.86]	
24	P 3－1　1.96+1.9 [1.93]	
	P 8－5　0.7+1.84+1.2 [1.24]	
25	P 1－7　2.7+2.48 [2.59]	
	P 5－3　2.46+2.5 [2.48]	
26	P 1－8　2.0+2.0+2.3+1.7 [2.0]	
	P 7－3　1.9+1.84+2.2+2.3 [2.06]	
23	P 1－25　2.2+2.1+2.4+2.2+2.0+2.6 [2.25]	P 29－35　2.0+2.4+2.2+2.23+2.1+2.4 [2.22]
	P 2－26　2.0+2.2+2.0+2.6+2.0+2.46 [2.21]	P 42－36　2.6+1.8+2.3+2.7+2.3+1.8 [2.25]
	P 27－3　2.6+1.94+2.6+2.1+2.14+2.0 [2.23]	
	P 28－4　2.7+1.9+2.5+2.5+2.0+2.3 [2.31]	
27	P 1－16　1.6+1.9+2.26+2.0+2.1 [1.97]	P 19－24　2.3+2.1+2.1+1.9+2.1 [2.1]
	P 2－17　1.8+1.9+2.2+1.72+2.7 [2.06]	P 30－25　2.2+1.9+2.0+1.66+2.44 [2.04]
28	P 3－1　2.06+1.5+0.3 [1.28]	
	P 7－5　1.96+2.3 [2.13]	
29	P 3－1　2.2+2.2 [2.2]	
	P 7－5　2.1+2.0 [2.05]	
30	P 1－9　1.9+1.9+1.6+1.8 [1.8]	
	P 7－3　1.4+1.7+1.9+1.8 [1.7]	
32	P 1－7　2.0+1.6+1.8+1.9 [1.82]	
	P 5－2　1.86+2.26+3.2 [2.44]	
31	P 5－1　2.3+2.2+2.1+2.16 [2.19]	P 18－14　2.26+2.2+4.28+2.16 [2.72]
	P 12－7　2.2+1.94+2.26+2.14+2.24 [2.15]	P 19－24　2.2+2.0+2.0+1.86+2.64 [2.14]
33	P 1－8　2.0+1.9+1.98 [1.96]	
	P 6－3　1.84+2.0+2.2 [2.01]	
35	P 1－11　1.9+2.1+1.8+1.9+1.9 [1.92]	
	P 9－4　1.64+2.0+1.7+2.2+1.8 [1.86]	
34	P 1－8　1.8+1.74+1.86 [1.8]	P 27－24　1.88+1.76+1.8 [1.81]
	P 3－1　1.86+1.9+1.56 [1.77]	P 16－19　1.82+1.9+1.7 [1.8]
		P 15－12　1.9+1.8+0.7 [1.46]
		P 23－20　0.6+2.0+1.9 [1.5]
37	P 1－9　1.9+1.86+1.7+1.7 [1.79]	
	P 7－3　1.86+1.7+1.76+1.84 [1.79]	
36	P 1－7　2.24+1.96+2.1 [2.1]	P 13－10　2.0+2.16+2.0 [2.05]
	P 6－3　2.06+2.0+2.2 [2.08]	
38	P 1－6　1.4+1.46+1.5 [1.45]	
	P 5－2　1.4+1.3+1.5 [1.4]	
39	P 1－9　1.64+1.9+1.8+2.56 [1.97]	
	P 7－3　2.5+1.5+2.0+2.1 [2.02]	
40	P 10－1　2.2+2.0+1.6 [1.93]	P 24－32　1.3+2.3+1.9+1.6 [1.77]
	P 15－2　2.24+1.7+2.4+2.0+2.1+1.6 [2.0]	P 32－25　0.8+1.8+2.1+2.2+2.2+2.1+1.4 [1.8]

第2表　ＳＢデータ２

挿図	番号	規格 梁×桁	方位	検出レベル m	グリット	身舎面積 ㎡	庇面積 ㎡	総面積 ㎡	梁 m［平均値］Ｐ＝ピット番号
25									Ｐ７－９　2.5+2.24 [2.37]
	40	２×６　３方庇 北西南	Ｅ13°Ｓ	166.80	Ｌ-11Ｌ-12Ｍ-11Ｍ-12	59.6	31.9	91.5	Ｐ10-12　2.4+2.1 [2.25]
26									Ｐ４－１　1.4+2.4+2.0 [1.93]
									Ｐ８－５　1.7+2.4+1.9 [2.0]
									Ｐ12-９　2.2+2.1+2.2 [2.17]
									Ｐ21-24　2.5+2.2+2.2 [2.3]
									Ｐ17-20　2.0+2.1+2.3 [2.13]
	41	３×５ 総	Ｎ27°Ｅ	166.60	Ｍ-９Ｍ-10Ｎ-９・10			70.0	Ｐ13-16　2.1+2.0+2.5 [2.2]
27					Ｋ-８Ｋ-９Ｋ-10				Ｐ４－１　3.0+2.4+2.0 [2.47]
	42	３×５　１方庇 北	Ｎ10°Ｅ	166.50	Ｌ-８Ｌ-９Ｌ-10	72.4	7.1	79.5	Ｐ12-９　1.9+2.8+2.1 [2.27]
28									Ｐ１－４　2.0+3.2+1.6 [2.27]
					Ｋ-８Ｋ-９Ｋ-10				Ｐ12-９　2.3+2.7+2.0 [2.33]
	43	３×５　３方庇 北南西	Ｎ15°Ｅ	166.50	Ｌ-８Ｌ-９Ｌ-10	71.5	25.0	96.5	
29									Ｐ１-35　1.8+2.0+2.3+1.6+2.6 [2.06]
									Ｐ２-36　2.1+1.9+2.0+2.0+2.3 [2.06]
									Ｐ３-37　1.7+1.9+2.0+3.0+2.1 [2.14]
									Ｐ４-38　1.9+1.9+1.5+2.5+2.9 [2.14]
					Ｋ-７Ｋ-８Ｋ-９				Ｐ５-39　1.7+2.0+1.6+2.4+2.7 [2.08]
					Ｌ-７Ｌ-８Ｌ-９				Ｐ６-40　3.6+1.5+2.5+2.6 [2.55]
	44	５×６ 総 3方庇北南西	Ｅ17°Ｓ	166.50	Ｍ-７Ｍ-８			166.7	Ｐ７-41　1.9+1.6+1.9+2.4+2.3 [2.02]
31									Ｐ３－１　2.2+1.8 [2.0]
	45	２×４	Ｎ21°Ｅ	166.40	Ｌ-７Ｌ-８Ｍ-７Ｍ-８			30.6	Ｐ９－７　2.1+2.2 [2.15]
									Ｐ５－１　1.6+1.44+1.9+1.9 [1.71]
	46	４×４	Ｎ20°Ｅ	165.90	Ｋ-６Ｌ-６			52.6	Ｐ12-８　2.1+1.5+1.5+2.1 [1.8]
32									Ｐ５－１　2.4+2.4+2.6+1.9 [2.33]
	47	３×４	Ｅ11°Ｓ	165.90	Ｋ-５Ｋ-６Ｌ-５Ｌ-６			79.2	Ｐ12-８　2.2+2.2+2.6+2.6 [2.4]
									Ｐ11-８　2.2+1.94+1.9 [2.01]
	49	３×７	Ｅ12°Ｓ	167.00	Ｈ-９Ｈ-10Ｊ-９Ｊ-10			82.9	Ｐ１-18　1.5+1.9+1.7 [1.7]
33									Ｐ５－１　2.4+2.24+2.6+2.0 [2.31]
	48	４×８	Ｅ16°Ｓ	166.80	Ｈ-９Ｈ-10Ｊ-９Ｊ-10			160.9	Ｐ17-13　2.7+2.24+2.1+2.5 [2.39]
34									Ｐ１-10　1.98+2.0 [1.99]
									Ｐ２-11　4.2+2.8 [3.5]
									Ｐ12-３　2.0+2.1 [2.05]
									Ｐ13-４　2.1+2.0 [2.05]
	50	２×４ 総	Ｅ12°Ｓ	167.30	Ｈ-９Ｈ-10Ｊ-９Ｊ-10			25.5	Ｐ14-５　2.0+2.2 [2.1]
35									Ｐ３－１　2.18+2.9 [2.54]
									Ｐ４-14　2.3+2.7 [2.5]
	51	２×５	Ｎ87°Ｅ	167.00	Ｈ-９Ｈ-10Ｊ-９Ｊ-10			58.4	Ｐ10-８　2.4+2.5 [2.45]
36									Ｐ６－１　1.3+2.4+1.9+2.3+2.1 [2.0]
	52	４×５	Ｅ14°Ｓ	167.00	Ｈ-９Ｈ-10Ｊ-９Ｊ-10			95.5	Ｐ15-10　2.4+1.5+2.5+1.5+2.6 [2.1]
37									Ｐ１-12　2.6+2.1 [2.35]
	53	３×４（２×４）	Ｅ８°Ｓ	166.70	Ｈ-９Ｈ-10Ｊ-９Ｊ-10			39.0	Ｐ８－５　1.7+1.7+1.2 [1.53]
									Ｐ４－１　1.9+1.8+2.0 [1.9]
	55	３×３	Ｅ６°Ｓ	167.00	Ｈ-９			33.8	Ｐ10-７　1.6+2.04+1.7 [1.78]
38									Ｐ１-12　1.9+1.7+2.0 [1.86]
	54	３×４	Ｅ９°Ｓ	167.00	Ｈ-９Ｊ-９			39.9	Ｐ８－５　1.2+2.1+2.0 [1.76]
									Ｐ１－９　2.2+2.3 [2.25]
									Ｐ12-４　2.4+2.1 [2.25]
	56	２×３ 総	Ｅ５°Ｓ	167.00	Ｈ-９			29.2	
39					Ｈ-８				Ｐ１-18　1.6+2.1+1.8+1.8 [1.83]
	57	４×７	Ｎ３°Ｗ	167.00	Ｈ-９Ｈ-10Ｊ-８Ｊ-９Ｊ-10			91.2	Ｐ12-８　2.1+2.0+1.7+1.8 [1.9]
									Ｐ１－８　2.5+2.5 [2.5]
	58	２×３	Ｅ５°Ｓ	166.90	Ｈ-９Ｊ-９			32.8	Ｐ５－３　3.0+2.5 [2.75]
40									Ｐ４－１　1.4+1.6+1.8 [1.6]
	59	３×４	Ｎ２°Ｗ	167.00	Ｊ-９			32.8	Ｐ11-８　1.7+1.6+1.5 [1.6]
									Ｐ５－１　1.6+1.7+1.5+1.1 [1.47]
41	60	４×４	Ｎ６°Ｗ	166.80	Ｊ-９			36.7	Ｐ13-９　1.4+1.4+1.6+1.8 [1.55]
42									Ｐ27-31　1.55+2.0+1.55+1.8 [1.73]
									Ｐ22-26　1.5+1.7+1.66+1.86 [1.68]
									Ｐ17-21　1.4+2.2+1.34+1.9 [1.71]
									Ｐ12-16　1.52+1.5+1.8+1.9 [1.7]
									Ｐ６-11　1.5+2.25+1.46+1.91 [1.78]
	61	３×５ 総 ２方庇 東西	Ｎ12°Ｅ	166.40	Ｈ-７Ｈ-８	27.4	52.9	80.3	Ｐ１－５　1.38+2.05+1.35+1.98 [1.69]
43									Ｐ３－１　2.1+2.3 [2.2]
									Ｐ６－４　2.4+2.1 [2.25]
									Ｐ９－７　2.4+2.1 [2.25]
									Ｐ16-13　1.4+1.2+1.8 [1.46]
	62	２×４ 総	Ｎ12°Ｅ	166.80	Ｈ-７			32.8	Ｐ12-10　2.3+1.9 [2.1]
									Ｐ３－１　1.8+1.42 [1.61]
	63	１×２	Ｅ12°Ｓ	166.80	Ｇ-８			15.5	Ｐ６－５　3.1
									Ｐ３－１　2.32+1.9 [2.11]
	64	２×３	Ｎ76°Ｅ	166.50	Ｅ-７Ｆ-７			29.8	Ｐ８－６　2.0+2.3 [2.15]
44									Ｐ６－１　2.14+2.24 [2.19]
	65	２×５　２方庇 東西	Ｎ10°Ｅ	167.00	Ｅ-８Ｅ-９Ｆ-８Ｆ-９	48.7	24.5	73.2	Ｐ１-13　2.4+2.4 [2.4]
									Ｐ１－７　2.2+2.26 [2.23]
									Ｐ２-10　2.2+2.4 [2.3]
									Ｐ12-４　2.1+2.6 [2.35]
	66	２×３ 総	Ｎ10°Ｗ	165.90	Ｂ-５Ｂ-６Ｃ-５Ｃ-６			38.4	Ｐ11-３　2.1+2.9 [2.5]
45									Ｐ３－９　1.9+1.5 [1.7]
									Ｐ１－７　1.8+1.5 [1.65]
	67	２×２ 総	Ｎ３°Ｅ	166.40	Ｇ-４Ｈ-４			14.3	Ｐ２－８　1.8+1.4 [1.6]
									Ｐ１－９　2.2+2.2 [2.2]
									Ｐ２-10　2.2+1.8 [2.0]
									Ｐ12-４　2.1+2.2 [2.15]
	68	２×３ 総	Ｅ１°Ｓ	165.00	Ｆ-３			22.8	Ｐ11-３　2.0+2.1 [2.05]
46									Ｐ４－１　2.1+1.3+1.6 [1.67]
	69	３×３	Ｎ１°Ｅ	164.80	Ｆ-３			27.5	Ｐ10-７　1.9+1.7+1.65 [1.75]
	70		Ｎ12°Ｗ	165.00	Ｂ-２Ｃ-２				Ｐ２－１　2.5
									Ｐ６－１　1.5+1.7+1.3+2.26+1.56 [1.66]
	71	５×５	Ｎ10°Ｗ	164.80	Ｂ-０Ｂ-１Ｃ-０Ｃ-１			76.3	Ｐ16-11　1.6+1.36+1.46+1.8+1.82 [1.60]
47									Ｐ１－８　2.3+2.1 [2.2]
									Ｐ10-３　2.64+2.3 [2.47]
	72	２×３	Ｎ13°Ｗ	164.70	Ｂ-０Ｃ-０			31.2	Ｐ11-４　2.2+2.3 [2.25]
									Ｐ１-14　1.7+2.5+2.0 [2.06]
	73	３×５	Ｎ69°Ｅ	164.60	Ｂ-（-１）Ｂ-０Ｃ-０			46.3	Ｐ９－６　1.7+1.7+1.8 [1.73]

番号	桁 m　[平均値]	庇 m　[平均値]
40	P16-3　1.8+2.1+1.5 [1.8]	P17-24　1.4+2.1+2.16+2.7+1.76+2.0+0.96 [1.86]
41	P22-30　2.0+2.5+2.2+1.8+2.5 [2.2]	
	P21-29　2.0+2.3+2.4+1.6+2.6 [2.18]	
	P17-24　2.5+2.5+2.3+1.7+2.4 [2.28]	
	P 1-33　2.8+1.7+2.3+2.2+2.6 [2.32]	
42	P 1-12　1.7+2.7+2.1+2.3+2.0 [2.16]	P17-20　1.9+2.7+2.1 [2.23]
	P 4-9　2.1+2.3+2.3+1.9+1.9 [2.1]	
43	P12-1　2.3+2.0+2.5+2.0+2.2 [2.2]	P30-27　4.7+2.1+1.1 [2.63]
	P 9-4　2.1+2.1+2.1+2.1+2.1 [2.1]	P20-17　0.96+1.9+4.9 [2.58]
		P27-20　1.1+2.3+2.3+2.0+1.9+2.2+1.2 [1.85]
44	P 1-7　2.1+2.1+2.1+2.1+2.1+2.0 [2.08]	
	P 8-13　2.0+2.3+2.1+1.9+4.3 [2.52]	P56-61　1.8+2.5+2.76+1.8+1.8+1.8 [2.07]
	P14-20　2.0+2.4+2.0+2.1+2.1+2.2 [2.13]	P55-49　2.5+2.8+1.4+2.1+1.7+1.5 [2.0]
	P21-27　1.9+2.1+2.5+2.0+2.2+2.1 [2.13]	P49-42　1.5+1.9+2.2+2.0+2.0+2.2+1.9 [1.95]
	P28-34　2.1+1.7+2.6+2.1+2.0+2.1 [2.1]	
	P35-41　2.0+1.5+2.04+2.8+2.9+1.5 [2.12]	
45	P 1-9　2.2+2.0+2.0+1.6 [1.95]	
	P 7-3　1.8+2.0+1.9+1.9 [1.9]	
46	P 1-12　1.6+1.98+3.86 [2.48]	
	P 8-5　1.7+1.8+2.1+1.88 [1.87]	
47	P 1-12　3.0+3.7+2.4 [3.0]	
	P 8-5　2.9+2.2+3.0 [2.7]	
49	P 8-1　2.2+1.9+2.2+2.1+2.0+2.1+2.1 [2.08]	
	P18-11　2.1+1.94+2.0+2.1+2.1+2.2+2.2 [2.09]	
48	P 1-17　2.1+2.0+2.1+1.9+2.2+2.5+1.8+2.2 [2.1]	
	P13-5　2.2+2.4+2.3+1.34+2.0+2.1+2.5+1.9 [2.09]	
50	P 5-1　1.76+1.46+1.4+1.5 [1.53]	
	P 6-9　2.8+1.32+1.5+1.8 [1.85]	
	P10-14　1.9+1.4+1.6+1.9 [1.7]	
51	P 1-10　2.26+2.2+2.4+2.1+2.34 [2.26]	
	P 8-3　2.2+2.2+2.1+2.3+2.3 [2.22]	
52	P 1-15　2.4+2.2+2.5+2.0 [2.27]	
	P10-6　3.5+2.2+1.9+2.3 [2.47]	
53	P 5-1　0.8+1.88+1.8+1.9+2.0 [1.67]	
	P12-8　2.0+2.1+2.0+2.1 [2.05]	
55	P 1-10　2.3+1.4+2.0 [1.9]	
	P 7-4　1.9+2.0+2.1 [2.0]	
54	P 5-1　1.6+2.3+1.2+2.1 [1.8]	
	P12-8　1.9+1.1+2.0+2.0 [1.75]	
56	P 4-1　2.2+1.9+2.2 [2.1]	
	P 8-5　2.2+2.1+2.1 [2.13]	
	P 9-12　2.2+2.1+2.2 [2.16]	
57	P 8-1　1.4+1.6+1.6+1.94+1.7+1.8+1.94 [1.71]	
	P18-12　2.2+1.8+1.8+1.6+2.6+2.2 [2.03]	
58	P 3-1　5.0+2.2 [3.6]	
	P 8-5　1.9+2.0+2.4 [2.1]	
59	P 1-11　1.9+1.6+1.8+1.5 [1.7]	
	P 8-4　1.8+1.8+1.6+1.6 [1.7]	
60	P 1-13　1.8+1.8+1.1+1.5 [1.55]	
	P 9-5　1.6+1.6+2.8 [2.0]	
61	P 1-27　1.96+1.9+1.8+1.8+2.0 [1.89]	P37-32　2.1+1.6+1.9+1.8+2.0 [1.88]
	P 2-28　2.0+1.9+1.9+1.66+2.1 [1.91]	
	P 3-29　1.8+2.1+2.1+1.8+1.8 [1.92]	
	P30-4　1.8+1.5+2.0+0.84+1.8 [1.58]	
	P31-5　2.2+1.6+1.8+2.0+1.9 [1.7]	
62	P 1-13　1.76+1.8+1.8+1.8 [1.79]	
	P 2-15　2.0+1.4+2.2+1.9 [1.87]	
	P16-3　1.8+1.9+1.7+1.8 [1.8]	
63	P 1-6　2.5+2.4 [2.45]	
	P 5-3　2.26+2.5 [2.38]	
64	P 1-8　2.5+2.1+1.9 [2.16]	
	P 6-3　2.0+2.0+2.8 [2.26]	
65	P 6-1　2.0+2.1+2.2+2.1+2.0 [2.08]	P26-21　2.1+2.1+2.1+1.9+2.2 [2.08]
	P13-8　2.1+2.2+2.0+2.1+2.24 [2.12]	P15-20　2.1+2.2+2.2+2.1+2.0 [2.12]
66	P 4-1　3.1+2.2+2.6 [2.63]	
	P 8-5　3.3+2.4+2.76 [2.82]	
	P 9-12　2.4+2.3+3.7 [2.8]	
67	P 3-1　2.2+2.1 [2.15]	
	P 6-4　2.04+1.92 [1.98]	
	P 7-9　2.2+2.0 [2.1]	
68	P 4-1　1.8+1.6+1.9 [1.76]	
	P 8-5　2.0+1.6+2.1 [1.9]	
	P 9-12　2.1+1.7+1.6 [1.8]	
69	P 1-10　2.0+1.7+2.0 [1.8]	
	P 7-4　2.0+1.7+1.6 [1.76]	
70	P 5-2　2.0+2.4+2.0 [2.13]	
71	P 1-16　1.7+2.0+1.9+1.9+1.9 [1.68]	
	P11-6　2.2+1.64+2.0+1.4+1.8 [1.80]	
72	P 4-1　2.2+2.2+2.5 [2.3]	
	P 7-5　2.4+4.8 [3.6]	
	P 8-11　2.4+2.2+2.7 [2.43]	
73	P 6-1　1.5+1.8+1.8+1.6+1.6 [1.66]	
	P14-9　1.6+1.6+1.6+2.0+1.4 [1.24]	

第3表　ＳＢデータ3

挿図	番号	規格 梁×桁	方位	検出レベル m	グリット	身舎面積	庇面積	総面積	梁 m［平均値］Ｐ＝ピット番号
						㎡			
48									Ｐ5-1　2.1+1.9+2.5+2.4 [2.23]
									Ｐ10-6　2.4+1.7+2.8+2.4 [2.32]
					A-0 B-(-1)　B-0				Ｐ15-11　2.7+2.2+2.5+2.8 [2.55]
									Ｐ21-25　2.5+2.2+2.9+2.3 [2.48]
	74	4×4 総	N12° W	164.60	C-(-1)　C-0			90.4	Ｐ16-20　2.5+2.4+2.5+2.3 [2.42]
49									Ｐ3-1　2.28+1.98 [2.13]
									Ｐ6-4　2.22+2.2 [2.21]
									Ｐ9-11　2.1+2.2 [2.15]
	75	2×3 総	N1° E	165.00	A-0 A-1 B-0 B-1			26.0	Ｐ7-8　4.4
									Ｐ1-16　1.5+1.9+1.4 [1.6]
									Ｐ2-17　2.0+1.7+1.8 [1.83]
									Ｐ3-18　1.9+1.3+1.9 [1.7]
									Ｐ20-5　2.2+1.3+2.3 [1.93]
	76	3×4 総	N75° E	164.90	A-1 B-1 B-2			41.6	Ｐ19-4　1.85+1.7+1.9 [1.82]
50									Ｐ5-1　1.9+1.7+1.6+1.6 [1.7]
									Ｐ9-6　1.6+1.8+1.7 [1.7]
									Ｐ13-10　1.5+1.9+1.4 [1.6]
									Ｐ14-16　1.4+1.8 [1.6]
									Ｐ17-19　1.8+1.6 [1.7]
									Ｐ20-22　1.5+1.9 [1.7]
	77		N66° W	164.80	A-1 B-1 B-2				Ｐ23-25　1.6+1.5 [1.55]
51									Ｐ1-8　2.3+1.9 [2.1]
									Ｐ10-3　2.1+1.9 [2.0]
	78	2×3	N82° E	164.40	Y-1			27.1	Ｐ11-4　2.0+2.0 [2.0]

ここからのピットには柱痕跡が確認されたが、この柱を補強するためか柱痕跡の周囲に粘土が出土した。ＳＨ－20は６本柱で東西面に２本・南北面に１本の対応が見られる。出土物は皿**１・２**が出土した。何れも底部は糸切りである。

ＳＨ－21は２本柱で出土物は皿**１**・底部資料**2**。ＳＨ－22は中央にカーボン層が検出。南北軸でピットが検出された。遺構北側には床面より10cmの溝状掘り込みが壁に沿い検出され、ＳＨ－19と類似している。出土物は土師皿**１**（底部調整は糸切り）

ＳＨ－23は床面での検出であったが遺構南側に１本の柱を持つ遺構である。全体に硬化面が広がるが、柱穴横より皿**４・3**、小坏**２・１**（底部調整は糸切り）が積み重なり出土した。廃棄儀礼の一種か（写真図版８　No.26参）。

6　土壙墓　（ＳＫ）（第71－130図）

本遺跡から214基の土壙墓が検出された。まず土壙墓と認識するにあたり以下の条件を提示する。

Ａ類　人骨を伴うもの
Ｂ類　木棺が存在しているもの
Ｃ類　供献物としての遺物が確認できるもの
Ｄ類　死床面に特徴があるもの
をＳＫ（土壙墓）としたが、
Ｅ類　墓域内に存在しているもの
Ｆ類　形状その他に特徴があるもの
の２類もその可能性が高くここにＳＫ（土壙墓）とした。ＳＫ（土壙墓）の解説にあたり以上の類例に沿っていくがこれらの特徴を兼ねる遺構もあり、類例の早い順に沿い紹介していく。またＢ類については木棺部分にトーンを使用した。

Ａ類

人骨の出土はいずれも骨小片または骨粉の状態であるが人骨出土はＳＫ－16・169・206の３基が確認された。以上は鑑定が可能であった。鑑定は土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムの松下孝幸館長に依頼し、その詳細は第Ⅲ章　科学分析「人骨」で述べる。

ＳＫ－16

楕円形のプランを持ち、木棺は確認されなかった。遺構の北端は撹乱をうけており、これにより人骨を破壊されている。残存から歯及び人骨が出土したが、鑑定によりＭ（大臼歯）が３点・上腕骨・大腿骨・頸骨・足根骨・骨種不明の四肢骨片が確認された。四肢骨の径が小さいことから女性と推定されている。

ＳＫ－169（写真図版５　No.19参）

円形のプランに円形の木棺を持つ遺構で、丸形の死床面直上で人骨が検出された。頭蓋・四肢骨が認められ、頭蓋の上下顎には歯が確認された。歯はＩ（切歯）・Ｃ（犬歯）・Ｐ（小臼歯）Ｍ（大臼歯）が確認された。遺構には坏２点・小坏２点が出土している。いずれも完形で底部は糸切り切り離しである。検出時において坏２点・小坏２点が認められたが、整理時の坏１点が紛失した。しかしこの紛失し

番号	桁 m　[平均値]	庇 m　[平均値]
74	P 1 -21　2.5+2.4+1.8+3.0 [2.42]	
	P 2 -22　2.5+2.4+2.1+2.9 [2.47]	
	P 3 -23　1.8+2.8+2.0+2.9 [1.87]	
	P24- 4　2.9+2.1+2.6+1.9 [1.62]	
	P25- 5　2.4+2.7+2.2+2.3 [2.4]	
75	P 1 - 9　1.9+2.0+2.0 [1.96]	
	P 2 -10　2.4+4.0 [3.2]	
	P11- 3　1.9+2.1+2.0 [2.0]	
76	P 5 - 1　2.0+2.5+1.6+1.4 [1.87]	
	P10- 6　2.4+2.2+1.8+1.5 [1.97]	
	P16-20　1.6+2.1+2.0+2.2 [1.97]	
	P11-15　1.6+1.6+2.4+2.2 [1.95]	
77	P 1 -23　1.7+1.5+1.8+2.2+1.5+2.0 [1.78]	
	P 2 -24　1.8+1.5+1.8+2.1+1.8+1.9 [1.81]	
	P 3 -25　2.1+1.6+2.0+1.9+1.9+1.7 [1.86]	
	P 4 -13　2.0+1.6 [1.8]	
78	P 4 - 1　2.3+2.1+2.1 [2.16]	
	P 8 -11　2.2+2.2+2.3 [2.23]	

た坏は遺物1と同型と思われる。この遺物は検出状況が散乱した感を受けることから、木棺上に配置された遺物が棺の崩壊とともに転落したものと想定される。遺物は供献物と考えられ、この遺構はA類・B類・C類の性格を持ち、さらに墓域内に存在することからD類の性格も帯びる。

ＳＫ－206（写真図版２　No.４・５参）

隅丸長方形のプランを持つ。遺構北端に半円状に骨粉が検出された。鑑定により成人頭蓋骨の一部と思われる。このことから遺体は北方向に頭部を位置する配置となる。また遺構の長軸の両端に土師器坏10点・骨粉の西側に輸入磁器白磁碗Ｉ１の底部から口縁部までの破片2・唐式鏡1は対角に半裁されて三角形状を呈している。これらは供献物と想定され、木棺は検出されなかったが、土師器坏の出土状況は転回しており、ＳＫ－169に見られたように木棺上に配置された遺物が木棺部の崩壊と共に転落したものであるか。したがってこのＳＫ－206は木棺の存在も想定される。土師器坏はほぼ完形・輸入磁器は残存1/5程で唐式鏡は半裁され、切り口は加工されている。したがって人骨を伴うＡ類と供献物としての遺物が確認されるＣ類の遺構である。

Ｂ類

Ｂ類は棺を伴う遺構で214土壙墓中142基に確認された。棺はプランが認められることと、釘の出土が数例あることから木棺と想定され、木棺部はスクリーントーンで提示した。遺構プラン及び木棺の形態は遺構データ（第７・８表）に提示した。木棺腐敗後、木棺上部は崩壊しているため、底部に痕跡を残すものが多く、従って木棺検出は遺構中位から下位であった。木棺は長方形と方形・円形に大別できるが、これは遺体設置の際、伸棺と座棺の差異か。

またＳＫ－１・８・10・36・37・75・159・198は鉄製品が出土しているが、形状から釘と想定され、木棺の制作に使用されたことを窺わせるものである。ＳＫ－37出土の鉄製品は釘の完形に近い遺物で釘の先端がＬ字状に湾曲している。この先端を意図的に湾曲させたならば、木棺を打ち抜いた際の「留め」の痕跡であるか、そうであれば木棺厚みは2.5cm程か。

木棺は床直上に設置する例と最下層に設置する例がある。後者は土坑を最初掘り上げ木棺を置く面を形成したものであろうか。またＳＫ－35は遺構西端部の床直上に径12cm程の円石が出土した。木棺の端部に位置し、またこの円石直上に木棺が検出されたことから、木棺を支えるか固定のためと思われる。またＳＫ－146・147・151・176・198には木棺検出面で大型の礫が出土している。しかも木棺の中央に位置している傾向がある。木棺腐敗し現位置は崩落に伴うものであるが、中央にこれが位置することから、棺上に蓋・重石的な要素を持って置かれたものか。

木棺を有する遺構であるが供献物と想定される遺

物が共伴している出土例がある。つまりＢ類の木棺の存在とＣ類の供献物の出土としての遺物が確認されるものである。ＳＫ－９・17・37・45・63・128・207にこれが見られる。ＳＫ－34は断面で木棺ラインを検出したため点線で表記した。

Ｃ類

Ｃ類は供献と想定される遺物が出土している土壙墓である。供献物には種別として土師器・輸入磁器・鏡が確認された。またこれらには完形と破片がある。

ＳＫ－３

楕円形のプランに木棺はないが西端部の床よりやや浮いた状態で遺物１が出土した。輸入磁器片（同安窯Ｉ１）で残存2.5cm程である。

ＳＫ－４

やや大型の遺構で長方形のプランに短軸に２本のピットがある。床面での検出で遺構西端部より遺物１・２が出土している。1は土師器坏・２は碗である。１は完形であるが、2は1/3程欠く。ローリングを受けていないので後世の削平時に破損された可能性もある。プランがやや大型で土壙墓とは異なる遺構の可能性も想定される。

ＳＫ－５

隅丸長方形の北端に輸入磁器が４点出土している。遺物３・４は完形であるが２・５は破片である。検出面が床に近いので後世の耕作等により破壊された可能性もある。また遺物１は釘と思われ、木棺の存在も想定できる。

ＳＫ－９

遺物１は半裁の土師器で反転復元で口径9.2cmの小皿が木棺のやや端部で出土し、検出面より出土していることから流れ込みの可能性もある。

ＳＫ－17

遺物１が出土したことからこの周囲の清掃を行い、遺構の検出した。したがって図版では遺物はやや浮いた状態になっている。遺物１は輸入磁器の白磁小皿Ⅷ－１類である。遺物２は土師器皿で埋土内での出土である。反転復元で口径12.6cm底部は糸切り切り離しである。

ＳＫ－27

楕円のプランに方形の木棺を持つ遺構で、木棺南端部の床面より白磁皿片１が出土した。口縁部資料で残存度は１／10程度である。復元口径は11cm程になると思われる。

ＳＫ－37

長方形の木棺を有する遺構で、遺構プランは楕円形を呈するが、下位にピット状の掘り込みがある。遺構の形成からピット状の掘り込みに遺構が切り合う可能性が高い。木棺上層にて遺物２が出土した。輸入磁器の碗で底部から口縁部までの資料で、龍泉窯の青磁Ｉ類である。遺物３は土師器小皿で遺構下層から出土している。

ＳＫ－45

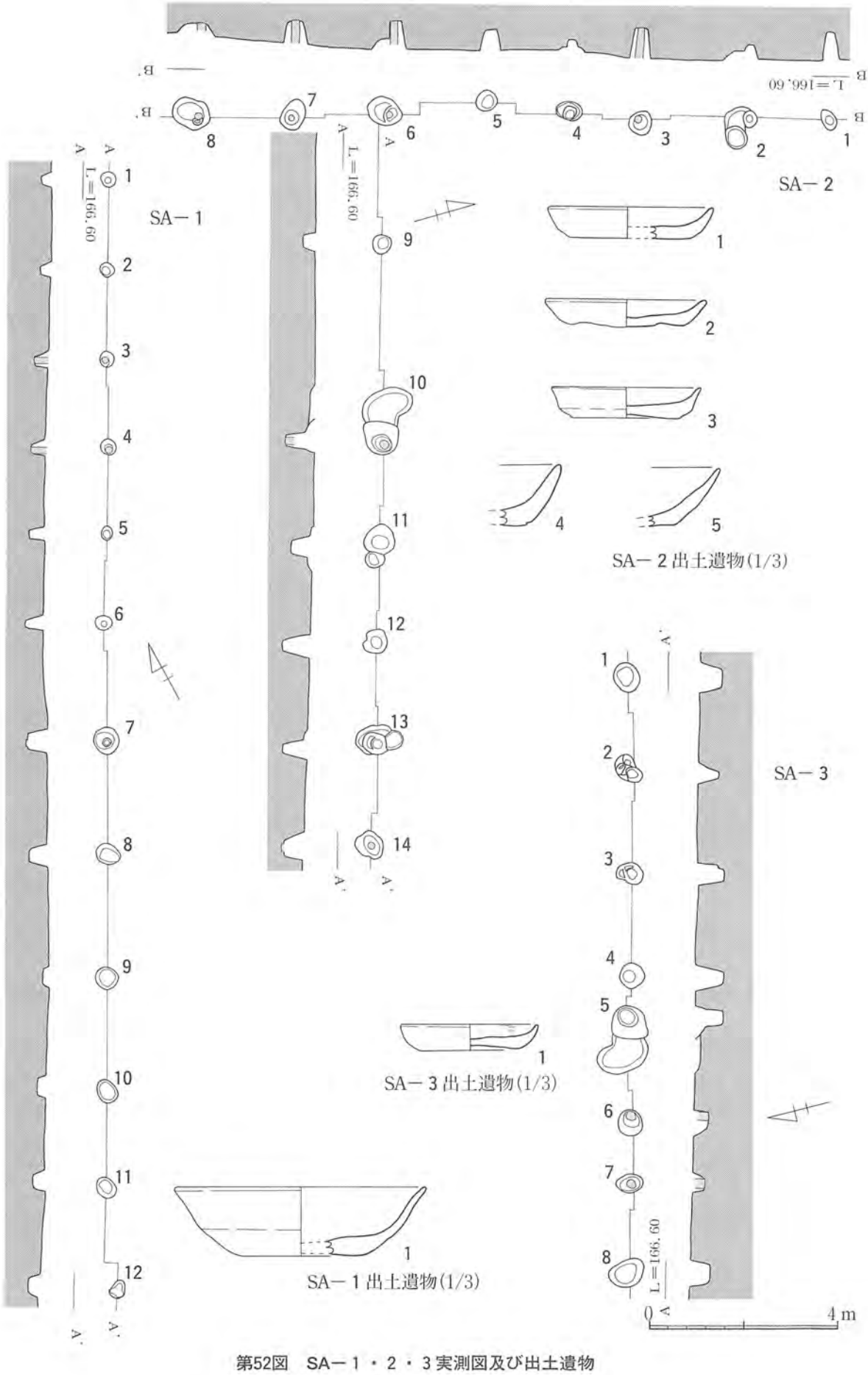
不定形のプランに円形の木棺を持つ遺構である。床直上から遺物１の須恵器が横転した状態で出土している。須恵器は瓶で９Ｃ項か。木棺の床直上には硬化面が見られる。

ＳＫ－63

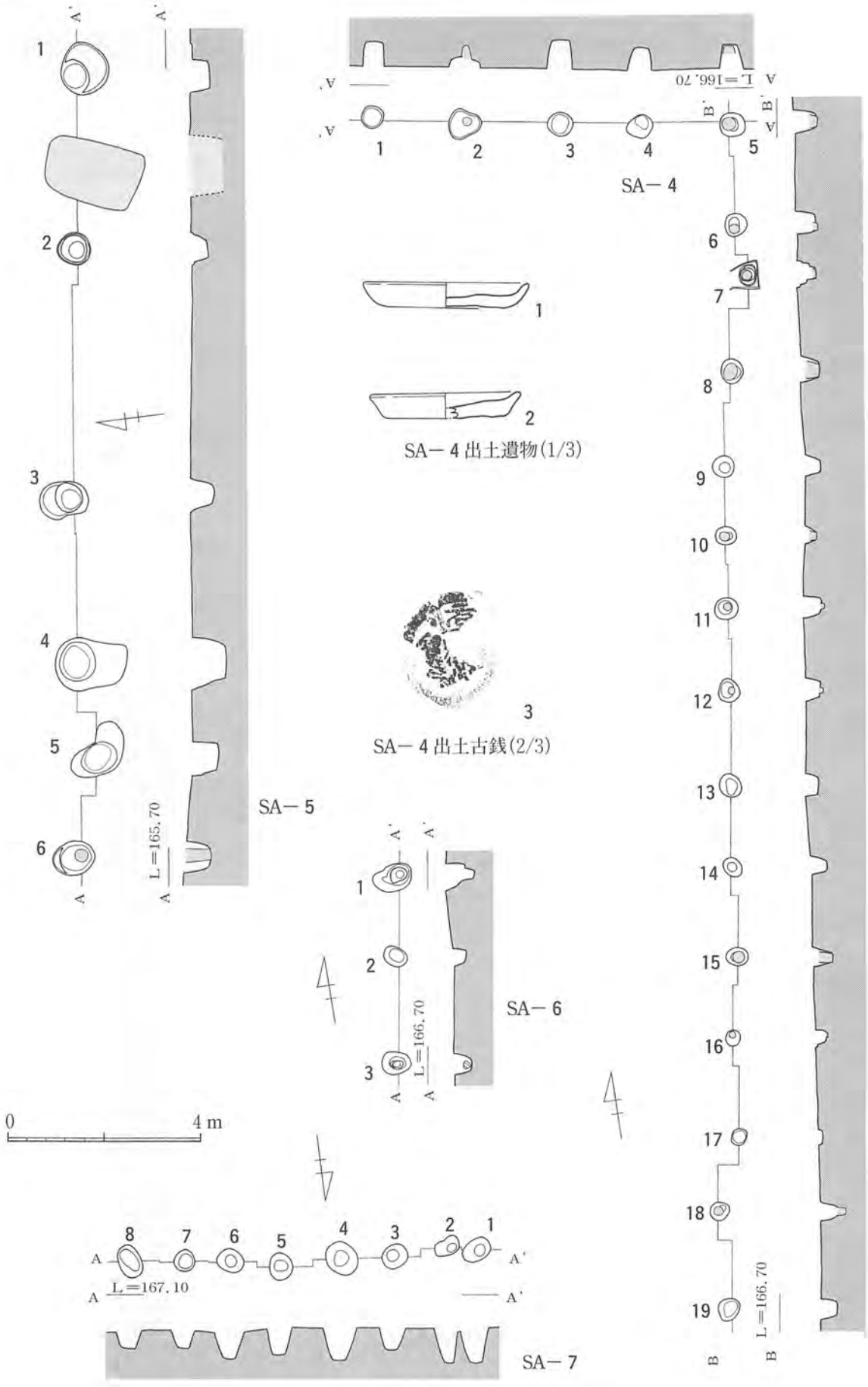
遺構東側は削平されていたため遺構全体のプランは明確でないが、方形を呈すると想定される。木棺は方形である。この木棺内床直上から遺物１が出土した。輸入磁器で青磁小碗であるが見事に半裁された遺物（写真図版４　No.14）。ⅢＩａ13Ｃ後半の遺物である。

ＳＫ－108

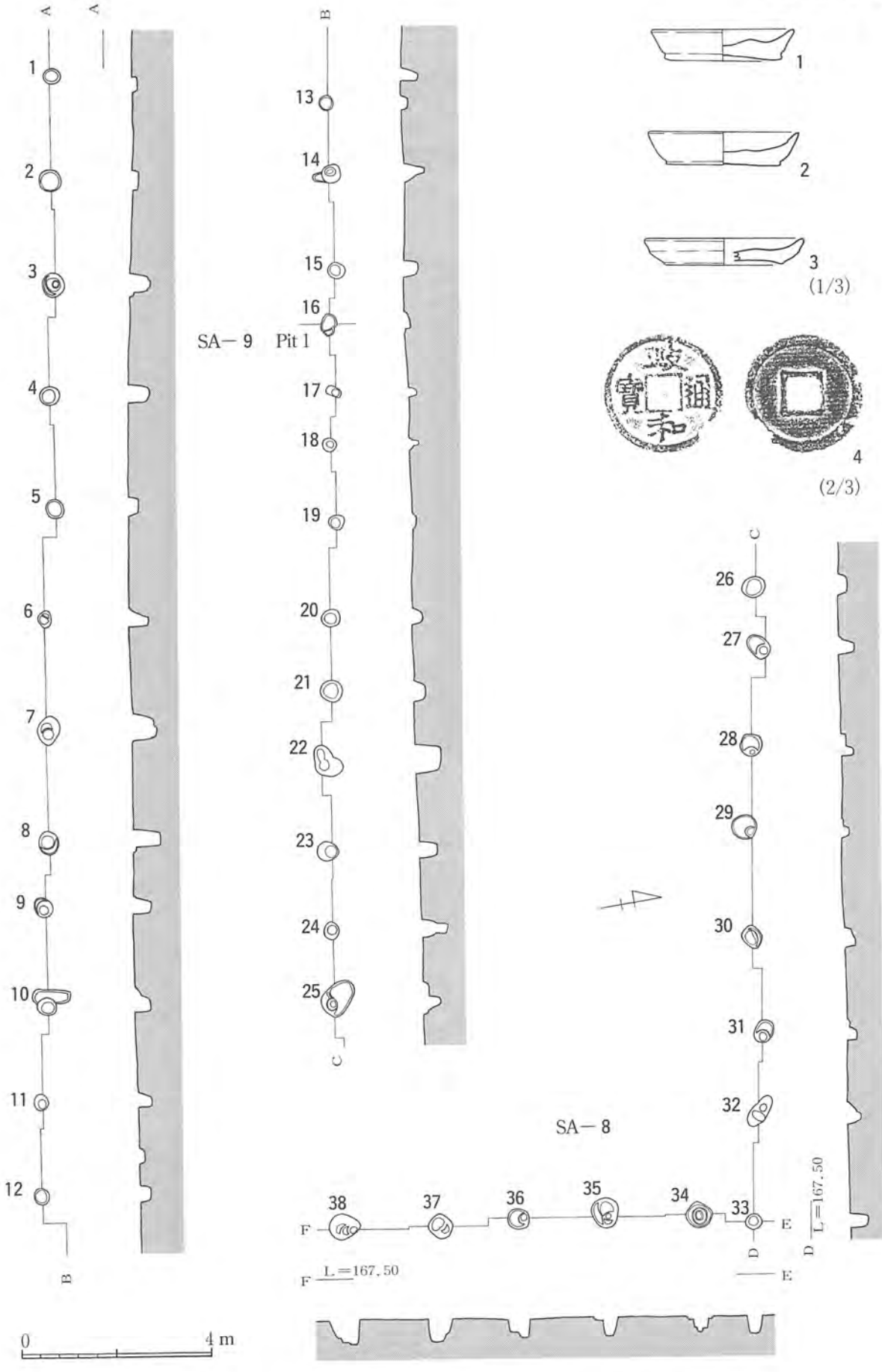
木棺部は検出されず、全体のプランだけであるが遺構の長軸に遺物１・２が出土した。遺物１は土師器片で碗であるが底部から体部の資料である。横転した状態でそれぞれ床よりやや浮いた状態での出土であった。遺物２（写真図版10　No.38）は土師器碗で完形資料である。全体に回転ヘラ磨きが施されている丁寧な調整が施されている。また一部には化粧土が観察される。玉縁が見られ器形は11Ｃ白磁を模倣したものか。また底部には鋭利な器具による細沈線が十字状に二条刻まれている。遺物１・２はいずれも調整に研磨が見られる。出土は床直上よりやや浮いた状態である。



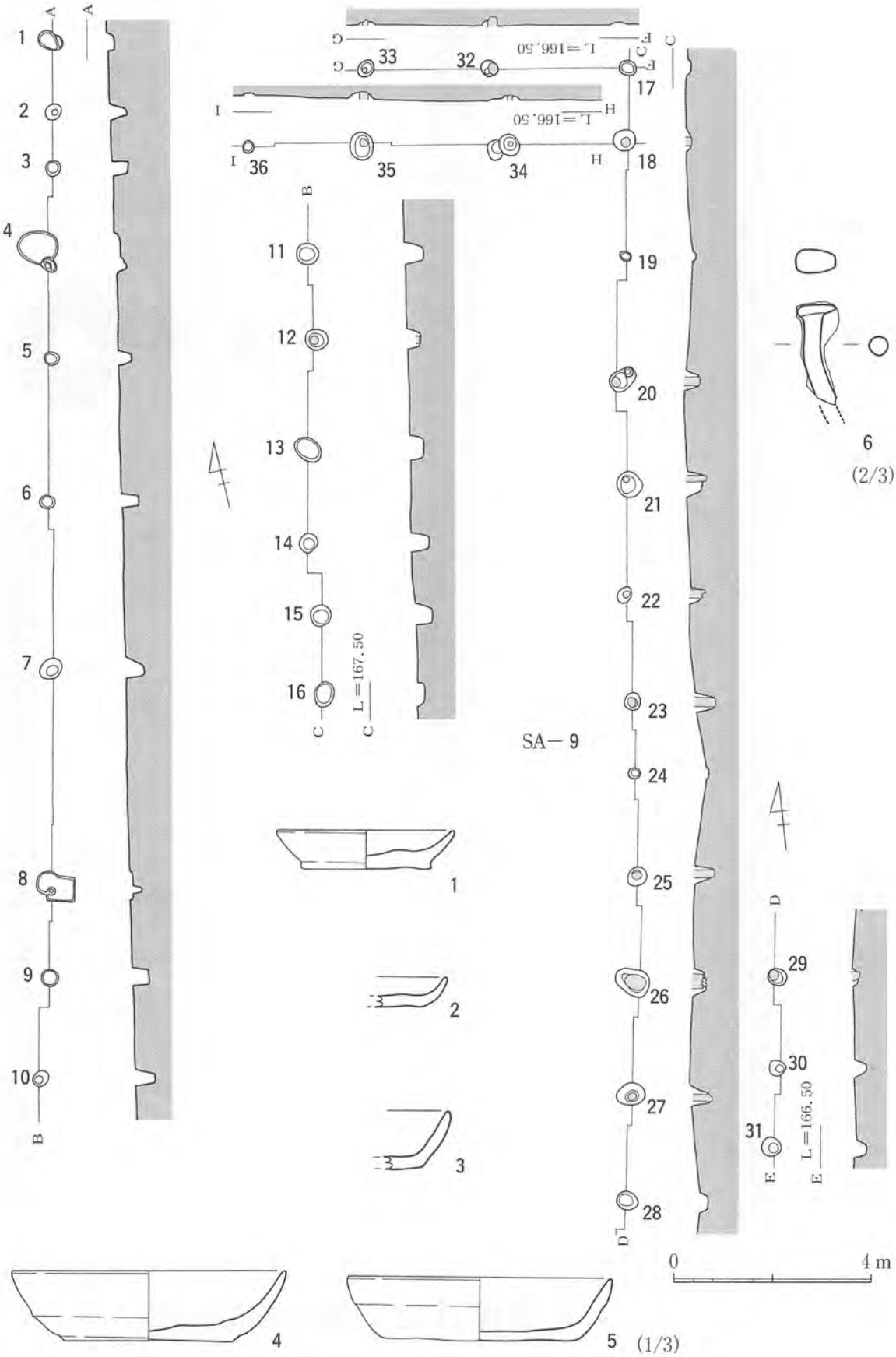
第52図　SA－1・2・3実測図及び出土遺物



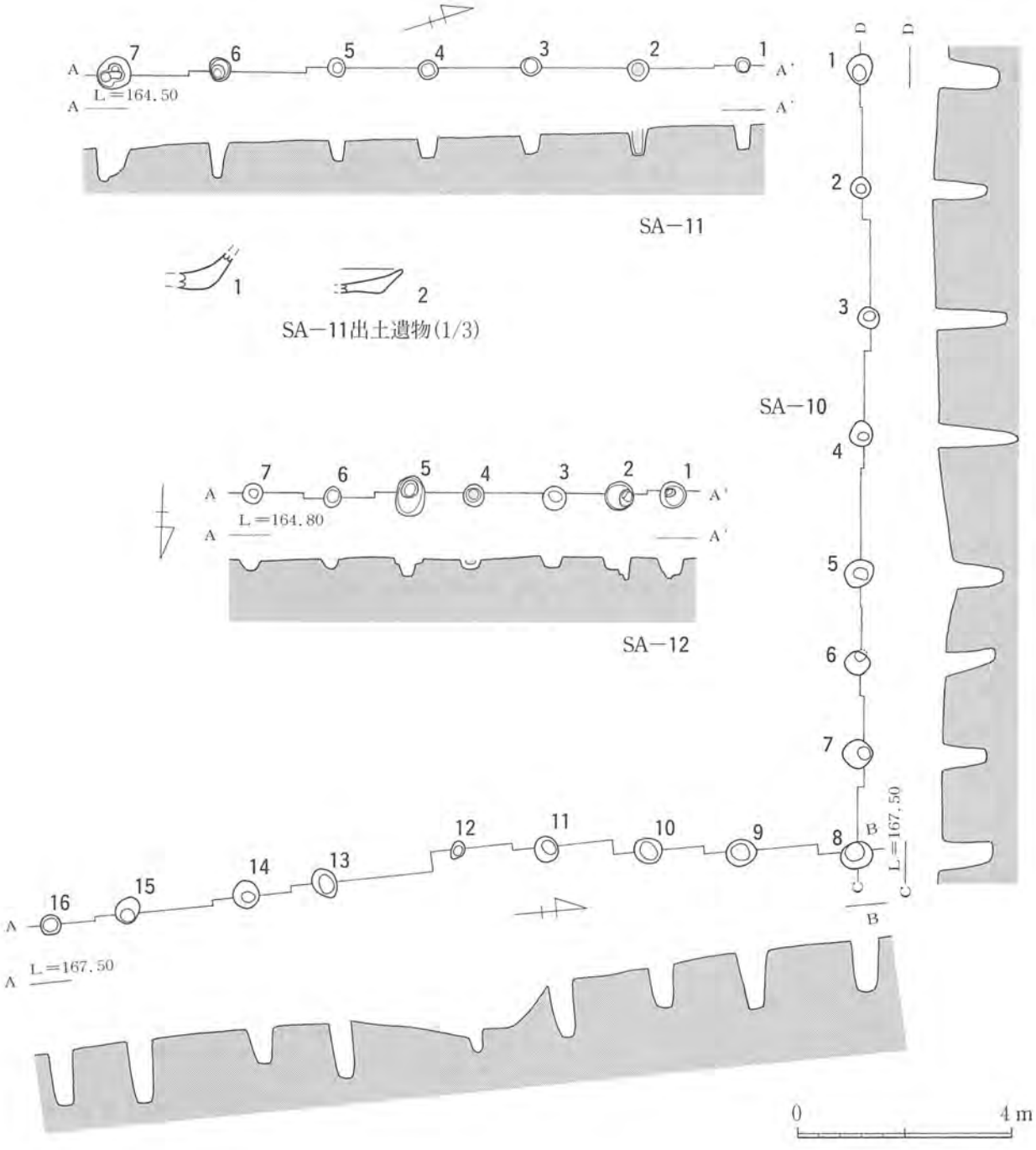
第53図　SA－4・5・6・7実測図及びSA－4出土遺物



第54図　SA－8実測図及び出土遺物



第55図　SA－9実測図及び出土遺物



第56図　SA−10・11・12実測図及びSA−11出土遺物

ＳＫ−128

ＳＫ−127・129と切り合い関係にあり127>128>129となる。木棺の床直よりやや浮いた状態で遺物1が出土した。遺物1は輸入磁器の壺の体部である。他の切り合い遺構には輸入磁器は認められなかった。

ＳＫ−205

北方向がやや膨らむ長方形のプランである。遺構南端に輸入磁器の遺物が6点出土した。1・6は碗で2・3・4・5は小皿である。1・6は白磁碗、2・3・4・5は青・白磁小皿。遺物に散乱が見られないことから床に設置されたと思われる。埋土は2層に分層できたが木棺は検出されなかった。中央に粘土塊、全体に砕いたカーボンを敷く状態での遺構で、カーボンは放射性炭素年代測定(C14)により

第4表　ＳＡデータ

挿図	番号	全長 m	グリット	柱間隔 m ［平均値］ P＝ピット番号
52	1	22.56	N-10 N-11 N-12	P 1-P 2　1.9+1.92+1.92+1.8+1.92+2.5+2.4+2.64+2.4+2.04+2.28 [2.16]
	2	30.00	K-8 K-9 L-8 M-8	P 1-P 8　1.4+2.0+1.2+1.5+1.7+1.75+1.65 [1.6]
				P 6-P14　2.3+3.6+1.7+1.8+1.8+1.8 [2.17]
	3	13.68	L-8 M-8	P 1-P 8　1.7+1.8+1.8+0.7+1.75+1.2+1.6 [1.51]
53	4	33.84	H-8 J-6 J-7 J-8	P 1-P 5　2.0+1.88+1.7+1.8 [1.85]
				P 5-P19　2.2+1.0+2.0+2.0+1.5+1.5+1.7+2.0+1.7+1.9+1.6+2.1+1.5+2.2 [1.78]
	5	17.52	J-5 K-5 L-5	P 1-P 6　2.0+1.6+5.1+2.4+2.0+2.0 [2.52]
	6	4.80	J-5	P 3-P 1　2.2+1.7 [1.95]
	7	8.16	E-8 F-8	P 8-P 1　1.2+0.93+1.0+1.3+1.1+1.3+0.5 [1.05]
54	8	70.80	E-12 F-12 G-12 H-12 H-12 J-12 K-12 L-11 L-12	P 1-P33　1.8+1.8+2.0+2.0+1.9+2.0+1.9+1.2+1.7+1.7+1.6+2.8+1.2+1.6+1.0+1.2+0.9+1.4 +1.6+1.2+1.2+1.6+1.4+1.3+1.8+1.0+1.7+1.4+1.9+1.7+1.2+2.0 [1.58]
				P38-P33　0.9+1.5+1.5+1.5+1.5 [1.38]
55	9	76.04	G-5 G-6 G-7 G-8 G-9 G-9 G-10 G-11 H-11 H-12	P 1-P36　1.2+0.95+1.65+1.55+2.4+2.8+3.7+1.5+1.7+1.8+1.45+1.8+1.6+1.7+1.3+1.2 +1.95+2.1+1.65+1.9+1.8+1.15+1.7+1.8+1.9+1.75+1.7+1.5+1.35 [1.69]
				P18-P36　1.95+2.5+2.0 [2.15]
				P17-P33　2.3+2.2 [2.25]
56	10	31.44	F-7 G-6 G-7	P 8-P16　1.75+1.45+1.55+1.45+2.1+1.2+1.9+1.2 [1.58]
				P 1-P 8　1.8+2.0+1.85+2.15+1.3+1.5+1.5 [1.73]
	11	12.60	K-3 K-4	P 1-P 7　1.6+1.7+1.6+1.4+1.9+1.8 [1.67]
	12	8.76	E-3 F-3	P 1-P 7　0.7+1.15+1.3+1.0+1.2+1.75 [1.18]

第5表　ＳＤデータ

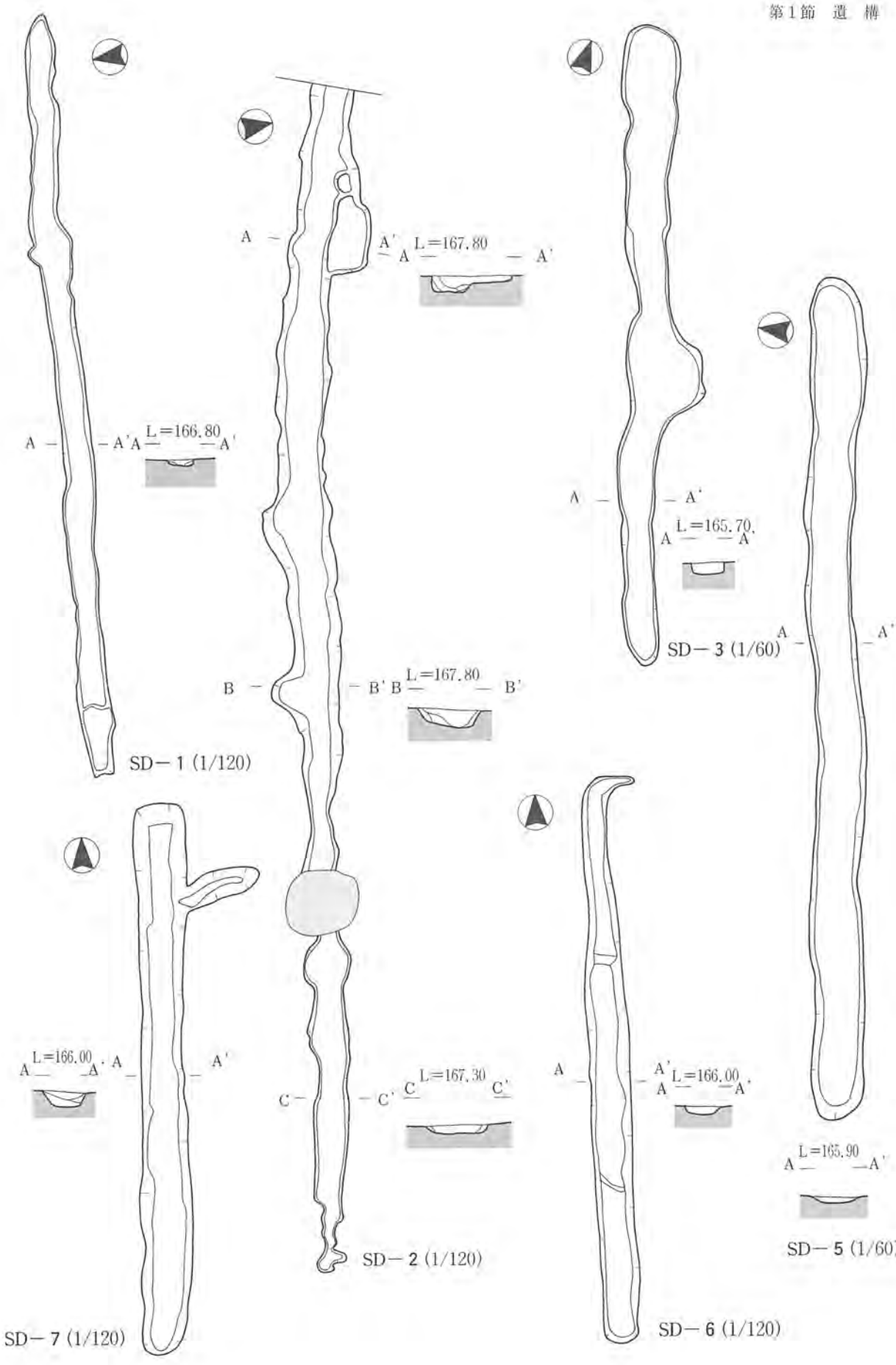
挿図	番号	全長 m	グリット
57	1	16.32	L-16 M-16 N-16
	2	25.48	G-16 H-16 J-16 K-16
	3	6.92	L-6 L-7
	5	9.10	H-6 J-6
	6	12.76	H-5 H-6
	7	11.88	H-6 H-6
58	8	82.24	E-5 D-5 D-6 D-7 D-8 D-9
	4	21.68	J-5 K-5 L-5
	9	32.64	A-(−1) A-0 Z-0 Z-1 Z-2
	10	23.76	Y-(−2) Y-(−1) Y-0 X-(−1) X-0 X-1
59	11	36.88	Z-2 Z-3 Y-2 Y-3 X-1 X-2 W-1 W-2

1950年－（900±40）の結果とカーボンの樹種同定ではコナラ属アカガシ亜属・クマシデ属イヌシデ節の結果がでている。詳細は第Ⅲ章科学分析を参考とされたい。Ａ類で紹介したＳＫ－206の人骨出土から北軸の遺体配置が想定され、ＳＫ－205も遺構北が膨んでいることから頭部は北方向と思われる。従って遺物は足元に配置されたことになる。ＳＫ－205はＣ類の供献物としての遺物の確認とＥ類の死床面の特徴と２つの特徴を持っている。

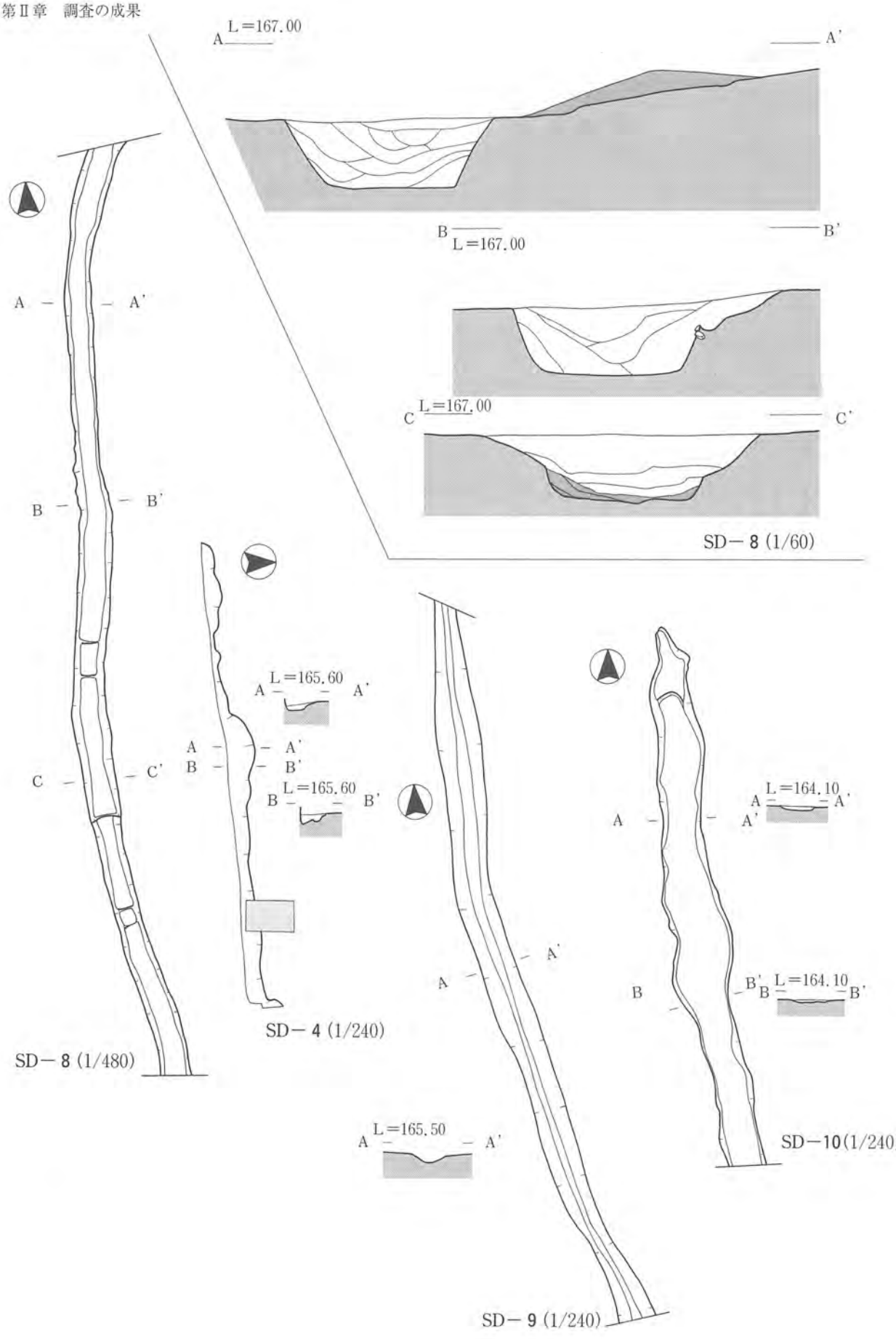
ＳＫ－207

遺物は５点出土した。**1**・**2**坏・**3**壺・**4**・**5**瓶である。**1**は完形であるが**2**は底部から体部の一部に丸く大穴がある。故意に操作したと思われる・他は反転復元資料である。

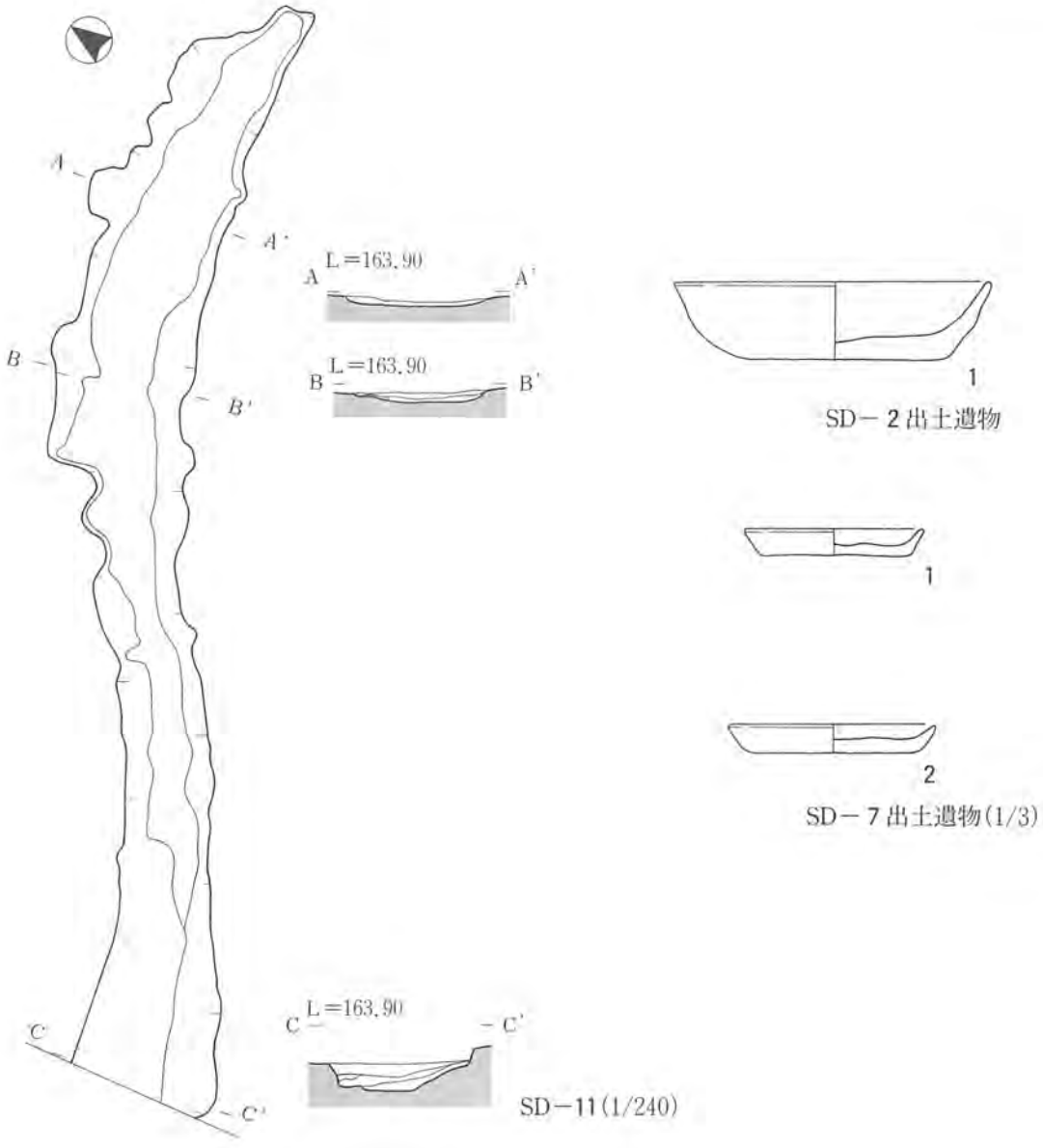
本遺跡の土壙墓はＳＫ－３・27・63・128・206からの事例にあるように輸入磁器の完形品ではなく破片を供献物としていることが想定されるが、他の土壙墓から輸入磁器が遺構埋土内より出土している。いずれも遺構中層～上層であるが、供献としての認定は困難であるが、第194図と第14表の観察表４においてそのデータを記載するに留めたい。



第57図　SD－1・2・3・5・6・7実測図



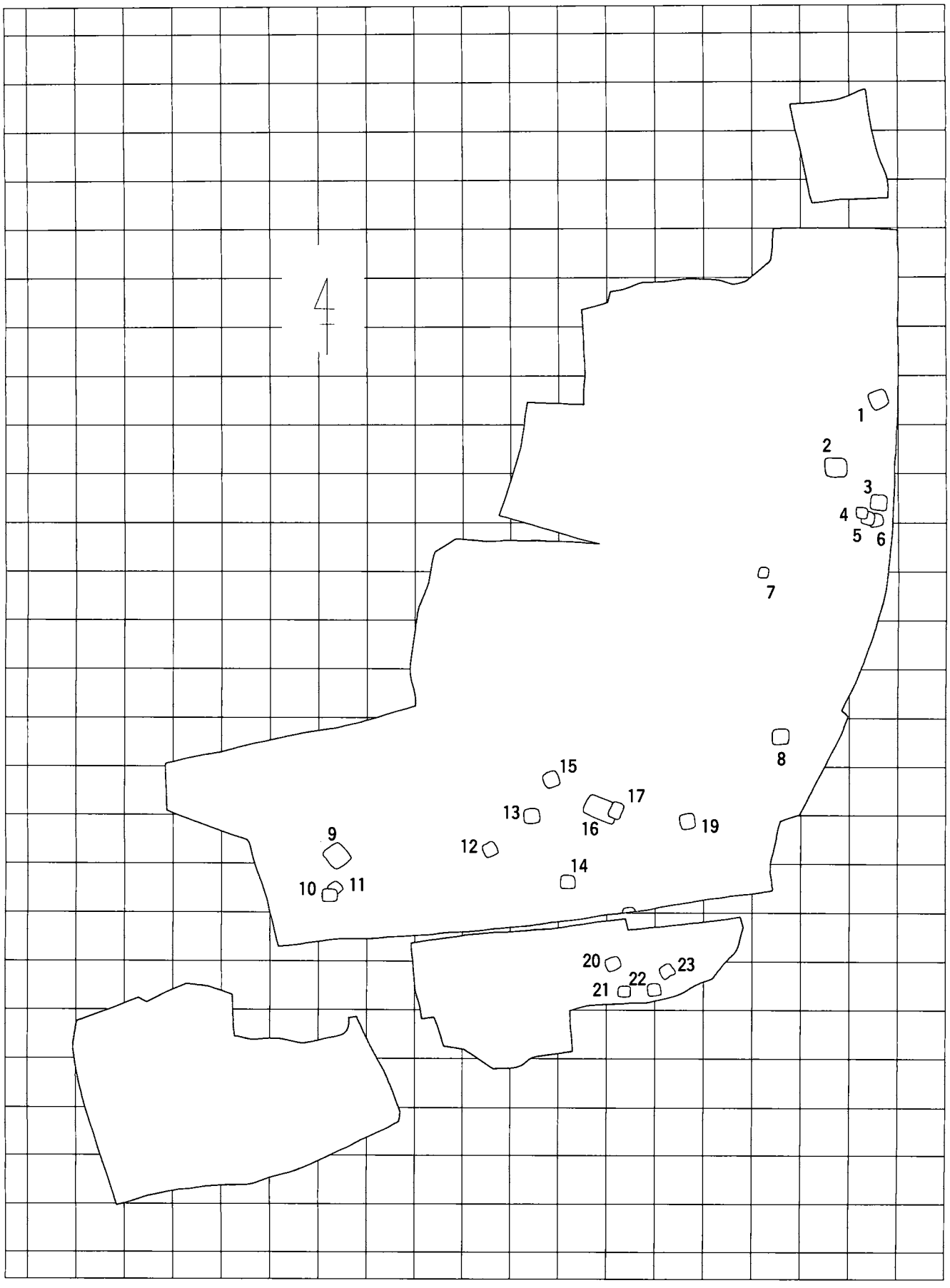
第58図　SD－4・8・9・10実測図



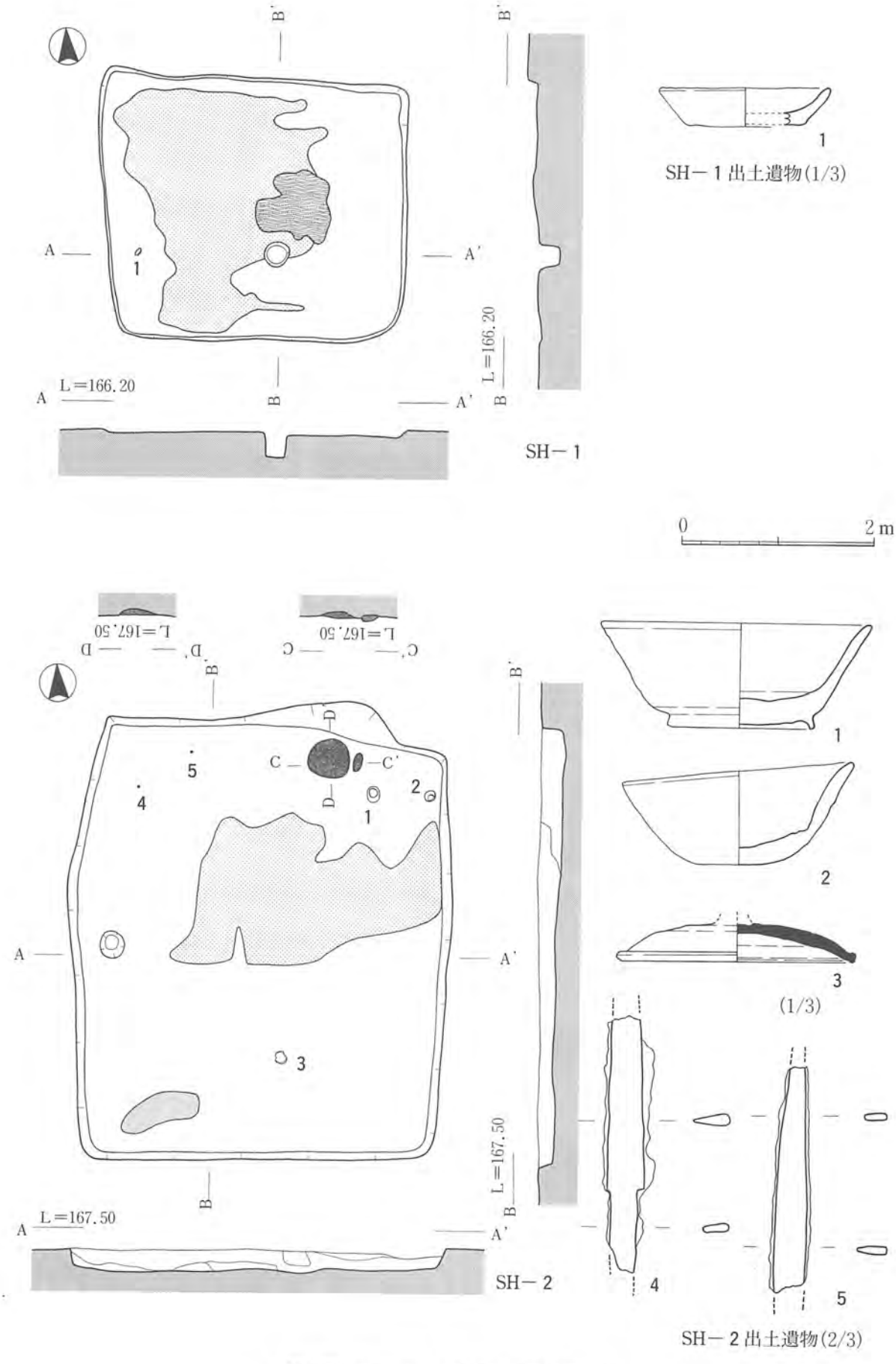
第59図　SD－11実測図及びSD－2・7出土遺物

第6表　SHデータ

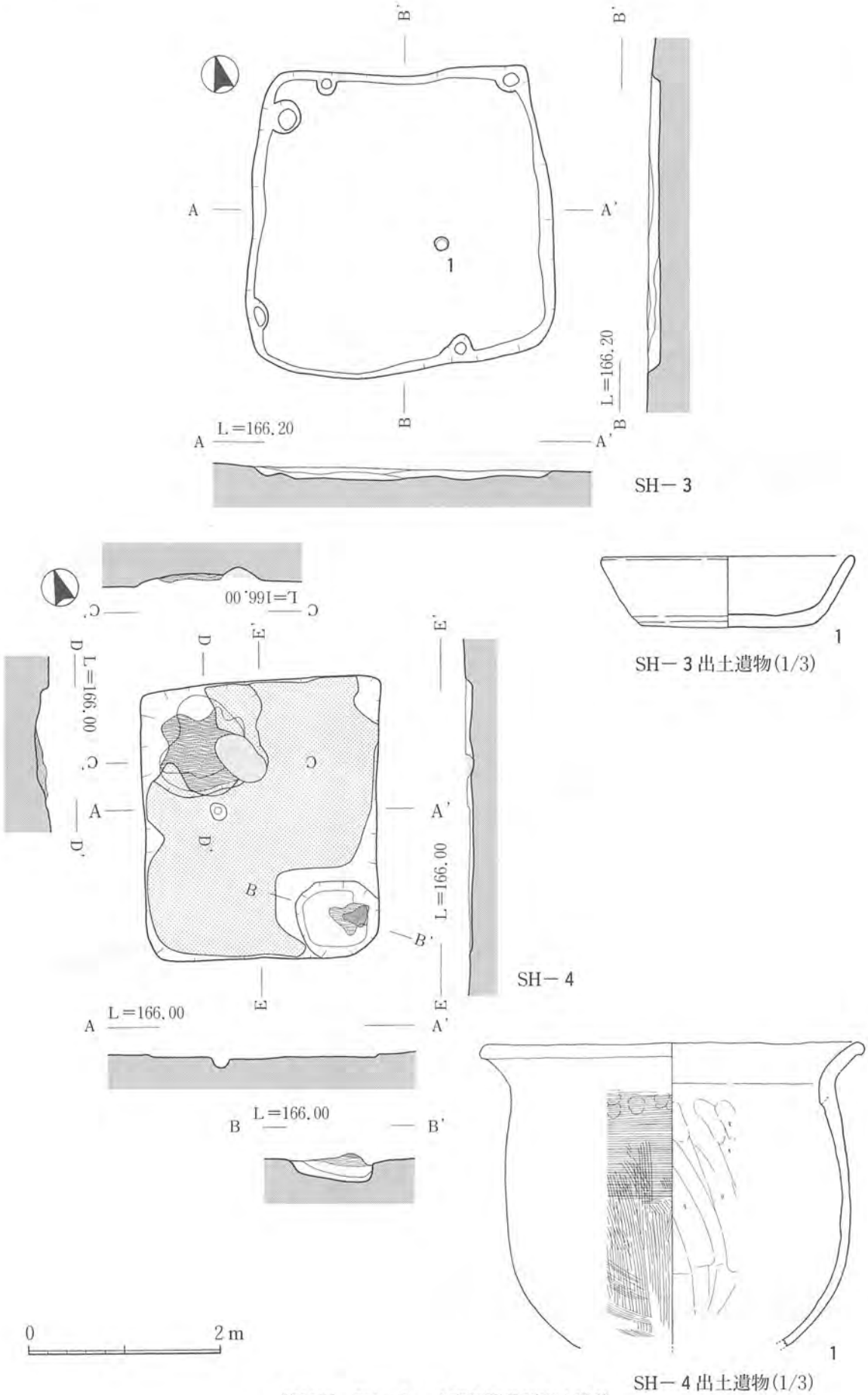
挿図	番号	グリット	面積 ㎡(推定)	挿図	番号	グリット	面積 ㎡(推定)
61	1	N-15　N-16	8.6	65	13	G-5	6.7
	2	N-14	16.7	66	14	F-6　F-7	7.8
62	3	N-13　N-14　P-13　P-14	9.5		15	F-7　G-7	9.6
	4	N-13	6.9	67	16	G-8　H-7　H-8	(32.0)
63	5	N-13	(10.4)		17	H-8	9.7
	6	N-13	(7.9)	68	18	H-5	
	8	M-8　M-9　L-8　L-9	6.8		19	J-6　J-7　K-6　K-7	8.5
64	7	L-12	2.8	69	20	H-3　H-4	7.3
	9	B-5　B-6	22.4		21	H-3	4.8
65	10	B-5	7.6	70	22	J-3	11.3
	11	B-5	(7.0)		23	J-3　J-4	9.2
	12	E-6　F-6	7.6				



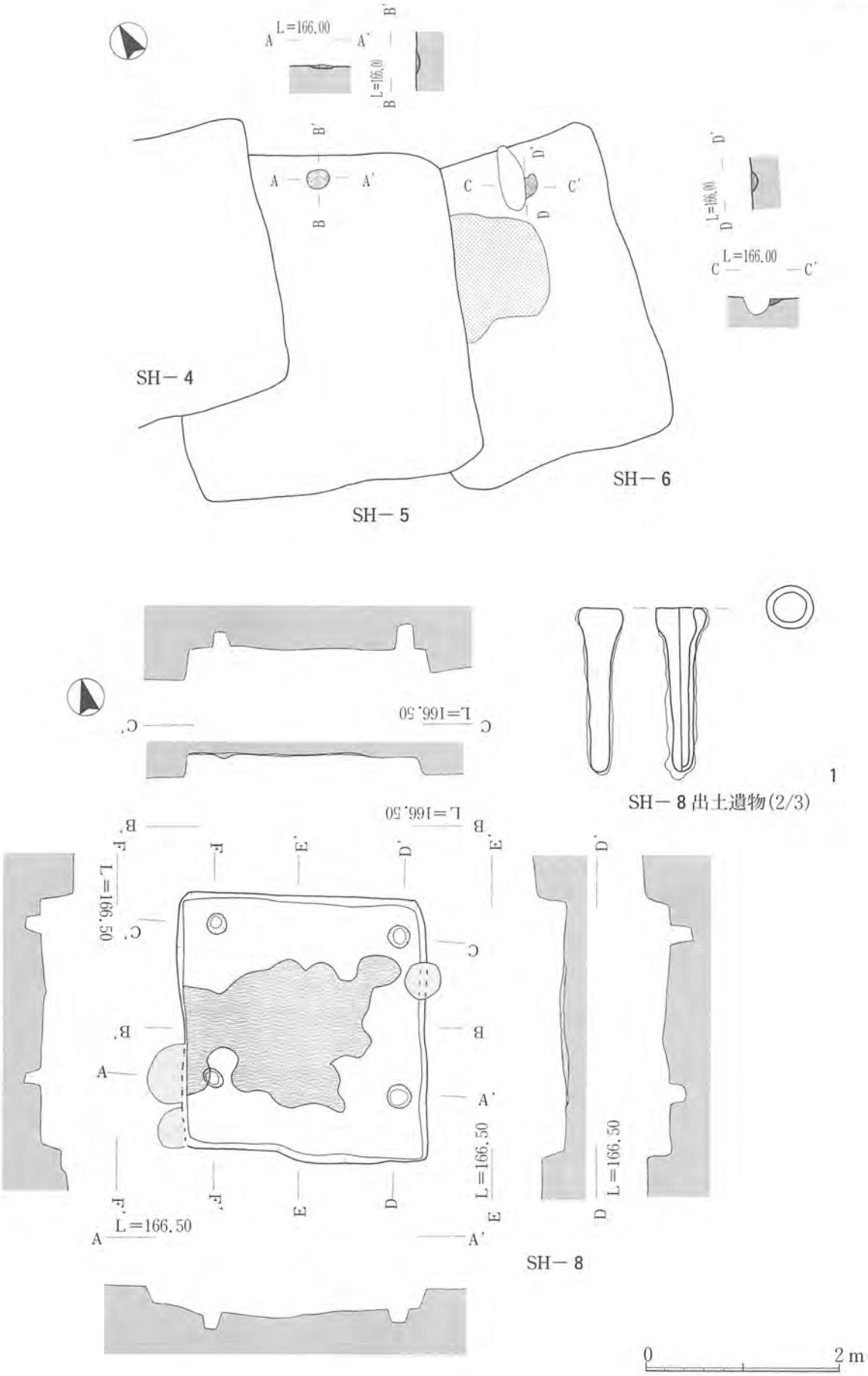
第60図　SH 遺構配置図



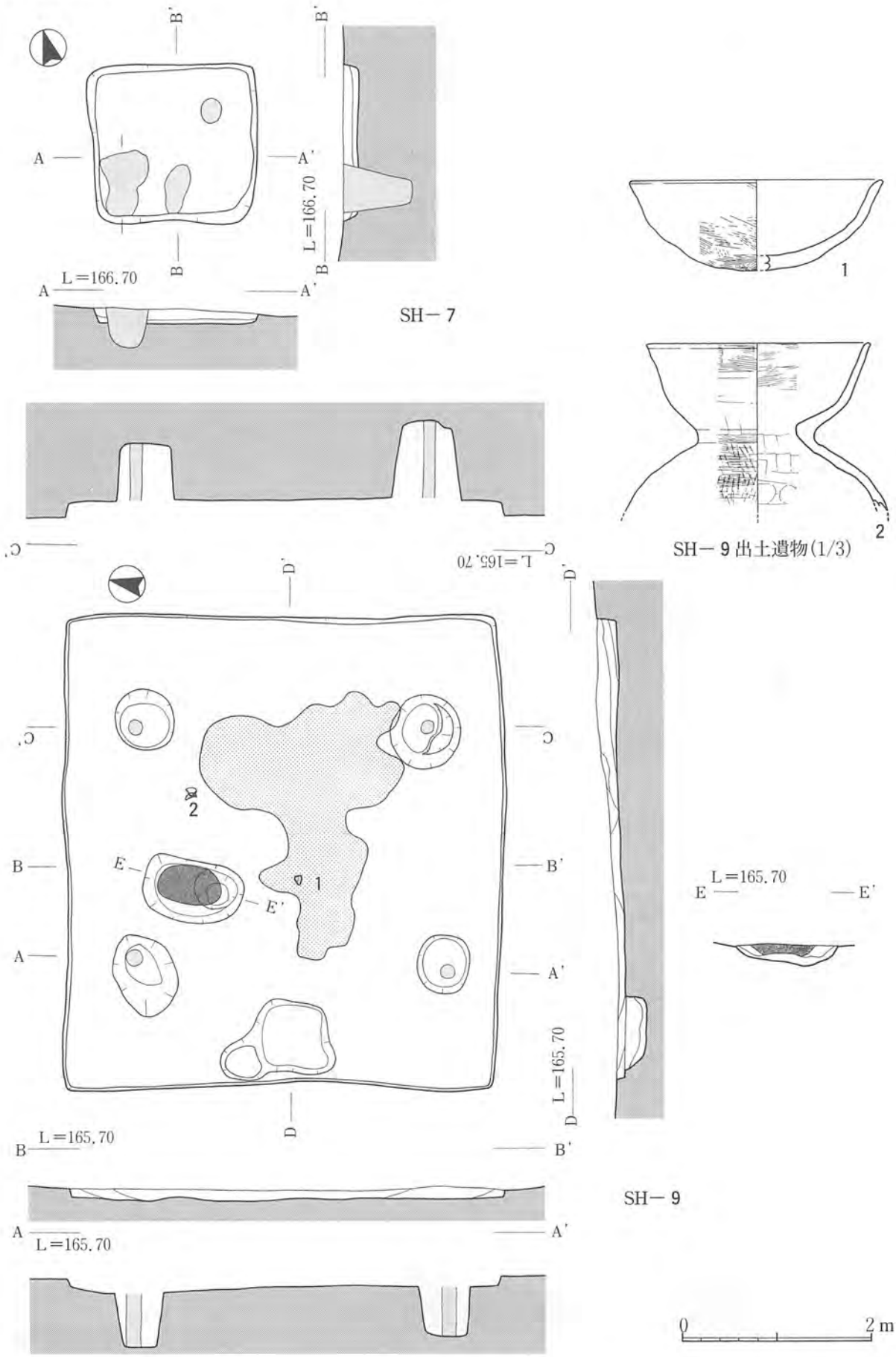
第61図　SH－1・2実測図及び出土遺物



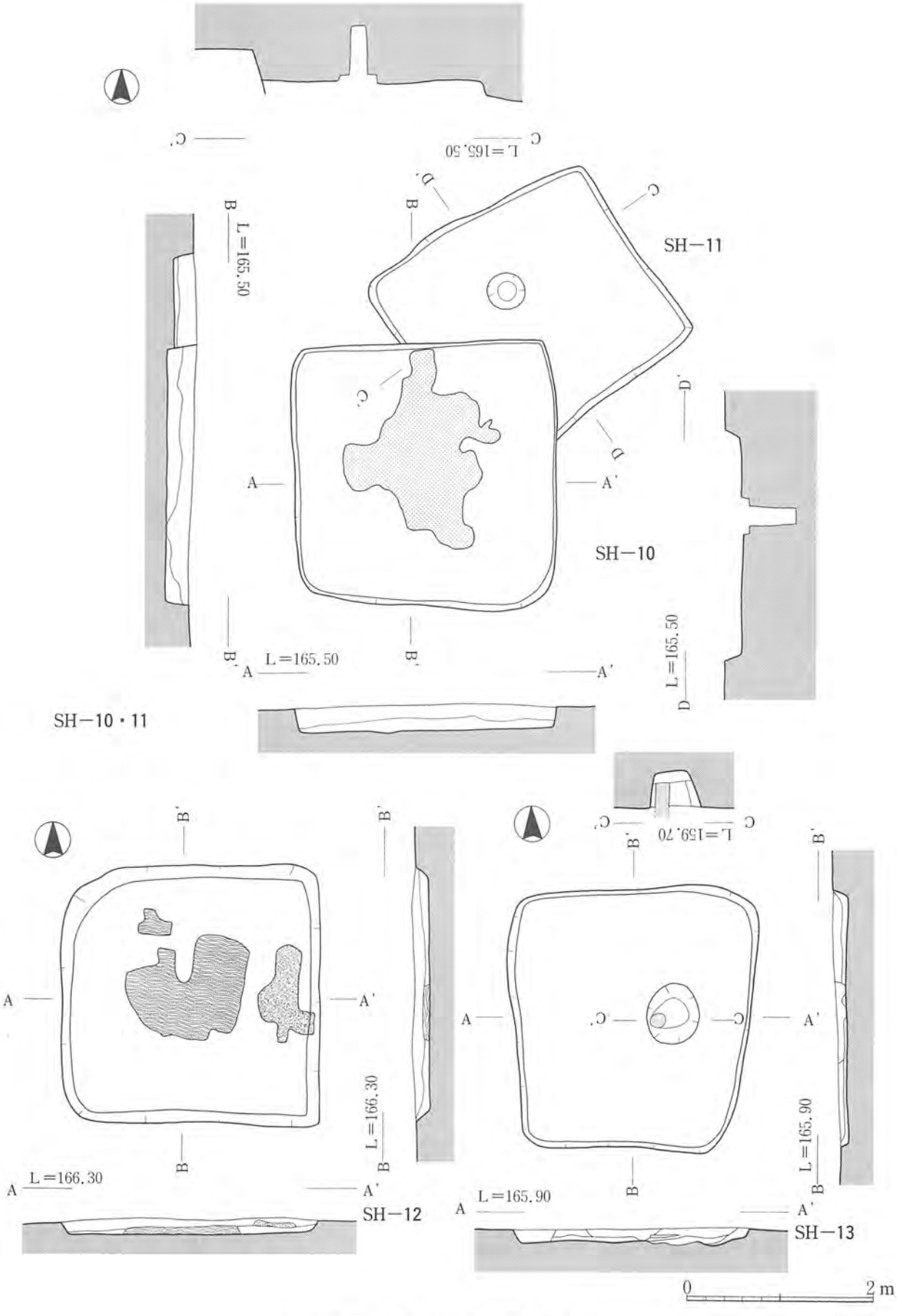
第62図　SH－3・4実測図及び出土遺物



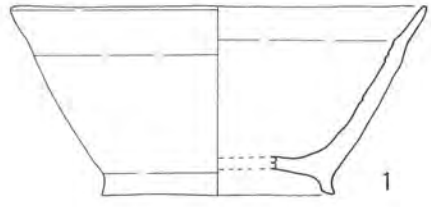
第63図　SH－5・6・8実測図及びSH－8出土遺物



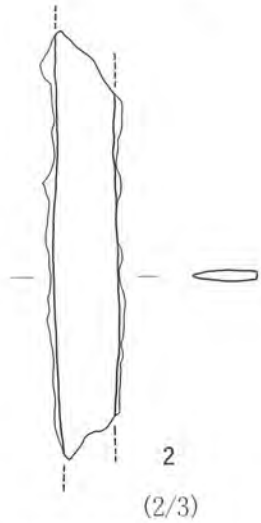
第64図　SH－7・9実測図及びSH－9出土遺物



第65図　SH−10・11・12・13実測図

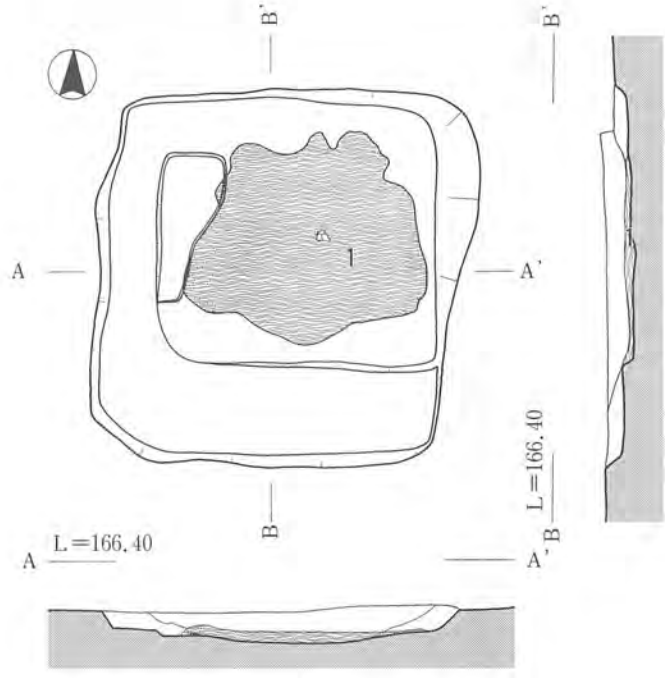


(1/3)

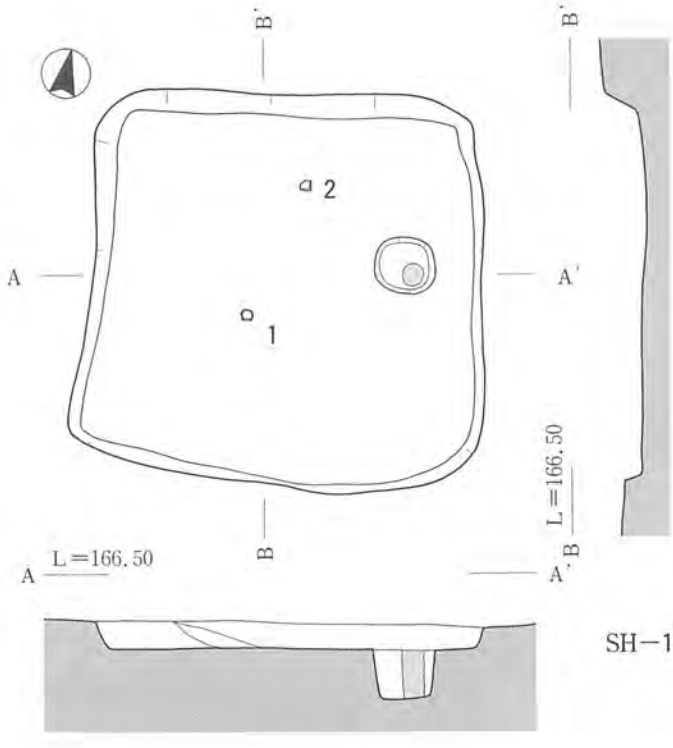


(2/3)

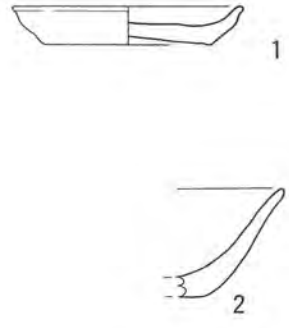
SH－14出土遺物



SH－14



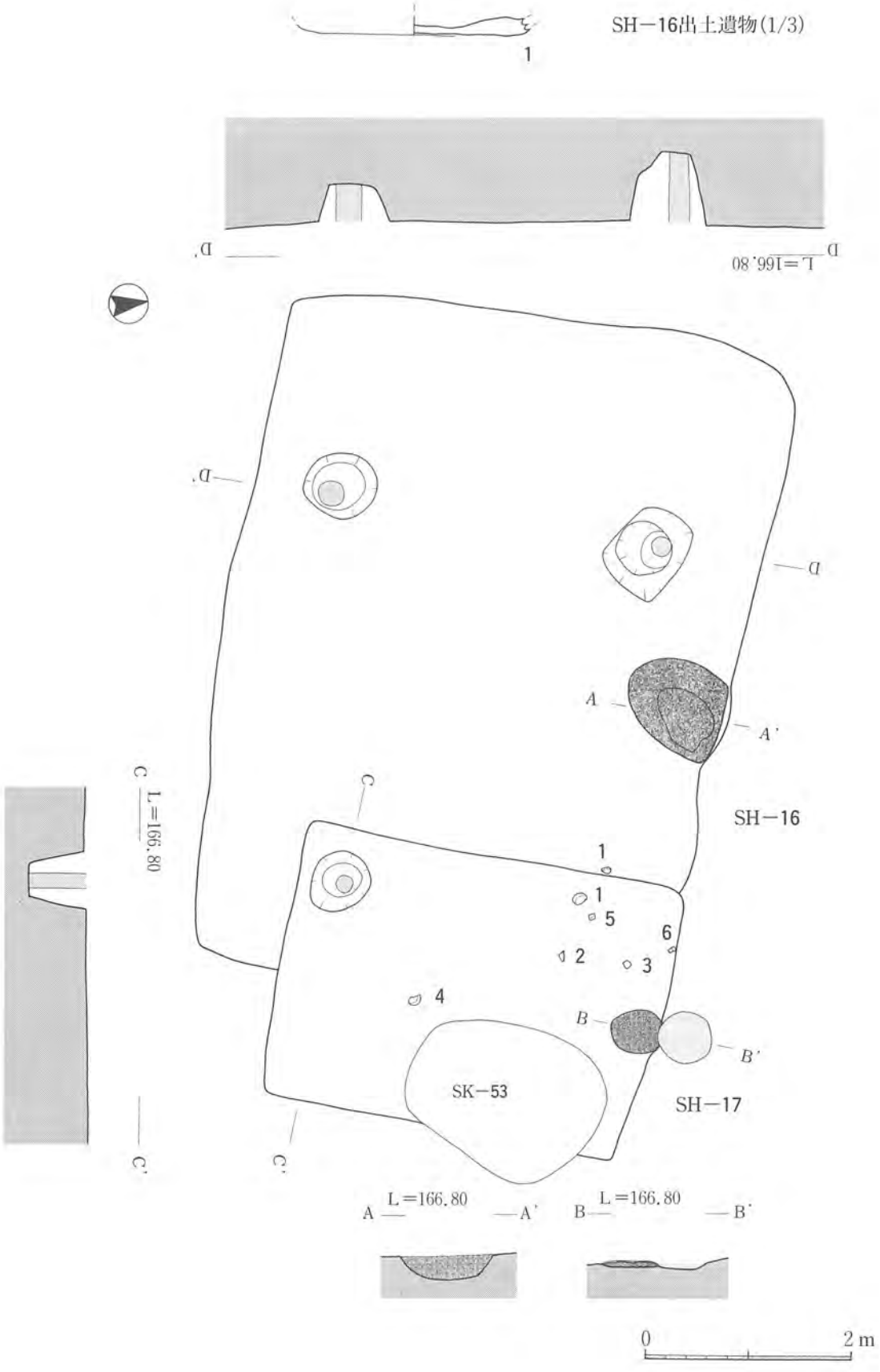
SH－15



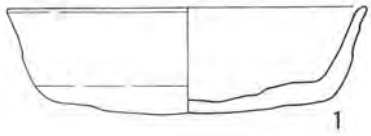
SH－15出土遺物(1/3)

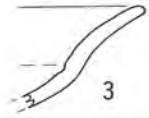
0　2 m

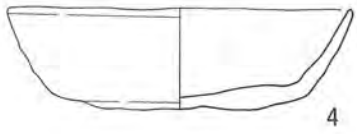
第66図　SH－14・15実測図及び出土遺物

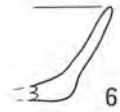


第67図　SH－16・17実測図及びSH－16出土遺物

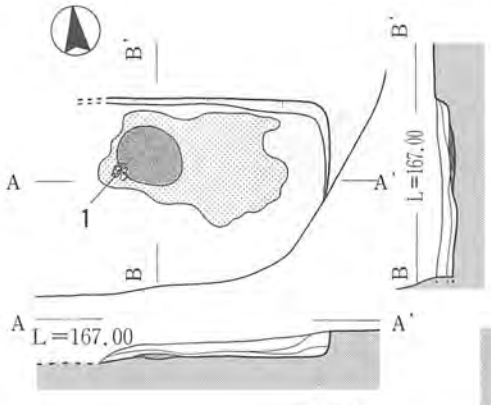




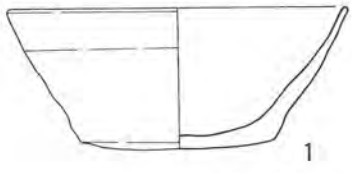




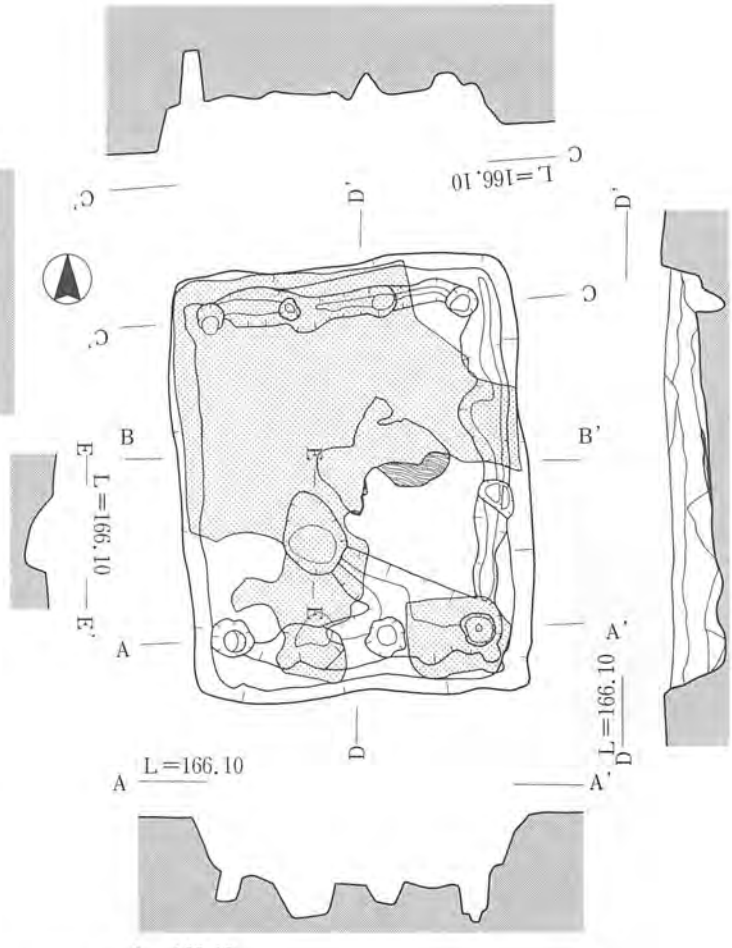
SH－17出土遺物(1/3)



SH－18

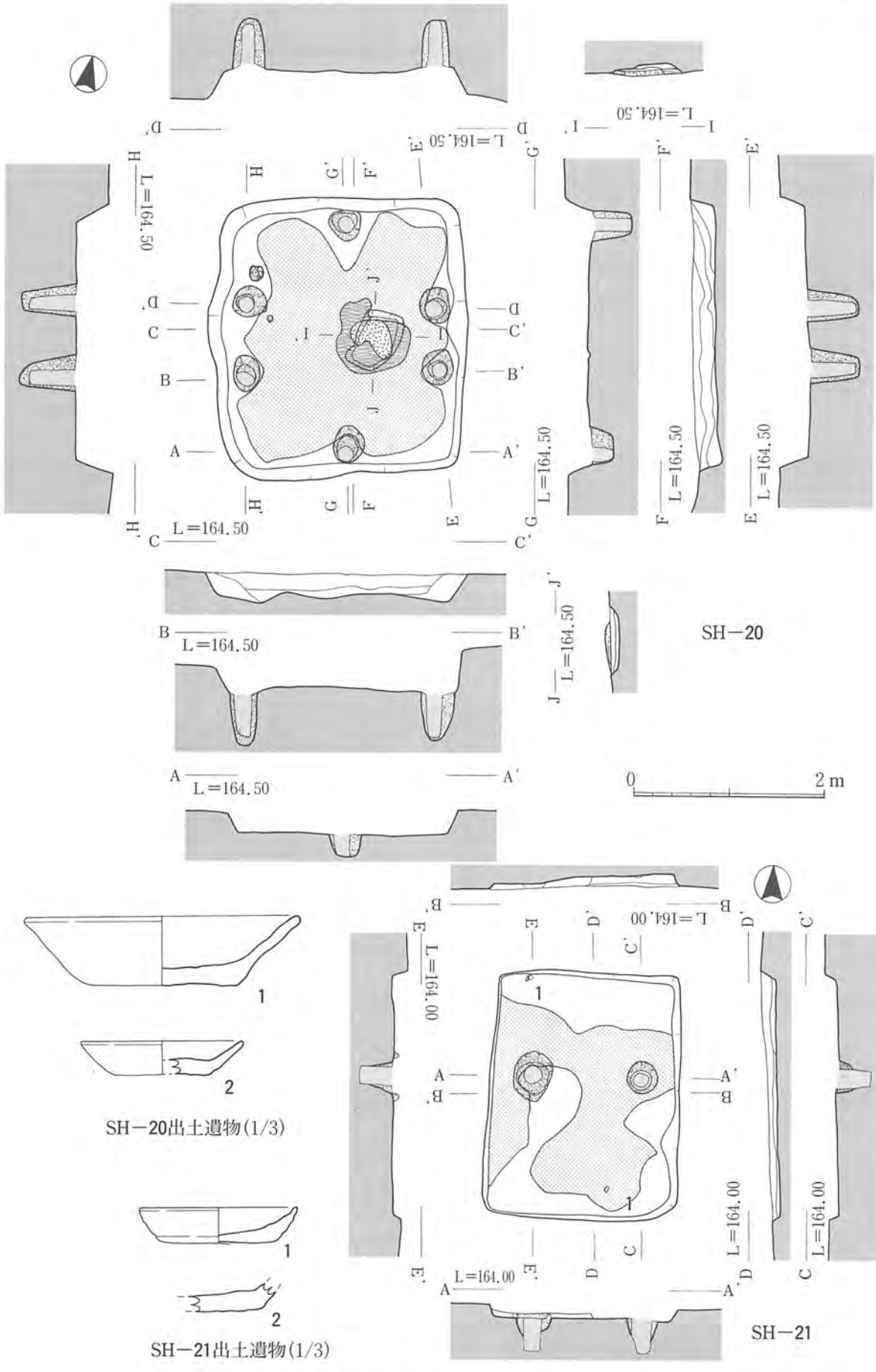


SH－18出土遺物(1/3)

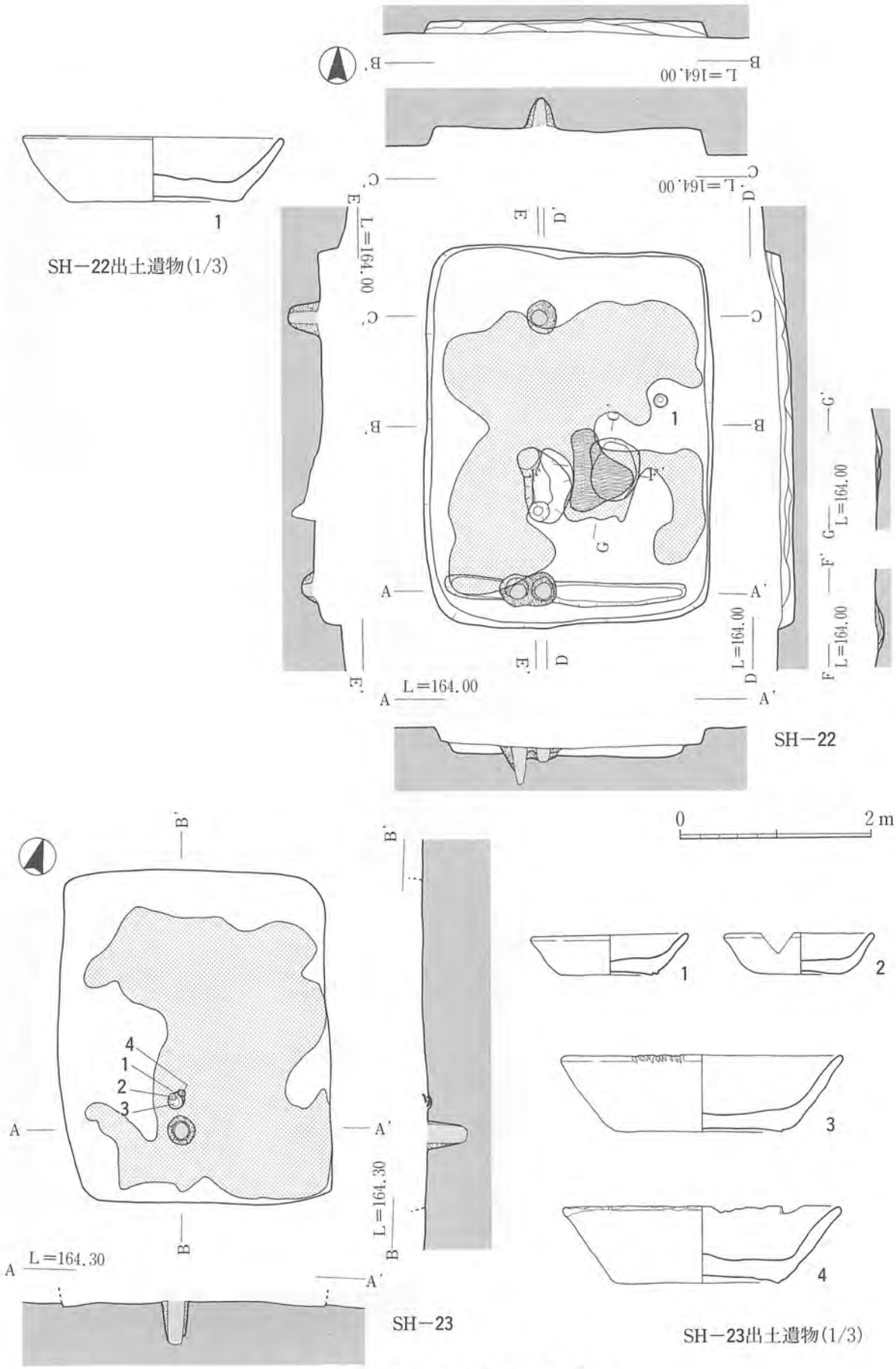


SH－19

第68図　SH－18・19実測図及びSH－17・18出土遺物

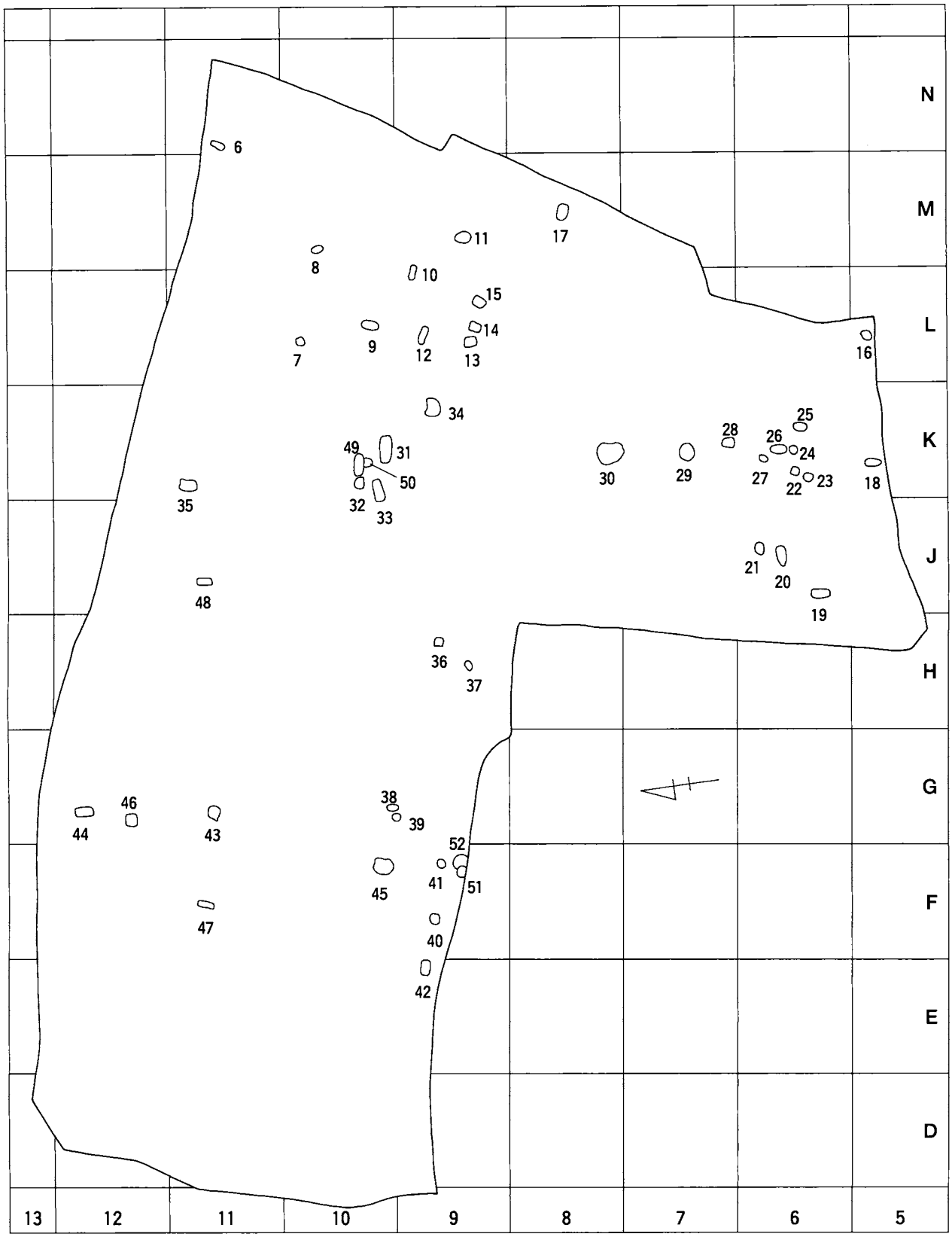


第69図　SH－20・21実測図及び出土遺物

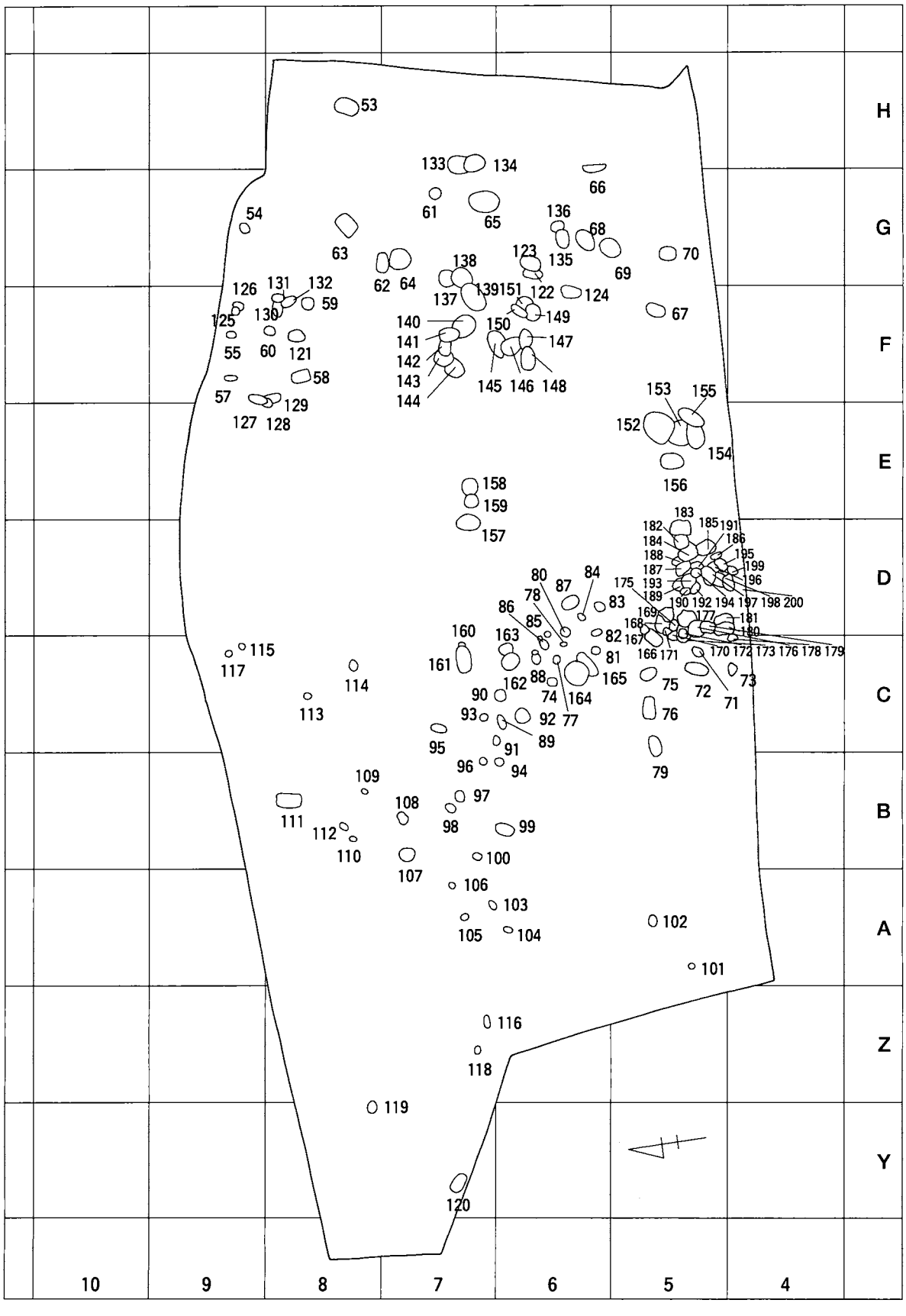


第70図　SH－22・23実測図及び出土遺物

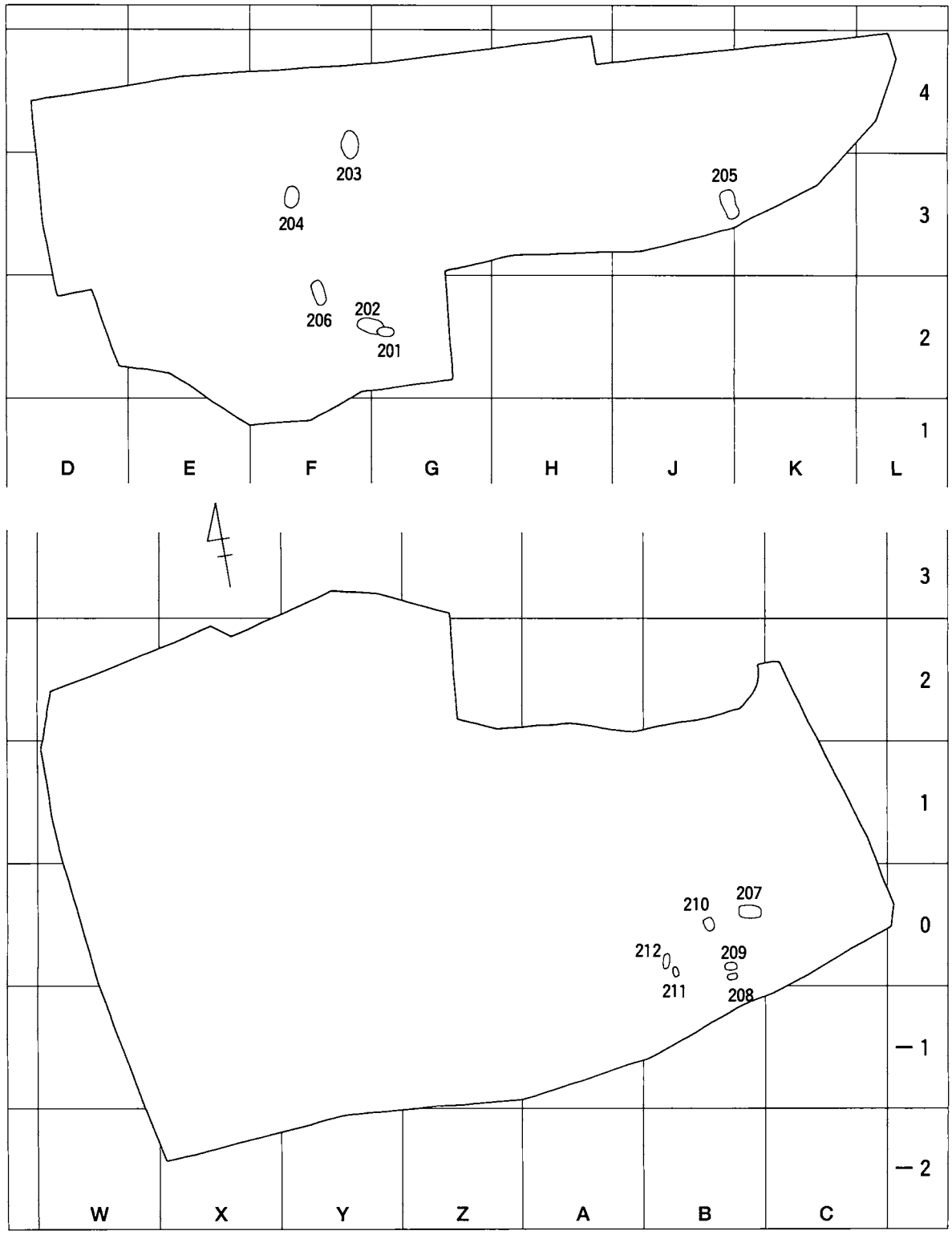
第71図　A・B区 SK 遺構配置図



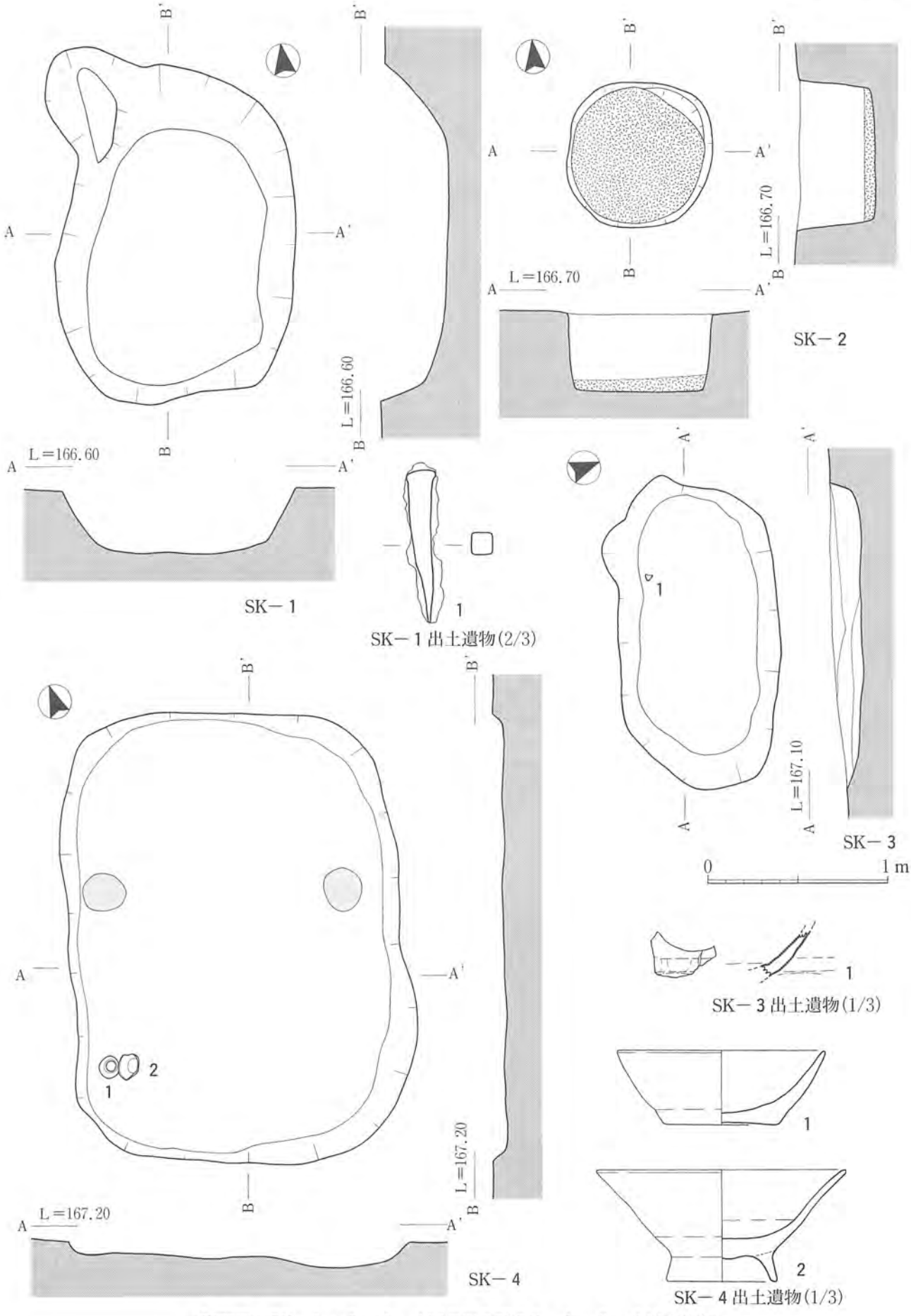
第72図　D区SK遺構配置図



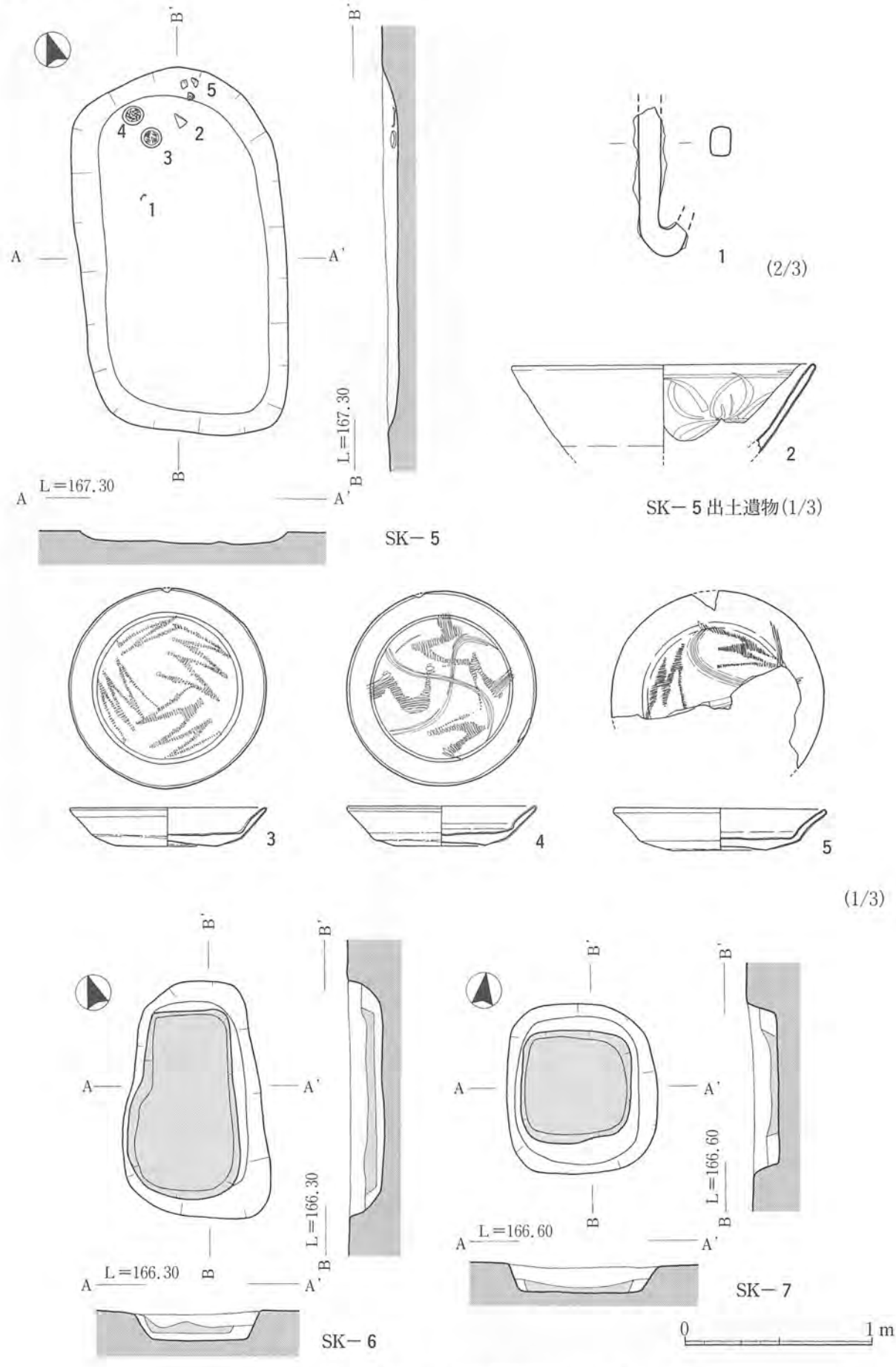
第73図　C区SK遺構配置図



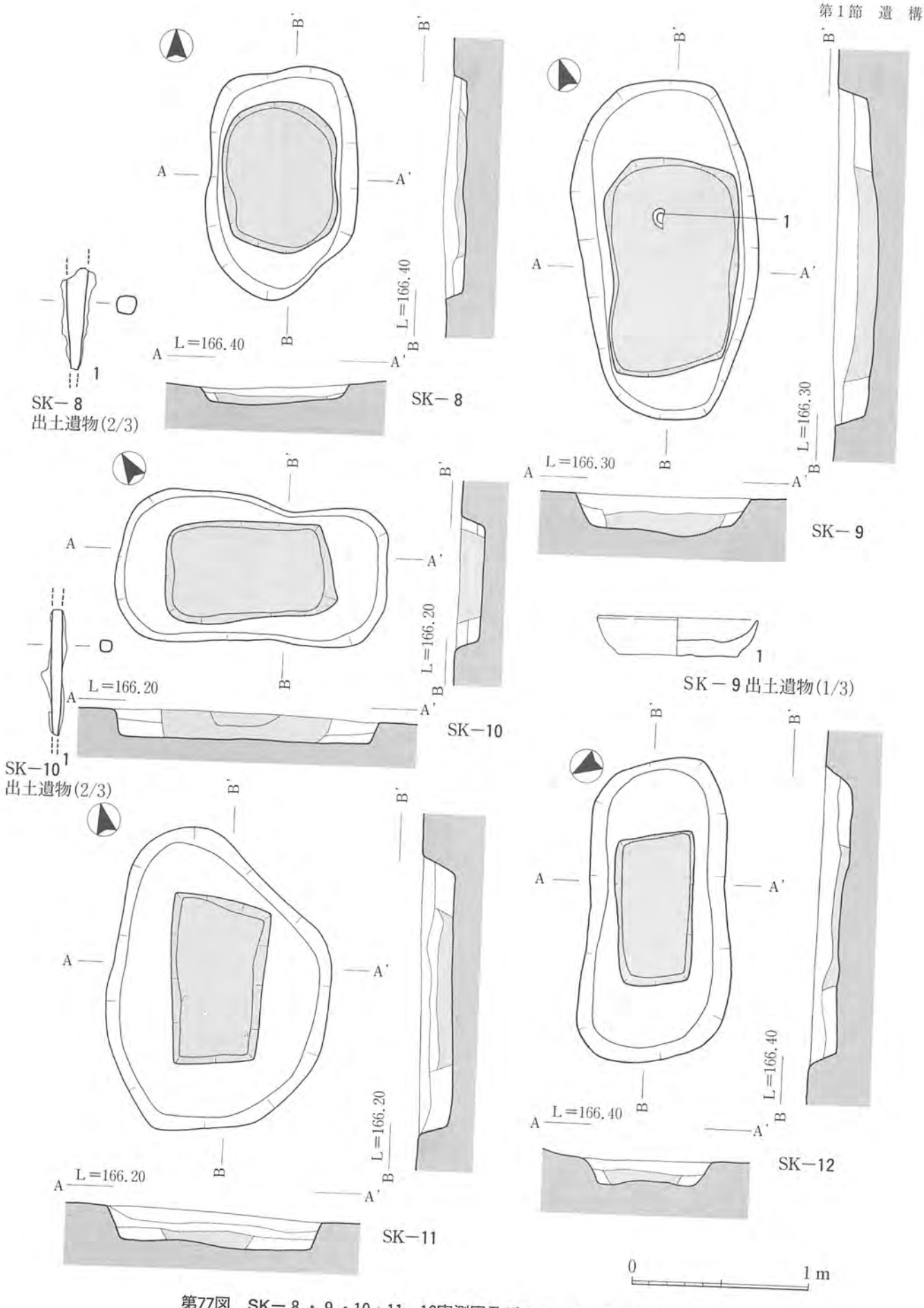
第74図　E・F区SK遺構配置図



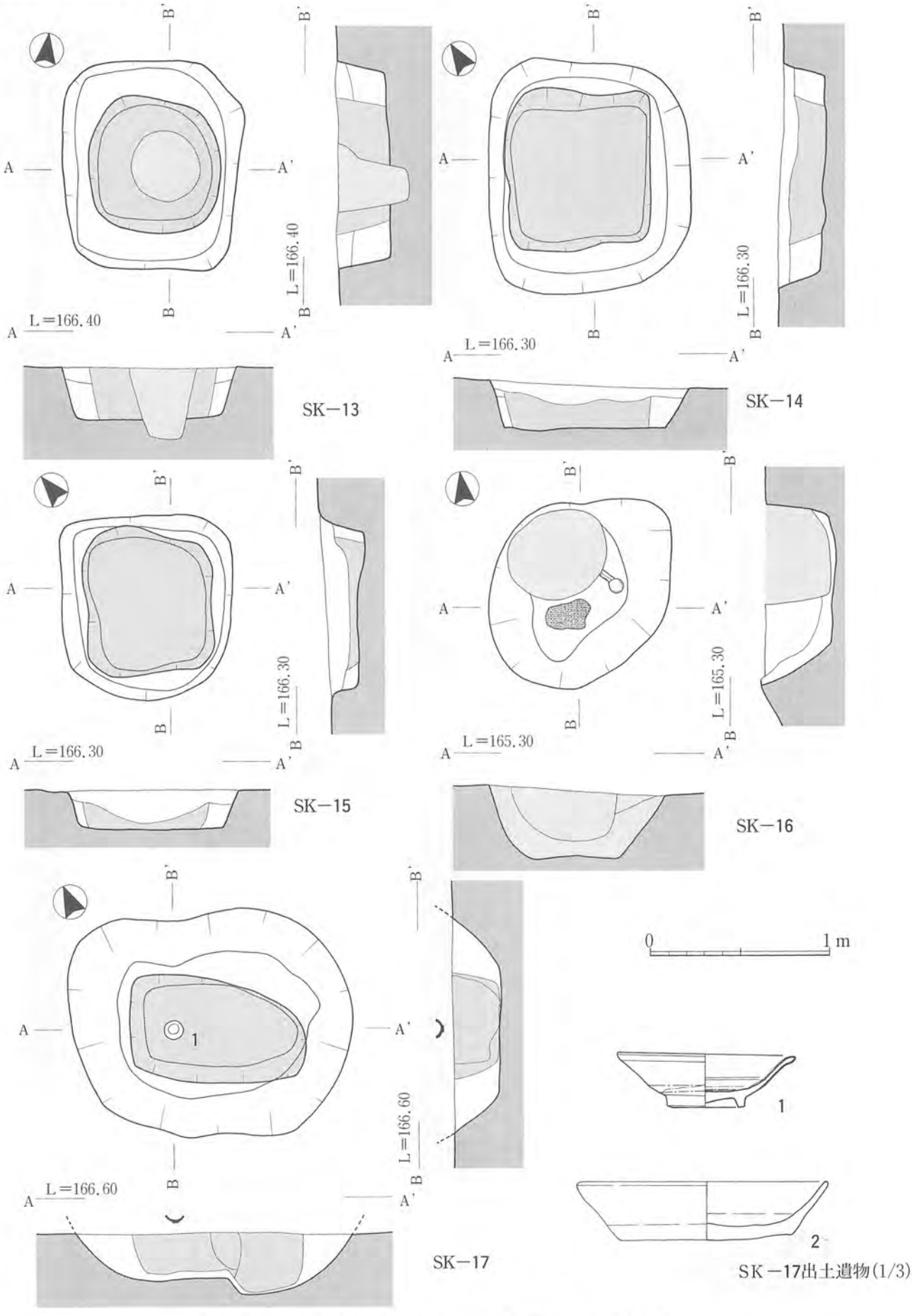
第75図　SK－1・2・3・4実測図及びSK－1・3・4出土遺物



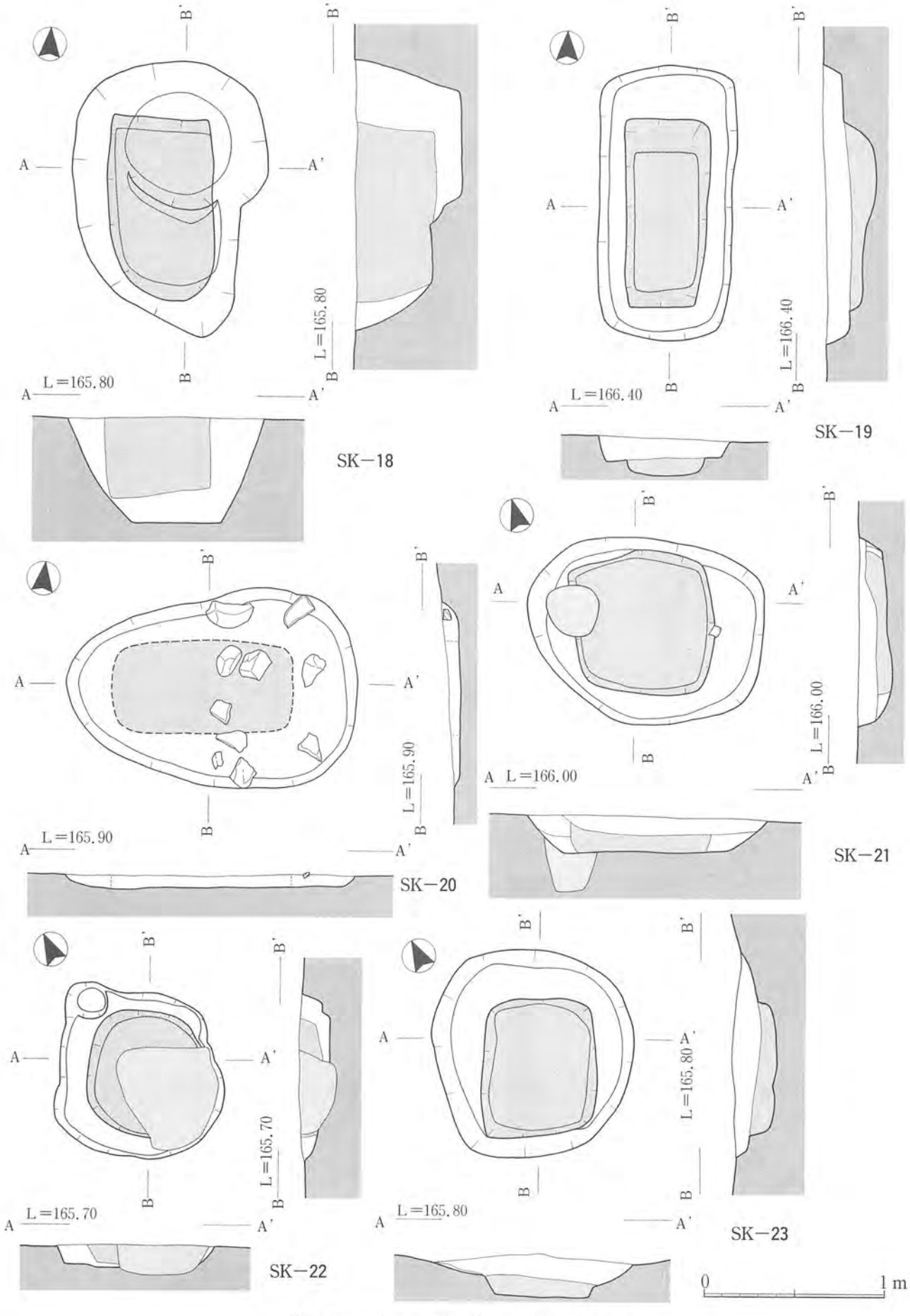
第76図　SK－5・6・7実測図及びSK－5出土遺物



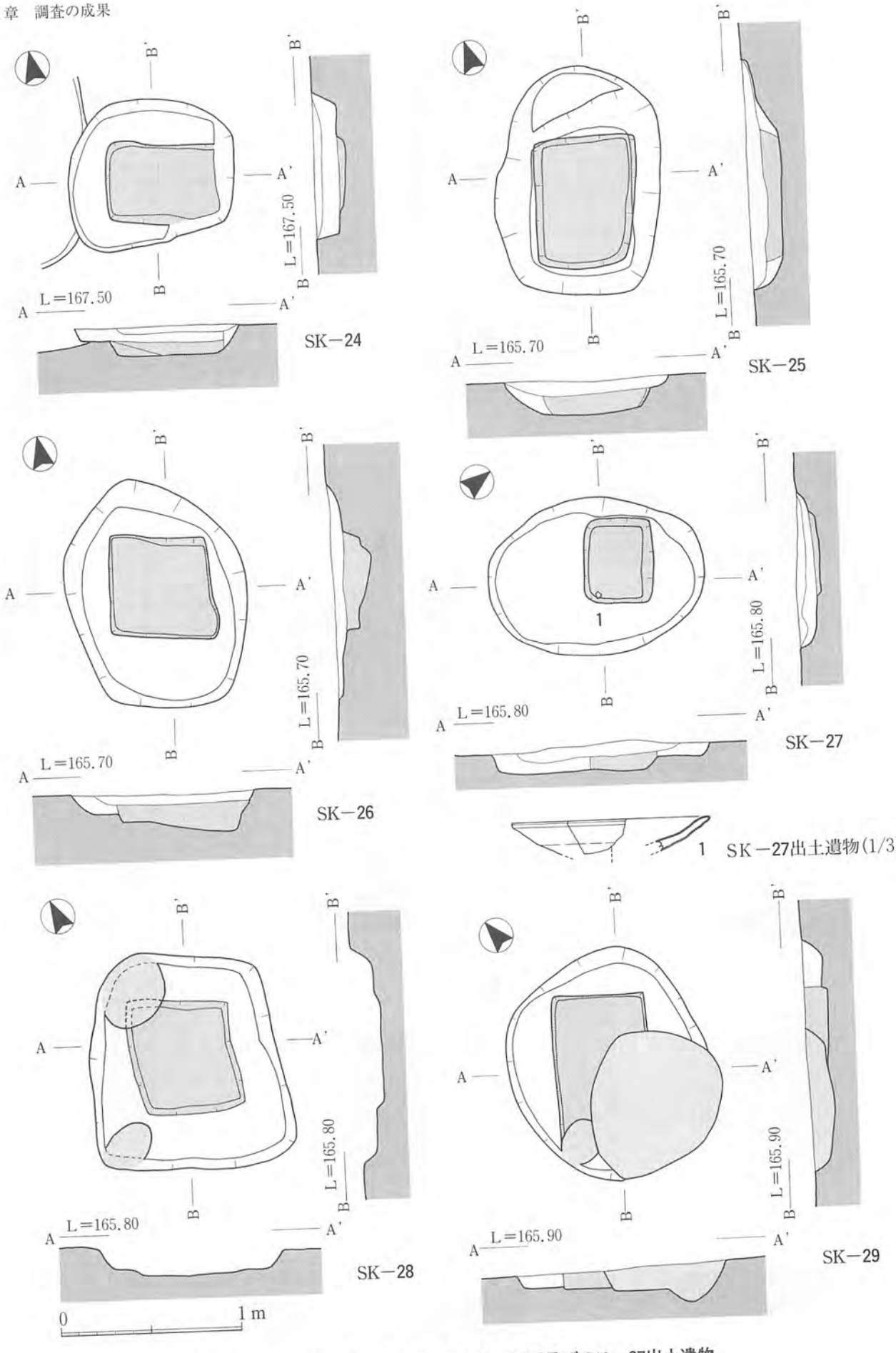
第77図　SK－8・9・10・11・12実測図及びSK－8・9・10出土遺物



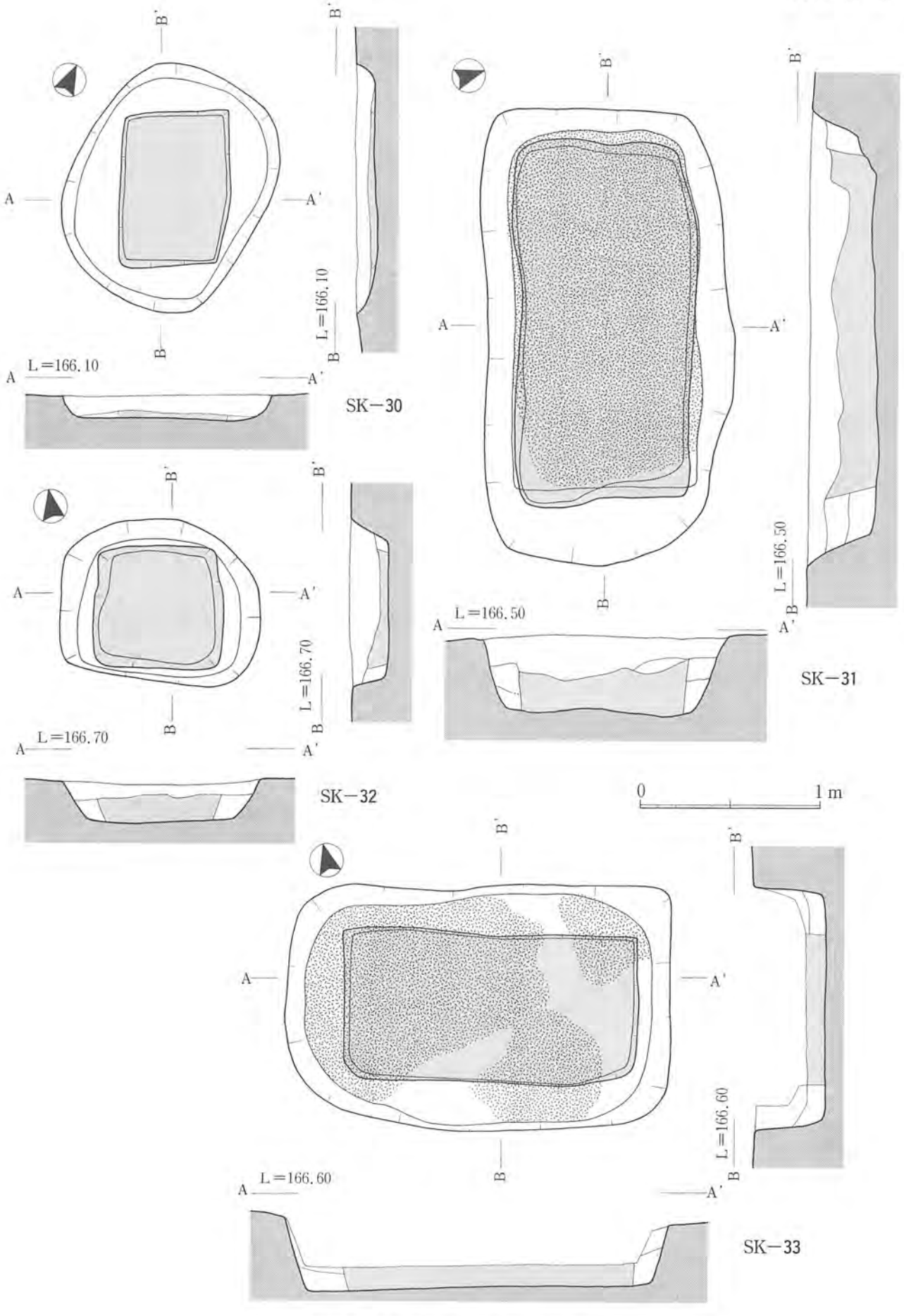
第78図　SK−13・14・15・16・17実測図及びSK−17出土遺物



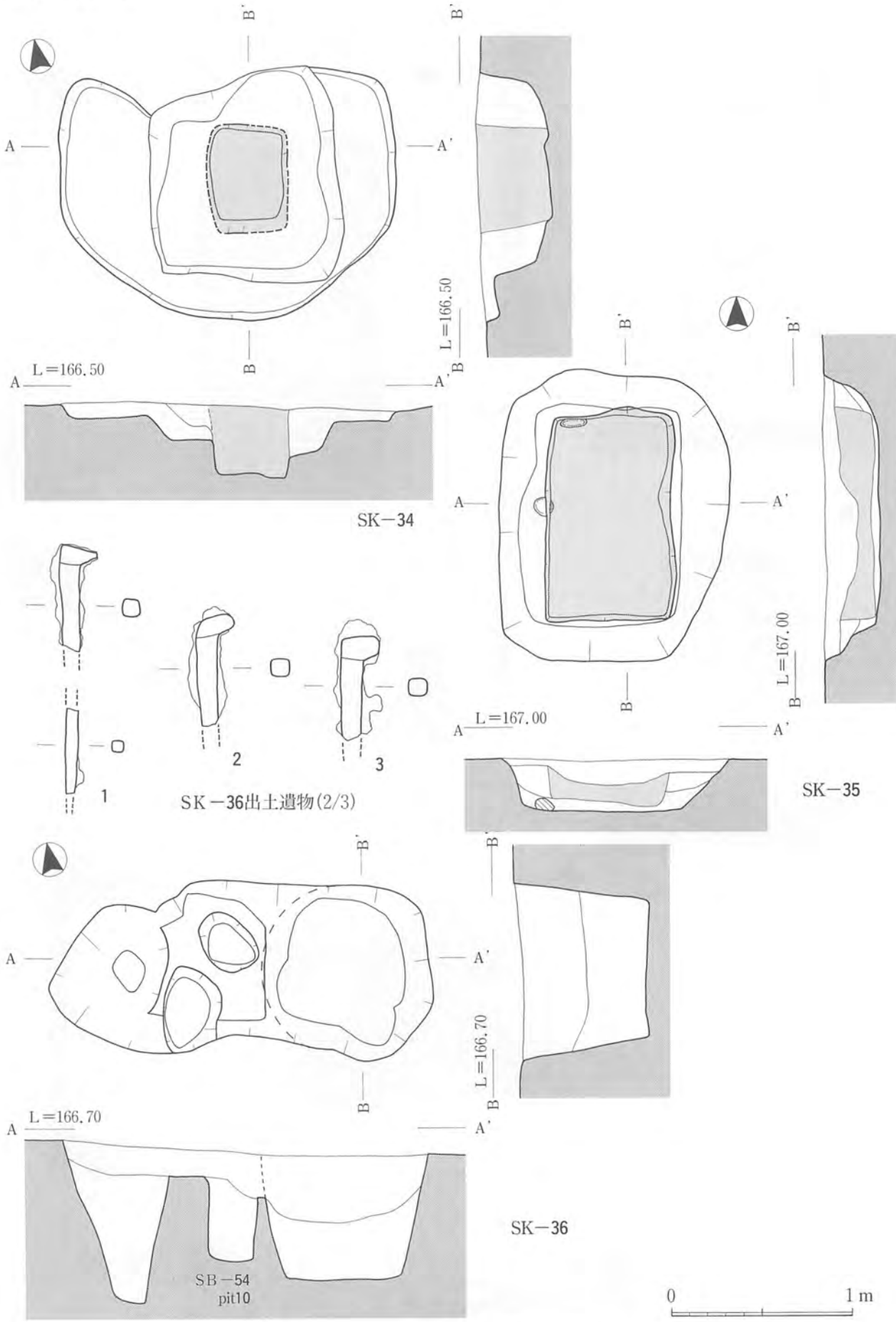
第79図　SK−18・19・20・21・22・23実測図



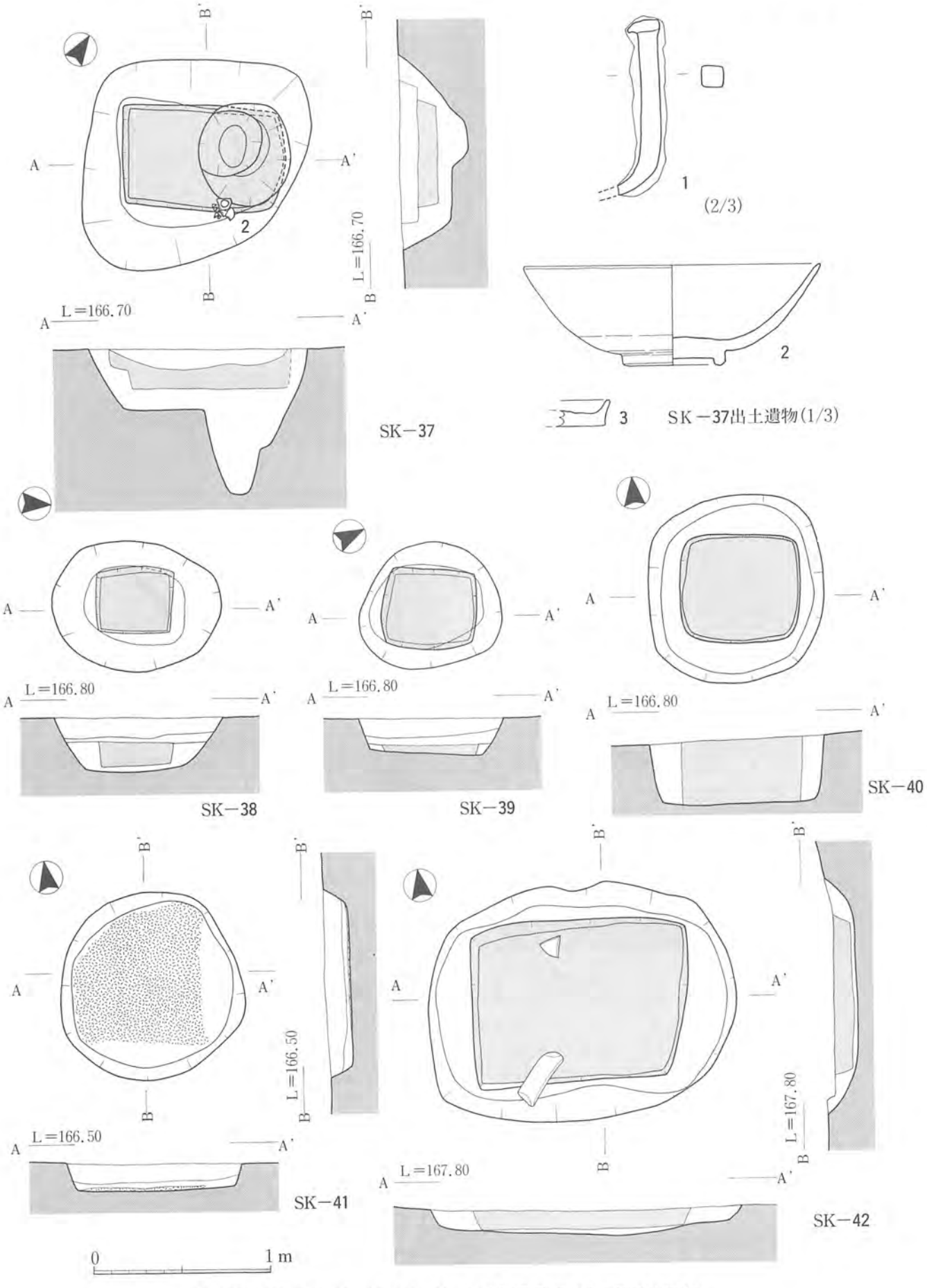
第80図　SK－24・25・26・27・28・29実測図及びSK－27出土遺物



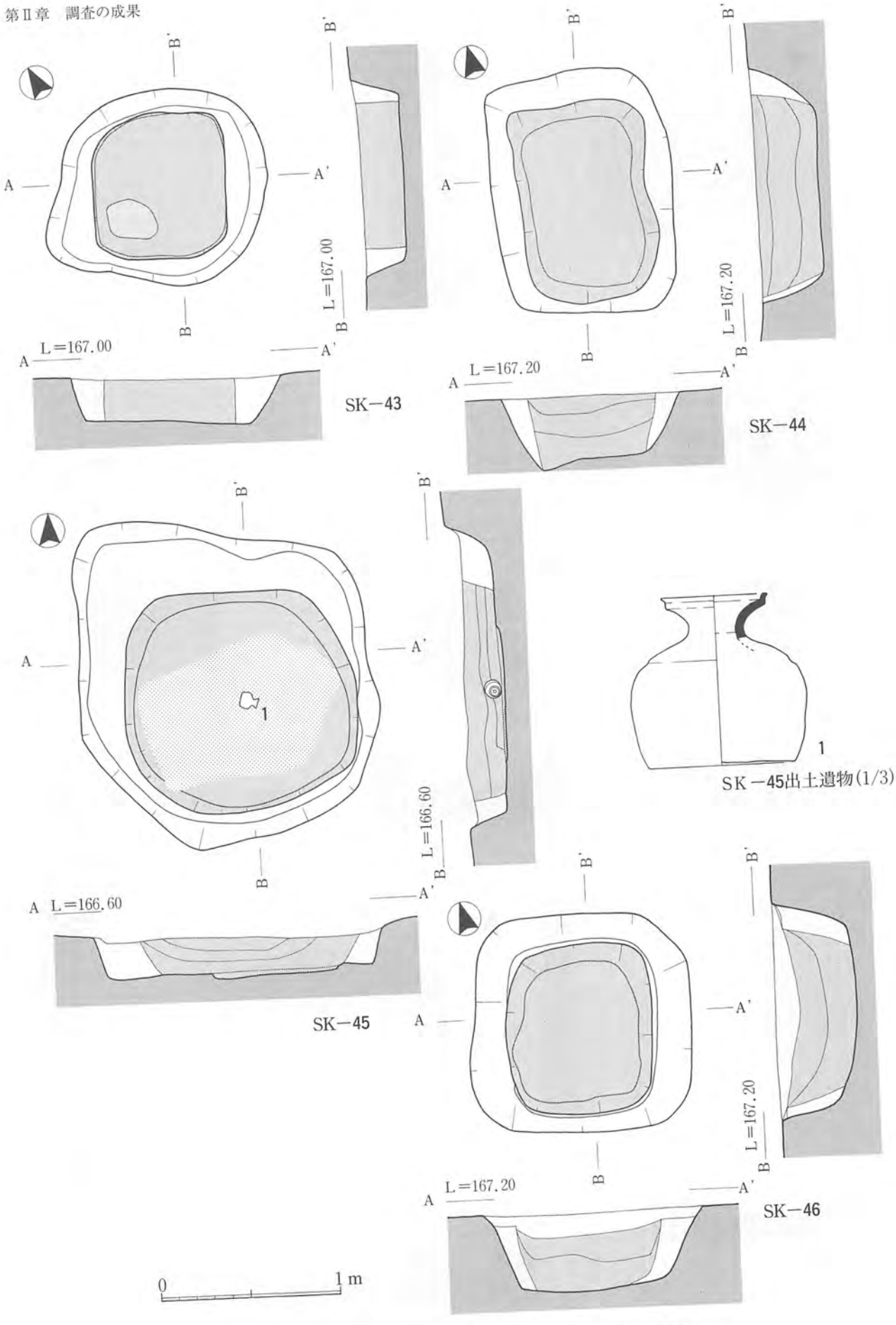
第81図　SK－30・31・32・33実測図



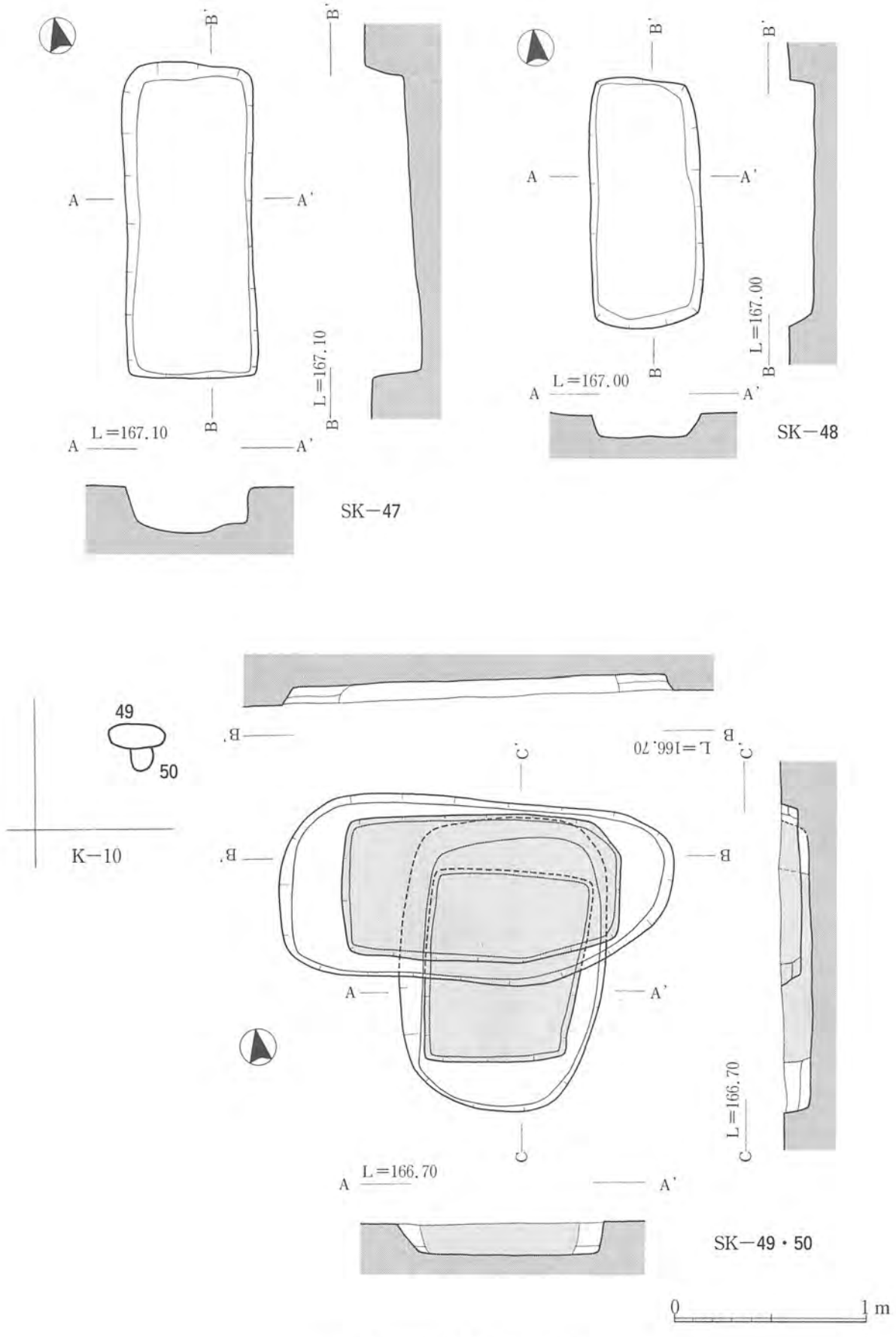
第82図　SK－34・35・36実測図及びSK－36出土遺物



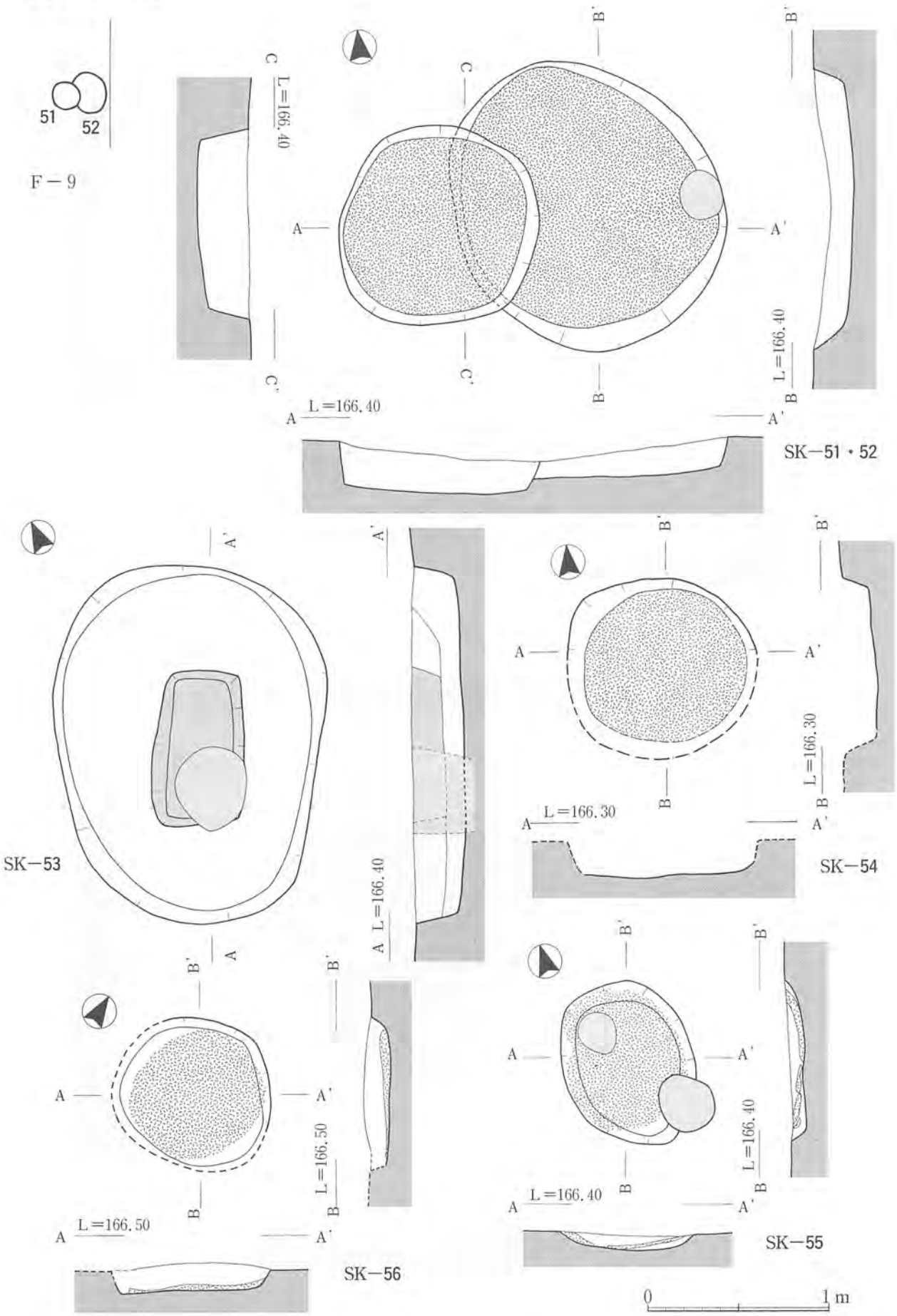
第83図　SK－37・38・39・40・41・42実測図及びSK－37出土遺物



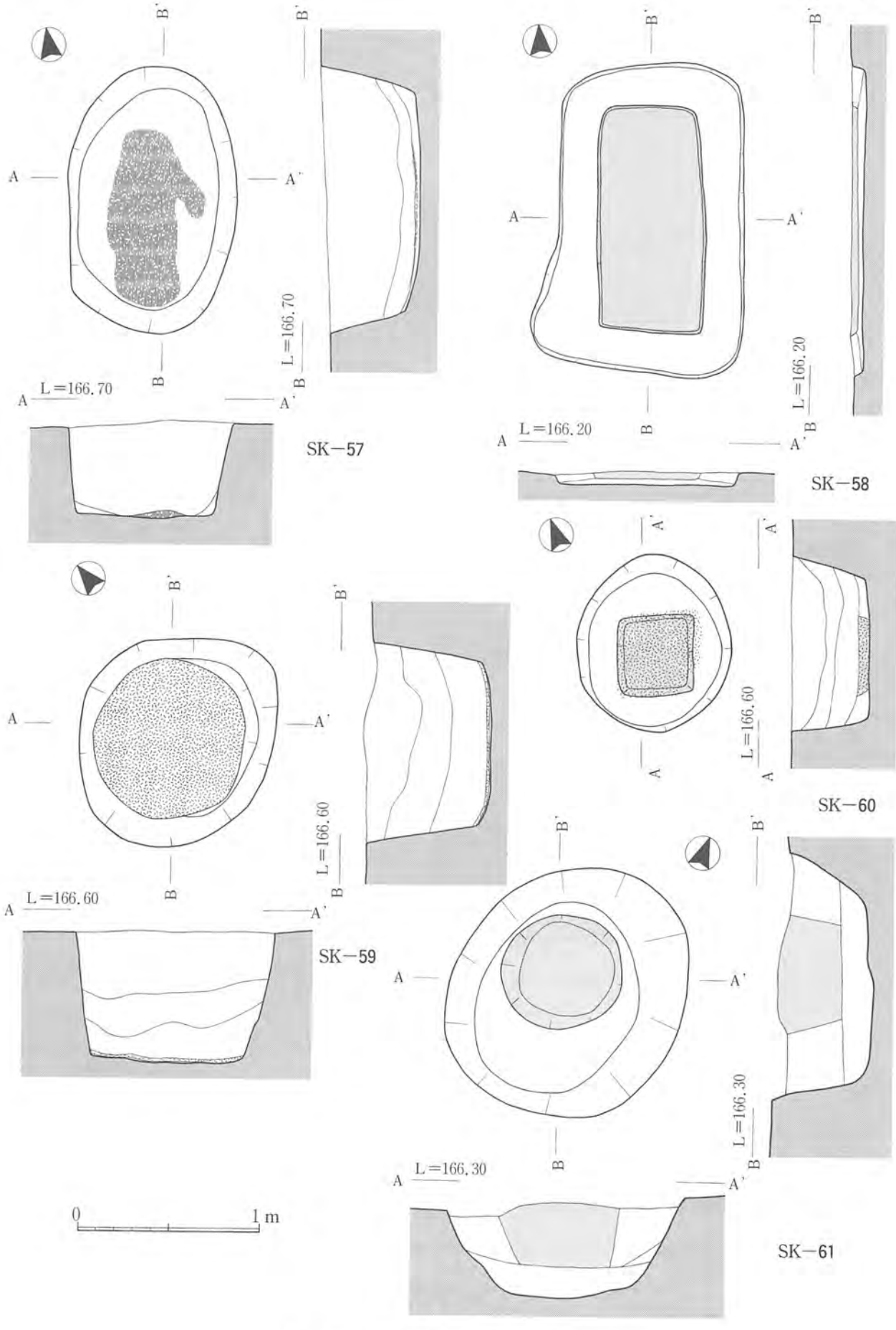
第84図　SK－43・44・45・46実測図及びSK－45出土遺物



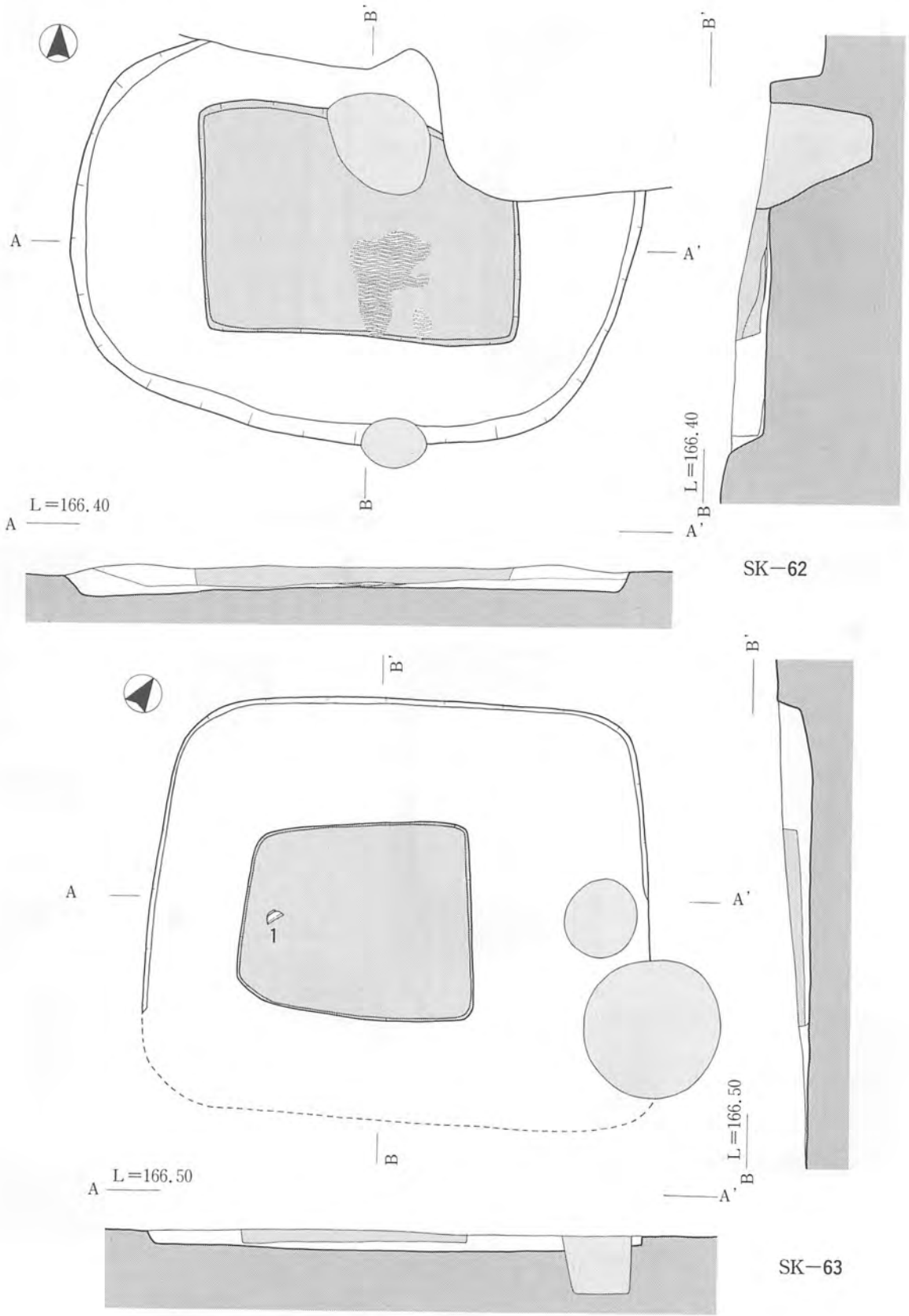
第85図　SK−47・48・49・50実測図



第86図　SK－51・52・53・54・55・56実測図

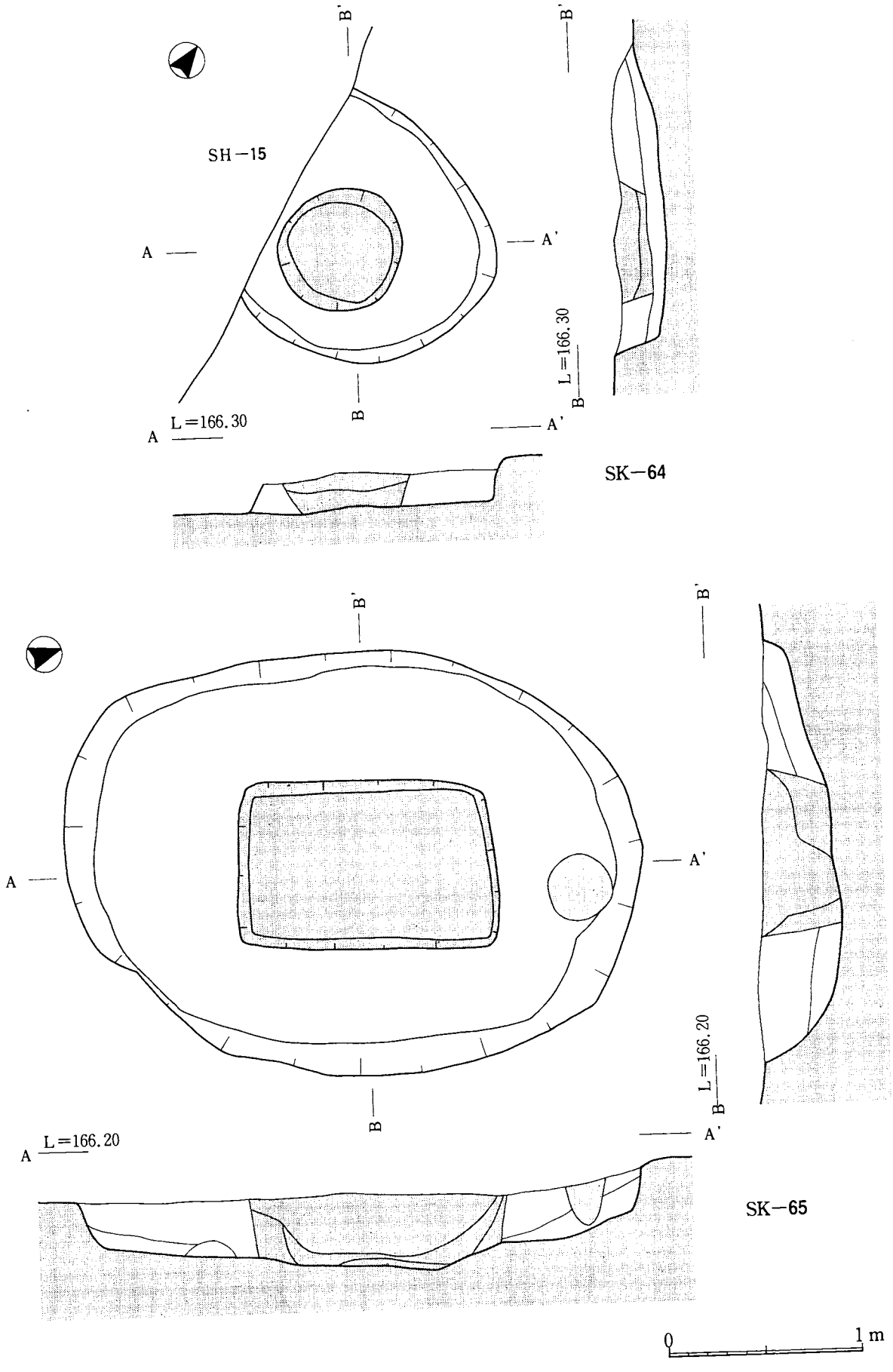


第87図　SK−57・58・59・60・61実測図

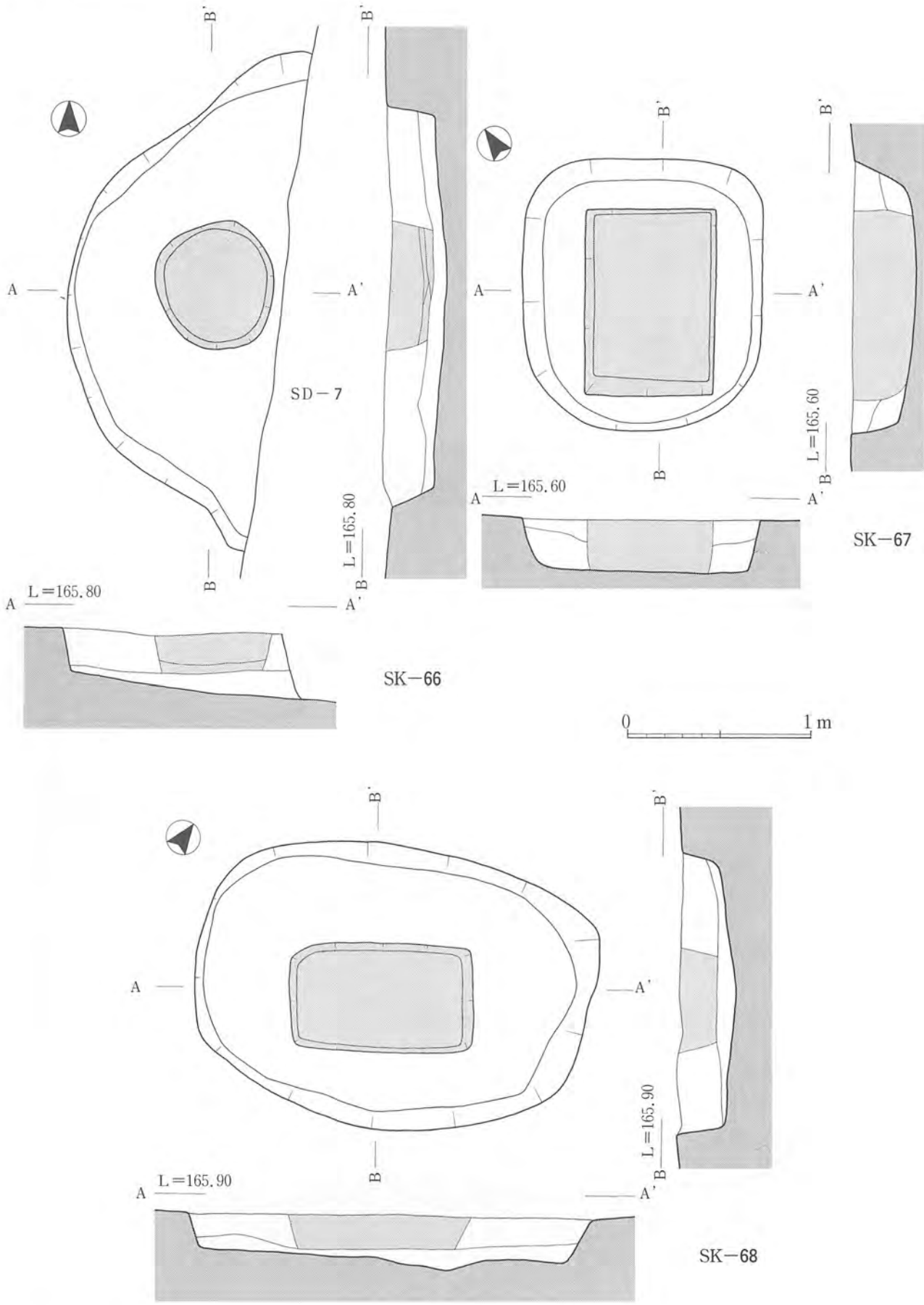


SK−63出土遺物(1/3)

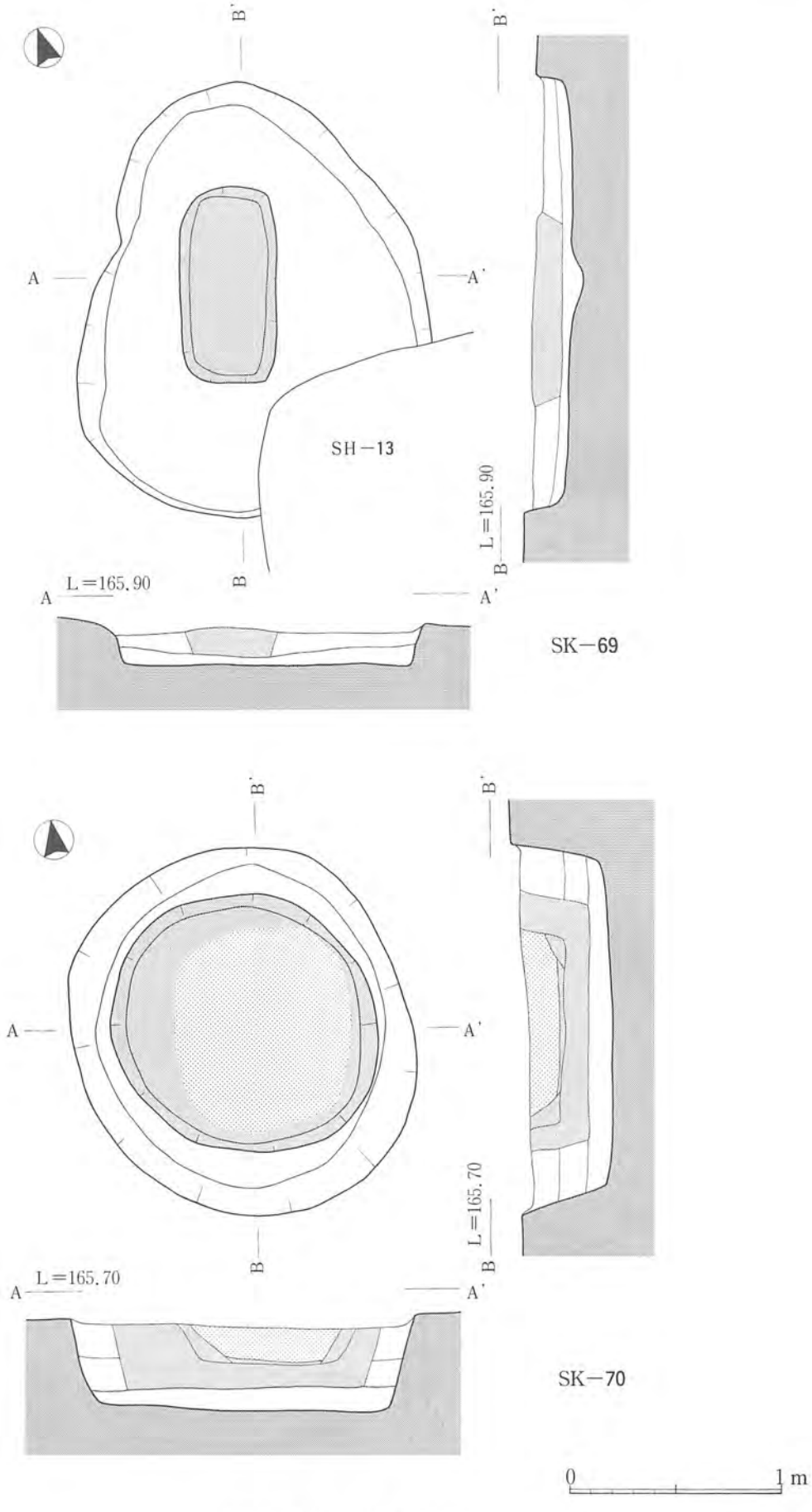
第88図　SK−62・63実測図及びSK−63出土遺物



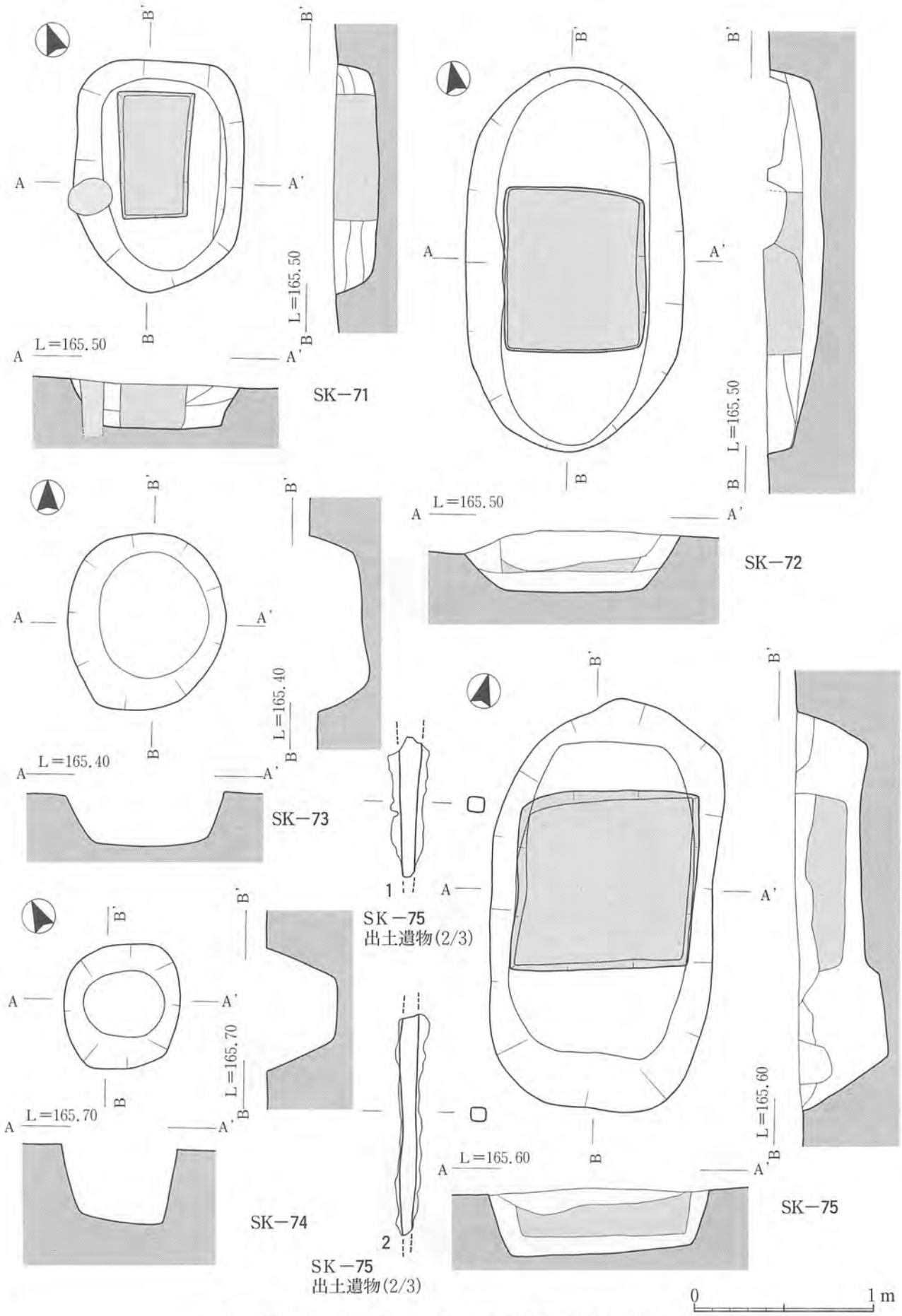
第89図　SK－64・65実測図



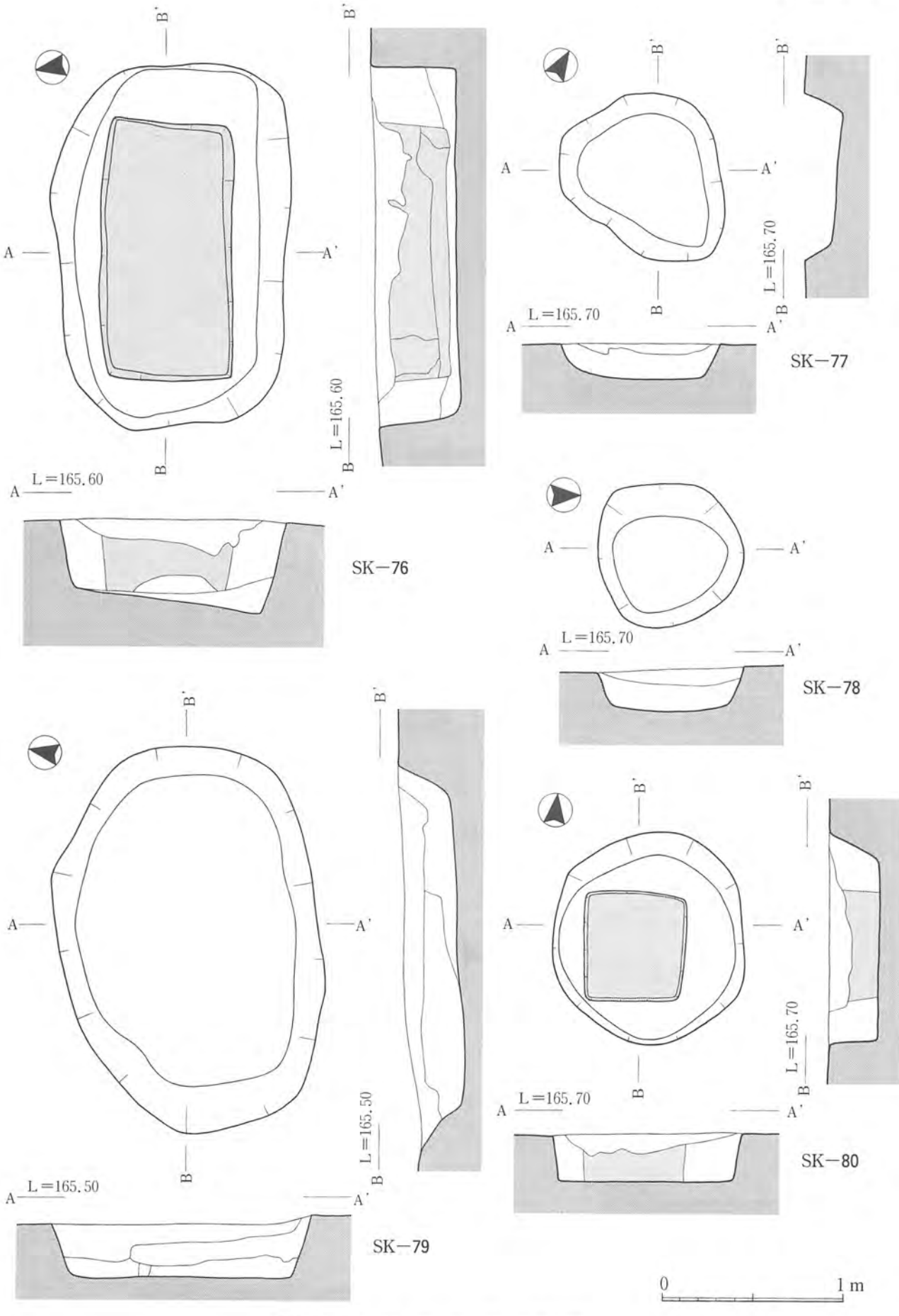
第90図　SK－66・67・68実測図



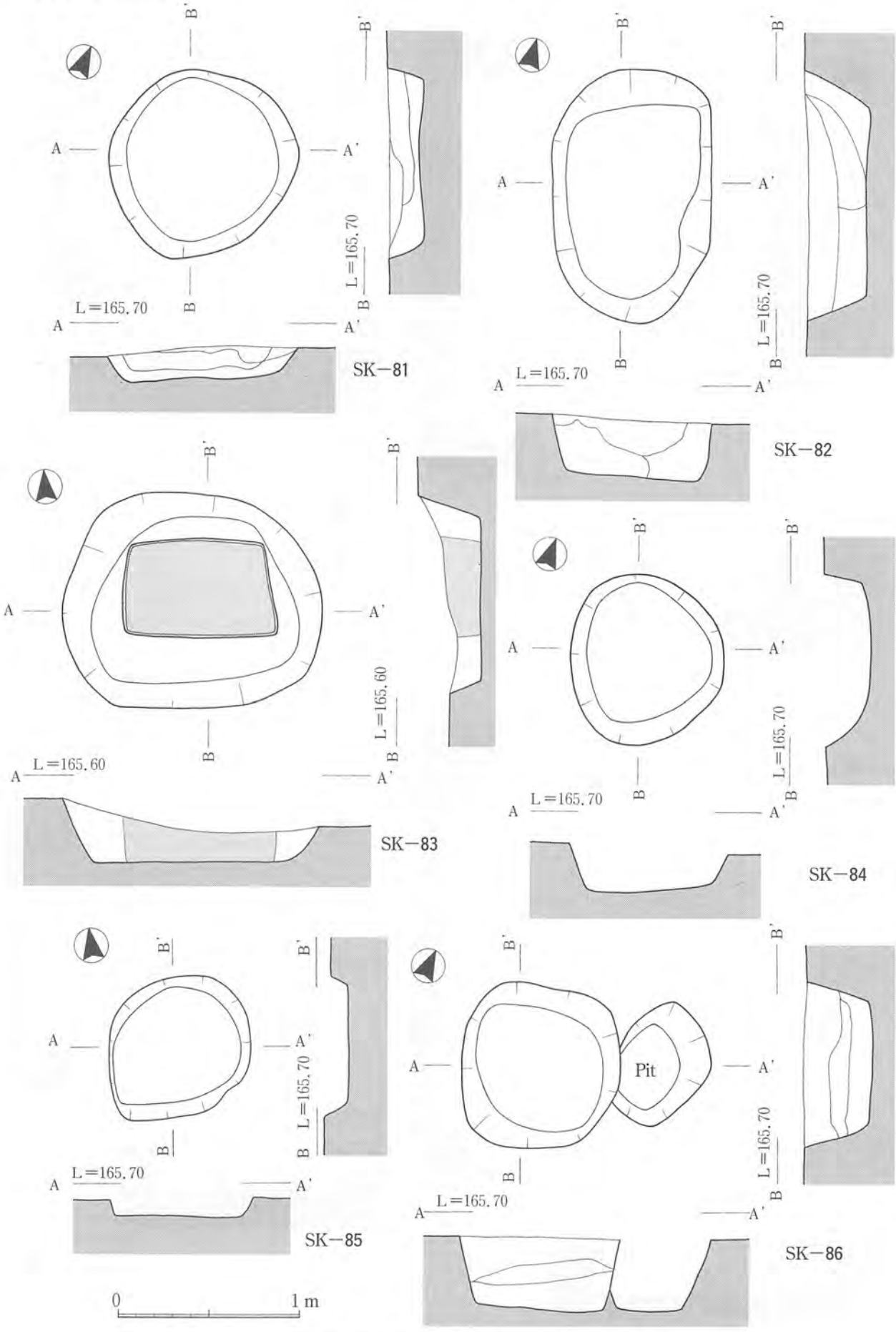
第91図　SK－69・70実測図



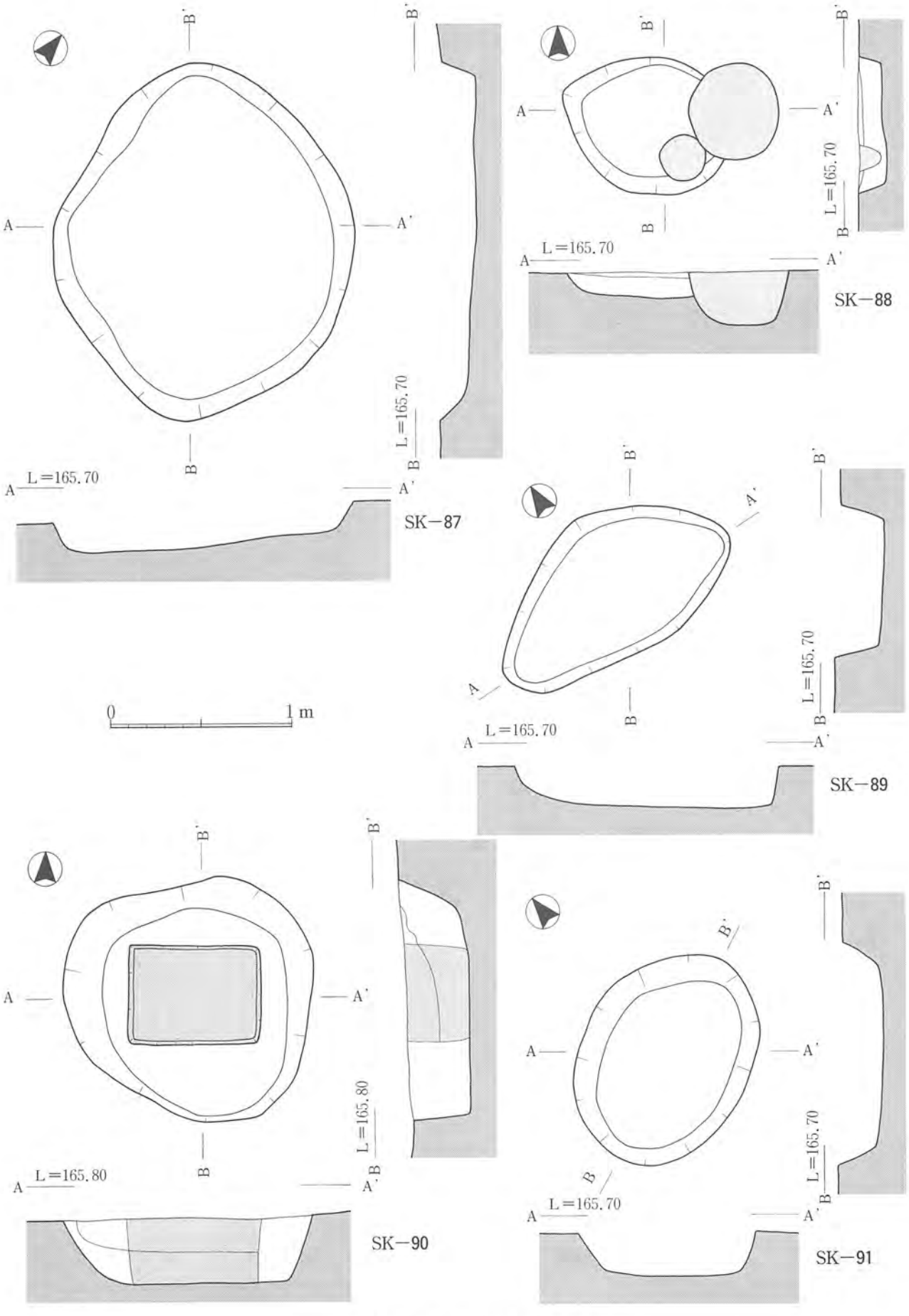
第92図　SK－71・72・73・74・75実測図及びSK－75出土遺物



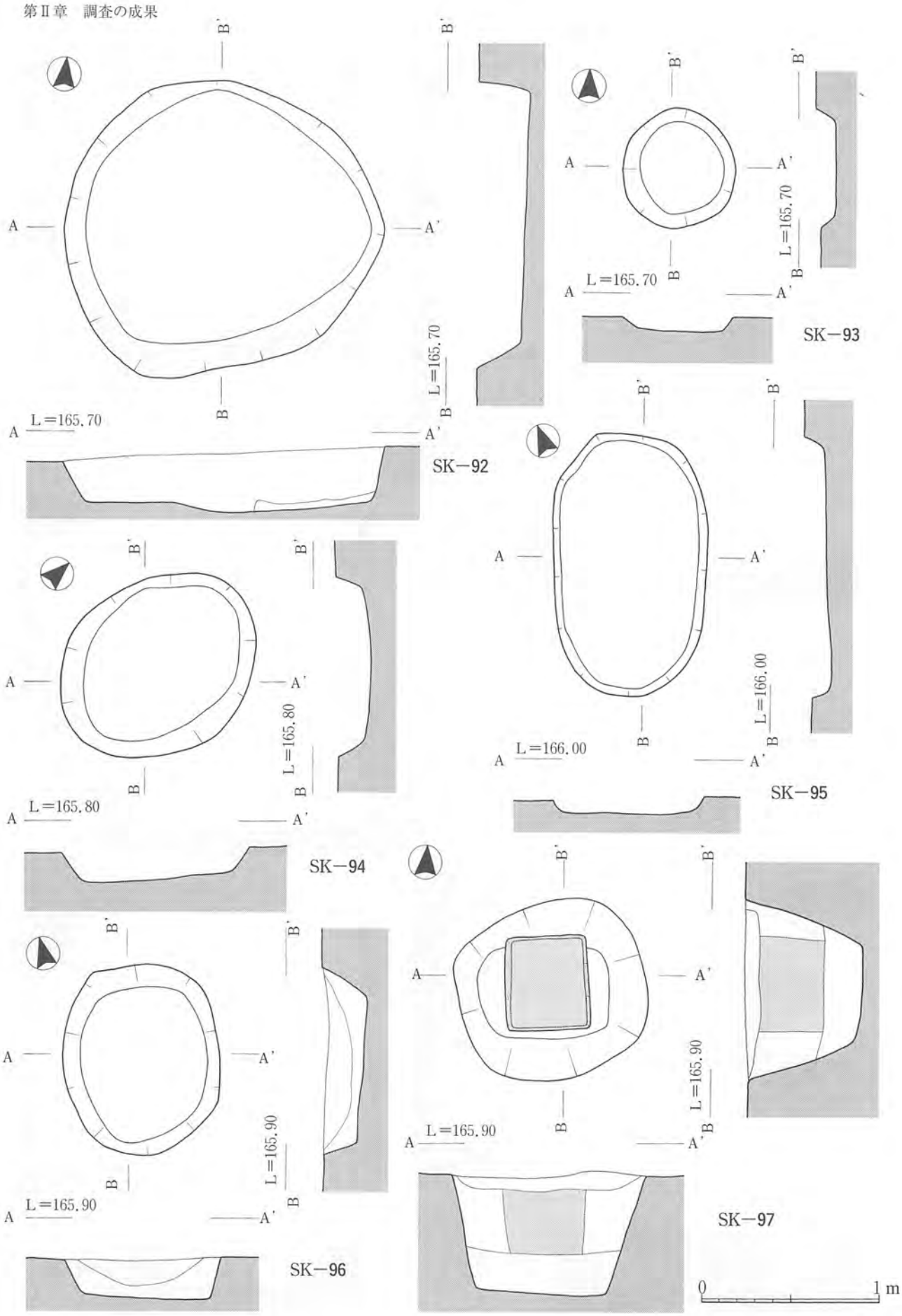
第93図　SK−76・77・78・79・80実測図



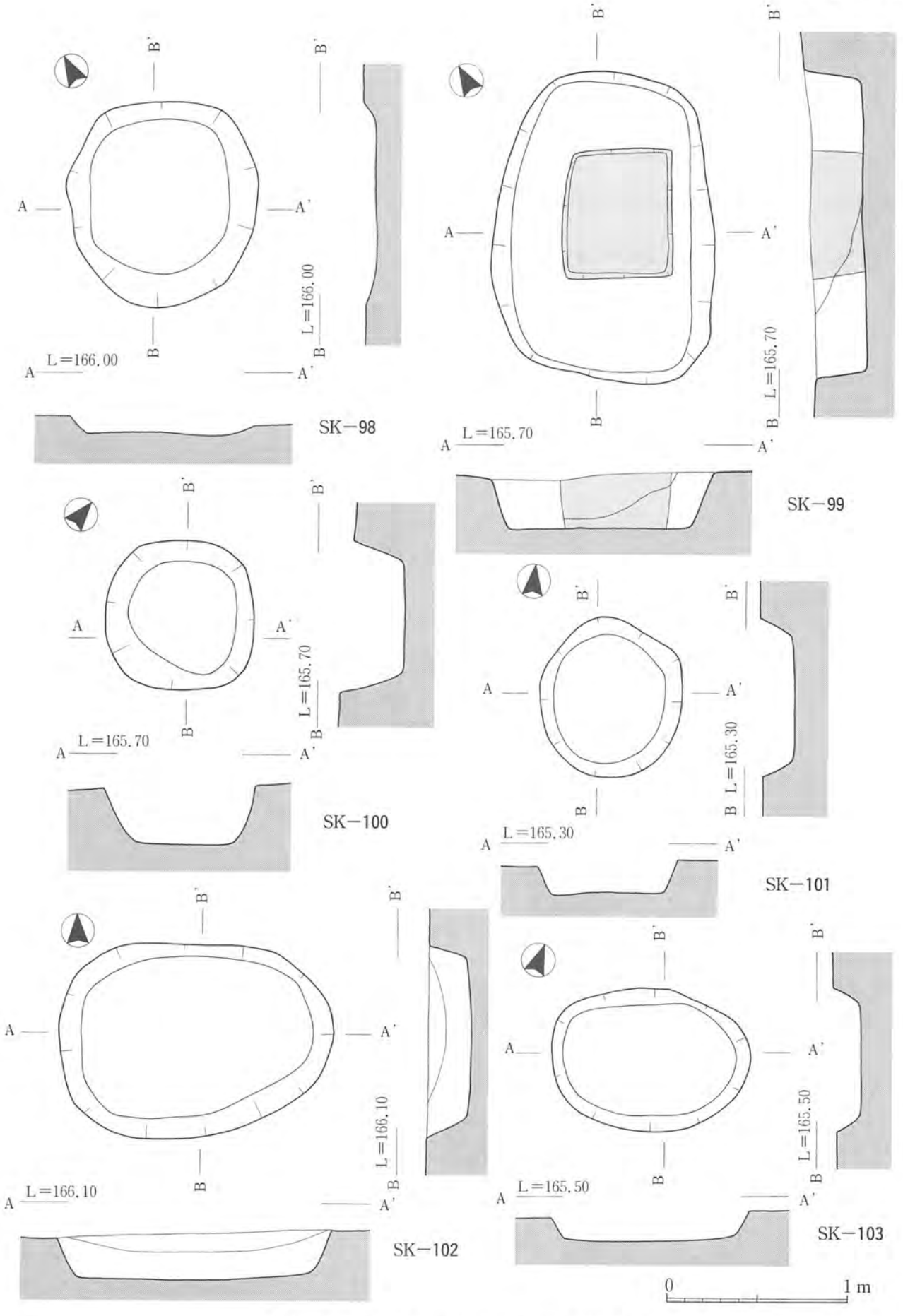
第94図　SK−81・82・83・84・85・86実測図



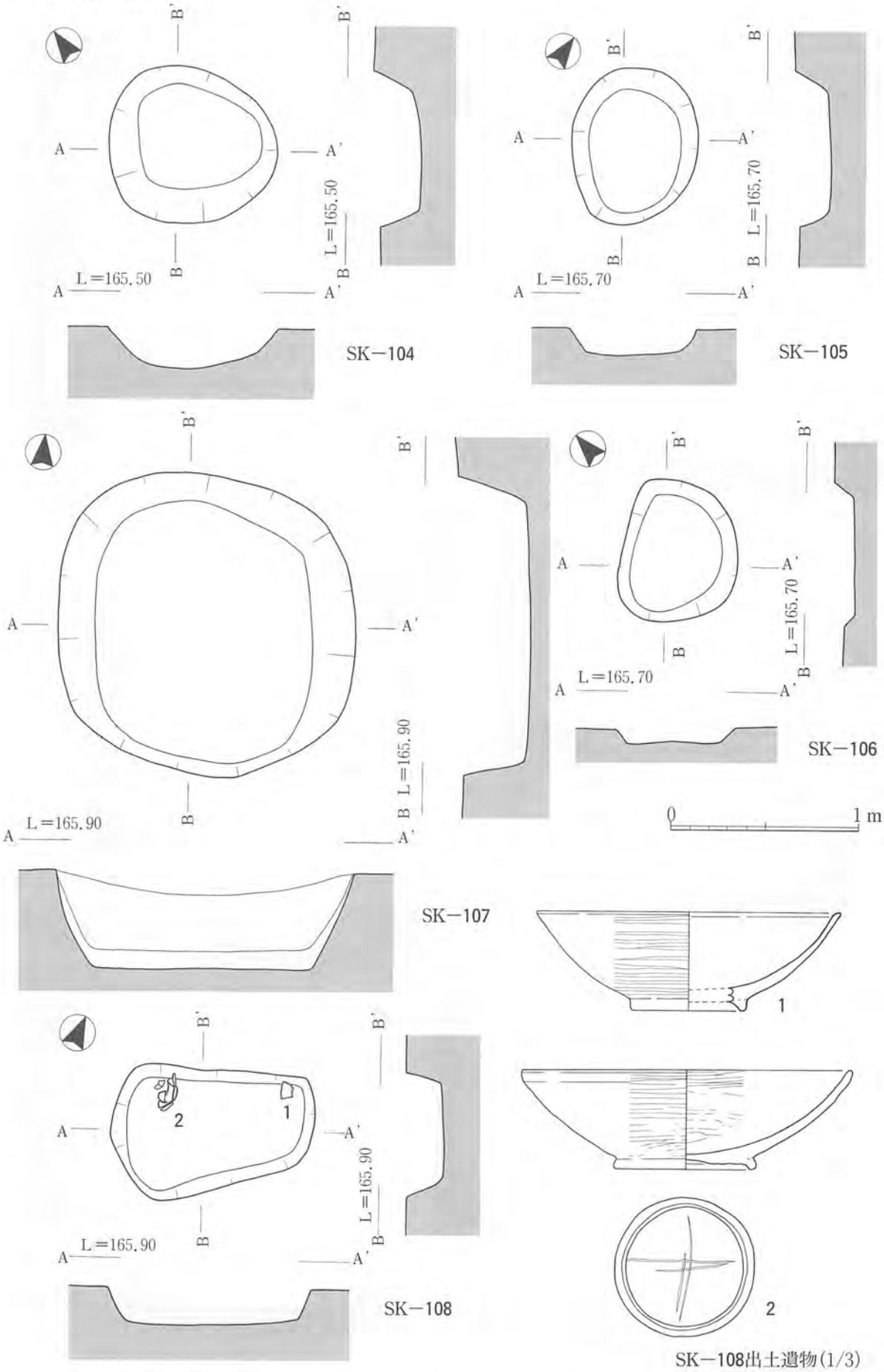
第95図　SK−87・88・89・90・91実測図



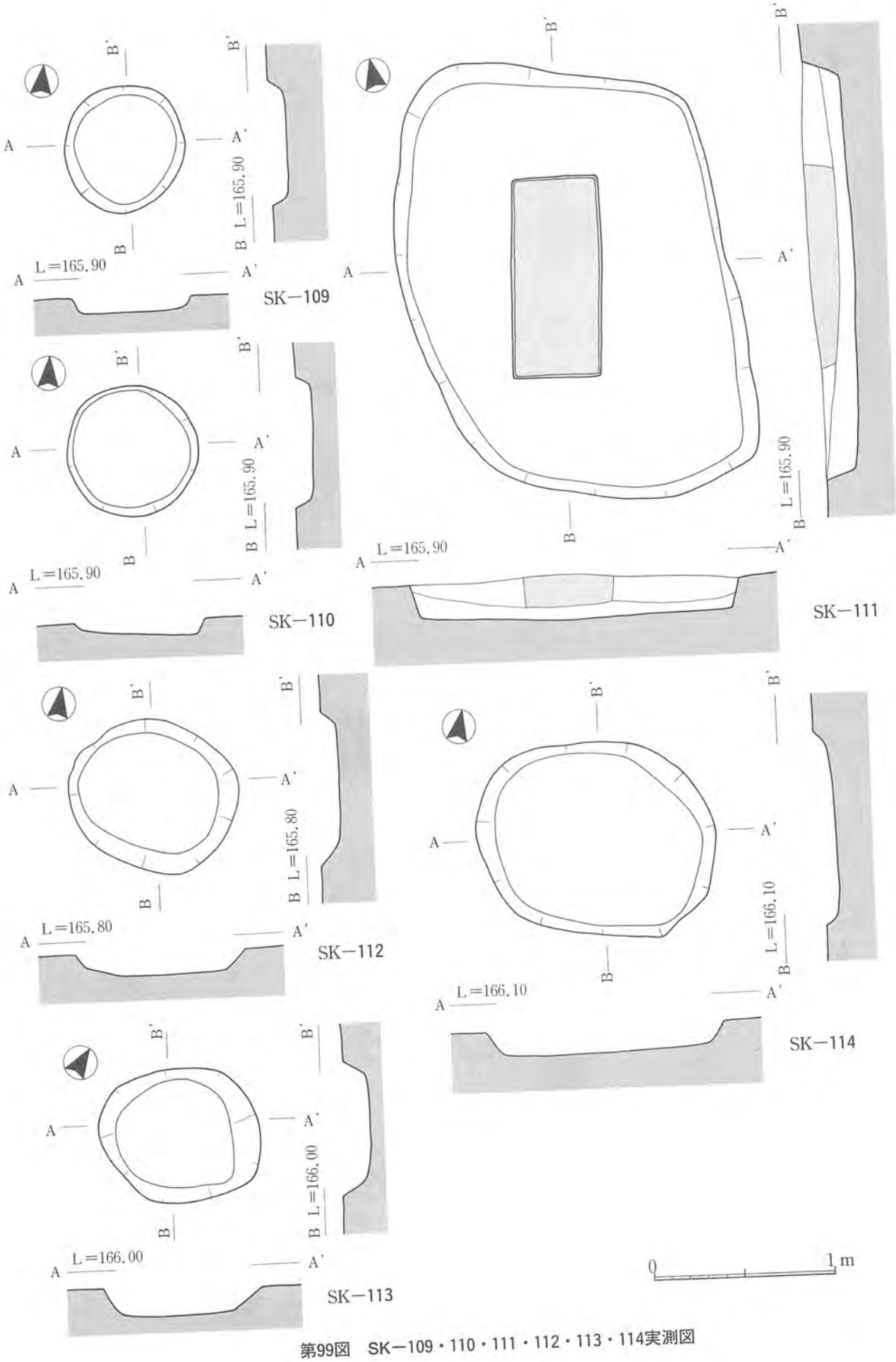
第96図　SK−92・93・94・95・96・97実測図



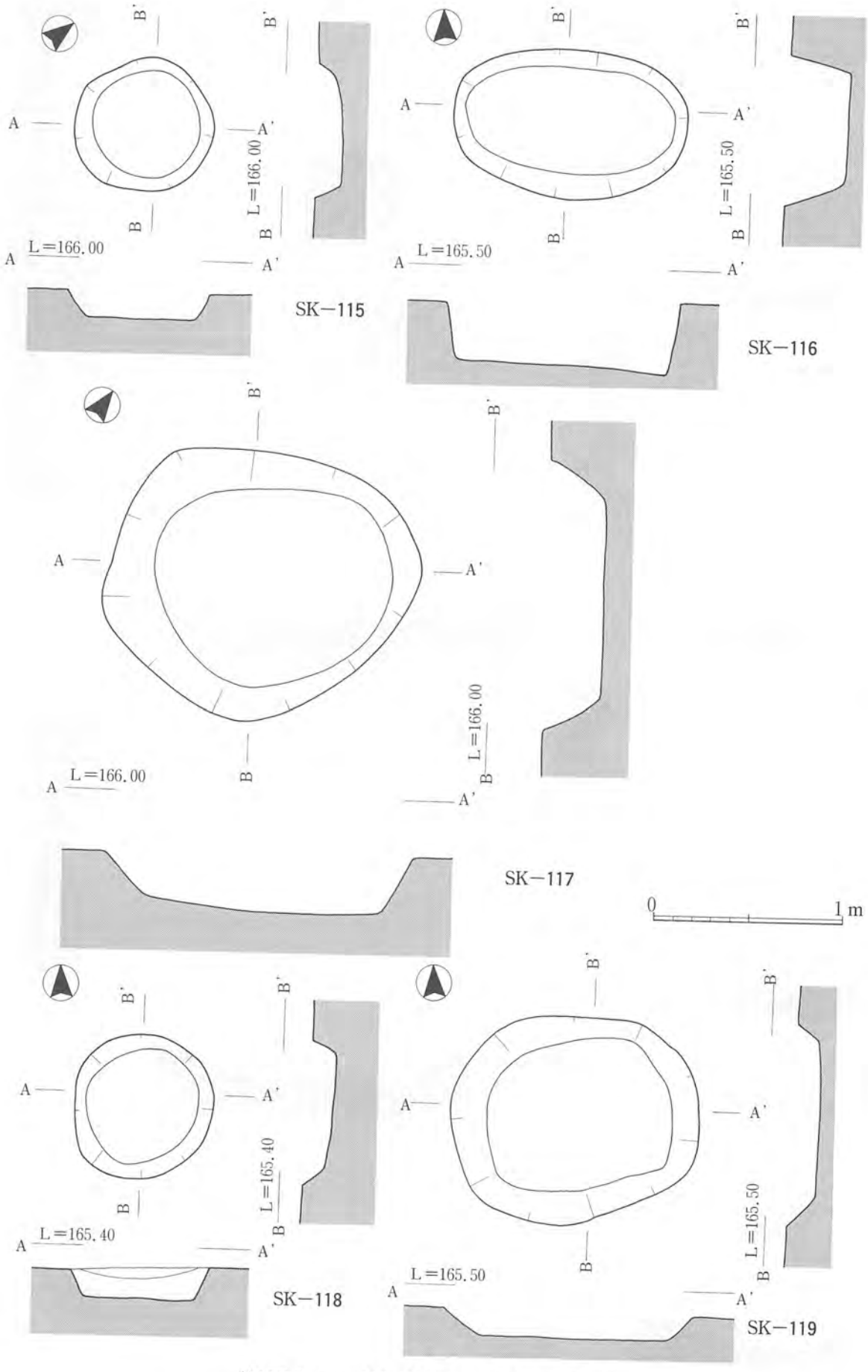
第97図　SK−98・99・100・101・102・103実測図



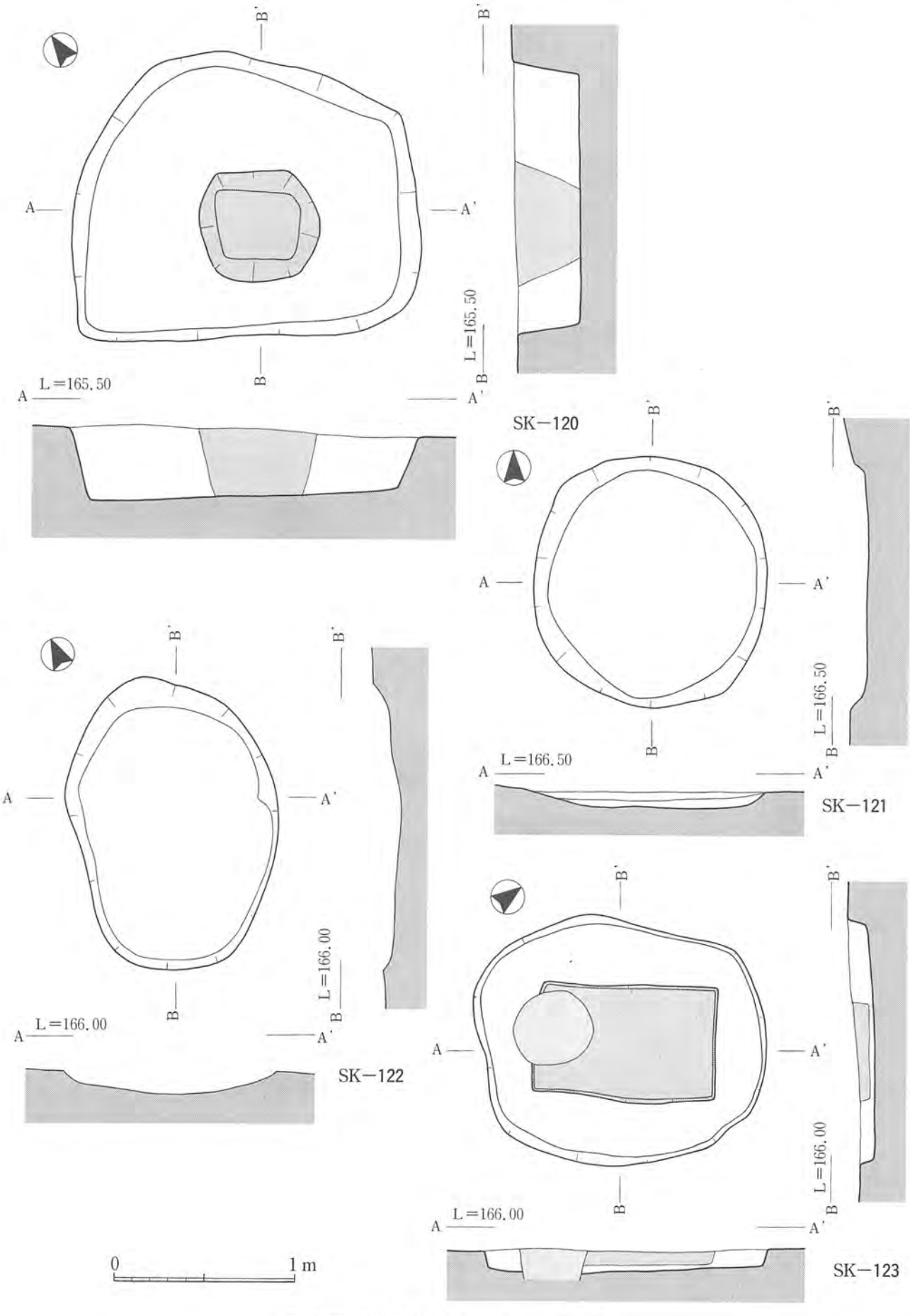
第98図　SK－104・105・106・107・108実測図及びSK－108出土遺物



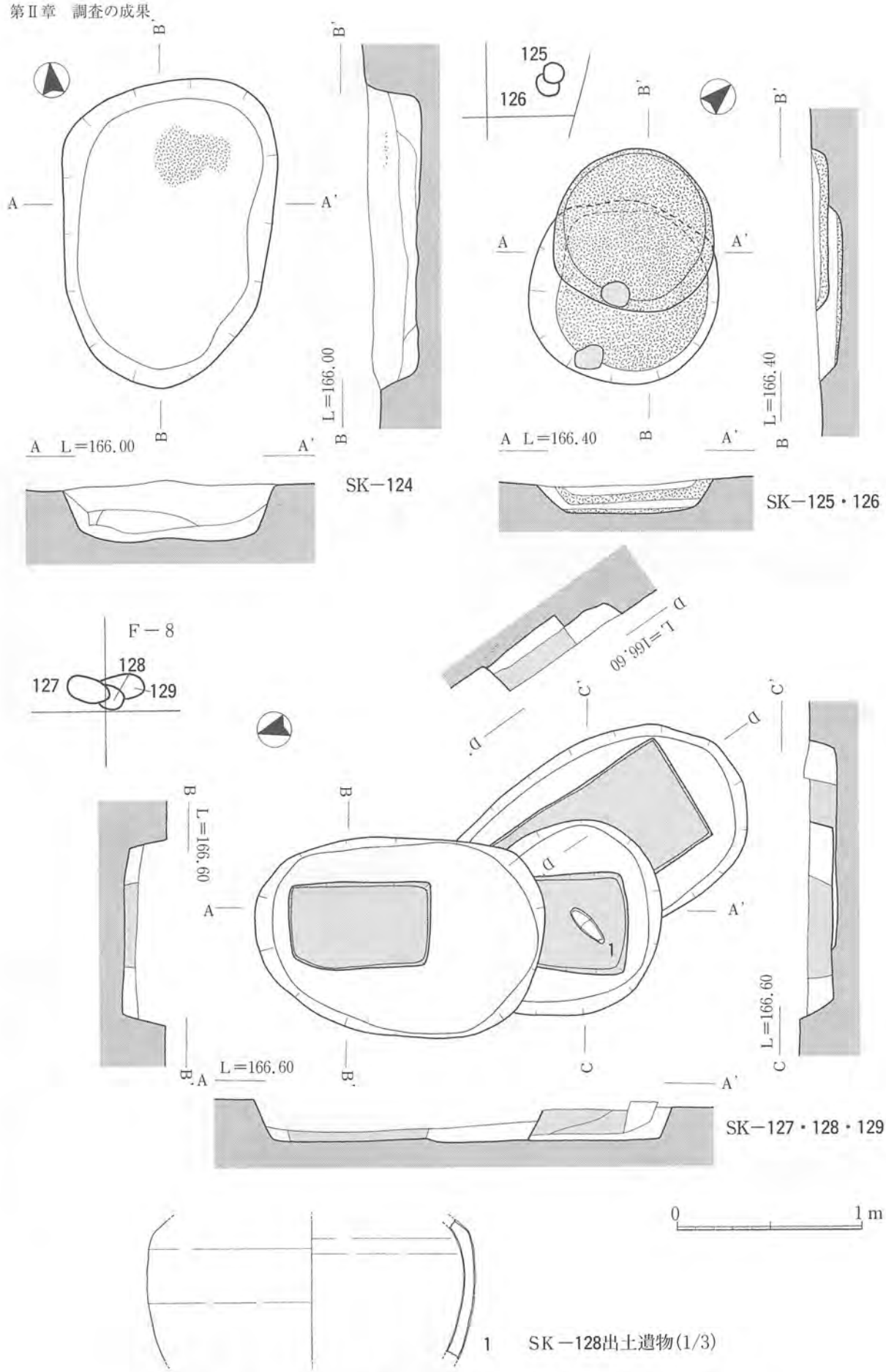
第99図　SK−109・110・111・112・113・114実測図



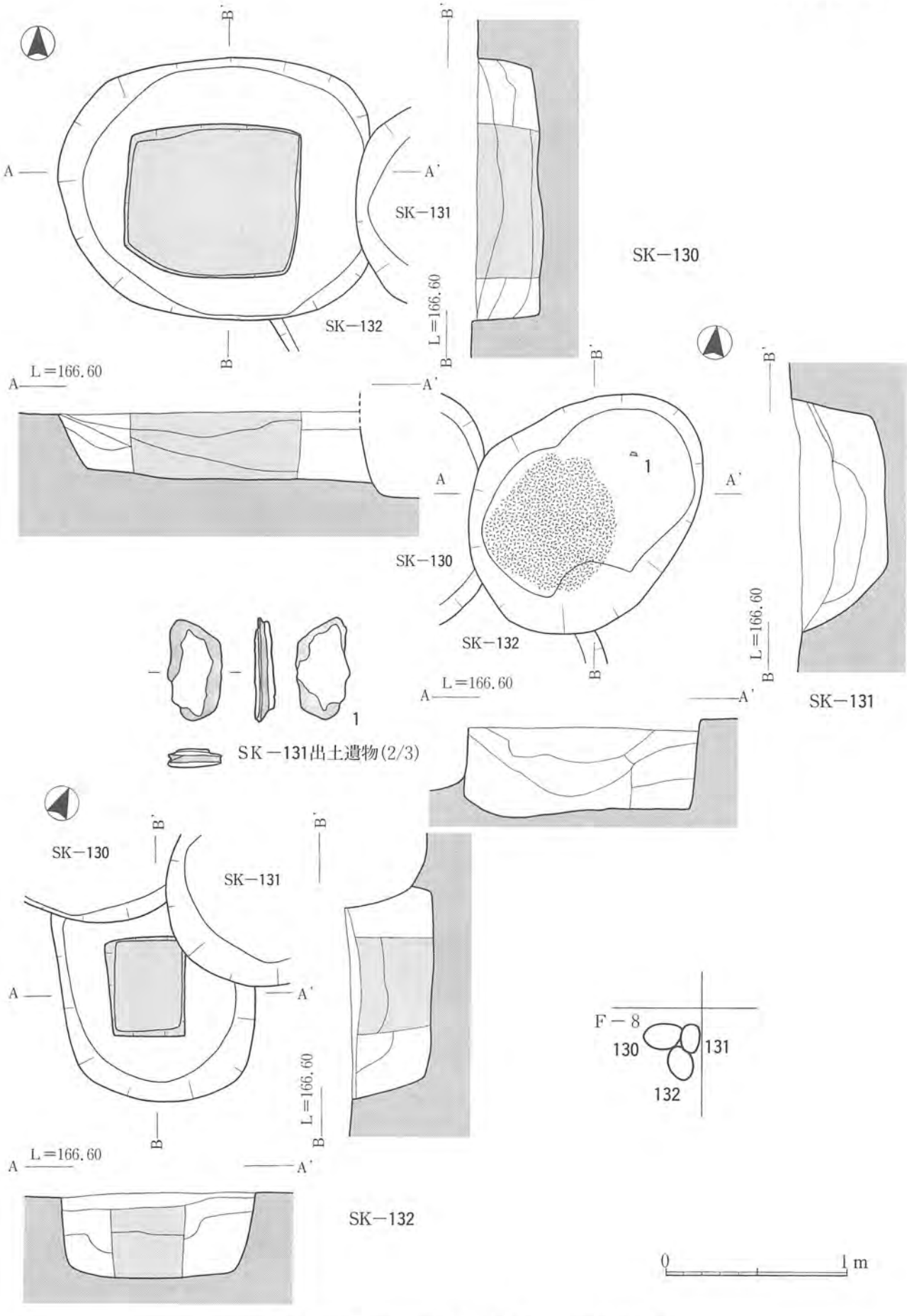
第100図　SK−115・116・117・118・119実測図



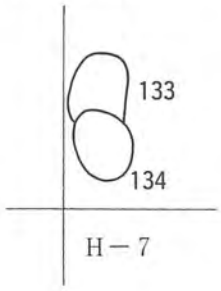
第101図　SK−120・121・122・123実測図

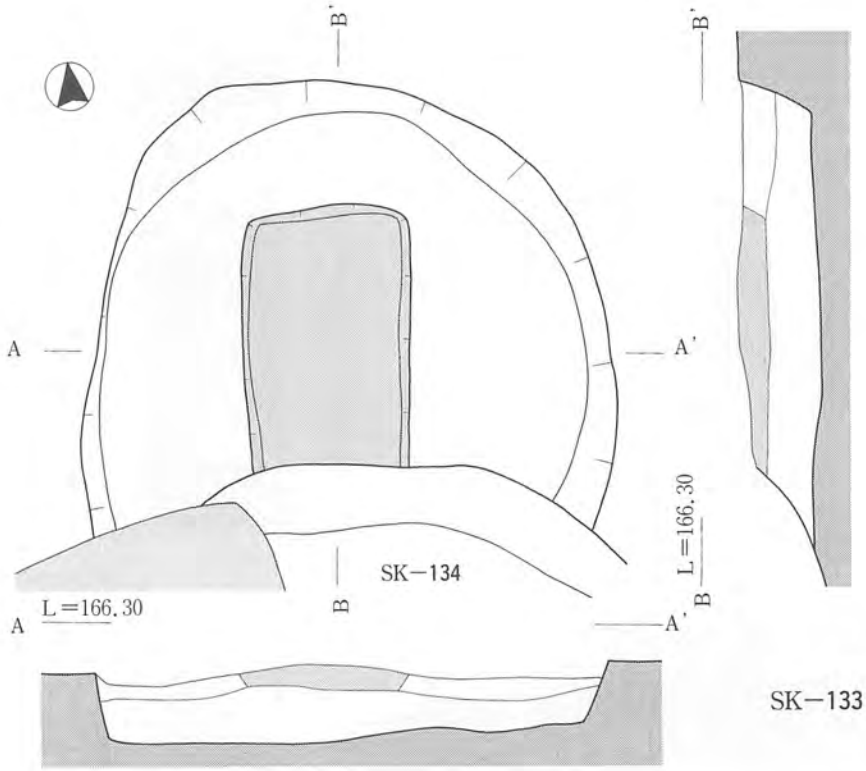


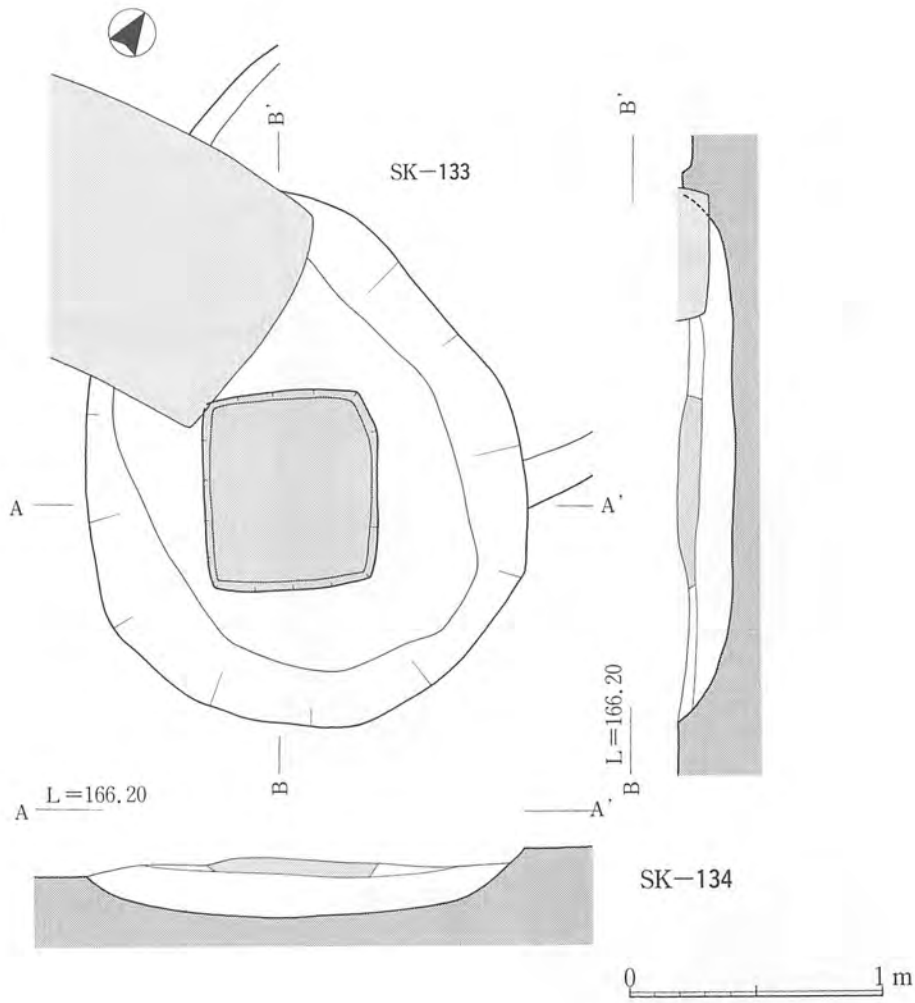
第102図　SK－124・125・126・127・128・129実測図及びSK－128出土遺物



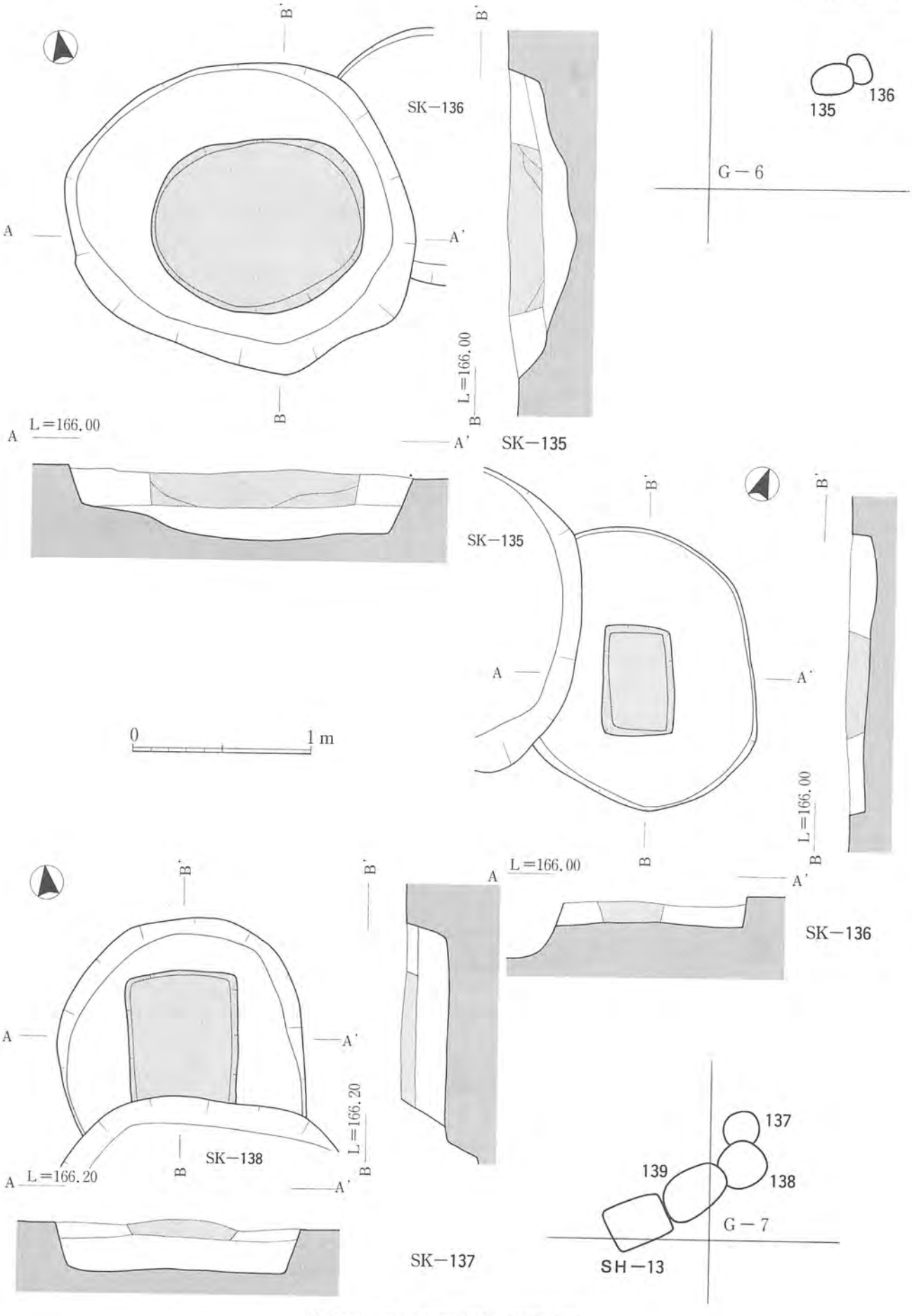
第103図　SK−130・131・132実測図及びSK−131出土遺物



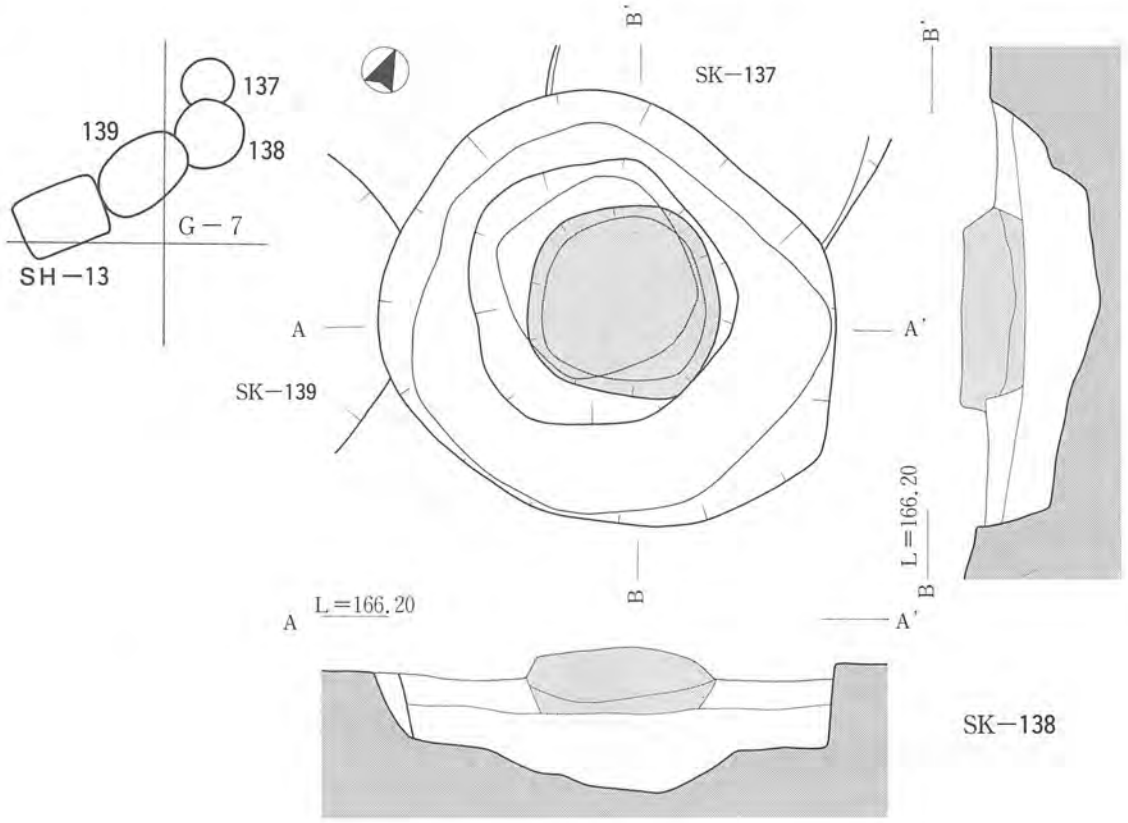


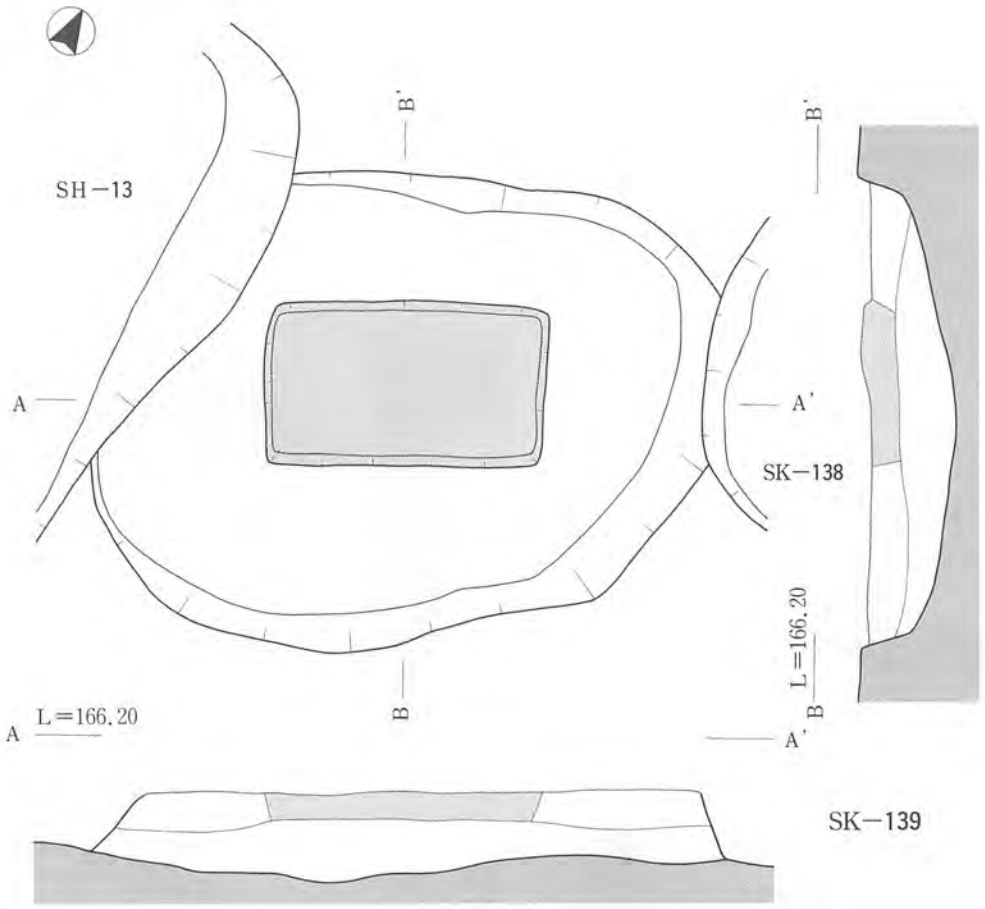


第104図　SK－133・134実測図



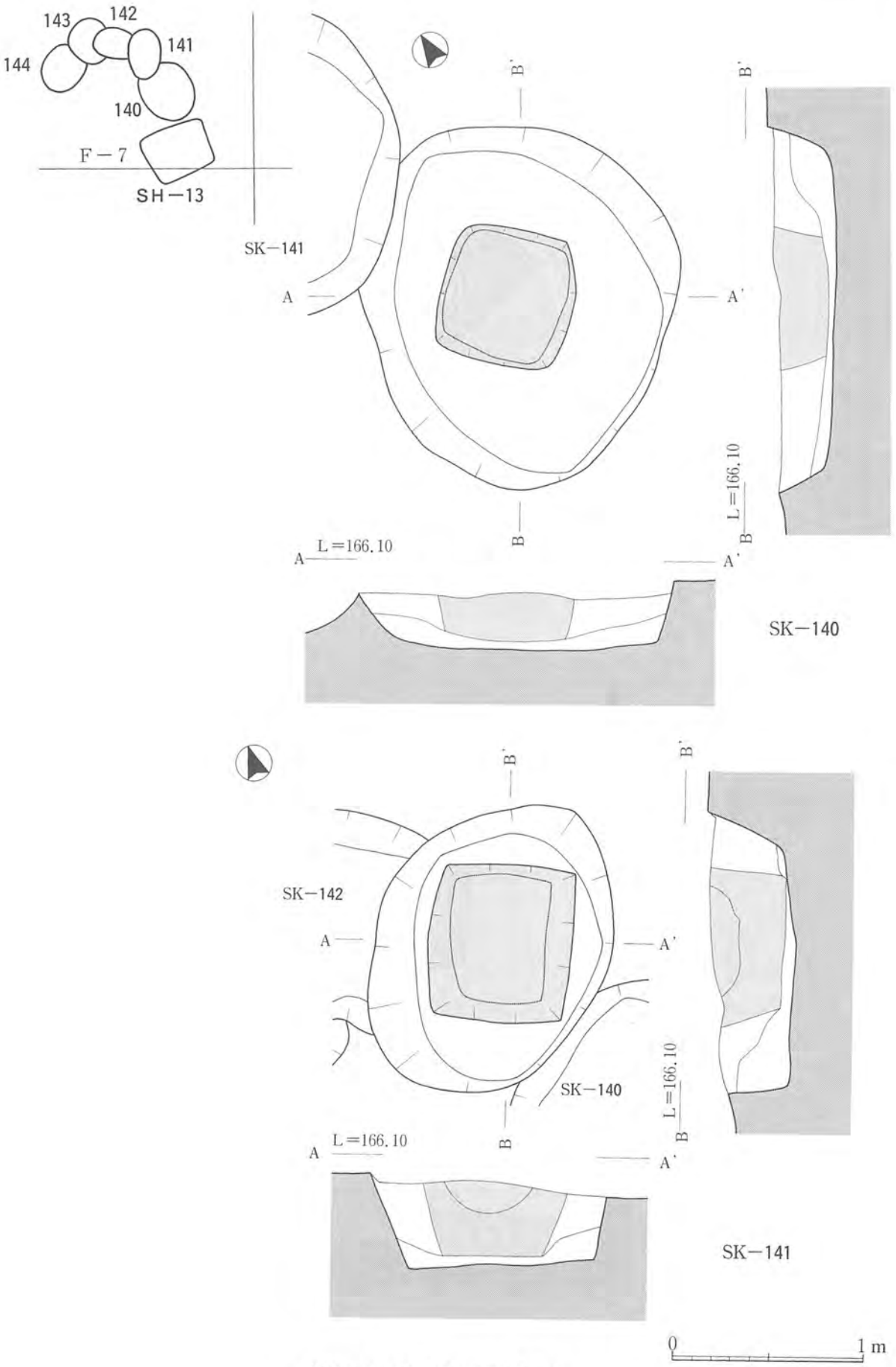
第105図　SK−135・136・137実測図



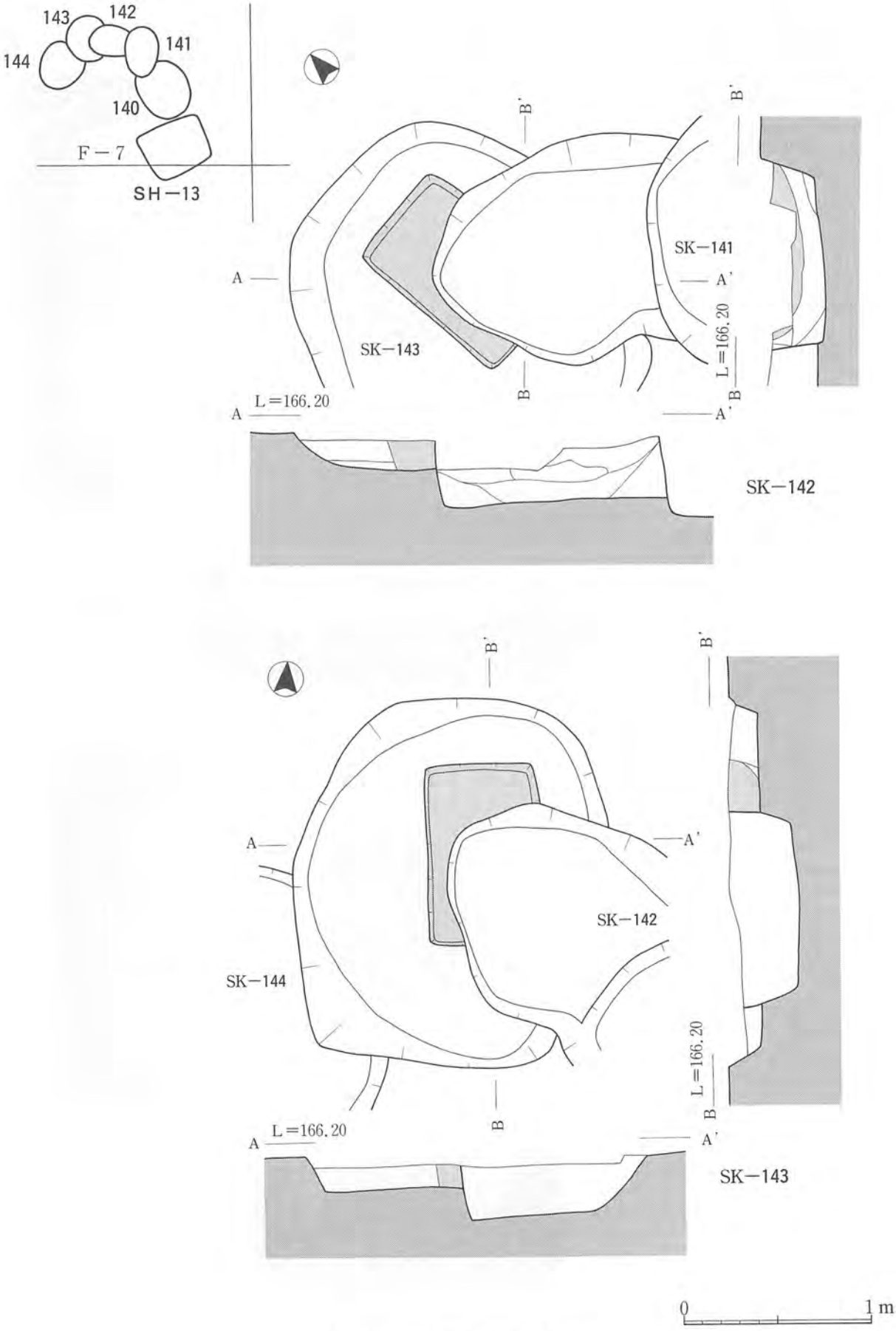


0　1 m

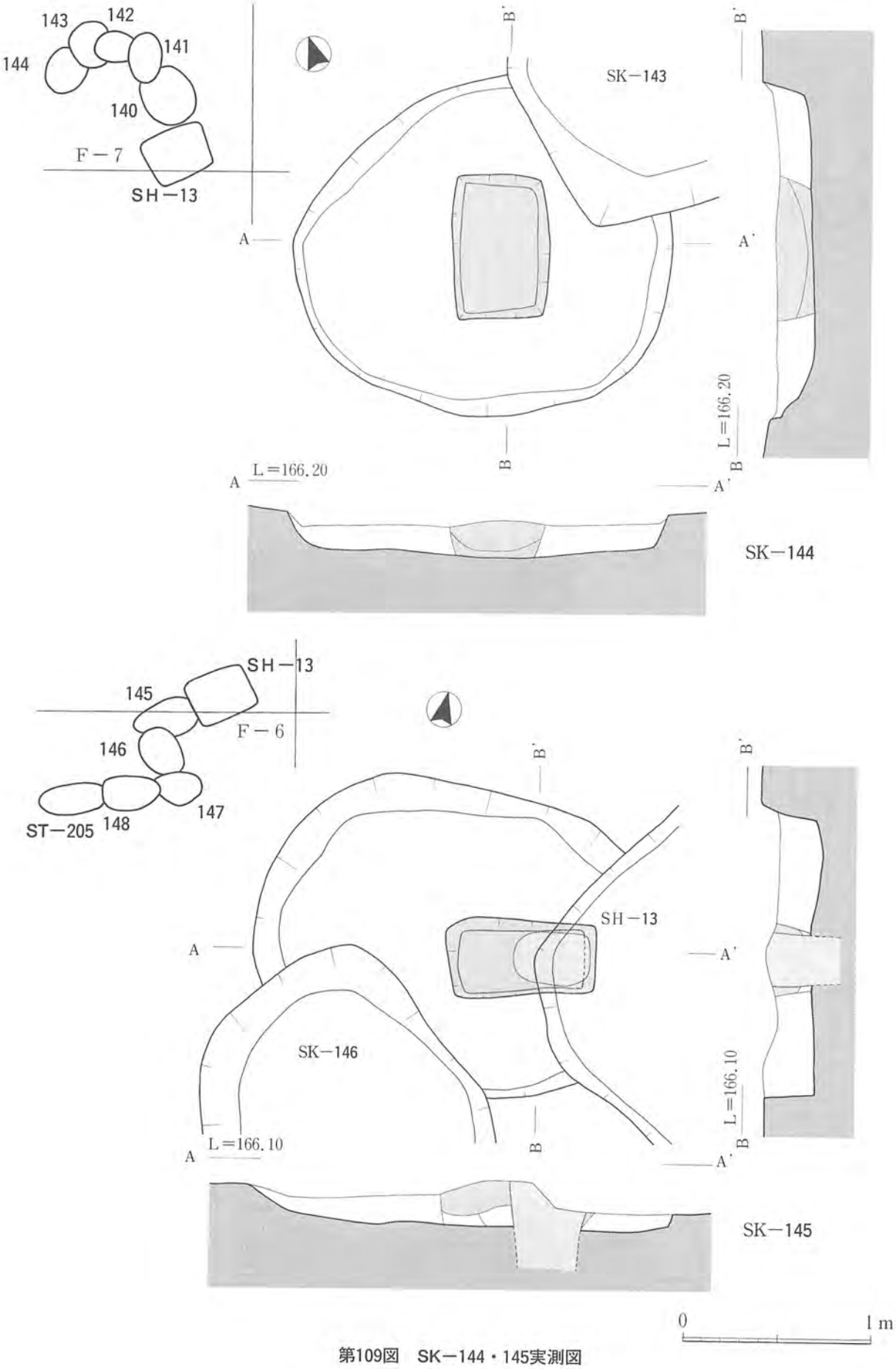
第106図　SK－138・139実測図



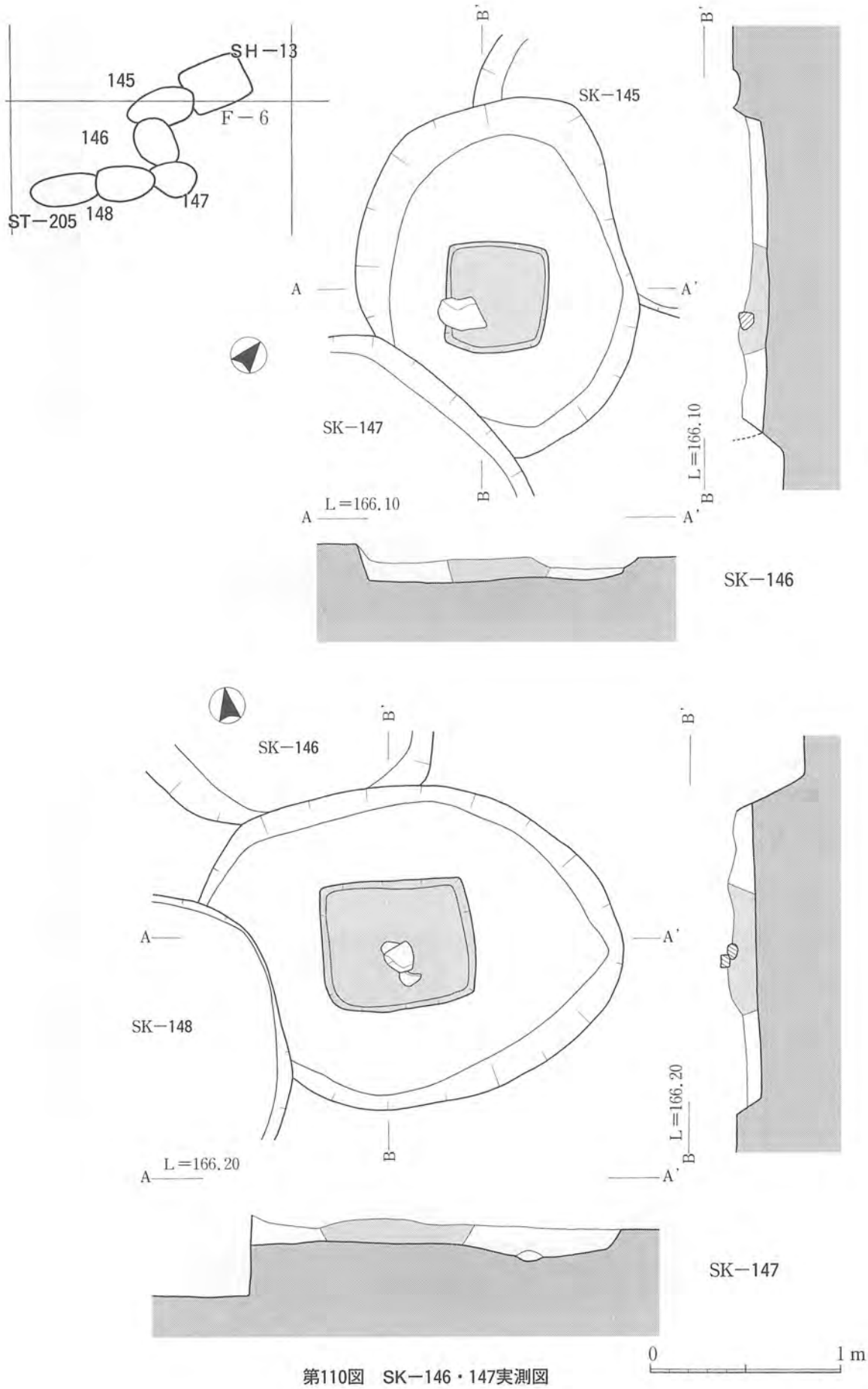
第107図　SK－140・141実測図



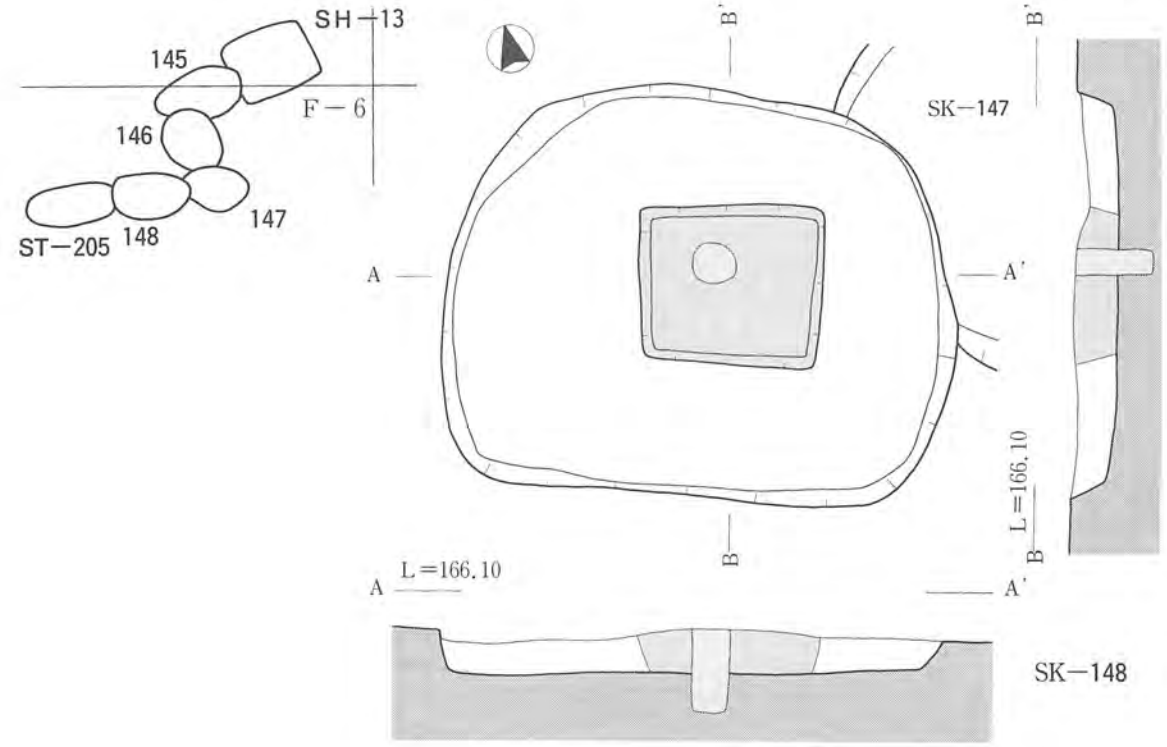
第108図　SK－142・143実測図

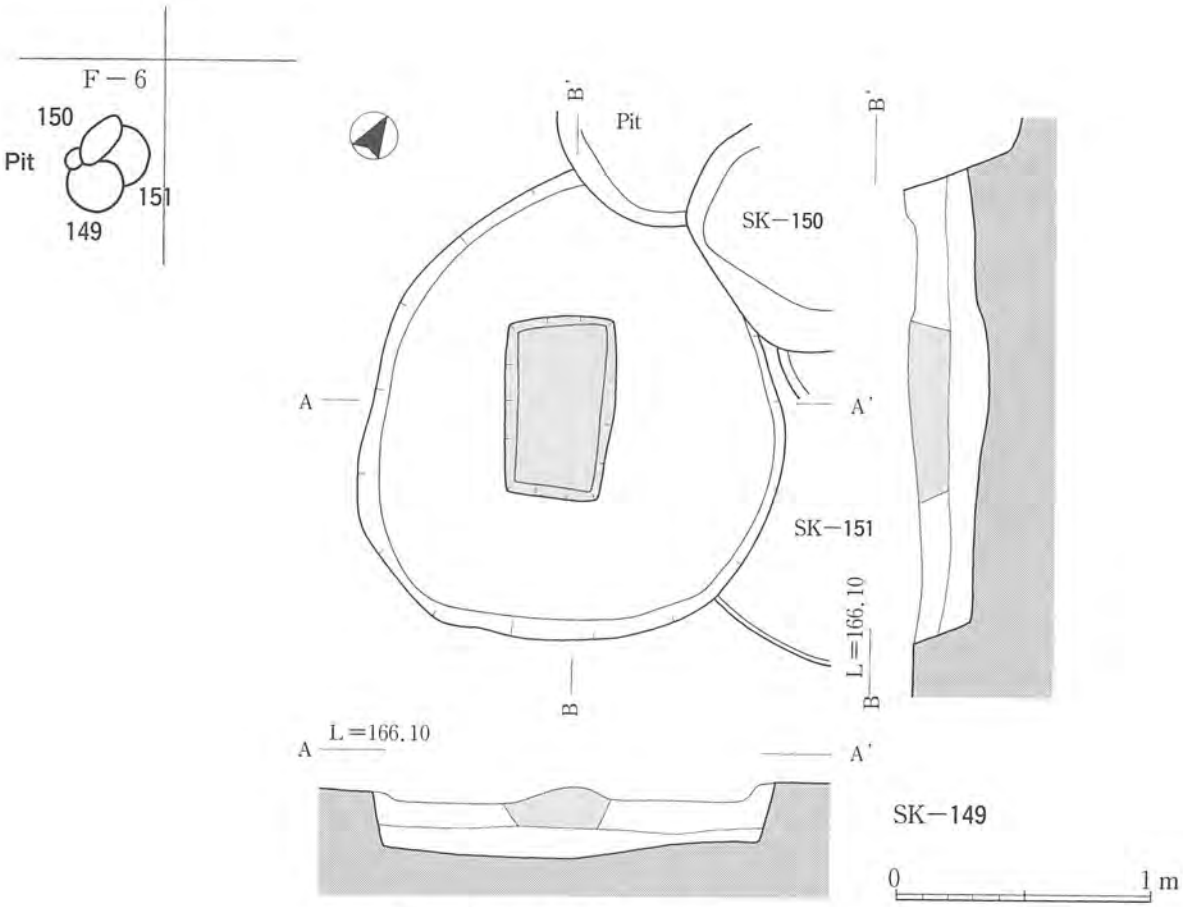


第109図　SK－144・145実測図

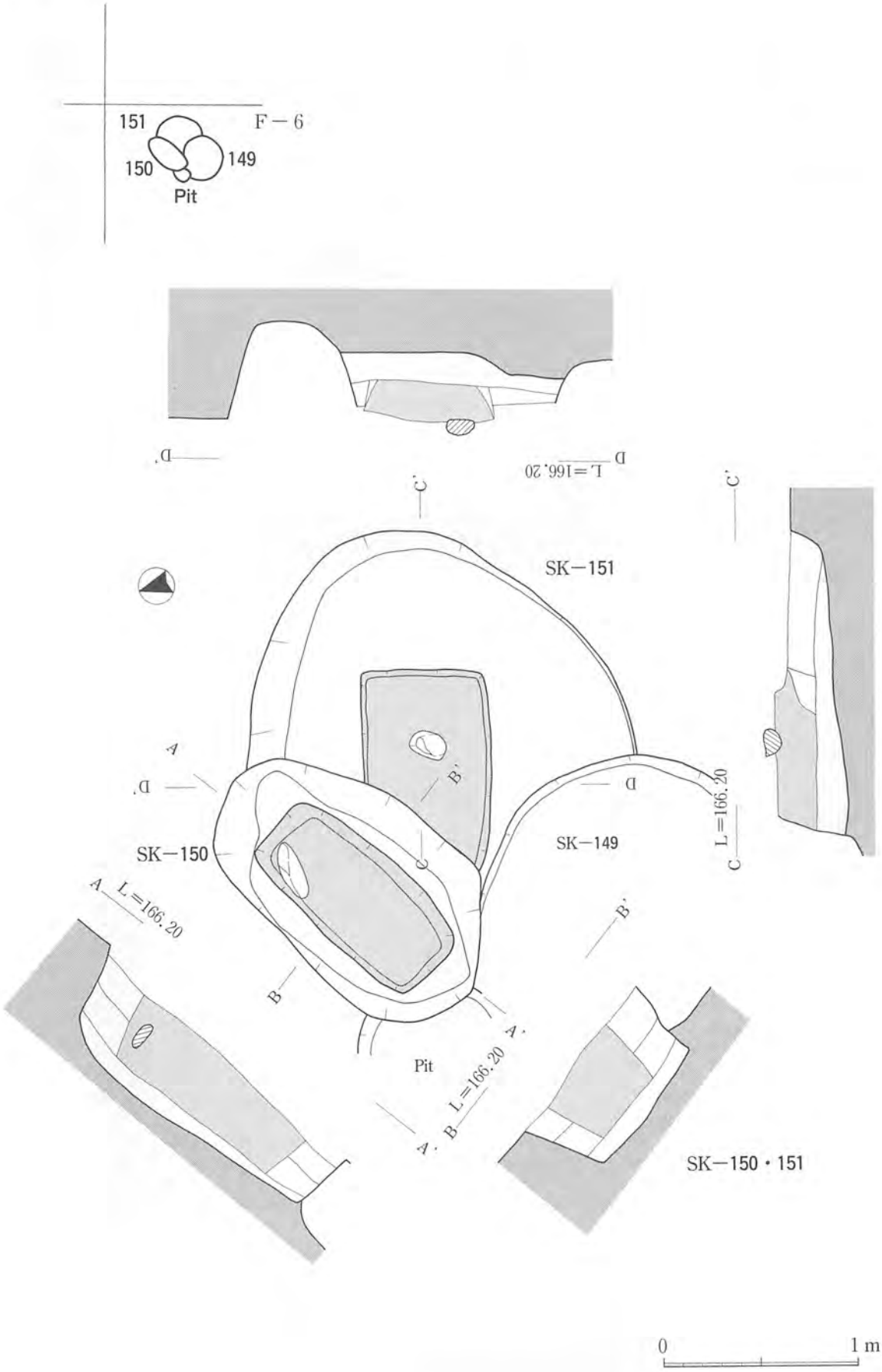


第110図　SK－146・147実測図

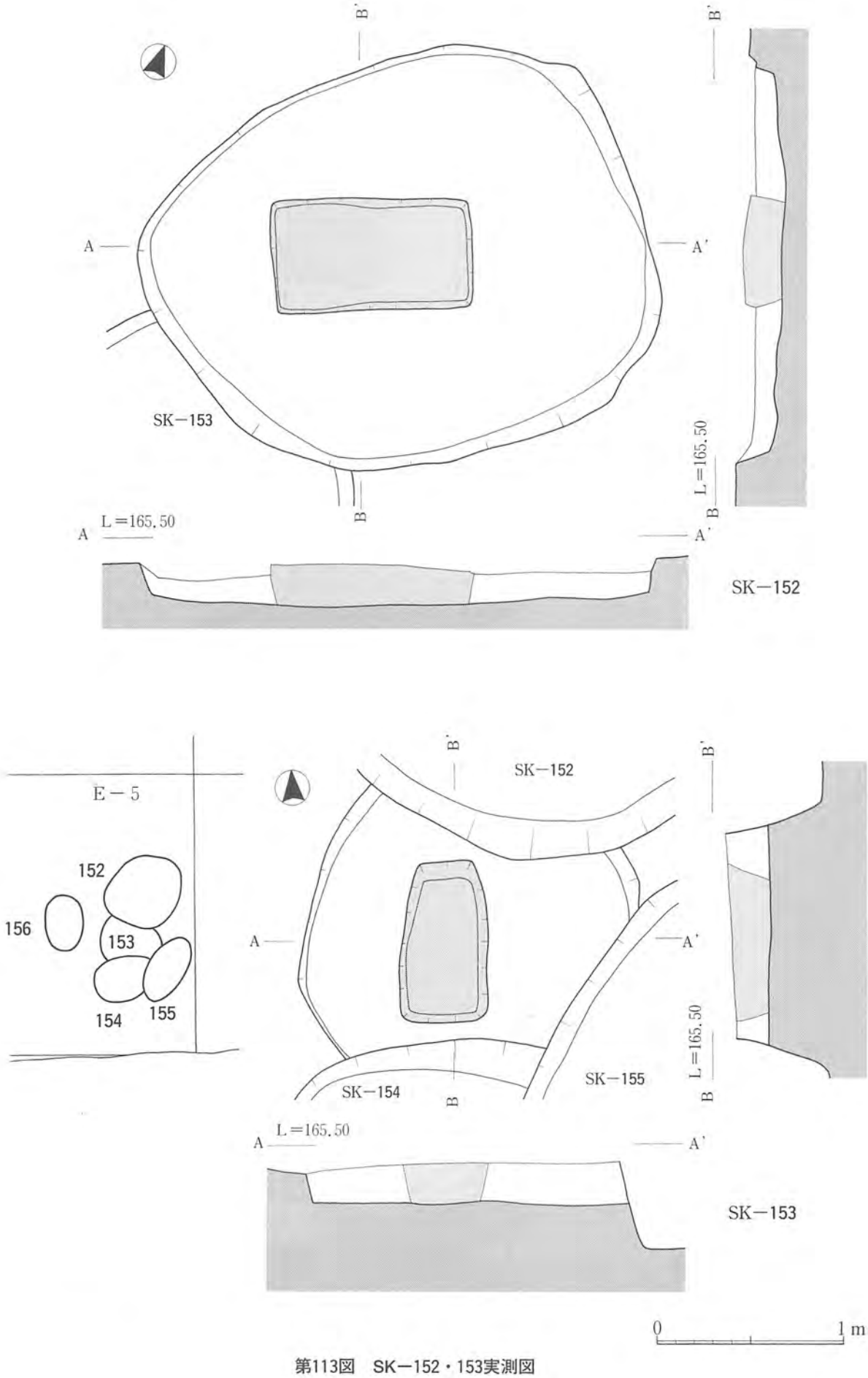




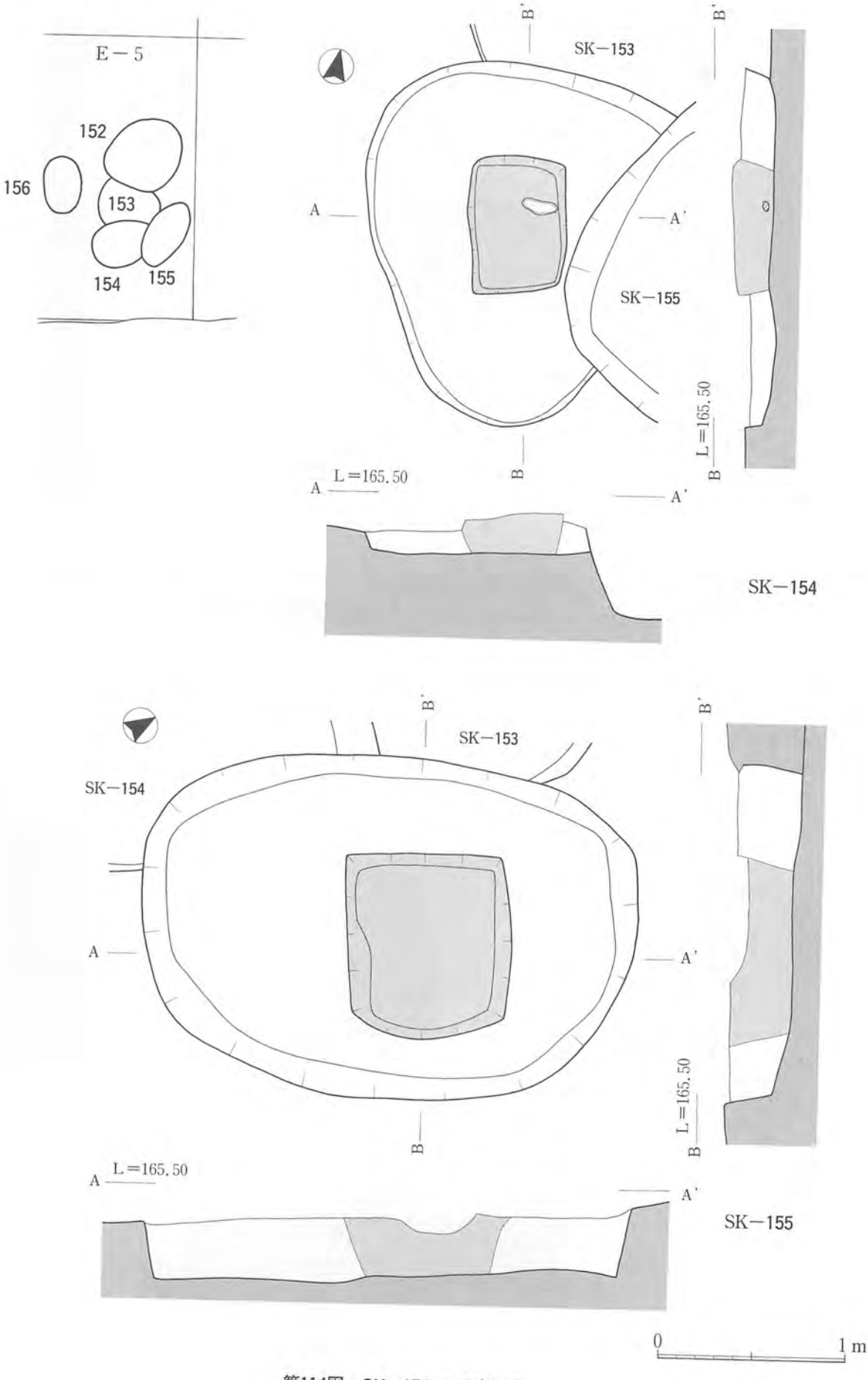
第111図　SK－148・149実測図



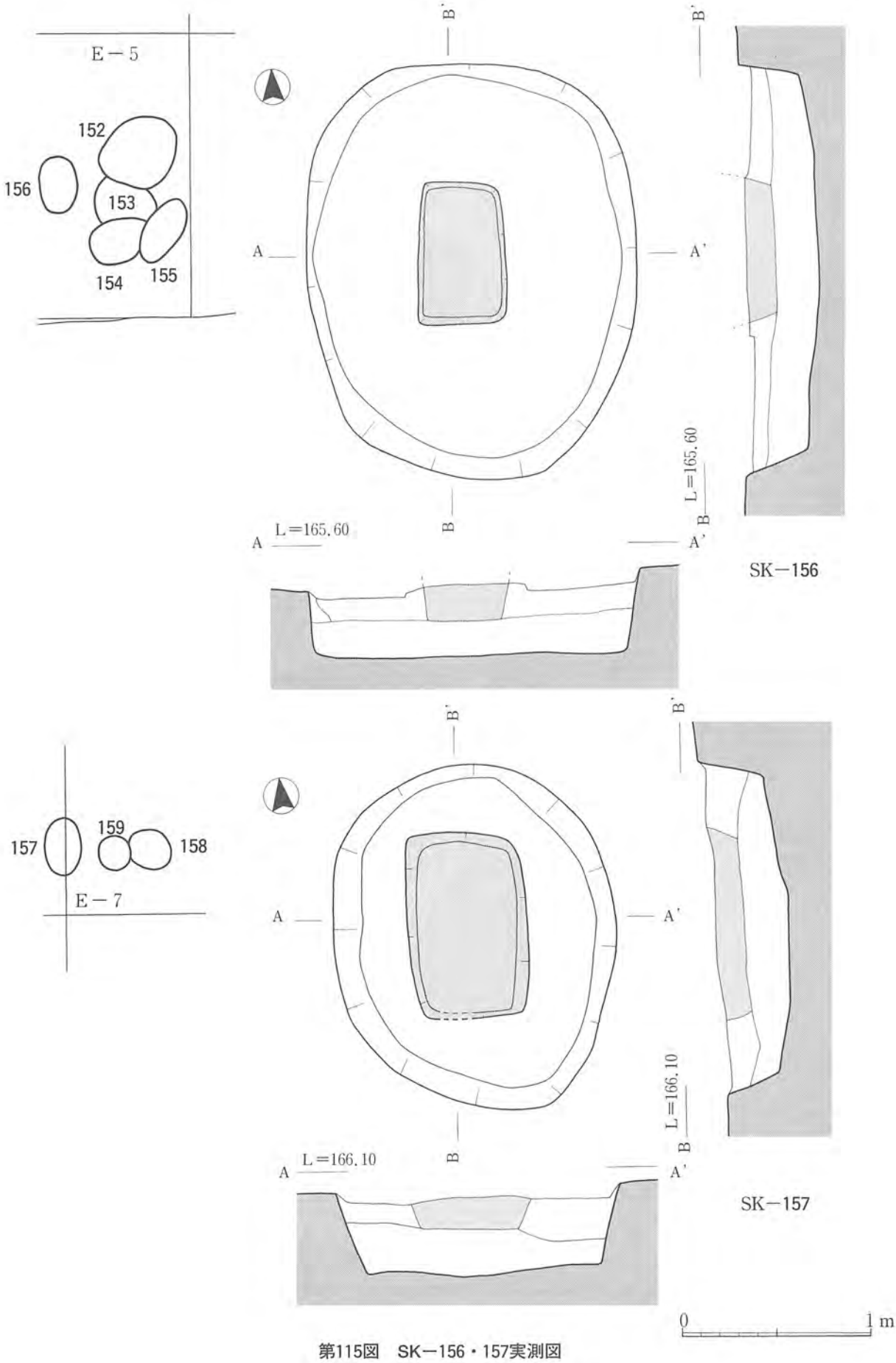
第112図　SK－150・151実測図



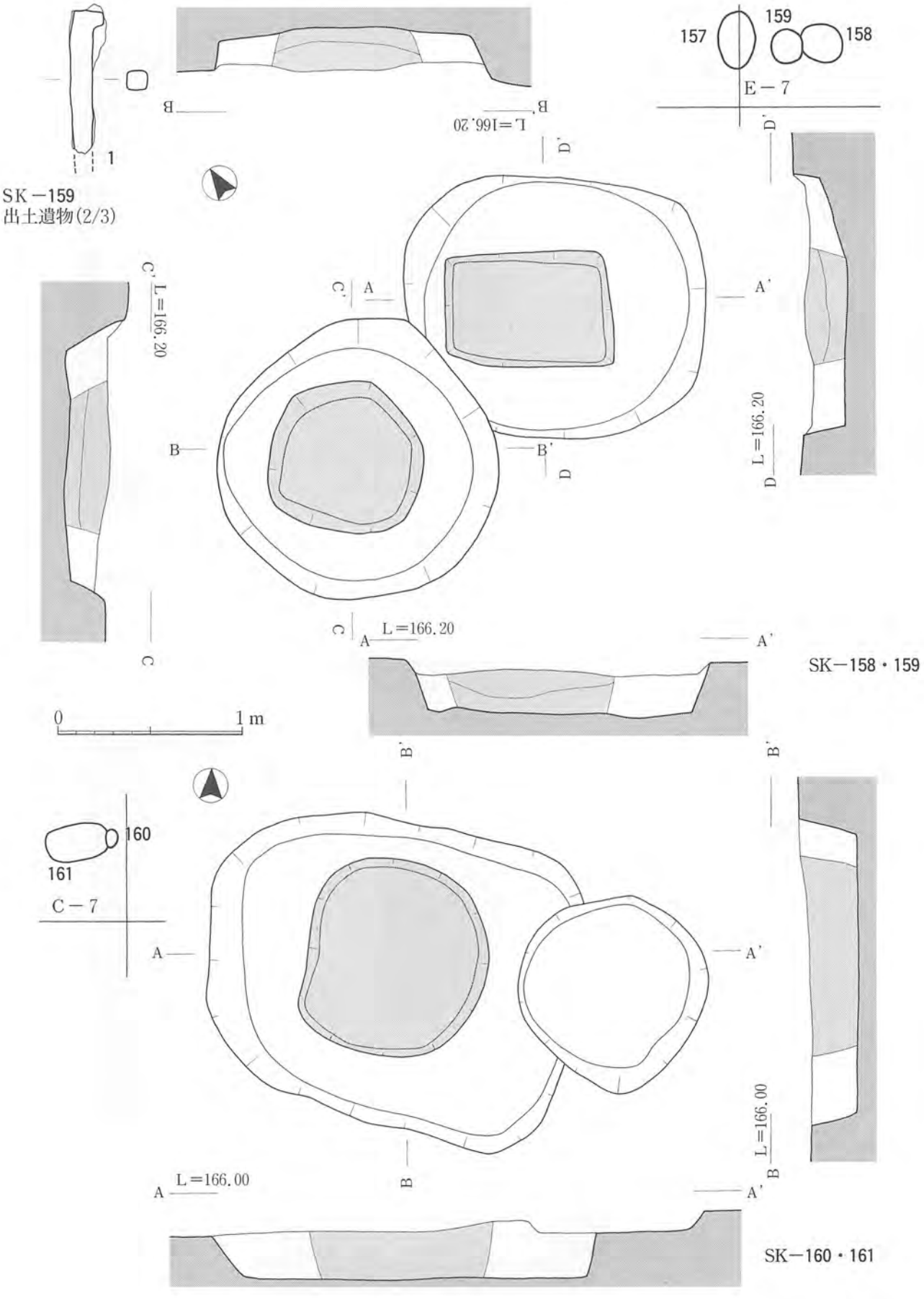
第113図　SK−152・153実測図



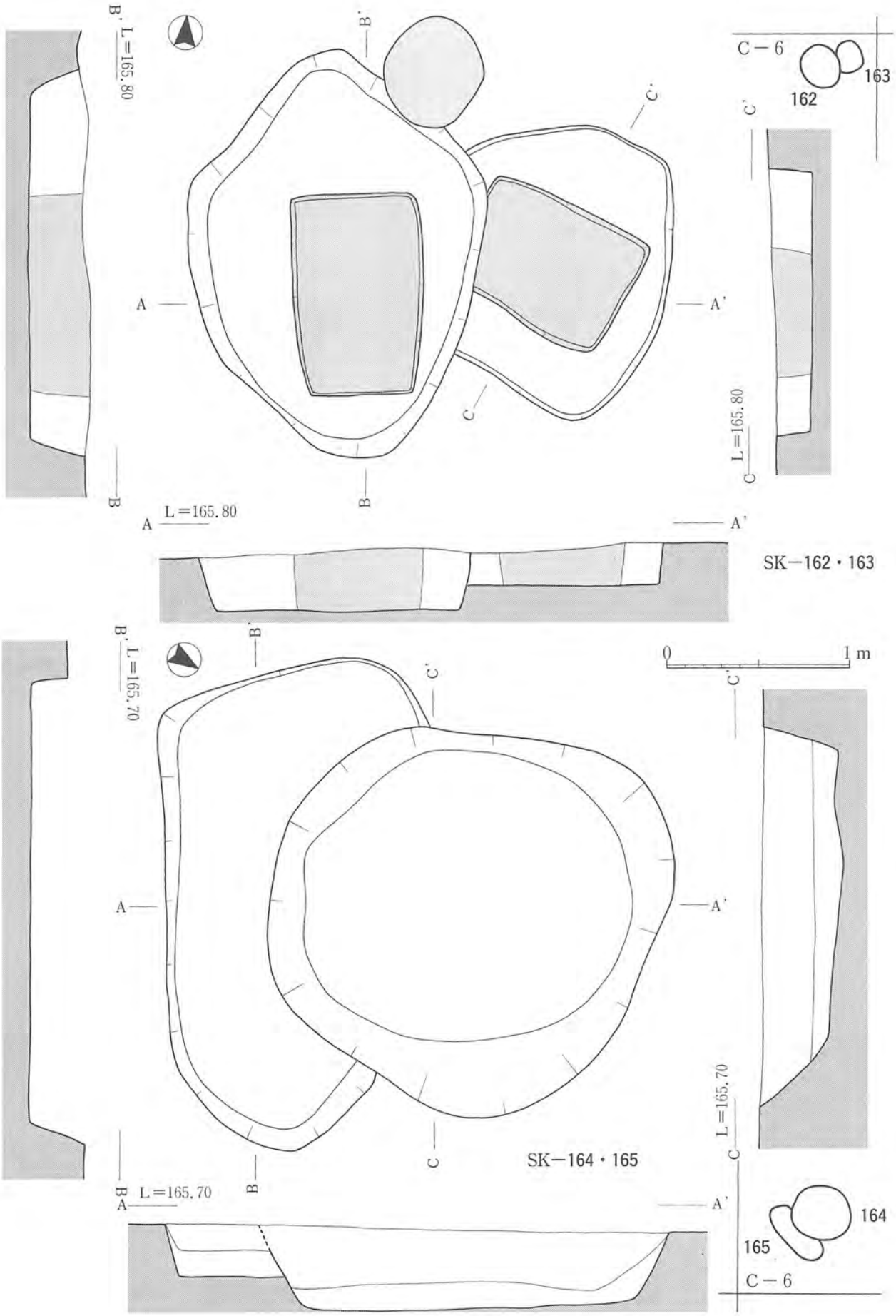
第114図　SK－154・155実測図



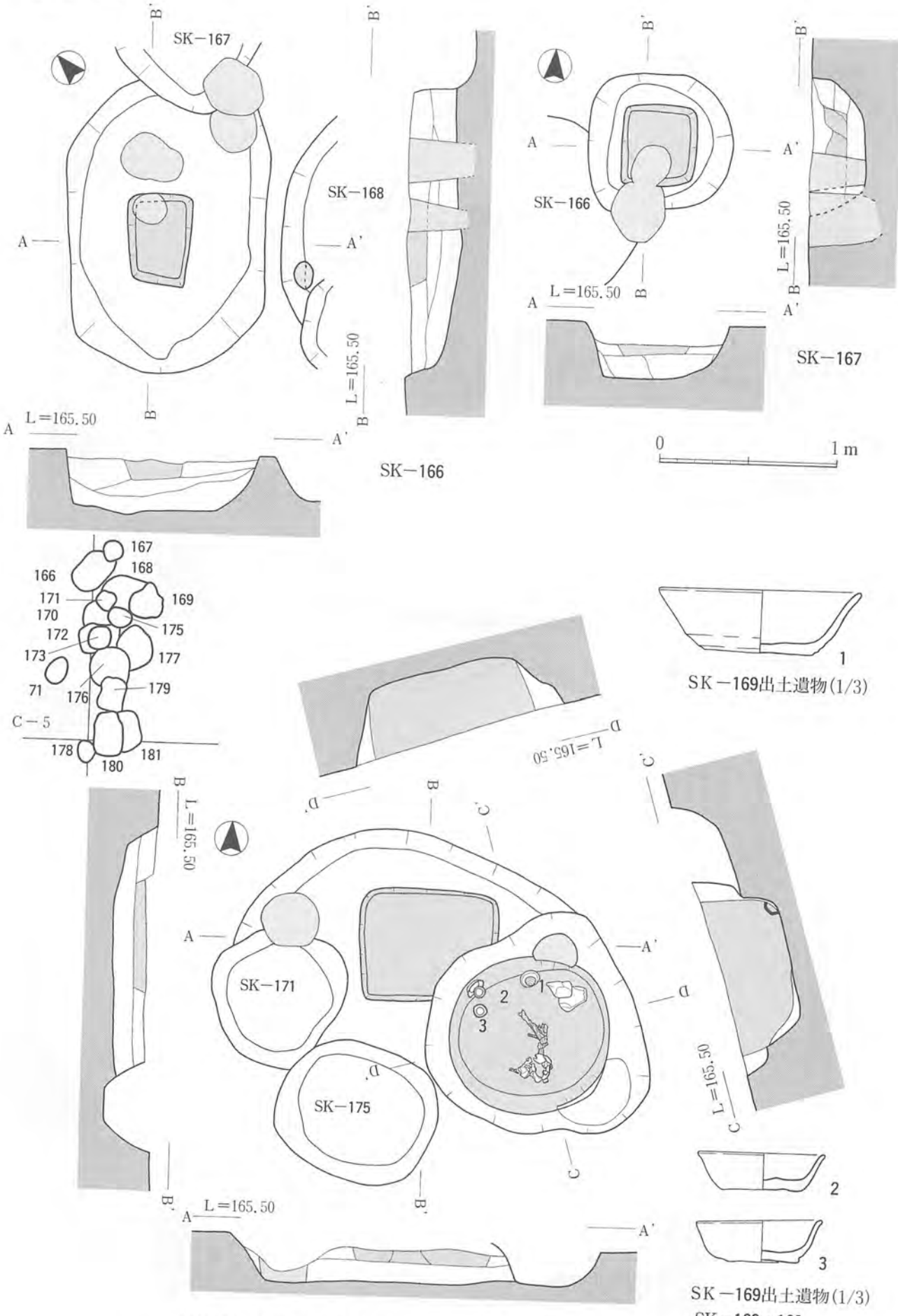
第115図　SK－156・157実測図



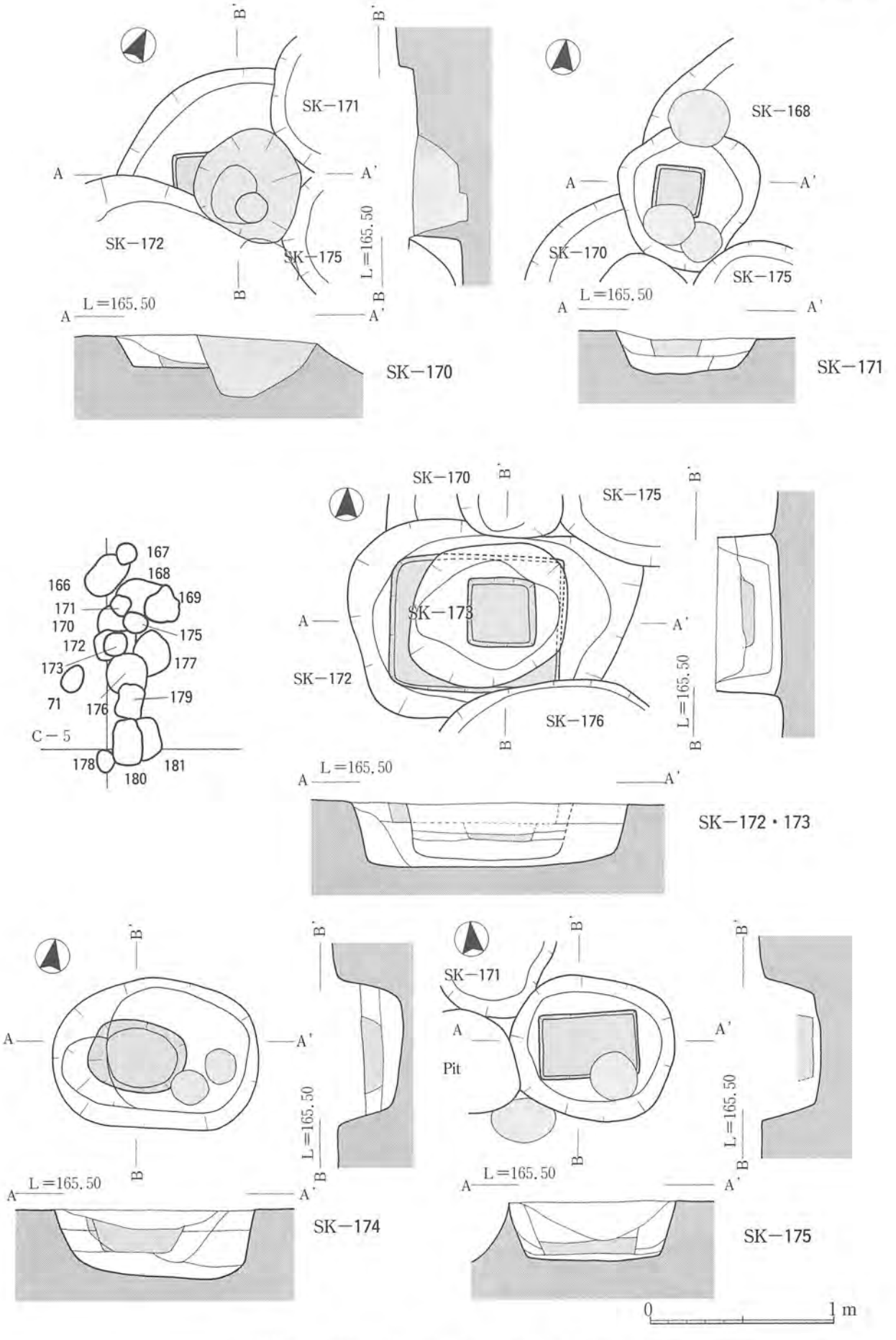
第116図　SK－158・159・160・161実測図及びSK－159出土遺物



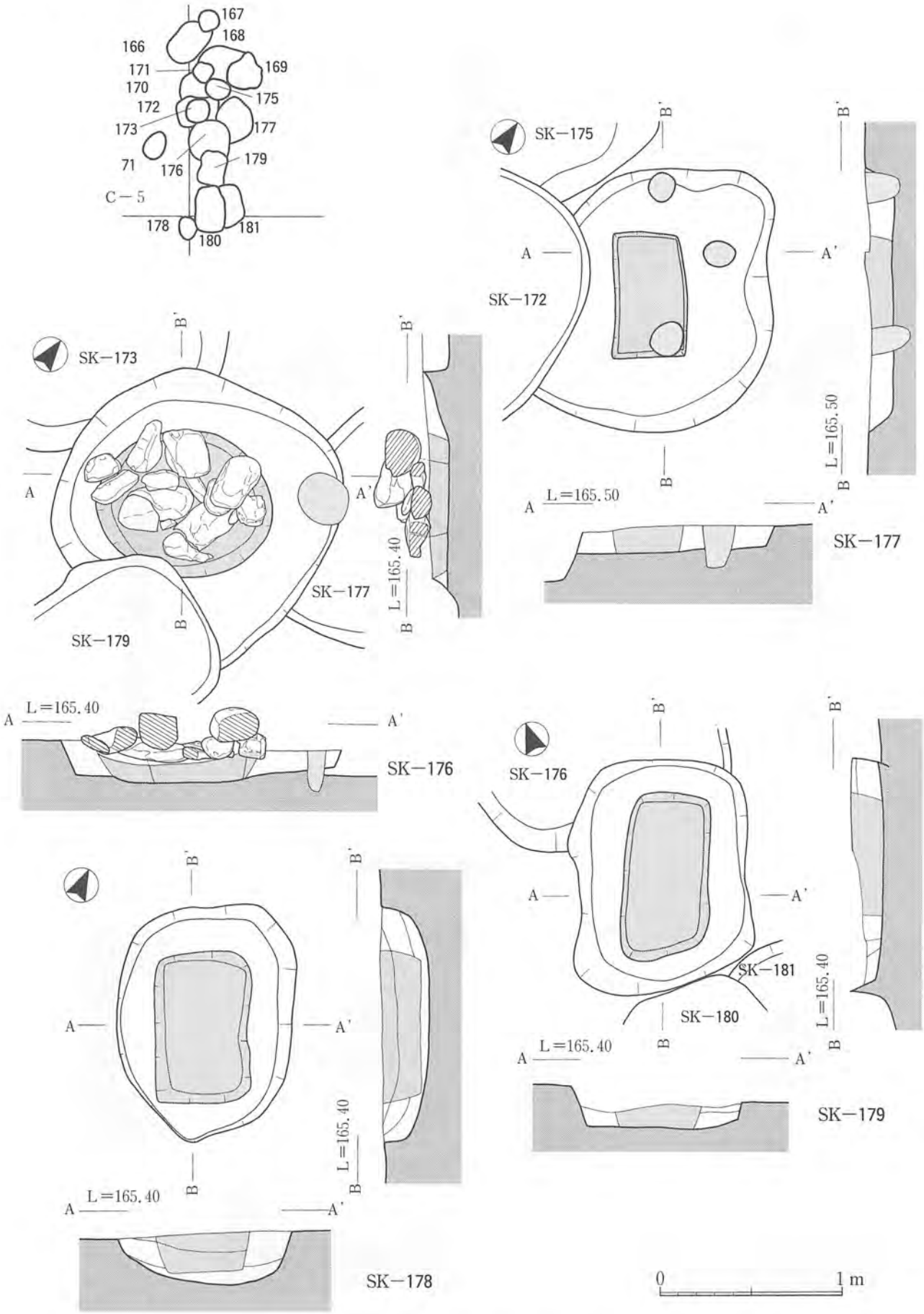
第117図　SK−162・163・164・165実測図



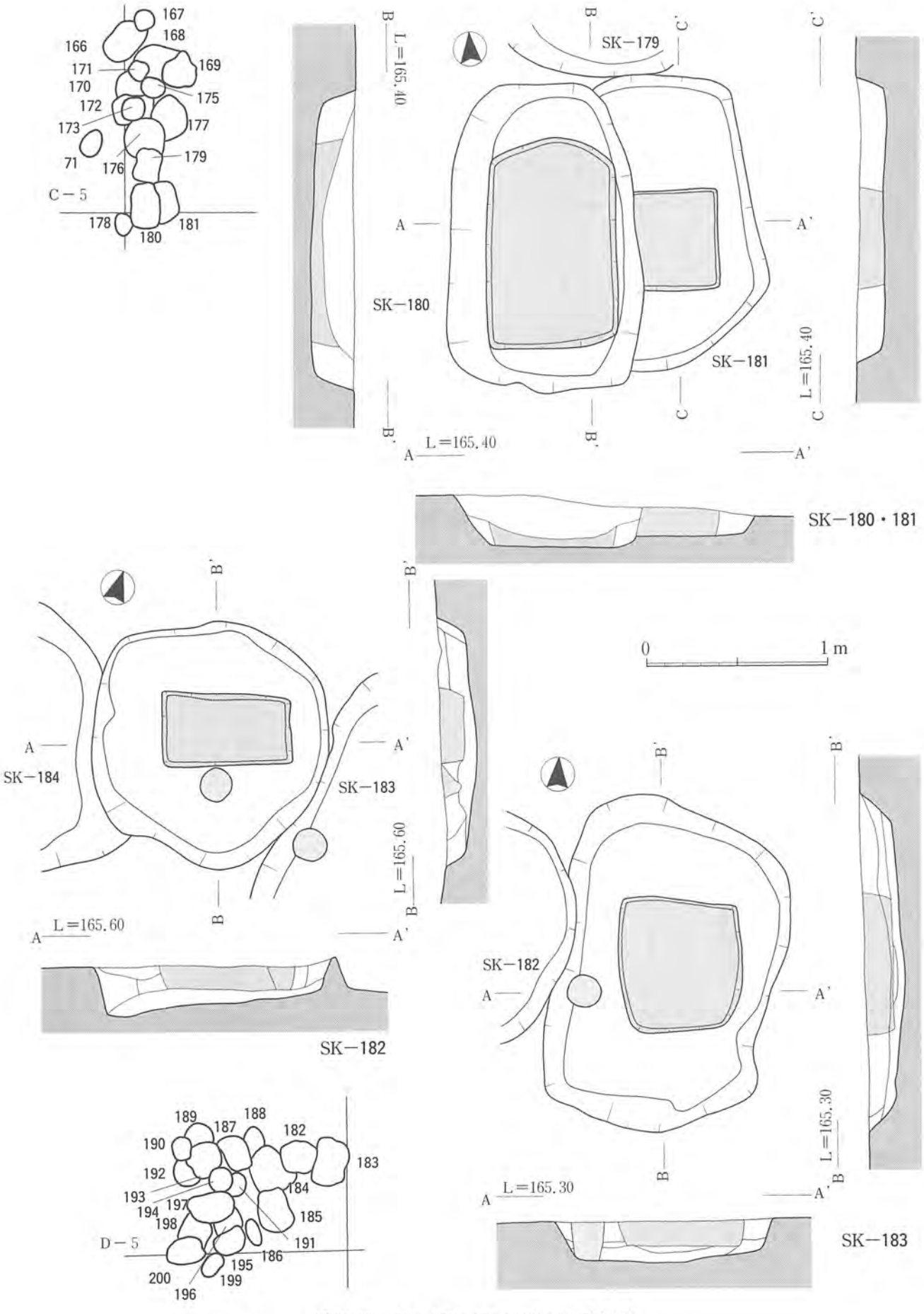
第118図　SK－166・167・168・169実測図及びSK－169出土遺物



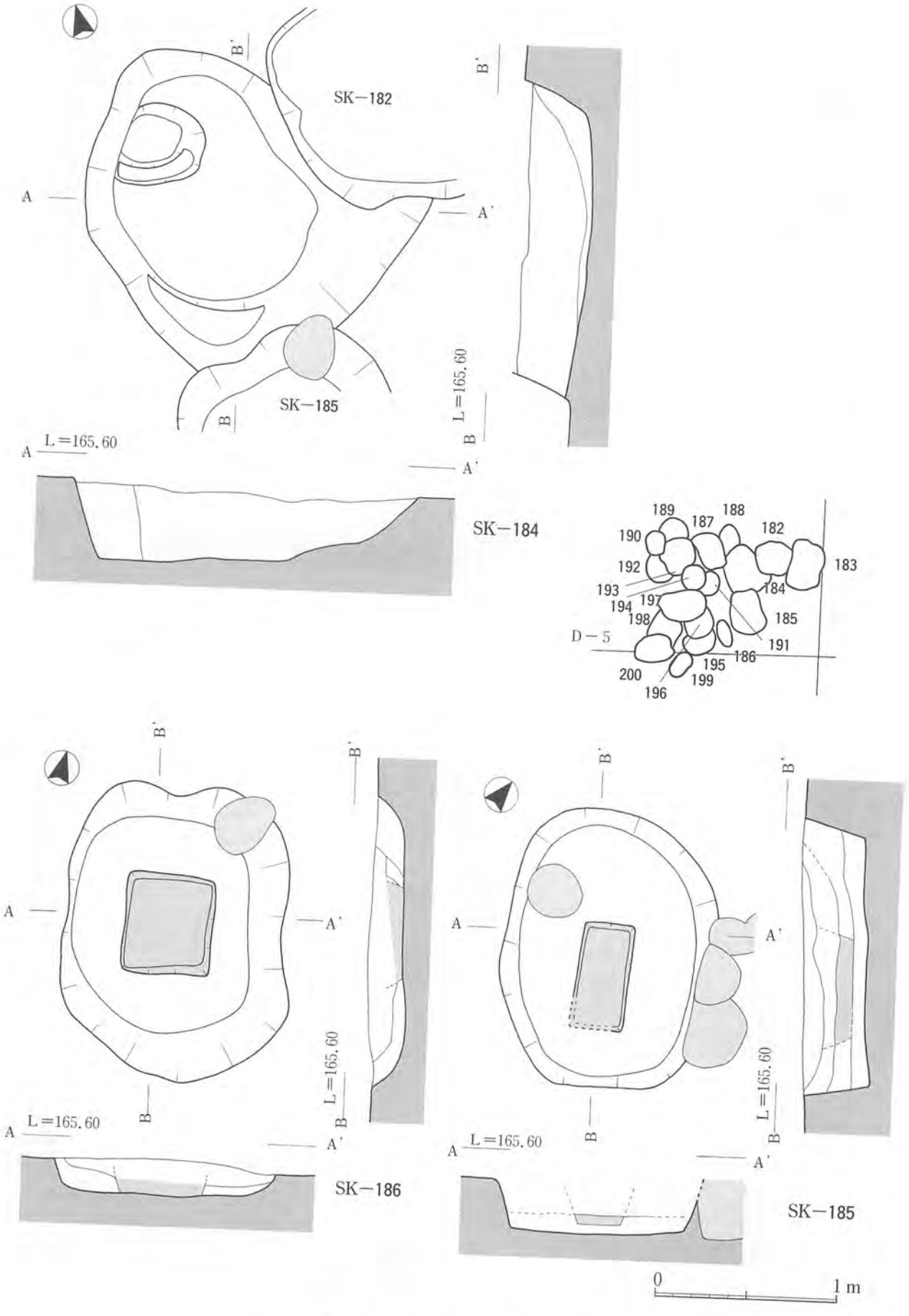
第119図　SK−170・171・172・173・174・175実測図



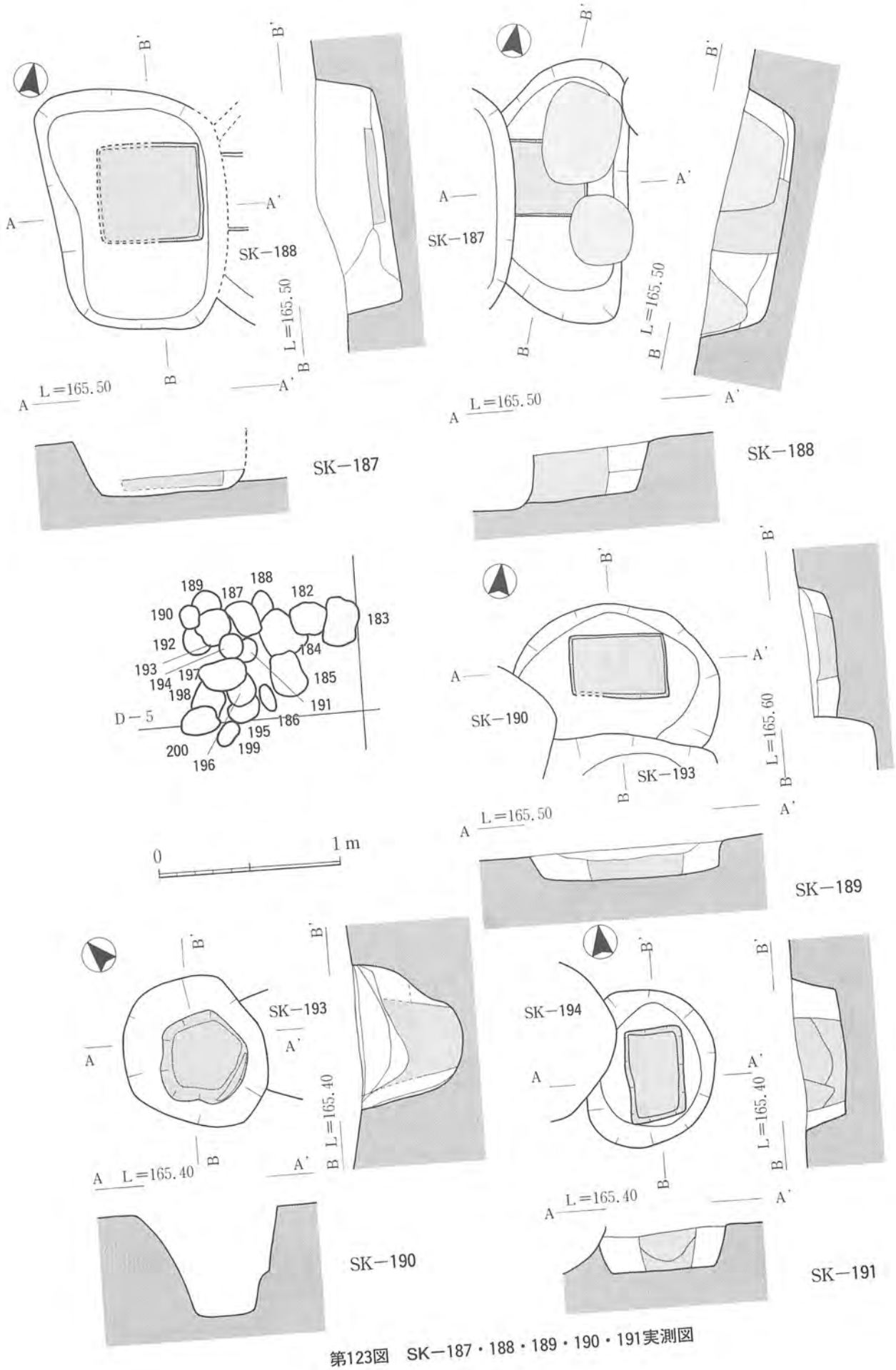
第120図　SK－176・177・178・179実測図



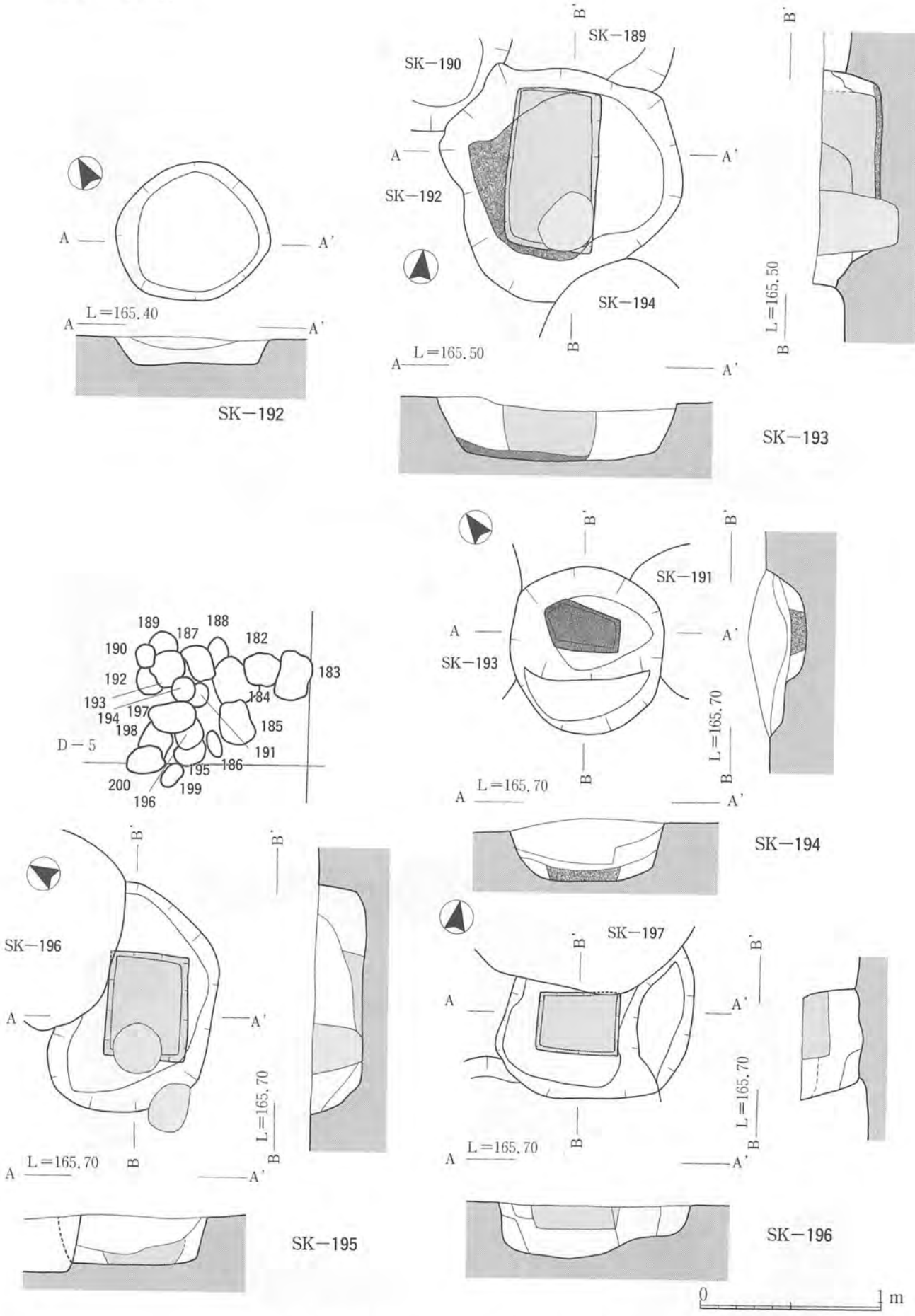
第121図 SK－180・181・182・183実測図



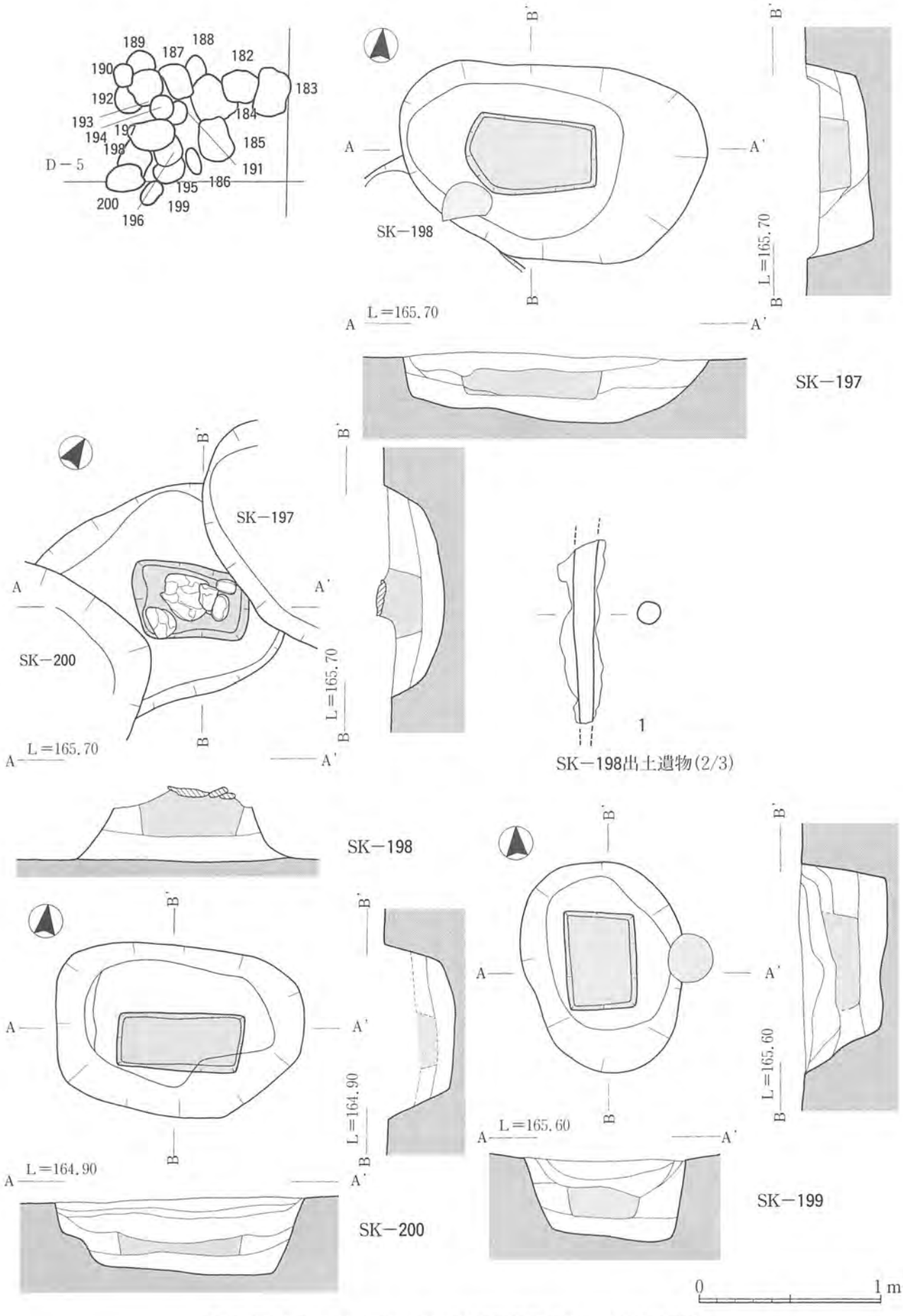
第122図　SK−184・185・186実測図



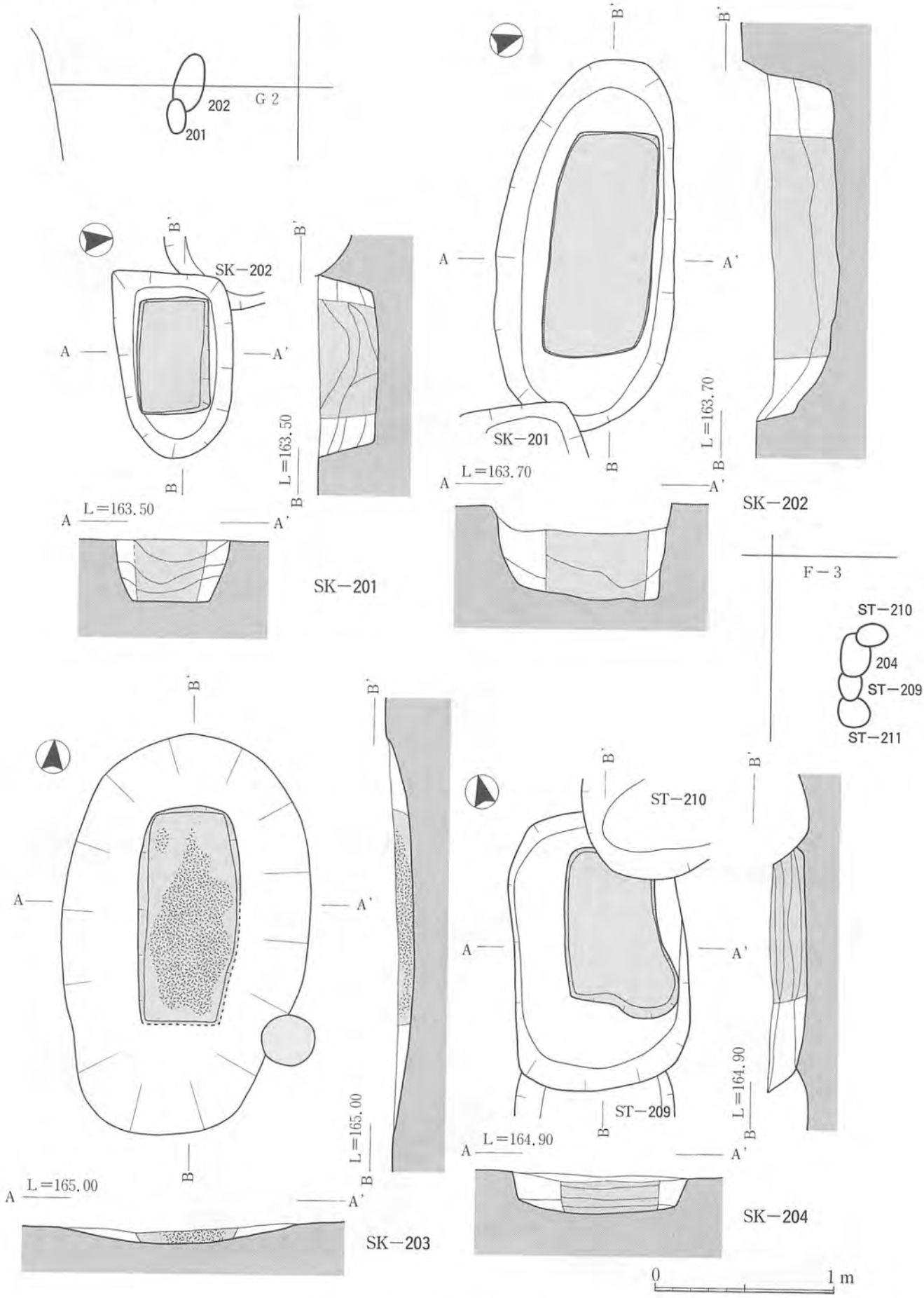
第123図　SK−187・188・189・190・191実測図



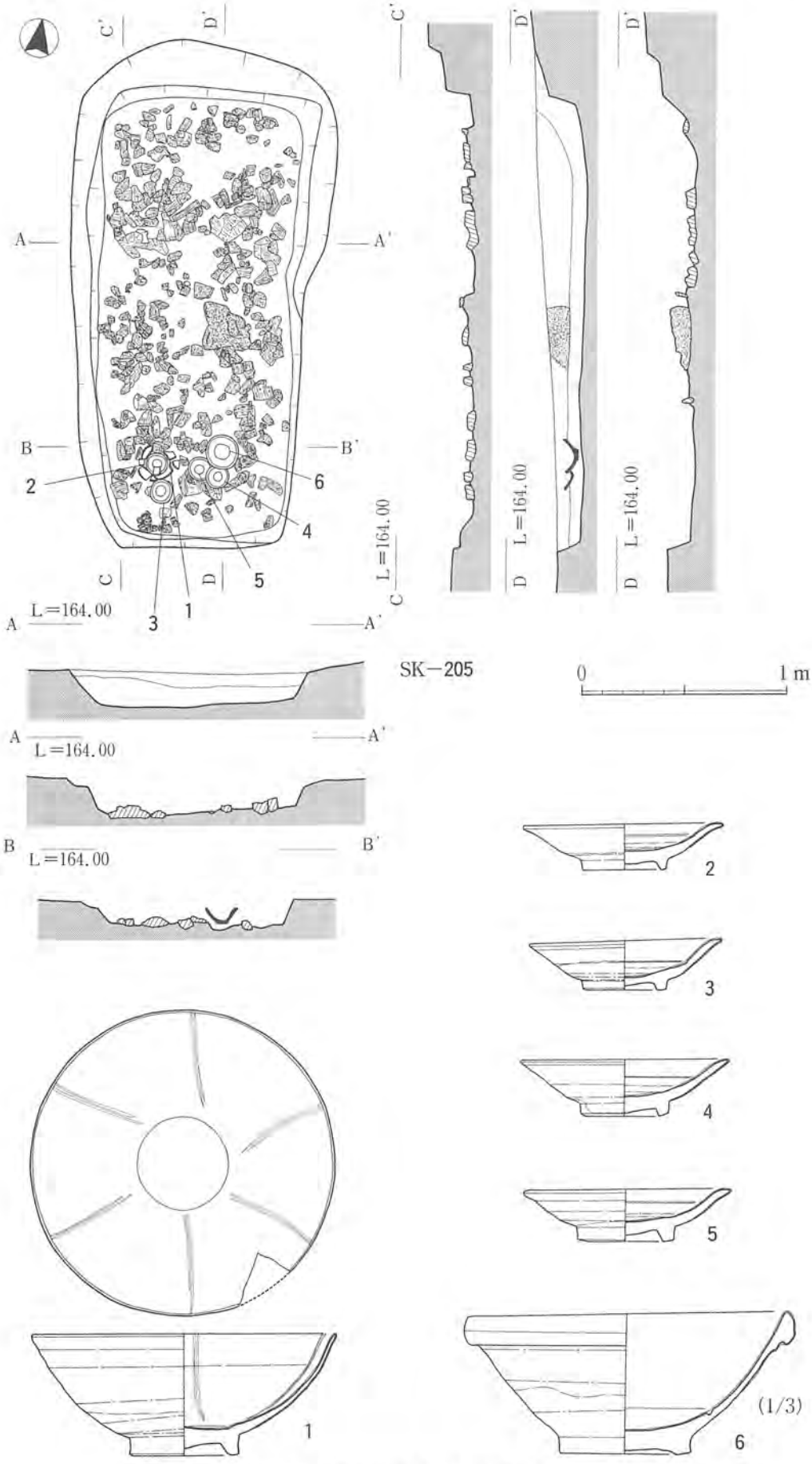
第124図　SK−192・193・194・195・196実測図



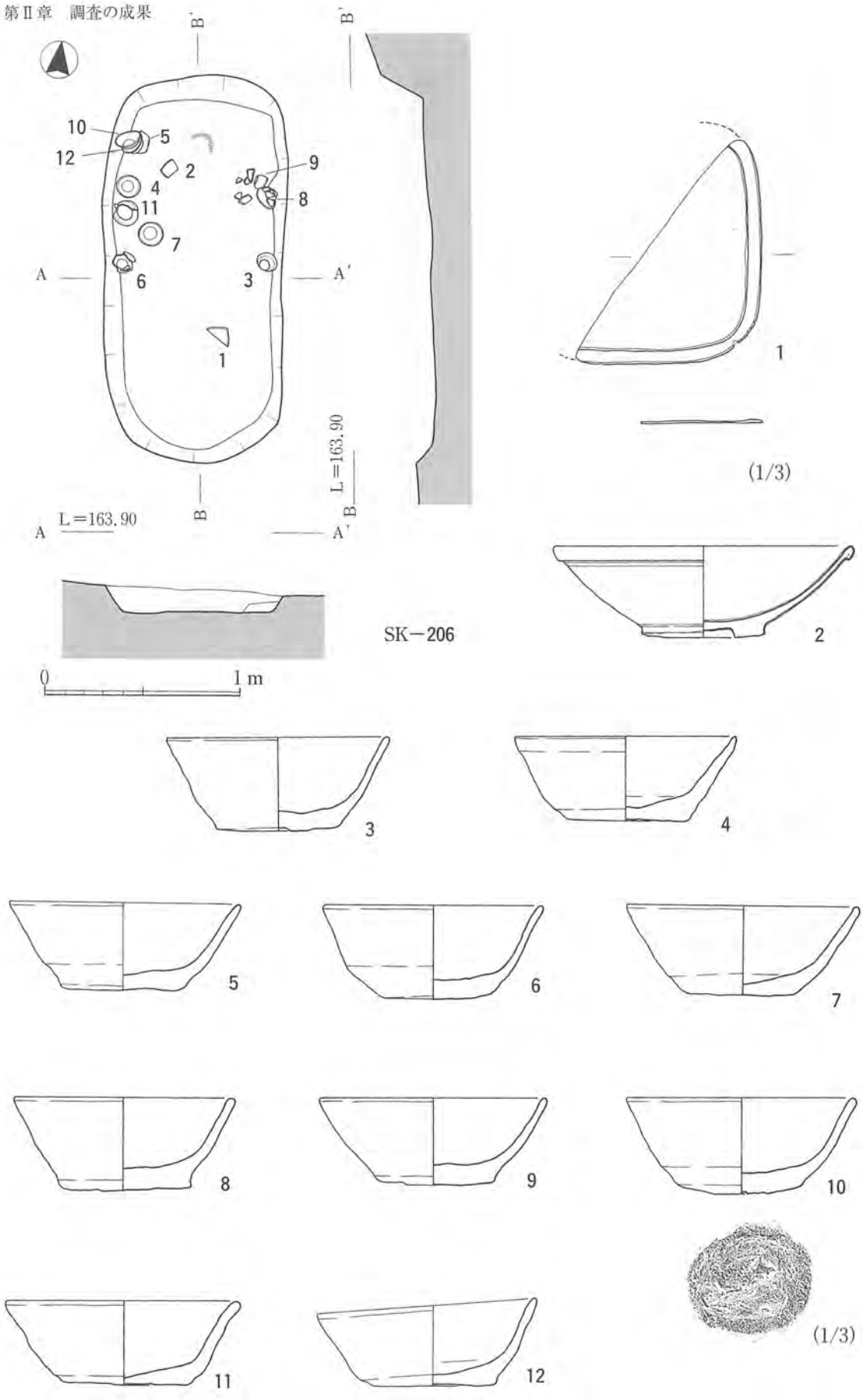
第125図　SK－197・198・199・200実測図及びSK－198出土遺物



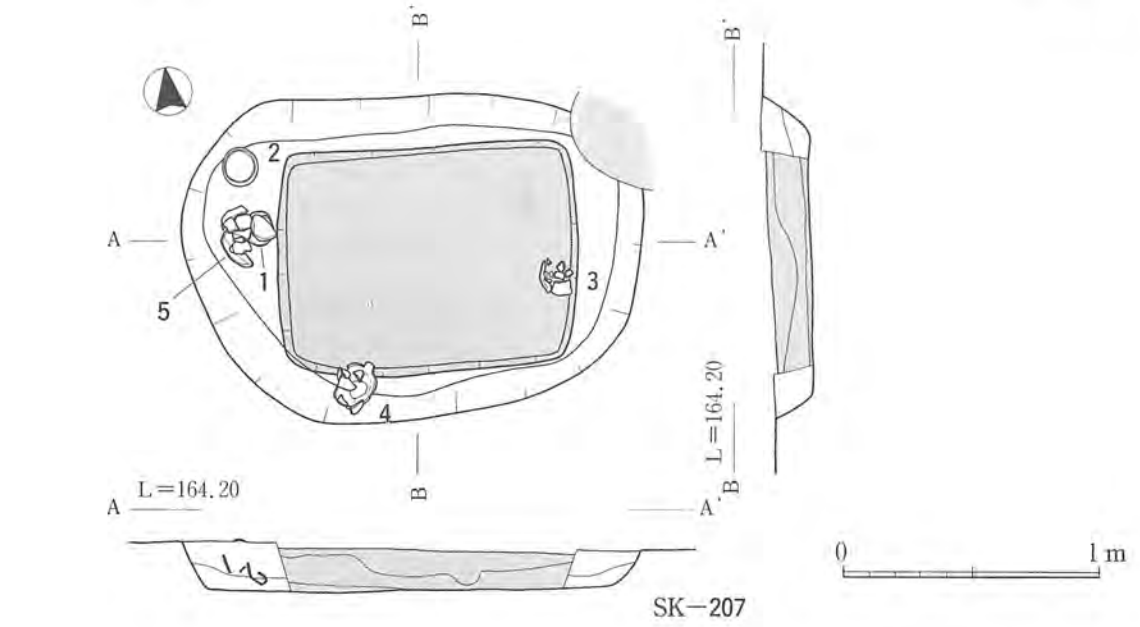
第126図　SK－201・202・203・204実測図

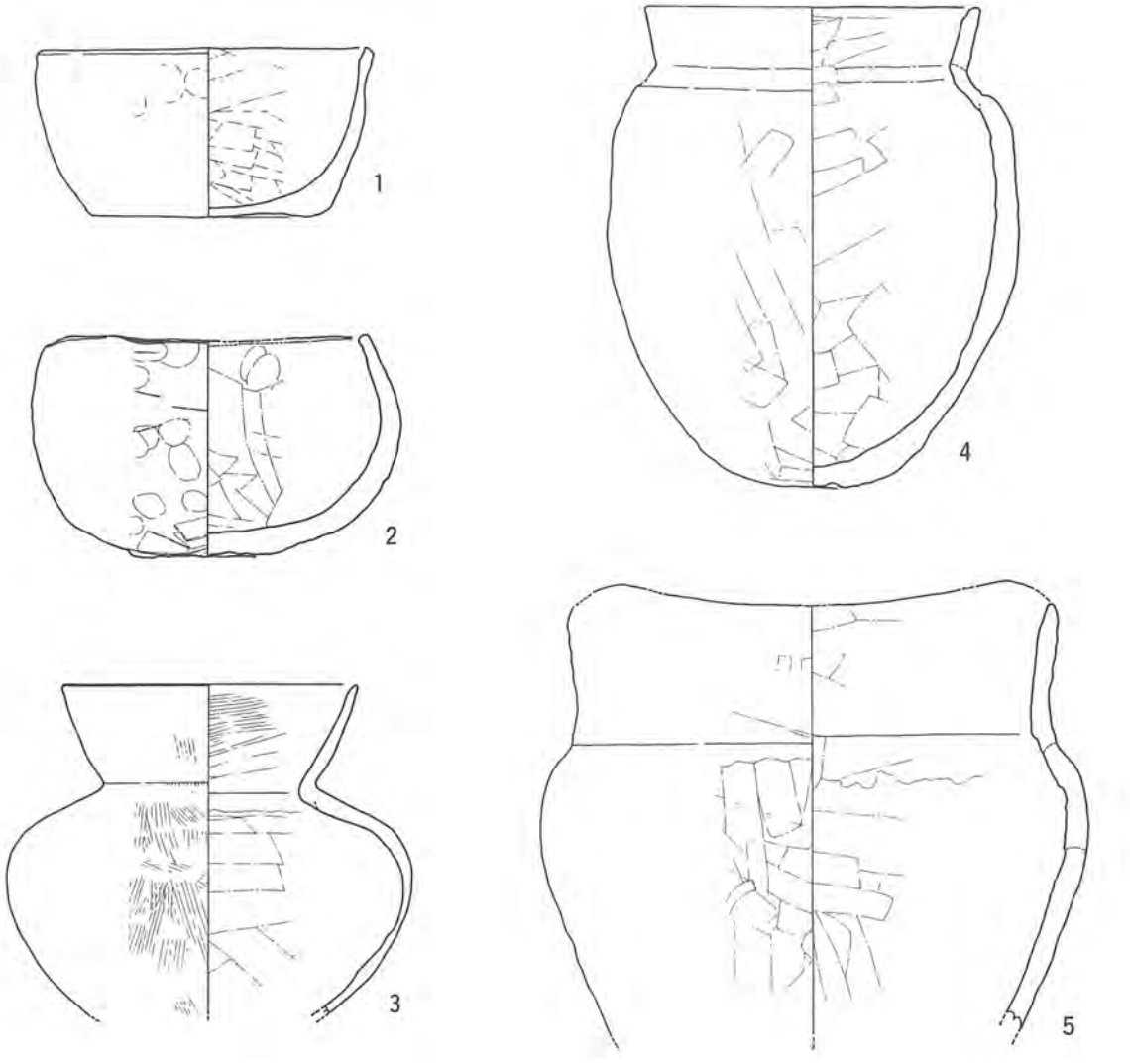


第127図　SK−205実測図及び出土遺物



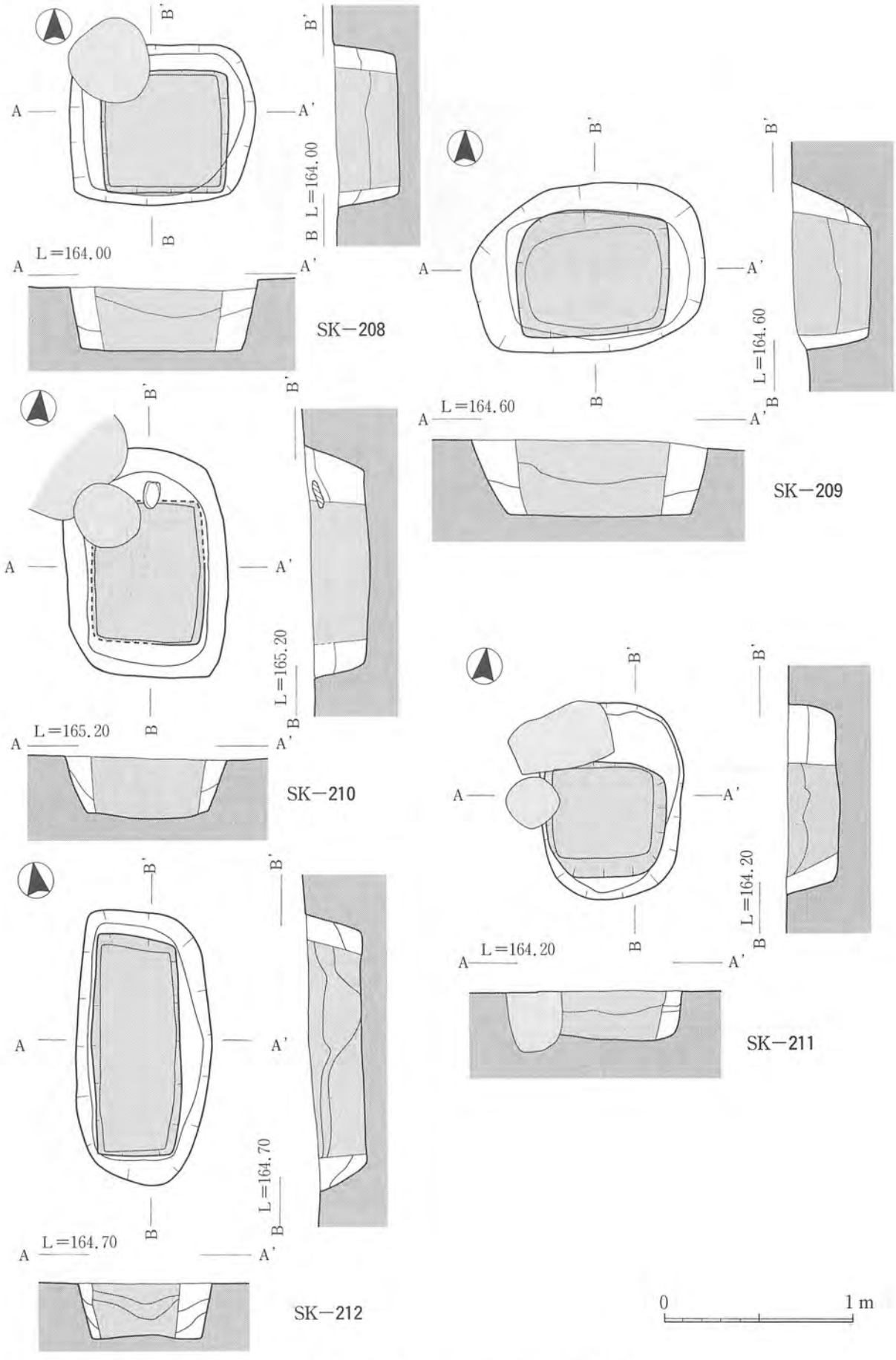
第128図　SK－206実測図及び出土遺物





(1/3)

第129図　SK−207実測図及び出土遺物



第130図　SK−208・209・210・211・212実測図

第7表　SKデータ1

挿図	番号	グリット	法量 長軸×短軸×深さ m（推定）	形態（推定）	木棺法量 長軸×短軸×深さ m（推定）	形態（推定）
76	1	H－16	1.87×1.31×0.36	楕円形		
	2	L－14	0.81×0.8　×0.44	円形		
	3	J－14	1.67×0.92×0.18	楕円形		
	4	H－13	0.25×1.91×0.12	長方形		
77	5	J－14	1.92×1.10×0.08	長方形		
	6	N－11	1.24×0.66×0.18	長方形	1.00×0.56×0.06	長方形
	7	L－10	0.88×0.78×0.14	方形	0.58×0.56×0.13	正方形
78	8	M－10	1.30×0.82×0.12	不定形	0.84×0.60×0.07	楕円
	9	L－10	1.90×0.98×0.24	長方形	1.20×0.70×0.24	長方形
	10	M－9	1.48×0.72×0.16	長方形	0.92×0.40×0.08	長方形
	11	M－9	1.58×1.22×0.18	不定形	0.92×0.52×0.18	長方形
	12	L－9	1.68×0.74×0.16	長方形	0.85×0.44×0.08	長方形
79	13	L－9	1.40×0.96×0.28	方形	0.72×0.70×0.27	方形
	14	L－9	1.22×1.10×0.24	方形	0.82×0.80×0.18	方形
	15	L－9	1.00×0.92×0.23	方形	0.72×0.76×0.16	方形
	16	L－5	1.00×0.98×0.38	不定形		
	17	M－8	1.54×1.16×0.27	楕円形	0.94×0.56×0.24	長方形
80	18	L－9	1.46×1.06×0.58	不定形	1.00×0.58×0.47	長方形
	19	F－9	1.50×0.70×0.12	長方形	1.02×0.42×0.13	長方形
	20	J－6	1.60×1.02×0.08	楕円形	(1.00×0.40×0.08)	(長方形)
	21	J－6	1.30×1.02×0.18	楕円形	0.77×0.76×0.10	方形
	22	K－6	0.84×0.92×0.16	不定形	(0.66×0.58×0.12)	(円形)
	23	K－6	1.14×1.12×0.24	楕円形	0.74×0.61×0.12	方形
81	24	K－6	0.90×0.78×0.16	楕円形	0.60×0.44×0.10	長方形
	25	K－6	1.24×0.88×0.18	長方形	0.70×0.54×0.18	長方形
	26	K－6	1.20×0.98×0.20	楕円形	0.54×0.54×0.14	方形
	27	K－6	1.16×0.88×0.16	楕円形	0.47×0.38×0.06	方形
	28	K－7	1.16×1.00×0.14	方形	0.60×0.54×0.03	方形
	29	K－7	1.26×1.14×0.12	楕円形	(0.34) ×0.24×0.04	(長方形)
82	30	K－8	1.38×1.12×0.14	長方形	0.84×0.60×0.04	長方形
	31	K－10	2.52×1.36×0.43	長方形	1.94×0.92×0.27	長方形
	32	K－10	1.08×0.90×0.22	楕円形	0.72×0.68×0.12	方形
	33	K－10	2.10×1.32×0.38	長方形	1.65×0.81×0.12	長方形
83	34	K－9	1.83×1.34×0.40	不定形	0.60×0.44×0.40	(長方形)
	35	K－11	1.56×1.24×0.28	長方形	1.14×0.67×0.20	長方形
	36	H－9	2.00×0.96×0.72	楕円形		
84	37	H－9	1.20×1.10×0.33	楕円形	0.90×0.58×0.22	(長方形)
	38	G－10	0.94×0.72×0.30	楕円形	0.42×0.37×0.16	方形
	39	G－10	0.80×0.70×0.20	楕円形	0.54×0.44×0.08	方形
	40	F－9	1.02×0.96×0.36	楕円形	0.65×0.60×0.36	方形
	41	K－7	1.04×1.00×0.14	円形		
	42	E－9 F－9	1.70×1.30×0.13	長方形	1.18×0.88×0.10	長方形
85	43	G－11	1.17×1.08×0.25	楕円形	0.80×0.73×0.25	方形
	44	G－12	1.34×1.00×0.38	長方形	1.00×0.70×0.38	長方形
	45	F－10	1.62×1.58×0.21	不定形	1.22×1.20×0.21	円形
	46	G－12	1.18×1.20×0.44	方形	0.92×0.80×0.34	方形
86	47	F－11	1.62×0.64×0.26	長方形		
	48	J－11	1.26×0.56×0.10	長方形		
	49	K－14	2.02×0.92×0.11	長方形	1.44×0.76×0.11	長方形
	50	K－14	(1.52) ×1.08	(長方形)	(1.00) ×0.82	(長方形)
87	51	F－9	1.08×1.02×0.28	円形		
	52	F－9	1.48× (1.00) ×0.14	円形		
	53	H－8	1.97×1.52×0.28	楕円形	0.85×0.51×0.16	長方形
	54	G－9	0.92× (0.82) ×0.19	(円形)		
	55	F－9	0.86×0.72×0.08	楕円形		
	56	G－9	0.92×0.86×0.15	(円形)		
88	57	F－9	1.44×0.90×0.50	楕円形		
	58	F－8	1.66×1.00×0.08	長方形	1.20×0.58×0.08	長方形
	59	F－8	1.12×1.04×0.70	円形		
	60	F－8	0.94×0.84×0.41	円形		方形
	61	G－7	1.34×1.36×0.50	円形	0.67×0.64×0.34	円形
89	62	G－7	2.76× (1.88) ×0.15	不明	1.57×1.14×0.14	長方形
	63	G－8	2.44× (1.64) ×0.15	(長方形)	1.10×0.98×0.07	正方形
90	64	G－7	(1.20) × (1.38) ×0.26	不明	0.65×0.62×0.18	円形
	65	G－7	3.04×2.20×0.40	楕円形	1.38×0.88×0.40	長方形
91	66	H－6	(1.12) ×2.12×0.34	不明	0.68×0.62×0.22	円形
	67	F－5	1.44×1.28×0.34	方形	1.00×0.68×0.33	長方形
	68	G－6	2.22×1.56×0.30	楕円形	1.00×0.59×0.20	長方形
92	69	G－5	2.08×1.72×0.22	(不定形)	0.93×0.43×0.14	長方形
	70	G－5	1.70×1.62×0.40	円形	1.26×1.20×0.30	円形
93	71	C－5	1.28×0.95×0.24	長方形	0.70×0.44×0.24	長方形
	72	C－5	2.13×1.22×0.32	楕円形	0.92×0.80×0.20	方形
	73	D－5	0.96×0.86×0.30	円形		
	74	C－6	0.66×0.64×0.40	円形		
	75	F－6	2.30×1.25×0.47	長方形	1.00×0.99×0.28	方形
94	76	C－5	2.02×1.35×0.50	長方形	1.46×0.74×0.30	長方形
	77	C－6	0.90×0.88×0.21	不定形		
	78	C－6	0.80×0.78×0.22	円形		
	79	C－5	2.15×1.45×0.32	楕円形		
	80	D－6	1.18×1.07×0.26	円形	0.61×0.56×0.20	方形
95	81	C－6	1.02×1.01×0.18	円形		
	82	D－6	1.36×0.86×0.34	長方形		
	83	D－6	1.44×1.17×0.26	楕円形	0.84×0.54×0.22	長方形
	84	D－6	0.92×0.82×0.24	円形		
	85	D－6	0.76×0.74×0.12	円形		
	86	C－6	0.90×0.85×0.40	円形		

第8表　ＳＫデータ２

挿図	番号	グリット	法量 長軸×短軸×深さ m（推定）	形態（推定）	木棺法量 長軸×短軸×深さ m（推定）	形態（推定）
96	87	D－6	1.94×1.64×0.18	楕円形		
	88	C－6	(0.66) ×0.74×0.14	楕円形		
	89	C－6	1.42×0.82×0.22	不定形		
	90	C－6	1.39×1.36×0.35	楕円形	0.73×0.64×0.26	長方形
	91	C－6 C－7	1.20×0.96×0.22	楕円形		
97	92	C－6	1.76×1.58×0.32	楕円形		
	93	C－7	0.66×0.62×0.08	円形		
	94	B－6	1.04× (0.86) ×0.16	楕円形		
	95	C－7	1.42×0.84×0.10	楕円形		
	96	B－7	1.02×0.85×0.22	楕円形		
	97	B－7	1.11×1.03×0.68	円形	0.50×0.46×0.35	方形
98	98	B－7	1.13×1.00×0.08	円形		
	99	B－6	1.75×1.25×0.30	方形	0.71×0.62×0.30	方形
	100	B－7	0.80×0.80×0.32	円形		
	101	A－5	0.86×0.78×0.17	円形		
	102	A－5	1.50×1.04×0.24	楕円形		
	103	A－7	1.06×0.76×0.14	楕円形		
99	104	A－6	0.86×0.82×0.23	楕円形		
	105	A－7	0.80×0.65×0.16	楕円形		
	106	A－7	0.73×0.60×0.08	楕円形		
	107	B－7	1.54×1.54×0.44	楕円形		
	108	B－7	1.07×0.65×0.18	長方形		
100	109	B－8	0.68×0.66×0.08	円形		
	110	B－8	0.72×0.70×0.08	円形		
	111	B－8	2.45×2.00×0.23	長方形	1.10×0.51×0.15	長方形
	112	B－8	0.94×0.82×0.10	円形		
	113	C－8	0.85×0.74×0.14	円形		
	114	C－8	1.30×1.04×0.12	楕円形		
101	115	C－9	0.72×0.68×0.13	円形		
	116	Z－7	1.22×0.75×0.36	楕円形		
	117	C－9	1.60×1.40×0.28	楕円形		
	118	Z－7	0.74×0.70×0.16	円形		
	119	Y－8	1.28×1.06×0.14	楕円形		
102	120	Y－7	1.95×1.60×0.40	不定形	0.67×0.61×0.37	円形
	121	F－8	1.36×1.26×0.09	円形		
	122	G－6	1.54×1.15×0.12	楕円形		
	123	G－6	1.54×1.32×0.11	楕円形	1.00×0.62×0.08	長方形
103	124	F－6 G－6	1.62×1.14×0.30	楕円形		
	125	F－9	0.86×0.84×0.08	（円形）		
	126	F－9	1.03×0.95×0.22	円形		
	127	F－8 F－9	1.00× (0.36) ×0.12	楕円形		長方形
	128	F－8 F－9	1.02× (0.62) ×0.16	不明	0.52×0.44×0.14	不明
	129	F－8 F－9	1.52× (0.42) ×0.16	不明	(1.00) ×0.60×0.14	（長方形）
104	130	F－8	(1.64) ×1.46×0.37	楕円形	0.94×0.85×0.37	方形
	131	F－8	1.28×1.24×0.40	楕円形		
	132	F－8	(1.08) ×1.04×0.37	（楕円形）	0.54×0.40×0.42	長方形
105	133	H－7	2.10× (1.61) ×0.30	不明	1.07× (0.83) ×0.11	（長方形）
	134	H－7	2.05×1.83×0.22	不定形	0.78×0.70×0.08	方形
106	135	G－6	1.88×1.72×0.37	楕円形	1.14×0.98×0.18	楕円
	136	G－6	1.54× (0.98) ×0.14	（円形）	0.60×0.38×0.12	長方形
	137	G－7	1.38× (1.00) ×0.26	不明	0.71× (0.62) ×0.10	（長方形）
107	138	G－7	1.70× (1.70) ×0.54	楕円形	0.77×0.75×0.26	円形
	139	F－7	(2.50) ×1.90×0.34	楕円形	1.12×0.60×0.12	長方形
108	140	F－7	1.92× (1.60) ×0.30	楕円形	0.71×0.71×0.26	方形
	141	F－7	1.61×1.24×0.46	楕円形	0.83×0.76×0.40	方形
109	142	F－7	(1.16) ×1.00×0.32	不明		
	143	F－7	1.97× (0.88) ×0.16	（楕円形）	0.96× (0.36) ×0.16	（長方形）
110	144	F－7	2.05×1.81×0.18	楕円形	0.76×0.52×0.18	長方形
	145	F－6	2.25× (1.40) ×0.27	不明	0.81×0.42×0.18	（長方形）
111	146	F－6	1.50× (1.43) ×0.14	楕円形	0.59×0.55×0.14	方形
	147	F－6	1.98× (1.70) ×0.15	楕円形	0.81×0.42×0.14	方形
112	148	F－6	2.00×1.60×0.17	長方形	0.73×0.62×0.17	方形
	149	F－6	1.70× (1.60) ×0.31	楕円形	0.70×0.43×0.16	長方形
113	150	F－6	1.62× (0.86) ×0.40	長方形	1.10×0.51×0.34	長方形
	151	F－6	1.65× (1.30) ×0.36	不明	0.80× (0.70) ×0.20	（長方形）
114	152	E－5	2.70×2.13×0.22	楕円形	1.06×0.60×0.22	長方形
	153	E－5	(1.70) × (1.08) ×0.22	不明	0.84×0.46×0.22	長方形
115	154	E－5	1.86× (1.12) ×0.22	不明	0.70×0.52×0.22	長方形
	155	E－5	2.52×1.78×0.33	長方形	0.98×0.86×0.30	方形
116	156	E－5	2.16×1.73×0.37	楕円形	0.74×0.46×0.18	長方形
	157	D－7 E－7	1.78×1.50×0.40	楕円形	1.00×0.64×0.16	長方形
117	158	E－7	1.64×1.40×0.23	長方形	0.90×0.62×0.23	長方形
	159	E－7	1.52×1.52×0.23	円形	0.84×0.83×0.23	円形
	160	C－7	1.08×1.00×0.09	円形		
	161	C－7	2.08×1.68×0.32	長方形	1.07×1.05×0.30	楕円
118	162	C－6	2.23×1.67×0.32	不定形	1.10×0.74×0.32	長方形
	163	C－6	1.60× (1.07) ×0.22	不明	0.89×0.71×0.21	長方形
	164	C－6	2.20×2.05×0.34	円形		
	165	C－6	2.55× (0.56) ×0.28	不明		
119	166	D－5	1.70×1.14×0.30	長方形	0.51×0.36×0.10	長方形
	167	D－5	0.82×0.76×0.30	円形	0.45×0.41×0.12	方形
	168	D－5	2.06× (1.30) ×0.18	不明	0.78× (0.62) ×0.08	長方形
	169	D－5	1.28×1.23×0.40	不明	0.92×0.88×0.40	不明

第9表　ＳＫデータ3

挿図	番号	グリット	法量 長軸×短軸×深さ m（推定）	形態（推定）	木棺法量 長軸×短軸×深さ m（推定）	形態（推定）
120	170	D－5	0.83×（0.39）×0.17	不明	0.22×（0.18）×0.60	不明
	171	D－5	0.78×0.74×0.18	円形	0.26×（0.20）×0.10	方形
	172	D－5	1.63×（1.08）×0.34	長方形	0.95×0.75×0.10	方形
	173	D－5	0.88×0.80×0.30	楕円形	0.38×0.38×0.06	（長方形）
	174	D－5	1.08×0.80×0.35	楕円形	0.52×0.34×0.10	楕円
	175	D－5	0.96×0.88×0.16	円形	0.52×0.34×0.08	長方形
121	176	D－5	1.60×（1.01）×0.18	不明	0.97×0.81×0.14	円形
	177	D－5	1.50×（1.35）×0.14	不明	0.68×0.41×0.14	長方形
	178	C－4	1.30×0.98×0.28	楕円形	0.83×0.54×0.22	長方形
	179	D－5	1.17×0.90×0.18	長方形	0.88×0.46×0.18	長方形
122	180	D－5	1.71×1.10×0.28	長方形	1.17×0.72×0.10	長方形
	181	D－5	1.65×（0.70）×0.15	不明	0.56×0.48×0.15	（方形）
	182	D－5	1.38×1.33×0.27	円形	0.72×0.41×0.13	長方形
	183	E－5	1.87×1.20×0.22	長方形	0.75×0.68×0.14	方形
123	184	D－5	1.60×1.60×0.40	不定形		
	185	D－5 E－5	1.61×1.25×0.20	楕円形	0.55×0.48×0.16	方形
	186	D－5	1.51×1.20×0.36	楕円形	0.59×0.30×0.09	長方形
124	187	D－5	1.37×1.02×0.40	（長方形）	0.58×0.54×0.32	（方形）
	188	D－5	1.46×（0.68）×0.34	不定形	0.58×0.44×0.12	（方形）
	189	D－5	0.97×（0.71）×0.16	不明	0.51×0.32×0.10	長方形
	190	D－5	0.81×（0.72）×0.57	円形	0.50×0.49×0.24	円形
	191	D－5	0.85×（0.60）×0.24	楕円形	0.50×0.32×0.24	長方形
125	192	D－5	0.84×0.76×0.15	円形		
	193	D－5	1.30×（1.16）×0.30	不定形	0.88×0.48×0.26	長方形
	194	D－5	0.94×0.86×0.34	円形	0.42×0.26×0.06	長方形
	195	D－5	1.27×（0.90）×0.26	（不定形）	0.59×0.46×0.06	長方形
	196	D－5	1.14×（0.58）×0.28	不明	0.45×0.35×0.14	長方形
126	197	D－5	1.73×1.08×0.36	楕円形	0.75×0.42×0.16	長方形
	198	D－5	1.17×（0.51）×0.28	不明	0.62×0.40×0.16	長方形
	199	D－4	1.17×0.90×0.46	楕円形	0.55×0.39×0.16	長方形
	200	D－5	1.38×0.97×0.42	長方形	0.69×0.32×0.10	長方形
127	201	G－2	1.20×0.64×0.33	長方形	0.64×0.38×0.33	長方形
	202	F－2	2.00×1.00×0.38	楕円形	1.23×0.58×0.38	長方形
	203	F－4	2.20×1.36×0.10	楕円形	1.20×0.55×0.10	（長方形）
	204	F－3	（1.26）×0.96×0.20	長方形	0.74×0.54×0.20	不定形
128	205	J－3	2.43×1.24×0.23	長方形	2.18×1.04×0.16	
129	206	F－2	1.96×0.88×0.20	長方形		
130	207	B－0	1.80×1.24×0.18	長方形	1.18×0.88×0.17	長方形
131	208	B－0	0.98×0.84×0.32	方形	0.66×0.62×0.32	方形
	209	B－0	1.23×0.88×0.40	楕円形	0.80×0.64×0.40	長方形
	210	B－0	1.19×0.84×0.30	長方形	0.76×0.60×0.30	（長方形）
	211	B－0	1.00×（0.62）×0.26	（長方形）	0.58×（0.56）×0.26	方形
	212	B－0	1.43×0.70×0.2.8	長方形	1.14×0.46×0.28	長方形
164	213	M－10	0.94×0.84×0.18	長方形		長方形
	214	M－10 M－11	0.67×（0.58）×0.30	円形	0.45×0.44×0.16	円形

D類

死床面に特徴があるものについてであるが、前述したＳＫ－205のように死床面にカーボン配置例がある。この類例の場合を含め、他の類例から土壙墓と確認されたものの中から死床面に特徴があるものを、この類を設定した。ＳＫ－31・33・203は木棺を持つ遺構であることから土壙墓と認定されたがこの遺構には死床面にシラスが検出されている。したがってこのようにシラス検出遺構を土壙墓と想定した。ＳＫ－２・41・51・52・54・55・56・59・60・125・126・131はシラスが床より検出されている。ＳＫ－41は扇形・60は方形・131は円形シラスが検出されていることからそれぞれのシラス範囲は木棺の存在を想定させる。ＳＫ－124は埋土内からシラスが検出されているが、これまでの床からの検出例ではないが、シラスの出土からこの遺構も土壙墓と想定した。ＳＫ－131は床直上より2.9cm×1.5cm、厚み0.6cmの置物が出土した。

１表面は土が付着していたが中は緑青と茶色が見られる。これをトーンで表記した。

ＳＫ－57はシラス出土のように床直上にベンガラが検出された。隅丸長方形を呈していることから、これも木棺を想定させる。ＳＫ－45・70は木棺内に硬化面が見られる。この原因については不明であるが木棺内であることから本遺跡での土壙墓の特徴の一つとした。

ＳＫ－193は不定形のプランを持ち、長方形の木棺を持つ遺構である。遺構床面にカーボン・床直上に燃焼面が検出された。この類はＤ類の性格も持つ。

E類

この類は墓域内に存在しているものとして、ＳＫ

－16を提示する。この土壙墓は人骨出土の遺構であるが、木棺の出土が見られない。従ってＡ～Ｄの条件以外にも人骨が風化した場合、掘り込みだけの遺構となる。検出例から調査区Ｃ区に墓域が存在していると想定され、このエリアの遺構は土壙墓と想定した。ＳＤ－８（堀）を境に特にＤ・Ｅ－５グリットは密集した状態で切り合いで検出されている。またＳＤ－８は調査Ｃ区の墓域を横断するが土壙墓との切り合い関係は見られないことから、ＳＤ－８の成立は土壙墓群と同時期かそれ以前と考えられる。（第207図参）

Ｆ類

この類は形状に特徴があるものとして提示した。

ＳＫ－47・48

長方形を呈し、Ｄ区調査区内に存在するＳＫ－19の形状に類似し、遺構プランが削平され木棺部だけの残存の可能性とも考えられ、単なる掘り込みの土坑としてではなく、土壙墓の可能性が高くここに提示した。

また土壙墓のプランを形態でこれを割合で提示すると円形17％・楕円33％・方形７％・長方形20％・不定形11％であった。

ＳＫ－213・214は土坑と切り合い関係で検出されたため土坑（ＳＴ）の稿に提示している。ＳＴ－123（第163図）はＳＴ－124（第163図）である。それぞれ木棺をもつ遺構で床直に木棺が設置されている。

７　土坑（ＳＴ）（第131－173図）

掘り込み状の遺構を本遺跡では土坑と呼称し、遺構記号としてＳＴを使用した。土坑は219基検出された。一部にはＳＫ（土壙墓）の可能性を示唆する遺構もあるが明確な確証ができず、一応この土坑の項の仮置した。また遺構データは表－10・11図に示した。全体では単独形態は方形・長方形・円形・楕円・不定型等を呈し、この形態も表－10・11図に示している。遺構は単独で検出されているが、切り合い遺構も少なくない。また遺構にはピット状の切り合いが見られ、これを撹乱のスクリーントーンで表記した。遺構は200を越えているため、ここでも特長のある遺構についての記述に留めたい。

ＳＴ－６・７・８・12・14・15・19はＳＫ（土壙墓）の円筒状の形態に類似しており、また12・14・15・19はＨ－16グリット密集していることからここが墓域内とも考えられるが、確定までは至らなかった。しかし、その可能性は高いがここにＳＴとして仮置した。

ＳＴ－20

東側に楕円形の掘り込みに不定形の掘り込みが切り合う。楕円形の掘り込みは上記したＳＫ（土壙墓）の形態に類似している。

ＳＴ－24

四方隅丸を呈し、床直上に角礫が見られる。このような礫ブロックが見られるのはＳＴ－108・205である。礫は廃棄の痕跡と思われるが、土器等の遺物の出土が認められず時期設定ができなかった。

ＳＴ－26

不定形を呈する遺構で3.2m×2.3mと大型である。遺構中央にピット状の切り合いが２本ある。10cmの厚み程の粘土層が床直上から検出された。粘土層がこの遺構の性格のヒントであるが、時期設定の遺物は出土できなかったし、遺構の性格も不明である。

ＳＴ－29

楕円形の掘り込みから浅鉢破片（反転復元　口径16.8cm）・土師器片２点が出土した。底部・高台を欠損しているが土師器碗と思われる。廃棄の遺構か。

ＳＴ－55・56・57

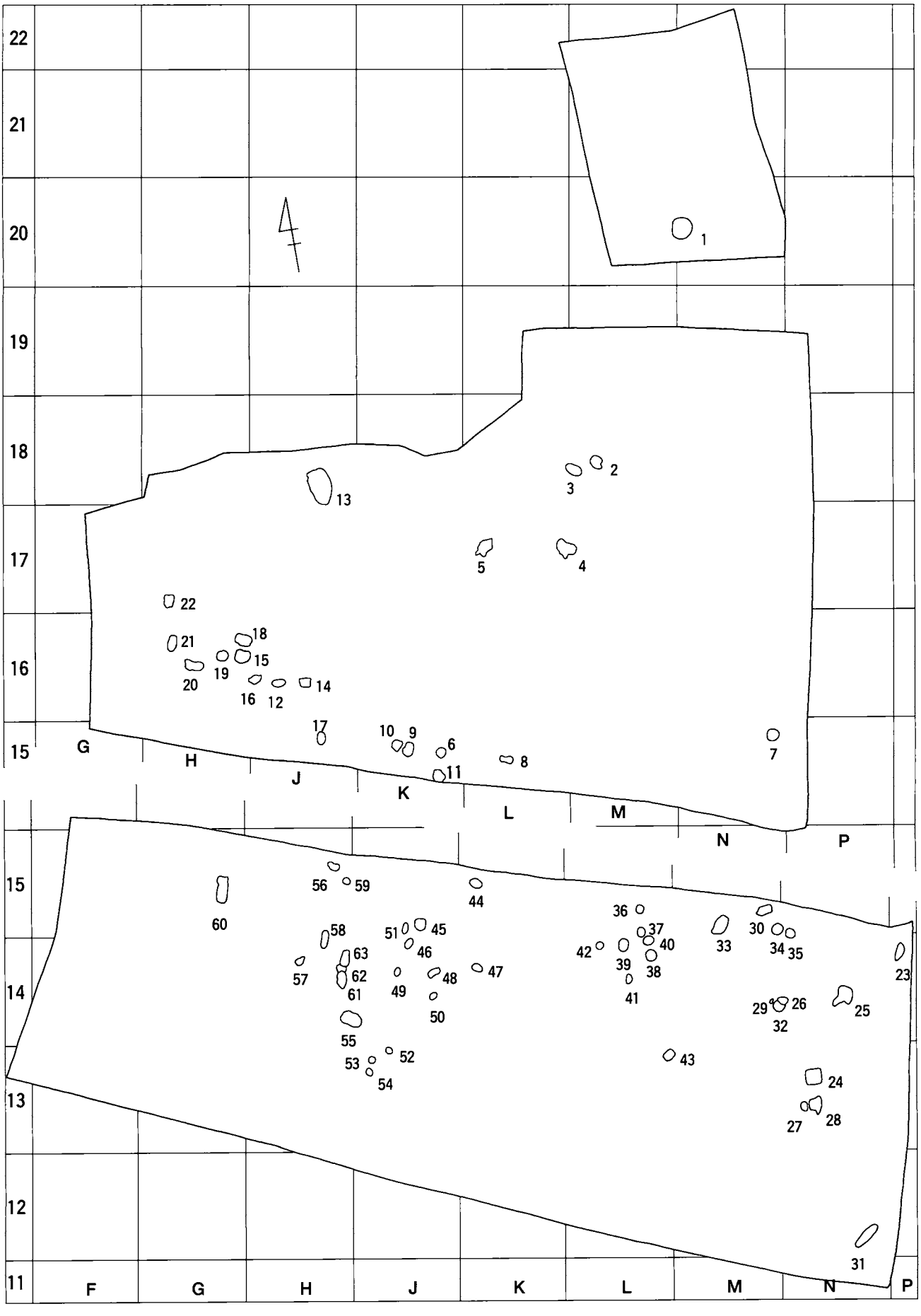
55・56・57は廃棄遺構かまたは火気使用を窺わせる遺構である。各遺構によりにカーボン・灰・燃焼面が存在する。

ＳＴ－55

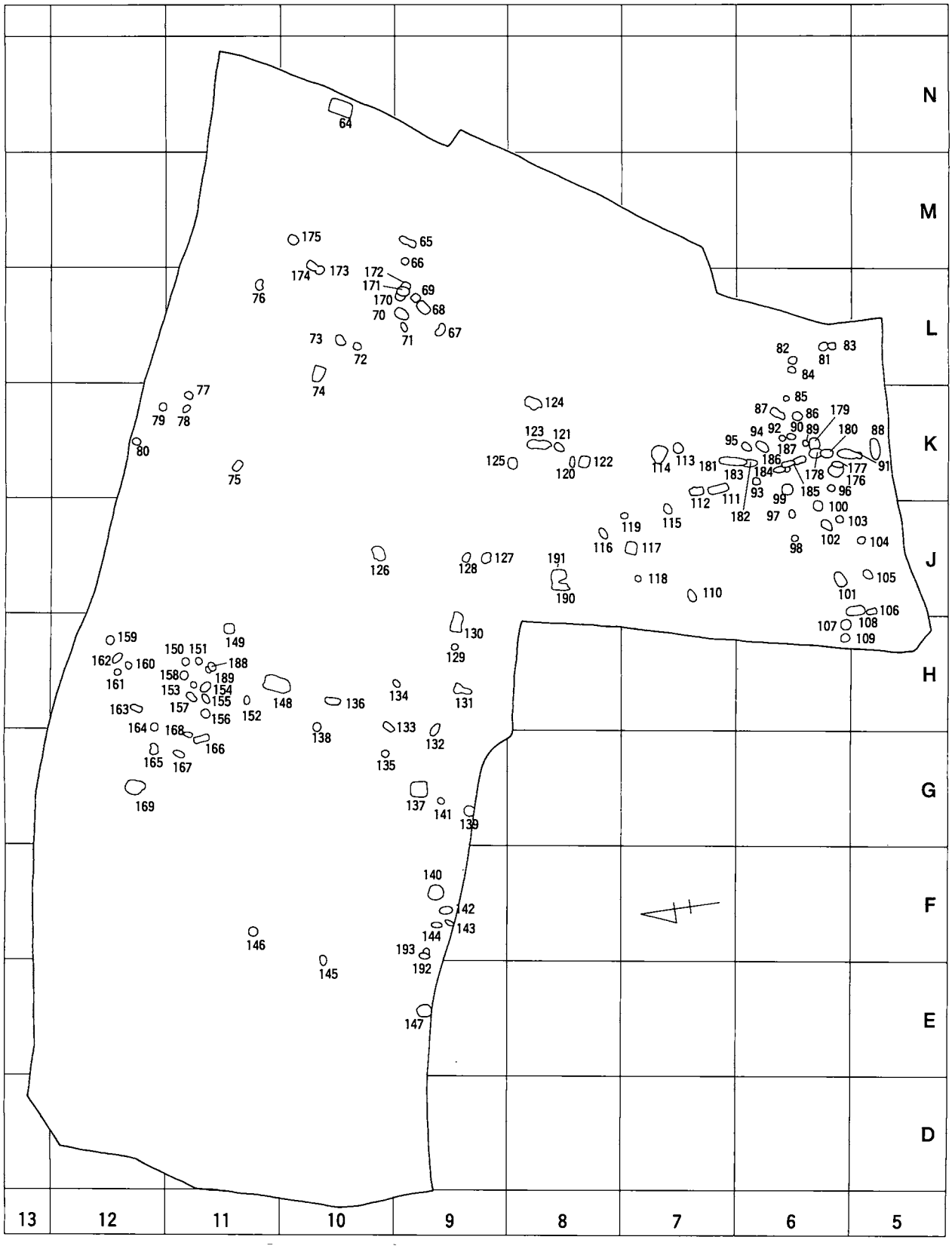
2.5m×2.0mの大型の遺構で遺構東西端にカーボンブロック・西端には灰も検出されている。基本土層の３層に掘り込まれている。通称アカホヤと呼ばれる火山灰で火気使用であっても焼土ができにくい土壌であるが、状況から一種の燃焼土坑か。

ＳＴ－56

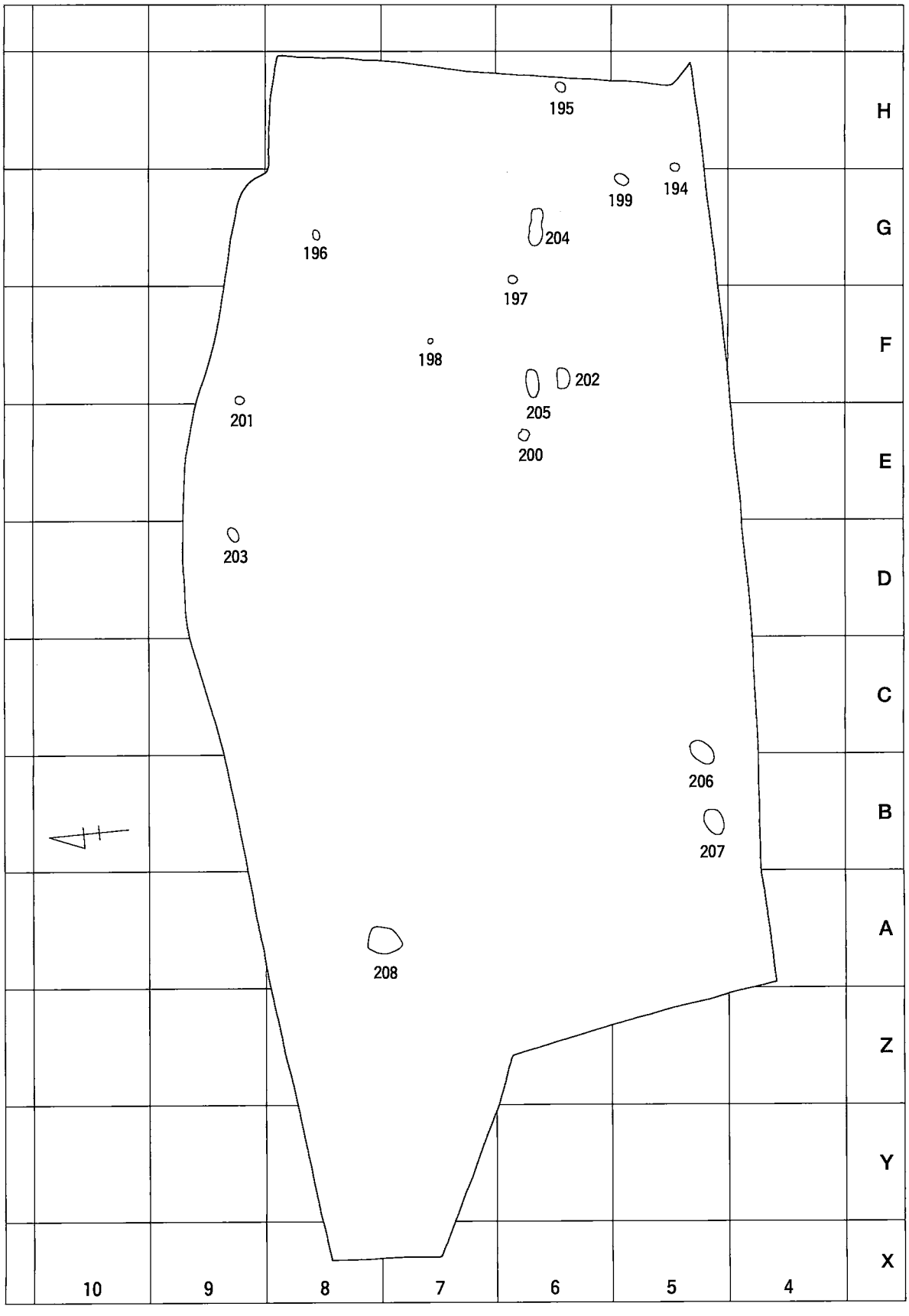
遺構の半分をカーボンが占める。他に灰・燃焼面は検出されていない。



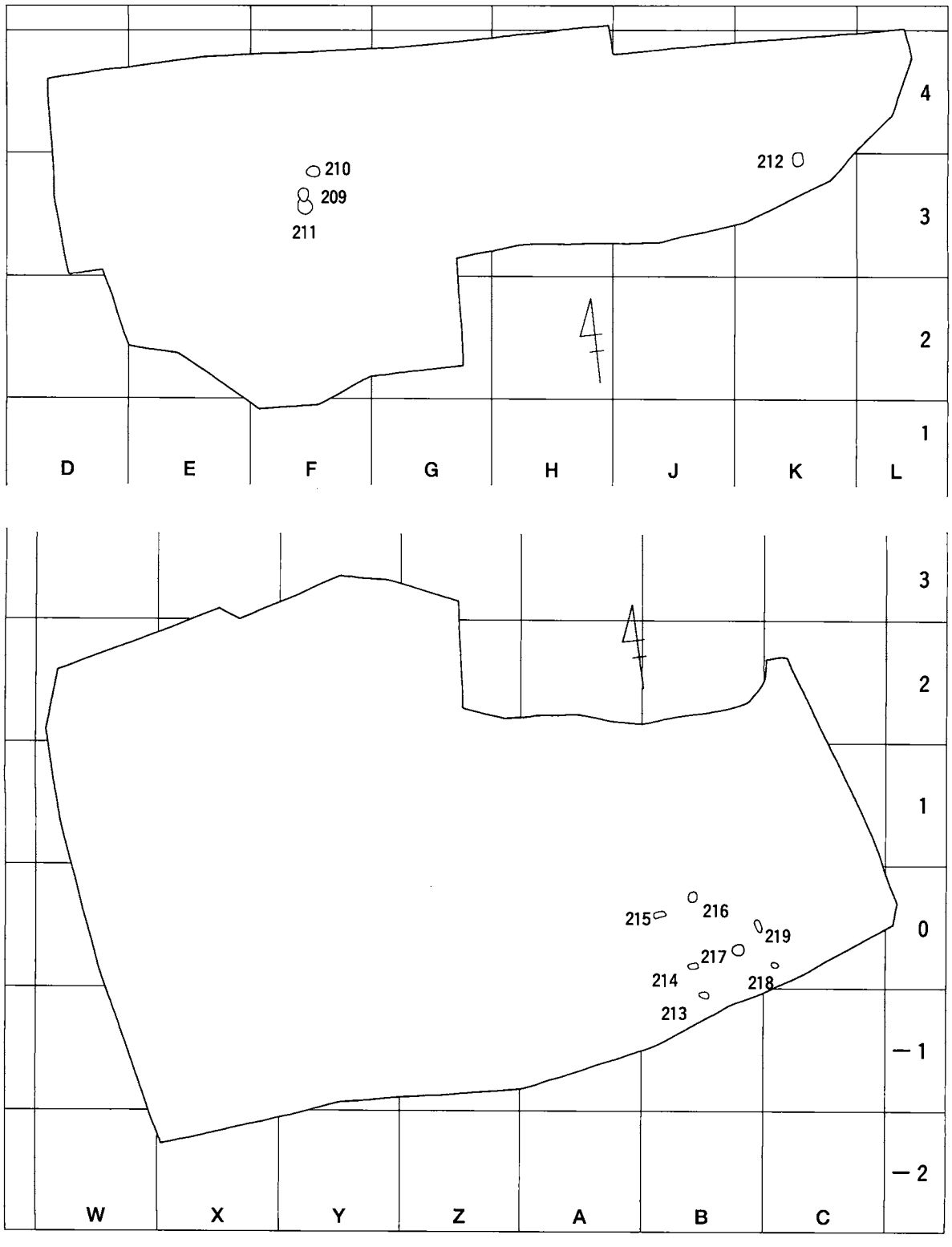
第131図　A・B区 ST 遺構配置図



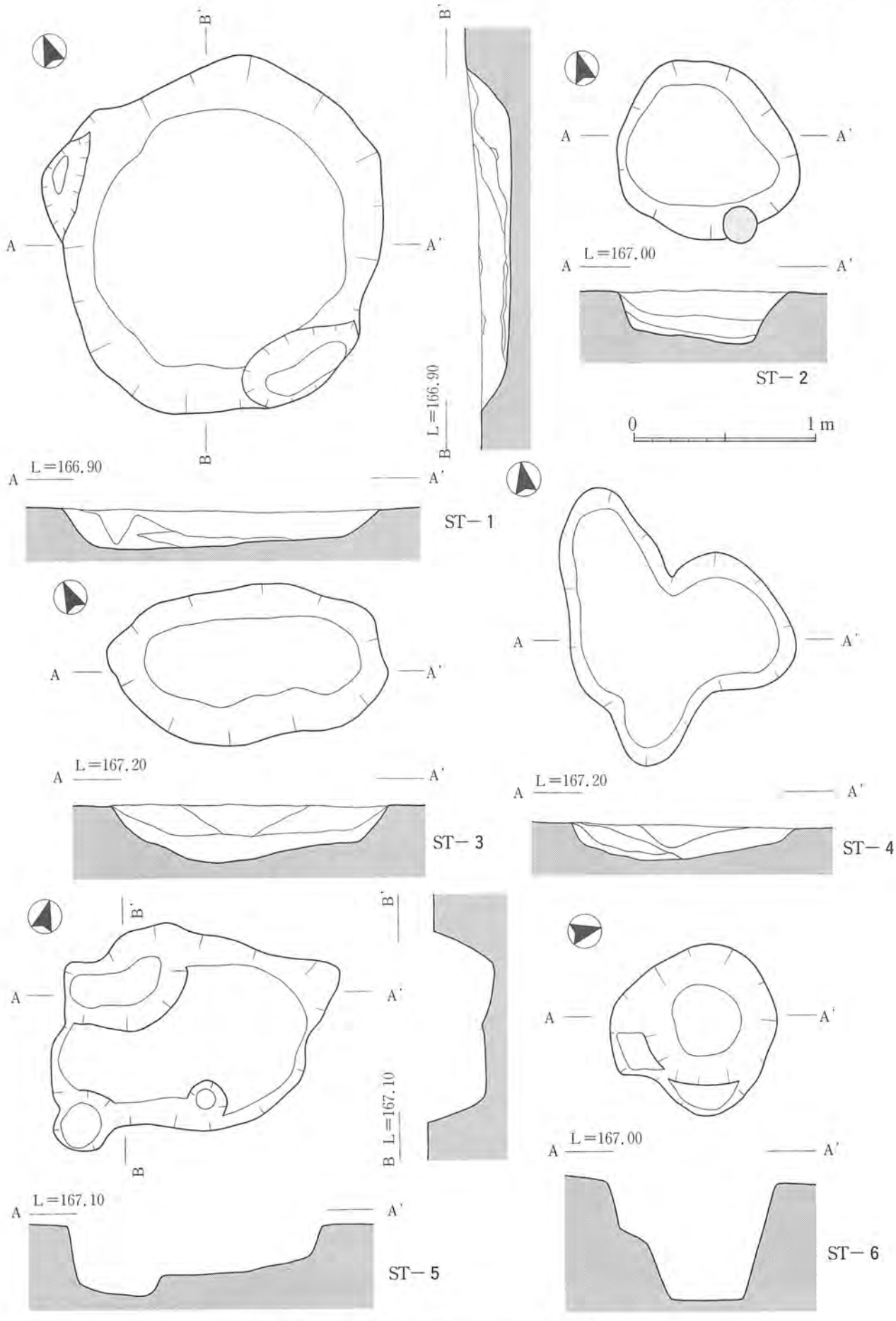
第132図　D区 ST 遺構配置図



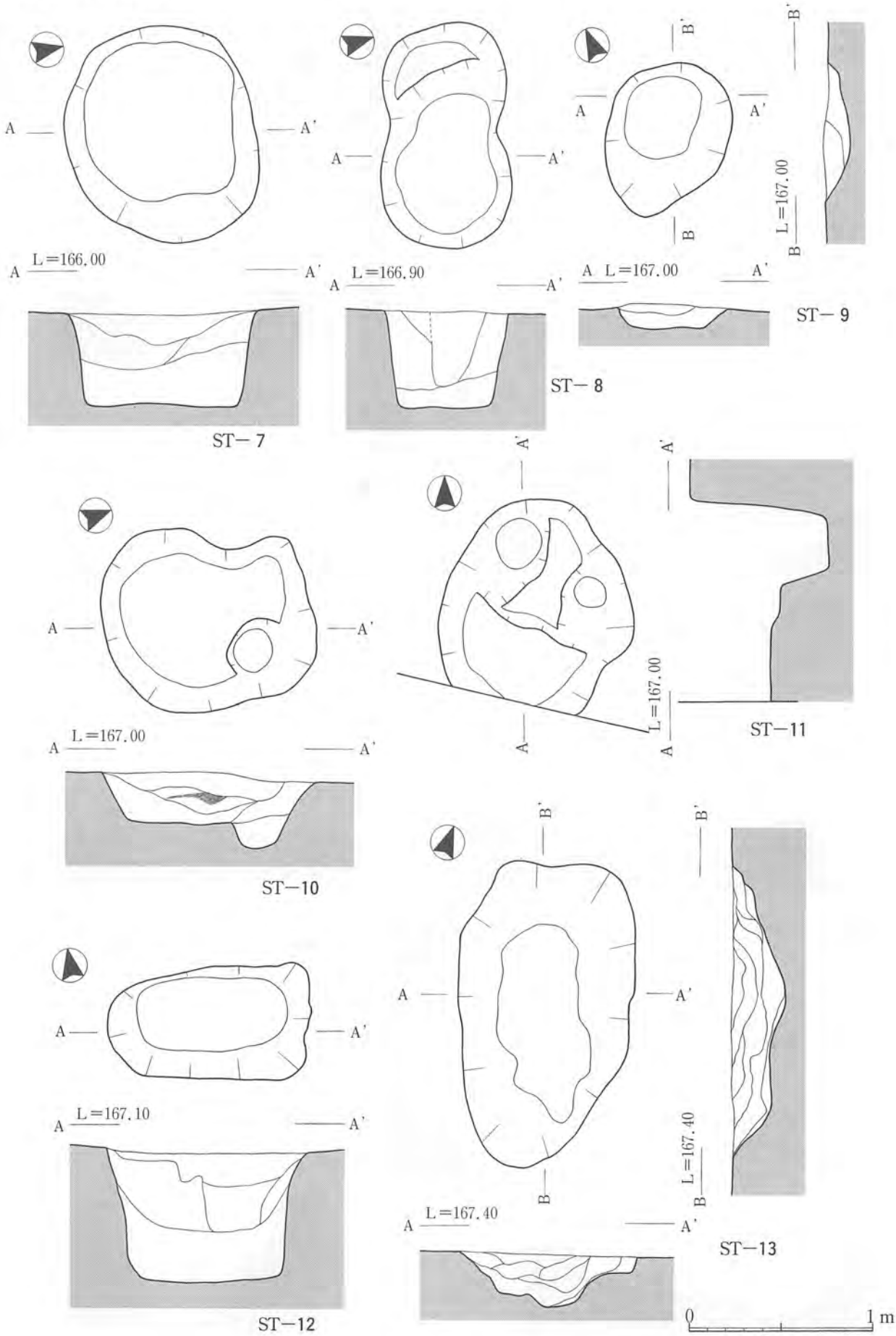
第133図　C区 ST 遺構配置図



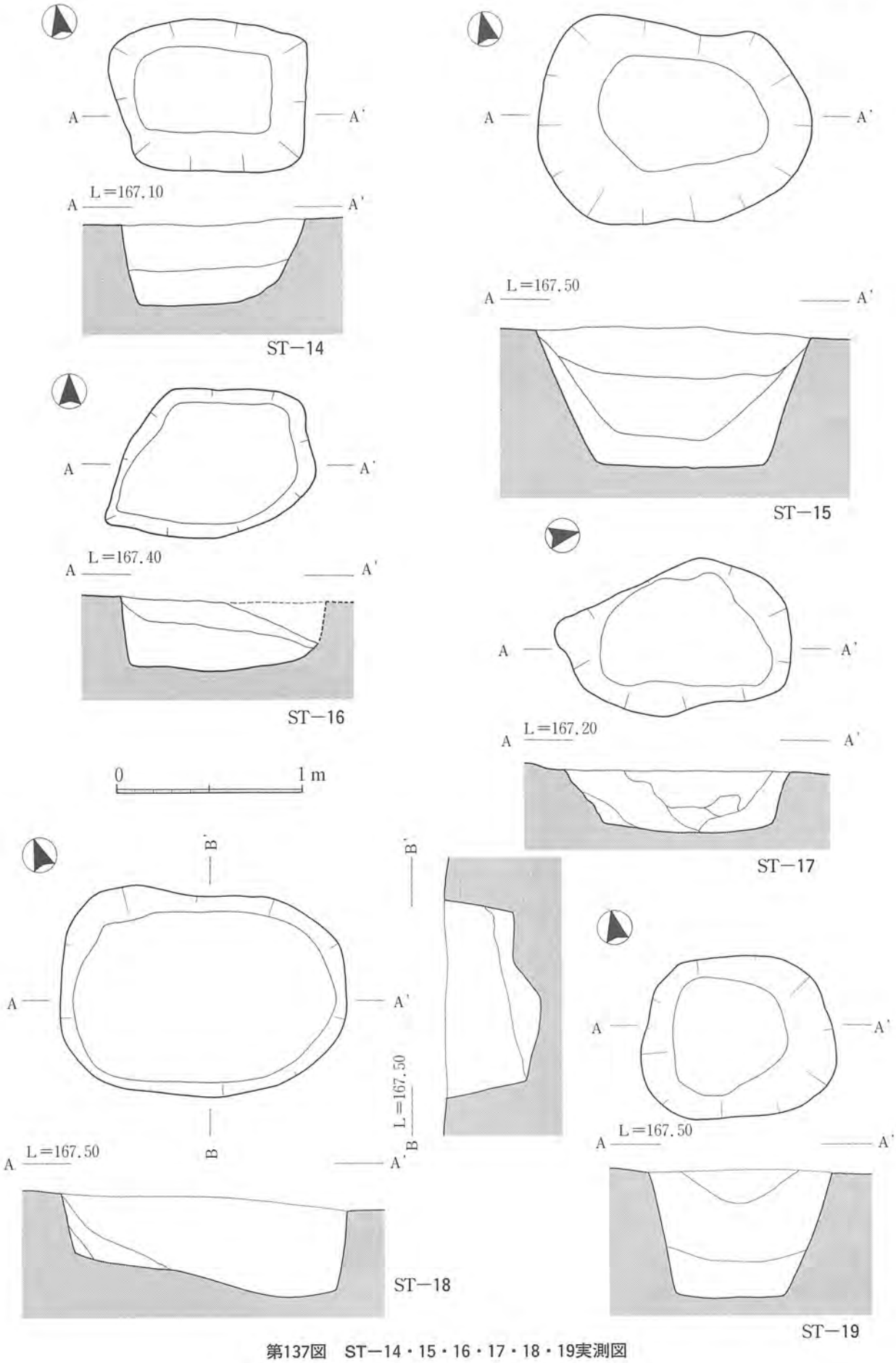
第134図　E・F区ST遺構配置図



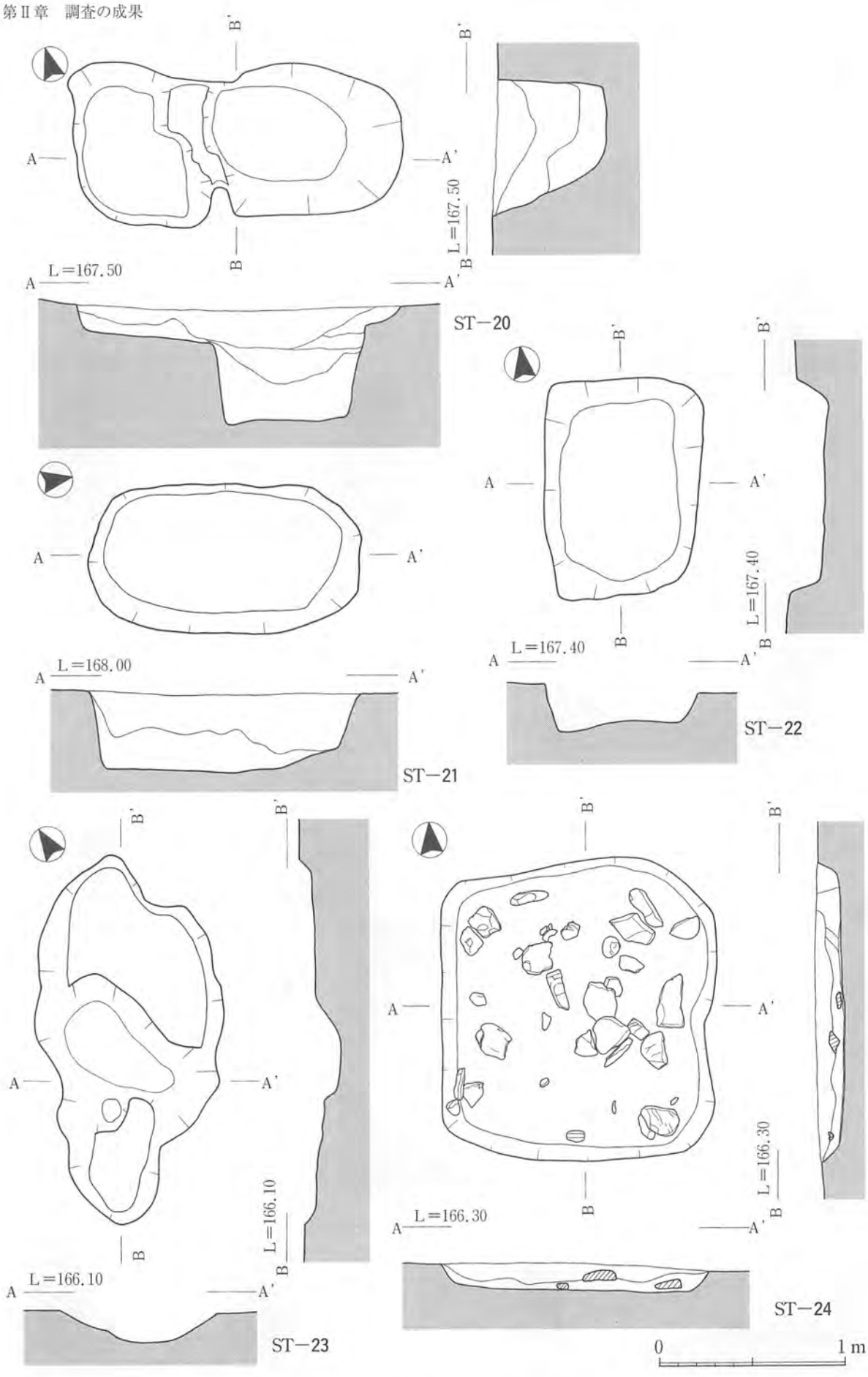
第135図　ST－1・2・3・4・5・6実測図



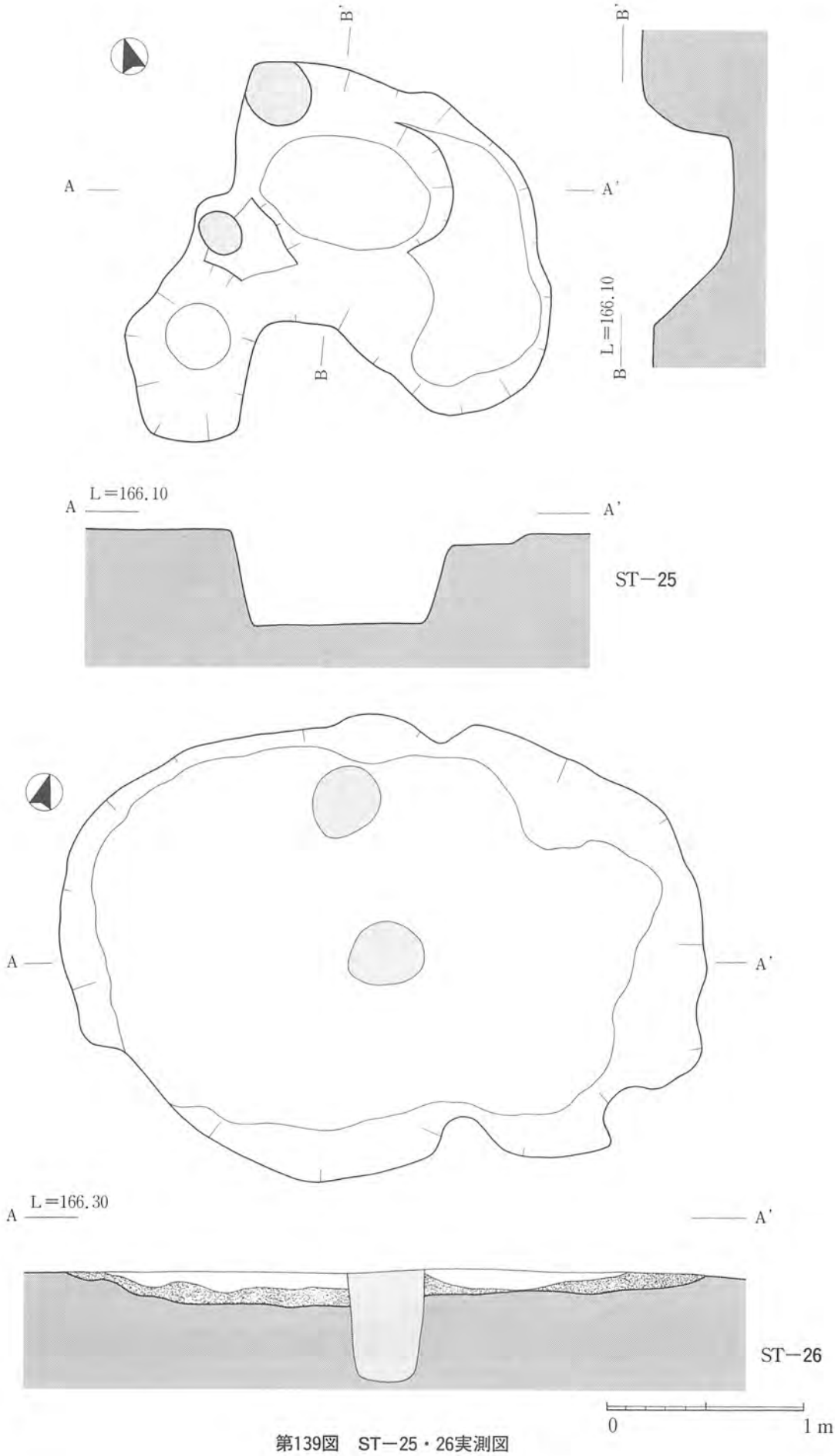
第136図　ST－7・8・9・10・11・12・13実測図



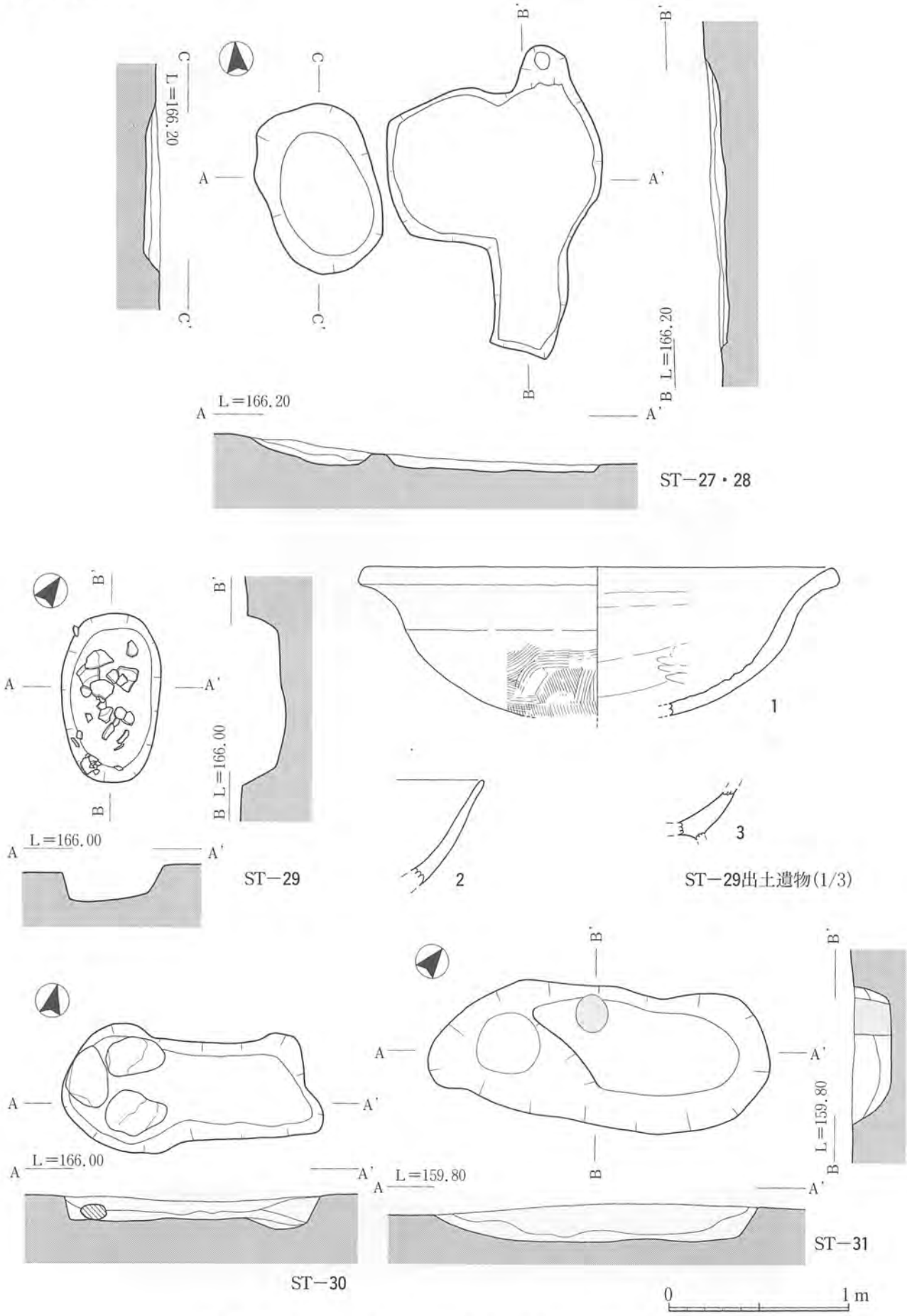
第137図　ST−14・15・16・17・18・19実測図



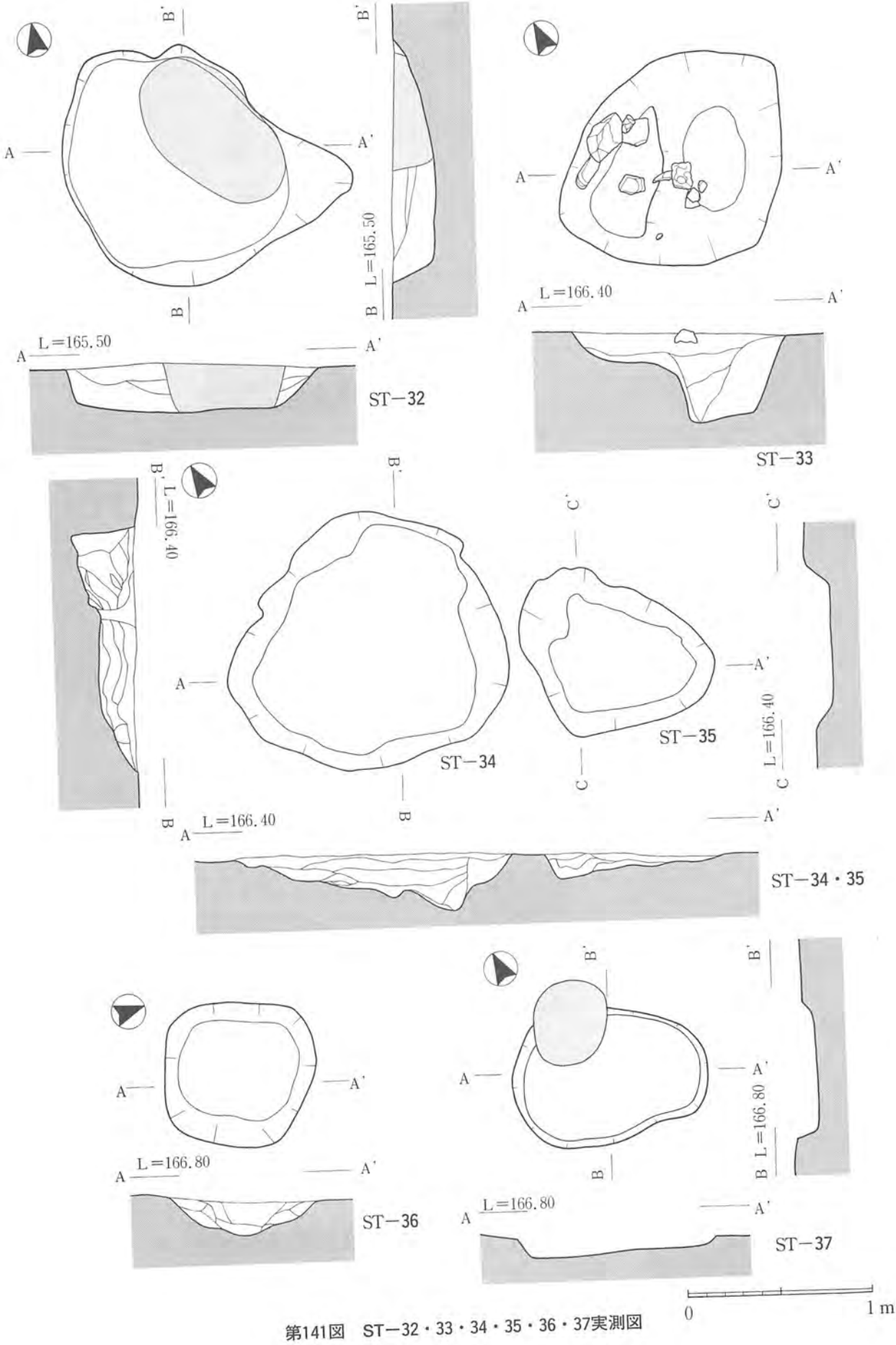
第138図　ST－20・21・22・23・24実測図



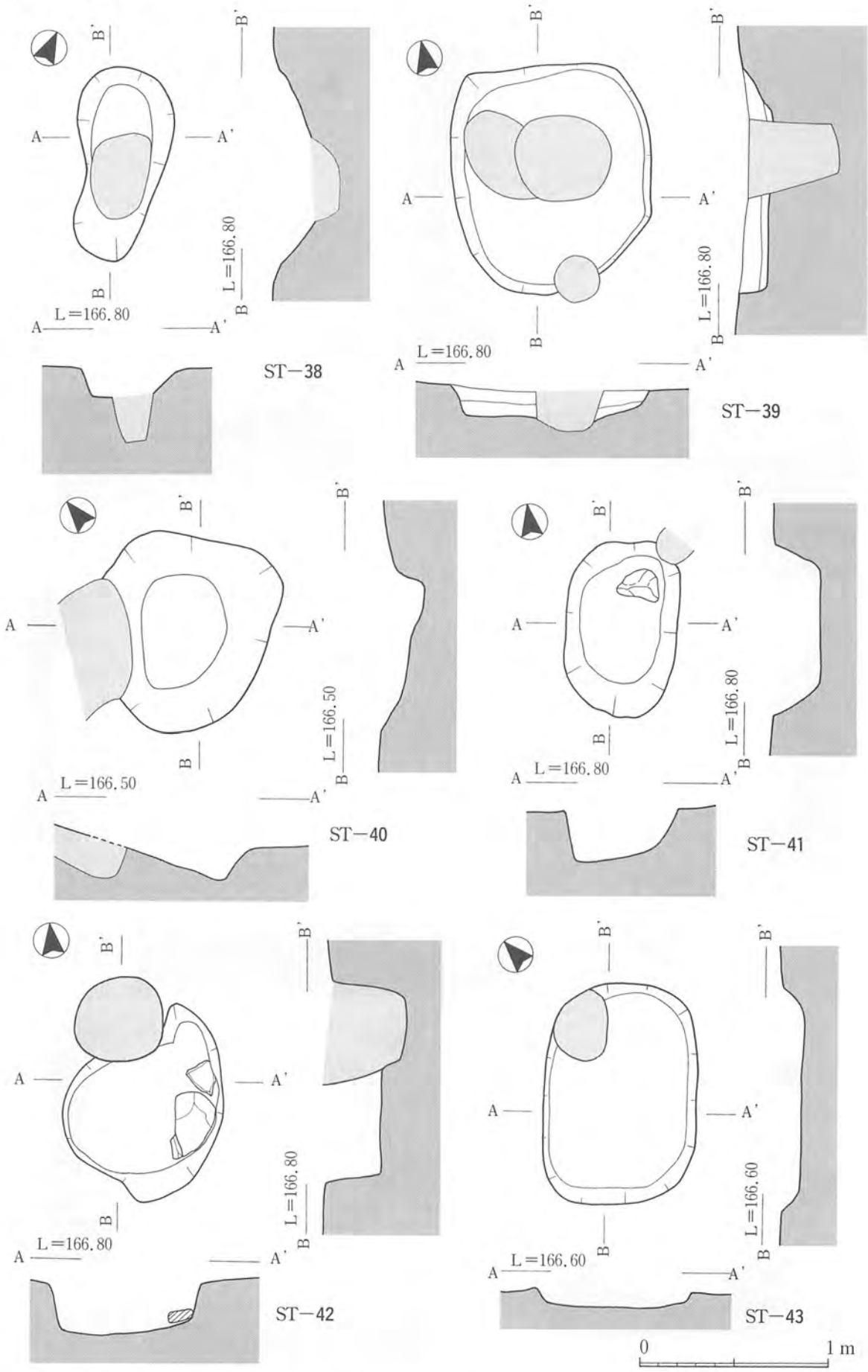
第139図　ST−25・26実測図



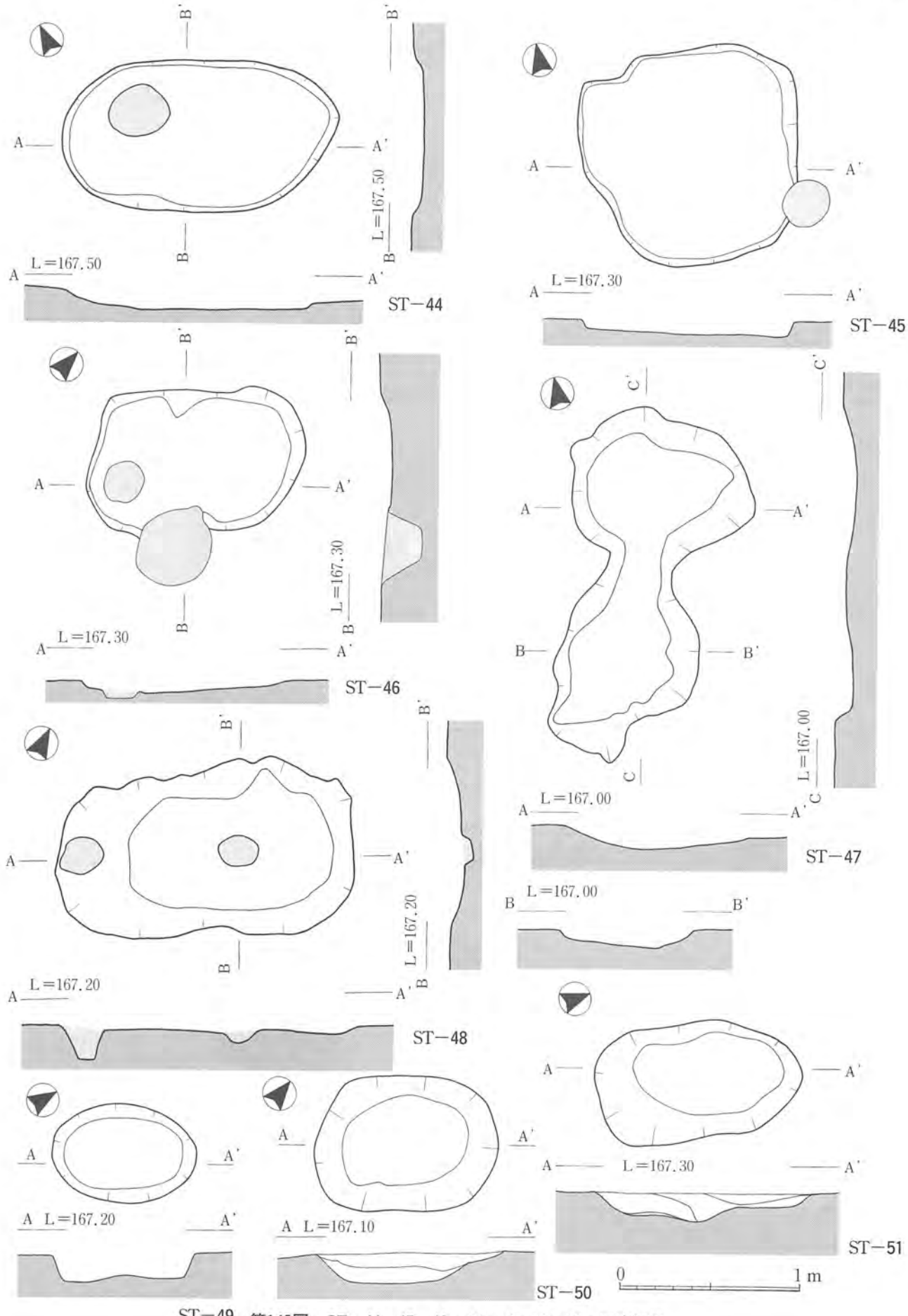
第140図　ST－27・28・29・30・31実測図及びST－29出土遺物



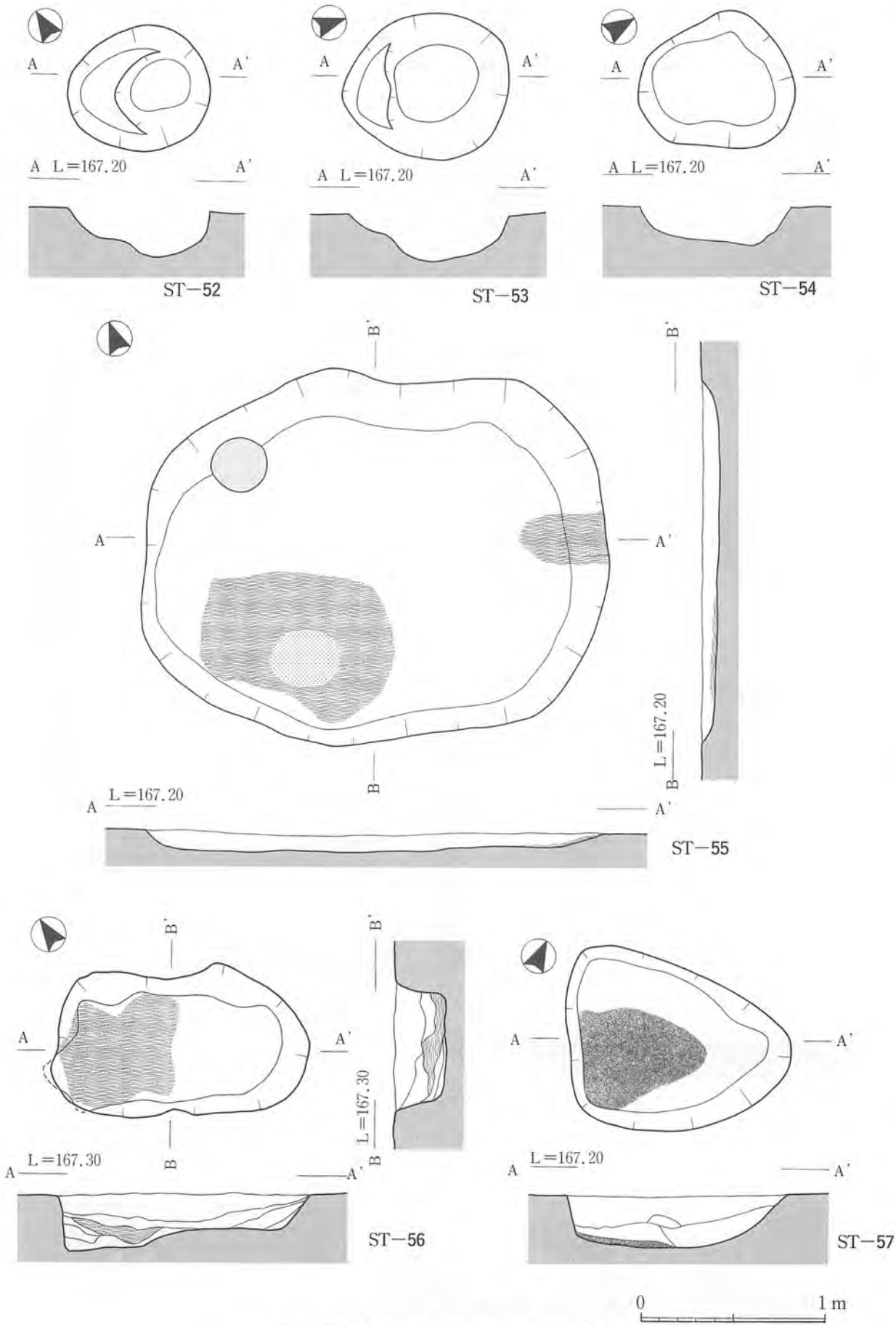
第141図　ST−32・33・34・35・36・37実測図



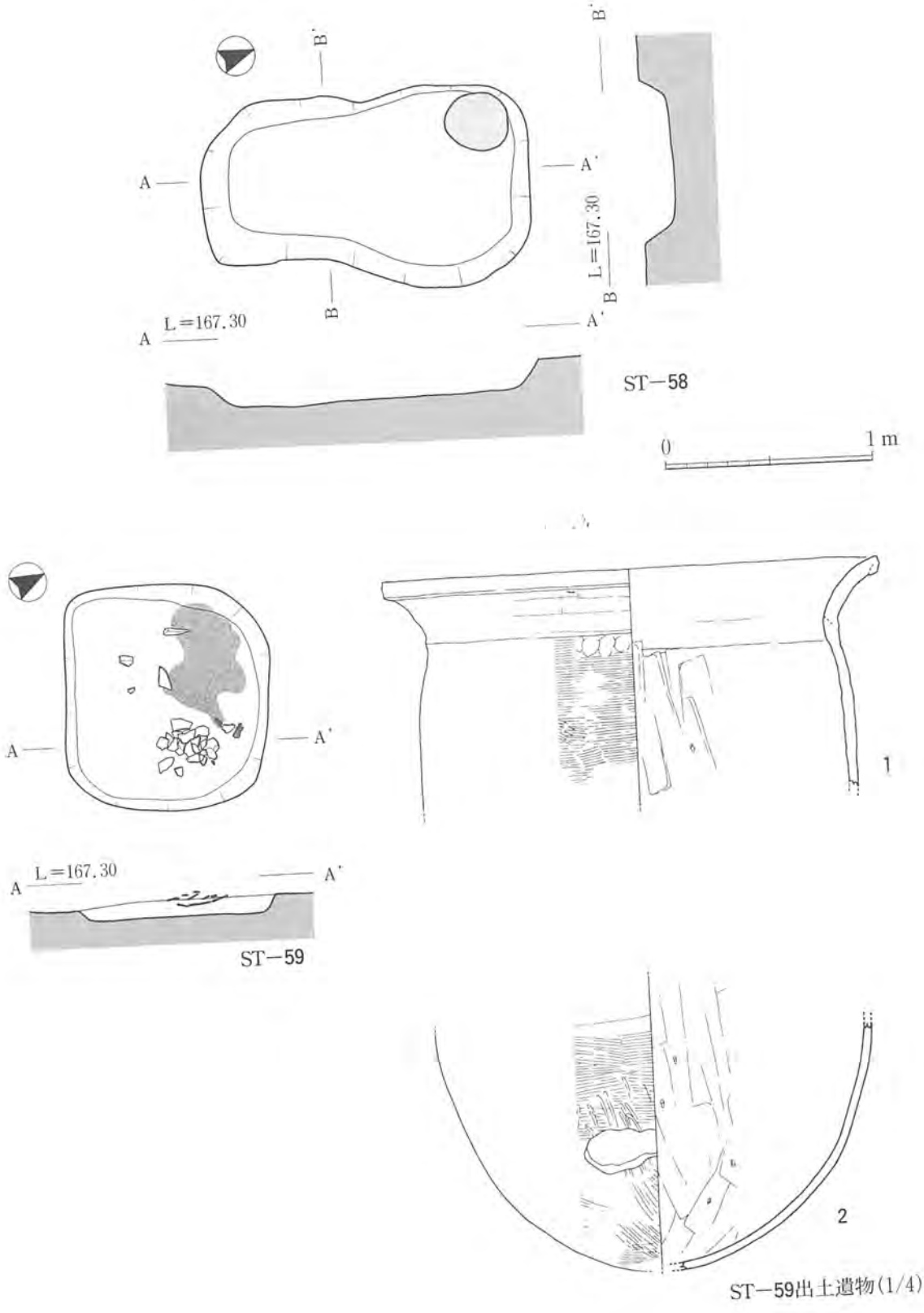
第142図　ST－38・39・40・41・42・43実測図



第143図　ST－44・45・46・47・48・49・50・51実測図

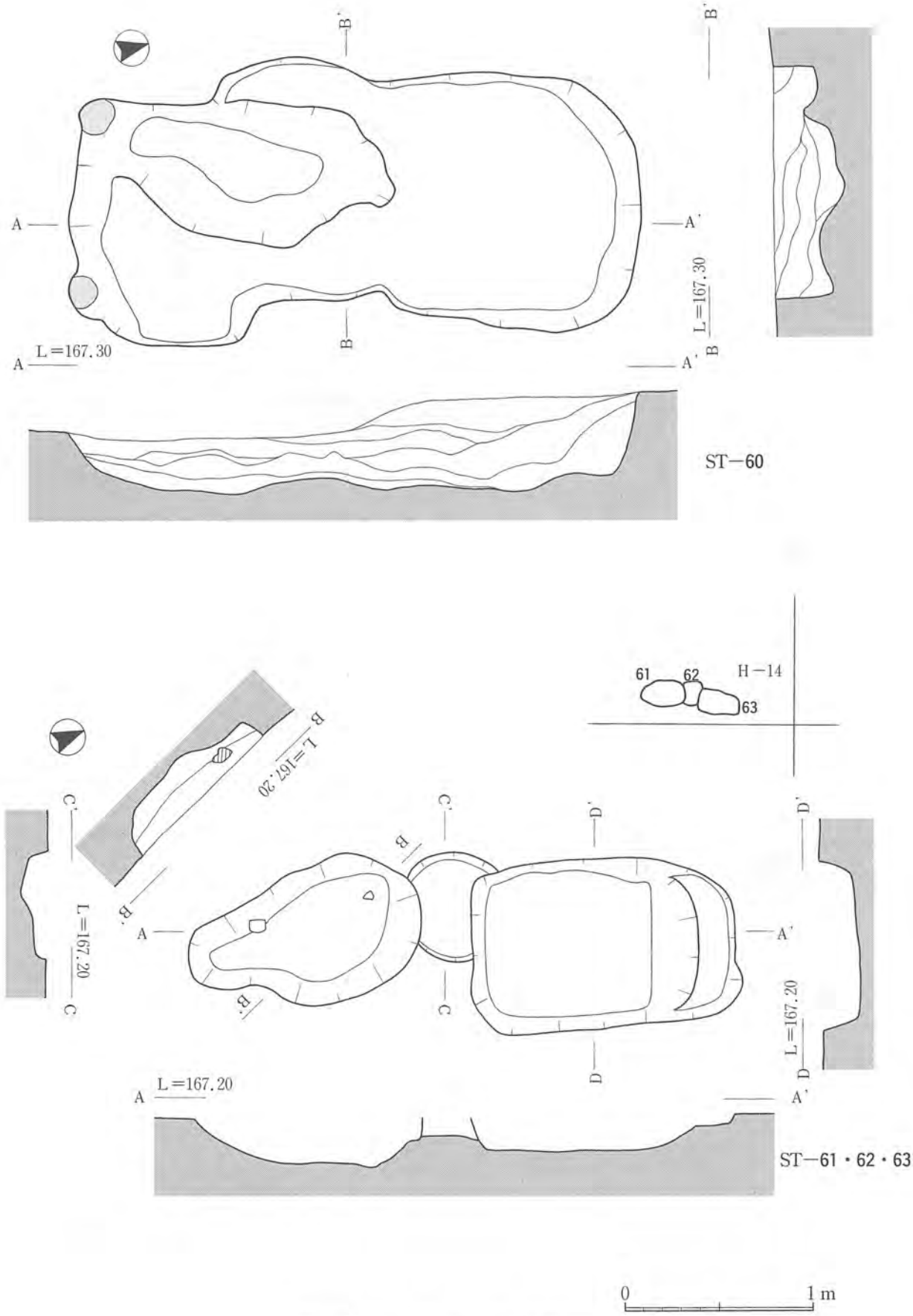


第144図　ST−52・53・54・55・56・57実測図

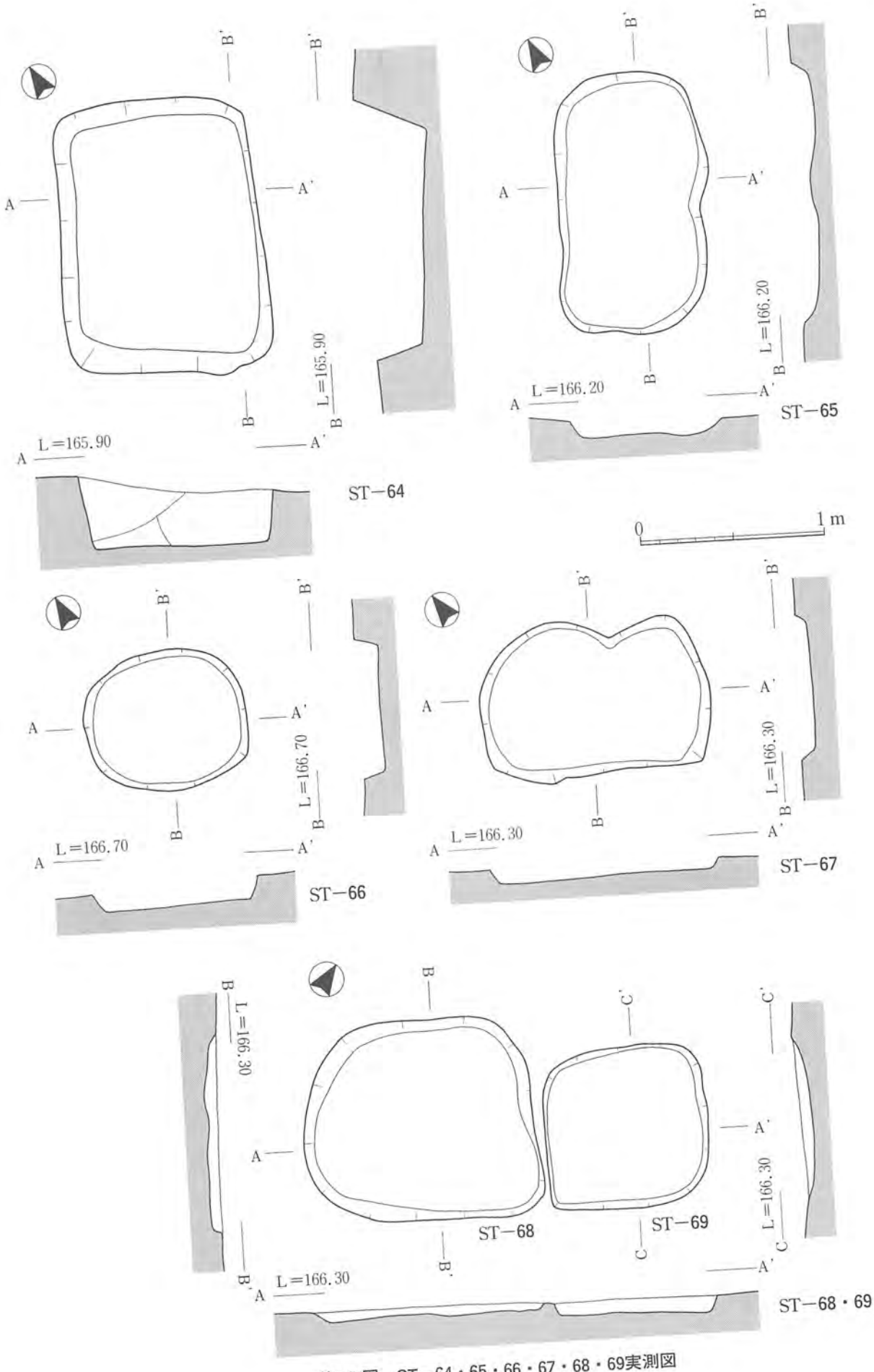


ST−59出土遺物(1/4)

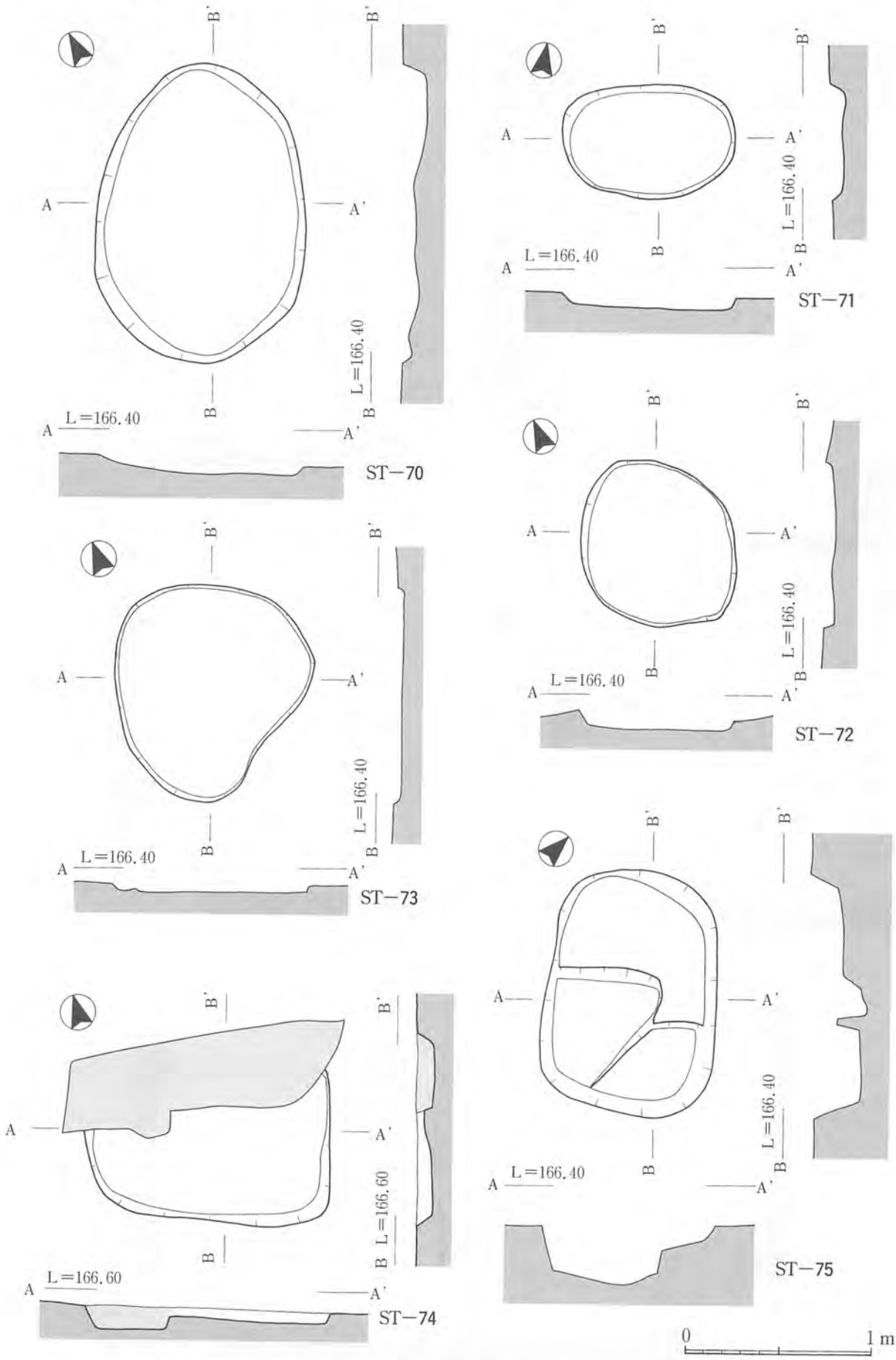
第145図　ST−58・59実測図及びST−59出土遺物



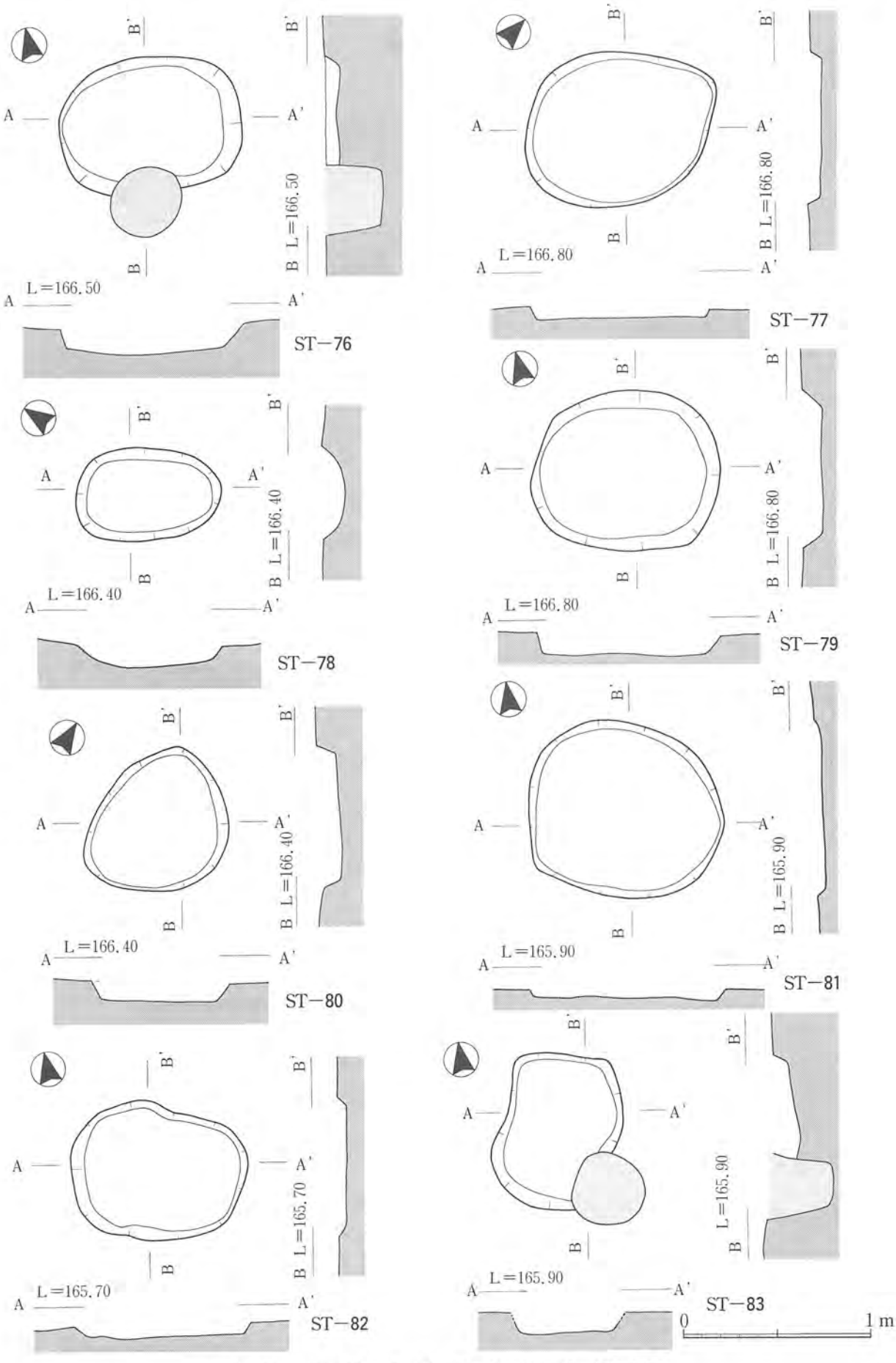
第146図　ST−60・61・62・63実測図



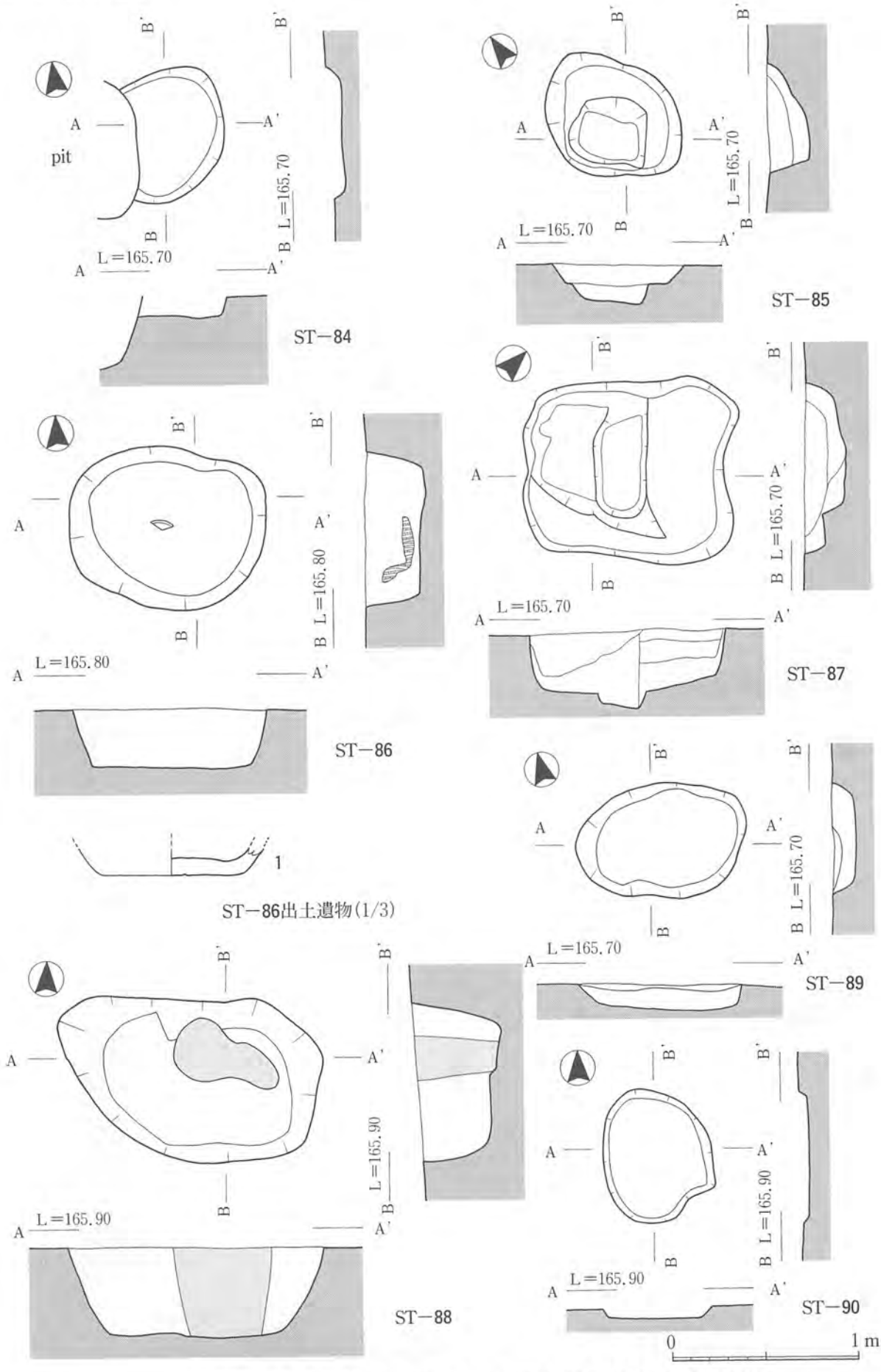
第147図　ST−64・65・66・67・68・69実測図



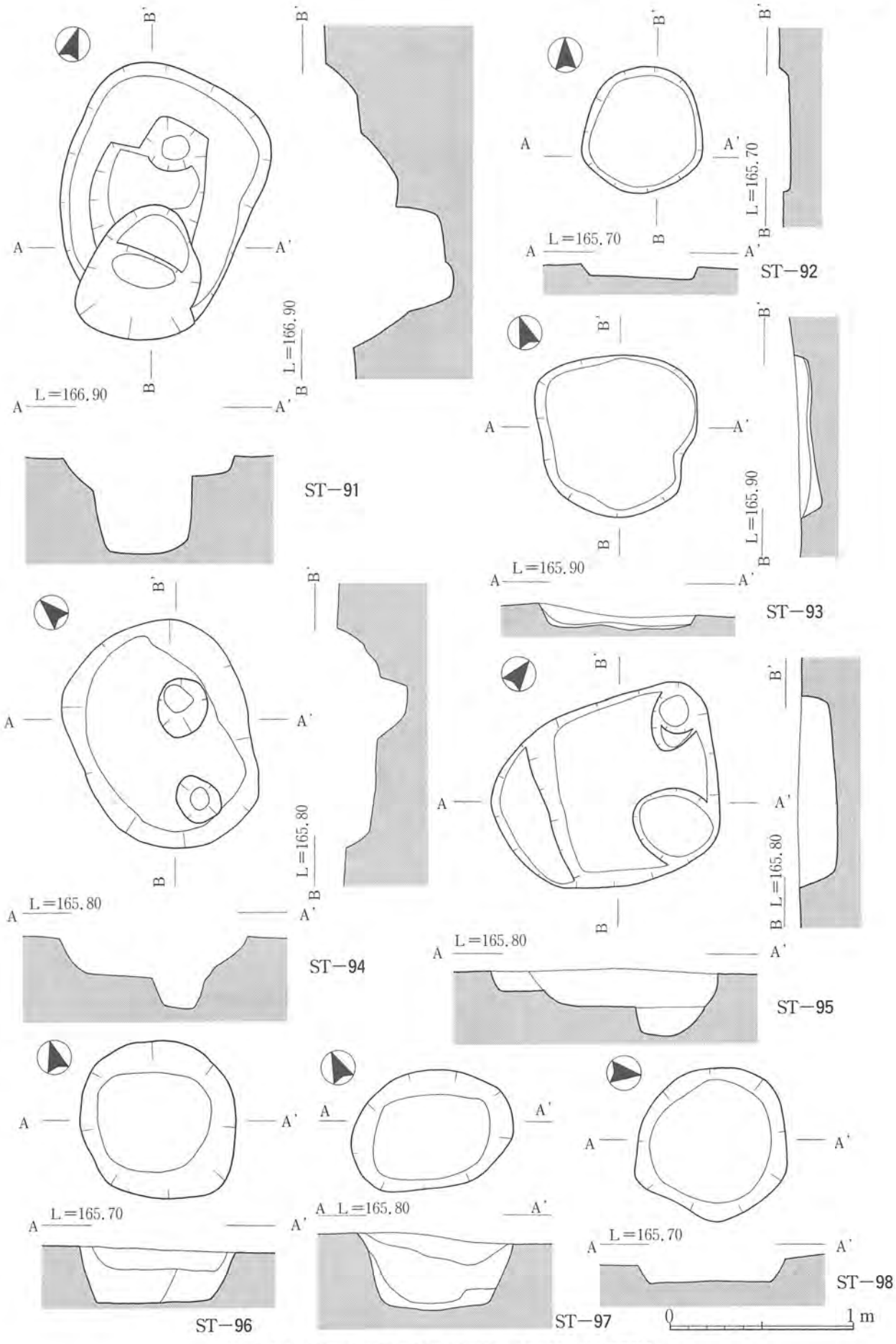
第148図　ST－70・71・72・73・74・75実測図



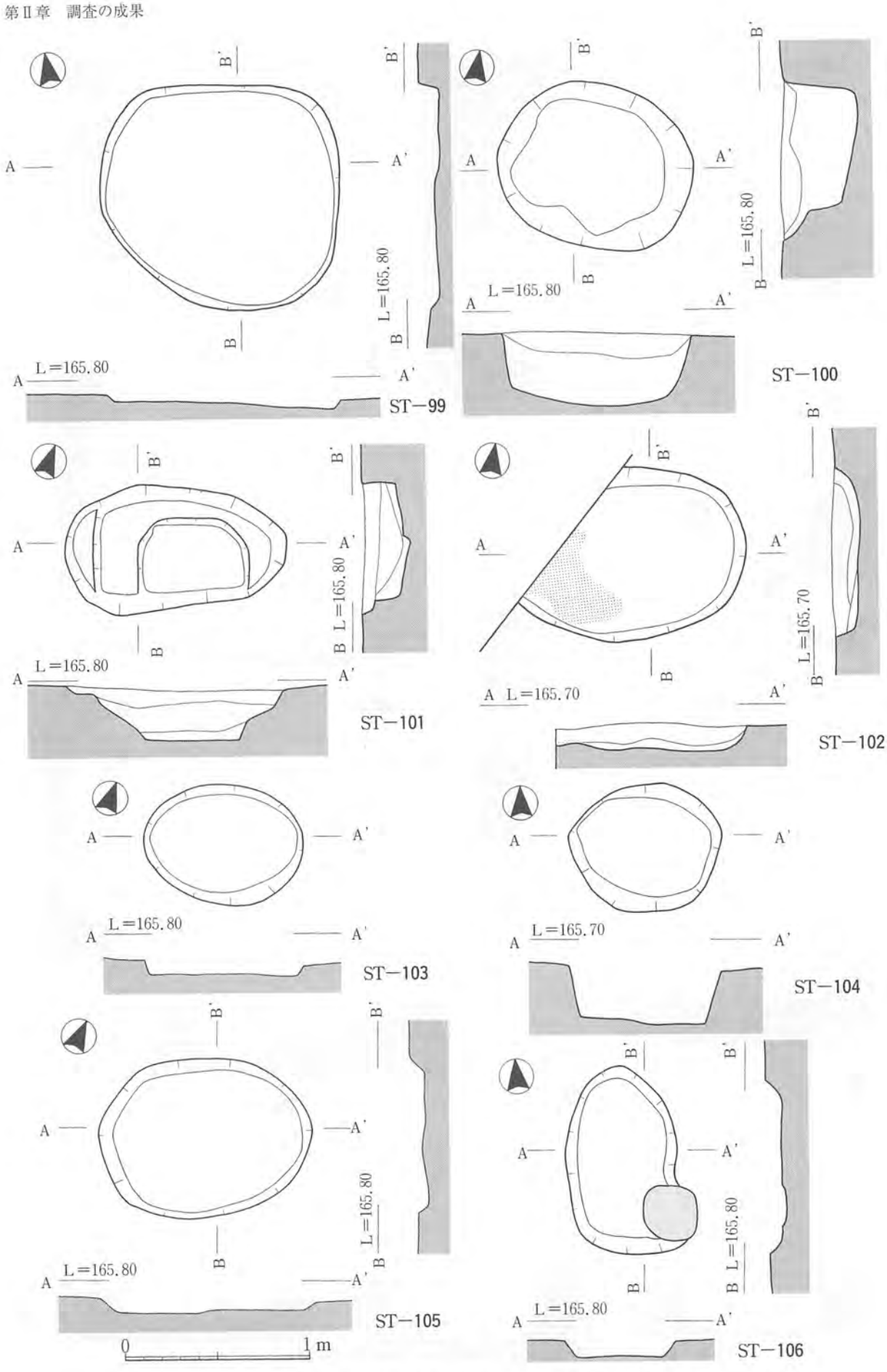
第149図　ST−76・77・78・79・80・81・82・83実測図



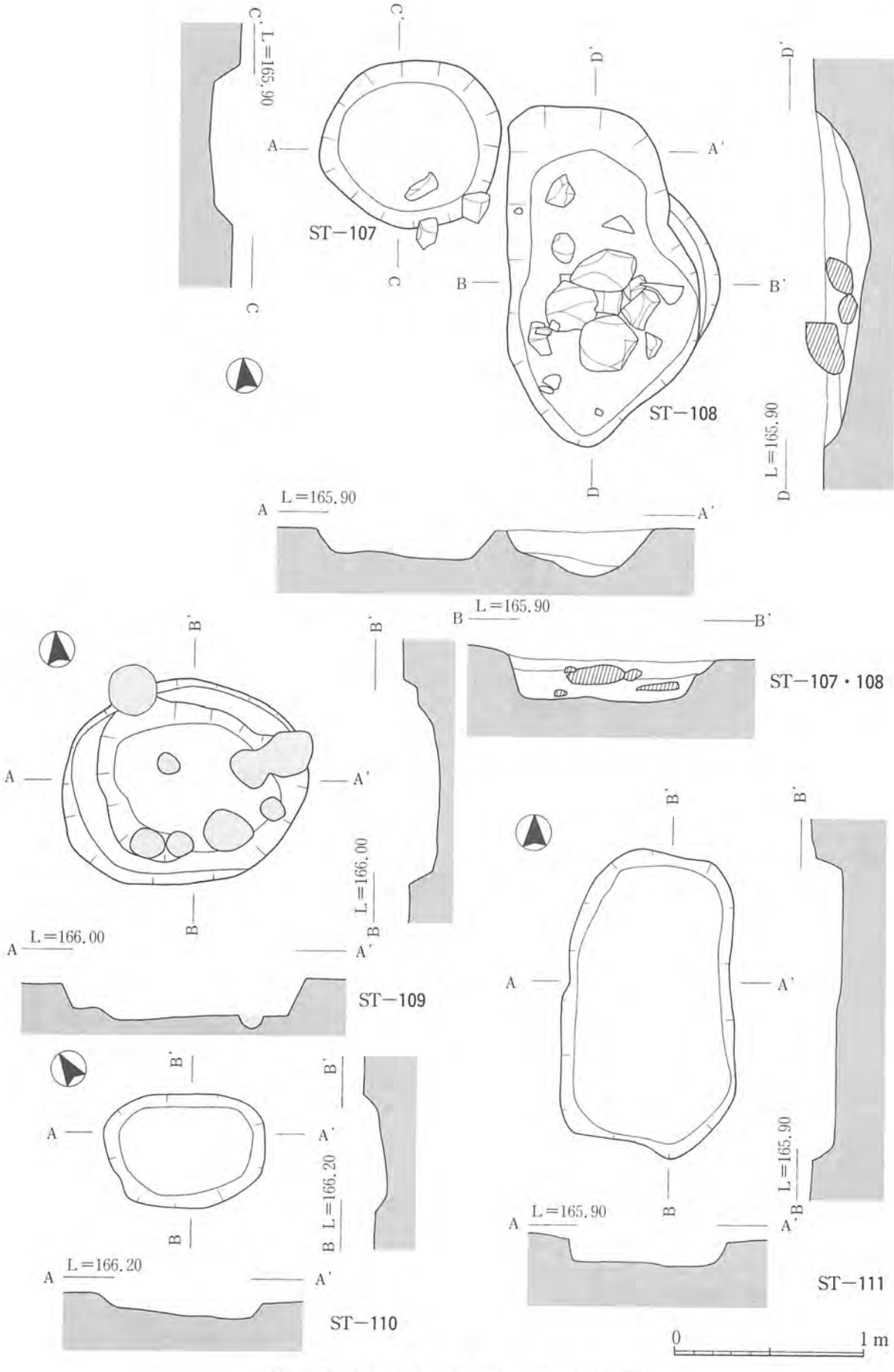
第150図　ST−84・85・86・87・88・89・90実測図及びST−86出土遺物



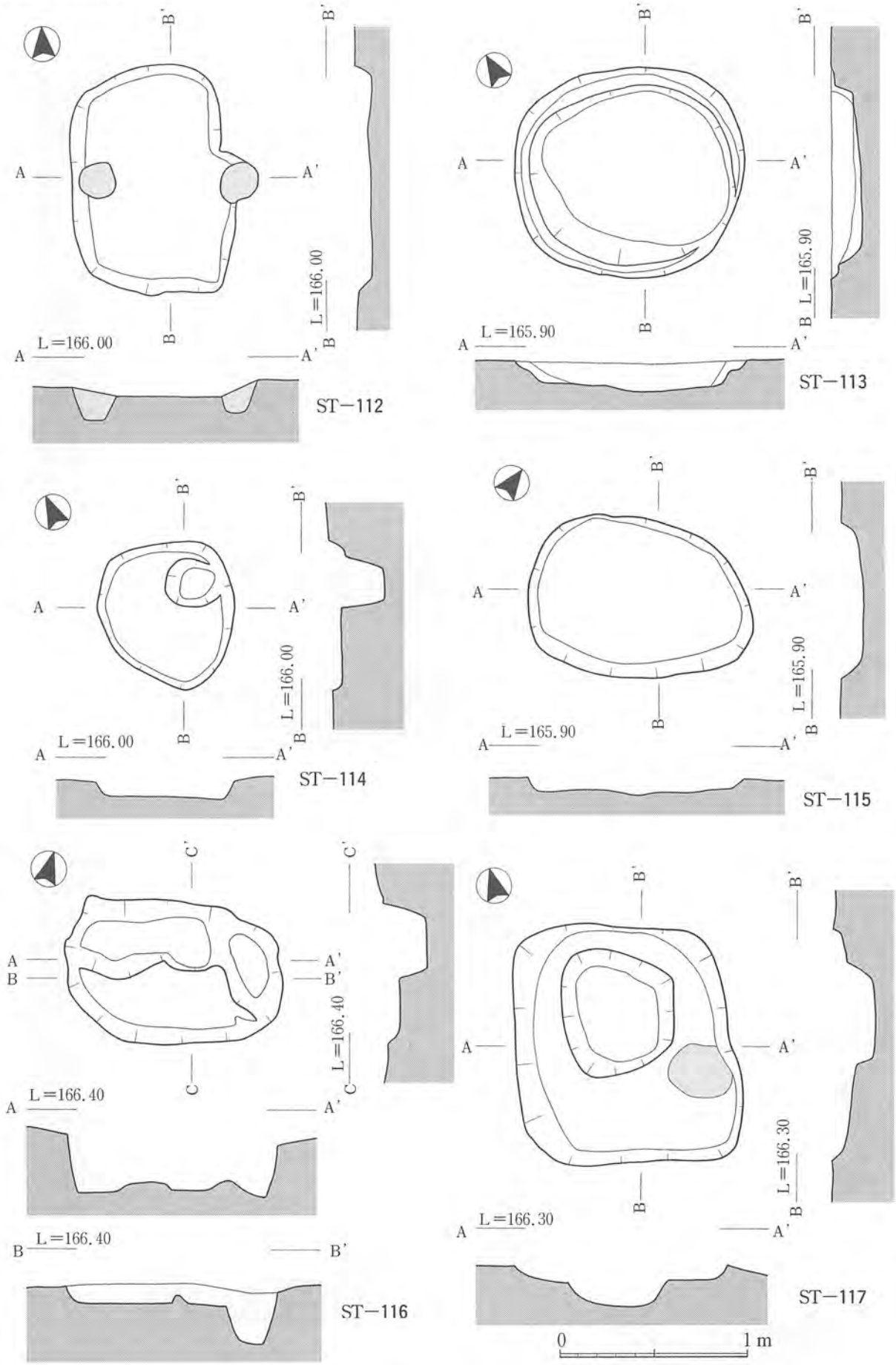
第151図　ST−91・92・93・94・95・96・97・98実測図



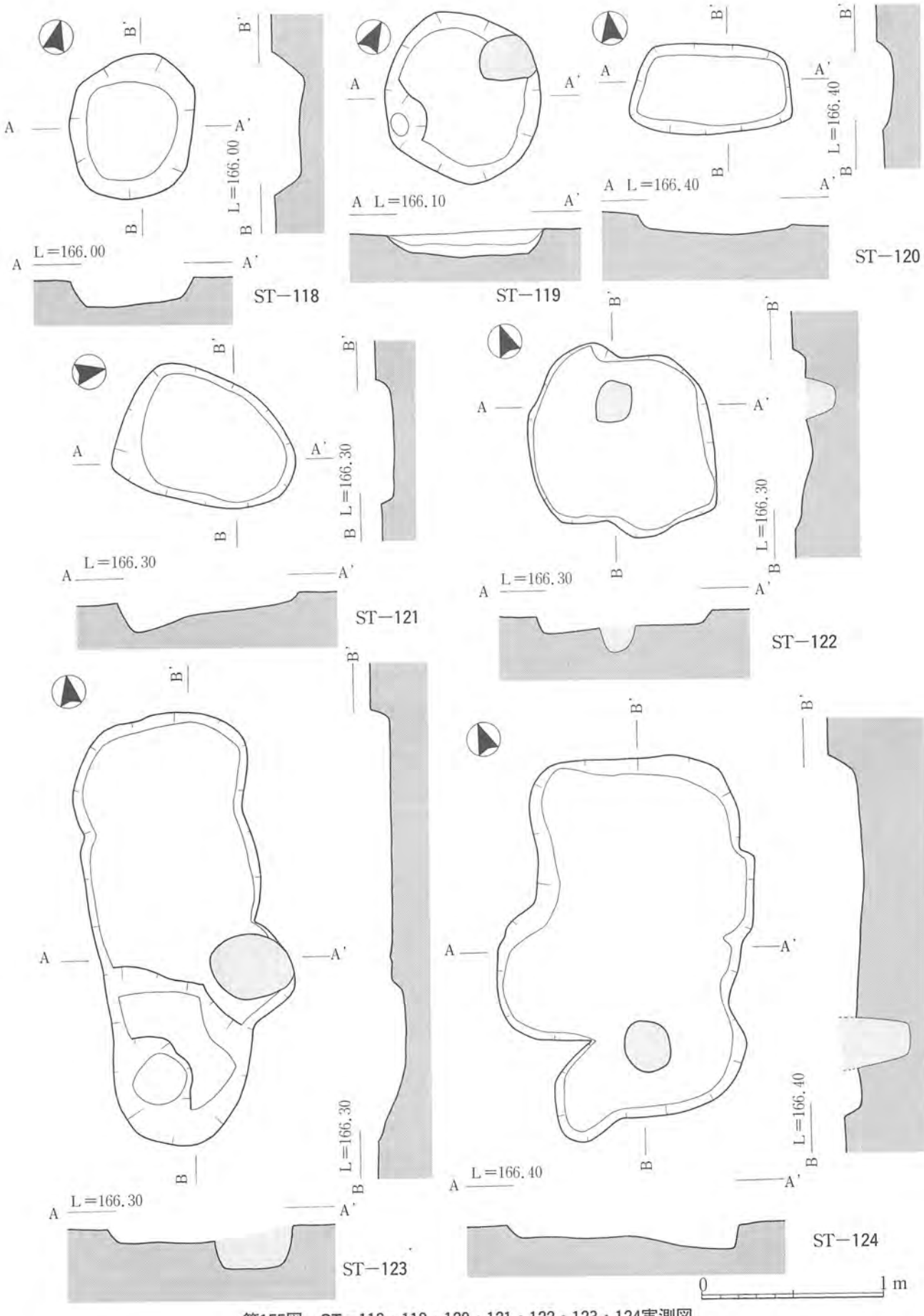
第152図　ST−99・100・101・102・103・104・105・106実測図



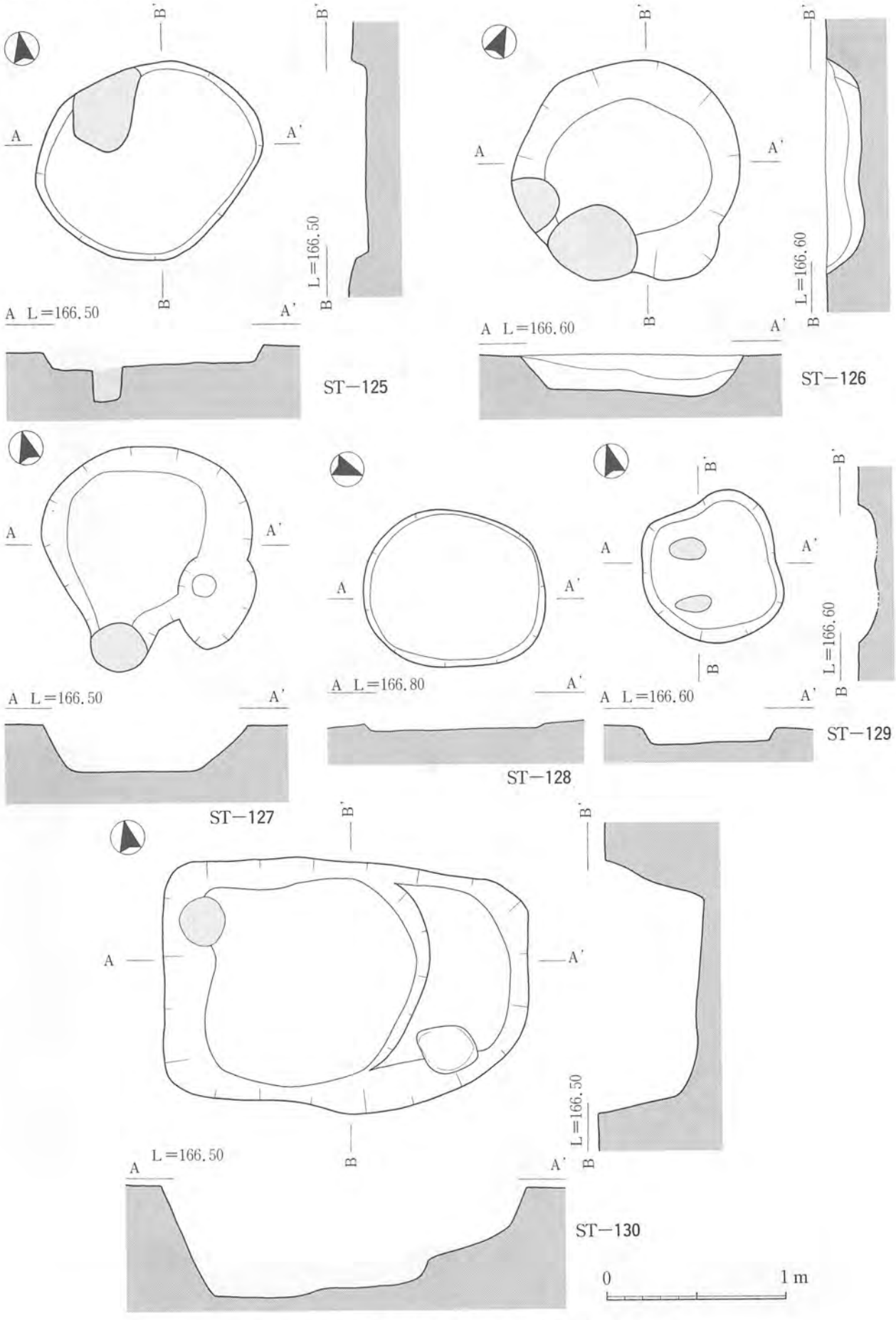
第153図　ST−107・108・109・110・111実測図



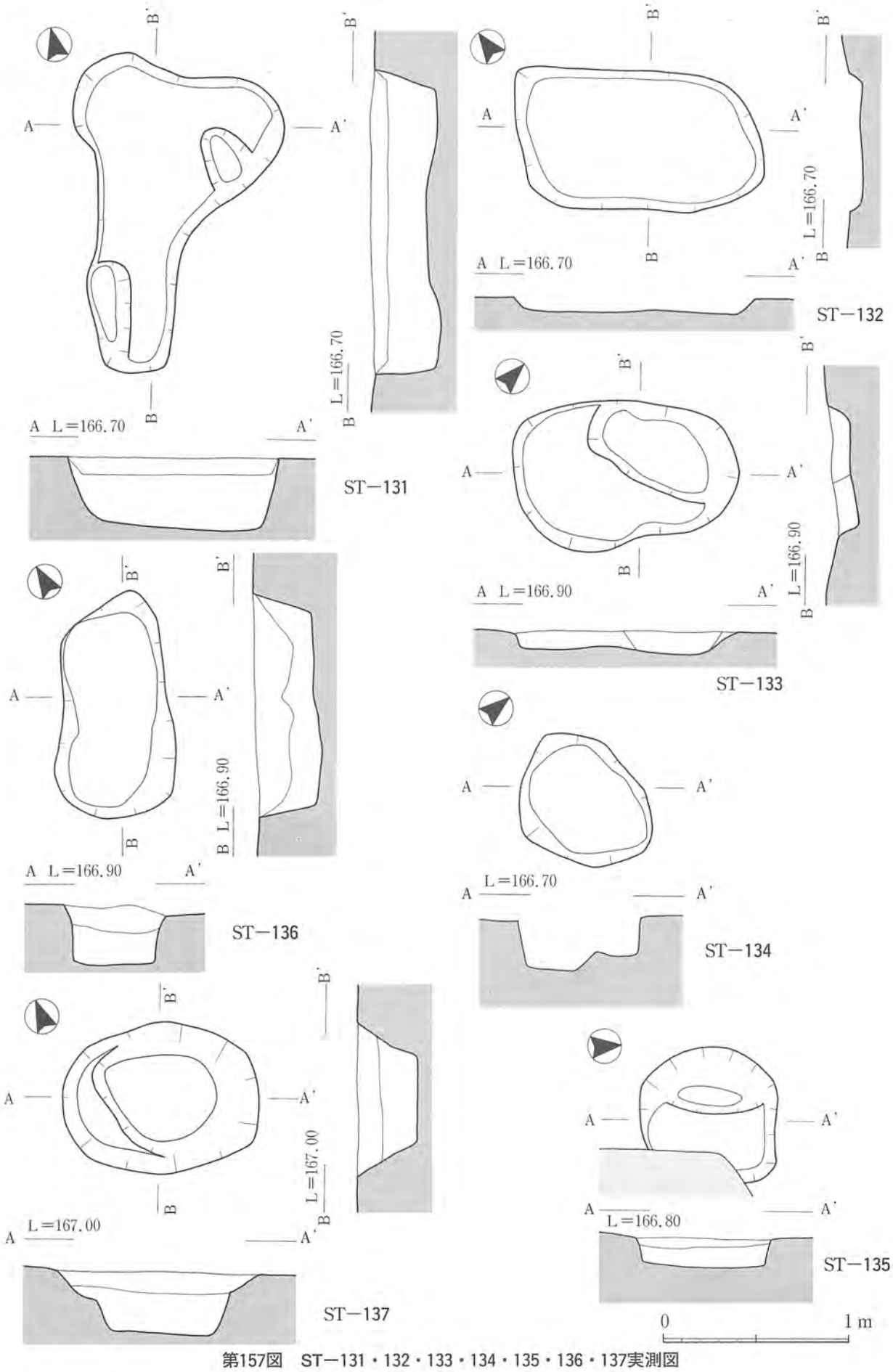
第154図　ST−112・113・114・115・116・117実測図



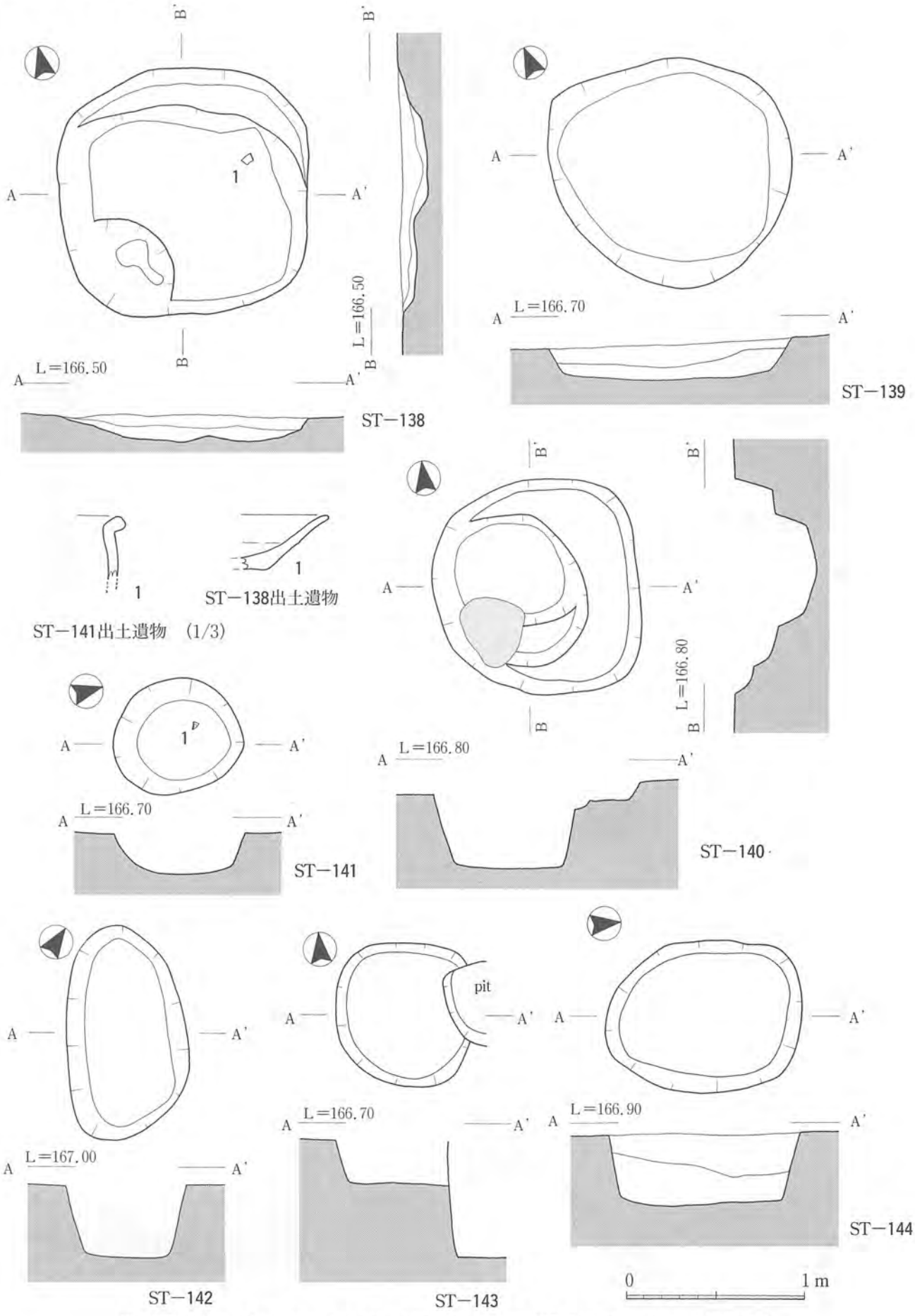
第155図　ST−118・119・120・121・122・123・124実測図



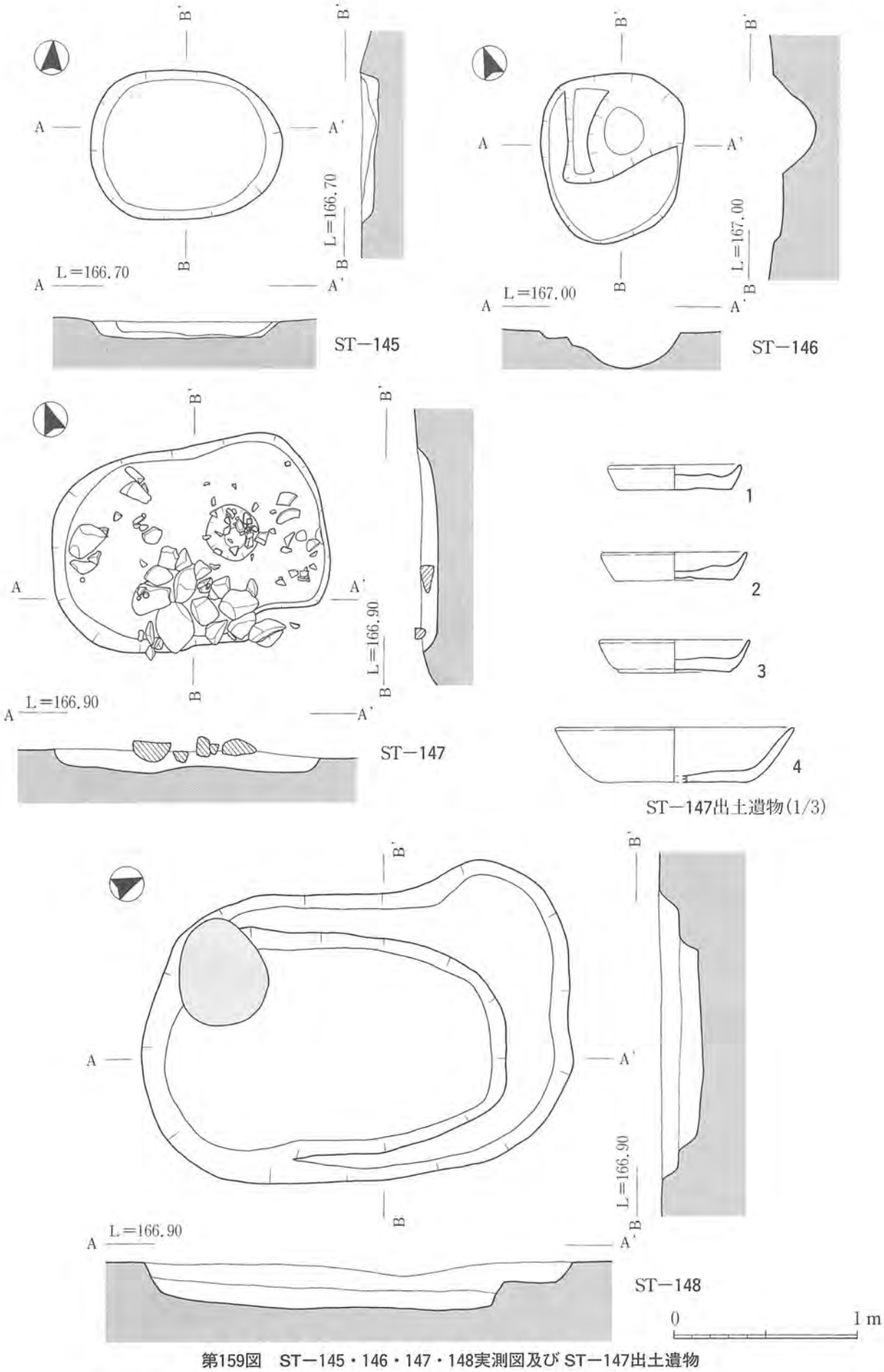
第156図　ST−125・126・127・128・129・130実測図



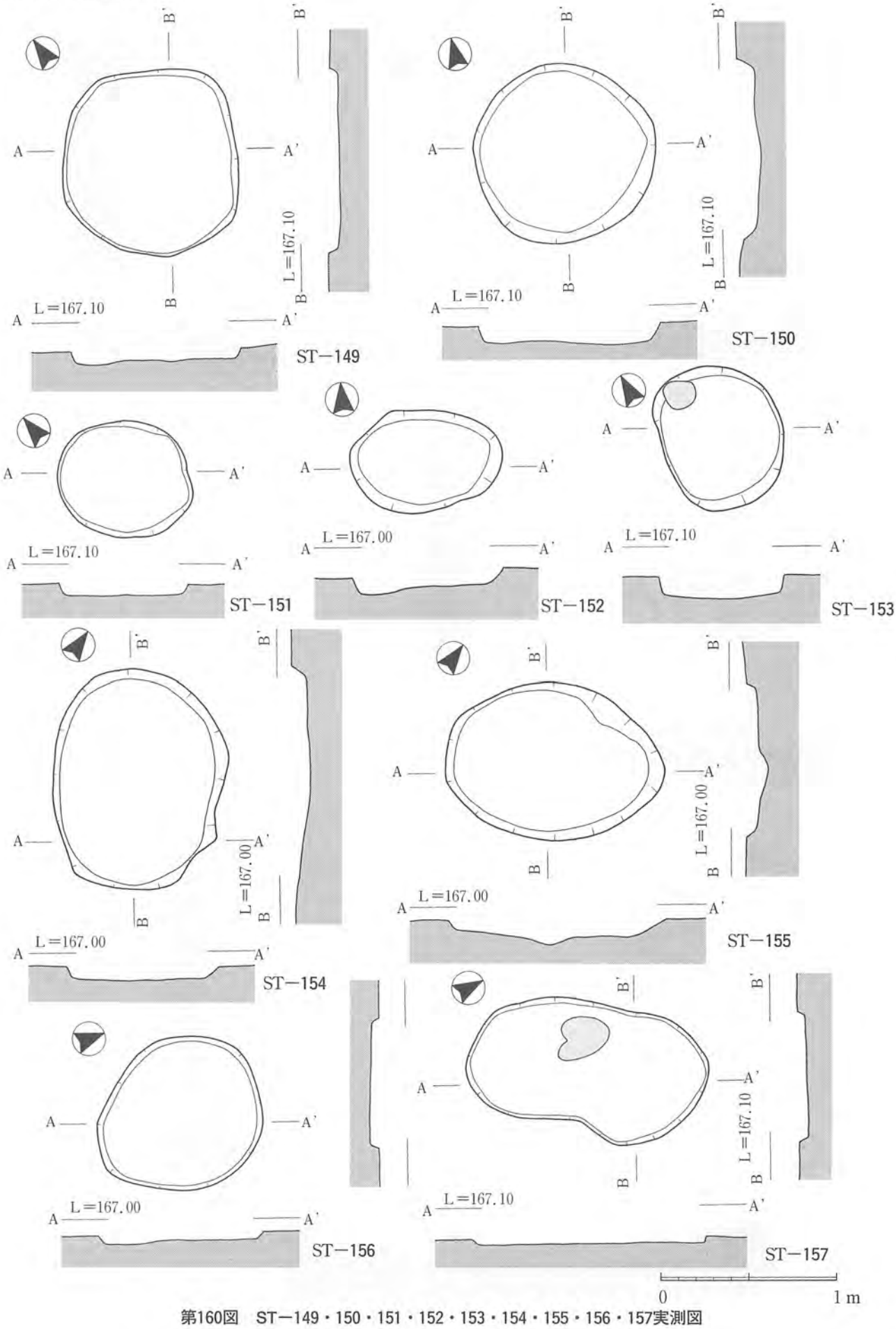
第157図　ST−131・132・133・134・135・136・137実測図



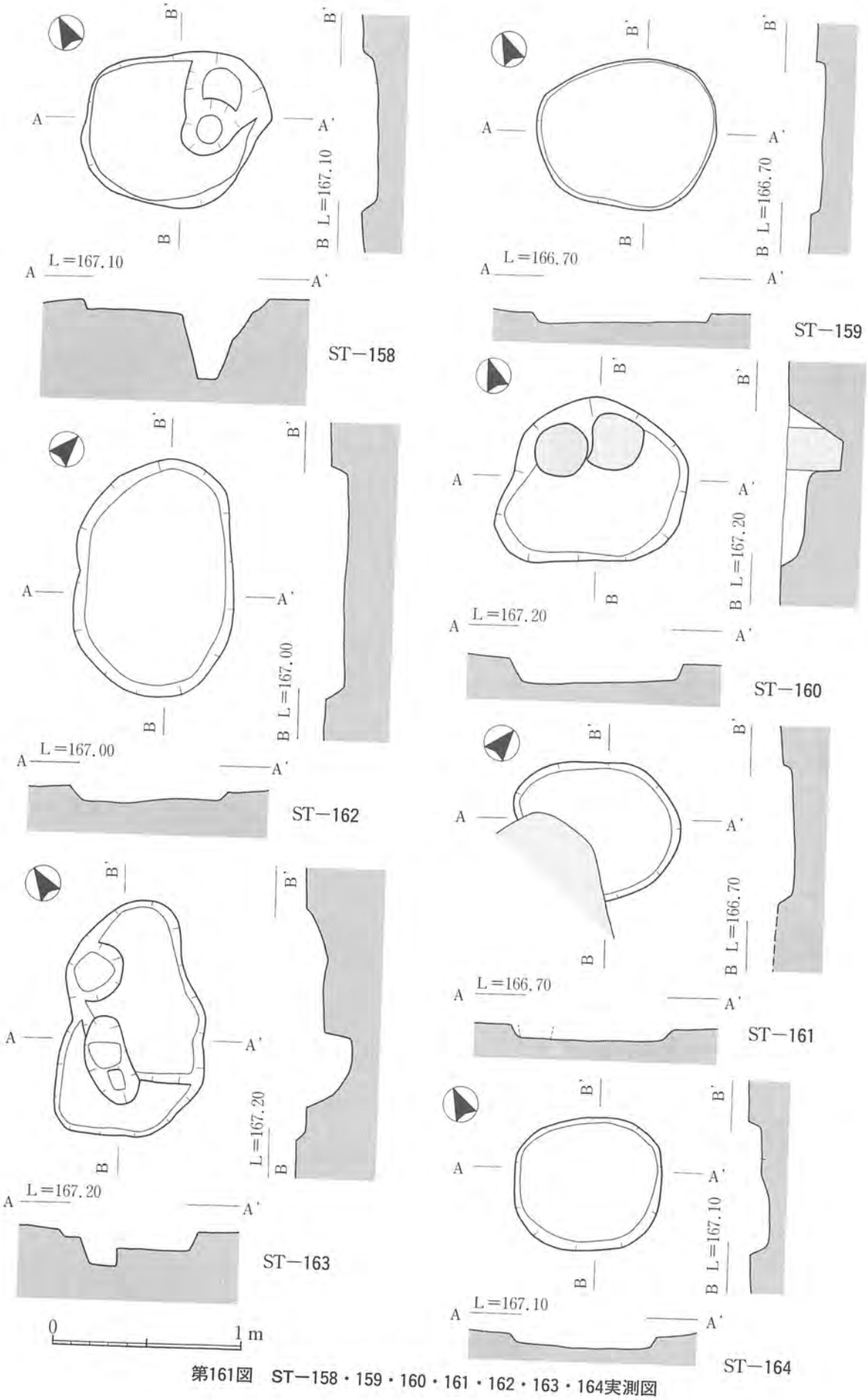
第158図　ST－138・139・140・141・142・143・144実測図及びST－138・141出土遺物



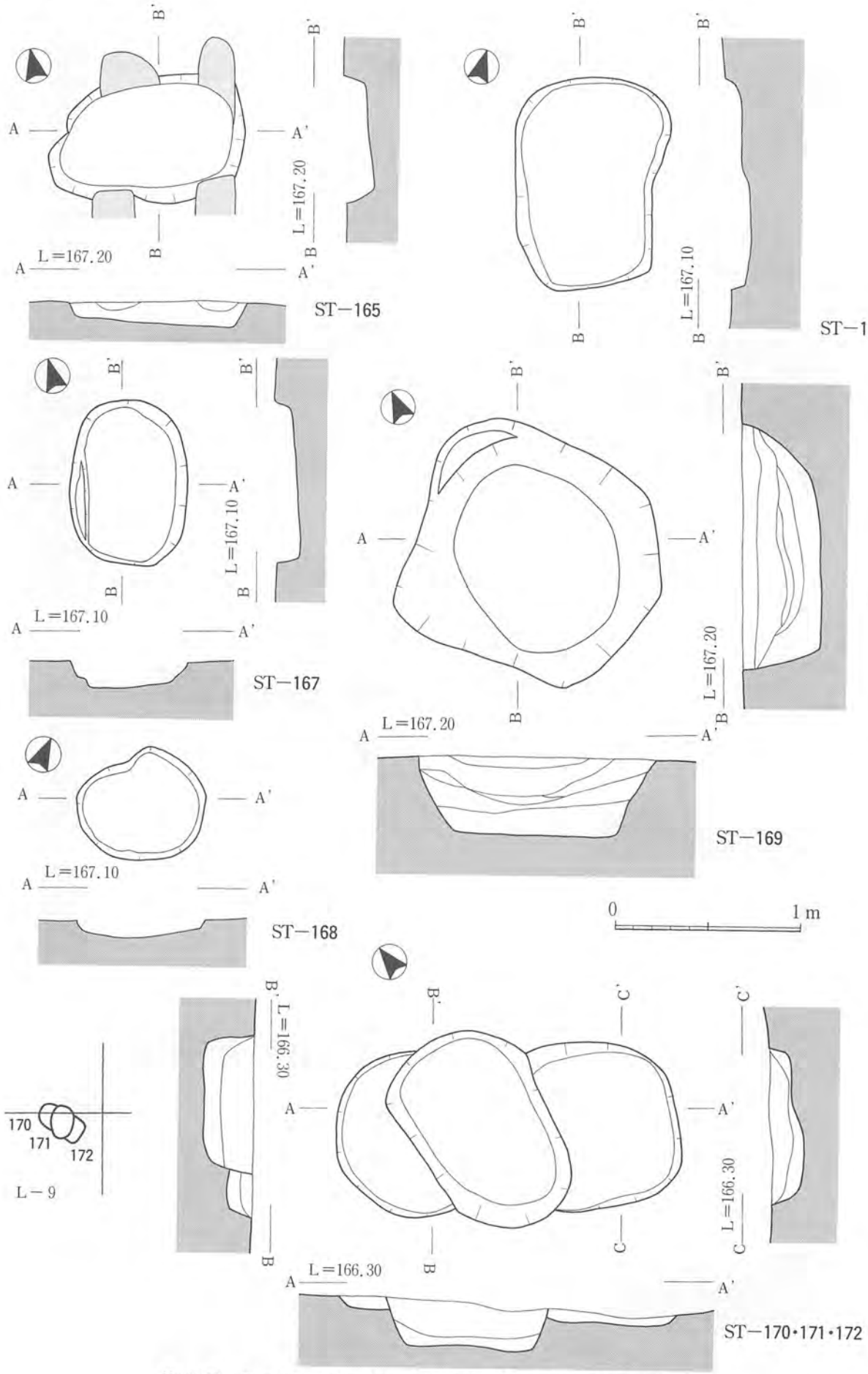
第159図　ST－145・146・147・148実測図及びST－147出土遺物



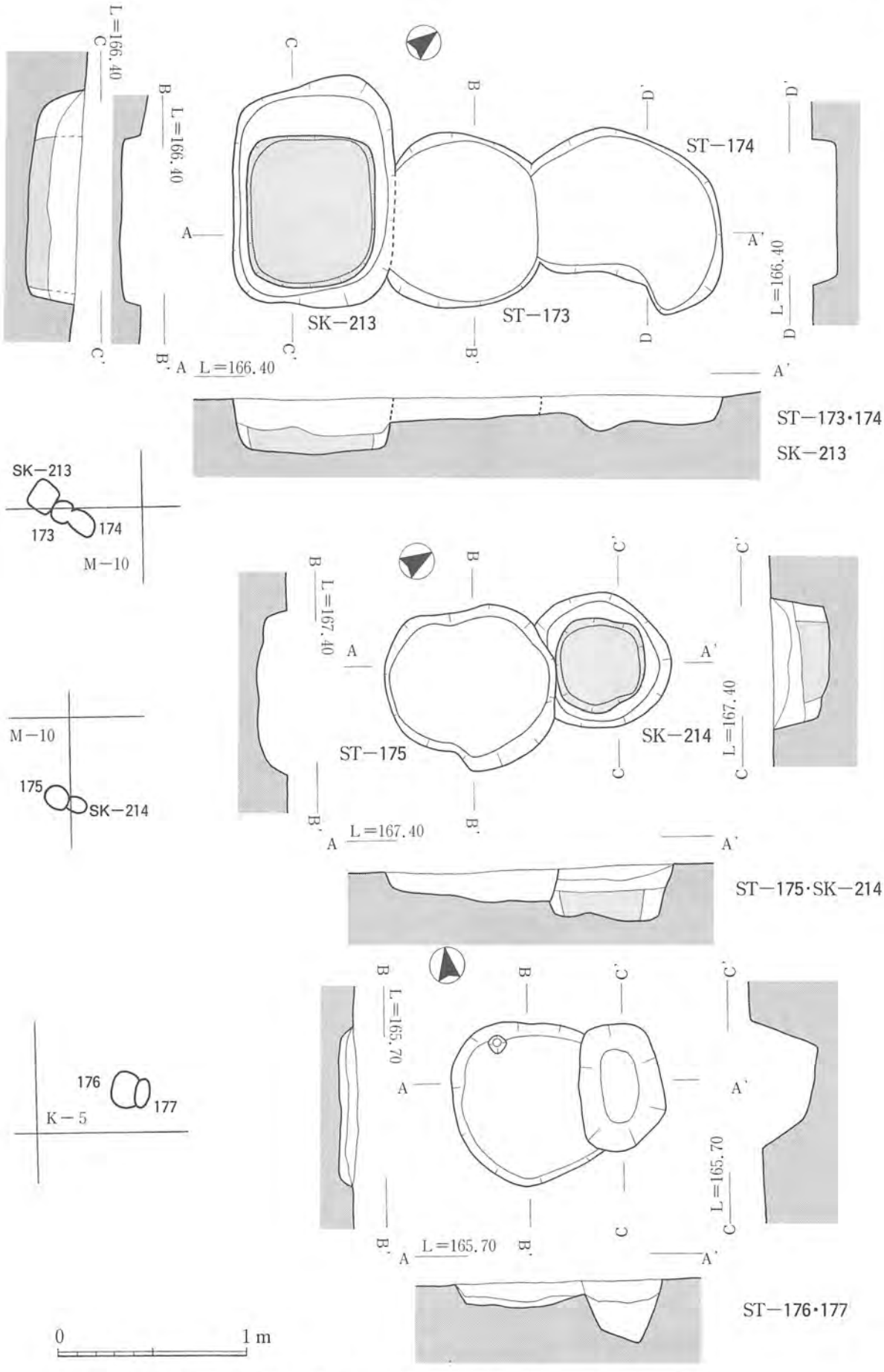
第160図　ST－149・150・151・152・153・154・155・156・157実測図



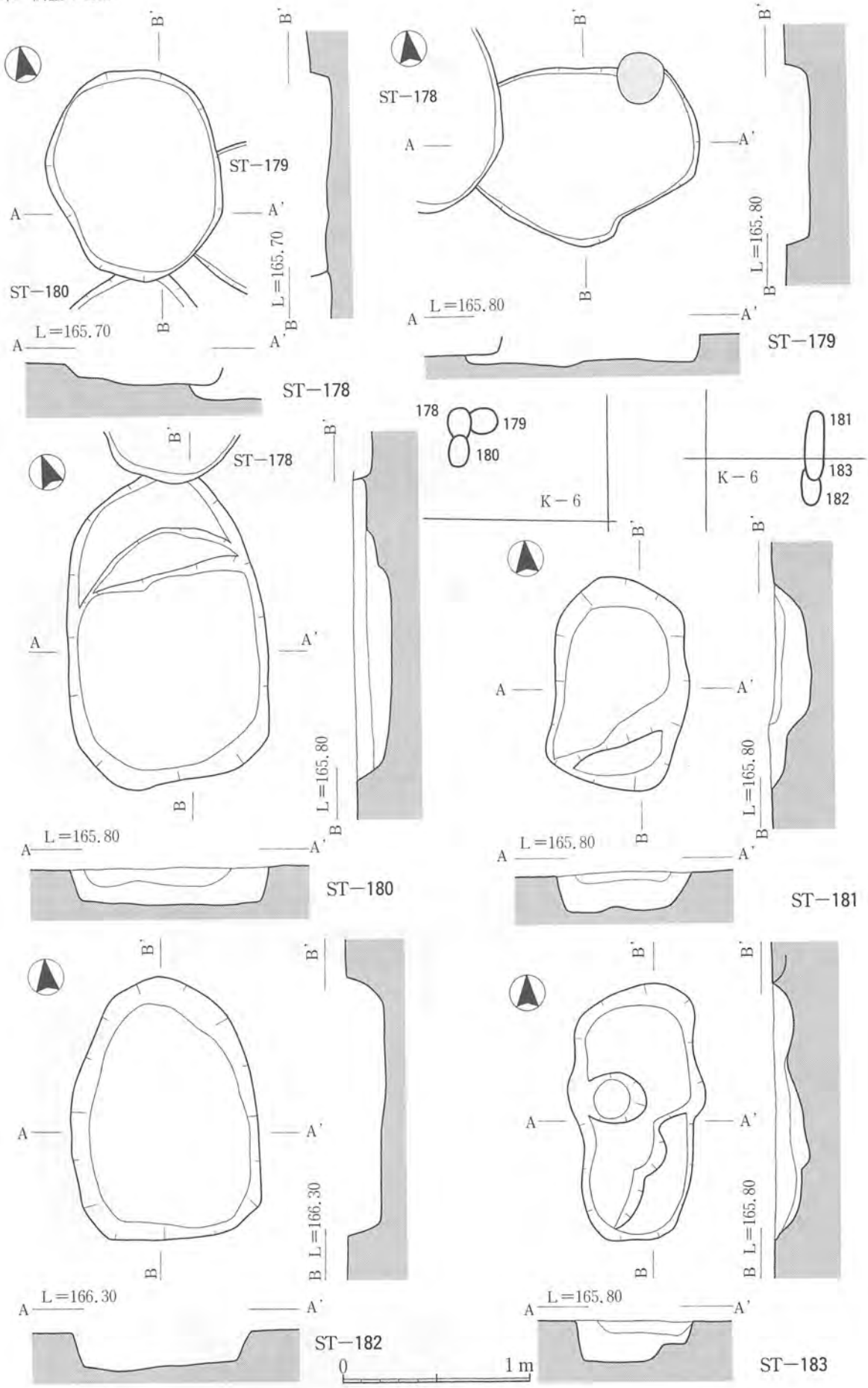
第161図　ST−158・159・160・161・162・163・164実測図



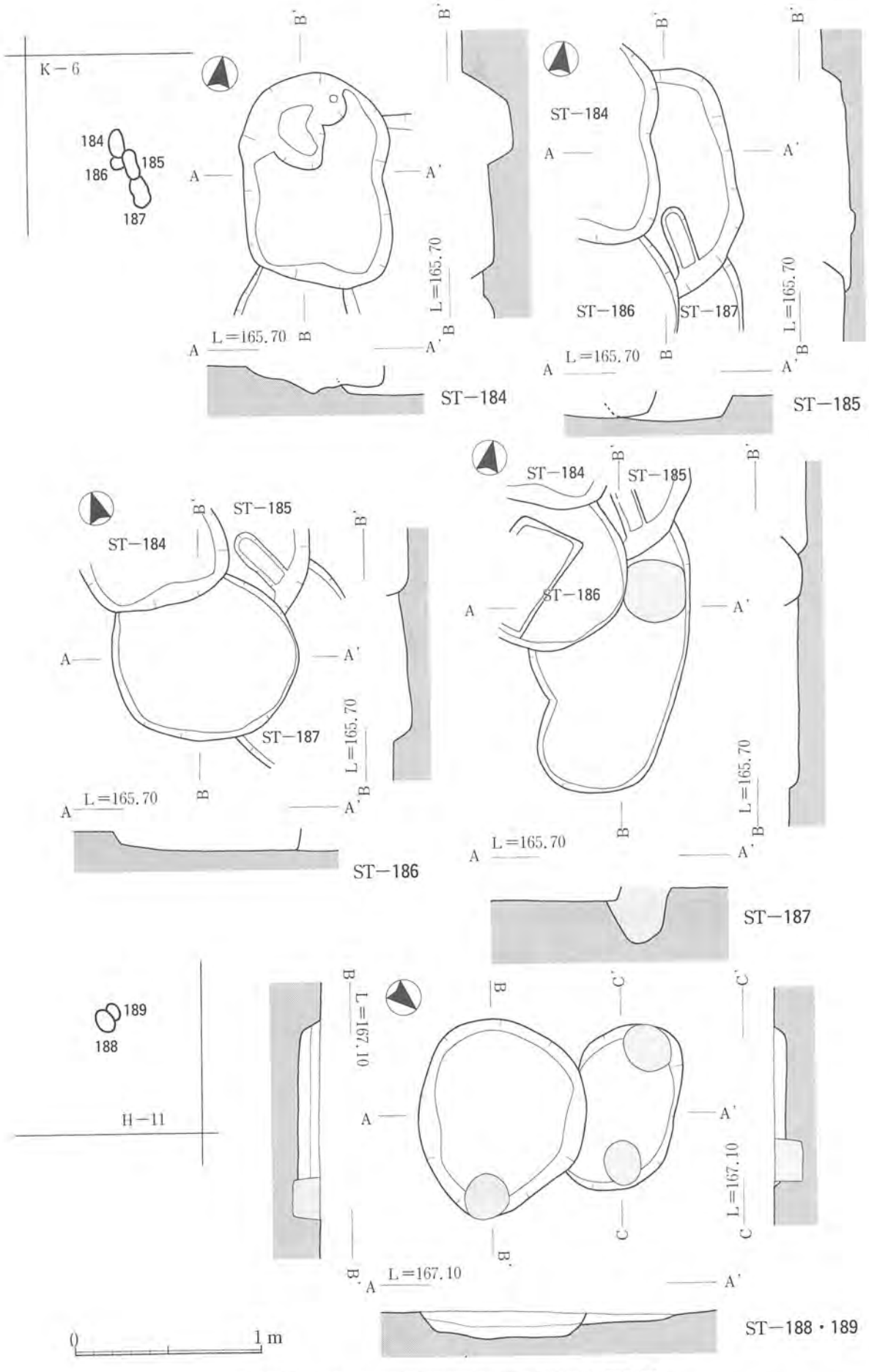
第162図　ST－165・166・167・168・169・170・171・172実測図



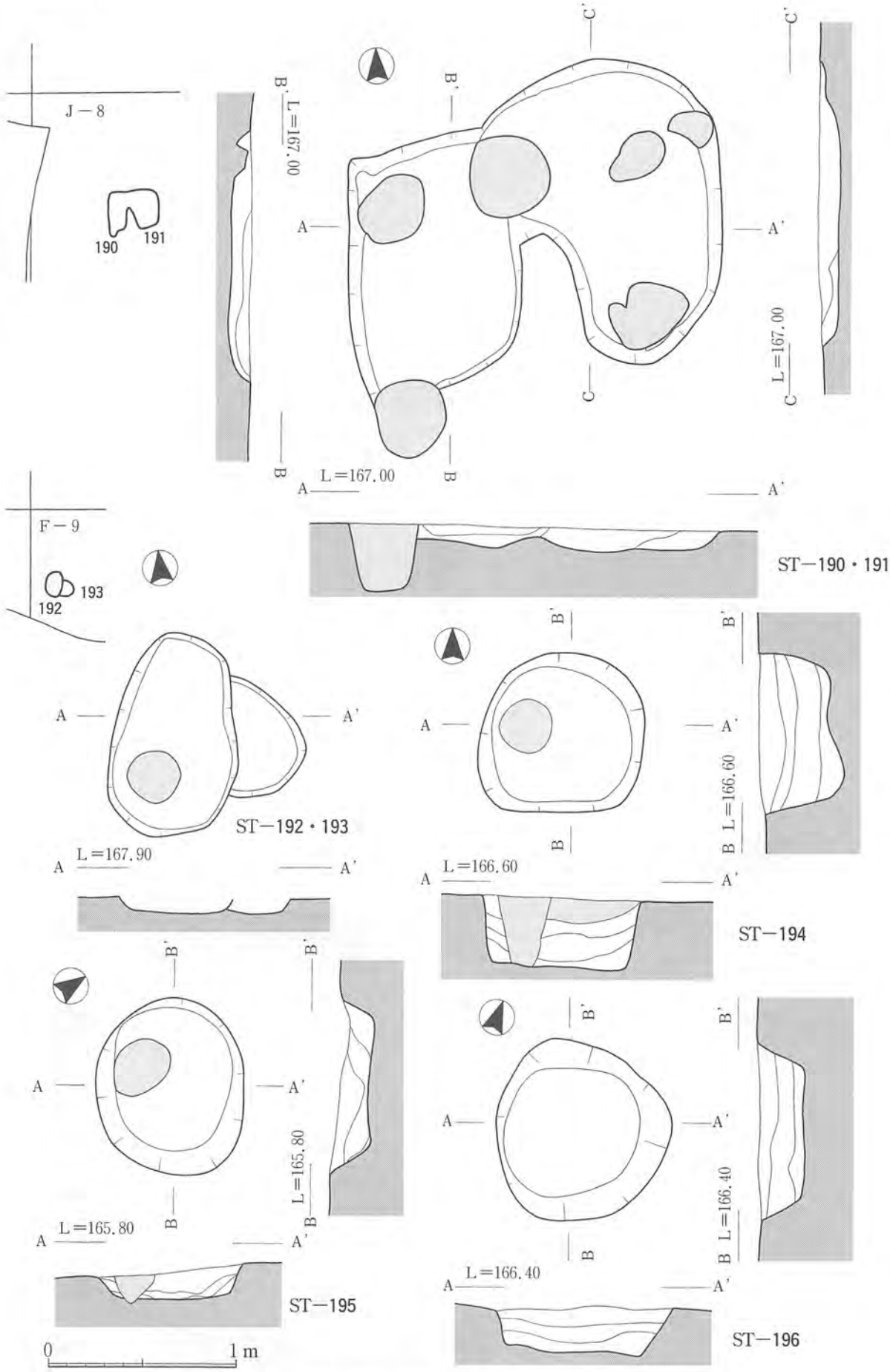
第163図　ST−173・174・175・176・177　SK−213・214実測図



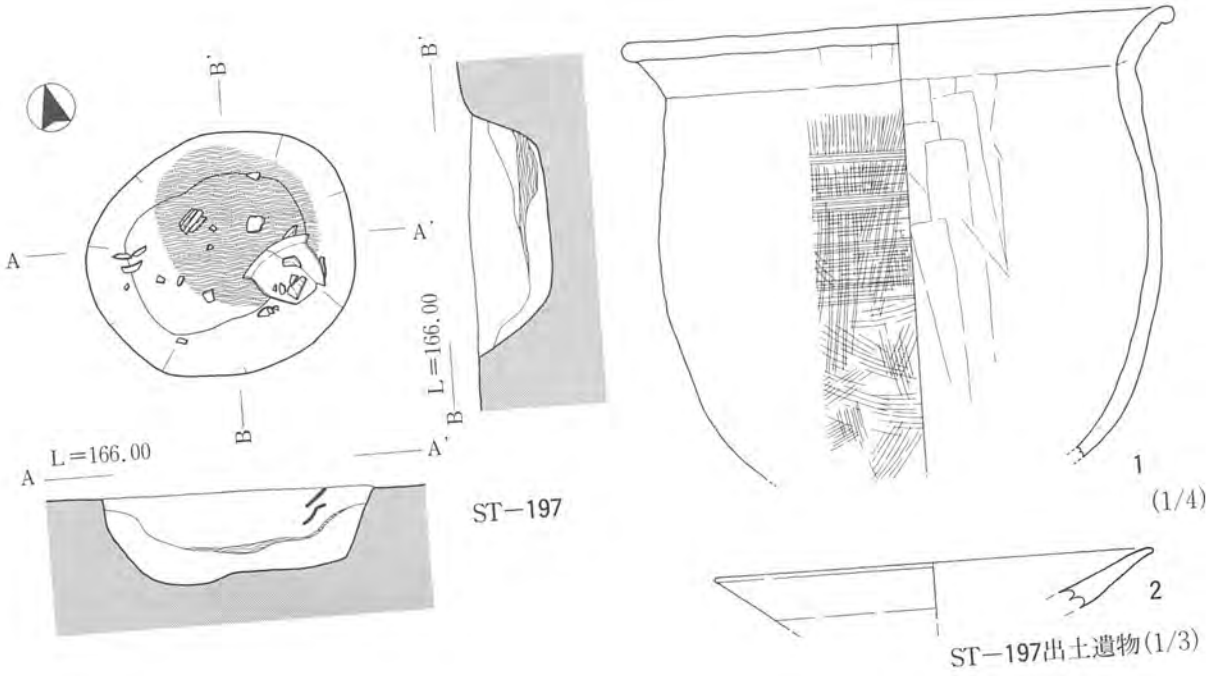
第164図　ST−178・179・180・181・182・183実測図

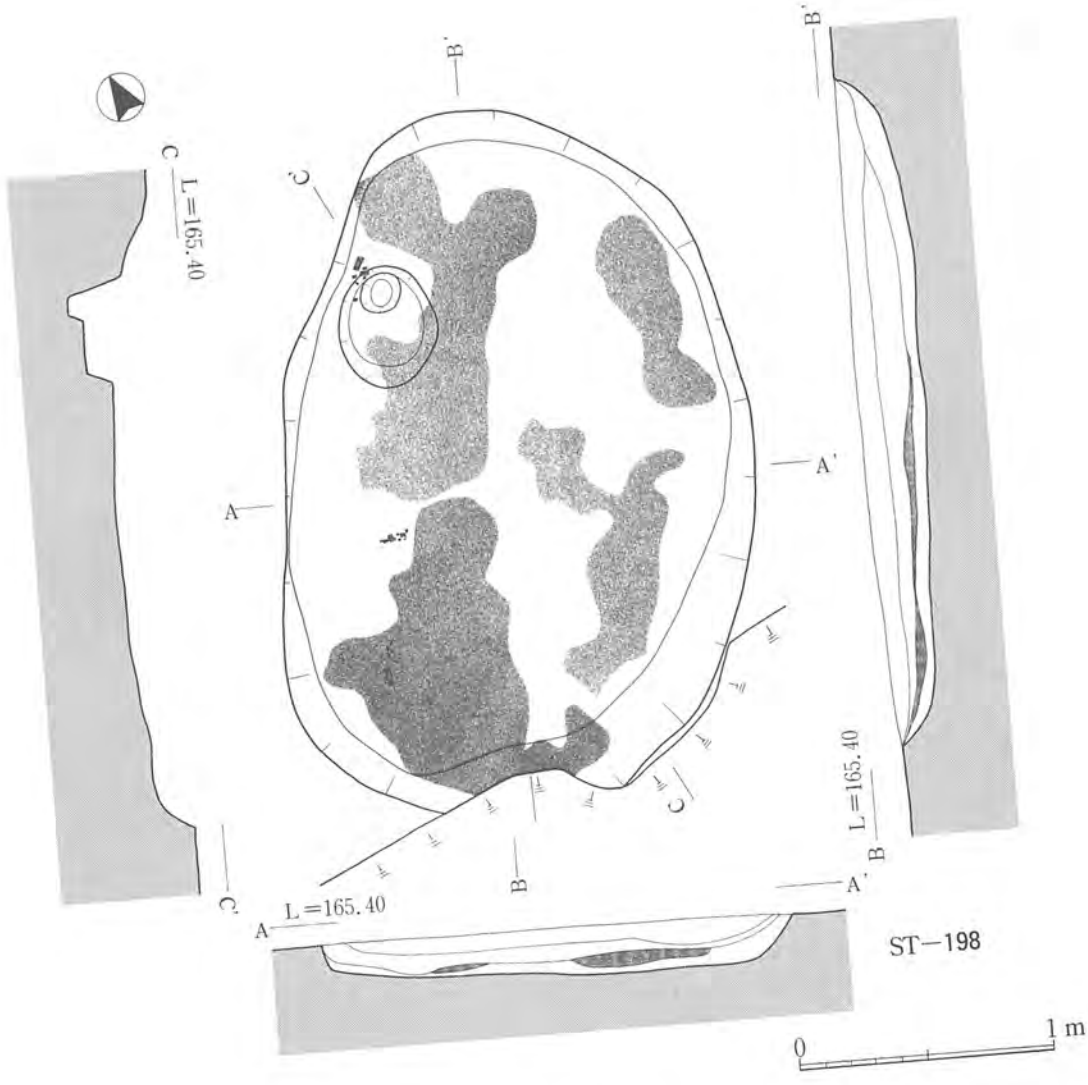


第165図　ST－184・185・186・187・188・189実測図

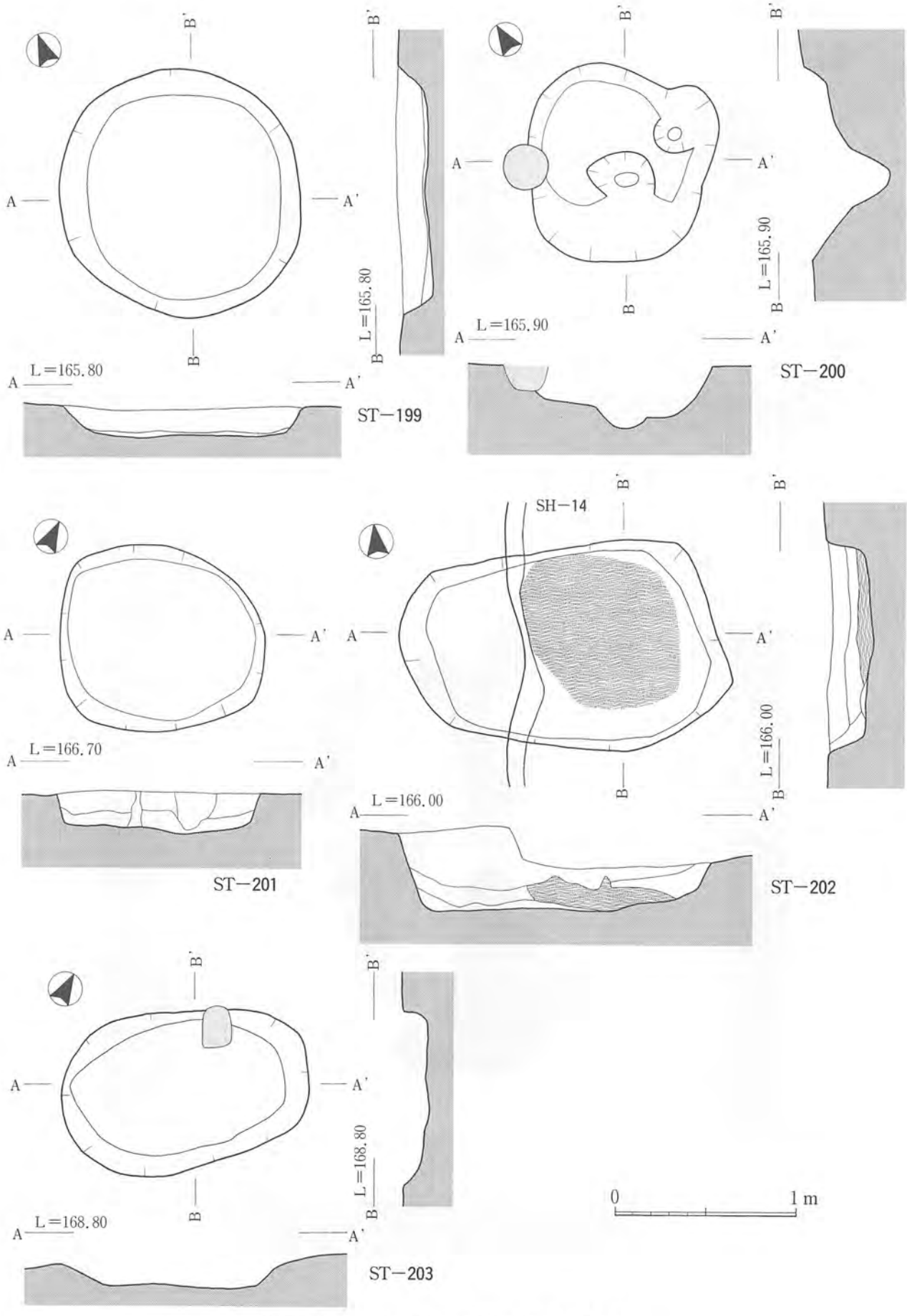


第166図　ST－190・191・192・193・194・195・196実測図

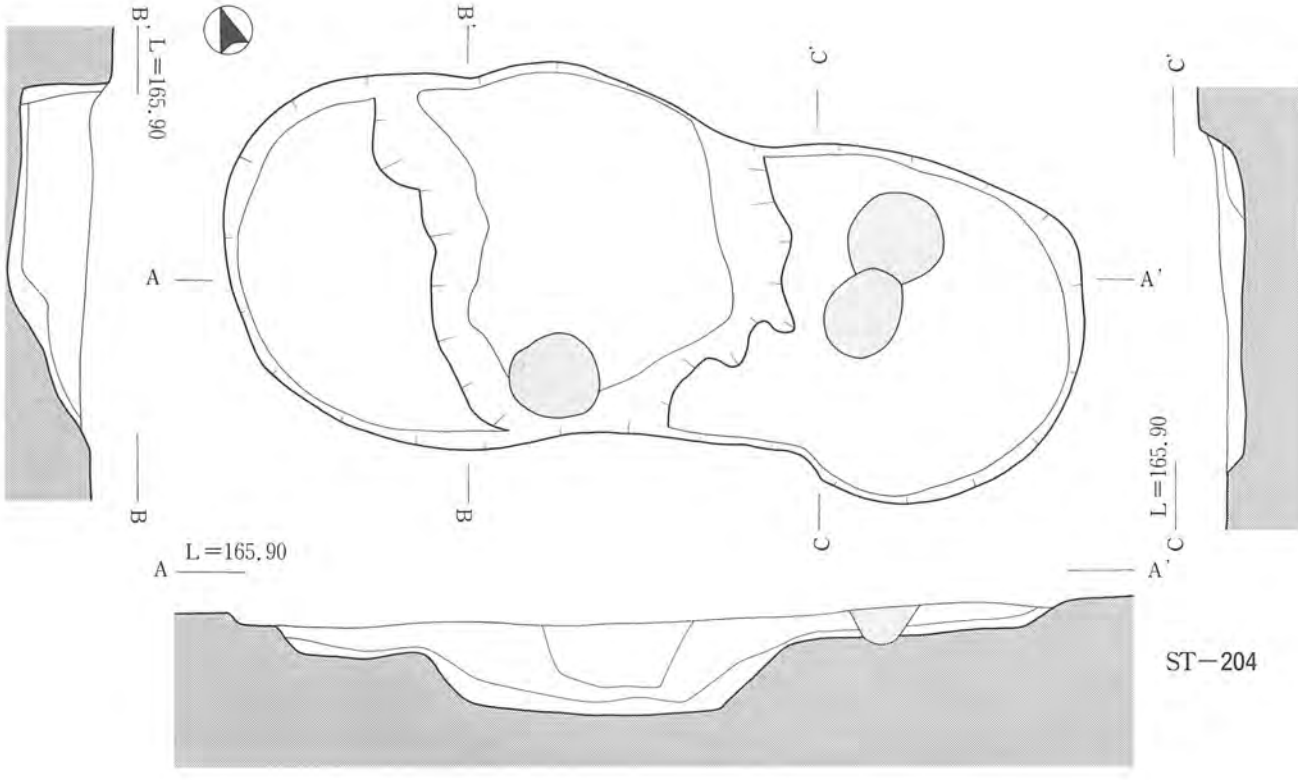


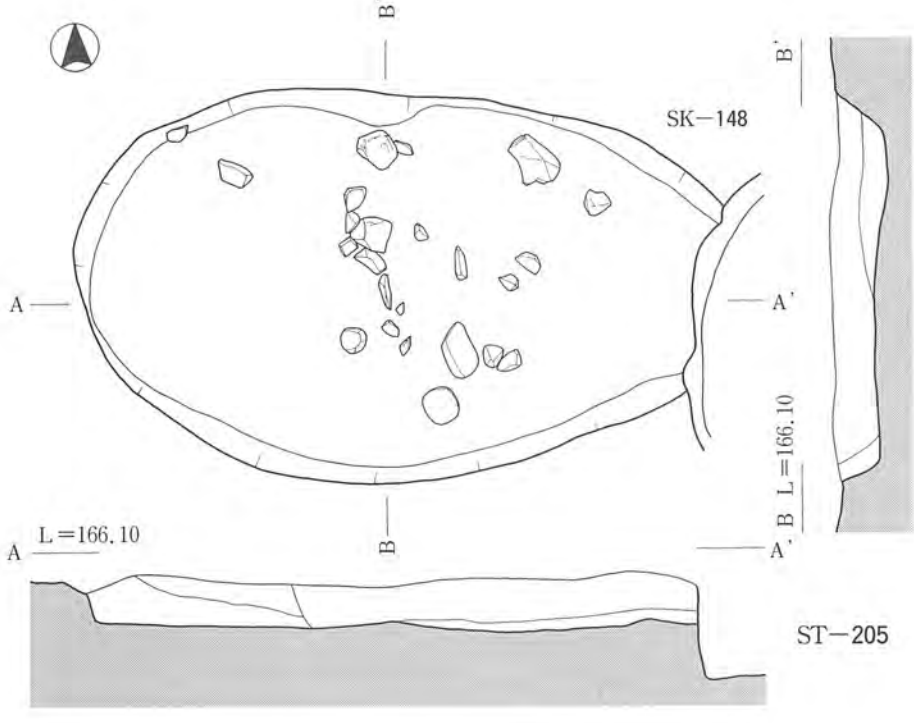


第167図　ST−197・198実測図及びST−197出土遺物



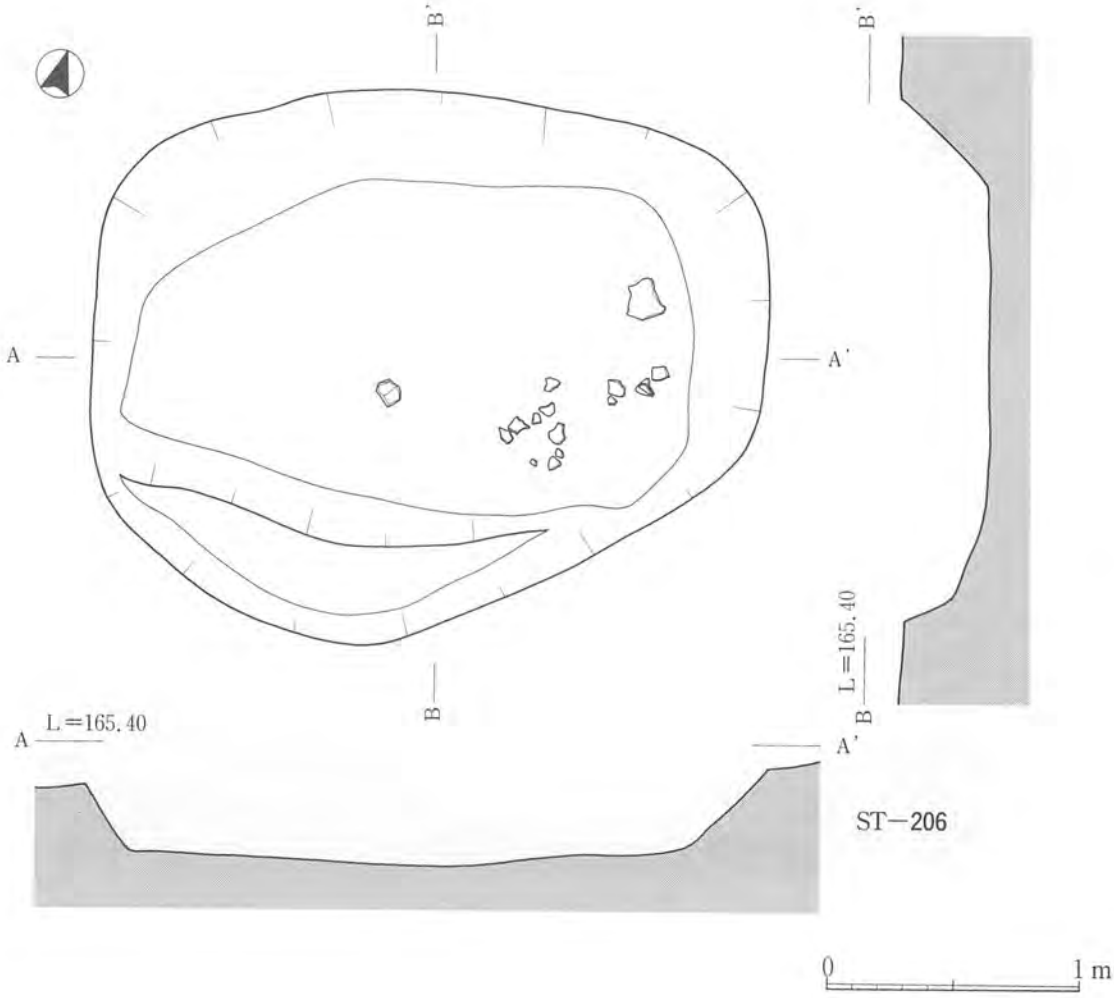
第168図　ST−199・200・201・202・203実測図

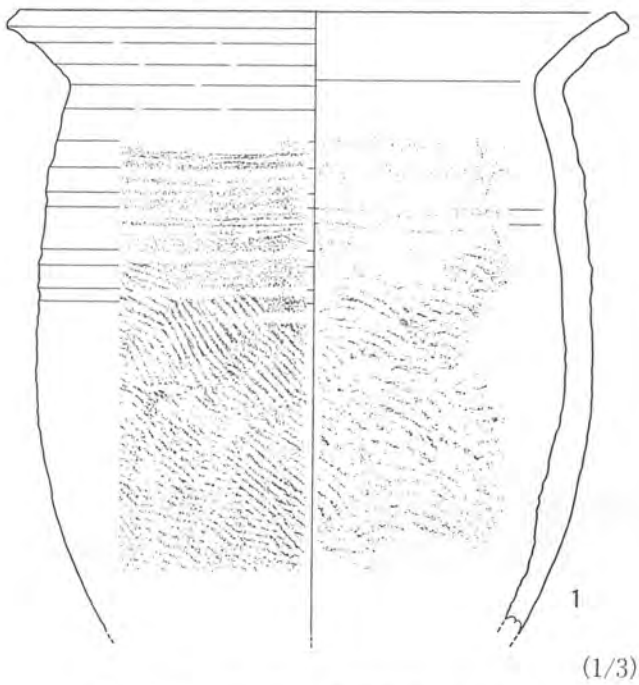




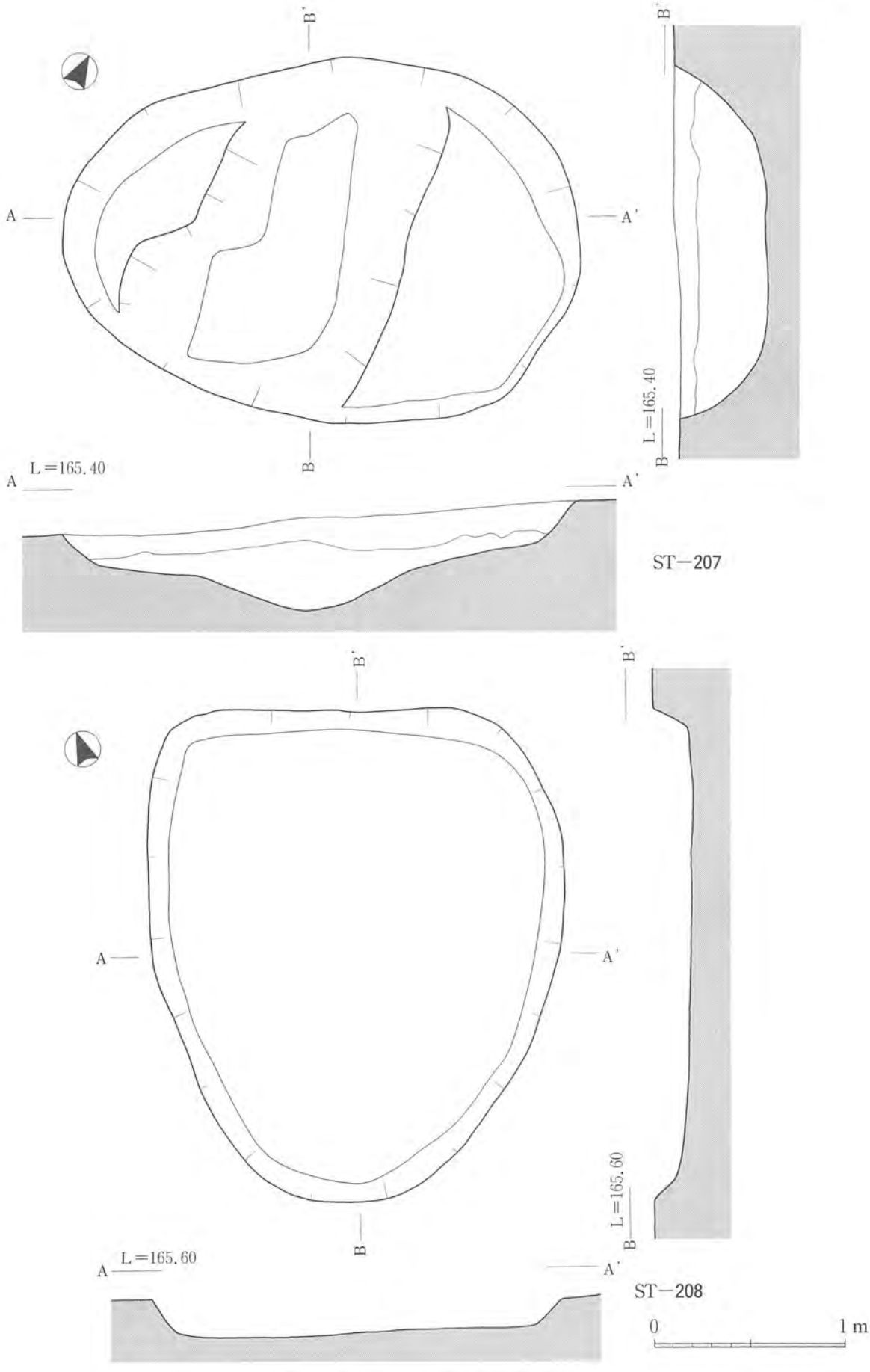
0　　1 m

第169図　ST−204・205実測図

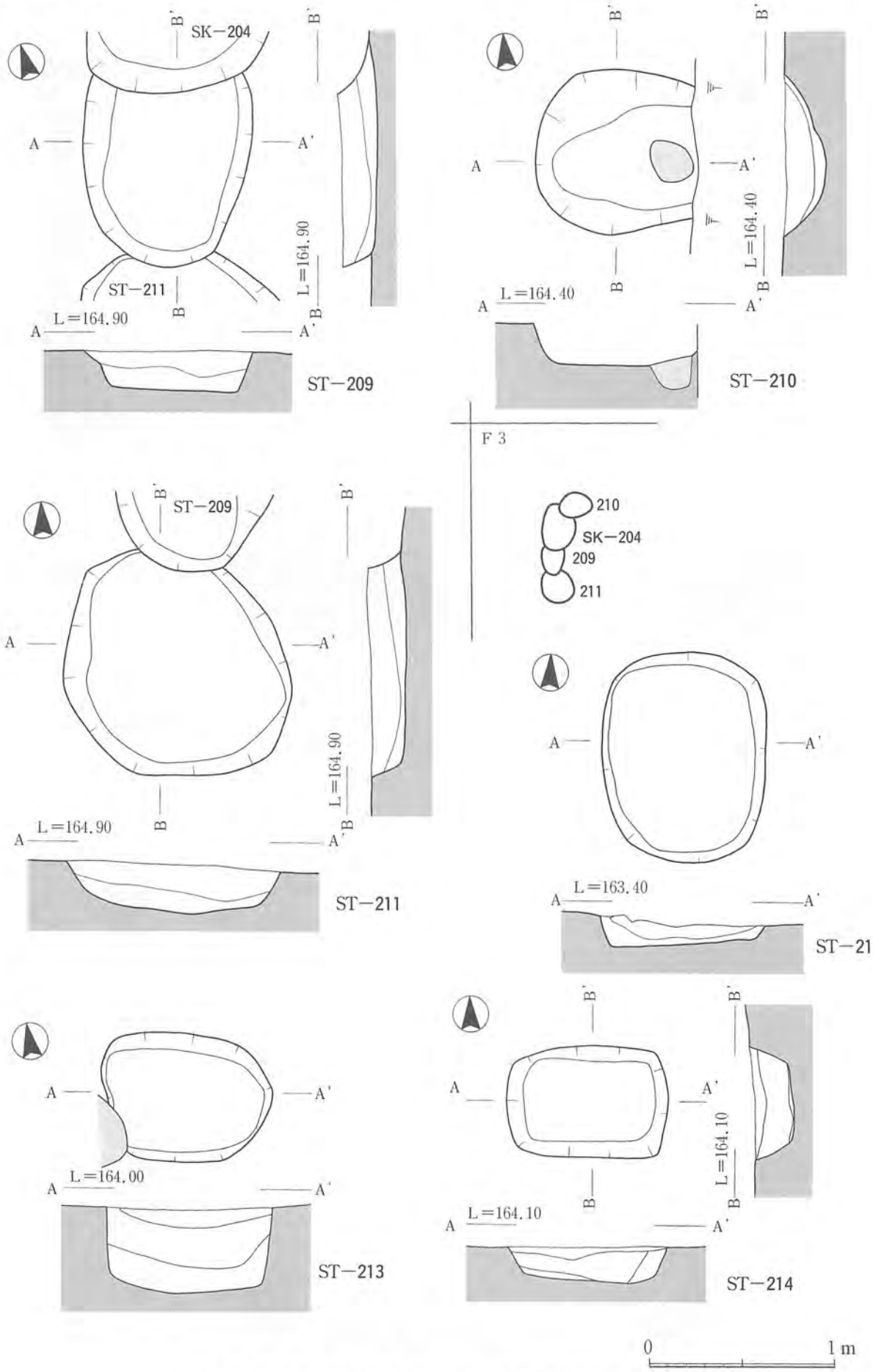




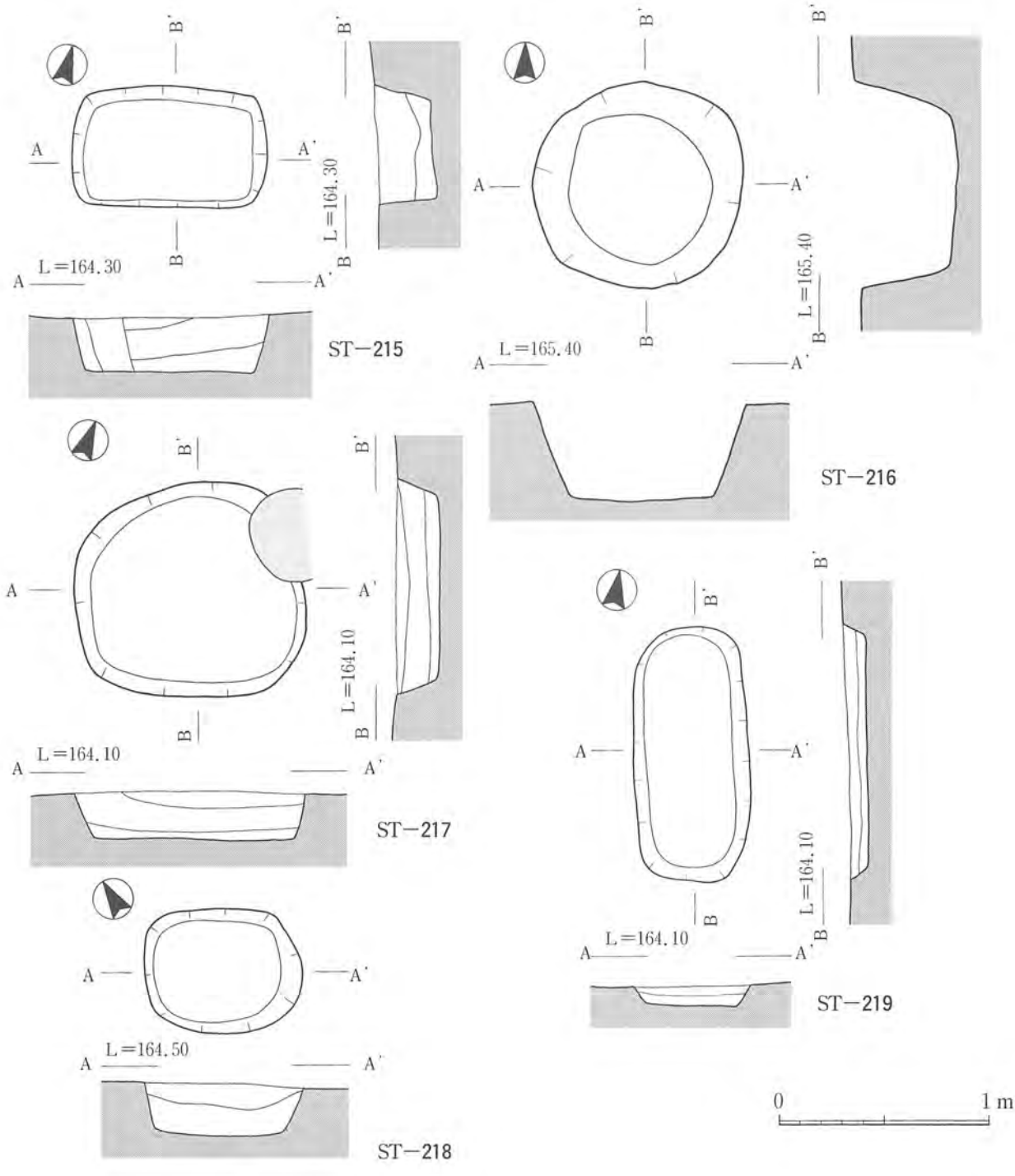
第170図　ST－206実測図及び出土遺物



第171図　ST−207・208実測図



第172図　ST－209・210・211・212・213・214実測図



第173図　ST−215・216・217・218・219実測図

第10表　ＳＴデータ１

挿図	番号	法量 長軸×短軸×深さ m（推定）	形態	位置 （グリット）
136	1	1.88×1.74×0.20	円形	N-20
	2	1.11×0.97×0.28	円形	M-18
	3	1.50×0.86×0.31	楕円形	M-18
	4	1.40×1.00×0.19	不定形	L-17
	5	1.50×1.06×0.35	不定形	L-17
	6	0.93×0.90×0.65	円形	K-15
137	7	1.15×1.04×0.50	楕円形	N-16
	8	1.22×0.68×0.52	楕円形	L-15
	9	0.75×0.60×0.14	楕円形	K-15
	10	1.15×0.87×0.27	不定形	K-18
	11	(1.07) ×1.04×0.48	不明	K-15
	12	1.06×0.60×0.70	長方形	J-16
	13	1.60×0.97×0.28	楕円形	J-18
138	14	0.98×0.80×0.43	長方形	J-15
	15	1.45×1.00×0.75	楕円形	H-16
	16	1.04×0.79×0.37	不定形	J-16
	17	1.24×0.80×0.32	不定形	J-15
	18	1.50×1.08×0.50	楕円形	H-16
	19	0.98×0.84×0.68	方形	H-16
139	20	1.73×0.70×0.58	不定形	H-16
	21	1.44×0.78×0.40	長方形	H-16
	22	1.14×0.82×0.24	長方形	H-17
	23	2.00×0.85×0.13	不定形	P-14
	24	1.44×1.58×0.14	方形	N-13
140	25	2.30×2.13×0.47	不定形	N-14
	26	3.22×2.34×0.16	不定形	N-14
141	27	0.85×0.68×0.09	楕円形	N-13
	28	1.70×1.20×0.08	不定形	N-13
	29	0.92×0.54×0.21	長方形	M-14
	30	1.41×0.62×0.17	不定形	M-15
	31	1.87×0.76×0.19	楕円形	N-12
142	32	1.40×1.30×0.26	不定形	M-14
	33	1.16×1.10×0.44	不定形	M-15
	34	1.55×1.32×0.30	楕円形	N-14
	35	0.97×0.91×0.14	不定形	M-14　N-14
	36	0.82×0.77×0.17	方形	L-15
	37	1.07×0.74×0.11	楕円形	L-14
143	38	1.02×0.50×0.37	楕円形	L-14
	39	1.21×1.06×0.16	方形	L-14
	40	1.02×0.83×0.20	楕円形	L-13
	41	0.90×0.60×0.24	楕円形	L-14
	42	1.05×0.83×0.27	不定形	L-14
	43	1.18×0.81×0.11	長方形	L-13
144	44	1.55×0.85×0.07	楕円形	K-15
	45	1.20×1.16×0.07	方形	J-15
	46	1.16× (0.54) ×0.06	方形	J-14
	47	1.74×1.01×0.10	不定形	K-14
	48	1.65×0.94×0.09	長方形	J-14
	49	0.81×0.55×0.14	楕円形	J-14
	50	1.05×0.75×0.17	楕円形	J-14
	51	1.13×0.63×0.17	楕円形	J-15
145	52	0.75×0.68×0.22	円形	J-13
	53	0.89×0.79×0.23	円形	J-13
	54	0.82×0.73×0.20	楕円形	J-13
	55	2.50×2.05×0.08	長方形	H-14
	56	1.40×0.73×0.30	長方形	H-15
	57	1.20×0.92×0.28	不定形	H-14
146	58	1.62×0.98×0.12	長方形	H-14
	59	1.08×0.94×0.08	方形	H-15
147	60	3.05×1.23×0.48	不定形	G-15
	61	1.20×0.90×0.23	不定形	H-14
	62	0.56× (0.26) ×0.12	不明	H-14
	63	1.40×0.90×0.18	長方形	H-14
148	64	1.40×1.04×0.37	長方形	N-10
	65	1.40×0.80×0.10	長方形	M-9
	66	0.88×0.74×0.10	楕円形	M-9
	67	1.24×0.78×0.08	不定形	L-9
	68	1.25×1.08×0.07	方形	L-9
	69	0.88×0.87×0.09	方形	L-9
149	70	1.54×1.09×0.12	楕円形	L-9
149	71	0.90×0.60×0.08	楕円形	L-9
	72	0.86×0.80×0.07	楕円形	L-10
	73	1.14×1.02×0.04	不定形	L-10
	74	1.30× (0.61) ×0.12	不明	L-10
	75	1.28×0.91×0.31	長方形	K-11
150	76	0.97× (0.58) ×0.13	楕円形	L-9
	77	0.94×0.80×0.06	楕円形	K-11
	78	0.76×0.50×0.12	楕円形	K-11　K-12
	79	0.98×0.84×0.11	楕円形	K-12
	80	0.76×0.74×0.11	楕円形	K-11　K-12
	81	1.03×0.94×0.02	楕円形	L-6
	82	0.94×0.74×0.07	長方形	L-6
	83	0.62× (0.53) ×0.11	長方形	L-6
151	84	0.70× (0.46) ×0.07	不明	L-6
	85	0.67×0.56×0.21	楕円形	K-6
	86	1.03×0.82×0.32	楕円形	K-6
	87	1.04×0.90×0.40	長方形	K-6
	88	1.33×0.84×0.48	楕円形	K-5
	89	0.86×0.58×0.13	楕円形	K-6
	90	0.68×0.57×0.06	楕円形	K-6
152	91	1.52×1.08×0.54	不定形	K-6
	92	0.66×0.64×0.06	円形	K-6
	93	0.88×0.84×0.12	方形	K-6
	94	1.24×1.00×0.22	楕円形	K-6　K-7
	95	1.23×1.04×0.22	長方形	K-6
	96	0.86×0.84×0.31	円形	K-6
	97	0.86×0.64×0.40	楕円形	J-6
	98	0.82×0.80×0.12	円形	J-6
153	99	1.28×1.20×0.10	楕円形	K-6
	100	1.04×0.86×0.40	楕円形	J-6　K-6
	101	1.18×0.68×0.26	楕円形	J-6
	102	(1.00) ×0.90×0.14	不明	J-6
	103	0.84×0.64×0.06	楕円形	J-6
	104	0.82×0.68×0.29	楕円形	J-5
	105	1.16×0.84×0.08	楕円形	J-5
	106	0.96×0.60×0.09	不定形	J-5
154	107	0.96×0.85×0.15	円形	H-6　J-6
	108	1.80×1.10×0.22	不定形	J-5　J-6
	109	1.27×1.07×0.18	楕円形	H-6
	110	0.84×0.60×0.09	楕円形	J-7
	111	1.58×0.84×0.15	長方形	K-7
155	112	1.18×0.96×0.08	長方形	K-7
	113	1.22×1.10×0.14	円形	K-7
	114	0.78×0.72×0.08	楕円形	K-7
	115	1.12×0.80×0.10	楕円形	J-7
	116	1.14×0.72×0.30	不定形	J-8
	117	1.21×1.13×0.22	長方形	J-7
156	118	0.76×0.66×0.16	楕円形	J-7
	119	0.90×0.86×0.06	円形	J-7　J-8
	120	0.84×0.48×0.07	長方形	K-8
	121	1.00×0.67×0.16	楕円形	K-8
	122	0.98×0.86×0.10	不定形	K-8
	123	2.36×1.03×0.11	不定形	K-8
	124	1.96×1.33×0.12	不定形	K-8
157	125	1.23×1.06×0.10	円形	K-8　K-9
	126	1.23×1.16×0.20	円形	J-9　J-10
	127	1.22×1.14×0.26	不定形	J-9
	128	1.00×0.85×0.04	円形	G-10
	129	0.73×0.72×0.10	円形	H-9
	130	2.00×1.38×0.60	長方形	H-9　J-9
58	131	1.60×1.10×0.38	不定形	H-9
	132	1.30×1.23×0.08	長方形	H-9
	133	1.20×0.72×0.12	楕円形	H-10
	134	0.68×0.67×0.27	楕円形	H-10
	135	0.72× (0.46) ×0.15	不明	G-10
	136	1.16×0.55×0.34	長方形	H-10
	137	1.04×0.80×0.32	楕円形	H-10
159	138	1.36×1.35×0.14	方形	G-9
	139	1.33×1.26×0.18	楕円形	G-9
	140	1.16×1.14×0.45	楕円形	F-9

第11表　ＳＴデータ２

挿図	番号	法量 長軸×短軸×深さｍ（推定）	形態	位置 （グリット）
159	141	0.70×0.62×0.21	楕円形	G-9
	142	1.19×0.64×0.39	楕円形	F-9
	143	0.78×（0.64）×0.23	不明	F-9
	144	1.06×0.82×0.40	楕円形	F-9
160	145	1.02×0.80×0.09	楕円形	F-10
	146	0.90×0.74×0.18	楕円形	F-11
	147	1.42×1.08×0.12	長方形	E-9
	148	2.32×1.54×0.23	長方形	H-11
161	149	1.04×0.95×0.07	方形	H-11
	150	1.02×0.10×0.10	円形	H-12
	151	0.72×0.64×0.08	円形	H-12
	152	0.84×0.56×0.10	楕円形	H-11
	153	0.80×0.70×0.12	楕円形	H-11
	154	1.24×0.84×0.08	楕円形	H-11
	155	1.22×0.87×0.65	楕円形	H-11
	156	0.92×0.86×0.04	円形	H-11
	157	1.32×0.74×0.04	不定形	H-11
162	158	0.96×0.80×0.08	円形	H-11
	159	0.94×0.78×0.05	円形	H-12
	160	0.92×0.86×0.13	不定形	H-12
	161	（0.62）×0.70×0.07	不明	H-12
	162	1.24×0.84×0.10	楕円形	H-12
	163	1.22×0.73×0.10	不定形	H-12
	164	0.76×0.69×0.10	円形	H-12
163	165	0.94×0.67×0.14	楕円形	G-12
	166	1.11×0.80×0.11	長方形	H-11
	167	0.86×0.62×0.14	楕円形	H-11
	168	0.68×0.58×0.09	楕円形	H-11
	169	1.30×1.32×0.42	楕円形	G-12
	170	0.80×（0.26）×0.25	不明	L-9
	171	1.12×0.84×0.26	長方形	L-9
	172	0.84×（0.68）×0.17	不明	L-9
164	173	0.87×（0.74）×0.11	円形	M-10　L-10
	174	1.10×0.84×0.28	不定形	M-10
	175	0.90×0.85×0.16	楕円形	M-10
	176	（0.64）×0.85×0.13	不明	K-6
	177	0.67×0.44×0.32	長方形	K-6
165	178	1.08×0.92×0.10	楕円形	K-6
	179	（1.04）×0.93×0.12	（不定形）	K-6
	180	1.52×1.04×0.20	長方形	K-6
165	181	1.07×0.68×0.19	長方形	K-7
	182	1.37×0.96×0.20	楕円形	K-6
	183	1.33×0.60×0.22	長方形	K-7
166	184	1.09×0.74×0.14	長方形	K-6
	185	（1.00）×（0.40）×0.12	不明	K-6
	186	0.98×（0.74）×0.12	円形	K-6
	187	（0.94）×（0.37）×0.05	不明	K-6
	188	0.85×0.46×0.06	円形	K-6
	189	1.04×0.90×0.14	楕円形	K-6
167	190	1.30×0.86×0.11	不定形	J-8
	191	1.47×1.12×0.11	不定形	J-8
	192	1.06×0.60×0.08	長方形	F-9
	193	0.63×（0.30）×0.08	不明	F-9
	194	1.12×0.84×0.26	円形	H-5
	195	0.94×0.76×0.19	円形	H-6
	196	0.95×0.92×0.25	円形	G-8
168	197	0.97×（0.58）×0.13	円形	G-6
	198	2.77×1.85×0.26	楕円形	E-5
169	199	1.36×1.32×0.18	円形	G-5
	200	1.04×（0.88）×0.44	円形	E-6
	201	1.11×1.00×0.22	楕円形	F-9
	202	1.74×1.15×0.44	長方形	F-6
	203	1.34×0.87×0.14	楕円形	D-9
170	204	3.34×1.44×0.34	不定形	G-6
	205	2.45×（1.52）×0.21	楕円形	F-6
171	206	2.62×2.08×0.34	楕円形	C-5
172	207	2.67×1.85×0.46	楕円形	B-5
	208	2.54×2.12×0.19	楕円形	A-7
173	209	（0.91）×0.89×0.22	不明	F-3
	210	0.88×（0.86）×0.21	不明	F-3
	211	1.14×（1.10）×0.24	円形	F-3
	212	1.10×0.86×0.17	方形	K-3
	213	0.88×0.68×0.44	長方形	B-0
	214	0.85×0.58×0.21	長方形	B-0
174	215	0.91×0.56×0.27	長方形	B-0
	216	1.00×0.98×0.44	円形	B-0
	217	1.08×1.00×0.22	楕円形	B-0
	218	0.74×0.59×0.24	楕円形	B-0
	219	1.19×0.53×0.10	長方形	B-0

ＳＴ－57

三角状の遺構に西端の床面に燃焼面が広がる。燃焼面にはカーボンも若干含む。この燃焼面上に沿い粘土層が検出されている。

ＳＴ－59

隅丸方形を呈し遺構北端部には燃焼面も見られる。遺物は床よりやや浮いた状態で土師器甕が出土している。体部上位から口縁部と体部下位の資料であるが、調整・胎土から同一個体であると思われる。

ＳＴ－63

ＳＴ－62と切り合い関係にあり、その新旧は63＞62となるが、この63は長方形の床面を持ち遺構北西側に一段高いテラス状の面を持つ二段構造が見られる。他にＳＴ－130と形態が類似している。全体は長方形の形態で土壙墓の形態、ＳＫ－31・33に類似しているが土壙墓として確証ができなかった。

ＳＴ－85

楕円の形態に方形の掘り込みを持つ土坑で、このような掘り込みを持つ形態は数例見られる、この部分は土壙墓の木棺墓に形態に類似しているが、埋土や明確な木棺プランとしてが認定できなかったので土坑とした。

ＳＴ－86

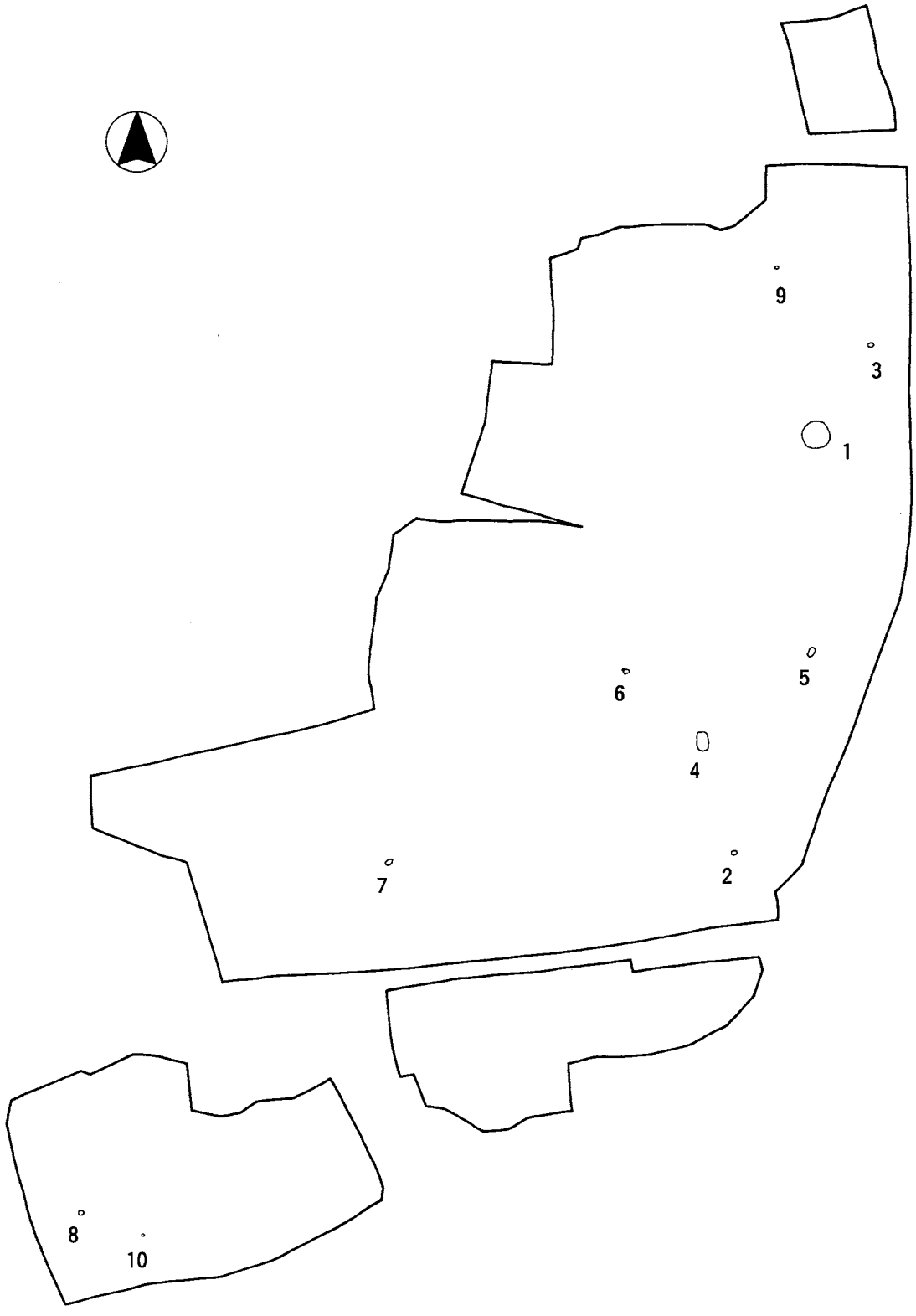
楕円形の形態で断面ではＬ字状のカーボンブロックが層の下位から中位に検出された。底部切り離しの糸切り土師器の底部資料が中層より出土しているがローリングが認められ、流れ込みの可能性が高い。

ＳＴ－138

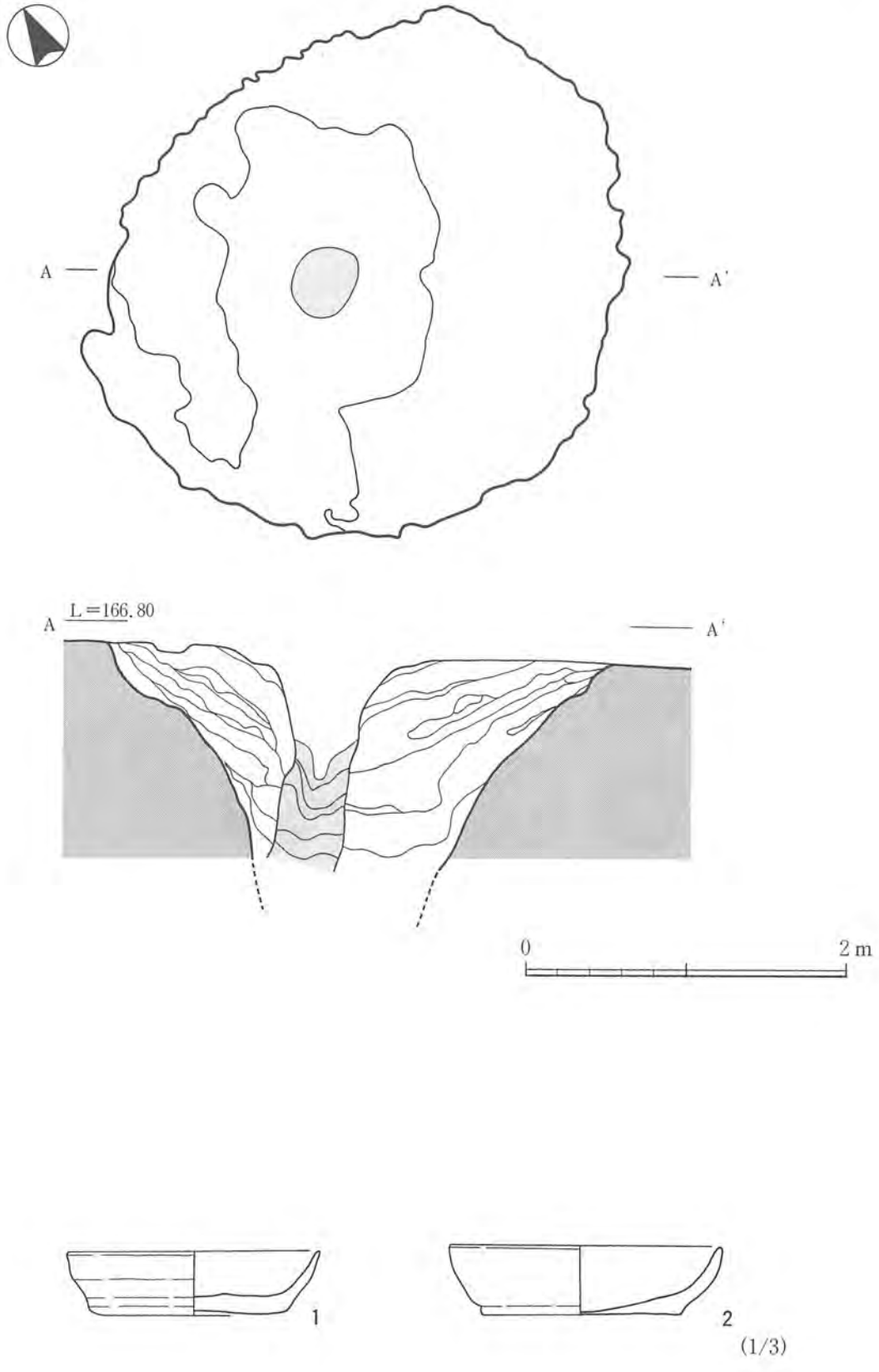
隅丸方形プランの下位に同様の掘り込みを持つ。埋土は２層に分層できる。床直より土師器片が出土している。底部切り離しはヘラ切りである。

ＳＴ－141

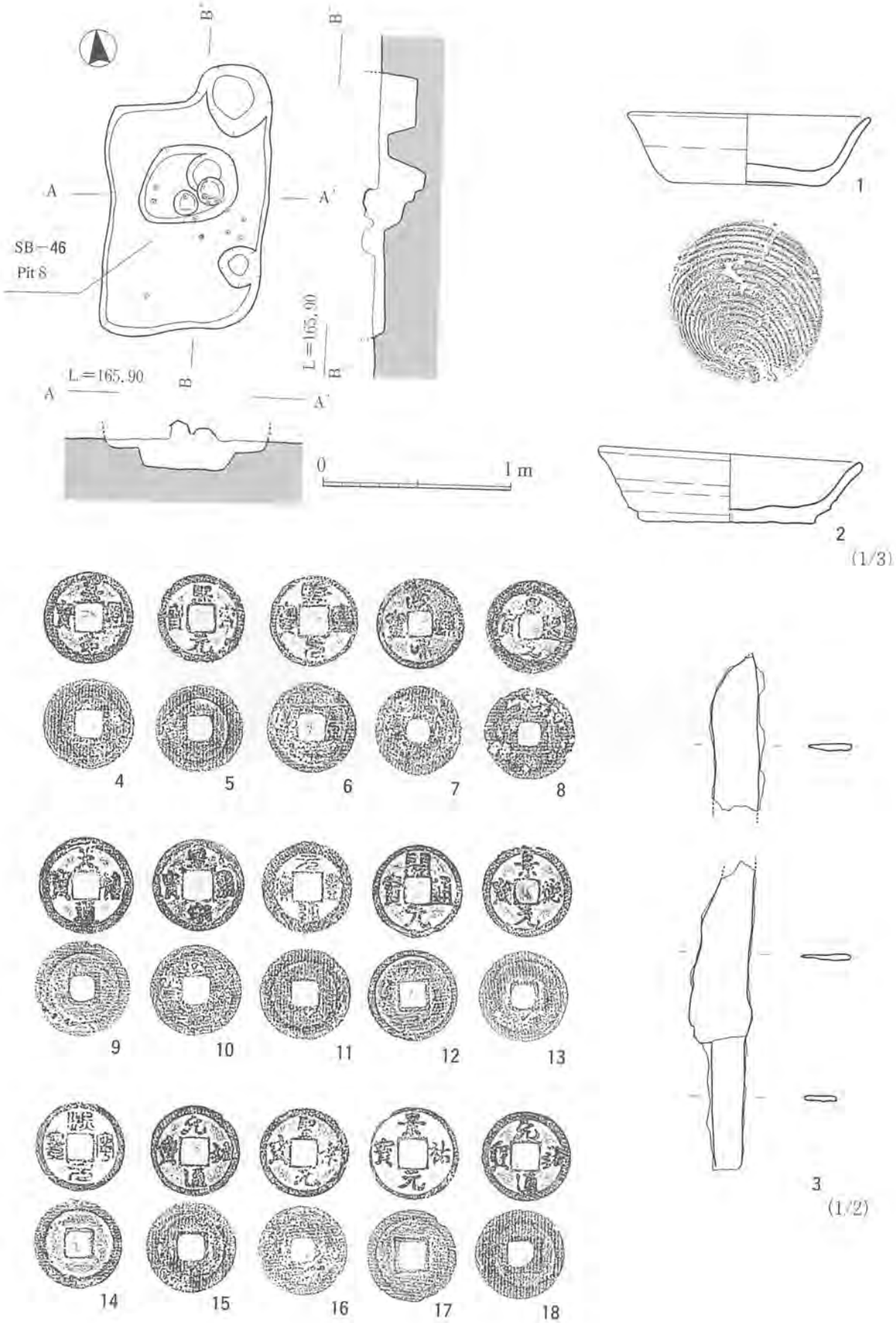
円形の掘り込みの遺構で床より10cmほど浮いた状態で緑釉陶器片（写真図版４　No.13中）が出土している。華南三彩12～13Ｃ盤の破片と思われる。伴献遺物とも考えられるが床直上でなかったことから流れ込みの可能性もあり土坑とした。



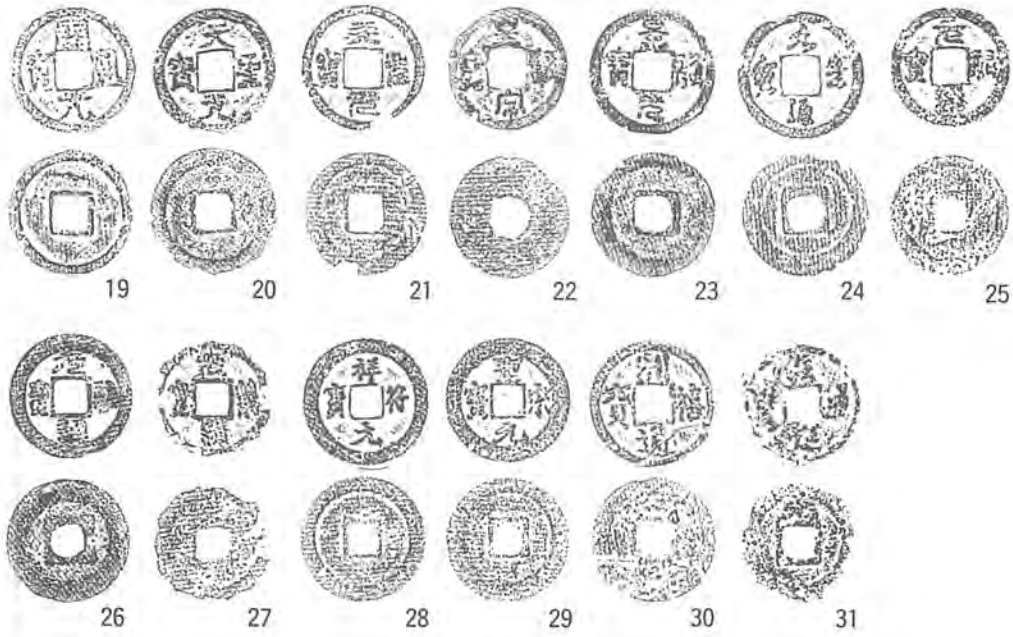
第174図　SX 遺構配置図



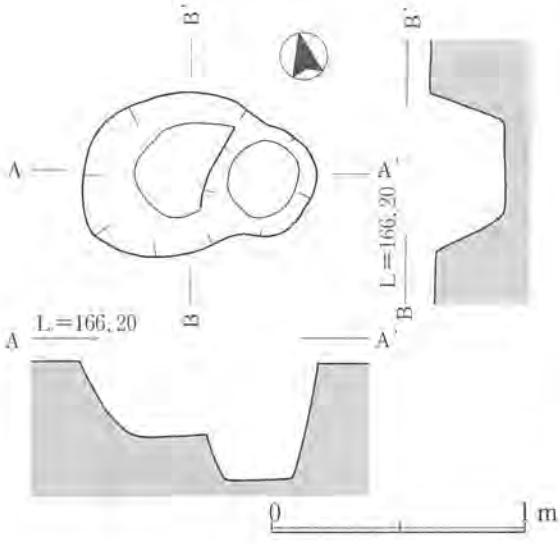
第175図　SX－1実測図及び出土遺物

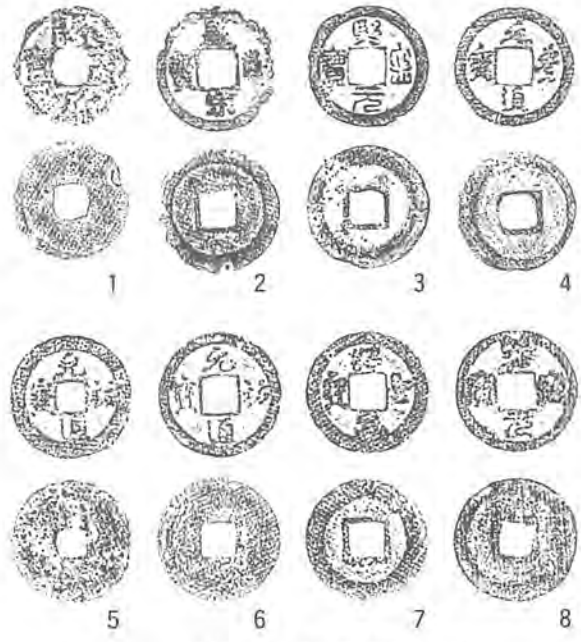


第176図　SX－２実測図及び出土遺物



SX－2　出土古銭（2/3）





SX－3　出土古銭（2/3）

第177図　SX－3実測図及び出土遺物

ＳＴ－147

ＳＴ－24・ＳＴ－108に見られたように礫ブロックが見られるが、この遺構には遺物が混在していた何れも土師器で反転復元であるが1・2・3は小皿で4は皿である。廃棄の遺構であればこの時期でもあるか。

ＳＴ－173・174

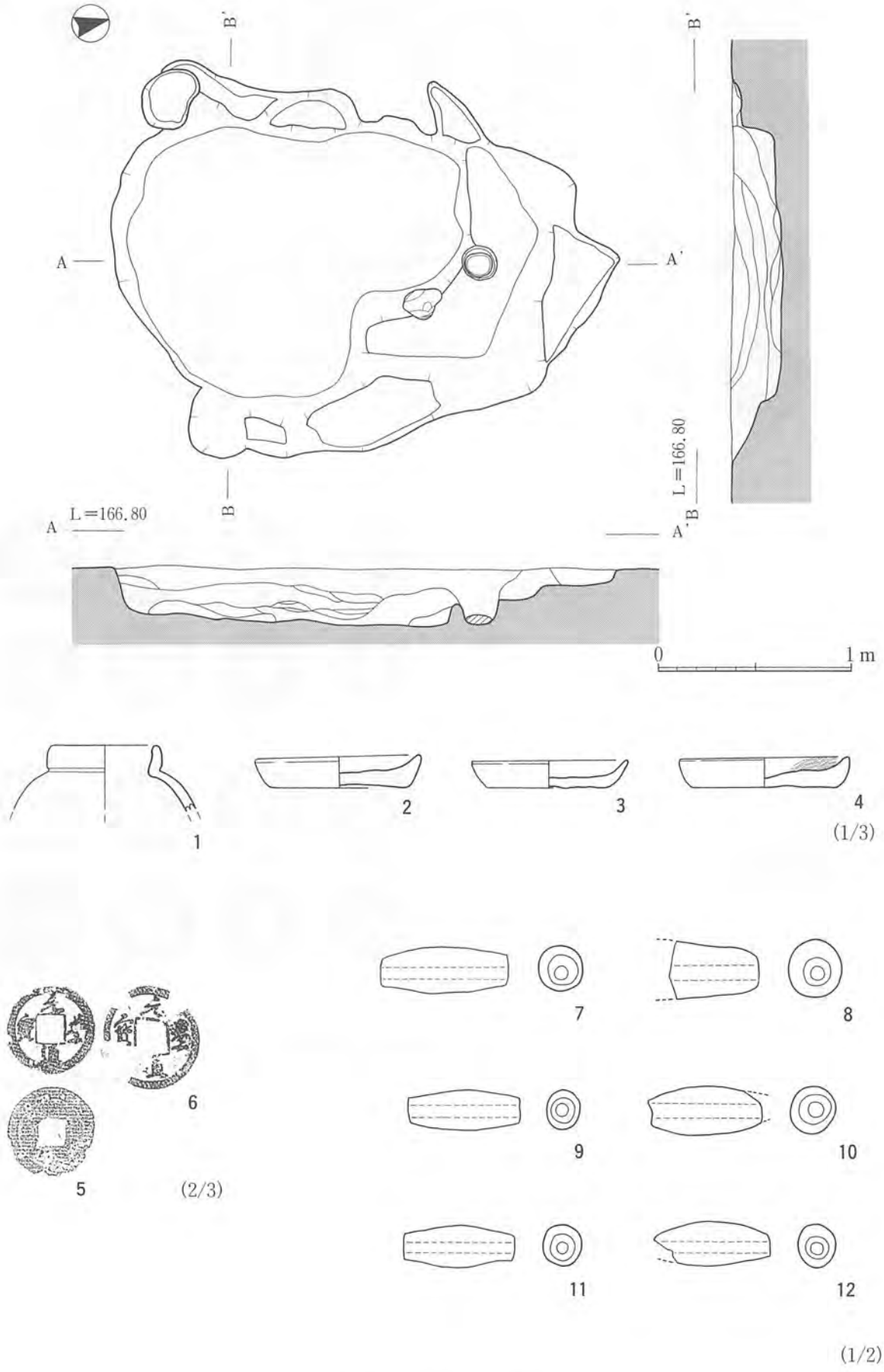
ＳＫ－213と切り合い関係にあり、ＳＫ－213はここに提示した。次のＳＫ－214も同様である。ＳＴ－173・174は切り合い関係であるが新旧関係がはっきりしない。173・174は一つの遺構であるのかもしれない。ＳＴ－173はＳＫ－213と切り合いであるがこれも新旧関係が明確でない。ＳＫ－213＞ＳＴ－173か。またＳＫの墓域内とも考えられ、この土坑も土壙墓の可能性もある。

ＳＴ－197

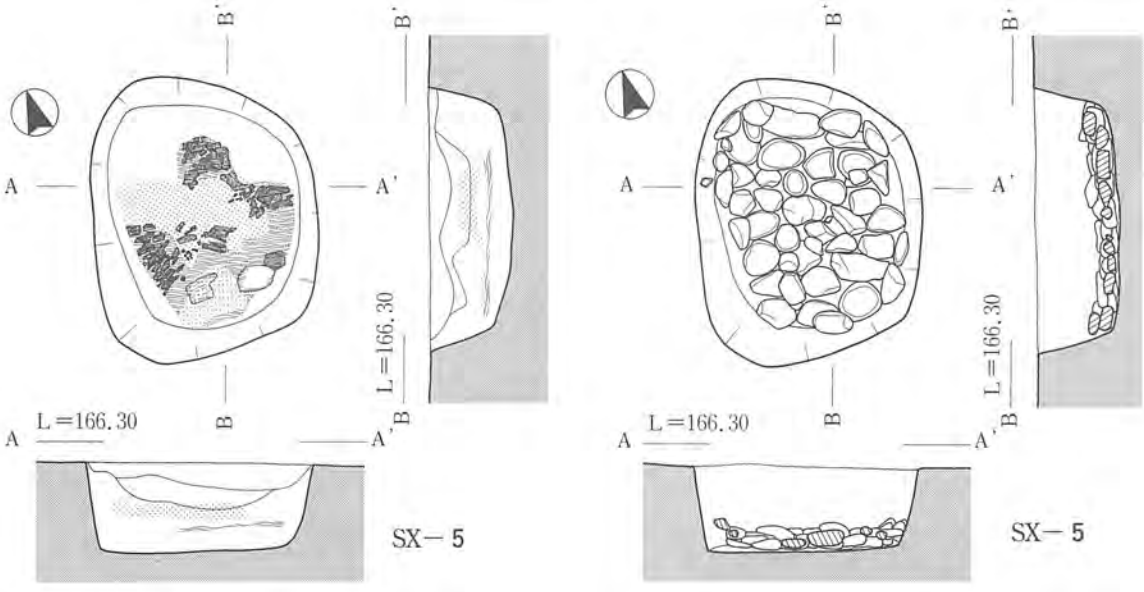
円形の遺構に中層にカーボンが見られる。検出面でより土師器甕と堀土内に土師器片が出土している。

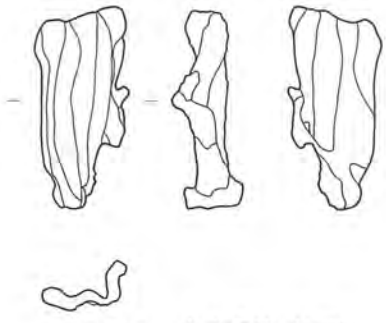
ＳＴ－198

2.8m×1.9mの大型の遺構で遺構南端の一部が調

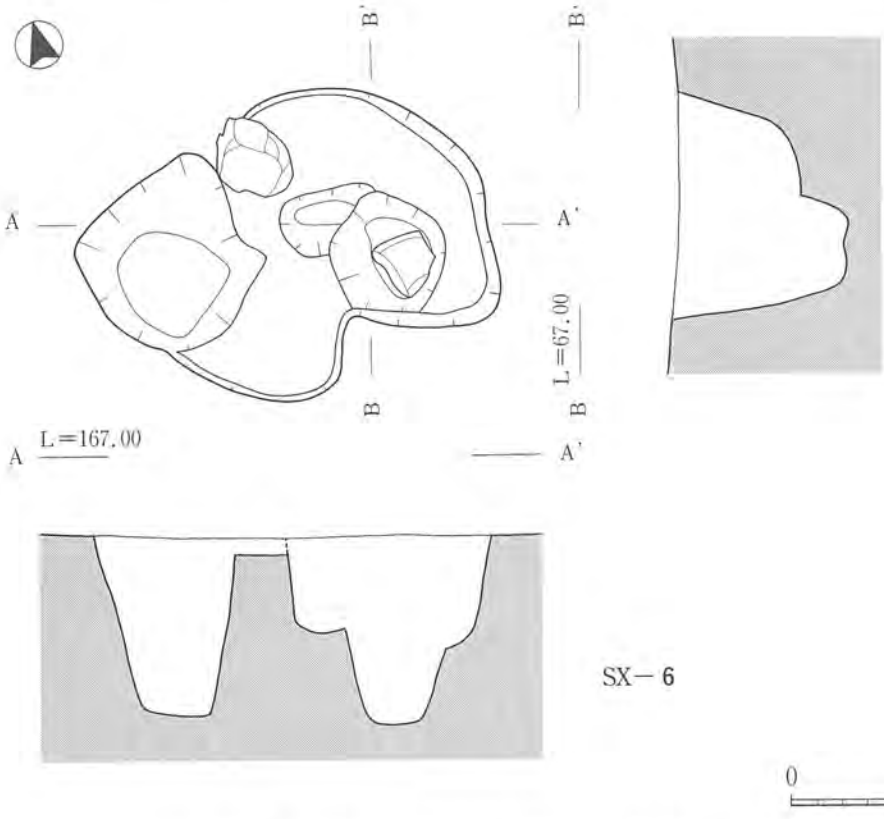


第178図　SX－4実測図及び出土遺物

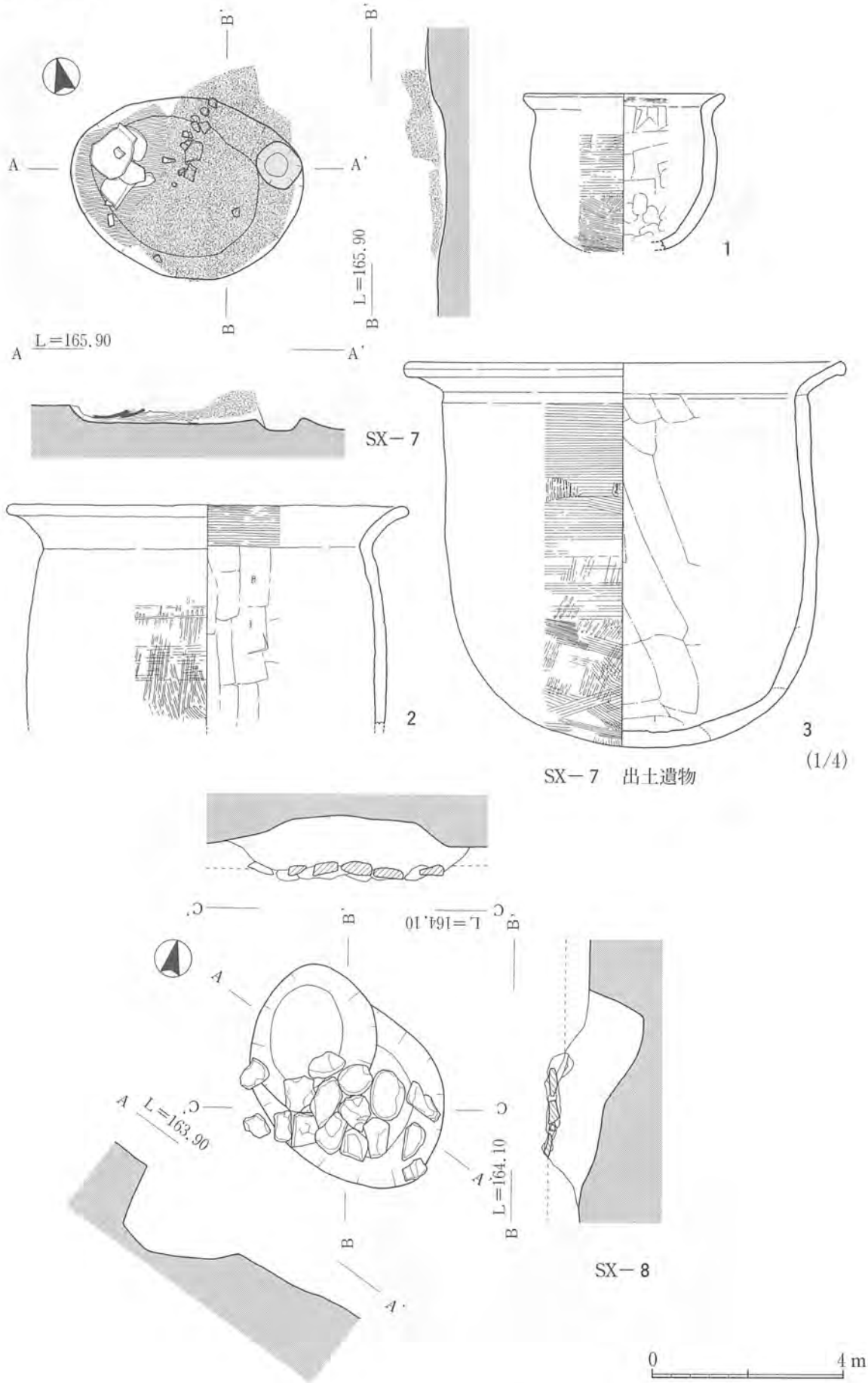




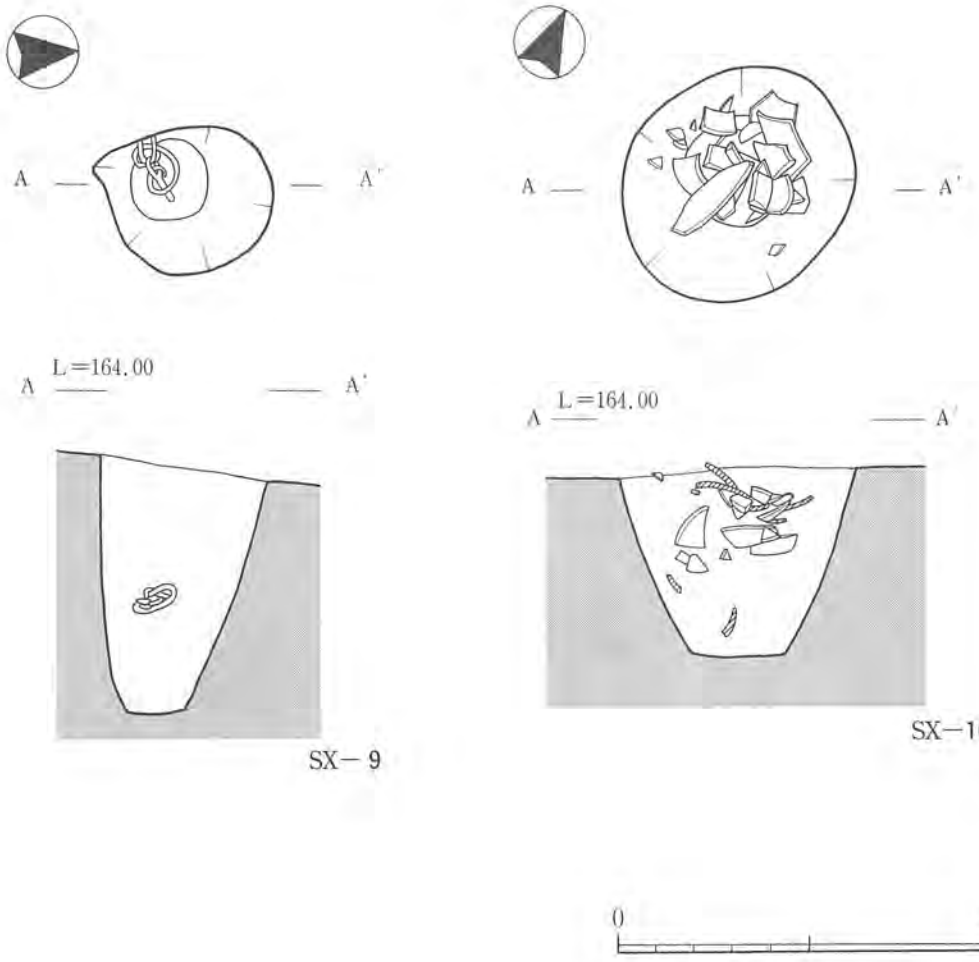
SX－5　出土遺物（2/3）

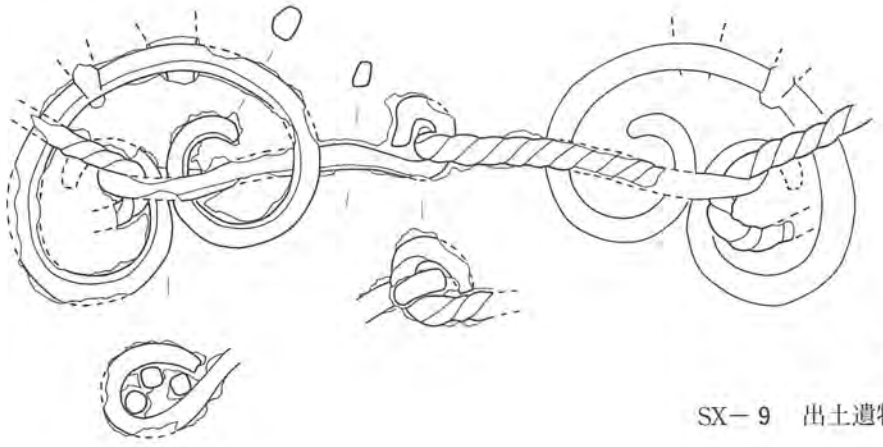


第179図　SX－5・6実測図及びSX－5出土遺物



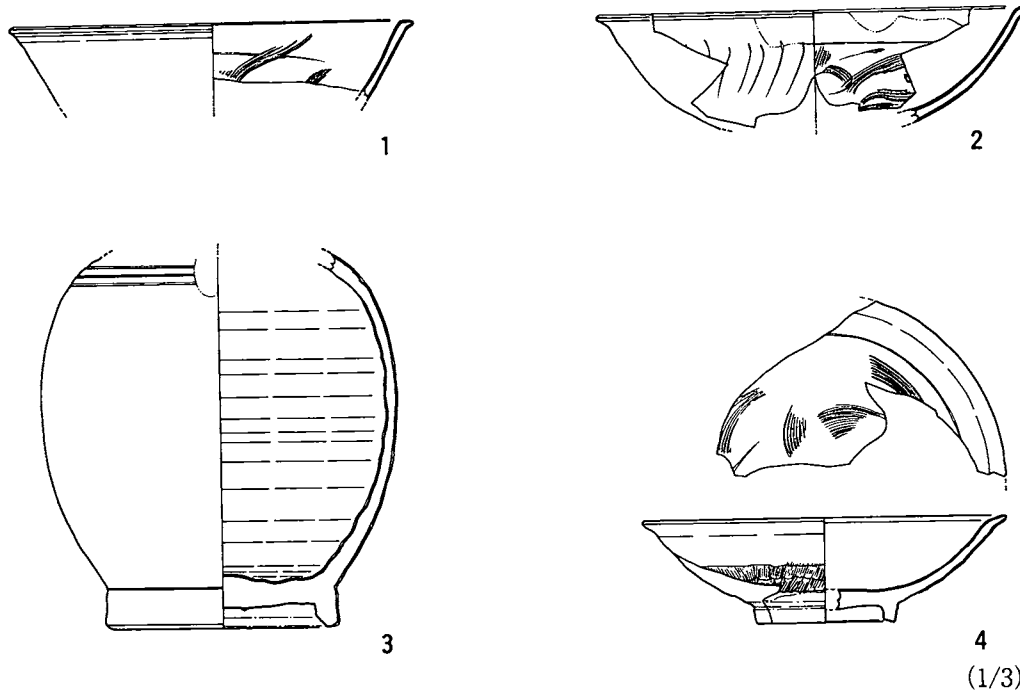
第180図　SX－7・8実測図及びSX－7出土遺物





SX－9　出土遺物（1/2）

第181図　SX－9・10実測図及びSX－9出土遺物



第182図　SX－10出土遺物

査区外であるため不明であるが全体は楕円形を呈すると思われる。燃焼面が見られカーボンも点在している。燃焼面の厚みは最大で８cmあり廃棄遺構よりも燃焼土坑であるか。

ＳＴ－206

楕円形を呈し南側は１段の掘り込みを持ち平坦な底を持つ。床より出土した遺物は口縁部から胴部下位の資料で土師器甕に見られる成形である。調整は外器面胴部に平行条線・内器面は同心円状の叩きが見られる。土師器と須恵器の制作技法の融合が見られる。９Ｃ前半の遺物か。

8　SX（不明遺構）（第174－182図）

ここではこれまでの遺構に属さず、しかし形態・遺物等に特異な事例がみられることから、その性格を明確とせずここに不明遺構（ＳＸ）して提示する。

ＳＸ－１

Ｍ－14グリット内にて検出された。径３ｍ強のほぼ円形のプランに三角錐形の掘り込みである。埋土はレンズ状に堆積し、よくしまっている。中央部には円形の遺構を形成し、この中央部も数回の堆積が見られる。中央部の埋土はややしまりのない土であるため遺構の崩壊によるものと想定される。したがって本来は中央部円錐の掘り込みを持つ遺構であったのあろう。深田村在住の郷土史家深水一雄氏のご教示に、この遺構付近には井戸の伝承があるという。このことと石積み・木枠等の井戸形成に見られる遺物は検出されなかったが形態からこの遺構は井戸と想定される。遺構検出面に小規模の土坑があり、ここから土師器皿**１**・**２**が出土している。

ＳＸ－２

調査Ｄ区のＳＢ－46のピット８に対応するもので、このピット上に土師器皿が二枚、伏せた状態で検出された。周囲には古銭が散乱し、接着した古銭も多く、総計28枚を数える。また刀子と思われる鉄製品も出土している。中央のピットは斜面の形成が見られ、柱の抜き取りの際の痕跡か。このピットに遺物が出土していることからＳＢ－46廃棄後に形成されたものか。

第12表　ＳＸデータ

挿図	番号	グリット
176	1	M-14
177	2	K-6　K-7
178	3	N-16
179	4	M-10
180	5	K-8　K-9
	6	H-10
181	7	D-6
	8	X-0
182	9	L-16
	10	Y-（-1）

第13表　出土遺物　観察表1（ＳＢ）

挿図	遺構名	出土レベル(m)	器種	口径	器高	底径	色　調	調　　整	備　　考
10-1	ＳＢ-01 pit4		(土) 小坏	(6.8)	2.5	(4.8)	浅黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-1	ＳＢ-02 pit4		(土) 皿	(7.2)	1.7	(5.6)	橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
11-1	ＳＢ-04 pit2		(土) 皿	(8.7)	1.2	(6.8)	浅黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-2	ＳＢ-04 pit7	166.990	(土) 皿	(8.3)	1.3	(6.5)	黄灰	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-3	ＳＢ-04 pit5		(土) 皿	(7.4)	1.2	(5.7)	灰黄褐色	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-4	ＳＢ-04		(鉄) 釘						
-5	ＳＢ-04 pit10	166.830~167.000	(輸) 青磁碗	(16.4)			釉) ミストグリーン	(外・内) 施釉 (外) 連弁文	Ⅰ-5b?c?d?,13c中半、大きな貫入有り
-6	ＳＢ-04 pit10	166.830~167.000	(輸) 青磁碗	(14.8)			釉) ろくしょう	(外・内) 施釉 (外) 連弁文	Ⅰ-5b?c?d?,13c中半
-7	ＳＢ-04 pit10	166.830~167.000	(輸) 青磁碗	(13.4)			釉) 裏葉色	(外・内) 施釉 (外) 連弁文	Ⅰ-5b?c?d?,13c中半、貫入有り
-8	ＳＢ-04 pit10	166.830~167.000	(輸) 青磁碗	(12.8)			釉) フロスティグレイ	(外・内) 施釉 (外) 連弁文	Ⅰ-5b?c?d?,13c中半
-9	ＳＢ-04 pit10	166.830~167.000	(輸) 白磁碗	(15.6)			釉) フロスティグレイ	(外・内) 施釉 (内) 櫛描文,詳細不明	Ⅴ-4b,12c前～中半 貫入有り。貫入りが細かく、中に染みが有るため文様不明瞭
-10	ＳＢ-04 pit10	166.830~167.000	(輸) 白磁壺				釉) シルバーグレイ	(外) 回転ナデ、削り、施釉 (内) 削り?、回転ナデ、施釉 (一部無釉)	四耳壺? (4個に復元),Ⅲ,12c後半、部分的に貫入有り 11と同一個体
-11	ＳＢ-04 pit10	166.830~167.000	(輸) 白磁壺				釉) シルバーグレイ	(外) 回転ナデ、削り、施釉 (内) 削り?、回転ナデ、施釉 (一部無釉)	四耳壺? (4個に復元),Ⅲ,12c後半、部分的に貫入有り 10と同一個体
12-1	ＳＢ-06 pit12		(土) 皿		1.9		橙	外・内・見込み) ナデ	底部はローリングを受けているので調整不明
-2	ＳＢ-06 pit12		(土)			(9.0)	にぶい黄橙	外・内・見込み) ナデ 底) 回転糸切り	
13-1	ＳＢ-07 pit2		(土)			(5.4)	にぶい黄橙	外・内) ナデ 底) ヘラ切り	
-2	ＳＢ-07 pit8		(土)				浅黄橙	外・内) ナデ 底) ヘラ切り	
14-1	ＳＢ-08 pit2		(土) 皿			(5.0)	浅黄橙	底) ヘラ切り	
-2	ＳＢ-08 pit3		(土)			(6.6)	浅黄橙	底) 回転糸切り	
-3	ＳＢ-08 pit18		(鉄) 釘						
-1	ＳＢ-09 pit1		(土) 皿	(8.9)	1.6	(6.1)	浅黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-1	ＳＢ-10 pit10		(土)			(6.2)	浅黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) ヘラ切り	
16-1	ＳＢ-16 pit7		(土) 小坏	(9.5)	2.5	(5.4)		外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
17-1	ＳＢ-20 pit4		(土) 皿		1.5		にぶい黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	板状圧痕
-2	ＳＢ-20 pit1		(土) 皿	(8.9)	1.4	(7.0)	橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) ヘラ切り	
-3	ＳＢ-20 pit13		(土)			(8.7)	浅黄橙	外) 回転ヘラ切り 底) 回転糸切り	
-4	ＳＢ-20 pit2		(鉄) 釘						
18-1	ＳＢ-22 pit4		(土) 皿		1.9		にぶい橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-1	ＳＢ-24 pit9		(土) 坏	(11.8)	3.5	(8.8)		不明	
-1	ＳＢ-25 pit5柱痕		(土)				浅黄	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-2	ＳＢ-25 pit5柱痕		(土) 皿	(7.6)	1.2	(5.8)	にぶい黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
19-1	ＳＢ-23		(鉄) 壺金?						
-2	ＳＢ-23 pit18		(土)		3.3		にぶい黄橙	外・内・見込み)回転ナデ 底)ヘラ切り+ナデ?	
-3	ＳＢ-23 pit6		(土) 皿	(7.5)	1.7	(4.8)	橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-4	ＳＢ-23 pit18		(土) 皿	(8.3)	1.7	(6.6)	にぶい黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-5	ＳＢ-23 pit18		(土) 皿	(7.9)	1.5	(5.7)	橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
20-1	ＳＢ-27 pit6		(土) 小坏	(7.4)	1.9	(4.4)	にぶい橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-2	ＳＢ-27 pit24		(土) 皿	8.0	1.5	6.0	にぶい黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
21-1	ＳＢ-29 pit5		(土)			(6.4)	灰黄	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-2	ＳＢ-29 pit2		(土) 皿	(8.2)	1.8	(6.0)	橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-1	ＳＢ-30 pit7		(土)			(6.0)	にぶい黄橙	外・内・見込み) ナデ 底) 回転ヘラ切り	
23-1	ＳＢ-36 pit3		(土)				浅黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-2	ＳＢ-36 pit8		(土)				浅黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
25-4	ＳＢ-40 pit15		(土) 皿	(7.6)	1.8	(6.0)	灰黄	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-5	ＳＢ-40 pit31	166.360	(土) 皿	(7.6)	1.4	(5.6)	にぶい黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り後ナデ	
-6	ＳＢ-40 pit27	166.340	(土) 皿			7.2	浅黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り後ナデ	
-7	ＳＢ-40 pit31		(土) 坏	(13.4)	2.9	8.4	灰白	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り後ナデ	
-8	ＳＢ-40 pit31	166.390	(土) 坏	13.1	3.5	9.5	浅黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-9	ＳＢ-40 pit31		(鉄) 毛抜き状鉄器						
26-1	ＳＢ-41 pit4		(土) 皿		1.2		にぶい橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-2	ＳＢ-41 pit21	165.770	(土) 皿	7.8	1.4	6.5	浅黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り、指圧痕有り	
-3	ＳＢ-41 pit21		(土) 皿	8.4	2.0	6.0	浅黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り後ナデ	
27-1	ＳＢ-42 pit2	166.150	(土) 坏	(12.9)	3.3	(8.8)	浅黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-2	ＳＢ-42 pit16		(土) 坏	12.7	3.8	8.9	にぶい黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-3	ＳＢ-42 pit2		(土) 小坏	(7.4)	2.0	(5.5)	浅黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-4	ＳＢ-42,43 pit内		(土) 坏	(13.3)	3.5	8.5	黄灰	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-5	ＳＢ-42 pit16	165.700	(土) 坏	13.2	3.8	9.3	にぶい黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	リング状に炭化している
-6	ＳＢ-42 pit内		(土) 皿	(8.5)	1.6	(6.0)	褐灰	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
28-1	ＳＢ-43 pit8		(土) 坏	(14.3)	4.2	(6.8)	浅黄橙	底) ヘラ切り	
-2	ＳＢ-43 pit3		(土) 皿	(9.5)	1.7	(6.9)	にぶい黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-3	ＳＢ-43 pit21		(土) 皿	(7.8)	1.6	(5.6)	黄灰	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	燈明皿?
-4	ＳＢ-43 pit3		(土) 坏	(14.0)	3.2	(8.3)	浅黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-5	ＳＢ-43 pit26	166.070	(土) 皿	(8.6)	1.7	6.1	浅黄	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-6	ＳＢ-43 pit26		(土) 皿	8.0	1.8	5.8	黄灰	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-7	ＳＢ-43 pit26		(土) 坏	(13.7)	3.7	(9.7)	浅黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-8	ＳＢ-43 pit12		(土) 皿	(7.8)	1.7	(6.0)	にぶい橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
30-1	ＳＢ-44 pit13・50		(土) 坏	(15.8)	4.0	(7.7)	浅黄橙	外) 丁寧なナデ調整 内・見込み) ミガキ? 底) 丁寧なナデ調整、ヘラ切り	
-2	ＳＢ-44 pit33		(土) 皿	7.9	2.0	6.0	にぶい黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-3	ＳＢ-44 pit52		(土) 坏	(14.2)	3.9	(8.5)	灰白	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-4	ＳＢ-44 pit3		(土) 皿	8.4	2.2	5.6	橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-5	ＳＢ-44 pit14	165.920	(土) 坏	(12.9)	3.6	(8.6)	黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-6	ＳＢ-44 pit4		(土) 皿	8.2	2.2	5.8	にぶい黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 糸切り	
-7	ＳＢ-44 pit24		(土) 坏	(11.6)	3.6	(7.8)	浅黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-8	ＳＢ-44 pit39	(上) 166.600 (下) 166.605	(土) 皿	(7.7)	1.6	(6.0)	褐灰	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-9	ＳＢ-44 pit52		(鉄) 釘						
31-1	ＳＢ-45 pit4		(土) 皿	(8.1)	1.5	5.5	浅黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-2	ＳＢ-45		(鉄) 金具?						
32-1	ＳＢ-47 pit2	165.590	(土) 皿	7.6	1.5	5.3	浅黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り後ナデ	底部中央に孔有り
-1	ＳＢ-49 pit16		(土) 皿	7.8	2.0	6.2	にぶい橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-2	ＳＢ-49 pit13・18		(土) 皿	(9.2)	1.6	(6.7)	浅黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
33-1	ＳＢ-48 pit9		(土) 坏	(12.3)	3.1	(8.4)	橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-2	ＳＢ-48		(土) 皿	(7.4)	1.3	(6.0)	にぶい橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
34-1	ＳＢ-50 pit2		(土) 皿	7.6	1.3	6.5	褐灰	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-2	ＳＢ-50 pit2		(土) 坏	(12.5)	3.1	8.5	浅黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-3	ＳＢ-50 pit12		(鉄) 釘?						
-4	ＳＢ-50 pit2		(鉄) 釘						
35-1	ＳＢ-51 pit6		(土) 皿	(8.1)	1.9	(6.5)	黄灰	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-2	ＳＢ-51 pit7		(土) 坏	(12.5)	3.2	(9.0)	浅黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-3	ＳＢ-51 pit6		(土) 皿	(8.6)	1.5	(6.8)	橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-4	ＳＢ-51 pit6		(土) 坏			(8.5)	浅黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
36-1	ＳＢ-52 pit5		(土) 皿	(6.8)	1.5	(6.5)	橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-2	ＳＢ-52 pit7		(土) 皿	(8.0)	1.2	(6.0)	橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-3	ＳＢ-52 pit16		(土) 皿	(8.1)	1.3	(6.0)	にぶい黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-4	ＳＢ-52 pit8		(鉄) 釘						
-5	ＳＢ-52 pit14		(鉄) 釘						
37-1	ＳＢ-53 pit3		(土) 皿	(8.2)	1.5	(6.8)	にぶい黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-2	ＳＢ-53 pit10		(土) 皿	7.7	1.7	6.0	橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り後ナデ	
-3	ＳＢ-53 pit11		(土) 坏	(12.3)	3.3	8.0	浅黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-4	ＳＢ-53 pit11		(土) 皿	(7.4)	1.2	(6.1)	にぶい橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-5	ＳＢ-53 pit8		(土) 皿	(7.9)	1.6	6.2	にぶい黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り後ナデ	
-6	ＳＢ-53 pit8		(土) 坏	(12.0)	2.6	(8.3)	にぶい黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り後ナデ	
-1	ＳＢ-55 pit7		(土) 皿	(7.4)	1.3	(5.6)	にぶい橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り後ナデ	
-2	ＳＢ-55 pit9		(土) 皿	(8.0)	1.4	(6.2)	にぶい橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
-3	ＳＢ-55 pit3		(土) 皿	(8.2)	1.5	(6.9)	橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	

挿図	遺構名	出土レベル(m)	器種	口径	器高	底径	色調	調整	備考
38-1	SB-56 pit5		(土)皿	(7.4)	1.2	(6.0)	浅黄橙	外）回転ナデ 底）回転糸切り	
-2	SB-56 pit12		(土)皿	(8.7)	1.7	(6.0)	橙	外・内・見込み）回転ナデ 底）回転糸切り	
39-5	SB-56		(鉄)釘						
-6	SB-56		(鉄)筒状鉄器(不明)						
-1	SB-57 pit7		(土)坏	(13.4)	3.9	(7.8)	浅黄橙	外・内・見込み）回転ヘラ切り 底）回転糸切り	
-2	SB-57 pit19		(土)皿	(7.6)	1.1	(6.4)	浅黄橙	外・内・見込み）回転ナデ 底）ヘラ切り？	
40-1	SB-58 pit7		(土)		2.9		灰白	外）？ 内・見込み）回転ナデ 底）回転糸切り	
-2	SB-58 pit6		(土)皿	(8.6)	1.5	(6.0)	浅黄橙	外・内・見込み）回転ナデ 底）回転糸切り	
-3	SB-58 pit6		(土)皿	8.4	1.4	6.0	浅黄橙	外・内・見込み）回転ナデ 底）回転糸切り後ナデ	
-4	SB-58 pit6		(土)皿	(7.8)	1.6	(5.1)	にぶい黄橙	外・内・見込み）回転ナデ 底）回転糸切り	
-1	SB-59 pit7		(土)皿	8.0	1.8	5.5	にぶい黄橙	外・内・見込み）回転ナデ 底）回転糸切り後ナデ	
40-2	SB-59 pit3		(土)皿	(7.4)	2.0	5.2	浅黄褐色	外・内・見込み）回転ナデ 底）回転糸切り	
-3	SB-59 pit7		(土)皿	(7.4)	1.6	(6.0)	灰黄褐色	外・内・見込み）回転ナデ 底）回転糸切り後ナデ	
41-5	SB-59 pit4		(鉄)釘						
-1	SB-60 pit9		(土)小坏	7.2	1.9	5.3	にぶい黄橙	外・内・見込み）回転ナデ 底）回転糸切り	
42-1	SB-61 pit26		(土)坏	(13.0)	2.9	8.8	にぶい黄橙	外・内・見込み）回転ナデ 底）回転糸切り	
-2	SB-61 pit18		(土)		4.6		橙	外・内・見込み）ナデ 底）ヘラ切り	
-3	SB-61 pit9柱痕		(土)			(8.3)	橙	外・内・見込み）ナデ 底）回転糸切り	
-4	SB-61 pit26		(土)皿	(9.9)	1.7	(8.1)	浅黄橙	外・内・見込み）回転ナデ 底）回転糸切り	
43-1	SB-62 pit9		(土)		3.0		にぶい黄橙	外・内・見込み）回転ナデ 底）回転糸切り	
-2	SB-62 pit4		(土)坏	(12.3)	2.7	(8.8)	浅黄橙	外・内・見込み）ナデ 底）回転糸切り	
-3	SB-62 pit12		(土)			7.8	浅黄橙	外・内・見込み）回転ナデ 底）回転糸切り	
45-1	SB-68 pit11		(鉄)釘						
46-1	SB-70		(黒)坏	(14.2)	5.0	(6.2)	にぶい黄橙、黄橙	外）ロクロナデ、調整不明瞭、受熱？(剥落が著しい) 内）ヘラミガキ（単位不明瞭）,内面黒	
47-1	SB-72 pit3		(国)釉茶碗	(5.6)			にぶい黄橙	外・内）ナデ	越州窯系小碗,10c
48-1	SB-74 pit16		(土)碗	10.4	6.1		にぶい黄橙、灰黄褐色	外)ヘラ削り後ナデ?(工具痕有り),黒斑?スス? 内)ヘラ削り,スス付着?	全体的に歪である。底部を意識して作っている
-2	SB-74 pit3		(土)			(7.3)	浅黄橙	外）回転ナデ 底）回転糸切り	
50-1	SB-77 埋土内pit25		(土)			(9.2)	浅黄橙	外・内・見込み）回転ナデ 底）回転糸切り	
-2	SB-77 埋土内pit10		(土)			(5.4)	浅黄橙	外・内・見込み）回転ナデ 底）回転糸切り	
51-1	SB-78 pit6		(土)				にぶい黄橙	外・内・見込み）回転ナデ 底）ヘラ切り	

観察表２（ＳＡ）

挿図	遺構名	出土レベル(m)	器種	口径	器高	底径	色調	調整	備考
52-1	SA-001 pit5		(土)	(13.4)	3.7	(6.6)	浅黄橙	外・内・見込み）回転ナデ 底）ヘラ切り＋ミガキ	
-1	SA-002 pit11		(土)皿	(9.3)	1.3	(7.0)	にぶい橙	外・内・見込み）回転ナデ 底）回転糸切り	
-2	SA-002 pit14		(土)皿	(8.4)	1.5	6.0	灰白	外・内・見込み）回転ナデ 底）回転糸切り、指圧痕有り	
-3	SA-002 pit14		(土)皿	(7.8)	1.6	5.7	灰黄	外・内・見込み）回転ナデ 底）回転糸切り	
-4	SA-002 pit14		(土)		3.3		浅黄橙	外・内）回転ナデ 底）回転糸切り	
-5	SA-002 pit12		(土)皿		2.8		浅黄橙	外・内・見込み）回転ナデ 底）回転糸切り	
-1	SA-003		(土)皿	(7.3)	1.5	5.2	淡黄	外・内・見込み）回転ナデ 底）回転糸切り	燈明皿
53-1	SA-004 pit3		(土)皿	(8.5)	1.3	(6.0)	灰白	外・内・見込み）回転ナデ 底）回転糸切り	
-2	SA-004 pit10		(土)皿	(7.8)	1.3	(6.2)	橙	外・内・見込み）回転ナデ 底）回転糸切り	
54-1	SA-008 pit2		(土)皿	(7.4)	1.6	(6.2)	灰黄	外・内・見込み）回転ナデ 底）回転糸切り	
-2	SA-008 pit13		(土)皿	(7.8)	1.8	(5.9)	浅黄橙	外・内・見込み）回転ナデ 底）回転糸切り	
-3	SA-008 pit4		(土)皿	(8.2)	1.4	(6.0)	灰黄	外・内・見込み）回転ナデ 底）回転糸切り	
55-1	SA-009 pit34	166.250	(土)皿	(9.0)	2.0	(6.7)	灰白	外・内・見込み）回転ナデ 底）回転糸切り	
-2	SA-009 pit30		(土)皿		1.5		灰白	外・内・見込み）回転ナデ 底）回転糸切り	
-3	SA-009 pit2		(土)				にぶい黄橙	外・内・見込み）回転ナデ 底）回転糸切り	
-4	SA-009 pit34	166.225	(土)皿	(13.8)	3.6	(8.6)	浅黄橙	外・内・見込み）回転ナデ 底）回転糸切り	
-5	SA-009 pit2		(土)	(13.3)	3.3	(9.5)	灰白	外・内・見込み）回転ナデ 底）回転糸切り	
-6	SA-009		(鉄)釘						
56-1	SA-011		(土)皿		1.5		にぶい橙	外・内・見込み）回転ナデ 底）回転糸切り	
-2	SA-011		(土)皿		1.1		浅黄橙	外）丁寧なナデ調整 内・見込み）回転ナデ 底）回転糸切り	

観察表３（ＳＤ）

挿図	遺構名	出土レベル（m）	器種	口径	器高	底径	色調	調整	備考
59-1	SD-02	166.931	(土)坏	12.8	3.2	8.6	橙	外）回転ナデ、粗いナデ・指圧痕あり 内・見込み）回転ナデ 底）糸切り	
-1	SD-07		(土)皿	7.3	1.1	6.0	橙	外・内・見込み）回転ナデ 底）糸切り	
-2	SD-07		(土)皿	8.4	3.2	6.8	にぶい橙	外・内・見込み）回転ナデ 底）糸切り後板状圧痕	

観察表４（ＳＨ）

挿図	遺構名	出土レベル（m）	器種	口径	器高	底径	色調	調整	備考
61-1	SH-01	165.839	(土)皿	(9.0)	2.0	(6.3)	にぶい黄橙	外・内・見込み）回転ナデ 底）糸切り	
-1	SH-02	165.660	(土)碗	(14.2)	5.5	7.2	にぶい黄橙	外・内・見込み）回転ナデ 底）削出し高台、ナデ	
-2	SH-02	165.580	(土)坏	12.1	4.3~5.45	7.5	黄橙	外・見込み）回転ナデ、ヘラ削り後ナデ 内）回転ナデ 底）ヘラ削り後ナデ	
-3	SH-02	165.690	(須)蓋	12.2	2.0		灰	外）ロクロナデ、削り、接合痕 内）ロクロナデ、ナデ	
-4	SH-02		(鉄)刀子						
-5	SH-02		(鉄)刀子？						
62-1	SH-03	165.892	(土)	13.2	3.7	9.0	にぶい橙	外・内・見込み）回転ナデ 底）回転糸切り	
-1	SH-04	165.688	(土)甕	15.0			灰白、橙、黒褐	外）刷毛、横ナデ 内）ヘラ削り、横ナデ	
63-1	SH-08		(鉄)不明 ラッパ状鉄器						
64-1	SH-09	165.148	(土)碗	(13.4)	4.8		明赤褐色、橙	外）刷毛目後一部ナデ、横ナデ 内）ナデ、横ナデ	
-2	SH-09	165.160	(土)甕	11.7			橙	外）ナデ、タタキ目後ヘラミガキ 内）ナデ、ヘラ削り一部後指押さえ	
66-1	SH-14		(土)碗	(17.8)	7.4	(9.2)	灰白	外・内）回転ヘラ削り 見込み）回転ナデ 底）回転ヘラ削り	
-2	SH-14		(鉄)刀子						
-1	SH-15	165.980	(土)皿	(9.1)	1.6	6.5	灰白	外・内・見込み）回転ナデ後多方向によるナデ 底）回転ヘラ切り後ナデ 精製悪い	
-2	SH-15	165.950	(土)		4.0		浅黄橙	外・内）回転ナデ 見込み・底）ナデ	
67-1	SH-16	166.280	(土)			(10.6)	浅黄橙	外・内）回転ナデ 見込み）回転ナデ後多方向よりナデ 底）糸切り後ナデ？	

挿図	遺構名	出土レベル(m)	器種	口径	器高	底径	色 調	調 整	備 考
68-1	ＳＨ-17		(土) 坏	(14.2)	4.9	(11.2)	浅黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) ヘラ切り後ナデ	
-2	ＳＨ-17	166.255	(土)				淡黄	外) 回転ナデ後多方面からナデ 内・見込み) 回転ナデ	
-3	ＳＨ-17	166.330	(土)				にぶい黄橙	外) 回転ナデ、叩き目 内) 回転ナデ後？	
-4	ＳＨ-17	166.290	(土) 坏	(13.6)	4.1	(10.0)	浅黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) ナデ	
-5	ＳＨ-17	166.280	(土)				橙	外・内) 回転ナデ	
-6	ＳＨ-17	166.340	(土)		3.7		浅黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) ヘラ削り後ナデ	
-1	ＳＨ-18	165.335	(土) 坏	(13.4)	5.5	7.6	浅黄橙	外・内) 回転ナデ 見込み) 横ナデ 底) 回転ヘラ削り後ミガキ	
69-1	ＳＨ-20	163.951	(土) 坏	14.6	4.0	7.6	浅黄	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 糸切り	
-2	ＳＨ-20	163.941	(土) 皿	(8.9)	1.9	(5.2)	にぶい黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 糸切り後ナデ	
-1	ＳＨ-21	163.794	(土) 皿	(8.4)	1.9	(4.8)	にぶい橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) ナデ	
-2	ＳＨ-21	163.730	(土)			(8.9)	橙	見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り後ナデ	
70-1	ＳＨ-22	163.570	(土) 坏	13.6	3.4	9.0	灰白	外・内・見込み) ナデ 底) 糸切り	
-1	ＳＨ-23	163.980	(土) 小坏	8.3	2.2	4.4	にぶい黄橙	外・内) 回転ナデ 見込み) ナデ 底) 回転糸切り後ナデ 精製悪い	
-2	ＳＨ-23	163.960	(土) 小坏	7.9	2.3	3.9	にぶい橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り後ナデ	口縁部一部破損
-3	ＳＨ-23	163.890	(土) 坏	14.8	4.1	8.7	にぶい黄橙	内・見込み) ナデ 底) 回転糸切り後ナデ	口縁部一部刻み
-4	ＳＨ-23	163.930	(土) 坏	14.6	4.3	8.1	にぶい黄橙	外・内) 回転ナデ 見込み) ナデ 底) 回転糸切り 精製悪い	口縁部一部刻み

観察表５（ＳＫ）

挿図	遺構名	出土レベル(m)	器種	口径	器高	底径	色 調	調 整	備 考
75-1	ＳＫ-001		(鉄) 釘						
-1	ＳＫ-003	165.593	(輸) 青磁 碗				釉) 油色		同安、青碗Ⅰ1,13c初 釉はごく薄い、わずかに外器面貫入有、傾き不確実
-1	ＳＫ-004	166.990	(土) 坏	(11.4)	4.2	6.2	浅黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) ヘラ切り	
-2	ＳＫ-004	166.980	(土) 碗	(13.8)	6.3	4.0	浅黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ	
76-1	ＳＫ-005		(鉄) 釘？						
-2	ＳＫ-005	163.340	(輸) 青磁 碗	(16.2)			釉) スレートグリーン	外) 施釉 内) 施釉、文様有り	龍泉文、青碗Ⅰ2,13c初
-3	ＳＫ-005	163.250	(輸) 青磁 皿	10.6	2.05	5.3	釉) わさび色	外) 施釉、工具痕有り 内) 施釉 見込み) 櫛横文 底) 施釉、削り	同安、Ⅰ-1b,12c後～13c初 口縁部わずかに欠損、貫入有り
-4	ＳＫ-005	163.280	(輸) 青磁 皿	10.35	2.1	4.95	釉) スレートグリーン	外) 施釉、工具痕有り 内) 施釉 見込み) 櫛横文・ヘラ横文 底) 施釉、削り、付着物有り	同安、Ⅰ-1b,12c後～13c初 口縁部わずかに欠損、貫入有り
-5	ＳＫ-005		(輸) 青磁 皿	11.35	2.3	(5.0)	釉) スレートグリーン、ミストグリーン	外・内) 施釉 見込み) 施釉、施文 底) 削り、釉の掻き取り	同安、青皿Ⅰ2b,13c初、貫入有り
77-1	ＳＫ-008		(鉄) 釘						
-1	ＳＫ-009	166.190	(土) 皿	(9.2)	2.2	(6.6)	浅黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 糸切り後ナデ	
-1	ＳＫ-010		(鉄) 釘						
78-1	ＳＫ-017	165.900	(輸) 白磁 皿	10.1	2.95		釉) ミストグリーン	外) 施釉、削り 内) 施釉、片切彫りの圏線、付着物有り 見込み) 施釉、蛇の目釉はぎ 底) 削り 高台) 削り出し	Ⅶ-1類,12c前 口縁部やや歪、粗い貫入有り
-2	ＳＫ-017	165.295 165.720	(土) 坏	(12.6)	3.4	9.6	浅黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 糸切り後ナデ	
80-1	ＳＫ-027		(輸) 白磁 皿	(11.0)			釉) リリーホワイト		白皿Ⅰ,12c中、釉は気泡があり、透明感がない、発色も悪い
82-1	ＳＫ-036		(鉄) 釘						
-2	ＳＫ-036		(鉄) 釘						
-3	ＳＫ-036		(鉄) 釘						
83-1	ＳＫ-037		(鉄) 釘						
-2	ＳＫ-037	166.480	(輸) 青磁 碗	(16.8)	5.7		釉) オリーブグリーン	外・内) 施釉 底) 無釉、削り出し高台 高台) 釉の掻き取り（不充分）	龍泉文、青碗Ⅰ,13c初、釉は薄い、残存率1/6
-3	ＳＫ-037	167.000	(土)		1.5		橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 糸切り	
84-1	ＳＫ-045	166.230	(須) 甕	6.0	9.5	8.2	淡青灰	外) 回転ナデ、ヘラ削り 内) 回転ナデ	
88-1	ＳＫ-063	174.790	(輸) 青磁 小碗	(8.2)	3.35		釉) スレートグリーン	外・内・見込み) 施釉 底) 施釉 高台) 釉の掻き取り	龍泉文、青小碗Ⅲa,13c後半
92-1	ＳＫ-075		(鉄) 釘						
-2	ＳＫ-075		(鉄) 釘						
98-1	ＳＫ-108	166.300	(土) 碗	(16.2)	5.25		浅黄橙	外) 回転ヘラミガキ 内) ？ 底) 高台貼り付け、ナデ	
-2	ＳＫ-108	166.300	(土) 碗	17.6	5.4		にぶい黄橙	外・内・見込み) ミガキ 底) ロクロナデ、ナデ、ヘラ記号 高台) ロクロナデ	赤彩？、内器面のミガキの単位は不明瞭
102-1	ＳＫ-128	166.410	(輸) 白磁 壺				釉) ミストグリーン	外・内) 施釉	白、四耳壺、C類,12c後半、部分的に貫入有り
103-1	ＳＫ-131	165.440	銅製品？						
116-1	ＳＫ-159		(鉄) 釘						
118-1	ＳＫ-169	164.968	(土) 坏	11.5	2.4～2.6	6.1	橙	外・見込み) 回転ナデ 内) ナデ 底) 回転糸切り	
-2	ＳＫ-169	165.036	(土) 小坏	7.2	2.15	4.5	浅黄	外・見込み) 回転ナデ 内) 回転ナデ、ナデ 底) 回転糸切り、板状圧痕有り	
-3	ＳＫ-169	165.003	(土) 小坏	7.2	2.2～2.5	4.2	橙	外・内・見込み) 回転ナデ 底) 回転糸切り	
125-1	ＳＫ-198		(鉄) 釘						
127-1	ＳＫ-205	163.643	(輸) 白磁 碗	15.2	6.0	5.4	釉) 枯草色	外) 削り、施釉、釉だれ有り 内・見込み) 施釉、へら横文 底) 削り 高台) 削り出し	Ⅰ-4a,12c前後、細かい貫入有り、釉が非常に薄い、発色悪い
-2	ＳＫ-205	163.660	(輸) 白磁 皿	10.0	2.25	4.2	釉) ミストグリーン	外) 削り、施釉、部分的に砂粒付着 内) 施釉、片切彫りの圏線、蛇の目釉はぎ、砂粒有り 見込み) 施釉 底・高台) 削り、部分的に砂粒付着 高台) 削り出し	Ⅲ-1,12c前後
-3	ＳＫ-205	163.666	(輸) 青磁 皿	9.6	2.4	4.2	釉) モスグリーン	外) 削り、施釉 内) 施釉、片切彫りの圏線、蛇の目釉はぎ 見込み) 施釉、付着物有り 底) 削り 高台) 削り、削り出し	Ⅲ-1,12c前後、貫入有り
-4	ＳＫ-205	163.658	(輸) 白磁 皿	10.3	2.55	4.8	釉) ミストグリーン	外) 削り、施釉 内) 施釉、片切彫りの圏線、蛇の目釉はぎ 見込み) 施釉 底) 削り 高台) 削り、削り出し	Ⅲ-1,12c前後
-5	ＳＫ-205	163.653	(輸) 白磁 皿	10.4	2.8	4.4	釉) ミストグリーン	外) 削り、施釉 内) 施釉、片切彫りの圏線、蛇の目釉はぎ、部分的に砂粒有り 見込み) 施釉 底) 削り 高台) 削り、削り出し、部分的に砂粒有り	Ⅲ-1,12c前後、粗い貫入有り
-6	ＳＫ-205	163.635	(輸) 白磁 碗	16.5	6.95	6.5	釉) ミストグリーン	外) 削り、施釉、一部釉だれ有り 内・見込み) 施釉、片切彫りの圏線、一部釉だれ有り 底) 削り 高台) 削り、削り出し	Ⅳ-1a,12c前後、貫入有り
128-1	ＳＫ-206		唐式鏡						
-2	ＳＫ-206	163.590	(輸) 白磁 碗	(15.6)	4.65	(3.2)	釉) ホワイトリリー	外・内・見込み) 施釉 底) 削り、部分的に施釉 高台) 削り、釉の掻き取り？	Ⅰ-1,10c前半
-3	ＳＫ-206	163.535	(土) 坏	11.5	4.8	(6.4)	にぶい黄橙、浅黄橙	外) ロクロナデ、削り後ロクロナデ、黒斑 内) ロクロナデ、黒斑 見込み) 削り後ロクロナデ 底) ヘラ切り離し	
-4	ＳＫ-206	163.640	(土) 坏	11.4	4.35	6.3		外) ロクロナデ、削り後ロクロナデ 内・見込み) ロクロナデ 底) ヘラ切り離し後ナデ	
-5	ＳＫ-206	163.548	(土) 坏	11.8	5.6	6.5	にぶい黄橙、浅黄	外) ロクロナデ、削り後ロクロナデ 内・見込み) ロクロナデ 底) ヘラ切り離し、板状圧痕有り	
-6	ＳＫ-206	163.630	(土) 坏	(11.4)	4.8	5.1	浅黄	外) ロクロナデ、削り、黒斑？スス付着？ 内) ロクロナデ、黒斑？スス付着？ 見込み) ロクロナデ、ナデ 底) ヘラ切り離し後ナデ、圧痕有り	
-7	ＳＫ-206	163.625	(土) 坏	12.0	4.6	5.75	黄橙、にぶい黄橙	外) 横ナデ、削り後横ナデ 内) 横ナデ、黒斑？ 見込み) 横ナデ、黒斑？、自然釉？ 底) ヘラ切り離し、板状圧痕有り、黒斑？	
-8	ＳＫ-206	163.540	(土) 坏	11.3	4.8	6.8	浅黄橙、にぶい黄橙	外) ロクロナデ、削り 内・見込み) ロクロナデ 底) ヘラ切り離し	ロクロ回転：右
-9	ＳＫ-206	163.530	(土) 坏	(11.8)	4.45	6.1	浅黄、にぶい黄橙	外) ロクロナデ、削り、削り後ロクロナデ 内) ロクロナデ 見込み) ロクロナデ、ナデ 底) 回転ヘラ切り離し後ナデ	
-10	ＳＫ-206	163.620	(土) 坏	11.8	4.9	6.4	浅黄、にぶい黄橙、橙	外) ロクロナデ、削り後ロクロナデ 内・見込み) ロクロナデ 底) ヘラ切り離し、黒斑？板状圧痕有り	
-11	ＳＫ-206	163.630	(土) 坏	12.1	4.3	6.9	灰白、浅黄	外) ロクロナデ、削り、削り後ロクロナデ 内・見込み) ロクロナデ 底) ヘラ切り離し後ナデ、一部圧痕有り	
-12	ＳＫ-206	163.615	(土) 坏	11.4	4.3	6.5	灰白	外) ロクロナデ、削り後ロクロナデ 内) ロクロナデ 見込み) ロクロナデ、ナデ 底) ヘラ切り離し	
129-1	ＳＫ-207		(土) 坏	15.4	6.75	9.1	浅黄	外) ナデ、一部指痕後有り、スス付着？ 内・見込み) 削り、スス付着？ 底) 工具ナデ	
-2	ＳＫ-207	164.010	(土) 碗	12.9 (最大)	8.8		にぶい黄、にぶい橙（受熱により赤化）	外・底) ナデ？、指頭痕・工具痕有り、スス付着 内・見込み) へら削り、ナデ後一部削り	全体的に歪、底部を意図して作っている
-3	ＳＫ-207	163.950	(土) 壺	(11.8)			橙	外) 横ナデ、一部刷毛目、刷毛目後一部ナデ、スス付着 内) ナデ、ヘラ削り	赤彩？
-4	ＳＫ-207	163.900	(土) 甕	(13.4)	18.9？19.2		にぶい黄橙	外・底) 横ナデ、ナデ、工具痕有り、スス付着 内・見込み) ヘラ削り、ヘラ削り後ナデスス付着	
-5	ＳＫ-207	163.910	(土) 小甕？	(19.4)			にぶい黄橙、黄灰	外) 工具によるナデ、指頭痕有り、スス付着 内) ヘラ削り後工具ナデかナデ	口縁部が歪、傾き・径不確実

観察表６（ＳＴ）

挿図	遺構名	出土レベル(m)	器種	口径	器高	底径	色調	調整	備考
140-1	ＳＴ-029		(土) 浅鉢	(16.8)			浅黄橙	外) 回転横ナデ、ナデ後剛毛　内) 削り、横ナデ	
-2	ＳＴ-029	165.840	(土)				にぶい橙	外) 回転横ナデ　内) 型押し？	
-3	ＳＴ-029		(土)				灰白	外) 回転横ナデ　底部) ナデ	
145-1	ＳＴ-059	166.850	(土) 甕	(31.8)			浅黄橙、褐灰	外) 指押さえ後剛毛目後ヘラミガキ、剛毛目　内) ヘラ削り	
-2	ＳＴ-059		(土) 甕				灰白	外) 横方向の剛毛目、横ナデ　内) ヘラ削り、横ナデ	
150-1	ＳＴ-086	165.440	(土)			(7.6)	浅黄橙	外) 回転ナデ　見込み) 回転ナデ　底) 糸切り後ナデ	
158-1	ＳＴ-138	166.175	(土)		3.1		橙	外・内) ナデ　見込み) 回転ナデ後ナデ　底) ヘラ切り後ナデ	板目痕有り？
-1	ＳＴ-141	166.500	(輸) 緑釉盤				橙) ときわ色？マラカイトグリーン	外・内) ナデ	華南三彩12～13c
159-1	ＳＴ-147	166.665	(土) 皿	(7.3)	1.4	(6.2)	橙	外・内・見込み) 回転ナデ　底) 静止糸切り後ナデ	
-2	ＳＴ-147	166.625	(土) 皿	(8.0)	1.5	(6.4)	浅黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ　底) 糸切り	
-3	ＳＴ-147	166.600	(土) 皿	(8.2)	1.8	(6.0)	淡橙	外・内・見込み) 回転ナデ　底) 糸切り後ナデ	
-4	ＳＴ-147	166.595	(土) 坏	(13.0)	3.1	(9.0)	浅黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ　底) 糸切り後ナデ	
167-1	ＳＴ-197	165.790	(土) 甕	(28.2)			浅黄橙、橙、にぶい赤褐色、黒褐色	外) 剛毛目、横ナデ　内) ヘラ削り、横ナデ	
-2	ＳＴ-197	165.560 165.610	(土)	(17.4)			浅黄橙	外・内) ナデ	
170-1	ＳＴ-206		(土) 甕	(24.9)			にぶい赤褐色、にぶい橙	外) 平行文タタキ、横ナデ、スス付着？　内) 同心円文タタキ	

観察表７（ＳＸ）

挿図	遺構名	出土レベル(m)	器種	口径	器高	底径	色調	調整	備考
175-1	ＳＸ-01		(土) 皿	(12.0)	3.2	(8.6)	橙	外・内・見込み) 回転ナデ　底) 糸切後ナデ	
-2	ＳＸ-01		(土) 皿	12.9	3.4	10.3	橙	外・内・見込み) 回転ナデ　底) ヘラ削り後ナデ	
176-1	ＳＸ-02	165.720	(土) 坏	12.9	3.7	8.0	浅黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ　底) 糸底	
-2	ＳＸ-02	165.695	(土) 坏	13.8	3.9	8.8	浅黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ　底) 糸底	
-3	ＳＸ-02		(鉄) 刀子						
178-1	ＳＸ-04		瓦質（茶壺？）	5.2	3.3		灰		
-2	ＳＸ-04	166.170	(土) 皿	8.65	1.8	7.2	浅黄橙	外・内・見込み) 回転ナデ　底) 糸切、精製悪い	燈明皿
-3	ＳＸ-04		(土) 皿	8.1	1.5	6.5	にぶい橙	外) 回転ナデ　内・見込み) 回転ナデ後ナデ　底) 糸切後ナデ	燈明皿
-4	ＳＸ-04		(土) 皿	(8.8)	1.5	(7.4)	褐灰	外・内・見込み) 回転ナデ　底) 糸切り後ナデ	燈明皿
179-1	ＳＸ-05		銅製品？						
180-1	ＳＸ-07	165.535 165.570	(土) 甕	(13.6)			浅黄橙、にぶい橙、褐灰	外) 剛毛　内) 削り	
-2	ＳＸ-07	165.545	(土) 甕	(27.2)			浅黄橙、灰黄褐色	外) 剛毛目後横ナデ、剛毛目　内) 剛毛目後横ナデ、ヘラ削り	
-3	ＳＸ-07	165.525	(土) 甕	(31.2)	26.6		灰白、にぶい橙	外) 横ナデ、タタキ後横剛毛、タタキ後剛毛目　底) タタキ後剛毛目 内) 横ナデ、横ナデ後一部削り、ヘラ削り後一部ナデ　見込み) ヘラ削り後一部ナデ	
181-1	ＳＸ-09		(鉄) 馬具（轡）						
182-1	ＳＸ-10		(輸) 白磁　碗	(16.2)			ミストグリーン	外) 施釉　内) 施釉、櫛描文	Ⅴ-4b,12c前～後半、やや歪
-2	ＳＸ-10		(輸) 白磁　碗	(17.4)			リリーホワイト	外) 削り？、施釉、櫛描文　内) 施釉、櫛描文	Ⅴ-4c,12c前～後半
-3	ＳＸ-10		(輸) 白磁　壺			(9.3)	ミストグリーン	外) 施釉、沈線文　内) 回転ナデ、施釉 見込み) 施釉　底・高台) 削り出し高台、一部釉だれ有り	四耳壺,11c後半頃 外器面胴部下半～貫入有り
-4	ＳＸ-10		(輸) 白磁　碗	(14.4)	4.1	(7.4)	ミストグリーン	外) 削り、施釉、櫛描文　内) 施釉、沈線文、櫛描文 見込み) 施釉　底・高台) 削り	12c前？後半、Ⅵ-1b

古銭データ

図版	遺構名	銭貨名	国名　初鋳年（西暦）	備考
24－1	ＳＢ－39　Pit10	太平通寶	北宋　976年	
－1	ＳＢ－40　Pit23	太平通寶	北宋　976年	
－2	ＳＢ－40不明	太平通寶	北宋　976年	
－3	ＳＢ－40不明	太平通寶	北宋　976年	
34－5	ＳＢ－50　Pit 6	明道元寶	北宋　1032年	篆母
－6	ＳＢ－50　Pit 4	明道元寶	北宋　1032年	篆母
－6	ＳＢ－52　Pit 1	宣和通寶	北宋　1119年	分楷　7,8と接着
－7	ＳＢ－52　Pit 1	紹熙元寶	南宋　1190年	背三か背五？ 6,8と接着
－8	ＳＢ－52　Pit 1	元豊通寶	北宋　1078年	篆母　6,7と接着
39－3	ＳＢ－56　Pit 8	紹聖元寶	北宋　1094年	行母
－4	ＳＢ－56　Pit 4	熙寧元寶	北宋　1068年	真母
－4	ＳＢ－59　Pit 1	明道元寶	北宋　1032年	
53－3	ＳＡ－4	元□通寶		
－4	ＳＡ－8	政和通寶	北宋　1111年	分楷
176－4	ＳＸ－2	嘉祐通寶	北宋　1056年	真母
－5	ＳＸ－2	熙寧元寶	北宋　1068年	真母
－6	ＳＸ－2	熙寧元寶	北宋　1068年	篆母
－7	ＳＸ－2	政和通寶	北宋　1111年	篆母
－8	ＳＸ－2	至道元寶	北宋　995年	行母
－9	ＳＸ－2	天禧通寶	北宋　1017年	
－10	ＳＸ－2	皇宋通寶	北宋　1038年	真母
－11	ＳＸ－2	元豊通寶	北宋　1078年	篆母
－12	ＳＸ－2	開元通寶	南唐　960年	13,14,15,16と接着

図版	遺構名	銭貨名	国名　初鋳年（西暦）	備考
−13	ＳＸ−２	景徳元寶	北宋　1004年	篆書
	ＳＸ−２			12,14,15,16と接着
−14	ＳＸ−２	熙寧元寶	北宋　1068年	篆書　背ありか？
	ＳＸ−２			12,13,15,16と接着
−15	ＳＸ−２	元祐通寶	北宋　1086年	行書
	ＳＸ−２			12,13,14,16と接着
−16	ＳＸ−２	聖宋元寶	北宋　1101年	行書
	ＳＸ−２			12,13,14,15と接着
−17	ＳＸ−２	景祐元寶	北宋　1101年	真書
−18	ＳＸ−２	元祐通寶	北宋　1086年	行書
図版	遺構名	銭貨名	国名　初鋳年（西暦）	備考
177−19	ＳＸ−２	開元通寶	唐　621年	上月
−20	ＳＸ−２	天聖元寶	北宋　1023年	真書
−21	ＳＸ−２	天聖元寶	北宋　1023年	篆書
−22	ＳＸ−２	皇宋通寶	北宋　1038年	篆書
−23	ＳＸ−２	治平元寶	北宋　1064年	篆書
−24	ＳＸ−２	元豊通寶	北宋　1078年	行書
−25	ＳＸ−２	元祐通寶	北宋　1086年	篆書
−26	ＳＸ−２	元祐通寶	北宋　1086年	篆書
−27	ＳＸ−２	元符通寶	北宋　1098年	篆書
−28	ＳＸ−２	祥符元寶	北宋　1009年	
−29	ＳＸ−２	聖宋元寶	北宋　1101年	行書
−30	ＳＸ−２	開禧通寶	南宋　1205年	
−31	ＳＸ−２	嘉定通寶	南宋　1208年	背元か背六
177−１	ＳＸ−３	開元通寶	621年	行書　５と２枚接着
−２	ＳＸ−３	皇宋通寶	北宋　1038年	真書
−３	ＳＸ−３	熙寧元寶	北宋　1068年	篆書
−４	ＳＸ−３	元豊通寶	北宋　1078年	行書
−５	ＳＸ−３	元祐通寶	北宋　1086年	行書　１と２枚接着
−６	ＳＸ−３	元祐通寶	北宋　1086年	行書　７と２枚接着
−７	ＳＸ−３	紹聖元寶	北宋　1094年	行書　６と２枚接着
−８	ＳＸ−３	聖宋元寶	北宋　1101年	行書
図版	遺構名	銭貨名	国名　初鋳年（西暦）	備考
178−５	ＳＸ−４	元豊通寶	北宋　1078年	行書
−６	ＳＸ−４	元豊通寶	北宋　1078年	行書

現場説明会

ＳＸ－３

Ｎ－16にて検出された。最初土坑としてあったが、不明遺構としてここに提示した。出土物は古銭が中心であり、総数８枚であるが、ＳＸ－２と状況が類似している。また掘り込みは斜面を呈することからこれも柱抜き取り痕とも思われる。単独で出土しているが対掘立柱建物と対応の可能性も考えられる。

ＳＸ－４

調査Ｄ区にて検出された。長軸2.6m・短軸2.0mの不定形プランである。遺構北側にピット状の掘り込みがあり礎石が見られることからピットが後に切り合っている可能性もある。埋土は何層にも見られるが全体的に乱れており一括して埋められた状態である。埋土にはカーボン・焼土ブロックも見られる。生活雑器から生産具・古銭と遺物は混在しており、廃棄の土坑であろう。

ＳＸ－５

Ｋ－9グリットにて検出された。1.1m×0.9mの楕円型を呈し深さ0.4mを測る。埋土に灰層が中央から検出され、その下位からカーボン層が見られた。床直には拳大のやや厚みのある砂岩石が敷き詰められるように配置されていた。灰層の厚みは10cm・カーボン層は4cm程の厚みを持つ。このカーボンをサンプリングとして㈱古環境研究所に樹種同定を依頼した。その結果は第Ⅲ章科学分析で述べる。このような構成を持った遺構は本遺跡では１例だけである。灰・カーボンから火気使用は明らかであることからこれまで類例が報告されている鍛冶遺構であろうか。また埋土内から銅製品が出土している。この製品は4cm×1.8cm・厚さ0.2cmで短軸方向に波打ち状の形態である。

ＳＸ－６

Ｈ－10グリット内で検出された。この遺構は２本のピット状の掘り込みであるが、本来は長軸1.6m・短軸1.2mの遺構とピットの切り合いである。切り合い関係は明確でないが、ピット１はＳＢ－50のピット11・ピット２はＳＢ－52のピット９に対応する。このピット１から人骨が検出された。人骨は骨片２点で火葬骨であった。人骨出土であることから土壙墓と思われるが出土状態が明確でないことからここに仮置きした。

ＳＸ－７

Ｄ－６グリット内で検出された。東方向をピット状の切り合いがあるが、遺構は楕円形を呈し、床面にカーボン、検出面に粘土層が見られる。遺構西端に遺物出土が見られ、いずれも土師器で小型甕１・甕２・３が出土している。床面のカーボン・検出面に粘土層から竈遺構か。

ＳＸ－８

Ｘ－６グリット内で検出された。南北両端を削平されているが径10～20cm程の礫が集石状にあり、厚みを持たず平坦な状態である。この下には堀り込みがあり、埋土は１層である。近接する県指定遺跡勝福寺古塔群に見られる敷石遺構（写真図版８　No.29）に類似していることからこの可能性もある。

ＳＸ－９・10

ＳＸ－９・10はピット状を呈した遺構で本遺跡から２遺構を提示する。ピット状の掘り込みに特長があるのではなく、その出土物に注目した。

ＳＸ－９

ＳＸ－９はＬ－16グリットでの検出で底部からやや浮いた状態で馬具が出土した。馬具は轡部分で右鏡板を欠失していたが、左鏡板と喰部と引き手部が残存していた。これを反転復元したものが第181図である。鏡板は最大幅8.8cmで、円環状をなし下部を蕨手状に巻き上げてある。頂部には立聞の痕跡が見れる。喰は２連で大小の環を作りだし、大は鏡板と引手に小は片方の喰部に連結している。左喰部は連結部から鏡板方向に時計回りの撚りがかかる。また引手にも同様の撚りが見られる。鏡板の形態から９～10Ｃの遺物か。

ＳＸ－10

Ｙ－（－１）グリットでの検出した。清掃時に輸入磁器が出土したため、改めて周囲の清掃と検出を行ったところピット検出面から中層にかけて輸入磁器の破片がブロック状に混入されていた。この状態はＳＢ－４のピット10での輸入磁器の出土状況と類似しているため、このＳＸ－10はＳＢ（掘立柱建物）のピットとも考えられ、周囲の検出に努めたがこれを確認することはできなかった。埋納遺構の一種か。

第2節　遺　物

1　はじめに

遺物は多種多様であるため、これを日常器・金属器・生産具・特殊遺物の4種に大別した。以下この類別に従う。遺物については概説として述べ、観察表（表14）を参考とされたい。

2　日常器

日常器という概念は日常生活に於いて使用される器の意で、日常生活のなかには「ハレ」・「イミ」など日常生活の中に区別等もあるが、本遺跡では便宜上「日常器」ということで包括した。

土師器（第183～185図）

土師器は皿・坏の配列は底部の状態で配列をした。つまり糸切底とそれ以外である。1～8は皿であるが1～3まではヘラ切りを施す。何れも口径10cm未満で器高2cm未満である。3は外器面は丁寧なナデ調整が見られる。また底部は板目状圧痕が見られる。4～8は糸切底で4は体部の開きが小さく短く立ち上がる。8は底径が9.8cmと大型である。9から19までは坏とした。9～11はヘラ切りで口径に対し器高の数値が高い。11は口縁部を欠く資料であるが、底部状態と立ち上がりから同類であろう。12～19は口径に対し器高が1/3程である。底部切り離しは12～14ははヘラ・他は糸切である。20は高台付碗で21は脚台付鉢とした。

22・23は甕である。外反する口縁部を持つが、22の外反は大きく何れも頸部が僅かにすぼまる。23は胴部の張りが少ない。24は小型甕で緩やかな外反口縁部を持ち、胴部上位が張り頸部がすぼまる。25は胴部上位に最大径を持ち頸部は口唇部は摘みあげたようにすぼまる。小型壺の類であるが異形である。26・27は甕で把手が付く。26は瘤状で27は破損で不明である。

須恵器・中世須恵器（第186～188図）

須恵器は主に坏・蓋・盤が出土している。1は坏身で口径12.4cmを測り、調整は削りを施し器高は4.2cmを測る。2～9は高台を持ち、体部は斜行に立ち上がるが2は他に比べ垂直気味にに立ち上がるため他の坏に比べ口径が小さい。口径は11～13cm間である。9は底部から外器面の一部で口縁部を欠く資料であるが高台径が8にほぼ同数であることと立ち上がりが類似している。7は色調が黄土色で須恵器独特の灰色を有しないが器形が須恵器坏を呈しているためここに仮置した。他の坏に比べ高台の畳付きが先尖である。

10～15は蓋である。つまみの有無がある。擬宝珠形10・扁平12を呈するが、頂上部を欠く資料についてはつまみは不明である。蓋の先端は下方または斜め方向につまみ出されている。自然釉が一部に認められる。

17～28は盤である。口径13～17cm・器高2cm前後を測る。立ち上がりは外反するが、24・25のようにほぼ垂直気味に立ち上がる。29は広口壺で頸部から口縁部資料である。30は円形状の胴部を持つ短頸壺であるか。

31～35は甕の胴部上位から口縁部の資料である。31は反転復元で口径23cmを測る。調整は外器面は格子状叩き・内器面は平行条線である。32～34にも格子状叩きが見られるが、35の内器面は半円状の叩きが見られる。36は壺または甕の胴部下位から底部資料で外器調整は山形状の叩きである。31～36は須恵質であるが1～30までとは時期に差異があり、これらは本稿では中世須恵器と仮称した。

黒色土器（第185図）

いぶし焼きにより器表面に炭を吸収させ黒化処理を施した土器でヘラミガキ手法の組み合わせを黒色土器の定義としてここに分類した。本稿では以下の9点を紹介する。また黒化処理は両面黒色と内器面のみ黒色がみられる。

1は内黒で平底の無高台坏の形態を有する。2は内黒で高台を有し底部から体部にかけて直線に開く形状をとる。3は足高の高台に深く内湾する体部を有する器形で体部は緩やかに湾曲しながら立ち上がる。8・4は3に比べ外反がゆるやかで、やや低い高台を持つ。ゆるやかにか立ち上がる器形である。5の高台は不明であるが体部の立ち上がりから8・4の系譜であろう。6・7は底部資料であるが高台の状態から8の系譜であろう。7の高台は外反している。7は両面内黒で他は内黒である。9は明確なヘラミガキが見ら

れないが、いぶし焼きで黒色を呈し、その高台は円盤状を呈し南九州に見られる形態である。第189図は黒色土器の出土分布状態で破片ではあるが、遺跡北東～南西軸と南東端に集中区が見られる。

墨書・ヘラ記号土器（第190図）

墨書土器として６点、ヘラ記号土器３点を提示した。いずれも土師器である。**1**は内黒椀の外器面に墨書で「井」が書かれている。これは漢字としての「井」と読めるが、平川南氏の指摘にあるように、一種の記号としての墨書と考えるならば、呪符等に用いられるドーマンと呼ばれる魔除けの記号であるか。また海女の磯ノミに魔除けとして刻印されており民俗事例の中でも類例を見る。**3**も○字状を呈しておりこれも記号であるか。他は漢字の一部分であろうが一部分であるため判読するには厳しい。**5**は底部に墨書が見られる。ヘラ記号はいずれも底部に見られ、底部切り離しははヘラ切りである。**6**・**7**・**8**は鋭利な道具で沈線を構成する。**6**は交差が○に十字状、**7**は一本沈線に３本の沈線が交差している。また**8**は「Ｘ」字状と「Ｔ」字状の沈線が確認される。これらも記号の一種か。

輸入陶磁器（第191・192図）

輸入磁器は日常器とはやや性格の異なる遺物であるが整理上ここに仮置した。本遺跡から輸入磁器は破片を含めて多量の出土があり、遺跡のグレードを窺い知る材料の一つであるが、遺構に伴う輸入磁器は掲載しているので、本項では27点の提示に留めた。

1～**6**・**20**は碗である。**3**は15Ｃ前半で本遺跡の輸入磁器中で最も新しい。**4**・**5**は天目茶碗である。**6**・**18**は越州窯で９～10Ｃ。**12**～**19**は水注・壺・瓶である。**15**・**16**は梅瓶で文様が素晴らしい。**21**～**25**は合子で**23**・**24**も陽刻を施す。**26**は黒釉陶器で茶入れか。**27**（写真図版４　Ｎｏ.15）は下位部資料である。二次焼成を受け釉が爛れているが多彩が僅かに見れる。明代華南系か。

第193図は輸入磁器分布図で遺跡中央に密集が見られる。また第194図は輸入磁器片であるが、これはＳＫ（土壙墓）の埋土から出土したものである。ＳＫとしての認識としてＣ類の伴献物の出土が認められたが、この伴献物が輸入磁器破片の類例があり、何れも死床面かその直上であった。第194図の輸入磁器片は調査Ｃ区の墓域等を中心としており、第194図の輸入磁器分布の密集は薄いが分布は認められることから、流れ込みの可能性もあるが、供献の可能性も否定できないため、参考として提示した。

国内陶磁器（第195図）

1は瓶子の底部から胴部下位の資料である。釉は流れの多い釉縞が認められる。釉の特徴から古瀬戸であろう。13Ｃの産物か。

2から**3**までは常滑窯の口縁部資料で断面Ｎ字状を呈する口縁形態で外反させさらに口縁を形成するが、**6**では口縁の端部を折り返して縁帯状に形成する。13Ｃ後半～15Ｃ中期頃の資料である。**7**は胴部上位・**8**は底部から胴部下位の資料である。**7**の外器面には「ゴマ塩」と呼ばれる灰被りの現象が見られ、その色調は暗灰黄の自然釉が見られる。底部は平底を呈することが確認される。釉の色調は鈍橙である。何れも常滑窯であろう。

捏鉢・擂鉢（第195～197図）

1～**9**は捏鉢で何れも須恵質土器である。内器面の調整は**1**・**6**は横ハケ、**2**・**3**は上位は斜行ハケ、下位は横ハケである。また**2**は下位に僅かであるが１条の櫛目が縦→斜行に見られることから擂鉢か。**4**・**5**・**8**の内器面はナデ調整。**7**・**9**は底部資料で**7**は時計回り、**9**は渦巻き状のハケが見られる。

10～**16**は擂鉢で**13**・**14**は土師質土器で他は須恵質土器である。擂り目は１～３条と多様である。**10**は口唇部に一条の沈線が走る。**16**は１条の擂り目であるが縦－斜に行われている。

17と**18**は瓦質土器であり、整理上ここに仮設した。**17**は鉢の破片。浅鉢形と思われ内器に横方向のハケ目調整、口縁部を外折し鍔状にする。上面に巴紋の二つ巴が見れる。**18**は体部外面に凸帯が巡る。石鍋の模倣か。

滑石製品（第197・198図）

本遺跡からは滑石を原料とした遺物が出土したが、本来は石鍋として当地に持ち込まれたものであろうが、破損等により二次加工製品も見られるが、滑石製品としてここに配置した。**1**～**7**は石鍋で口縁部の鍔の位置や立ち上がりの状態で、石鍋編年試案（木

戸　1995年）を参考とし時期的に配置した。

7は鍔直上に孔が窺ってある。8～10は石鍋底部である。9は底径8㎝程であるが10は17㎝を測り大型である。外器・内器の加工痕が明瞭である。

11～24は滑石製品であるがその大半は目的が不明であるため図版の天地は仮置としている。11・12は孔を持つ遺物で、孔が遺物の性格を窺い知る鍵となるのであるが使用目的は不明である。この中で遺物の性格が見れるのは13～18で棒状に切り目が2～3ヶ所見られる。民俗例から沈子の形態に酷似している。20～23は平坦部に摘み状の突起部が見られるもので、この突起物には孔が窺ってある。石鍋の補修具と考えられている。19は扁平な形態に摘み状の部分がある、何かの制作途中であろうか。24の材質は滑石ではないが、ここに仮置きした。ほぼ正方形の形態の端部に孔が窺ってある。全体に擦り状態が見られる。温石か。これらは、制作目的のために制作されたのか、滑石製品の主である石鍋の破片の再加工かの判断は困難である。

3　金属器

遺物の3として金属器を取り上げるが、本遺跡では「鉄」・「銅」の二種であった。

鉄（第199・200図）

鉄製品としてここに提示する遺物は、鉄鋳造に伴い出土する鉄鉱鉾を除いた遺物である。武具・生産具・生活具等が見られた。1・2は雁又、3は板状で二方向に斜めに切り落としている形態で、鎧の一部である小札であろう。出土状態は不明である。本遺跡から1点だけである。4は独楽状を呈していることから紡錘車であろう。5～7は釘である。釘は本遺跡からはＳＢ・ＳＡ・ＳＫから出土しているがここに提示してものは大・中・小を提示した。7は先端を折り曲げて釘頭を形成している。それぞれの断面は方形・長方形を呈する。8は釣針でわずかであるがかえしの部分がみえる。9は槍鉋であろうが先端の瘤状の突起物がやや気になる。14も槍鉋と思われる。10は刀子であるが刀子はＳＸ－2からも出土している。12は発火器である火打鎌である。13は雁又状でもあるが使用目的は不明である。板状を呈しているために製品としての未加工品か。15はキャップ状を呈し貫通はしていない遺物である。不明製品であるがここに提示する。16は釘状に見立てると先端は尖り頭部は環状を呈している。ＳＢ－23で出土している壺金に類似している。

銅製品（第200図）

1は高坏状の形状で上部の碗に1本、脚部に3本、底部に2本、外器面に細沈線が確認される。全長3.0㎝　坏の法量は11.6㎡である。その形状から飯食器で、現在での仏具、「仏飯具」であろう。2は器高2.7㎝　重量34.2ｇを測る。青森県尻八館出土の遺物に酷似しており同遺跡は13～15世紀に位置づけされている。形状は上部に宝珠形を呈し摘み状の突端にがあり、ここに紐孔が窺ってあるが貫通ではない。下部は台形柱を呈する。出土地は調査Ｅ区でＳＫ－206に近接している。測量具の「権」であろう。3は押しピン状を呈しピンの部分は断面は長方形を成し先端は欠損であろうが尖頭状である。調度品の「鋲」か。第200図は古銭である。初鋳年から羅列した。古銭の出土状態はＳＢ・ＳＡ・ＳＸで確認されているが、ここに提示したものは包含層から出土のものである。

4　生産具

4は生産具として生産過程において使用される道具を提示した。

土錘（第201図）

本遺跡の土錘はその形態から全長4～5㎝・幅1㎝程度（1～8）、全長5～6㎝・幅2㎝程度（9～14）、全長4～5㎝・幅2～3㎝（15～22）全長6～8㎝・幅2～3㎝（23～26）、全長6～7㎝・幅5㎝（27・28）、に分類できる。形態から土錘であると思われるが網漁に使用されたものであろう。1・3には形成時の指ナデが見られる。土錘は漁網の下位に配置する沈子で、通常は均一した沈子を使用する。ＳＸ－4での均一した形態の資料は参考となる。形態に差があるのは漁網類の問題か。民俗例では、「孔径の2乗値Ｌ、土錘の長さを最大幅で除した数値Ｐを計測すると$0 \leqq L \leqq 0.25$で$1 < P < 7.0$の刺網のものと$0.25 < L$で$1 < P < 3.0$の袋網系（地

曳網、底曳網）に大きく分けることができる。」という数式がある（真鍋篤行・瀬戸内海歴史民俗資料館）ことから、参考として観察表では刺網系・袋網系を提示した。

砥石（第202図）

遺跡からは擦痕跡が確認される遺物が数点あるが、これを砥石と想定した。1は本遺跡最大の砥石で四面が使用されているためその断面は長方形を呈している。擦り痕跡が長軸方向に見られる。4は小型の砥石で使用した面は一面だけであるがその使用痕跡はVまたはU字状の溝を呈し数条確認される。砥石には面砥石の**1**・**2**・**3**、線砥石の**4**が存在する。

紡錘車（第202図）

扁平の円または楕円形の中央に孔を窺う遺物が数点見られる。**6**・**8**は円形で**8**は反転復元をしている。**7**はやや不定形を呈する。**6**・**8**は意図的に制作されているが**7**は土師器片の再利用である。紡錘車の一種か。

羽口（第202図）

K－8グリット内のピットから出土している。反転復元により中心に孔を窺う遺物で、直径は8㎝・孔径2㎝を呈すると思われる。全体に火受が見られ、鞴の羽口と思われる。火受の状態はトーンで提示し、濃度の強い方がこれが大きい。第203図は鉄鉱鋳の分布を提示した。遺跡中央からやや東に集中が見られる。

5　特殊遺物（第204・205図）

ここではこれまでの分類に属さない遺物が中心である。目的不明遺物もあり、ここに類別した。

瓦（第205図　**1**・**2**）

本遺跡から2点の瓦が出土している。いずれも平瓦で凸面の叩き締めの痕跡と思われる縄目が見れる。凹面は布目痕が確認される。いずれも破片である。

硯（第204図　**3**）

幅6.0㎝・長さは残存で9.4㎝の長方硯。内側に縁帯を持つ。硯の中央部が残存しており陸部の一部にあたると思われる。図版上部の海部に向かって鈍角に下る。SD区－8より出土。

輸入磁器二次加工品（第204図　**1**～**3**）

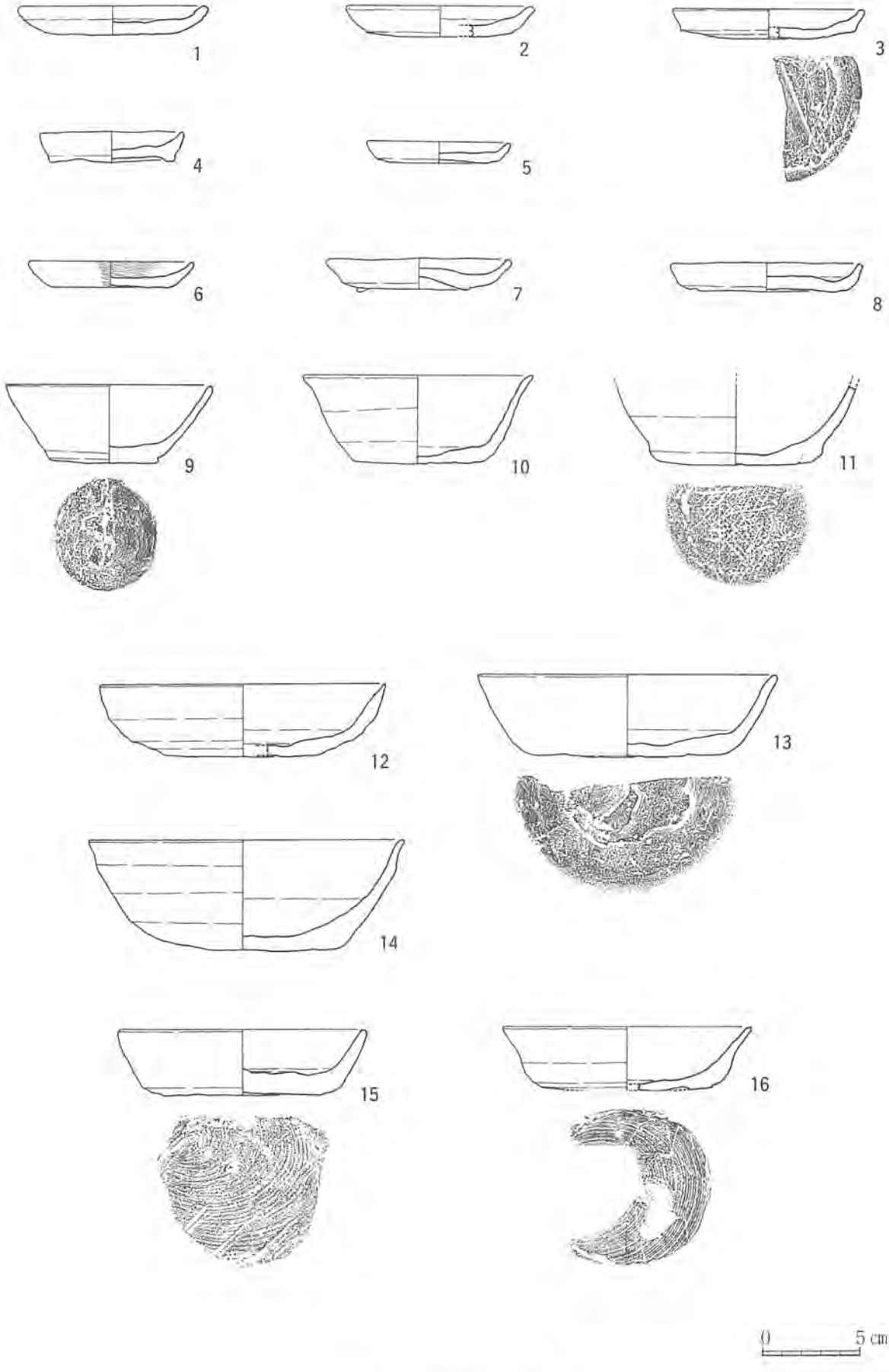
輸入磁器の見込み部を高台に沿い、意図的に残すような整形を成す遺物で3点を提示した。遺構にも伴わず出土の傾向も見らない。遊技道具の一種で「瓦玉」と呼ばれるものか。

スタンプ付土師器（第205図　**4**）

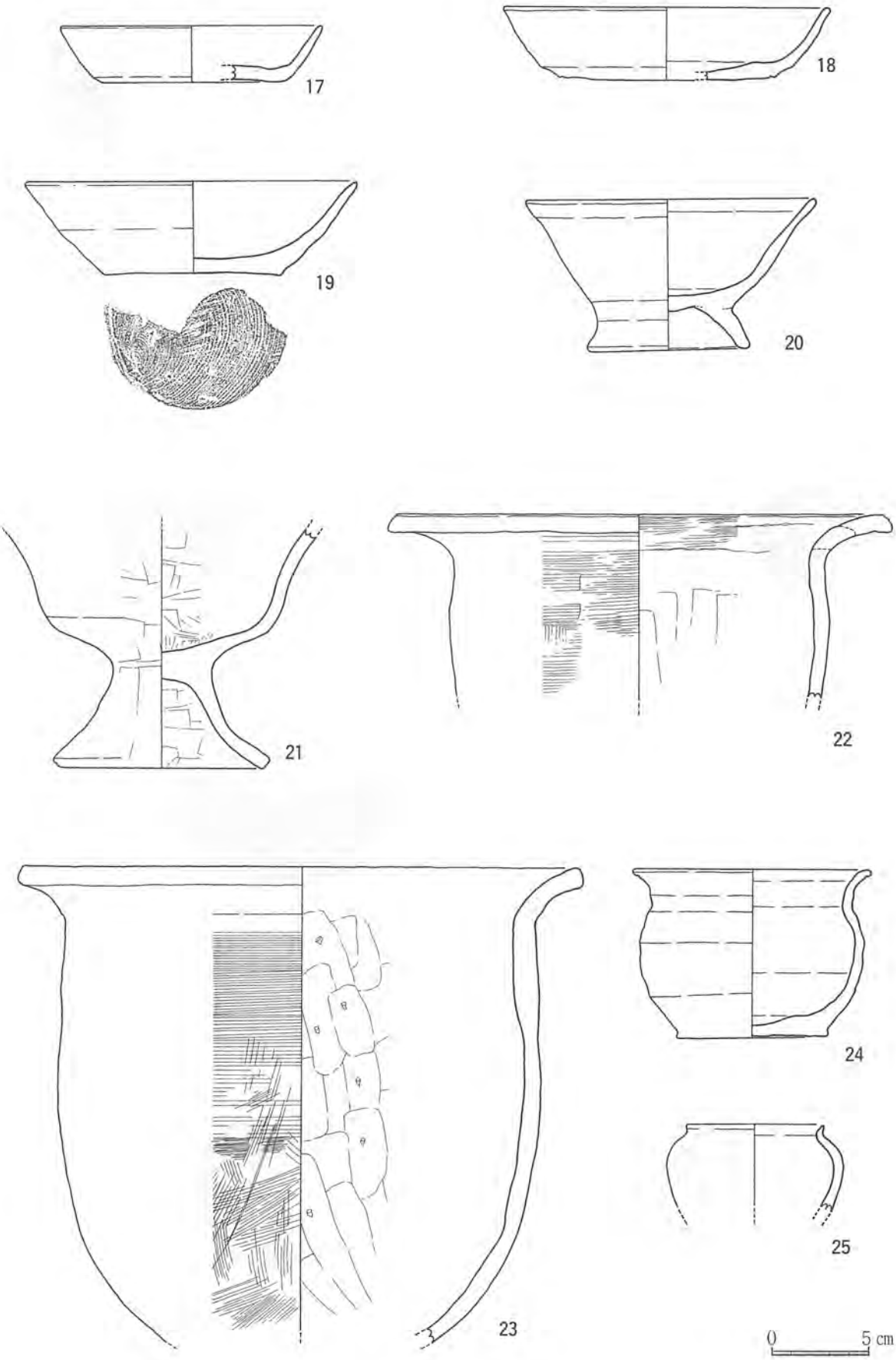
4は土師器の見込み部に菊花状のスタンプが施される。またその形態は中心点に花弁状に配置され、中央に1点・周囲に6点が見える。このスタンプは「奈良火鉢」の外器体部に見られる印文に類似している。底部の厚みと底径から皿と思われ、底部は板状圧痕が残るが糸切り後ナデ調整が行われている。本遺跡からは1点のみで特異な遺物である。

ペッティングストーン（第205図　**5**～**11**）

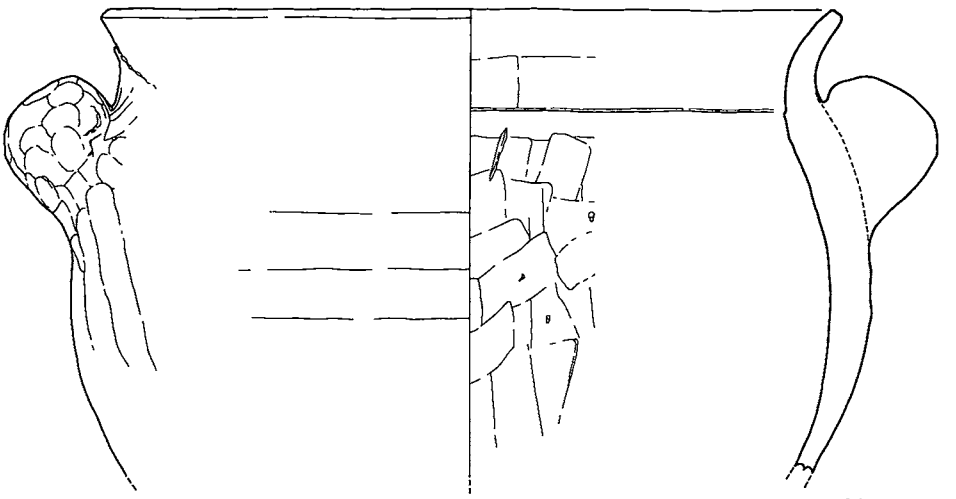
円・または楕円形の平坦石を意図的に磨きが見られる遺物をここに提示した。いわゆるペッティングストーンと呼ばれるもので長軸2㎝に均一が見られるが、最小で**5**の1.3㎝・最大で**11**の4.7㎝が見られる。自然石を意図的に加工しており、遺物出土数も少数であることから、生産の道具とは考えにくく、これも遊技等の諸道具か。

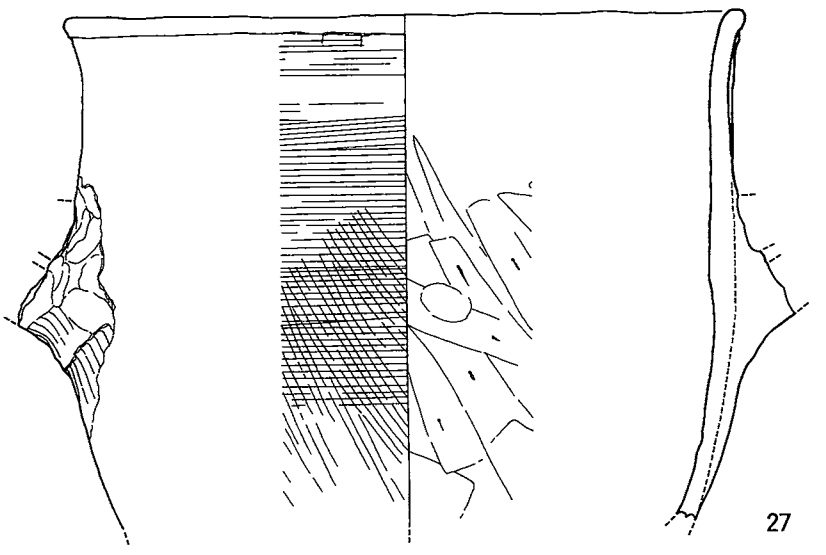


第183図　日常器1（土師器）



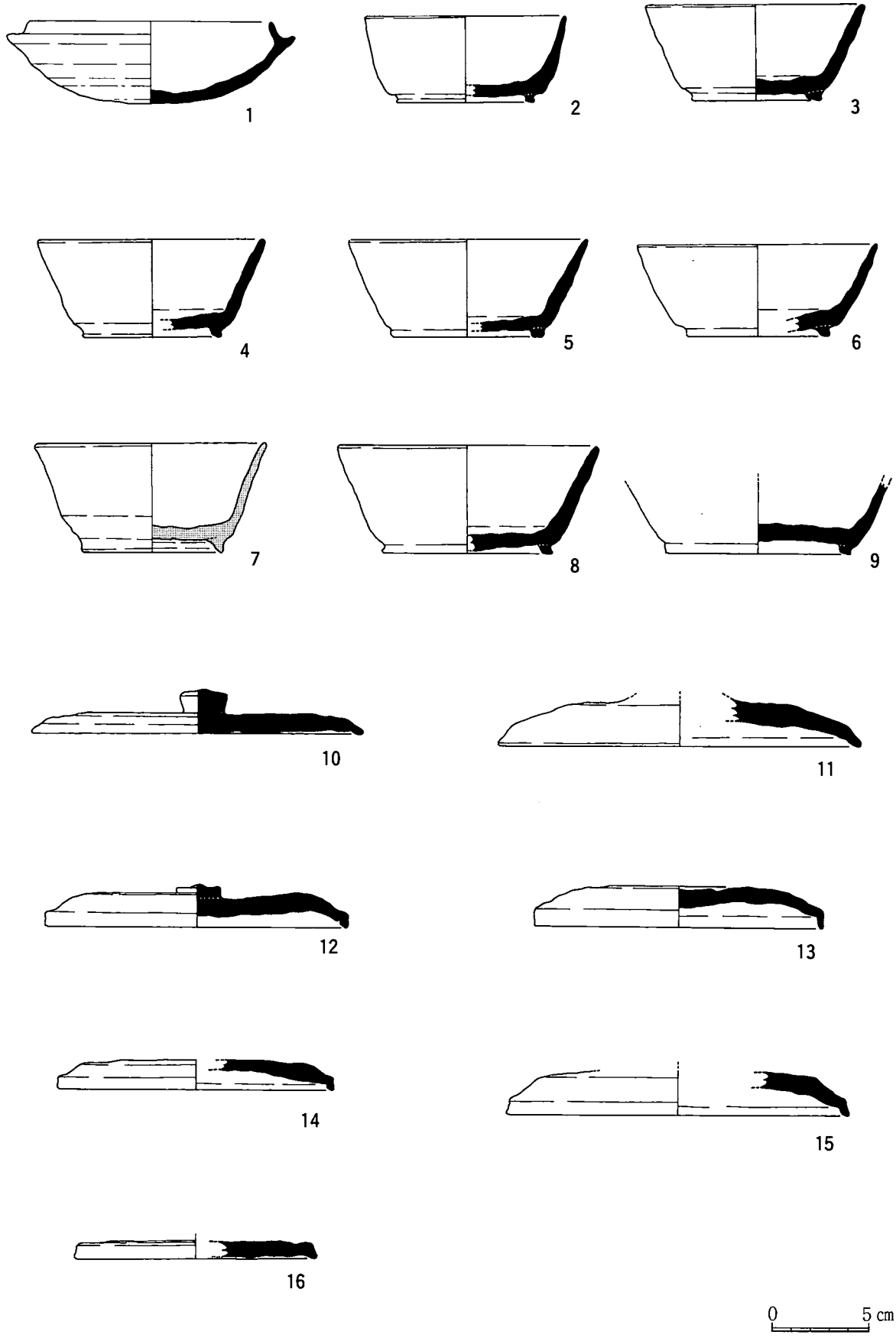
第184図　日常器２（土師器）



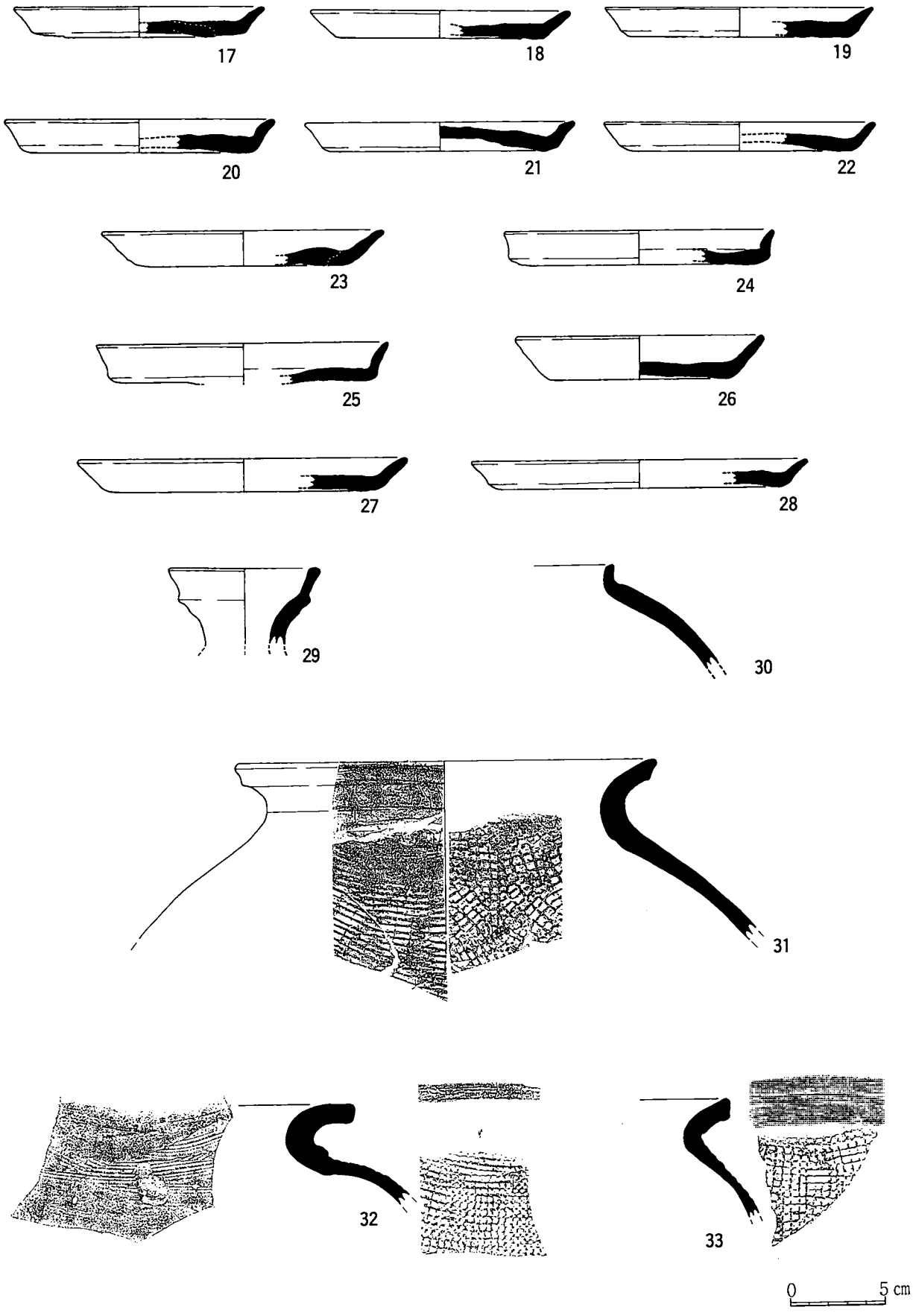


0　5 cm

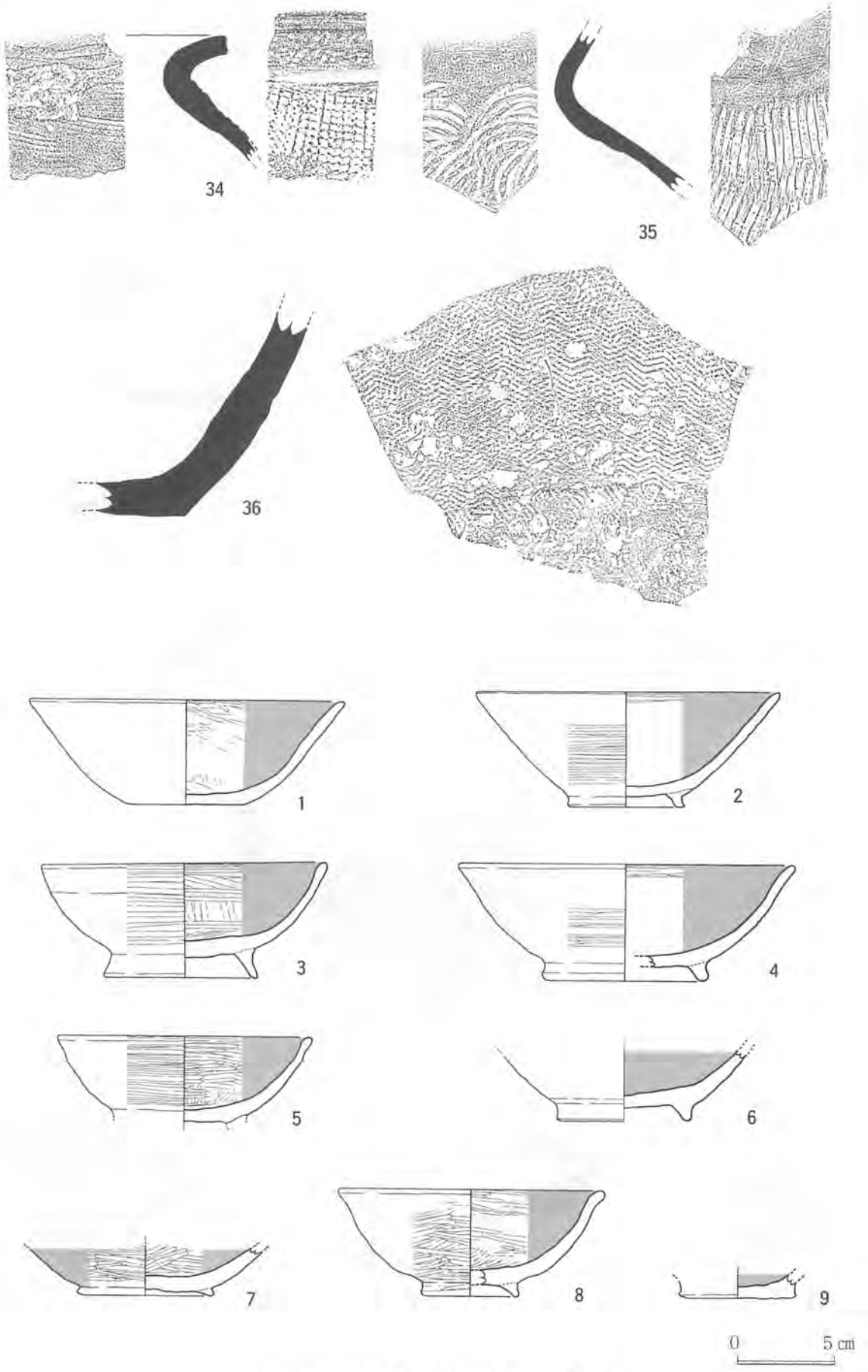
第185図　日常器3（土師器）



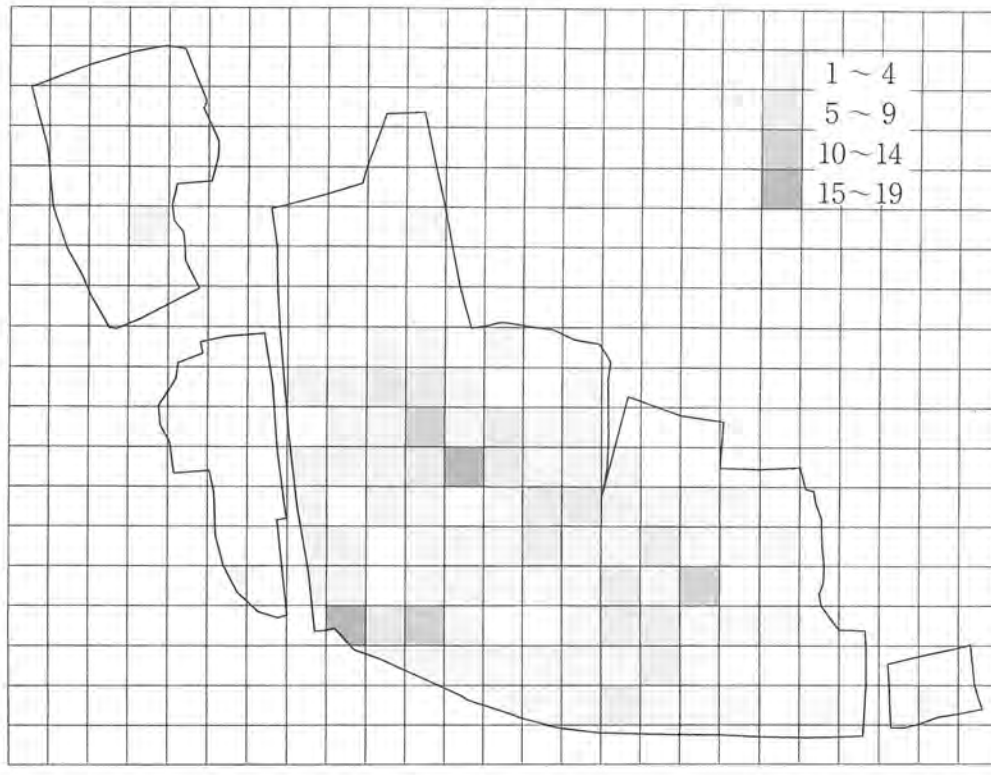
第186図　日常器４（須恵器）



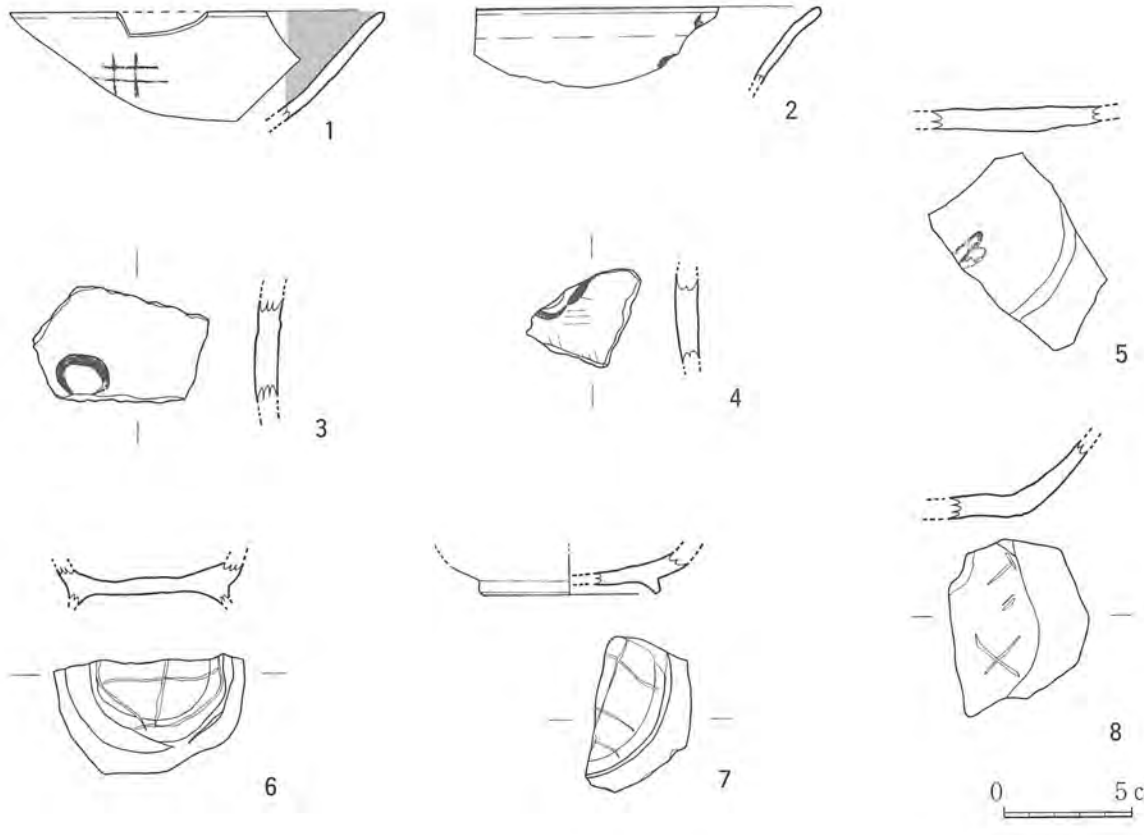
第187図　日常器5（須恵器・中世須恵器）



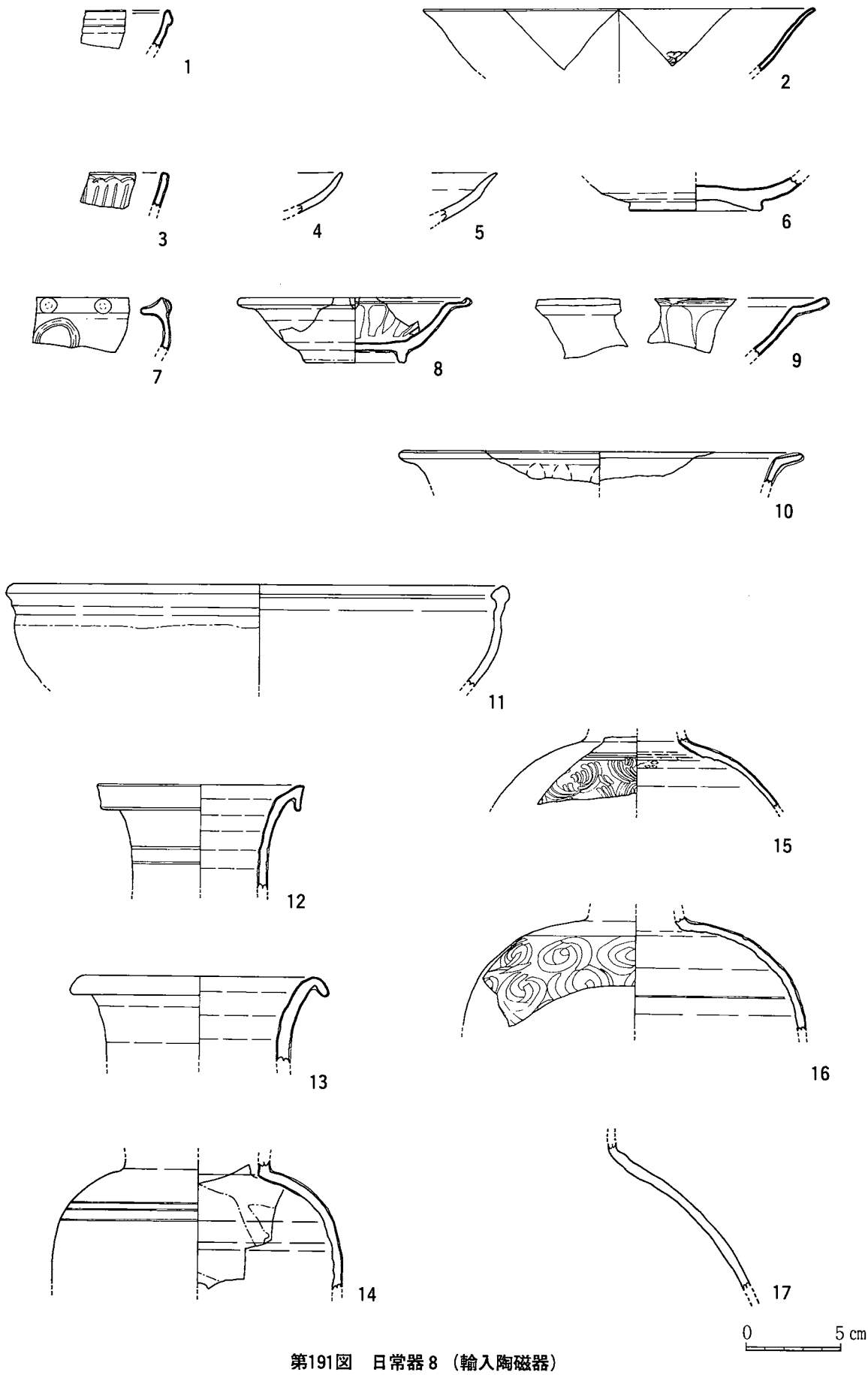
第188図　日常器６（中世須恵器・里色土器）



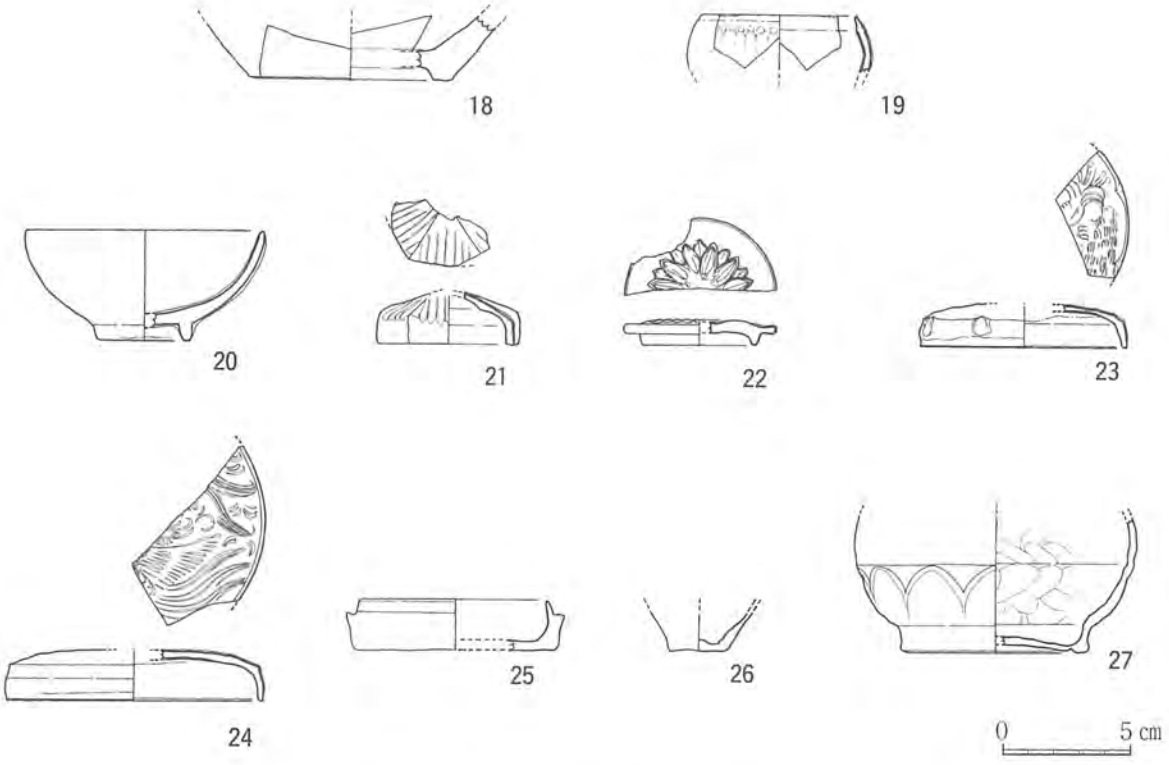
第189図　黒色土器出土分布図



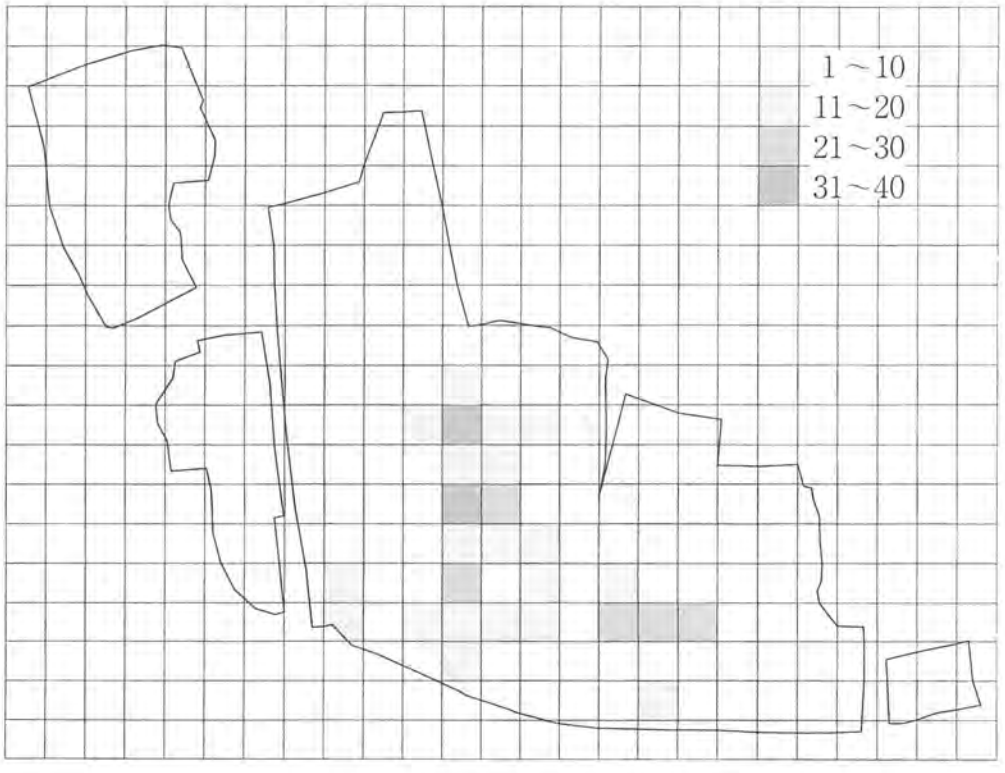
第190図　日常器７（墨書土器・ヘラ記号）



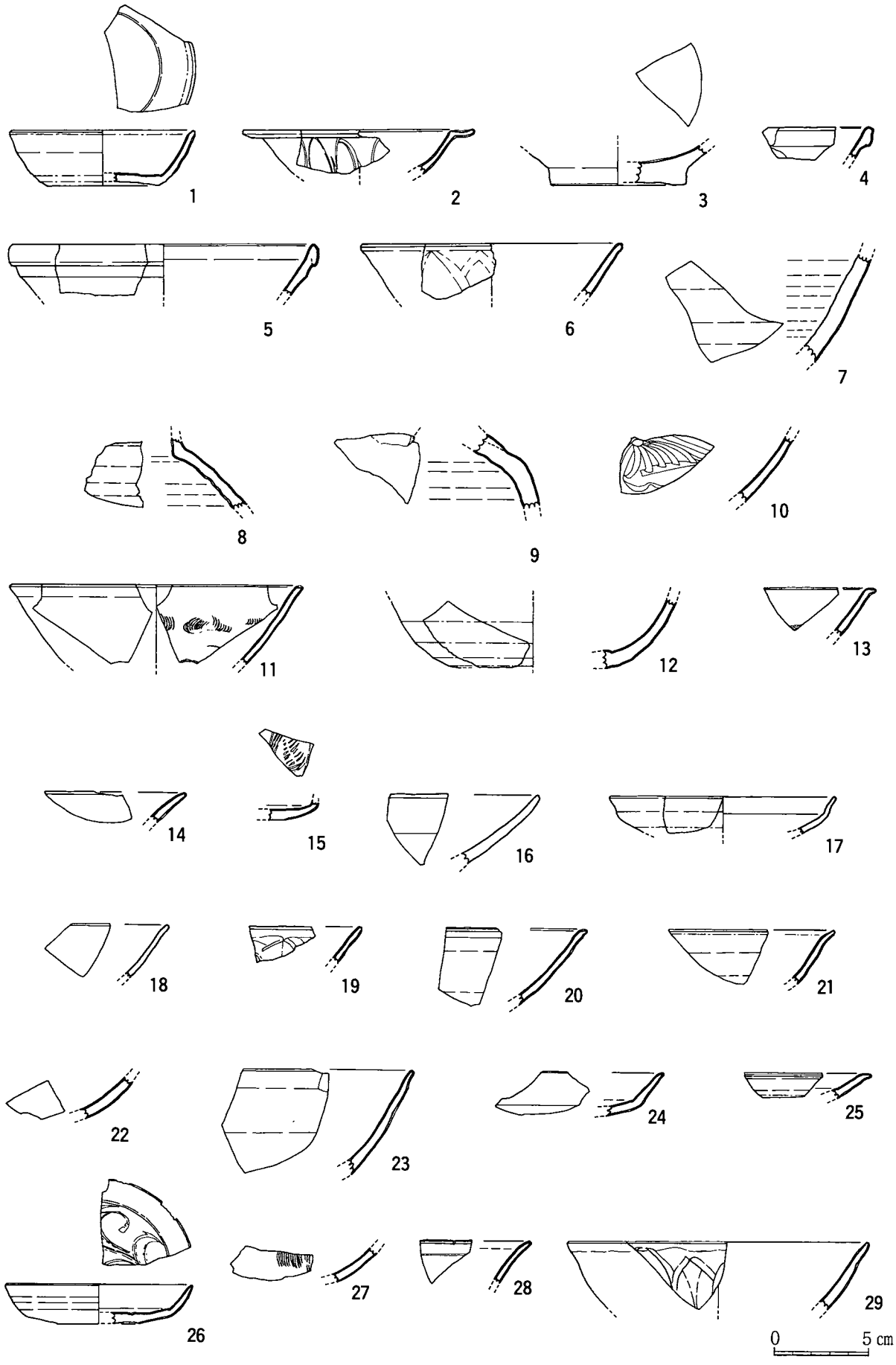
第191図　日常器８（輸入陶磁器）



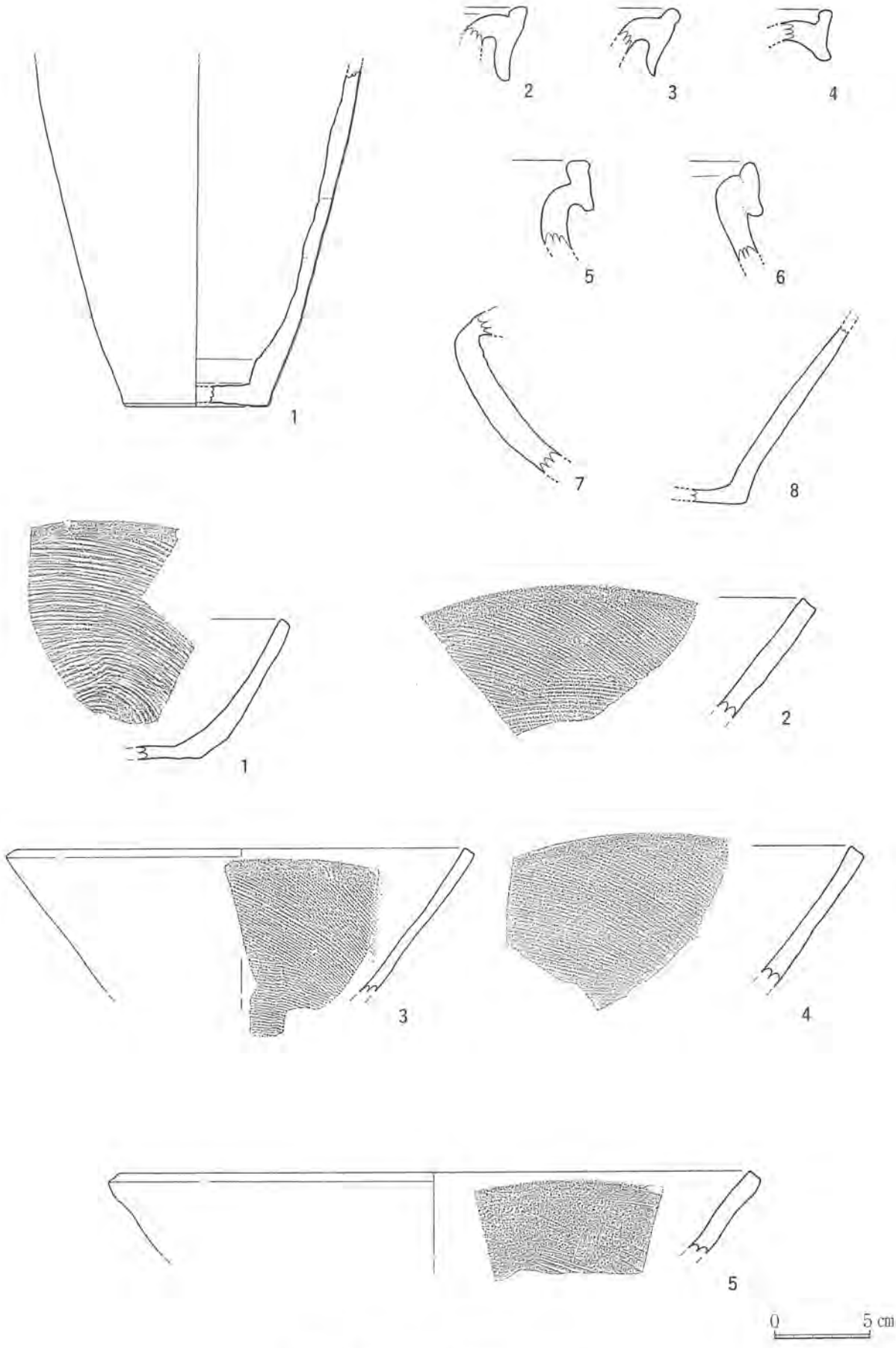
第192図　日常器9（輸入陶磁器）



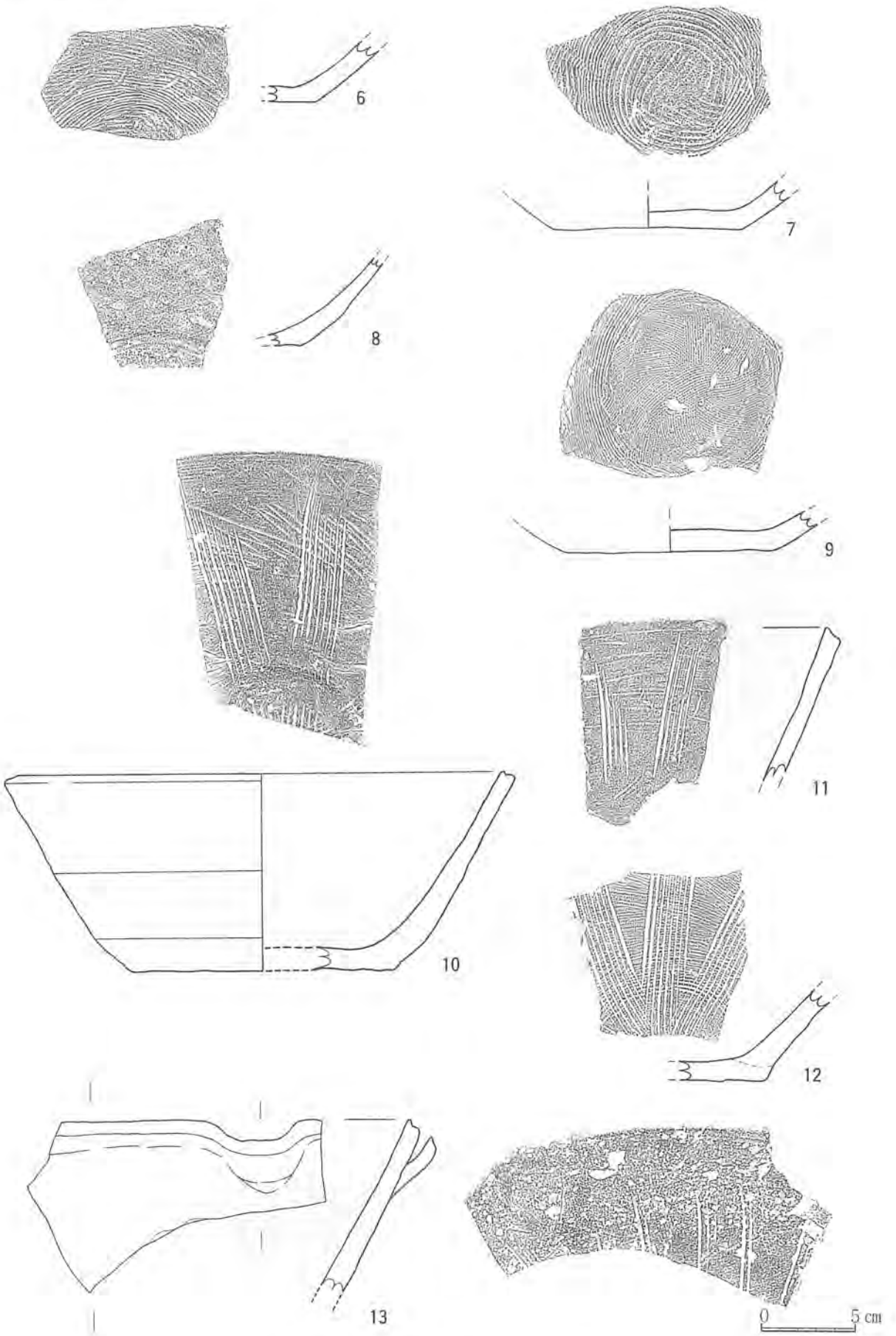
第193図　輸入陶磁器出土分布図



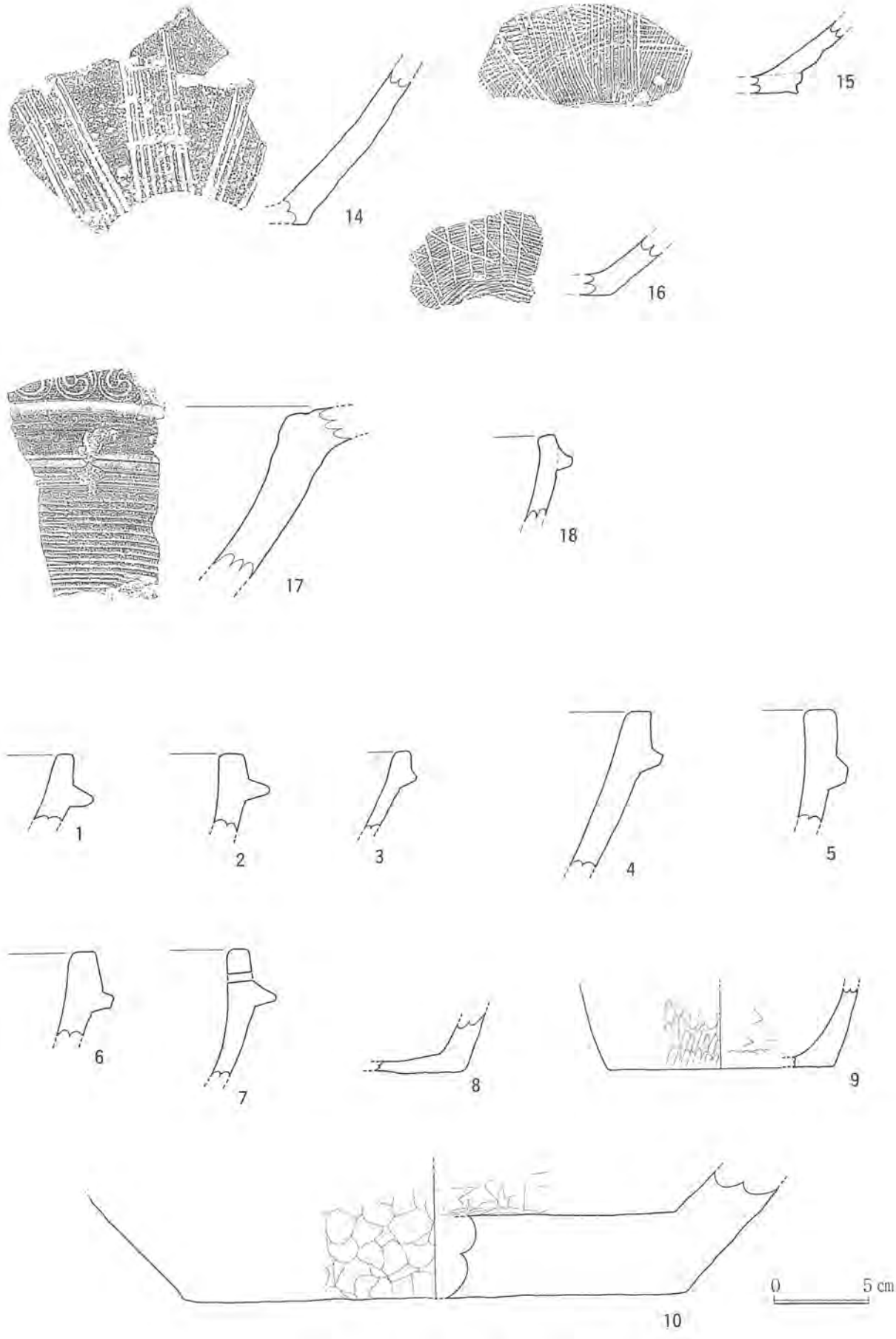
第194図　日常器10（SK 出土輸入磁器）



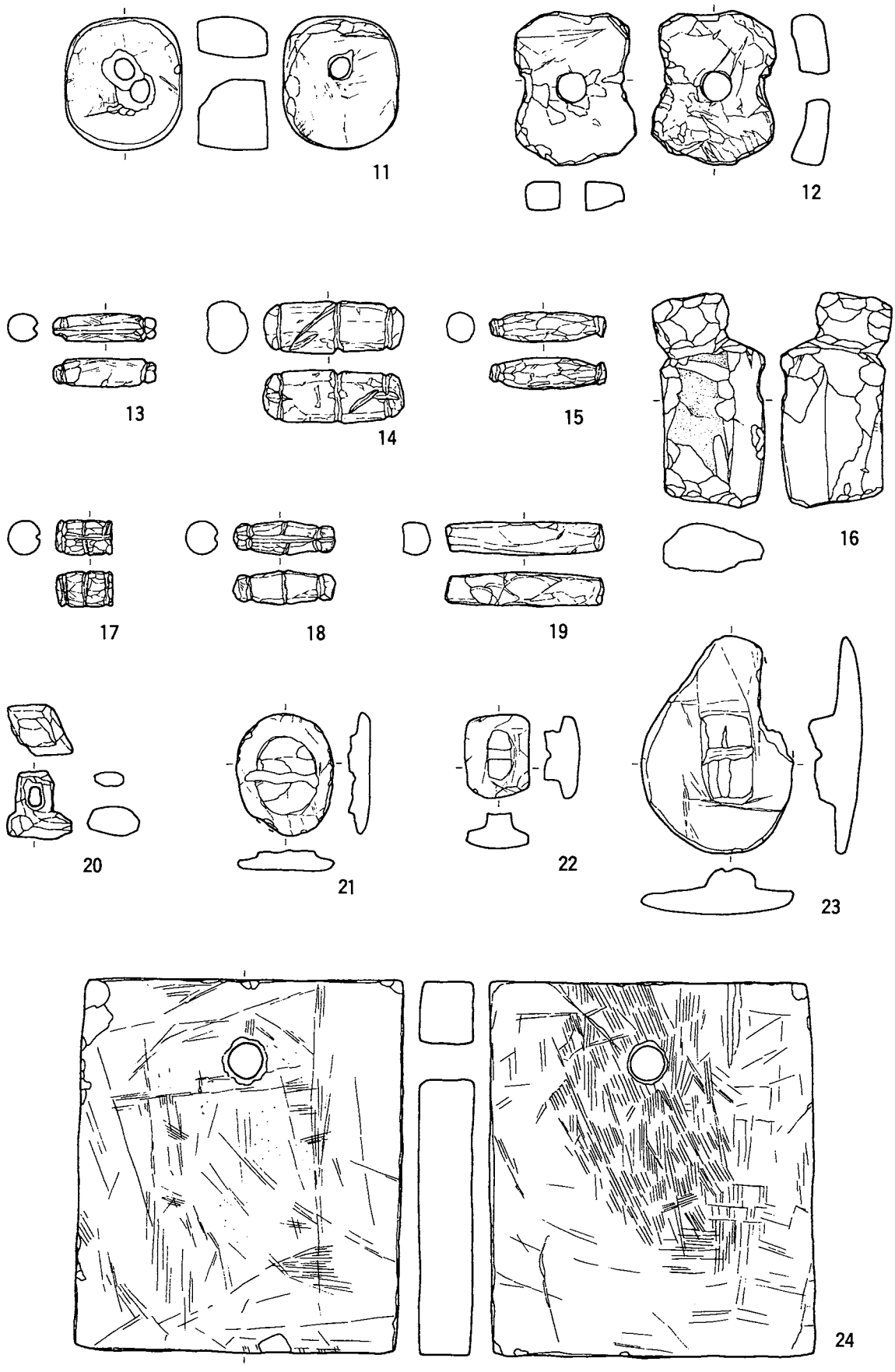
第195図　日常器11（国内陶磁器・捏鉢）



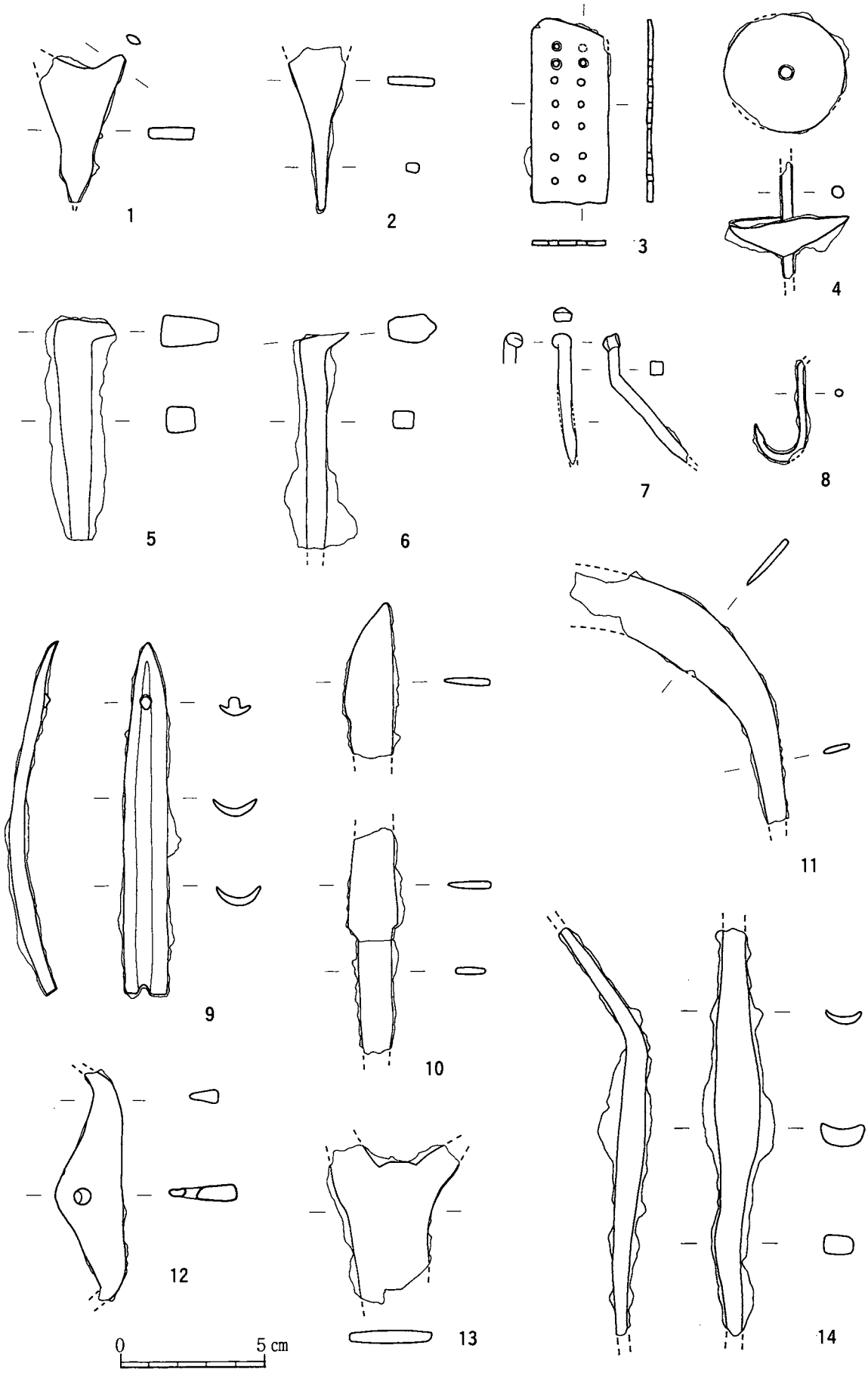
第196図　日常器12（捏鉢・擂鉢）



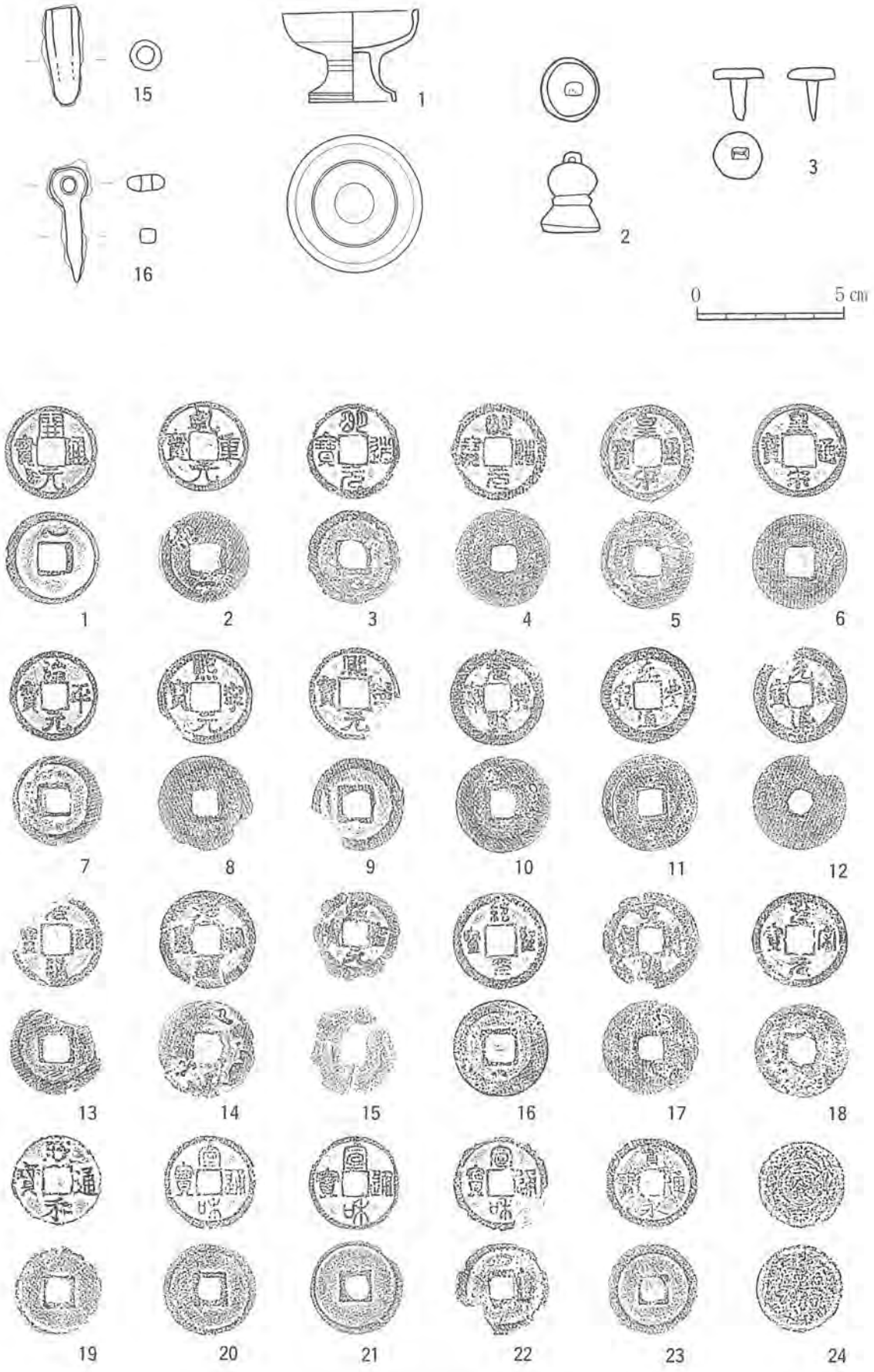
第197図　日常器13（擂鉢・石鍋）



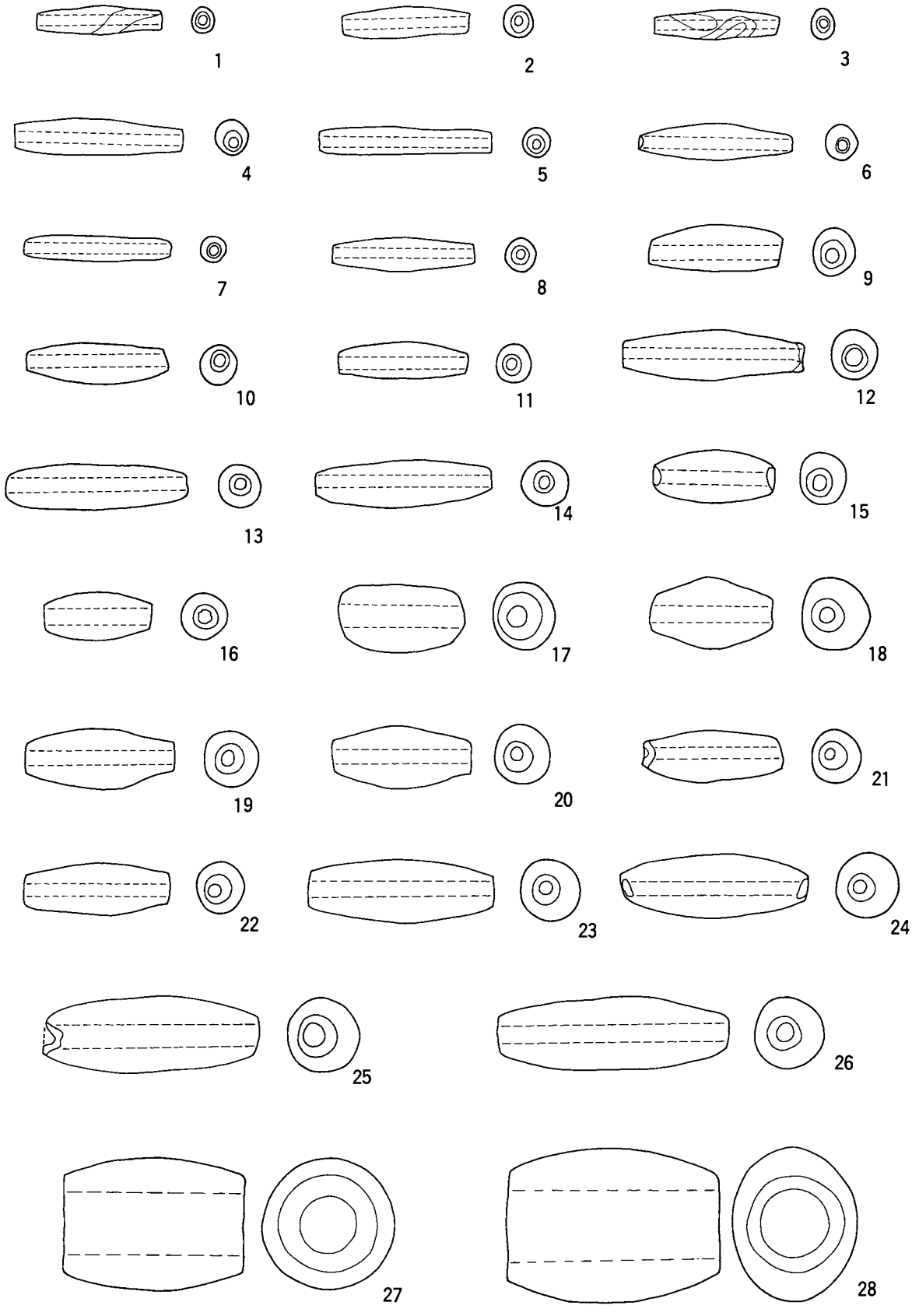
第198図　日常器14（滑石製品）



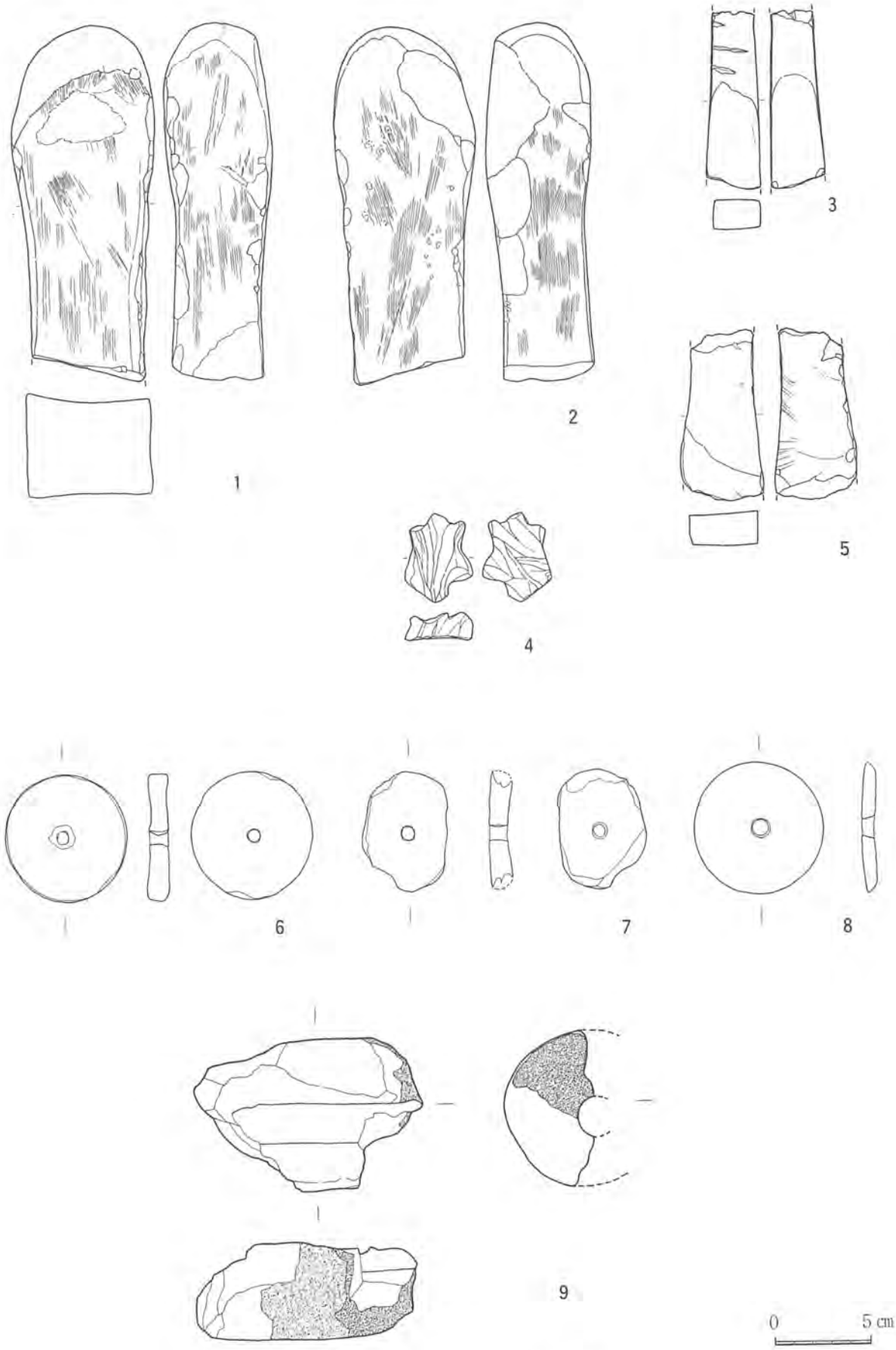
第199図　金属器1（鉄）



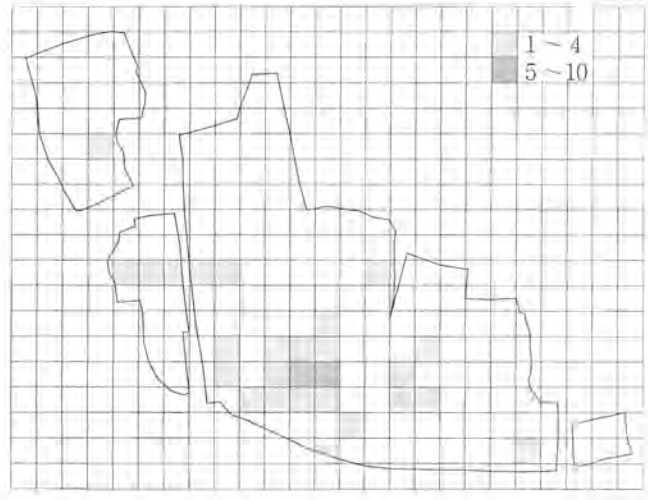
第200図　金属器２（鉄・銅）



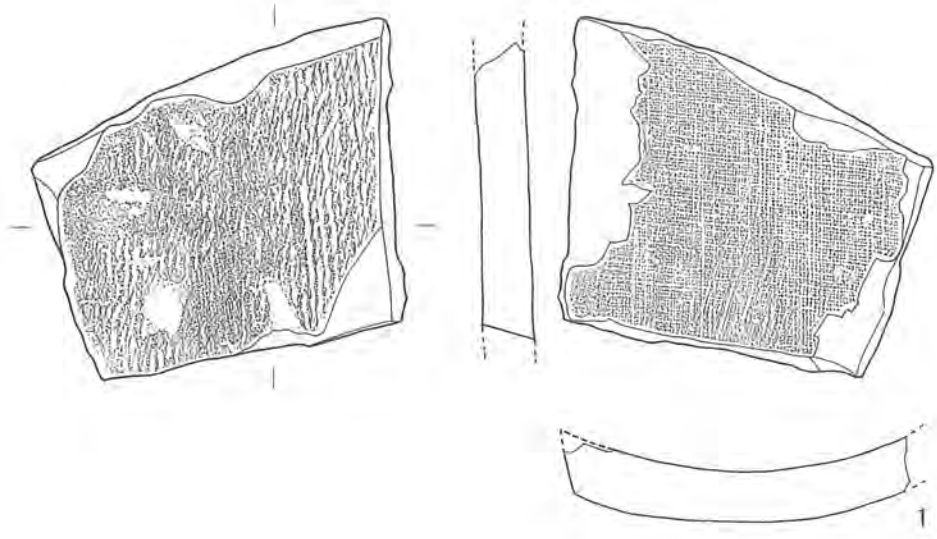
第201図　生産貝1（土錘）



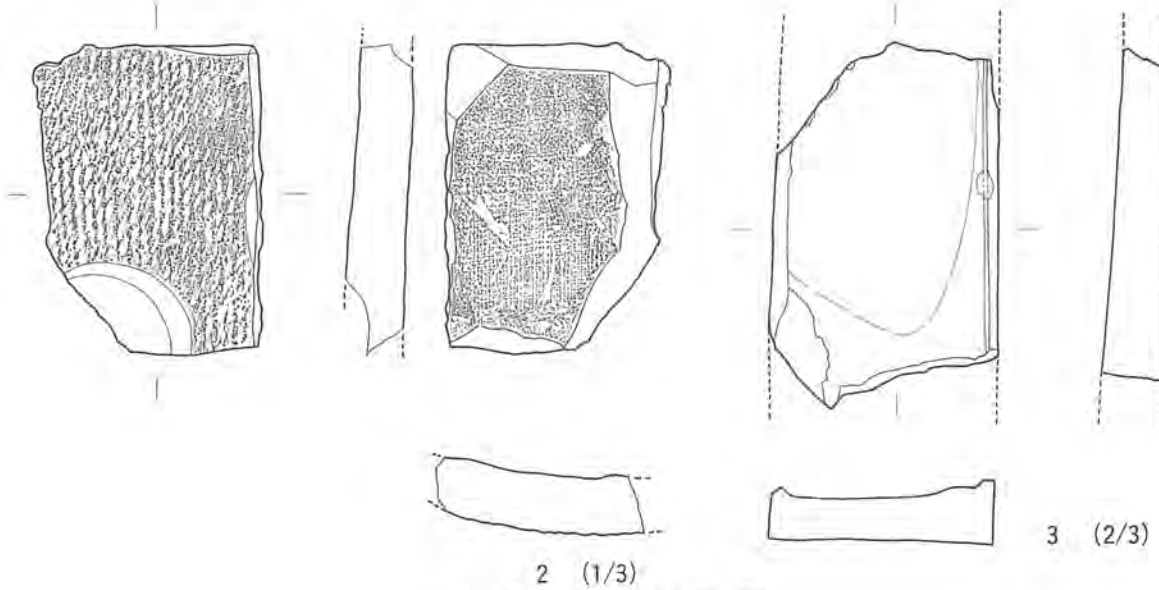
第202図　生産具２（砥石・紡錘車・羽口）



第203図　鉄鉱滓出土分布図

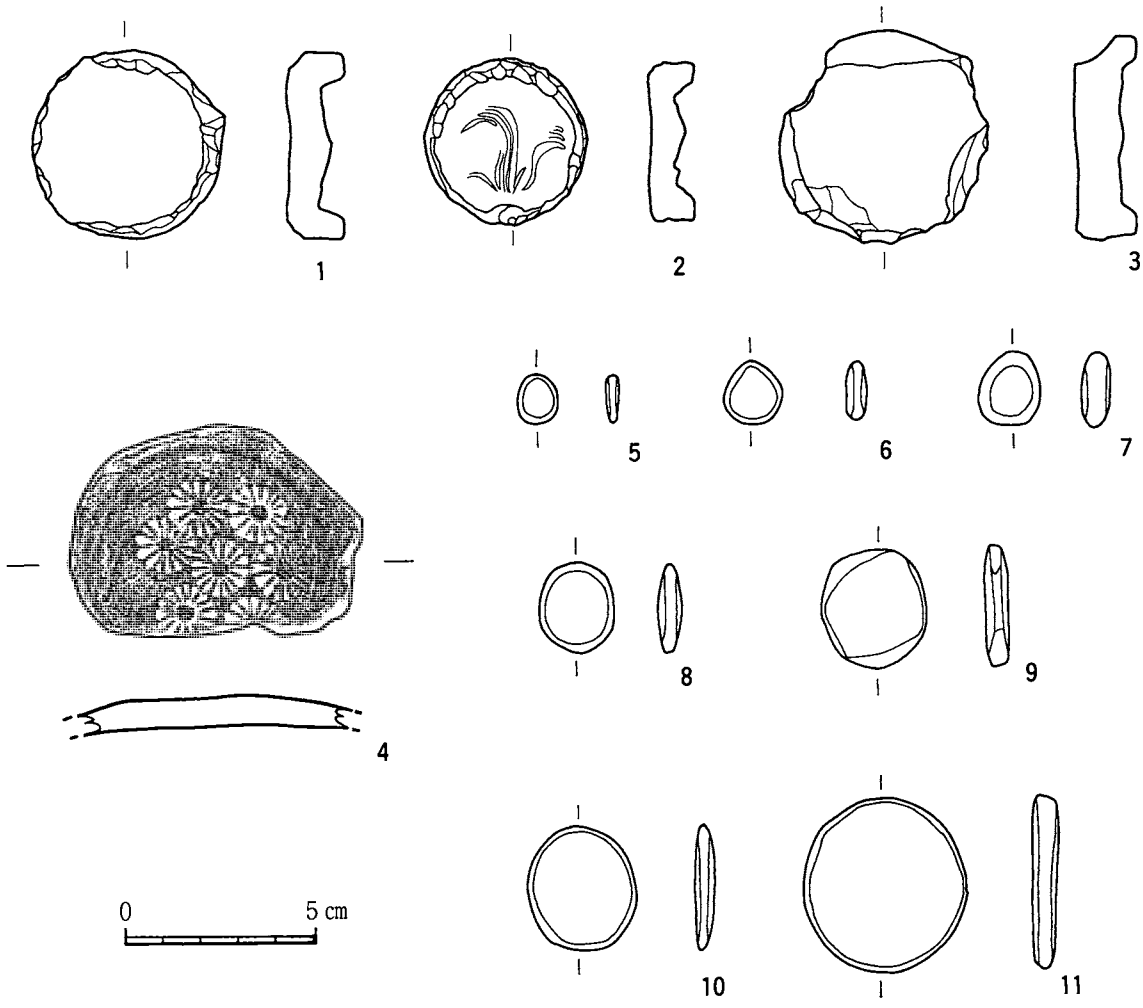


1　(1/3)



2　(1/3)　　3　(2/3)

第204図　特殊遺物1（瓦・硯）



第205図　特殊遺物２（瓦玉・スタンプ付土師器・Ｐストーン）

第14表　出土遺物　観察表１　日常器（土師器・黒色土器・須恵器）

挿図	出土地	器種・形態	口径	器高	底径	色調	調整	備考
183-1	J-13	（土）皿	9.6	1.5	7.2	浅黄橙、橙	外）回転ナデ　内）回転ナデ後仕上げナデ、回転ナデ 底）回転ヘラ切り後板状圧痕	
-2	J-13	（土）皿	9.6	1.6	7.8	橙、浅黄橙	外）回転ナデ　内）回転ナデ後仕上げナデ、回転ナデ 底）回転ヘラ切り	
-3	F-8	（土）皿	9.8	1.6	9.2	にぶい黄橙、浅黄橙	外）回転ナデ　内）回転ナデ後仕上げナデ、回転ナデ 底）回転ヘラ切り後板状圧痕後指ナ	
-4	L-13pit内	（土）皿	7.4	1.6	6.3	橙、にぶい橙	外）回転ナデ　内）回転ナデ後仕上げナデ、回転ナデ 底）糸切り後板状圧痕	
-5	G-8	（土）皿	7.6	1.1	5.4	褐灰	外）回転ナデ　内）回転ナデ後仕上げナデ、回転ナデ 底）回転糸切り後一部板状圧痕	
-6	M-18pit内	（土）皿	8.6	1.3	6.3	橙、浅黄橙	外）回転ナデ　内）回転ナデ後仕上げナデ、回転ナデ 底）回転糸切り	
-7	K-13	（土）皿	9.4	1.6	6	橙	外・内）回転ナデ　底）糸切り	
-8	K-6pit内	（土）皿	9.8	1.4	8.4	浅黄橙	外）回転ナデ（口縁部5箇所指押さえ？） 内）回転ナデ後仕上げナデ、回転ナデ　底）回転糸切り	
-9	B区H-221	（土）坏	10.7	4	5.8	にぶい橙、浅黄橙	外・内）回転ナデ　底）回転ヘラ切り	
-10	N-13pit内	（土）坏	12	4.6	7	浅黄橙	外・内）回転ナデ　底）回転ヘラ切り後板状圧痕後ナデ	
-11	K-7	（土）坏			8	にぶい橙	外）ナデ、板ナデ　底）カキ取り？ 内）板ナデ（底の部分、中央に向かって板ナデ）後一部ナデ、板ナデ	
-12	L-7	（土）坏	14.9	3.8	8.2	にぶい黄橙	外）回転ナデ　内）回転ナデ後ナデ、ナデ 底）回転ヘラ切り後ナデ（粘土付着）	
-13	B区調査区内	（土）坏	15	4.3	10.6	浅黄橙	外・内）回転ナデ　底）回転ヘラ切り後ナデ	
-14	G-9	（土）坏	16.4	5.7	10.5	橙、浅黄橙	外）回転ナデ　内）回転ナデ後仕上げナデ、回転ナデ 底）ヘラ削り後指ナデ	
-15	K-9pit内	（土）坏	12.7	3.4	8.2	浅黄橙	外・内）回転ナデ　底）回転糸切り後板状圧痕	
-16	L-13	（土）坏	12.4	3.4	9	浅黄橙	外・内）回転ナデ　底）糸切り	
184-17	L-15	（土）坏	13.4	2.9	9.5	浅黄橙、にぶい黄橙	外・内）回転ナデ　底）糸切り	
-18	K-13pit内	（土）坏	16.8	3.7	11.2	浅黄橙、褐灰	外）回転ナデ　内）回転ナデ後仕上げナデ、回転ナデ 底）糸切り	
-19	F-（-1）	（土）坏	17.2	4.7	9.2	灰白、浅黄橙、灰黄褐色	外・内）ナデ　底）糸切り	
-20	D区調査区内	（土）脚付碗	14.6	7.7	8	橙	外）回転ナデ　高台）貼り付け高台後ナデ 内）板状工具によるナデ後一方向のハケ？、ナデ、回転ナデ	
-21	H-9、H-11	（土）脚付碗			10.4	橙？黄橙	外）ナデ、ヘラ削り　内）削り後ナデ 内面底）板状工具によるナデ　高台外）ナデ	
-22	B区調査区内	（土）甕	25			にぶい橙	外）横ナデ、刷毛目　内）横ナデ、刷毛目、板ナデ	
-23	C区調査区内	（土）甕	(28.6)			浅黄橙、橙、黒褐色	外）横ナデ、ハケ　内）横ナデ、ヘラ削り	
-24	C区＝P76	（土）甕	12	8.6	7.6	にぶい黄橙、にぶい橙	外）回転ナデ、回転ヘラ切り後板状圧痕　底）回転ヘラ切り後板状圧痕 内）回転ナデ、回転ナデ後仕上げナデ	
-25	J-6	（土）小型甕				橙	外・内）ナデ	
185-26	B区調査区内	（土）甑	28.6			明赤褐色、橙 黒褐色、にぶい橙	外）ナデ、指押さえ後ナデ（つまみ貼付） 内）ナデ、ナデ後ヘラ削り	
-27	SK-137	（土）甑	26.6			黒、褐灰、灰黄褐色 にぶい黄橙、浅黄橙	外）横ナデ、刷毛目後かき目、（貼り付け）指押さえ後刷毛目 内）横ナデ、ヘラ削り	
186-1	SD-11	（須）坏	(12.4)	4.2		灰	外）ロクロナデ、削り　内）ロクロナデ、ナデ	
-2	F-10	（須）坏	(10.6)	4.4		灰	外）ロクロナデ、削り後ロクロナデ　内）ロクロナデ、ナデ 底）ヘラ切り後ナデ　高台）ロクロナデ	
-3	N-14	（須）坏	(11.4)	4.9		オリーブ	外）ロクロナデ　内）ロクロナデ、ナデ 底）ロクロナデ、ヘラ切り後ナデ、板状圧痕有　高台）ロクロナデ	
-4	N-11	（須）坏	(11.8)	5.0		灰白	外）ロクロナデ、ヘラ削り　内）ロクロナデ、ナデ 底）ナデ　高台）ロクロナデ	
-5	H-9	（須）坏	(12.5)	4.95		胃灰	外）ロクロナデ、削り後ロクロナデ　内）ロクロナデ、ナデ 底）ヘラ切り後ナデ　高台）ロクロナデ	
-6	H-9	（須）坏	(12.4)	4.7		緑灰、胃灰	外）ロクロナデ、ナデ前に削りの可能性有　内）ロクロナデ、ナデ 底）詳細不明　高台）ロクロナデ	
-7	L-12	（須）坏	12	5.6		浅黄橙	外）回転ナデ内）ナデ　高台）回転ヘラ切り後貼り付け後ナデ	
-8	E-7	（須）坏	(13.6)	5.5		灰	外）ロクロナデ、ヘラ削り　内）ロクロナデ、ナデ 底）ヘラ切り後ナデ　高台）ロクロナデ、樽状？圧痕有	
-9	G-9	（須）坏		(3.65)		灰、灰白	外）ロクロナデ　内）ロクロナデ、ナデ 底）回転ヘラ切り後ナデ、圧痕有	
-10	SD-8	（須）蓋	(17.2)	2.25		黄灰	外）ロクロナデ、（自然釉？）内）ロクロナデ、横ナデ後ナデ	
-11	N-9	（須）蓋	(18.8)	(2.25)		灰、黒褐色、にぶい黄褐色	外）ロクロナデ、ロクロナデか？詳細不明、ナデ？ 内）ロクロナデ、ナデ？	
-12	ST-146	（須）蓋	(15.8)	2.2		灰、灰黄	外）ロクロナデ、ヘラ切り痕有　内）ロクロナデ、ナデ	
-13	SB-61Pit26	（須）蓋	(14.95)	(2.1)		灰、黒	外）ロクロナデ（自然釉）、削り　内）ロクロナデ（一部自然釉）	
-14	F-10	（須）蓋	(14.4)	(1.5)		灰	外）ロクロナデ（一部削り？）、削りあるいは切り離し痕 内）ロクロナデ	
-15	H-9、H-10	（須）蓋	(17.8)	(2.25)		浅黄	外）ロクロナデ、削り　内）ロクロナデ、削り	
-16	SK-61	（須）蓋	(12.6)	(0.85)		灰	外）ロクロナデ、ナデ　内）ロクロナデ、ナデ	
187-17	B区調査区内	（須）盤	(13.3)	1.6	(11.3)	灰	外）ロクロナデ　内）ロクロナデ、ナデ　底）ヘラ切り後ナデ	
-18	H-9、H-10	（須）盤	(13.9)	1.45	(11.1)	明オリーブ灰、、灰	外）ロクロナデ、（一部削り？ヘラ切り？）内）ロクロナデ、ナデ 底）ヘラ切り後ナデ	
-19	SD-8	（須）盤	(14.2)	1.55	(11.8)	灰	外）ロクロナデ、ヘラ削り後ロクロナデ？　内）ロクロナデ 底）ヘラ切り後ナデ	
-20	F-10	（須）盤	(14.4)	1.85	(12.9)	オリーブ灰、灰	外）ロクロナデ　内）ロクロナデ、ナデ　底）ヘラ切り後ナデ	
-21	F-9	（須）盤	(14.4)	1.5	(14.4)	灰、黒	外）ロクロナデ（自然釉、付着物有）内）ロクロナデ後ナデ 底）（自然釉、付着物有）	
-22	E-8	（須）盤	(14.3)	1.5	(12.7)	灰	外）ロクロナデ　内）ロクロナデ、ナデ　底）ヘラ切り後ナデ	
-23	H-12	（須）盤	(15.0)	1.85	(11.4)	灰白、灰	外）ロクロナデ、ヘラ削り後ロクロナデ？　内）ロクロナデ、ナデ	
-24	F-6	（須）盤	(14.3)	1.8	(13.8)	胃灰	外）ロクロナデ　内）ロクロナデ　底）ヘラ切り後ナデ	
-25	ST-64	（須）盤	(15.6)	(2.15)	(14.3)	灰	外）ロクロナデ　内）ロクロナデ、ナデ　底）ヘラ切り	
-26	SD-8	（須）盤	(13.2)	2.3	(9.8)	灰	外）ロクロナデ　内）ロクロナデ、ナデ 底）ヘラ切り後一部ナデ、一部指頭痕あり	

挿図	出土地	器種・形態	口径	器高	底径	色調	調整	備考
187-27	L-6	(須) 盤	(17.6)	(1.7)	(14.5)	灰	外) ロクロナデ　内) ロクロナデ　底) ヘラ切り後ナデ	
-28	G-10	(須) 盤	(17.8)	1.5	(14.8)	緑灰、灰	外) ロクロナデ、ヘラ削り後ロクロナデ　内) ロクロナデ　底) ナデ	
-29	G-13	(須) 広口壺	8			灰黄	外・内) 回転ナデ	
-30	SA-8 Pit内	(須) 短頸壺				灰	外・内) 回転ナデ	
-31	C区63墓	(須) 甕	(22.1)	(9.1)		灰黄褐色	外・内) 回転ナデ、叩き	
-32	D区K-9 Pit597	(須) 甕		(5.1)		黄灰	外) 連点文、叩き　内) 回転ナデ、刷毛目	
-33	A-1号ミゾ333	(須) 甕		(6.0)		灰	外) 回転ナデ、叩き　内) 回転ナデ	
188-34	D区J-9 Pit357	(須) 甕		(6.5)		オリーブ黒	外) 連点文、叩き　内) 回転ナデ、刷毛目	
-35	調査区内	(須) 甕		(6.0)		浅黄	外) 回転ナデ、叩き　内) 回転ナデ、半円状叩き	
-36	SD-8	(須) 壺				黄灰	外) 格子状の叩きの上より山形文　内・見込み・底) ナデ	
-1	ST-138	(黒) B型 坏	16.6	5.4	6	浅黄、にぶい黄橙	外) ロクロナデ、削り後ロクロナデ、削り、(ミガキ様の光沢有)、(一部黒斑) 内) ミガキ (単位不明瞭)、(黒色) 底) 削り、(ミガキ様の光沢有り)、(一部黒斑)	
-2	K-11	(黒) B型 碗	16	5.95		灰黄、黒	外) ロクロナデ、回転ヘラ削り後一部回転ヘラミガキ、ロクロナデ 内) ヘラミガキ (単位不明瞭) 底) ロクロナデ (一部黒色) 高台) ロクロナデ　高台、内) 一部黒色	
-3	F-9	(黒) B型 碗	15	6		浅黄橙、橙、黒	外) 回転ヘラ削り後ヘラミガキ？ロクロナデ 内) ヘラミガキ (単位不明瞭) 底) ヘラ切り後ナデ　高台) ロクロナデ	
-4	ST-56	(黒) 碗	(17.8)	6.05		にぶい黄橙、灰	外) ロクロナデ、回転削り後部分的に回転ヘラミガキ、(一部黒色) 内) ヘラミガキ (単位不明瞭)、(黒色) 底・高台) ロクロナデ	
-5	E-9	(黒) B型 碗	13.4	4.5		浅黄、灰黄、黒	外) ロクロナデ後回転ヘラミガキ？、ロクロナデ、(一部黒色) 内) ヘラミガキ、(黒色) 底) ロクロナデ、ヘラ切り後ナデ	
-6	M-14	(黒) 碗		(3.7)		浅黄、黒	外) 削り後ナデ？ロクロナデ？　内) ナデ？、(黒色) 底) ヘラ切り痕高台) ロクロナデ	
-7	SD-11	(黒) B型 碗		2.55		黄灰、黒	外) ヘラミガキ、(黒色) 内) ヘラミガキ、(黒色) 底) ロクロナデ、(黒色) 高台) ロクロナデ (黒色)	底部資料
-8	M-12pit内	(黒) B型 碗	14.2	5.6		黄灰、浅黄	外) ヘラミガキ、ロクロナデ　内) ヘラミガキ (不明瞭)、(黒色) 底) ロクロナデ、(黒色) 高台、外) ミガキ高台、内) ロクロナデ	
-9	M-13pit内	(黒) B型 碗		1.25	6.15	橙、黒	外・内) ロクロナデ、(黒色) 底) ヘラ切り離し後ナデ	底部資料

観察表2　日常器（墨書・ヘラ記号）

挿図	出土地	種別	墨書・記号	色調	調整	備考
190-1	C区調査区内	墨書	井	外) 灰白　内) 黒	外・内) 回転ナデ	内黒　外器面
-2	ST-170			浅黄橙	外・内) ミガキ	
-3	C区調査区内		○	にぶい橙	外・内) ナデ	
-4	F-8			橙	外・内) ナデ	
-5	F-8		免？	にぶい橙	外) ミガキ　内) ヘラミガキ　底) ヘラ切り	糸底　土師底部
-6	C区調査区内	ヘラ記号	○に×	浅黄橙	外・内) 横ナデ	土師底部
-7	C区調査区内			浅黄橙	外・内・底) ミガキ	土師底部
-8	G-7		×	灰白	外・内) ナデ　底) 糸切り	土師底部

観察表3　日常器（輸入陶磁器）

挿図	出土地	種別	器形		色調	調整	備考
191-1	SD-8	白磁	碗		胎土パールホワイト 釉リリーホワイト	外・内) 施釉	Ⅱ 12c 前～後
-2	SB-52 pit 7	青白磁	碗		胎土パールホワイト 釉うす水色	外・内) 施釉	
-3	調査区一括	青磁	碗		胎土パールホワイト 釉ろくしょう	外・内) 施釉	龍泉窯、上田B類 15c 前
-4	M-9 pit	黒釉陶器	天目碗		胎土シルバーグレイ 釉黒褐色	外・内) 施釉	13c 中
-5	J-7	黒釉陶器	天目碗		胎土シルバーホワイト 釉黒褐色	外・内) 施釉	瀬戸？ もしくは13c 中？
-6	SA-8 pit 4	青磁	碗		胎土鉛色 釉外) オリーブグリーン　内) 油色	外・高台) 施釉　内) 施釉、回跡有　底) 無釉	Ⅱ 2 越州窯 9～10c
-7	SB-45 pit 4	青磁	鉢		胎土パールホワイト 釉ろくしょう	外) 文様有り、施釉　内) 施釉	Ⅲ～Ⅳ 13c 後～14c 前
-8	調査区内	青磁	坏		胎土シルバーグレイ 釉ろくしょう	外・内・底) 施釉　高台) 施釉の掻き落とし	龍泉窯Ⅲ 4 13c 後
-9	L-14	青磁	盤		胎土ねずみ色 釉ブロンズ	外・内) 施釉	龍泉窯Ⅲ 13c 後
-10	M-11 pit	青磁	坏		胎土パールホワイト 釉わさび色	外・内) 施釉	龍泉窯Ⅲ 4 13c 後
-11	M-13 pit	陶器	盤		胎土灰汁色、灰オリーブ 釉(透明部分) 油色　不透明部分) ベージュ　鉄釉部分) にぶい橙	外) 無釉、一部施釉 (透明感無し) 内) 施釉	黄釉 13c 中～後
192-12	G-8	白磁	水注？ 四耳壺？		胎土シルバーグレイ 釉ミストグリーン	外) 沈線、施釉　内) 施釉	12c 中
-13	F-9	白磁	水注？ 四耳壺？		胎土シルバーグレイ 釉ろくしょう、スレートグリーン	外・内) 施釉	12c 中
-14	E-9	白磁	水注？ 四耳壺？		胎土シルバーグレイ 釉ミストグリーン	外) 施釉　内) 一部施釉	Ⅱ 12c 初～中

挿図	出土地	種別	器形		色調	調整	備考
192-15	C区調査区内	青白磁	梅瓶		胎土アイボリーホワイト 釉外）アイスグリーン　内）リリーホワイト	外）沈線、陰刻文?、施釉　内）回転ナデ、削り?、施釉 高台）釉の掻き取り、施釉	13c 中～後
-16	H-10、J-10	青白磁	梅瓶		胎土パールホワイト 釉外）アイスグリーン　内）シルバーグレイ	外）施文、施釉、器面はかなり摩耗している 内）ロクロナデ、施釉	
-17	N-11 pit	黄褐釉			胎土灰汁色 釉ブロンズ	外）施釉	13c?
192-18	SD-7	青磁	壺		胎土ねずみ色 釉油色	外・底）施釉　内）施釉薄く剥ぎ落としている 高台）施釉、砂目跡有	越州窯 9～10c
-19	H-9	青白磁	小壺		胎土スノウホワイト 釉藍白	（外・内）施釉、釉の掻き落とし	13c
-20	A区調査区内	青磁	小碗		胎土パールホワイト 釉スレートグリーン	外・内）施釉	龍泉窯Ⅲ 13c 中
-21	SB-61 pit20	青白磁	合子蓋		胎土スノウホワイト 釉リリーホワイト	外）施釉、釉の掻きとり　内）無釉	
-22	H-9	青白磁	小壺蓋		胎土スノウホワイト 釉うす水色	内）施釉　底）無釉、一部釉有　高台）無釉	13c?
-23	B区調査区内	白磁	合子蓋		胎土アイボリーホワイト 釉サロー	外）陽刻文、施釉、釉の掻き取り 内）回転ナデ、一部施釉、釉の掻き取り	広東産 12c 前～中
-24	B区調査区内	白磁	合子蓋		胎土クリーム 釉白ゆり	外）陽刻文、施釉、釉の掻き取り 内）回転ナデ、一部施釉、釉の掻き取り	広東産 12c 前～中
-25	F-9	青白磁	合子身		胎土シルバーホワイト 釉明緑灰　底）浅黄橙	外・内）施釉	13c?
-26	H-10 pit	黒釉陶器	茶入れ		胎土グレイ 釉茶色の釉	底）糸底	
-27	SB-44 pit55	陶器	仏器？ 花瓶蓋		胎土灰黄、砂粒 釉ビンヤード	外）調整不明、施釉　底）ナデ（一部釉なれ） 内）強い指ナデ、工具による横ナデ、ナデ（指圧痕有）	薩南系明代 二次焼成

観察表4　ＳＫ内輸入陶磁器

挿図	遺構名	種別	器形	残存度等	色調	備考
194-1	6	白磁	皿	復元口径　9.8cm 残存高　2.9cm・1／3	胎土スノウホワイト 釉リリーホワイト	白皿Ⅸ2　13c 後半
-2	14	青磁	坏	復元口径 12.4cm 残存高　2.3cm・口縁部1／7残存	胎土シルバーグレイ 釉ろくしょう	龍泉　青磁杯Ⅲ4　13c 後半 径不確実　大きな貫入有
-3	30	白磁	碗	復元底径　7.2cm 残存高　2.1cm・底部1／6残存	胎土枯草色 釉ミストグリーン	白碗Ⅳ　12c 中
-4		白磁	碗	残存高　1.65cm・破片	胎土パールホワイト 釉リリーホワイト	
-5		白磁	碗	復元口径 16.4cm 残存高　1.7cm・口縁部1／10残存	胎土シルバーグレイ 釉ミストグリーン	白碗V1.4　12c 中
-6	33	青磁	碗	復元口径 14.0cm 残存高　2.8cm・口縁部1／12残存	胎土シルバーグレイ 釉ミストグリーン	龍泉　青碗Ⅰ5、bcd13c 半 釉の発色が悪く、透明感がない
-7	57	白磁	壺	残存高　5.6cm・破片	胎土パールホワイト 釉リリーホワイト	白四耳壺 貫入有 内器面の釉はごく薄く図示できない
-8				残存高　3.7cm・破片	胎土シルバーグレイ 釉ミストグリーン	
-9				残存高　3.9cm・破片	胎土パールホワイト 釉リリーホワイト	
-10	99	青磁	碗	残存高　3.3cm・破片	胎土ねずみ色 釉オリーブグリーン	龍泉　青碗Ⅰ2　13c 初 釉は薄い、傾き不確実
-11	120	白磁	碗	復元口径 15.6cm 残存高　4.2cm・口縁部1／10残存	胎土オイスター 釉ミストグリーン	白碗V4　12c 中 径不確実　貫入有
-12	121	青磁	碗	残存高　3.5cm・体部の径1／10残存	胎土ねずみ色 釉モスグリーン	龍泉　青碗Ⅰ1 径、傾きともに不確実、釉は薄い、わずかに貫入有
-13	132	白磁	碗	残存高　2.5cm・破片	胎土スノウホワイト 釉ミストグリーン	白碗V4　13c 初 傾き不確実
-14		青磁		残存高　1.5cm・破片	胎土オイスター 釉スレートグリーン	龍泉　青碗Ⅰ1　13c 初 傾き不確実
-15		青磁	皿	残存高　1.1cm・破片	胎土シルバーグレイ 釉オリーブグリーン	同安　青皿Ⅰ2b　13c 初
-16	150	青磁	碗	残存高　3.65cm・破片	胎土シルバーグレイ 釉モスグリーン	越州
-17	164	白磁	皿	復元口径 12.0cm 残存高　1.9cm・口縁部1／12残存	胎土ねずみ色 釉ミストグリーン	白皿Ⅵ　12c 中 径不確実、釉は薄くて図示できない
-18				残存高　2.8cm	胎土オイスター（特に内器面に顕著） 釉枯葉色	傾き不確実、釉は薄くて図示できない 釉の厚みにはムラがある
-19	173	青磁	碗	残存高　1.9cm・破片	胎土シルバーグレイ 釉オリーブグリーン	龍泉　青碗Ⅰ5　bcd　13c 中
-20	176	白磁	碗	残存高　4.0cm・破片	胎土パールホワイト 釉ミストグリーン	白碗V4　12c 中 傾き不確実（口縁端部欠損のため）
-21		白磁	皿	復元口径 11.0cm 残存高　2.8cm・口縁部1／10残存	胎土アイボリーホワイト 釉リリーホワイト	白皿Ⅸ　13c 後半 大きな貫入わずかに有
-22		白磁		残存高　2.2cm・破片	胎土パールホワイト 釉ミストグリーン	傾き不確実
-23		青磁	碗	復元口径 15.0cm 残存高　5.5cm・口縁部1／10残存	胎土シルバーグレイ 釉モスグリーン	龍泉　青碗Ⅰ1　13c 初 径不確実、貫入（外器面下半大きい）有
-24	185	白磁	皿	復元口径 15.6cm 残存高　2.3cm・屈曲部1／10残存	胎土パールホワイト 釉ミストグリーン	白皿Ⅷ　赤　12c 中 径は屈曲部で復元、径、傾きともに不確実、貫入有
-25		白磁		復元口径 10.0cm 残存高　1.3cm・口縁部1／8残存	胎土ミストグリーン 釉シルバーグレイ	白碗Ⅵ　12c 中 径不確実、釉はごく薄いので図は模式的である
-26	187	白磁	皿	復元口径 10.0cm 器高　2.1cm・全体の1／6残存	胎土パールホワイト 釉ミストグリーン	白皿Ⅷ1　12c 中
-27		白磁		残存高　1.8cm・破片	胎土スノウホワイト 釉リリーホワイト	釉はごく薄いので図は模式図的である 傾き不確実
-28		白磁		残存高　2.3cm・破片	胎土パールホワイト 釉ミストグリーン	径不確実、釉はごく薄いので図は模式的である
-29	213	青磁	碗	復元口径 16.0cm 残存高　3.6cm・口縁部1／10残存	胎土シルバーグレイ 釉ろくしょう	龍泉　青碗Ⅰ5　bcd13c 半 径不確実

観察表５　日常器　（国内陶磁器）

挿図	出土地	器種	残存部位	底径	釉	備考
195-1	F区調査区内	瓶子	胴部？底部	(8.4)		瀬戸
-2	J-10	国内陶磁器	口縁		にぶい赤褐色	常滑
-3	H-10. J-10	国内陶磁器	口縁		にぶい褐色	常滑
-4	F-9	国内陶磁器	口縁		黒褐色	常滑
-5	H-12	国内陶磁器	口縁		にぶい赤褐色	常滑
-6	K-9	国内陶磁器	口縁		にぶい赤褐色	常滑
-7	K-10	国内陶磁器	頸部		暗灰黄	常滑
-8	F-9	国内陶磁器	胴部下位～底部		にぶい橙	常滑

観察表６　日常器　（擂鉢・捏鉢・火車・石鍋模倣品）

挿図	出土地	器種	口径	器高	底径	色調
195-1	L-9	捏鉢		7.2		灰白
-2	L-17	捏鉢		6.4		灰黄
-3	調査区内	捏鉢	23.7	7.5		灰黄
-4	L-14	捏鉢		6.9		灰黄
-5	K-6	捏鉢	33.5	4.4		灰褐色
196-6	SD-8	捏鉢		2.8		灰黄
-7	J-10	捏鉢		1.8		灰
-8	SD-2	捏鉢		4.4		灰黄
-9	SD-8	捏鉢		1.4	11	灰
-10	J-9	擂鉢	27.5	10.5	(14.0)	灰白
-11	SD-8	擂鉢		7.5		黄灰
-12	B区調査区内	擂鉢				灰白
-13	SB-46pit 8	擂鉢				淡橙
197-14	SB-46pit 8	擂鉢				”淡橙，にぶい橙”
-15	B-1	擂鉢		3.1		灰黄
-16	K-14pit内	擂鉢				黄灰
-17	B区一括	火車？				にぶい黄橙
-18	C-1084	石鍋模倣品？	4.2			灰

観察表７　金属器　（鉄製品）

挿図	出土地	器種
199-1	SD-8	狩又
-2	SA-4	狩又？
-3	A区調査区	小札
-4	SX-4	紡スイ車
-5	L-14　Pit	釘
-6	K-10	釘
-7	F区調査区	釘
-8	F区調査区	釣針
-9	J-13　Pit 1	□？
-10	SX-1	不明
-11	M-16 Pit	鎌
-12	SK-162	火打鎌
-13	SD-8	不明
-14	H-10	不明
-15	SK-38	不明
-16	H-12	豆金

観察表８　日常器　（滑石）

挿図	出土地	器種	残存部位
197-1	SB-50pit 9	石鍋	口縁部
-2	N-18pit内	石鍋	口縁部
-3	ST-60	石鍋	口縁部
-4	F区調査区内	石鍋	口縁部
-5	D-10	石鍋	口縁部
-6	H-10	石鍋	口縁部
-7	M-9 pit内	石鍋	口縁部
-8	A区調査区内	石鍋	底部
-9	J-11	石鍋	底部
-10	H-9. H-10	石鍋	底部
198-11	H-5	不明	
-12	SD-8	不明	
-13	H-9 pit内	沈子？	
-14	B区調査区内	沈子？	
-15	SK-36	沈子？	
-16	D区L-116	沈子？	
-17	D区調査区内	沈子未製品？	
-18	SA-4 pit 6	沈子？	
-19	調査区内	不明	
-20	D区調査区内	補修具？	
-21	K-15	補修具？	
-22	ST-132	補修具？	
-23	ST-109	補修具？	
-24	P-18pit内	温石	

観察表10　金属器　（古銭）

図版	遺構名	銭貨名	国名　初鋳年(西暦)	備考
200-1	L-9	開元通寶	唐　621年	背上月
-2	B区撹乱	□元通寶	唐　758年	背下月
-3	D区調査区内	明道元寶	北宋1032年	篆母
-4	D区調査区内	明道元寶	北宋1032年	篆母
-5	ST-88内	皇宋通寶	北宋1038年	真母
-6	N16土坑内	皇宋通寶	北宋1038年	真母
-7	D区Pit内	治平元寶	北宋1064年	真母
-8	L-9	熙寧元寶	北宋1068年	真母
-9	SD-8	熙寧元寶	北宋1068年	篆母
-10	L-9	元豊通寶	北宋1078年	篆母
-11	D区調査区内	元豊通寶	北宋1078年	行母背上星跡あり 19と２枚接焼
-12	A区調査区内	元祐通寶	北宋1086年	行母
-13	L-18	元祐通寶	北宋1086年	篆母
-14	L-8	元祐通寶	北宋1086年	篆母
-15	D区Pit内	紹聖元寶	北宋1094年	行母
-16	D区調査区内	紹聖元寶	北宋1094年	篆母背下月あり 13と２枚接焼
-17	D区調査区内	元符通寶	北宋1098年	
-18	L-13	聖宋元寶	北宋1101年	篆母
-19	K-8か	政和通寶	北宋1111年	分階
-20	D区調査区内	宣和通寶	北宋1119年	篆母
-21	D区調査区内	宣和通寶	北宋1119年	篆母
-22	ST-190内	宣和通寶	北宋1119年	篆母
-23	SD-8	寛永通寶	江戸中期	
-24	SD-8	一銭銅貨	近・現代	

観察表９　金属器　（銅）

挿図	出土地	器種	重量(g)	備考
200-1	L-11pit	飯食器	25	杯部体積11.6mm³
-2	F-2	櫛	34	
-3	L-11pit内	鋲		

観察表11　生産具　（土錘）

挿図	出土地	全長(cm)	幅(cm)	重量(g)	孔径(cm)	L	P	判定
201-1	E-7	4.2	1	2	0.3	0.09	4.2	刺
-2	M-8	4.4	1.2	4	0.3	0.09	3.7	刺
-3	H-9, H-10	4.2	1	2	0.3	0.09	4.2	刺
-4	G-9	4	1.3	7	0.4	0.16	4.4	刺
-5	H-9	5.8	1	5	0.3	0.09	5.8	刺
-6	SK-213	5.2	1.3	5	0.4	0.16	3.9	刺
-7	SB-44	6	0.8	3	0.3	0.09	4.5	刺
-8	L-8 pit1063	4.8	1.2	5	0.3	0.09	4	刺
-9	SD-2 No.111	4.6	1.7	9	0.5	0.25	2.7	刺
-10	SD-5	4.8	1.3	7	0.4	0.16	3.7	刺
-11	K-7	4.3	1.2	7	0.4	0.16	3.6	刺
-12	M-9 pit1265	6.1	1.7	16	0.4	0.16	3.6	刺
-13	SA-5	6.2	1.5	14	0.4	0.16	4.1	刺
-14	SB-53	6	1.7	14	0.4	0.16	3.5	刺
-15	K-11pit491	4.1	1.8	10	0.4	0.16	2.3	刺
-16	G-9	3.7	1.6	8	0.5	0.25	2.3	刺
-17	J-9	4.3	2.3	15	0.8	0.64	1.9	刺
-18	H-10pit61	4.1	2.4	18	0.6	0.36	1.7	刺
-19	H-11	5	3	16	0.5	0.25	1.7	刺
-20	M-12pit 1	4.8	2.1	16	0.5	0.25	2.3	刺
-21	SD-8	4.7	1.8	13	0.4	0.16	2.6	刺
-22	H-10	4.9	1.8	12	0.5	0.25	2.7	刺
-23	SX-01 No.49	6.3	3.1	26	0.5	0.25	2	刺
-24	SK-64	6.3	2.3	21	0.4	0.16	2.7	刺
-25	I-11	7.3	2.6	40	0.8	0.64	2.8	刺
-26	SB-17	7.8	2.5	37	0.6	0.36	3.1	刺
-27	J-8, J-9, K-8, K-9	6	4.5	26	2.1	4.41	1.3	袋
-28	ST-24流れ込み	7.3	5.2	45	2.4	5.76	1.4	袋

観察表12　生産具　（砥石・紡錘車・羽口）

挿図	出土地	器種	残存部位（cm）	色調
202-1	SX-1	砥石		
-2	SD-8	砥石		
-3	SB-23pit13	砥石		
-4	L-9	砥石		
-5	N-13	紡□車	6.7×6.1×1.0	橙
-6	B区調査区内	紡□車	6.1×4.7×1.2	浅黄橙
-7	SD-8	紡□車	(6.8)×6.7×0.9	
-8	K-8 Pit内	羽口		

観察表13　特殊置物　（瓦・硯）

挿図	出土地	器種	色調	備考
204-1	E-8	瓦	灰白	
-2	L-9	瓦	灰白	
-3	SD-8	硯	暗褐色	

観察表14　特殊置物　（スタンプ・瓦玉）

挿図	出土地	器種	残存部位	色調	備考
205－1	K－7 pit内	瓦玉	輸入磁器見込み部		43.0g
－2	調査区内	瓦玉	輸入磁器見込み部	高台）にがい黄橙 見込み）灰	28.9g
－3	J－12	瓦玉	輸入磁器見込み部		63.1g
－4	J－12	スタンプ付き		にぶい黄橙	土師器小皿？
－5	H－12	Pストーン	1.2×1.1×0.3		
－6	SB－17pit 2	Pストーン	1.7×1.6×0.6		
－7	SB－20pit15	Pストーン	1.9×1.6×0.8		
－8	SD－8	Pストーン	2.3×2.0×0.6		
－9	G－9	Pストーン	3.0×2.7×0.6		
－10	L－13	Pストーン	3.2×2.9×0.6		
－11	SD－8	Pストーン	4.5×4.3×0.7		

第Ⅲ章　科　学　分　析

熊本県深田村灰塚遺跡出土の中世人骨

松下孝幸＊

【キーワード】：熊本県、中世人骨、保存不良、女性

はじめに

熊本県球磨郡深田村字灰塚に所在する灰塚遺跡の発掘調査が1993年（平成５年）から1997年（平成９年）まで継続され、木棺墓や土壙墓が200基以上も検出された。酸性土壌であったためか、人骨の保存状態は著しく悪く、人骨はほとんど残存していなかった。

熊本県での中世人骨の報告例は少なく、荒尾市淨業寺（永井、1965)、宇土市緑川（故松野・他、1970)、城南町尾窪（内藤、1973)、塚原（内藤、1975)、荒尾市杉谷（内藤・他、1978)、興善寺馬場（松下、1980）があるにすぎない。尾窪から出土した中世人骨は比較的保存状態も良好で、関東鎌倉の材木座遺跡でみられた中世人骨の特徴である、長頭性、鼻根部の扁平性、歯槽性突顎がみられることがわかり、長頭性、鼻根部の扁平性、歯槽性突顎は関東地方だけにみられる地域的特徴ではなく、日本人の時代的特徴であることを示した貴重な例である。

本例は、保存状態が著しく悪く、残存量も少ないが、性別を推測することができるものがあったので、その推測結果と残存部分などを報告しておきたい。

資　　料

表１　資料数（Table 1．Number of materials）

成人			幼小児	合計
男性	女性	不明		
0	1	3	0	4

本遺跡から出土した中世人骨は合計４体で、表１に示すとおり、この４体のうち３体は成人骨で、残りは骨粉状態だったので、成人骨か未成人骨かは判別できなかった。成人骨のうち性別を推測できたのはわずか１体で、これは女性と推定した。成人骨３体のうち２体は性別を明らかにできなかった。なお、各人骨の性別・年齢は表２のとおりである。

この４体の人骨は、考古学的所見より、中世に属する人骨群である。

なお、性判別については所見の項でそれぞれの個体ごとにその推定根拠を挙げた。

*Takayuki MATSUSHITA

The Doigahama Site Anthropological Museum〔土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム〕

表２　出土人骨一覧（Table２．List of skeletons）

人骨番号	性別	年齢	備　考
SK－169人骨	不明	不明	成人、土壙墓
SX－6人骨	不明	不明	火葬骨片、土壙墓
SK－16人骨	女性	不明	成人、木棺墓
SK－206人骨	不明	不明	骨粉、木棺墓

所　　見

SK－169人骨（性別・年齢不明）

残存量は少ない。頭蓋と四肢骨のそれぞれ破片ばかりで、その断端は磨滅を受けている。

頭蓋は前頭骨、左側上顎骨の前頭突起および下顎骨のそれぞれ一部を同定できたほか、頭蓋骨は３㎝×３㎝大よりも小さい破片が残存していた。

上下両顎には歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

／	／	M_1	P_2	P_1	C	I_2	I_1	I_1	○	C	P_1	P_2	／	／	／
／	○	○	○	○	○	○	●	／	／	／	／	／	M_1	／	／

〔／：不明（破損）　○：歯槽開存　●：歯槽閉鎖〕

咬耗度はBrocaの２度である。

左側の眼窩上縁部が残っていたので、眼窩上孔の有無を観察できた。左側には眼窩上孔が存在する。

四肢骨は大腿骨か脛骨の骨体の一部と思われる骨片が残存していたが、その他に同定不能の骨片が多数残存している。

性別、年齢は不明であるが、幼小児ではなく、成人骨である。

SK－16人骨（女性、年齢不明）

遊離歯冠、上腕骨、大腿骨、脛骨、足根骨および骨種不明の四肢骨片が残存していた。

遊離歯冠は次のとおりである。

／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	M_2	M_3
／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	M_1	／	／

〔／：不明（破損）〕

咬耗度はBrocaの１～２度である。

上腕骨は、左側骨体の一部である。計測はできないが、径は小さく、骨体は扁平である。

大腿骨は、左側骨体の内側面が残っていた。計測はできないが、径はやはり小さいようである。

脛骨は、右側の遠位端と左側骨体の一部が残存していた。様態は不明である。

足根骨は、右側の距骨と踵骨が残っていたが、距骨はほぼ完全である。距骨の径は小さい。

性別は、四肢骨の径が小さいことから、女性と推定した。年齢は不明である。

SX－6人骨（性別・年齢不明）

四肢骨の小片2点が残存していたにすぎない。この骨片2点は火葬骨で、骨の厚さから推測して、前腕の骨の一部であろう。骨質から幼小児ではなく、成人であろう。

SK－206（性別・年齢不明）

骨粉状になって残っていたにすぎない。精査して、これが四肢骨なのか頭蓋なのかを調べてみたところ、不規則に並んだ海綿質を検出した。これは乳様突起の可能性があり、残っていたのは頭蓋の一部と思われる。大きさから幼小児とは考えられない。

要　　約

熊本県球磨郡深田村字灰塚にある灰塚遺跡の発掘調査で、土壙墓と木棺墓から人骨が検出された。人骨の保存状態は著しく悪かったが、解剖学的精査と人類学的観察をおこない、次の結果を得た。

1．人骨は、土壙墓2基、木棺墓2基から合計4体が検出された。保存状態はよくないが、残存骨の骨種の同定は可能であった。

2．4体のうち1体は火葬骨片で、残りの3体は火を受けていない。3体のうち1体は骨粉状であった。性別を推定できるものはわずか1体で、女性骨と思われる。今回検出された人骨のなかには未成人を思わせるものは存在しなかった。

3．眼窩上孔は、存在の有無を観察できた1例中1例に認められた（SK－169人骨の左側）。

4．今回出土した中世人骨は残存量も少なく、中世人の特徴である、長頭性、鼻根部の扁平性、歯槽性突顎などを確認することはできなかった。

謝　　辞

擱筆するにあたり、本研究と発表の機会を与えていただいた熊本県教育庁文化課の諸先生方に感謝致します。

参考文献

1．香原志勢、四肢骨特に大腿骨の形質。鎌倉材木座発見の中世遺跡とその人骨、岩波書店：149－154.

2．松下孝幸、1980：熊本県興善寺馬場遺跡出土の中世人骨。興善寺（熊本県文化財調査報告第45集）：145－159.

3．故松野茂・他、1970：熊本県宇土市緑川の中世時代早期の遺跡出土の頭骨について。熊本医学会雑誌、44：999－1016.

4．永井昌文、1965：荒尾市浄業寺中世人骨について。浄業寺と小代氏（荒尾市文化財報告第1集）：51－53.

5．内藤芳篤、1973：人骨。尾窪－熊本県下益城郡城南町尾窪中世墳墓群の調査(熊本県文化財調査報告12)：62－78.

6．内藤芳篤、1974：人骨。立石貝塚（大分県文化財調査報告31）：39－45.

7．内藤芳篤、1975：塚原中世墳墓・丸尾５号墳出土の人骨について。塚原(熊本県文化財調査報告第16集)：317－322.

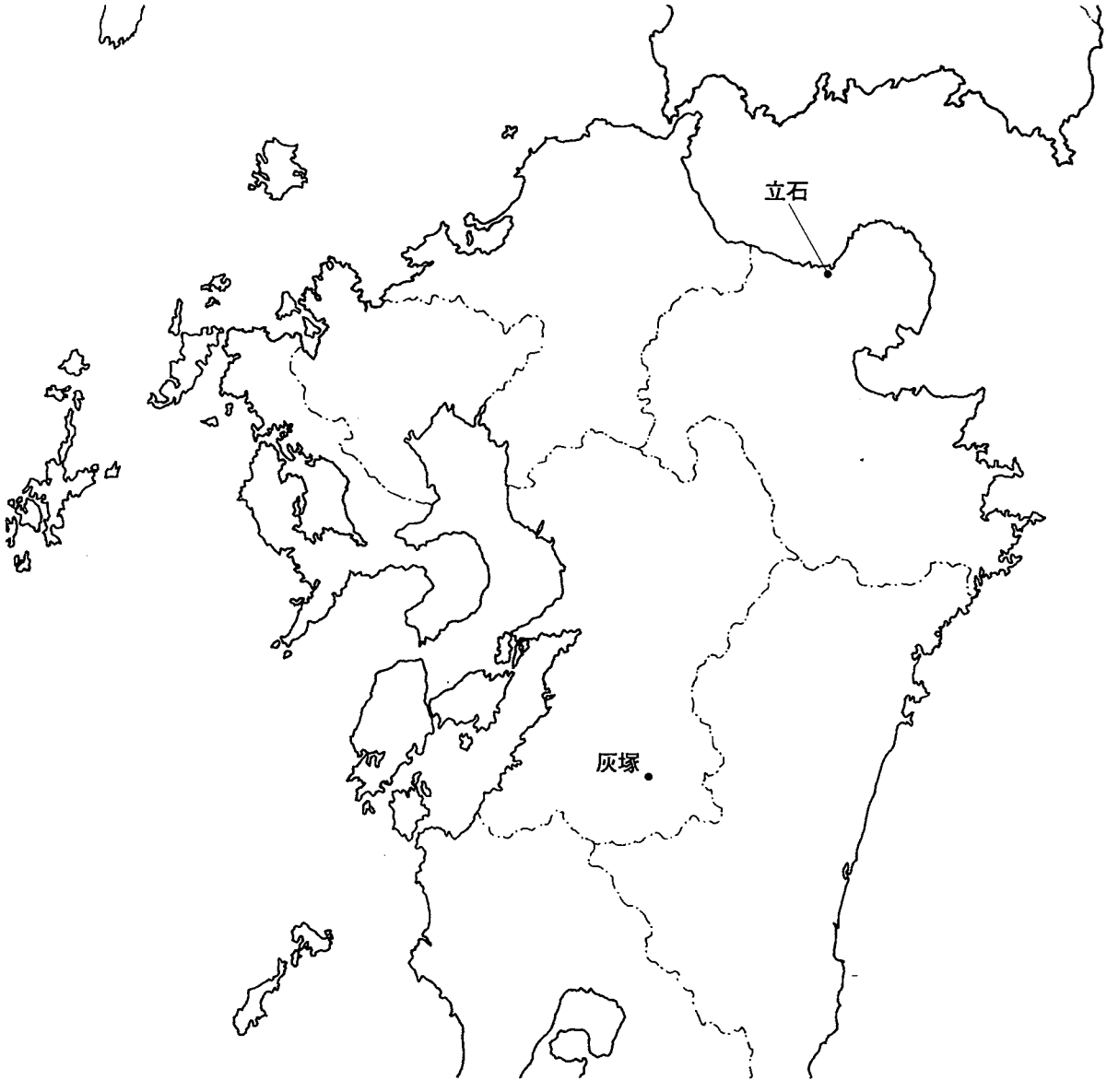
8．内藤芳篤・他、1978：杉谷遺跡出土の中世人骨。大園山・杉谷遺跡（熊本県荒尾市文化財調査報告第３集）：116－122.

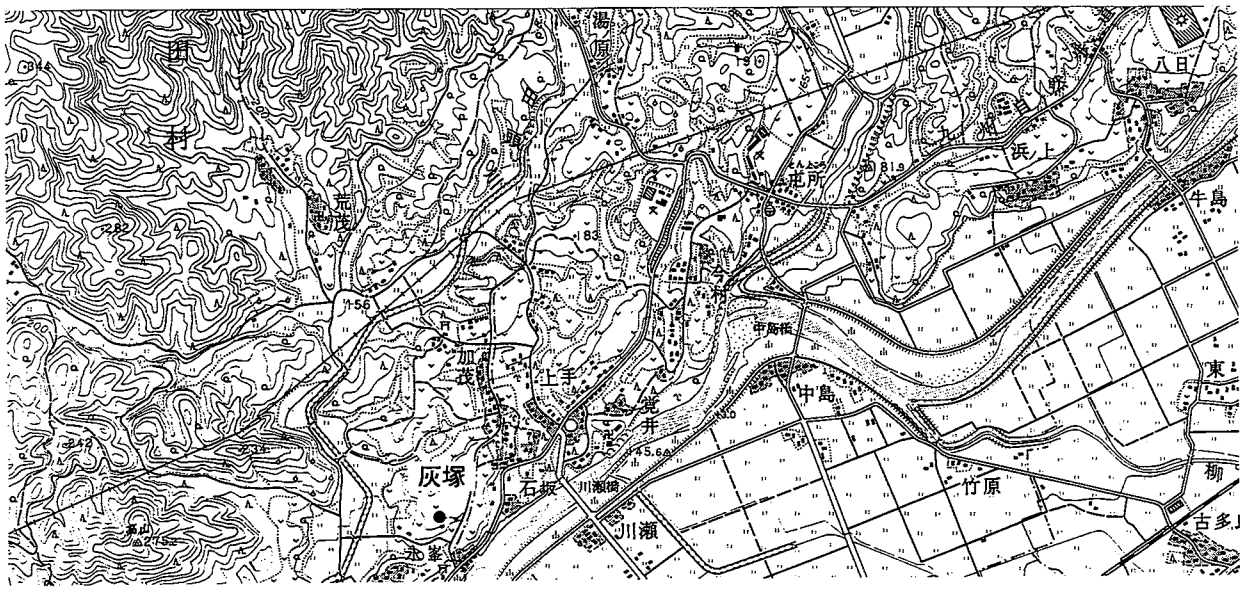
9．中橋孝博・他、1985：人骨（山口県下関市吉母浜遺跡出土人骨)。吉母浜遺跡：154－225.

10. 佐熊正史、1986：中世九州人頭蓋の人類学的研究。長崎医学会雑誌、61：４－21.

11. 鈴木尚・他、1956：頭骨の形質。鎌倉材木座発見の中世遺跡とその人骨：75－148. 岩波書店、東京。

12. 牛島陽一・他、1960：山口県阿武郡見島村出土の中世時代の人骨について。人類学研究、７（３－４）：52－56.

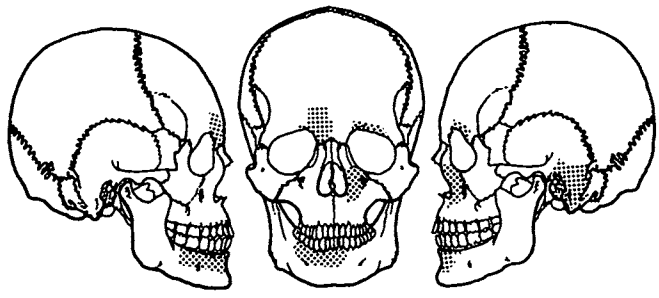




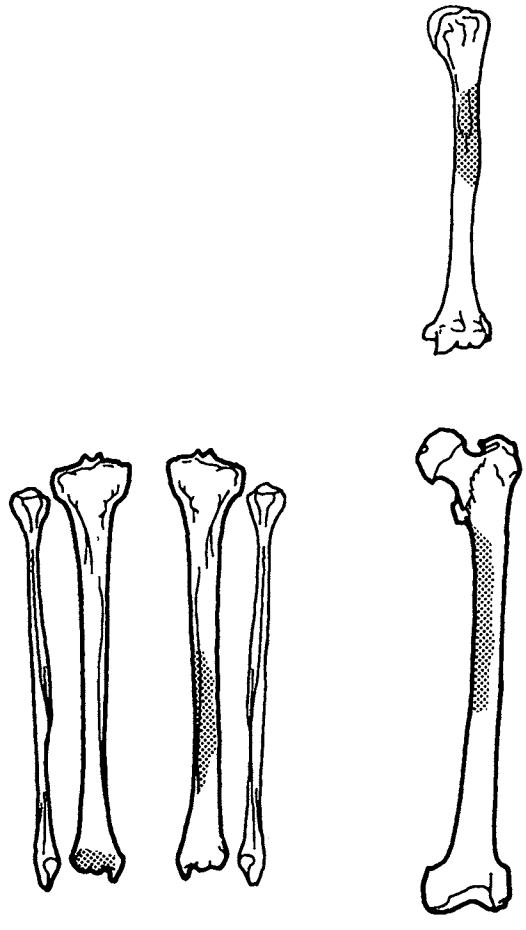
第１図　遺跡の位置（1/25,000）
(Fig. 1. Location of the Haizuka Site, Fukada Village,Kumamoto Prefecture)

SK－169人骨（性別・年齢不明）
（SK－169，adalut sex and age are unknow）

SK－16人骨（女性・年齢不明）
（SK－162，female）



SK－169人骨（性別・年齢不明、成人）



SK－16人骨（女性・年齢不明）

第２図　人骨の残存部、アミかけ部分
(Fig. 2. Regions of preservation of the skeleton.Shaded areas are preserved)

SK－205　自然科学分析

株式会社　古環境研究所

Ⅰ．出土試料の放射性炭素年代測定

1．試料と方法

No.	試料の種類	前処理・調整	測定法
1	炭化物	酸－アルカリ－酸洗浄 ベンゼン処理	β－線計数法

2．測定結果

試料名	^{14}C年代 （年ＢＰ）	δ^{13}C （‰）	補正^{14}C年代 （年ＢＰ）	暦年代	測定No. Beta－
No. 1	900±40	－27.1	870±40	交点ＡＤ1195 2σＡＤ1040TO1260 1σＡＤ1165TO1225	114886

（2σ：95%probability，1σ：68%probability）

1）^{14}C年代測定値

試料の^{14}C／^{12}C比から、単純に現在（1950年ＡＤ）から何年前（ＢＰ）かを計算した値。^{14}Cの半減期は5,568年を用いた。

2）δ^{13}C測定値

試料の測定^{14}C／^{12}C比を補正するための炭素安定同位体比（^{13}C／^{12}C）。この値は標準物質（ＰＤＢ）の同位体比からの千分偏差（‰）で表す。

3）補正^{14}C年代値

δ^{13}C測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、^{14}C／^{12}Cの測定値に補正値を加えた上で算出した年代。

4）暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中^{14}C濃度の変動を補正することにより、暦年代（西暦）を算出した。補正には年代既知の樹木年輪の^{14}Cの詳細な測定値を使用した。この補正は10,000年ＢＰより古い試料には適用できない。

5）測定No.

本試料の測定は、Beta Analytic Inc.（Florida,U.S.A）において行われた。

Beta－は同社の測定No.を意味する。

Ⅱ．出土炭化材の樹種同定

1．試料

試料は、SK－205より出土した多数の炭化材より、無作為に選び出した炭化材４点である。出土状態は床直に敷き詰められた状態であった。

2．方法

試料を割折して新鮮な基本的三断面（木材の横断面、放射断面、接線断面）を作製し、落射顕微鏡によって75～750倍で観察した。樹種同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

3．結果

結果は表１に示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定の根拠となった特徴を記す。

表１　灰塚遺跡出土炭化材の樹種同定結果

試　料	樹種（和名／学名）	
No.1	コナラ属アカガシ亜属	Quercus subgen. Cyclobalanopsis
No.2	コナラ属アカガシ亜属	Quercus subgen. Cyclobalanopsis
No.3	クマシデ属イヌシデ節	Carpinus sect. Carpinus
No.4	コナラ属アカガシ亜属	Quercus subgen. Cyclobalanopsis

a．クマシデ属イヌシデ節　Carpinus sect. Carpinus　カバノキ科　図版１

横 断 面：小型で丸い道管が、単独あるいは数個放射方向に複合し、全体として放射方向に配列する放射孔材である。集合放射組織が見られる。

放射断面：道管の穿孔は、単穿孔である。放射組織は同性である。

接線断面：放射組織は、同性で１～３細胞幅のものと、集合放射組織からなる。

以上の形質よりクマシデ属イヌシデ節に同定される。落葉の中高木で、北海道、本州、四国、九州の山野に分布する。

b．コナラ属アカガシ亜属　Quercus subgen. Cyclobalanopsis　ブナ科　図版２・３

横 断 面：中型から大型の道管が、１～数列幅で年輪界に関係なく放射方向に配列する放射孔材である。道管は単独で複合しない。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属アカガシ亜属に同定される。コナラ属アカガシ亜属にはアカガシ、イチイガシ、アラカシ、シラカシなどがあり、本州、四国、九州に分布する。常緑高木で、高さ30m、径1.5m以上に達する。材は堅硬で強靭、弾力性が強く耐湿性も高い。特に農耕具に用いられる。

4．所見

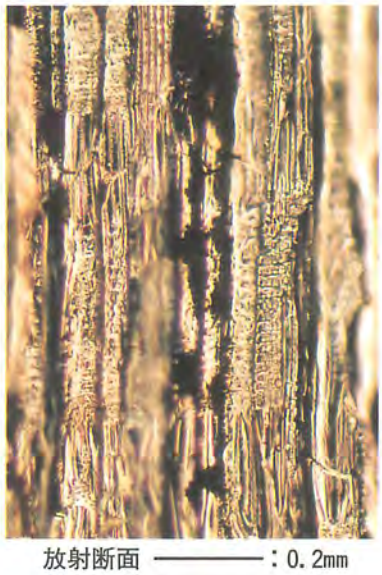
同定された樹種は、コナラ属アカガシ亜属およびクマシデ属イヌシデ節であった。コナラ属アカガシ亜属は照葉樹林の主要構成要素であり、クマシデ属イヌシデ節は温帯に広く分布する樹木である。なお、いずれの試料も金属顕微鏡下で、著しく反射光を示し、熱により炭化生成された炭化材である。

参考文献

佐伯浩・原田浩（1985）針葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p．20－48.

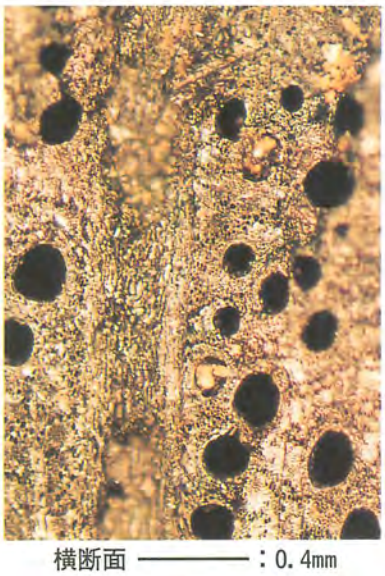
佐伯浩・原田浩（1985）広葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p．49－100.

横断面 ————：0.4mm


放射断面 ————：0.2mm

接線断面 ————：0.2mm

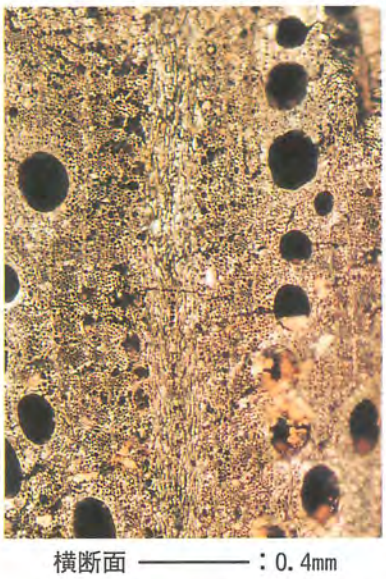
1．No.3　クマシデ属イヌシデ節

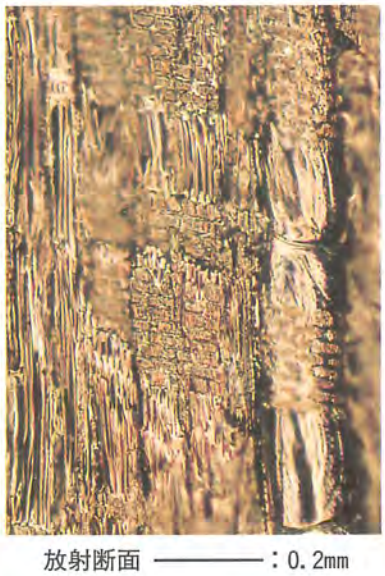

横断面 ————：0.4mm

放射断面 ————：0.4mm

接線断面 ————：0.2mm

2．No.1　コナラ属アカガシ亜属


横断面 ————：0.4mm


放射断面 ————：0.2mm

接線断面 ————：0.2mm

3．No.2　コナラ属アカガシ亜属

Ⅱ．出土炭化材の顕微鏡写真

SX－5　炭化材の同定

株式会社　古環境研究所

1．試料

試料は、SX－5内から出土した炭化材である。

2．方法

試料を割折して新鮮で基本的な3断面（木材の横断面・放射断面・接線断面）をつくり、生物顕微鏡によって75～600倍で観察した。樹種同定はこれらの試料標本をその解剖学的形質および現生樹木の木材標本と対比して行った。

3．結果

結果を以下の表に示し、同定の根拠等を記載する。また、各断面の顕微鏡写真を示す。

試料番号	樹種（和名／学名）
No.1	タケ亜科　Bambusoideae

タケ亜科　Bambusoideae　イネ科　　図版1

横 断 面：基本組織である柔細胞の中に並立維管束が不規則に散在する。並立維管束は木部と師部からなり、その周囲に維管束鞘が存在する。

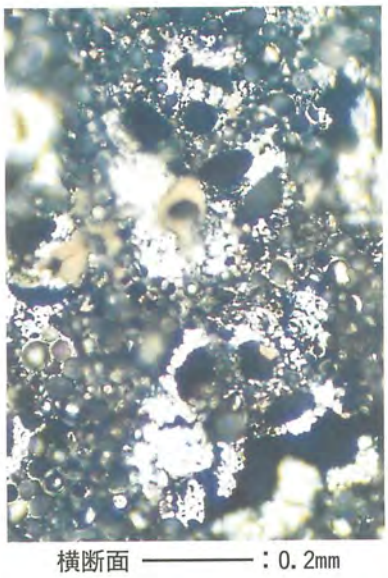
縦 断 面：柔細胞および維管束、維管束鞘が桿軸方向に配列している。以上の形質よりタケ亜科に同定される。

参考文献

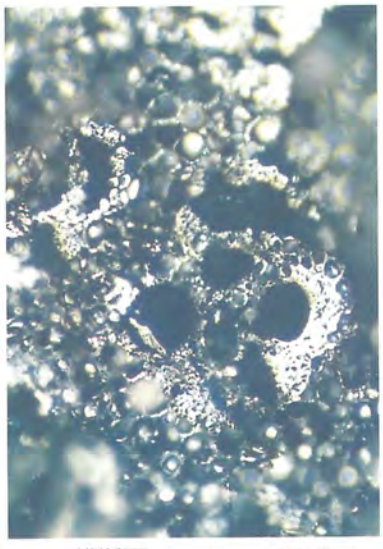
島地謙・伊東隆夫（1982）図説木材組織　地球社.

島地謙ほか（1985）木材の構造　文永堂出版.

日本第四紀学会編（1993）第四紀試料分析法　東京大学出版会.



横断面 ――――：0.2mm



横断面 ――――：0.2mm

縦断面 ――――：0.2mm

1．No.1　タケ亜科

SX－5　出土炭化材の顕微鏡写真

第Ⅳ章　考　　察

第Ⅳ章　考　　察

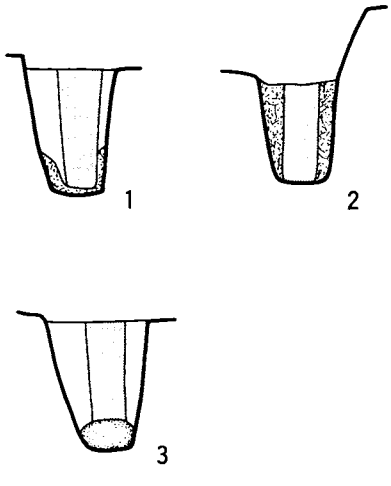
第１節　遺構と遺物

１　遺　構

ＳＢ（掘立柱建物）においては、１間×２間～５間×６間と多様な掘立柱建物が検出されたが、２間×３間が最大数で20棟を数えるが、本遺跡の掘立柱建物では小規模の類になる。遺構は重複していることから全てが同時期に存在せず、時期による変遷が想定されるのであるが、この内容については次節で述べる。

特長が見られる柱穴があり第206図に提示した。１・２は柱を根固めするように柱穴から粘質土が検出された。１は調査Ｆ区ＳＢ群に見られ、２の形態は調査Ｅ区の竪穴住居で確認された。３（写真図版８　No.28・30）は礎石を持つ。この３は調査Ｄ区のＳＢ－47～60の密集区に見られる。

また23基のＳＨ（竪穴住居）が検出されたが、調査Ｅ区から検出された４基の竪穴住居は土師器が出土しているが底部切り離しは糸切り技法で、この技法時に竪穴住居が存在していたことになる。土師器は坏と皿であり、坏は口径13～14cm・皿は６～９cm台の範疇である。とくにＳＨ－23は坏と皿の２枚ずつのセット関係で、その出土状態は重なった状態での出土であり、また故意に口縁部に刻みを持たせたもので、これは廃棄儀礼の一種か。この坏と小坏の２枚ずつのセット関係はＳＫ（土壙墓）－169でも見られた。この調査Ｅ区はＳＤ（堀）が周囲を巡っていると想定される範囲外である（図213参）。ＳＤ内には同時期のＳＢ（掘立柱建物）の存在も想定されることから、住居という概念では同時期に異なる遺構が存在していたことになる。

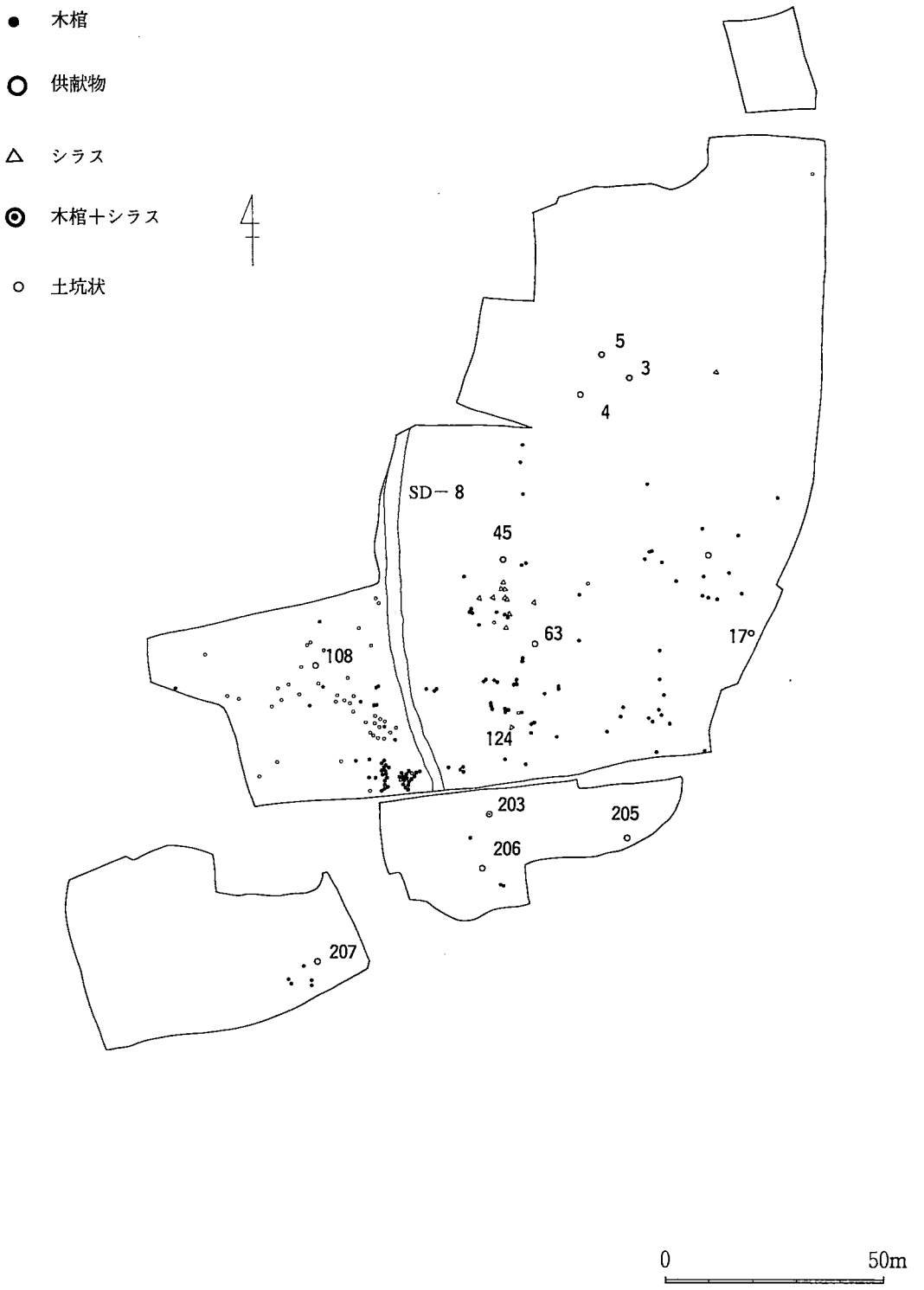


第206図　Pit 形態図

ＳＫ（土壙墓）は214基が検出されたが、調査Ｃ区に集中が見られここが墓域の中心と想定される。ここでは他とは異なる土壙墓について述べてみたい。

ＳＫ－205は調査Ｅ区の南東端にて検出されたが死床面に砕いた木炭を敷き詰めた遺構であった。木炭は分析によりクマシデ属イヌシデ節とコナラ属アカガシ亜属が検出されたが、この両種は薪炭材の材料であり特にクマシデは木炭として上等品が得られるとある。この木炭の目的についてであるが、木炭は古墳時代の木炭槨の使用例がある。これは火葬の変形ではなく、死体の防腐と浄化の目的であろうといわれる。木炭は純炭素に近く、且つ強い吸湿性を持ち保水性の強い物質であることから、ＳＫ－205もその使用は上記の目的であったと思われる。この土壙墓は輸入磁器の供献が認められ、またＳＡ－11はこの遺構と近接していることから、遺構を意識した柵である。この遺構は明らかに他の土壙とは異なりその位置的なことからでも「屋敷墓」と規定される遺構であろう。この「屋敷墓」は「屋敷」との有機的な関係が指摘されている。このような性格を持つ土壙墓は供献物の内容から他にＳＫ－206が該当する。従って本遺跡は大別すると２時期の区分ができる。遺跡の時期的な問題については「屋敷墓」の時期は伝世の強い輸入磁器ではあるが、これらの出土からＳＫ－206が10Ｃ前半・ＳＫ－205が12Ｃ前半との遺物が伴献物としてあることから、これらの時期に遺跡は存在し、また他の土壙墓としての条件としてＣ類の供献物を提示（第194図　第14表　観察表４参）したが、12～13Ｃの範疇であったことから、遺跡のピークをこの時期に想定した。

土壙墓の区分は第207図に提示した。これは飽くまで検出された形態を分布化したものである。ＳＤ－８を挟んで西側に集中区が見られ、ここを墓域と想定した。また死床面にシラスを持つ土壙は遺跡中

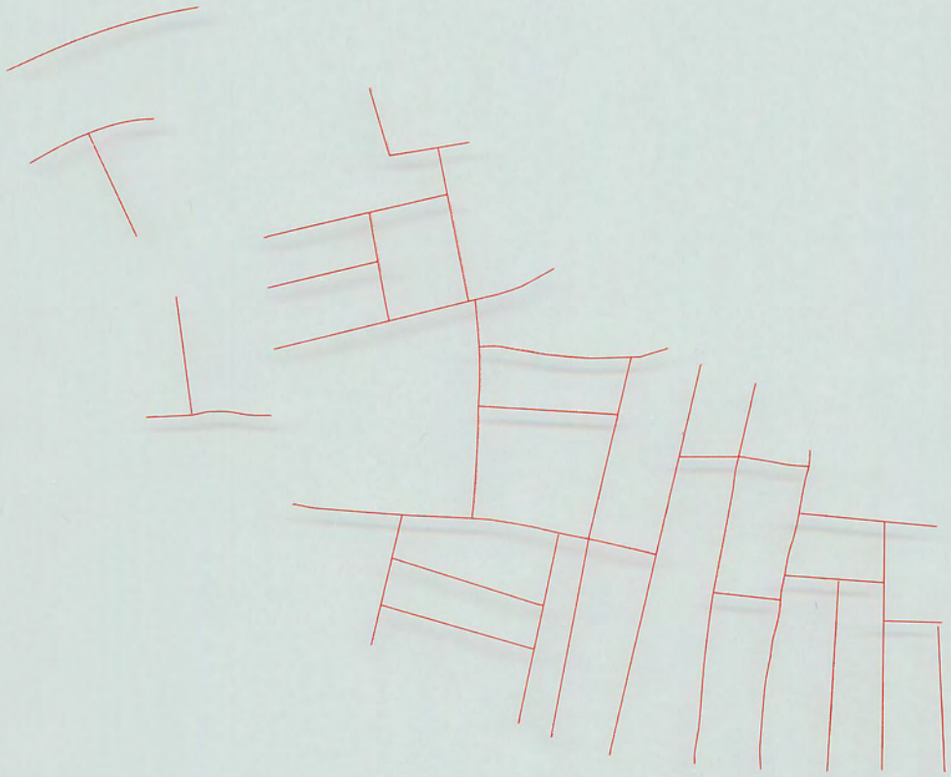


第207図　土壙墓（SK）分布図

央よりやや南に集中している。

ＳＫ－207は４～５Ｃ・ＳＫ－206は10Ｃ前　半・ＳＫ－205は12Ｃ前半のように土壙墓にも時期差があり、切り合いがそれを肯定するが、供献物の存在や木棺の有無などの形態の差異は時期差もあるが、階層的なことでもあろうか。本遺跡では多数の土壙墓が検出されたが、階層的なことでもあれば、埋葬されなかった人々も存在したか。

2　遺　物



第208図　地割り図

土師器は本遺跡最大の出土物であるが、破損が激しく完形資料には多くは恵まれなかったが、反転復元等により情報を得た。底部切り離しがヘラ切りと糸切りに大別でき、この移行期を球磨郡では12Ｃ後半～13Ｃ初頭と想定されている（美濃口1994年）。廃棄儀礼等にも使用されたと思われ遺構の時期設定の資料となる。資料は坏・小坏・碗・皿に分類できる。

須恵器は下がり山窯跡（球磨郡錦町所在）の第１期と比定されている９Ｃ代の遺物が中心に見られる。これにより本遺跡は消費地の一つと想定される。遺構に伴う須恵器はＳＫ－45の瓶で、これにより９Ｃの遺構と想定される。

黒色土器は無高台碗がＳＢ－70より出土しているが、他は高台付きである。第188図**2**は輸入磁器越州のⅡ類の模倣で９Ｃ頃か。また第188図**3**は高台が長脚気味で県北～中央の10Ｃ末前後に比定されるか。この黒色土器は伴う遺構はなく、注目していた土壙墓の供献が見られなかった。

本遺跡では生産を示唆する遺構がある。ＳＸ－５は楕円型を呈し、埋土と床直上より出土した川原石（砂岩）の状態から精練炉である小型竪型炉と思われる。また鉄製品だけでなく、鉄鐸・羽口の遺物出土にからでも、本遺跡での鋼生産が行われたことは明瞭である。また鉄鉱鉾分布（第203図）でもＳＸ－５周辺の集中が見られる。しかしＳＸ－５は小型の炉であり、本遺跡では１基が確認されただけであるが、鋼の取り出しでは上部を破壊して、これを取り出すが、また上位を構築すると再操業が可能である。本遺跡では鉄鉱鉾が総量で10.1kgが出土した。1999年12月６日に県立装飾古墳館が試みた「古代たたら復元」の結果から鋼と鉄鉱鉾の割合は１：３～４であることから、少なくとも３～４kg以上の鋼生産は行われていたことになる。またこのように直接に鋼を得る直接製鋼法があるが、また第199図鉄**13**のような不明鉄片の出土から、間接製鋼法も想定できる。数点の鎌・釣針など農耕・漁撈に使用された生産具や鉄鏃・小札など武器や、また武具の出土から武士団の存在も想定させる。また炭化材の竹の検

第209図　庇付建物配置図

出であるが、竹はたたら操業においては炭材質としては不適切で、使用するは羽口への送風パイプとしての可能性がある。またＳＸ－５は銅片が埋土から出土している。本遺跡近在に江戸中期の創業（昭和29年採鉱中止）の深田銅山があり、銅鋅（写真図版４No.11）の出土もあることから銅生産の可能性をも示唆するか。

土錘は漁撈の網漁に使用されるもので、土錘はその材質の変化はあるがその発生時から現代まで形式変化があまり見られないことから、民俗例から形態

分析により刺網系が中心となった。近接する球磨川での川漁で使用されたものか。そもそも生産具はその対象となるべき漁撈や農耕等に変化が生じた時に形式変化があるといわれ、生産具の変遷は非常に難しい。変遷という縦軸ではなく、分類という横軸で捉えた。ＳＸ－４（不明遺構）出土の土錘は良好な一括資料と考えられる。

第２節　遺跡と環境

１　遺構のグルーピング

本遺跡の検出面は本来の生活面ではなく、上層を撹乱されているため基本土層第３層での検出であった。従って通常の遺跡のように層位などで時期を決定することは困難な状況であったが、いくつかの条件から変遷を考慮したグルーピングを試みた。

地形図（第208図）から耕作地の状態を観察すると、地割りが堀（ＳＤ－８）の存在を想定させる。また柵状柱列と対比することから遺跡の廃棄がその後耕作に変容していることを示唆する。堀（ＳＤ－８）と柵状柱列（ＳＡ－４・５）は遺構の最終期であるか。

調査Ｆ区の掘立柱建物は検出時に新旧関係が確認された。ＳＢ－71＞73＞72という関係である。ＳＢ－72はこの調査区にＳＢ－75・76という２間×３間という同一規格の遺構が３棟ある。またＳＢ－73は77と方位軸が同位である。そしてＳＢ－71は多くの重複が見られ、これにより単独の遺構である。他のＳＢ－70・74・76は方位軸が同位で出土した遺物はＳＢ－70より黒色土器出土から遺跡でも古時期に相当する。従って調査Ｆ区はＳＢ－71（Ⅳ）＞73・77（Ⅲ）＞72・75・78（Ⅱ）＞70・74・76（Ⅰ）という４時期が想定される（第210図）。これを柱間隔で提示するとＳＢ－71（1.8m）＞73・77（1.7m－7.8m）＞72・75・78（2.8m－2.4m－2.5m）＞70・74・78（2.1m－2.4m－2.0m）となり、本遺跡では「短＞長」という柱間隔で新旧関係を想定することができる。

これを基本に調査Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ区内を大別した。この範囲は周囲を掘で区画されていると想定され、まず重要な遺構として庇付建物があり、庇はその方向に遺跡の中心があるといわれることから、これを提示した（第209図）。これにより、ＳＢ－23とＳＢ－47～60の調査Ｄ区の密集地がそれに該当すると思われるが、庇付建物は重複しているため、これを中心にグルーピングを試みた。またＳＤ－８の西側に位置するＳＢ－66は２間×３間で身舎面積38.4㎡である。柱間隔の平均2.75mで本遺跡の掘立柱建物中では柱間隔が広く、このＳＢ－66は近接しているＳＨ－９と覆土が酷似していると調査員の所見があることからＳＨ－９と同時期か。

Ⅰ（第211図）

庇付建物で最大の柱間隔を持つＳＢ－23があり、柱間隔はＳＢ－47の2.86mを最大としＳＢ－64の2.42mまでの範囲である。庇付きのＳＢ－20は柱間隔からではこのⅠに該当するが、同じ庇付きのＳＢ－31と重複しているが、ＳＢ－20はⅡとした。またＳＢ－32と23は近接しているがこのⅠに配置した。

Ⅱ（第211図）

Ｅ10～15Ｗの方位軸の建物群で柱間隔は1.9m－2.2mの範疇である。ＳＡ－８の南北ラインにＳＢ－40が対応することからＳＡ－８・ＳＡ－９もここに配置した。ⅡのＳＢ群は柱間隔1.95－2.2mの範疇になり、Ｄ区密集区はＳＢ－49・55・56・57がこれに該当するなど、Ⅱは遺跡で最も充実する。またＳＢ－４からは12Ｃ前～13Ｃ中の輸入磁器を出土している。

Ⅲ（第212図）

方位軸がＥ20～30Ｗの建物群で２期より北にやや振れる。小規模の建物が多い。ＳＢ－41・34・36が該当することからＳＡ－１を設定した。柱間隔に1.6m－2.2mとばらつきがある。

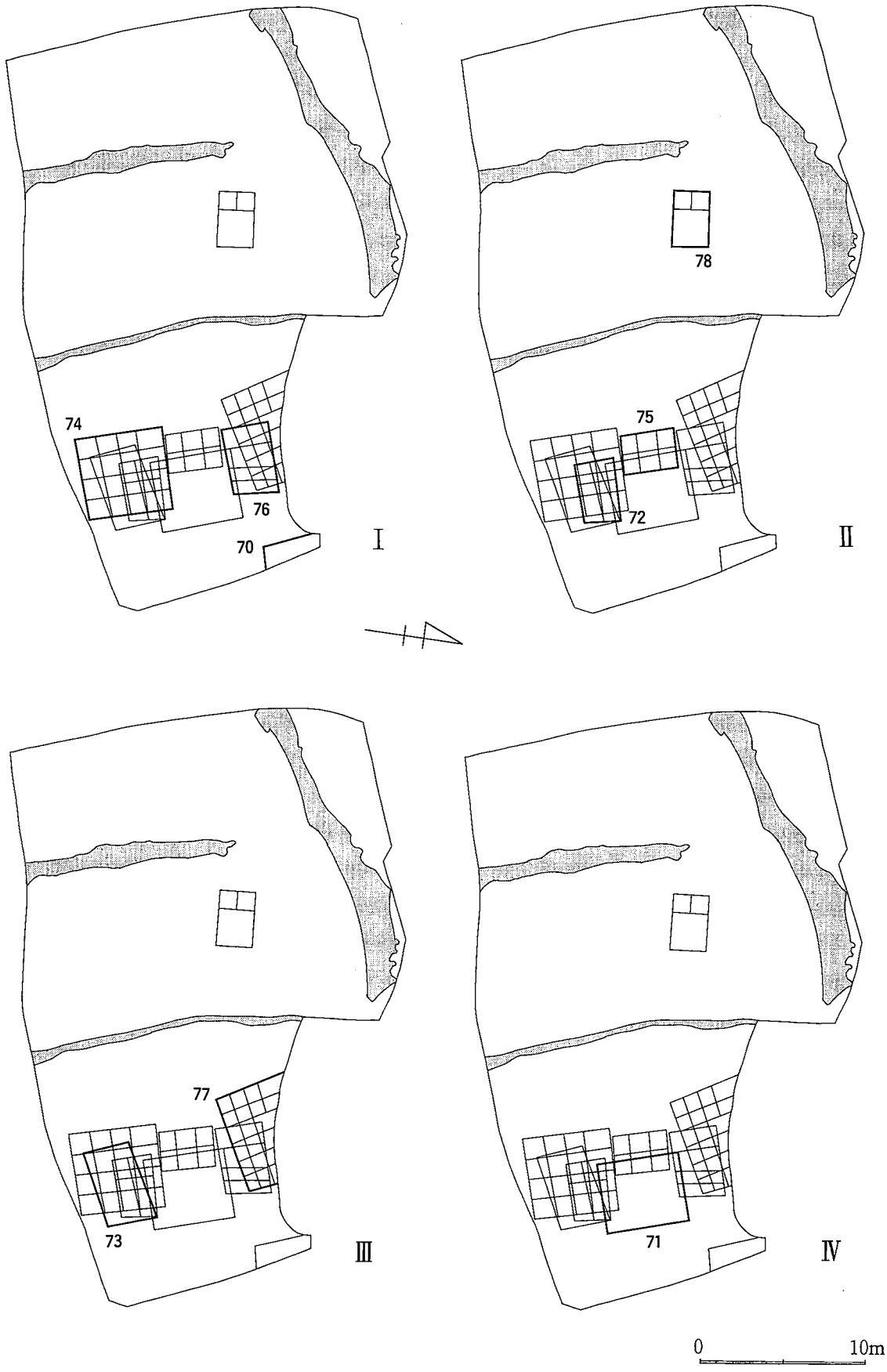
Ⅳ（第212図）

柱間隔1.8m前後の建物群で、Ｄ区ＳＢ密集区は50・53・54・55・59・60が該当し、庇付きはＳＢ－42がある。切り合いではあるがＳＢ－61・62の建物群にＳＡ－４・５が付随すると思われる。またこのＳＡ－４・５は前述した調査前の地割りラインに該当する。

以上から最低でも4のグルーピングが想定される。

２「屋敷」について

本遺跡には調査Ｃ－Ｄ区に南北に延びる堀（ＳＤ



第210図　F区変遷図

第211図　A－D区グルーピング　1

Ⅲ

Ⅳ

第212図　A－D区グルーピング　2

−8)が確認されたが、この溝は近年まで農道として使用されていたことから、調査Ａ区を分断する農道とＣ−Ｄ区とＥ−Ｆの境界の農道と村境を堀の痕跡と想定したならば、南北約160m・東西約100mの長方形堀を形成する。橘田正徳氏が「屋敷墓試論」の中で「溝・柵を巡らし意図的に区画によって他と区別した建物群」を「屋敷」と定義していることからここでは前後するが「屋敷」という呼称を使用する。「屋敷」はこの長方形掘の範囲内に形成される。(第213図)

また遺跡東側である須恵村方面を拡大した地形図が第214図である。この範囲は本遺跡の調査区外であるが関連調査の必要から地形測量を行った。遺跡東側の須恵村との境界である村道に沿い長さ約80m・高さ約２mの盛土が存在する。これは断面Ａ−Ａ′・Ｂ−Ｂ′からでも二重の盛土であることが図化でも確認されている。この盛土は土塁と想定され二重の土塁である。盛土間には窪地があることから館を巡る堀はこの窪地にも認めれられる。土塁の南端には小道が存在し、クランク状を呈しながら、県道33号線に出る。この県道は球磨川に沿っており、この県道から球磨川までの数本の小道が存在し、聞き取りによりそのいくつかは旧船着き場であった。この土塁は調査Ｂ・Ｄ区の東側に位置する。本遺跡の復元を試みる一つの材料として、遺跡周辺地形図に遺跡東側（須恵村方面）を組み合わせた広範囲の地形図を作成した。(第215図)

また本遺跡より直線で約９kmに「尼が土手」遺跡がある。この「尼が土手」遺跡は鎌倉初期「西村地頭職」を「狼藉之咎」によって召し上げられた「須恵後家」居住していた館の跡で遺跡は東西366m・南北486m−531mとなり外周総計4, 486m−4, 574mとなる(渋谷1981)。本遺跡と「尼が土手」遺跡の規模及び土塁比較したのが第216図である。形状は類似し規格は１：３である。また土塁は残存部であるが断面からでは山形状の頂点を持ち緩やかに傾斜部する。土塁**1・2**は本遺跡で**3**〜**5**は「尼が土手」遺跡である。「尼が土手」遺跡では緩やかな傾斜の方向が遺跡「内」で山形状が遺跡「外」である。本遺跡土塁附近の地形は東側に緩やかに傾斜しているが、「尼が土手」遺跡類例から本遺跡に近接する土塁は遺跡に伴うものではなく、この土塁が西側になる「館」の存在も想定される。また「尼が土手」遺跡にて土師片第216図**6**が表面採集（濱田智美）され、器形は不明であるが底部は糸底が確認できる。肉眼観察であるが本遺跡出土の遺物と胎土・焼成等酷似している。

3　環　境

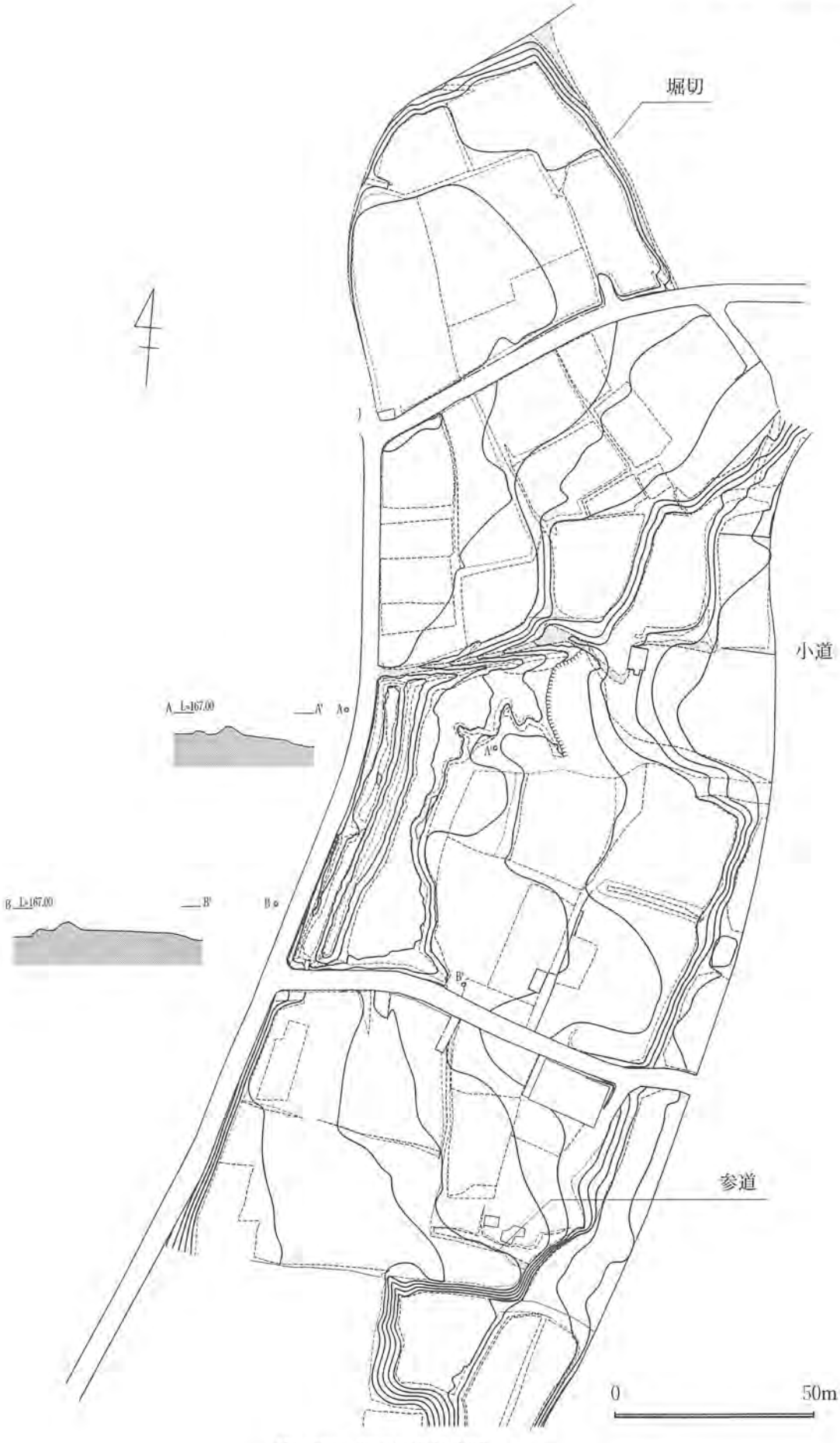
第214図から本遺跡の北東方向に約4,500m²の畑地が存在するが、ここに幅６〜７m・深さ５〜６m程の堀切状の地形(トーン10%で提示)が見られる。台地を区画するように存在することから自然地形とは考えにくく、遺構としての可能性が高い。台地上からは輸入磁器破片・土師器片が採集された。また第218図は深田村提供の小字図に聞き取りにより微小地名を加味したものである。地名には「馬場」・「馬場田」・「陣」・「下屋敷(シモヤシキ)」・「元屋敷(モトヤシキ)」・「覚井(カクイ)」などが存在する。これらの地名の成立時期は問題であるが館との関連を想定させる。また本遺跡と直線距離で約600mに位置する須恵村沖松遺跡(熊本県文化財報告書第154集)では歴史時代の遺構として掘立柱建物・竪穴住居跡が検出されている。従って本遺跡の存在していた時期にこの灰塚遺跡だけでなく周囲に同様の性格を持つ遺跡の存在の可能性は高い。

第217図は昭和38年10月３日撮影の空中写真（国土地理院空中写真複写）である。本遺跡の南東、球磨川の対岸の田園は菱形状の地割りが見れる。条里地割りの痕跡と思われ、条里の方向はN38Wである。またこの条里跡と本遺跡の直線上には勝福寺古塔碑群がある（熊本県遺跡地図　509−028)。この古塔群は球磨郡最古銘（弘安４年　1281年）をはじめ県内有数の古塔碑群であるが、この勝福寺の建立・菩提主は不明であるが、「屋敷」の継続期間に、この勝福寺古塔碑群は存在している。

4　遺跡の諸課題として

本遺跡の位置は現在では深田村所在であるが、須恵村境界に位置する。この「屋敷」期は深田村周辺を領地の一つとした「平河氏」と須恵村周辺を領地の一つとした「須恵氏」があげられる。本遺跡の「屋

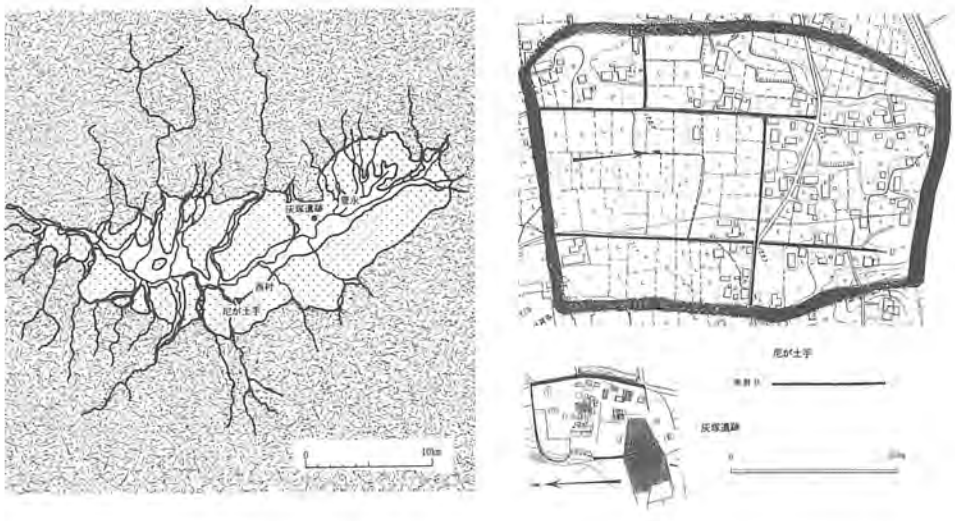
第213図　堀・土塁想定図



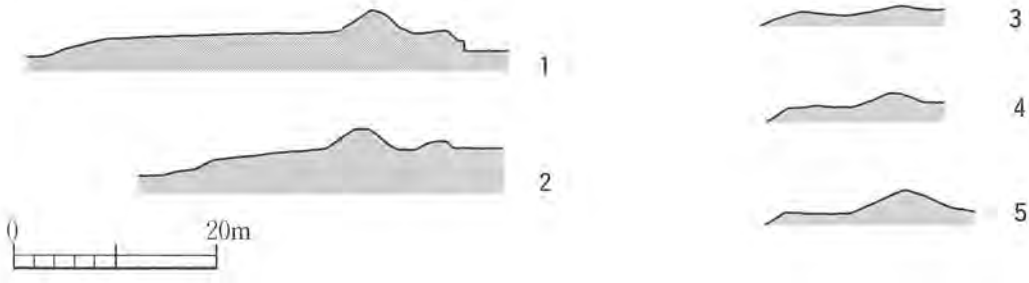
第214図　調査区外地形図　1

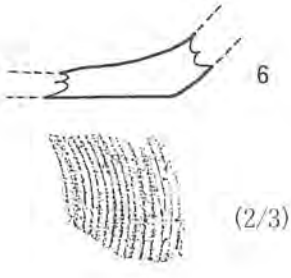
第215図　調査区外地形図　2

敷」主の問題であるが、「屋敷」内の掘立柱建物は南北軸が中心であることから、「屋敷」を巡る堀の長軸が機能的に正面であろう。また地形図では西側から東側に緩やかに地形が形成されることと「屋敷」内には墓域が西長軸側に存在することから「屋敷」は正面は東軸と想定される。東側は現在の須恵村である。この点に注目した木崎氏は「須恵深田領陣村浄連寺昔日御牌所也　此浄連寺ハ青蓮尼ノ建立」(嗣誠獨集覧巻之一上相良多良木連続之次第　第二，弥五郎頼氏）の資料を見出した。「青蓮尼」とは藤原家基須恵小太良の娘で後に相良頼景の後妻となる人物である。須恵村陣は本遺跡に近接していており、参道らしき痕跡も伺える。（第214図参）以上のことから本遺跡の館主は木崎氏の指摘にあるように「須恵氏」の可能性が高いが、今後さらなる実証のためには、これから本遺跡を巡る周囲の総合的な検討も必要であろう。



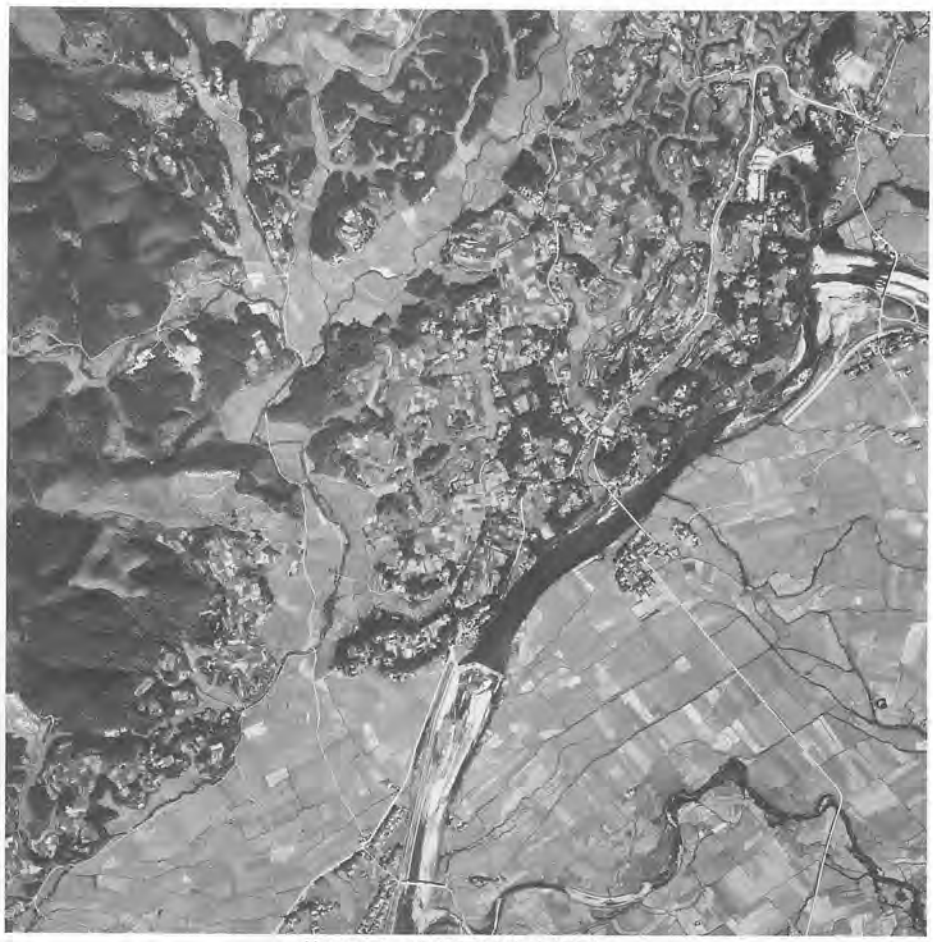
灰塚遺跡と尼が土手の位置と比較（熊本県灰塚遺跡における中世居館跡より）



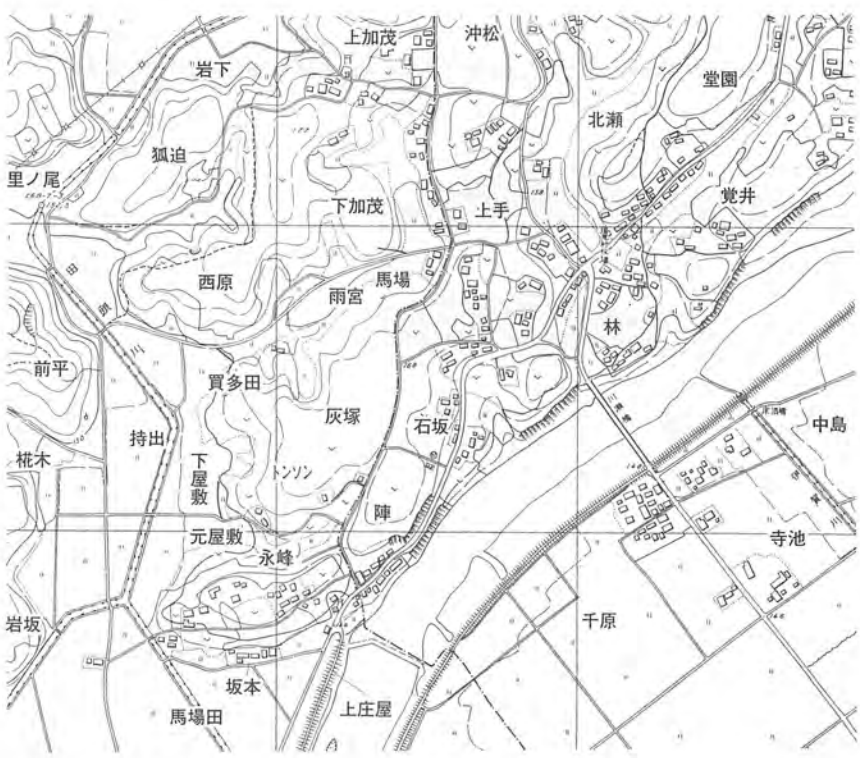


1・2　灰塚遺跡土塁
3～5　尼が土手土塁
（尼が土手調査報告書より）
6　「尼が土手」遺跡採集土師器

第216図　灰塚遺跡と「尼が土手」



第217図　遺跡周辺空中撮影



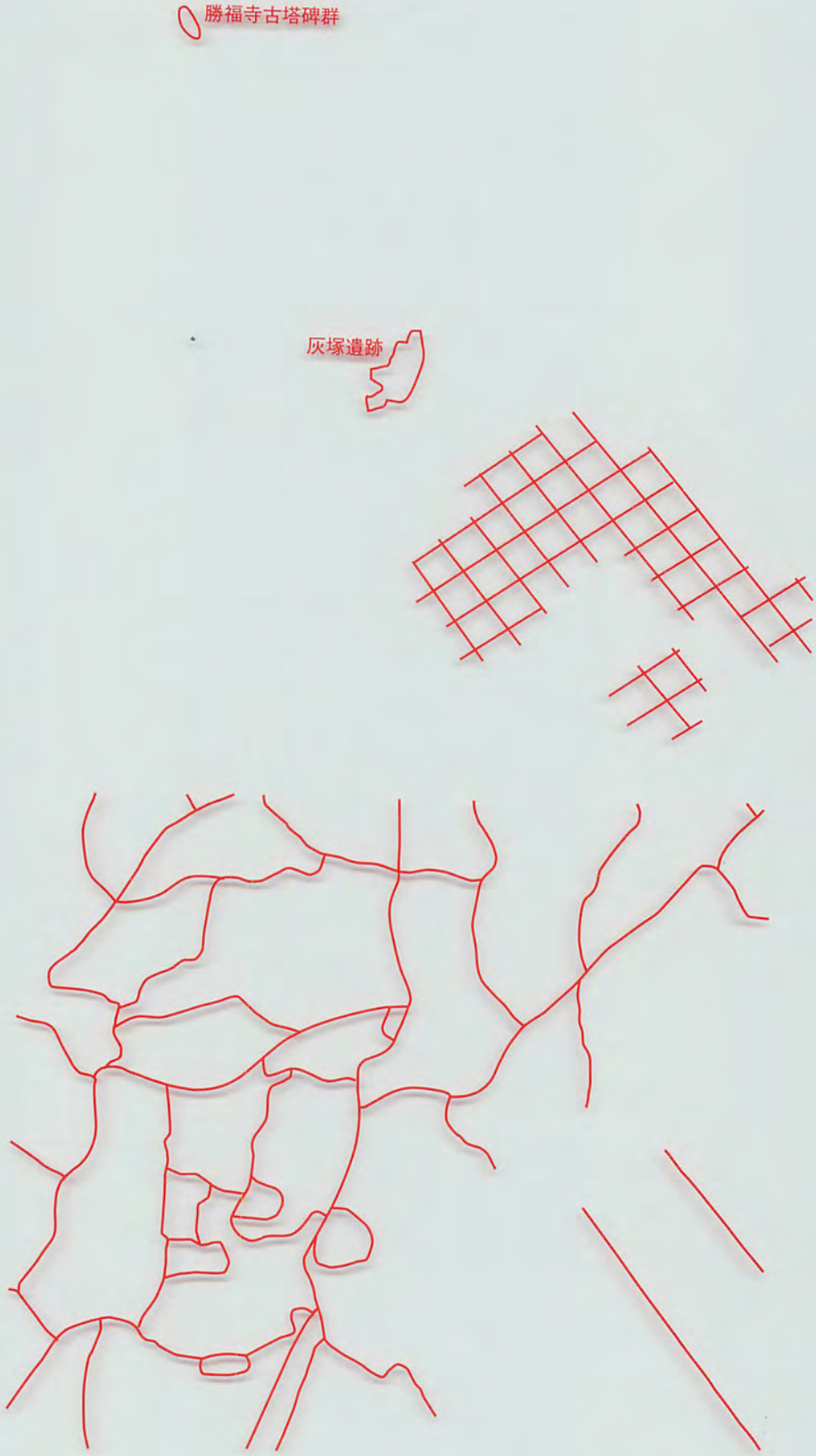
この地図は、熊本県知事の承認を得て5,000分の1の森林地形図を複製（縮小）したものである。
（承認番号　林政第687号・平成10年9月7日）

0　500m

第218図　遺跡周辺地名

0 勝福寺古墳群

灰塚遺跡


勝福寺古塔碑群
灰塚遺跡

写 真 図 版

1

遺跡遠景 1

2

遺跡遠景 2

図版 1　　1・2　遺跡遠景

3

SK－206
出土状況・遺物

4

5

図版 2　　3　遺跡遠景　4・5　SK－206　出土状況・遺物

SK－203
出土状況・遺物

6

7

SK－204
出土状況・遺物

8

9

図版３　　6・7　SK－203　8・9　SK－204　出土状況・遺物

10

SK－206　出土遺物

11

鉄・銅　スラグ

12

瀬戸窯　瓶

13

輸入陶磁器

14

SK－133　出土遺物

15

SB－44　出土遺物

図版 4　　SB・SK 出土遺物　陶磁器　金属器

16

掘立柱出土状況（D 区）

SH－20（完掘）　18

SD－ 8　17

SK－169（遺物出土状況）　19

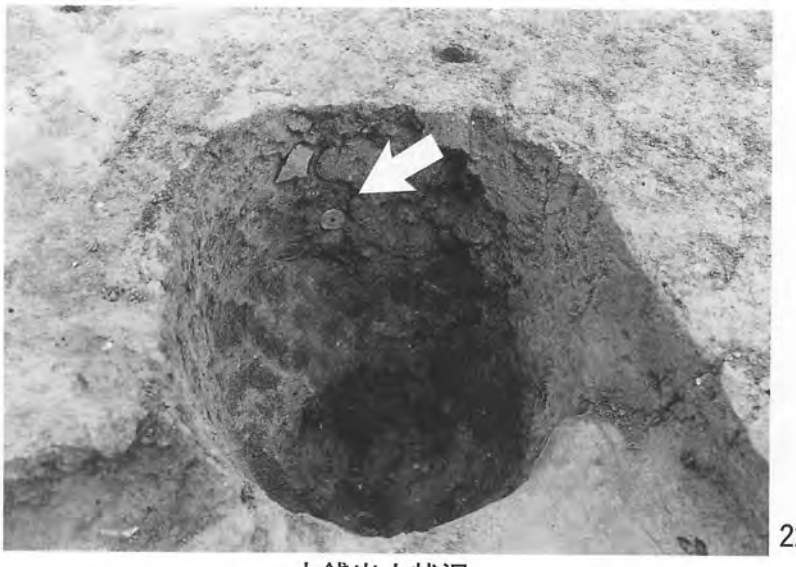
図版 5　　遺構 1（SB・SD・SH・SK）

20

SX－５（検出状況）

21

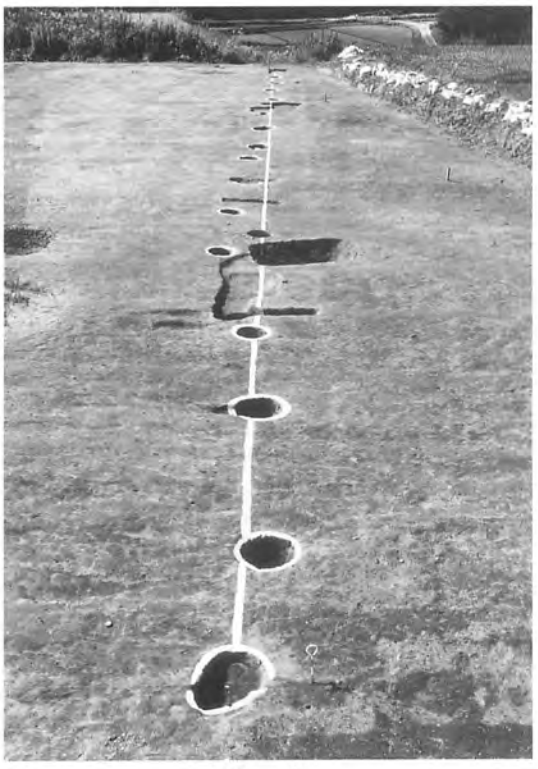
SX－２（遺物出土状況）



22

古銭出土状況

図版６　　遺構２（SX）・古銭出土状況

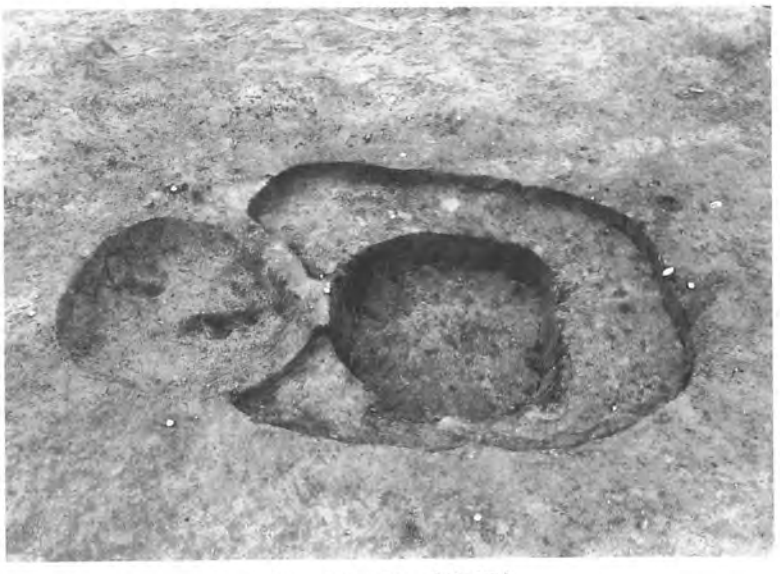


23

SA－ 8

24

SK－31（死床面検出）



25

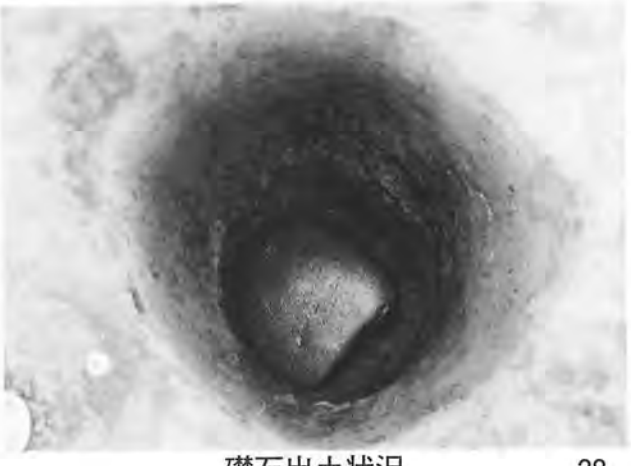
SK－10・11（完掘）

図版 7　　遺構 3（SA・SK）

26

SH－24（遺物出土状況）

SX－ 9（遺物出土状況）　27



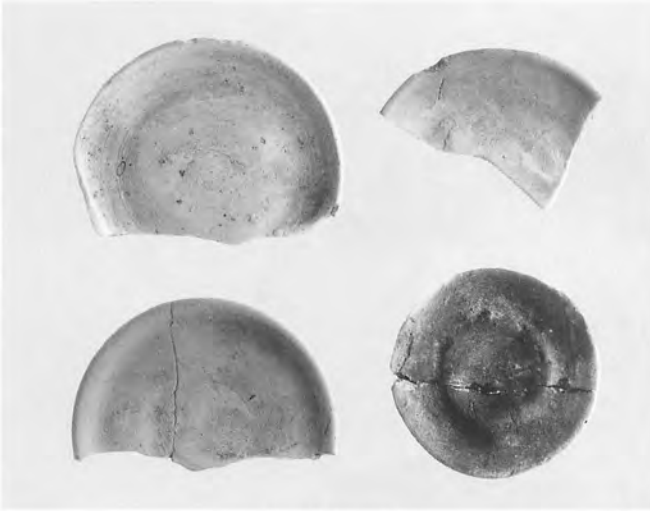
礎石出土状況　28

29

勝福寺敷石状況

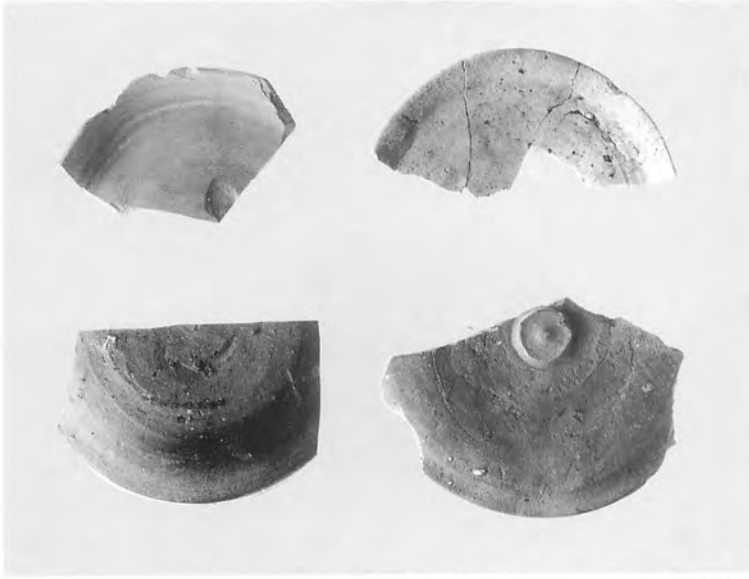
礎石出土状況　30

図版 8　　遺物出土状況（SH・SX）・礎石及び敷石



土　師　器　　31

土　師　器　　32



須　恵　器　　33

34

墨書・ヘラ記号

黒　色　土　器　　35

図版 9　　遺物 1

36

SH－23　出土土師器

37

SK－103　出土土師器

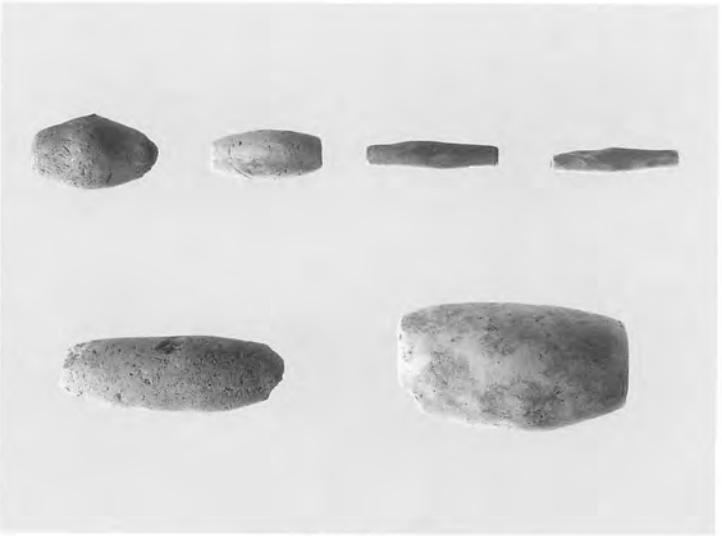
38

SK－88　出土土師器

39

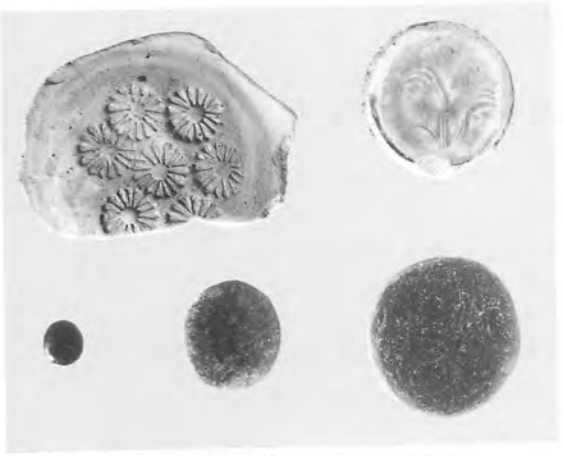
捏鉢・擂鉢

ST－65　出土土師器　40



土　錘　41

図版10　　遺物２



42

瓦玉・スタンプ付土器
Pストーン

43

唐式鏡

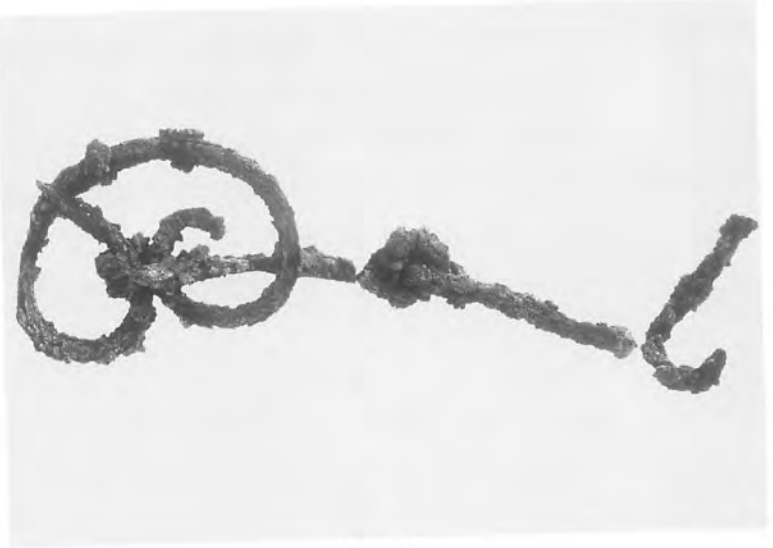
44

仏飯具・権

45

鉄製品

小　札　46



47

馬　具

図版11　　遺物3

参　考　文　献

網田龍生「肥後における回転台土師器の成立と展開」(中近世土器の基礎研究Ｘ　1994年)

概説　中世の土器・陶磁器　(中世土器研究会　1995年)

木崎康弘　「相良村誌　第一章　原始・古代」(相良村　1996年)

木崎康弘・古城史雄・木村元治　「堂園遺跡・中尾遺跡・別府遺跡」(熊本県教育委員会　1997年)

木崎康弘・山下義満　「熊本県灰塚遺跡における中世の居館跡」(考古学ジャーナル　No.415)

橋田正徳　「屋敷墓試論」　(中近世土器の基礎研究Ⅶ　日本中世土器研究会　1991年)

久保禎子　「漁網錘の制作技術と漁網復元への一試論」　(民具研究116号　日本民具学会　1997年)

隈昭志・島津義昭　「熊本県の条里」　(熊本県教育委員会　1977年)

隈昭志・桑原憲彰　「浜の館跡」　(熊本県教育委員会　1977年)

北川賢次郎　「勝福寺古塔碑群」　(深田村教育員会　2000年)

後藤一重　「小路遺跡・上屋敷遺跡」(大分県久住町教育委員会　2000年)

狭川真一　「墳墓にみる供献形態の変遷とその背景」(貿易陶磁研究　第13号　日本貿易陶磁研究会　1993年)

渋谷　敦ほか　「尼が土手調査報告」(県立球磨商業高校　郷土研究部　1961年)

出土銭貨　第７号　　－　特集「地鎮めと銭貨」－出土銭研究会　1997年

杉村彰一・桑原憲彰　「蓮花寺跡・相良頼景館跡」　(熊本県教育委員会　1977年)

鈴木一有　「下滝遺跡郡　２」((財) 浜松市文化協会　1999年)

内藤　喬　「鹿児島民俗植物記」(復刻版　1991年)

永井久美男「日本出土銭総覧」(兵庫埋蔵銭調査会　1996年)

西住欣一郎・本山千絵　「天道ヶ尾遺跡（Ⅱ)」(熊本県教育委員会　1990年)

橋本康夫・鶴島俊彦　「上鶴頭遺跡」　(熊本県教育委員会　1983年)

樋口清之　「木炭」ものと人間の文化史71　(法政大学出版局　1993年)

平川　南　「墨書土器とその字形」　(国立歴史民俗博物館研究報告　第35集　1991年)

古城史雄　「沖松遺跡」(熊本県教育委員会　1996年)

松本健郎　「生産遺跡報告書　Ⅱ」(熊本県教育委員会　1980年)

水野哲郎　「二本木前遺跡」(熊本県教育委員会　1996年)

水野哲郎　「祇園遺跡」　(熊本県教育委員会　2000年)

美濃口雅朗「熊本県における中世前期の土師器について」(中近世土器の基礎研究Ｘ　1994年)

宮本常一　「民具学への提唱」(未来社　1979年)

吉村靖徳　「権衡に関する一考察」　(九州歴史資料館　研究論集　20　1995年)

報 告 書 抄 録

フリガナ	ハイ　ヅカ
書名	灰　塚　遺　跡
副書名	球磨郡深田村大字灰塚所在の遺跡
巻次	Ⅱ
シリーズ名	熊本県文化財調査報告
シリーズ番号	第197集
編集者	山下　義満
編集機関	熊本県教育委員会
所在地	〒862－8609　熊本県熊本市水前寺６丁目18番１号
発行年	2001年３月31日

フリガナ 所収遺跡	フリガナ 所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
ハイヅカ 灰　塚	クマグン　フカダムラ　オオアザ 球磨郡深田村大字 ハイヅカ 灰塚		509－026	32°15′42″	130°52′42″	1993.8. ～ 1997.8.	20,000㎡	県営畑地帯 整備事業

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
灰　塚	包含地 集　落	平安時代 鎌倉時代	掘立柱建物 土壙墓・土坑	土師器 須恵器 輸入磁器

休息時スナップ

熊本県文化財報告書　第197集

灰塚遺跡（Ⅱ）

平成13年３月31日

編集・発行　熊本県教育委員会
熊本市水前寺６－18－１
〒860－8570　☎096－381－9211

印刷　印刷協業組合　サン・カラー
熊本市御領２丁目19－13
〒862－0935　☎096－380－8131

12 教委 教文
② 007

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 197 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：灰塚遺跡
発行：熊本県教育委員会
〒862-8609　熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号
電話：　096-383-1111
URL：http://www.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：2015 年 12 月 24 日